２０２５年度

シラバス

札幌大谷大学

2025年度 札幌大谷大学 シラバス目次

・実技演奏法などのシラバス統合科目につきましては、統合元の科目のみ記載しております。

大学1年生対象科目

■必修科目・大学共通科目

1062400初年次教育・情報リテラシー
1062501建学の精神と大谷学Ａ

■必修科目・芸術学部音楽学科専門科目

2144301ソルフェージュＡ
2144401ソルフェージュＢ
2144701合唱Ⅰ
2144801合唱Ⅱ

■必修科目・芸術学部美術学科専門科目

1058900西洋美術史Ａ
1059000西洋美術史Ｂ
1059300共通基礎Ａ
1059400共通基礎Ｂ
1059501共通基礎Ｃ

■必修科目・社会学部地域社会学科専門科目

4016900市民社会と人間関係
4017000キャリアデザイン論Ａ
1062600情報検索
4017100社会問題入門
4017200地域社会論Ⅰ
4017300地域社会論Ⅱ
4017400社会学基礎
4017501文章構成法
1066605文書実務（Word）
1066701情報処理演習Ａ（Excel）
4018001基礎演習Ⅰ
4018101基礎演習Ⅱ
4019000地域実践

■選択科目・大学共通科目（一般教養科目）

1062600情報検索
1062700医学概論
1062800障がい児教育
1062901数学Ⅰ
1063000数学Ⅱ
1063100哲学
1063200日本国憲法
1063300臨床医学
1063400児童心理学

1063500建学の精神と大谷学Ｂ
1066601文書実務（Word）
1066703情報処理演習Ａ（Excel）
1067300文書作成法
1067400口語表現法
1067500健康スポーツ学Ａ（体育理論）
1067601健康スポーツ学Ｂ（体育実技）

■選択科目・大学共通科目（キャリア科目）

1067700札幌大谷キャリア支援プログラム

■選択科目・大学共通科目（外国語科目）

1070901英語基礎Ⅰａ
1070904英語基礎Ⅰｄ
1071001英語基礎Ⅱａ
1071004英語基礎Ⅱｄ
1071500総合英語Ａ
1071600総合英語Ｂ
1071700イタリア語基礎Ⅰ
1071800イタリア語基礎Ⅱ
1072100ドイツ語基礎Ⅰ
1072200ドイツ語基礎Ⅱ
1072500フランス語基礎Ⅰ
1072600フランス語基礎Ⅱ
1072900中国語基礎Ⅰ
1073000中国語基礎Ⅱ

■選択科目・芸術学部共通科目（映像科目）

1062300映像制作演習Ⅰ
2198800映像制作演習Ⅱ

■選択科目・芸術学部音楽学科専門科目

2145000音楽概論Ａ
2145100音楽概論Ｂ
2145201作曲・編曲法Ⅰ
2145301作曲・編曲法Ⅱ
2146800音楽療法概論
2146900音楽療法の理論
2147000音楽療法の技法
2147400コードプログレッションＡ
2147500コードプログレッションＢ
2148200器楽合奏Ⅰ・Ⅱ（吹奏楽・オーケストラ）
2149000器楽合奏Ⅰ・Ⅱ（弦楽合奏・オーケストラ）
2149800器楽合奏Ⅰ・Ⅱ（電子オル・ハイブリッドオケ）
2150900ピアノアンサンブルⅠ
2151000ピアノアンサンブルⅡ
2152300オペラ制作演習Ⅰ
2152400オペラ制作演習Ⅱ

2154300デジタルノーテーション
2154400ＤＡＷ
2155100ピアノ伴奏法Ａ
2155200ピアノ伴奏法Ｂ
2156700音楽療法演習Ⅰ
2156900伴奏実習Ⅰ・Ⅱ
2157700ステージスタッフ実習Ⅰ・Ⅱ
2160001実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（主専攻）
2163201作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅠ・Ⅱ
1047301実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（副専攻）
2175601実技演奏法Ⅰ・Ⅱ（副科）

■選択科目・芸術学部美術学科専門科目

1059600色彩学
1059700デザイン概論
3015900教職デザイン
3016000教職彫刻
3016100教職絵画
3016201造形表現基礎（油彩）
3016202造形表現基礎（日本画）
3016203造形表現基礎（版画）
3016204造形表現基礎（立体）

■選択科目・社会学部地域社会学科専門科目

4019100統計学入門
4019200地方自治入門
4019300法学入門
4019400経済学入門
4019500経営学入門
4019600現代社会と福祉
4019800観光社会学
4019900コミュニケーションの社会学
4020000地域社会とＩＣＴ

大学2年生対象科目

■必修科目・芸術学部音楽学科専門科目

2144501ソルフェージュＣ
2144601ソルフェージュＤ
2144100音楽史Ａ
2144200音楽史Ｂ

■必修科目・芸術学部美術学科専門科目

1059100日本美術史Ａ
1059200日本美術史Ｂ
3015200クリエイターズライブラリー
3015300専門基礎Ａ
3015400専門基礎Ｂ

■必修科目・社会学部地域社会学科専門科目

4017600社会調査入門
4017700社会調査応用
1066801情報処理演習Ｂ（Excel）
4017800文章要約実践
4017900論理的文章作成実践
4018201専門基礎演習Ⅰ
4018301専門基礎演習Ⅱ

■選択科目・大学共通科目（一般教養科目）

1063600文学
1063700政治学
1063800芸術メディア論
1063901日本の地理（教職）
1063900日本の地理
1064000発達心理学
1064100臨床心理学概論
1064200リハビリテーション医学
1064300民族音楽Ⅰ
1064400民族音楽Ⅱ
1064500社会福祉
1064600社会思想史
1064700文化人類学
1064800日本の歴史
1064900臨床心理学
1065000北海道の地理
1065100北海道の生活文化
1066801情報処理演習Ｂ（Excel）
1066900情報処理応用演習Ⅰ
1067100コンピュータプログラミングⅠ

■選択科目・大学共通科目（キャリア科目）

1067700札幌大谷キャリア支援プログラム

■選択科目・大学共通科目（外国語科目）

1071100英語応用Ａａ
1071102英語応用Ａｂ
1071200英語応用Ｂａ
1071202英語応用Ｂｂ
1071900イタリア語応用Ａ
1072000イタリア語応用Ｂ
1072300ドイツ語応用Ａ
1072400ドイツ語応用Ｂ
1072700フランス語応用Ａ
1072800フランス語応用Ｂ
1073100中国語応用Ａ
1073200中国語応用Ｂ

■選択科目・芸術学部共通科目（映像科目）

2198900映像制作演習III
2199000映像制作演習IV

■選択科目・芸術学部音楽学科専門科目

2145400和声法Ⅰ
2145500和声法Ⅱ
2145600和楽器
2145700日本の伝統歌唱
2145800指揮法
2145900合唱指導法
1045700実技教材研究Ⅰ（ピアノ）
1045800実技教材研究Ⅱ（ピアノ）
1046100実技教材研究Ⅰ（吹奏楽・合唱）
1046200実技教材研究Ⅱ（吹奏楽・合唱）
2147100音楽療法各論Ⅰ
2147200音楽療法各論Ⅱ
2147600即興演奏Ａ
2147700即興演奏Ｂ
2148400器楽合奏III・IV（吹奏楽・オーケストラ）
2149200器楽合奏III・IV（弦楽合奏・オーケストラ）
2150000器楽合奏III・IV（電子オル・ハイブリッドオケ）
2151100ピアノアンサンブルIII
2151200ピアノアンサンブルIV
2151700合唱III
2151800合唱IV
2142300オペラ制作演習III
2142401オペラ制作演習IV
2154500音響デザインⅠ
2154600音響デザインⅡ
1046900音楽リテラシー演習Ⅰ
1047000音楽リテラシー演習Ⅱ
2155300ピアノ伴奏法Ｃ
2155400ピアノ伴奏法Ｄ
2155501伴奏法Ⅰ
2155601伴奏法Ⅱ
2156300音楽療法技能Ｃ
2156400音楽療法技能Ｄ
2156800音楽療法演習Ⅱ
2157100伴奏実習III・IV
2157900ステージスタッフ実習III・IV
2158501実技演奏研究Ⅰ・Ⅱ（演奏クラス）
2159100音楽療法実習Ⅰ
2159401室内楽Ⅰ・Ⅱ
2160201実技演奏法III（主専攻）
2163401作曲・編曲実技・サウンドクリエイションIII・IV
1053101実技演奏法III（副専攻）

2184101実技演奏法III（副科）

■選択科目・芸術学部美術学科専門科目

1059800コンテンポラリーアート
1059900情報デザイン論
1060000感性デザイン論
3015700美術概論
3016300総合表現演習Ａ
3016400総合表現演習Ｂ
1060601フォトグラフィ
3016501テキスタイル
3016601シルクスクリーン
3016701リトグラフ
3016800漫画表現
1060700映像メディア表現
1060800サウンドデザイン（基礎）
3017000アニメーション（基礎）

■選択科目・社会学部地域社会学科専門科目

4020100統計学応用
4020200経済学応用
4020300経営学応用
4020400公共の倫理
4020500民法入門
4020600憲法Ａ
4020700民法Ａ
4020900会計学
4020800地域社会と政治
4021000子ども家庭福祉論
4021100観光事業論
1061400インターンシップ概論
4021300憲法Ｂ
4021500コミュニティとまちづくり
4021600社会心理学
4021800企業と法
4021900行政学
1061500マーケティング入門
4022000産業経済地理
4022100財政学
4022300地域福祉の理論と方法
4022400ニューツーリズム論
1061600地域メディア論
4023800アンケート作成法

大学3年生対象科目

■必修科目・社会学部地域社会学科専門科目

4009901地域課題研究Ⅰ

4010001地域課題研究Ⅱ
4008001専門演習Ⅰ（西浦クラス）
4008002専門演習Ⅰ（西脇クラス）
4008004専門演習Ⅰ（金鎔基クラス）
4008005専門演習Ⅰ（津幡クラス）
4008006専門演習Ⅰ（仙波クラス）
4008007専門演習Ⅰ（加藤クラス）
4008008専門演習Ⅰ（金昌震クラス）
4008101専門演習Ⅱ（西浦クラス）
4008102専門演習Ⅱ（西脇クラス）
4008104専門演習Ⅱ（金鎔基クラス）
4008105専門演習Ⅱ（津幡クラス）
4008106専門演習Ⅱ（仙波クラス）
4008107専門演習Ⅱ（加藤クラス）
4008108専門演習Ⅱ（金昌震クラス）

■選択科目・大学共通科目（一般教養科目）

1035800北海道の歴史
1035900北海道の美術
1036000北海道の産業
1038000音楽心理学
1038100国際社会と政治
1038200国際社会と経済
1038300西洋史
1038400知的財産法概論
1039800美学Ａ
1039900美学Ｂ
1038600東洋史
1038700国際社会と法
1038800欧米社会論
1038900介護概論
1031500情報処理応用演習Ⅱ
1039500コンピュータプログラミングⅡ

■選択科目・大学共通科目（キャリア科目）

1067700札幌大谷キャリア支援プログラム

■選択科目・大学共通科目（外国語科目）

1071301英語コミュニケーションⅠ
1071401英語コミュニケーションⅡ

■選択科目・選択科目・芸術学部共通科目（映像科目）

2143100映像制作演習Ⅴ
2143200映像制作演習Ⅵ

■選択科目・芸術学部音楽学科専門科目

2082200楽曲分析Ⅰ
2082300楽曲分析Ⅱ

2082400鍵盤音楽史Ａ
2082500鍵盤音楽史Ｂ
2082600オペラ史Ａ
2082700オペラ史Ｂ
2082800管弦楽史Ａ
2082900管弦楽史Ｂ
1026500コンサートプロデュース論
1026600音楽ビジネス論
1026900実技教材研究III（ピアノ）
1027000実技教材研究IV（ピアノ）
1046300実技教材研究III（吹奏楽・合唱）
1046400実技教材研究IV（吹奏楽・合唱）
2079301音楽療法各論III
2083900即興演奏Ｃ
2084000即興演奏Ｄ
2084700 器楽合奏Ⅴ・Ⅵ（吹奏楽・オーケストラ）
2086300 器楽合奏Ⅴ・Ⅵ（弦楽合奏・オーケストラ）
2086300 器楽合奏Ⅴ・Ⅵ（電子オル・ハイブリッドオケ）
2094400ピアノアンサンブルⅤ
2094500ピアノアンサンブルⅥ
2088000合唱Ⅴ
2088100合唱Ⅵ
2142300オペラ制作演習Ⅴ
2142400オペラ制作演習Ⅵ
2153300歌曲研究Ａ
2153400歌曲研究Ｂ
2153500歌曲研究Ｃ
2153600歌曲研究Ｄ
2089200声楽特別研究Ａ
2089300声楽特別研究Ｂ
2090000サウンドレコーディングＡ
2090100サウンドレコーディングＢ
1028700音楽リテラシー演習III
1028800音楽リテラシー演習IV
2091401伴奏法III
2091501伴奏法IV
2079800音楽療法技能Ｅ
2079900音楽療法技能Ｆ
2092200伴奏実習Ⅴ・Ⅵ
2093001ステージスタッフ実習Ⅴ・Ⅵ
2093601実技演奏研究III・Ⅳ（演奏クラス）
2080300音楽療法実習Ⅱ
2095001室内楽III・Ⅳ
2075201実技演奏法Ⅴ・Ⅵ（主専攻）
2077601 作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅤ・Ⅵ
2106201実技演奏法Ⅴ・Ⅵ（副専攻）
2139801実技演奏法Ⅴ・Ⅵ（副科）

■選択科目・芸術学部美術学科専門科目

3012000仏教美術
3012500写真・映像論
1029700アートマネジメント
1060400コピーライティング
1060900イラストレーション
3013500教職陶芸
3017200クリエイティブデザイン
3013600WEBデザイン（応用）
3017300アートディレクション
3017400油彩研究Ａ
3017500油彩研究Ｂ
3017800日本画研究Ａ
3017900日本画研究Ｂ
3018200版画研究Ａ
3018300版画研究Ｂ
3018600立体研究Ａ
3018700立体研究Ｂ
1061101メディア研究Ａ
3019001メディア研究Ｂ
3019301造形表現ゼミＡ（油彩）
3019302造形表現ゼミＡ（日本画）
3019303造形表現ゼミＡ（版画）
3019304造形表現ゼミＡ（立体）
3019401造形表現ゼミＢ（油彩）
3019402造形表現ゼミＢ（日本画）
3019403造形表現ゼミＢ（版画）
3019404造形表現ゼミＢ（立体）
3009601メディア表現ゼミＡ(鳥宮・宮本)
3009602メディア表現ゼミＡ(今・小町谷)
3009604メディア表現ゼミＡ(島名・戸澤・玉野)
3009607メディア表現ゼミＡ(石岡先生)
3009701メディア表現ゼミＢ(鳥宮・宮本)
3009702メディア表現ゼミＢ(今・小町谷)
3009704メディア表現ゼミＢ(島名・戸澤・玉野)
3009707メディア表現ゼミＢ(石岡先生)

■選択科目・社会学部地域社会学科専門科目

4021400民法Ｂ
4022500行政法
4022600都市社会学
4022700マーケティング応用
4014400スポーツの社会学
4014700公共政策論
4014900商品開発論
4015000金融学
4015400地域資源管理論
4023500ジェンダーの社会学

4008800キャリアデザイン論Ｂ
4015700都市計画論
4016000コミュニティビジネス論
4016100ベンチャー経営論
4014300社会調査法演習
1062000インターンシップ実践

大学4年生対象科目

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（ピアノコース）

2075401実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・ピアノ）
2080501卒業研究(ピアノ)

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（声楽コース）

2076201実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・声楽）
2080502卒業研究(声楽)

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（管弦打楽コース）

2077001実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・管弦打楽）
2080503卒業研究(管弦打楽)

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（作曲コース）

2163401作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅦ・Ⅷ
2080504卒業研究(作曲)

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（電子オルガンコース）

2078601実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（主専攻・電子オルガン）
2080505卒業研究 (電子オルガン)

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（音楽療法コース）

2080400音楽療法実習III
2080506卒業研究(音楽療法)

■必修科目・芸術学部音楽学科専攻科目（音楽総合コース）

2111601実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（副専攻）
2140001実技演奏法Ⅶ・Ⅷ（副科）
2080507卒業研究 (音楽総合)

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域 油彩専攻）

3007800油彩研究Ｃ
3007900油彩研究Ｄ
3011601卒業制作(油彩)

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域 日本画専攻）

3008200日本画研究Ｃ
3008300日本画研究Ｄ
3011602卒業制作(日本画)

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域 版画専攻）

3008600版画研究Ｃ
3008700版画研究Ｄ
3011603卒業制作(版画)

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（造形表現領域 立体専攻）

3009000立体造形研究Ｃ
3009100立体造形研究Ｄ
3011604卒業制作(立体造形)

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域 写真・映像・メディアアート専攻）

3010200写真・映像・メディアアート表現研究Ｃ
3010300写真・映像・メディアアート表現研究Ｄ
3009802メディア表現ゼミＣ(今・小町谷)
3009902メディア表現ゼミＤ(今・小町谷)
3011605卒業制作(写真・映像・メディアアート)

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域 グラフィック・イラスト専攻）

3010600グラフィック・イラスト研究Ｃ
3010700グラフィック・イラスト研究Ｄ
3009804メディア表現ゼミＣ(島名・戸澤・玉野)
3009904メディア表現ゼミＤ(島名・戸澤・玉野)
3011606卒業制作(グラフィック・イラスト)

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域 情報・プロダクトデザイン専攻）

3011000情報・プロダクトデザイン研究Ｃ
3011100情報・プロダクトデザイン研究Ｄ
3009801メディア表現ゼミＣ(鳥宮・宮本)
3009901メディア表現ゼミＤ(鳥宮・宮本)
3011607卒業制作(情報・プロダクトデザイン)

■必修科目・芸術学部美術学科専攻科目（メディア表現領域 ファッション・デジタルファブリケーション専攻）

3011400ファッション・デジタルファブリケーション研究Ｃ
3011500ファッション・デジタルファブリケーション研究Ｄ
3009807メディア表現ゼミＣ(石岡先生)
3009907メディア表現ゼミＤ(石岡先生)
3011608卒業制作(ファッション・デジタルファブリケーション)

■必修科目・社会学部地域社会学科専攻科目

4008201専門演習Ⅲ（西浦クラス）
4008202専門演習Ⅲ（加藤クラス）
4008203専門演習Ⅲ（西脇クラス）
4008204専門演習Ⅲ（金昌震クラス）
4008205専門演習Ⅲ（金鎔基クラス）
4008206専門演習Ⅲ（津幡クラス）
4008207専門演習Ⅲ（仙波クラス）
4008301専門演習Ⅳ（西浦クラス）
4008302専門演習Ⅳ（加藤クラス）

4008303専門演習Ⅳ（西脇クラス）
4008304専門演習Ⅳ（金昌震クラス）
4008305専門演習Ⅳ（金鎔基クラス）
4008306専門演習Ⅳ（津幡クラス）
4008307専門演習Ⅳ（仙波クラス）
4008401卒業研究Ⅰ（西浦クラス）
4008402卒業研究Ⅰ（加藤クラス）
4008403卒業研究Ⅰ（西脇クラス）
4008404卒業研究Ⅰ（金昌震クラス）
4008405卒業研究Ⅰ（金鎔基クラス）
4008406卒業研究Ⅰ（津幡クラス）
4008407卒業研究Ⅰ（仙波クラス）
4008501卒業研究Ⅱ（西浦クラス）
4008502卒業研究Ⅱ（加藤クラス）
4008503卒業研究Ⅱ（西脇クラス）
4008504卒業研究Ⅱ（金昌震クラス）
4008505卒業研究Ⅱ（金鎔基クラス）
4008506卒業研究Ⅱ（津幡クラス）
4008509卒業研究Ⅱ（仙波クラス）

■選択科目・大学共通科目（キャリア科目）

1067700札幌大谷キャリア支援プログラム

■選択科目・大学共通科目（外国語科目）

1041700おもてなしの英語Ｃ
1041800おもてなしの英語Ｄ

■選択科目・芸術学部共通科目（オペラ・映像・舞台科目）

2142401オペラ制作演習Ⅶ
2142500オペラ制作演習Ⅷ
2143300映像制作演習Ⅶ
2143400映像制作演習Ⅷ

■選択科目・芸術学部音楽学科専門科目

1027900音楽実技教授法Ⅰ（ピアノ）
1028000音楽実技教授法Ⅱ（ピアノ）
1028100音楽実技教授法Ⅰ（吹奏楽）
1028200音楽実技教授法Ⅱ（吹奏楽）
1028300音楽実技教授法Ⅰ（合唱）
1028400音楽実技教授法Ⅱ（合唱）
2084100即興演奏Ｅ
2084200即興演奏Ｆ
2084900器楽合奏Ⅶ・Ⅷ（吹奏楽・オーケストラ）
2085700器楽合奏Ⅶ・Ⅷ（弦楽合奏・オーケストラ）
2086500器楽合奏Ⅶ・Ⅷ（電子オル・ハイブリッドオケ）
2094600ピアノアンサンブルⅦ
2094700ピアノアンサンブルⅧ
2088200合唱Ⅶ

2088300合唱Ⅷ
2088600演奏解釈Ⅰ
2088700演奏解釈Ⅱ
2089000日本歌曲研究Ⅰ
2089100日本歌曲研究Ⅱ
2089400声楽特別研究Ｃ
2089500声楽特別研究Ｄ
2090200サウンドプロダクションＡ
2090300サウンドプロダクションＢ
2091601伴奏法Ⅴ
2091701伴奏法Ⅵ
2092400伴奏実習Ⅶ・Ⅷ
2093201ステージスタッフ実習Ⅶ・Ⅷ
2095201室内楽Ⅴ・Ⅵ

大学教職課程科目

1073300教育原理
1073400教師論
1074100教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）
1073701特別支援教育論
1074200生徒・進路指導論
1073600教育心理学
1074300教育相談の基礎と方法
1073800教育課程論
1073900道徳教育の理論と実践
1044100教育制度論
1044600特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
1045300介護等体験
1045000教育実習事前事後指導
1045100教育実地研究
1045200教職実践演習(中・高)
2199500音楽教育法Ａ
2199600音楽教育法Ｂ
2143900音楽教育法Ｃ
2144000音楽教育法Ｄ
3020100美術教育法Ａ
3020200美術教育法Ｂ
3015000美術教育法Ｃ
3015100美術教育法Ｄ
4043400社会科教育法Ａ
4043500社会科教育法Ｂ
4016700公民教育法Ａ
4016800公民教育法Ｂ

授業科目	初年次教育・情報リテラシー						
担当教員	會田　千夏／上戸　理恵／鎌倉　亮太／金　昌震／河野　泰幸／小町谷　圭／小山　隼平／今　義典／佐々木　剛／鳥名　毅／高田　由利子／玉野　哲也／千葉　潤／戸澤　逸美／西浦　功／	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

・初年次教育：学生の自己理解と他者理解を促し、初年次学生が身につける「7つの力（主体的に学ぶ力、コミュニケーション力、問題を解決する力、自分を知る力、書く力、調べる力、話す力）」を学びながら、大学に対するポジティブな理解がもたらされることを目的とする。
・情報リテラシー：外界の刺激によって行動や意思決定に利用され、対象の理解や社会の輪郭に大きな影響を与える「情報」は、受け渡し、蓄えるという行為によって「知る」ことを実体化する私たちの営みに深く関わっています。しかし、目に見えにくい「情報」は、通信技術を通じ数量的に扱う機会が増える一方で、適切な取り扱いをより求められる機会が増えています。本授業では、体験を通し「情報」の受け手のみならず、発信するための技能や批評的・創造的な感性を身につけながら、自身の活動に利用していくことを学びます。

到達目標

・初年次教育：①大学で学ぶための基礎的な学習能力を身につける。②学生間の交流を通し自己理解・他者理解・大学理解を深める。③他者との関係を築きながら自ら学ぶための基礎的態度を獲得する。
・情報リテラシー：①情報の読み書きについて基本概念を理解できる。②情報の受け手のみならず、情報発信に必要な技能の基礎を身に付けられる。③新たな時代の要請に答える担い手としての意識を持ち、自身の活動に情報を活用できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
○	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
第1週～第6週の内容にかかわるレポート	50%		
第7週～第15週の内容にかかわる課題	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
受講者が調べたり発表したりする学習活動をとりいれます。授業時間外にも必要な情報を調べ、表現するための作業が生じることが予想されます。受講者の積極的な授業参加の姿勢が求められます。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は演習を含む講義形式で行いますが、グループワークやコンピュータを利用した活動（eラーニング）を組み合わせながら、部分的にオンライン（共有フォルダやグループウエアなど）を用い、アクティブ・ラーニングとしての相互学修形式を取り入れます。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	初年次教育	主体的に学ぶ力　学長メッセージ　三つのポリシーとは　将来計画と履修モデル　カリキュラム・ツリー
第2週	初年次教育	コミュニケーション力　自分を知る力　グループワーク　単位の取り方（自宅学習の取組含む）
第3週	情報リテラシー	主体的に学ぶ力　コンピュータの基礎　履修登録やPCガイダンスの振り返り
第4週	情報リテラシー	コミュニケーション力　情報モラル　SNSとの付き合い方
第5週	情報リテラシー	主体的に学ぶ力　情報収集
第6週	情報リテラシー	問題を解決する力　情報整理　情報発信
第7週	初年次教育	調べる力　書く力　論理的に話す力　データを読む力 データを説明する力 データを扱う力 コミュニケーション力　アカデミック・スキル①
第8週	初年次教育	調べる力　書く力　論理的に話す力　データを読む力 データを説明する力 データを扱う力 コミュニケーション力　アカデミック・スキル②
第9週	初年次教育	調べる力　書く力　論理的に話す力　データを読む力 データを説明する力 データを扱う力 コミュニケーション力　アカデミック・スキル③
第10週	初年次教育	調べる力　書く力　論理的に話す力　データを読む力 データを説明する力 データを扱う力 コミュニケーション力　アカデミック・スキル④
第11週	初年次教育	調べる力　書く力　論理的に話す力　データを読む力 データを説明する力 データを扱う力 コミュニケーション力　アカデミック・スキル⑤
第12週	初年次教育	調べる力　書く力　論理的に話す力　データを読む力 データを説明する力 データを扱う力 コミュニケーション力　アカデミック・スキル⑥
第13週	初年次教育	調べる力　書く力　論理的に話す力　データを読む力 データを説明する力 データを扱う力 コミュニケーション力　アカデミック・スキル⑦
第14週	初年次教育	調べる力　書く力　論理的に話す力　データを読む力 データを説明する力 データを扱う力 コミュニケーション力　アカデミック・スキル⑧
第15週	初年次教育	調べる力　書く力　論理的に話す力　データを読む力 データを説明する力 データを扱う力 コミュニケーション力　アカデミック・スキル⑨
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	建学の精神と大谷学Aa						
担当教員	千葉　　潤／宮本　浩尊	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

札幌大谷大学は、鎌倉時代の僧侶、親鸞聖人（1173-1263）の仏教思想（浄土真宗）を建学の精神に据える大学です。
仏教は、今から2500年前のインドで誕生した宗教です。その思想は、アジア各地の文化に多大な影響を及ぼしました。日本文化の基礎にも、仏教の影響が色濃く認められます。札幌大谷大学は、この仏教思想を教育の基礎に置いています。
この授業では、仏教思想の基礎を学ぶことを通して、仏教の思考法と、日本文化の背景を理解すると共に、札幌大谷大学で学ぶ意義について考えます。

到達目標

① 仏教の思考法を知り、生活の中で活用することができる。
② 古典に触れることで、人類の叡智を知ることができる。
③ 日本文化の基底にある思想を知ることができる。
④ 札幌大谷大学で学ぶ意義について考えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
○	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（出席・課題の提出等）	50%		
授業内試験	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成すること。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく、「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようになってほしい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	学長からのメッセージ動画を視聴する。授業の内容、目的、計画、評価方法の確認などを行う。
第2週	建学の精神について知る	札幌大谷大学の建学の精神を読み、その意味を考える。
第3週	仏教って何だろう	仏教の基本的な思想について講義する。
第4週	ブッダの生涯	仏教の開祖、釈尊の生涯について講義する。
第5週	弟子たちの時代・女性と仏教・大乗仏教の思想	ブッダの弟子たちの思想、女性と仏教の関係性、大乗仏教の思想について講義する。
第6週	アジアにおける仏教の拡大	アジア全域に広がった仏教思想の特徴について講義する。
第7週	古代日本と仏教伝来	飛鳥時代から奈良時代までの日本仏教思想史について講義する。
第8週	平安時代の仏教	平安時代の日本仏教思想史について講義する。
第9週	鎌倉時代の仏教（1）	鎌倉時代の日本仏教思想史について講義する。
第10週	鎌倉時代の仏教(2)	鎌倉時代の日本仏教思想史について講義する。
第11週	鎌倉時代の仏教(3)と室町時代の仏教	鎌倉時代から室町時代の日本仏教思想史について講義する。
第12週	江戸時代の仏教(1)	江戸時代の日本仏教思想史について講義する。
第13週	江戸時代の仏教(2)と近代の仏教	江戸時代から近代の日本仏教思想史について講義する。
第14週	現代と仏教	現代社会における仏教の意義について講義する。
第15週	まとめと授業内試験	講義のまとめと授業内試験を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ソルフェージュAa						
担当教員	小山　隼平	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、視唱、試奏、リズム打ちに加え、基礎的な楽典の確認などを、習熟度に応じて設定します。

到達目標

①読譜に必要な音楽の知識を身につけ、適切な表現ができる。
②習熟度に応じた読譜・記譜ができる。
③楽器を使わずに、音を頭の中でイメージできる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
クラス別試験	40%		
全クラス統一試験	40%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で扱った課題をよく見直し、必要に応じて練習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各自で五線紙を用意してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、クラス別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業概要の説明とクラス分けについての説明を行う
第2週	基礎的な課題①	視唱
第3週	基礎的な課題②	初見視唱
第4週	基礎的な課題③	聴音
第5週	基礎的な課題④	記憶唱
第6週	パイプオルガン特別講義	記憶唱札幌コンサートホールKitaraでのパイプオルガン特別講義(5/22)
第7週	基礎的な課題⑤	リズム打ち
第8週	基礎的な課題⑥	クレ読み
第9週	基礎的な課題⑦	分析
第10週	応用的な課題①	視唱、聴音
第11週	応用的な課題②	初見奏
第12週	応用的な課題③	リズム打ち
第13週	総合的な課題	今まで取り組んだ課題のまとめ
第14週	クラス別試験とまとめ	クラスごとに達成度を測る試験を行う
第15週	全クラス統一試験とまとめ	全クラス統一の試験を行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ソルフェージュBa						
担当教員	小山　隼平	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1002		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、視唱、試奏、リズム打ちに加え、基礎的な楽典の確認などを、習熟度に応じて設定します。

到達目標

①読譜に必要な音楽の知識を身につけ、適切な表現ができる。
②習熟度に応じた読譜・記譜ができる。
③楽器を使わずに、音を頭の中でイメージできる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
クラス別試験	40%		
全クラス統一試験	40%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で扱った課題をよく見直し、必要に応じて練習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各自で五線紙を用意してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、クラス別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業概要の説明とクラス分けについての説明を行う
第2週	基礎的な課題①	視唱
第3週	基礎的な課題②	初見視唱
第4週	基礎的な課題③	移調唱
第5週	基礎的な課題④	アゴーギクについて
第6週	基礎的な課題⑤	複雑なリズム
第7週	基礎的な課題⑥	分析
第8週	基礎的な課題⑦	和音付け
第9週	応用的な課題①	聴音
第10週	応用的な課題②	楽器の聴きとり
第11週	応用的な課題③	和音の聴きとり
第12週	応用的な課題④	編成の聴きとり
第13週	応用的な課題⑤	形式の聴きとり
第14週	クラス別試験とまとめ	クラスごとに達成度を測る試験を行う
第15週	全クラス統一試験とまとめ	全クラス統一の試験を行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	合唱Ⅰa						
担当教員	三山　博司	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1201		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

声楽アンサンブルの基本である正しい呼吸法と発声法の上に、表現力豊かなハーモニーを身に付ける。
前期はヴォイストレーニングに重点を置きながら、テキストとして様々な合唱作品を取り上げる。
前期の半ばから定期演奏会で取り上げる作品に取り組み、より高度なアンサンブルを学習する。

到達目標

①　正しい呼吸方と発声法を学び、美しく柔軟性にある声で歌うことができる。
②　正確で美しい日本語で歌うことができる。
③　合唱の基本的なテクニックやハーモニーの感覚を身に付けることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回授業の最後に提出するチェックシート	70%		
平常点（積極的な歌唱をしているかなどの授業に取り	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業で使用する楽譜はその都度指示する。尚、定期演奏会で使用する楽譜は必ず購入すること。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

演奏会での指揮
合唱指導のセミナー、講習会での講師

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲の予習・復習を必ず行うこと。 特に譜読みを終えた楽曲については念入りに復習を重ね、いつでも歌えるようにしておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

毎授業の開始時に入念な準備体操・呼吸練習及び発声練習を行う。
音楽学科における必修科目です。その必要性、意義を十分に認識し、積極的に参加[歌唱]することが求められます。
原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席した場合には、次回の授業までに楽譜などの配付物を取

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	年間の学修計画を示す。
第2週	パート分け①	各個人の声を聴き、適切なパート分けを行う①
第3週	パート分け②	各個人の声を聴き、適切なパート分けを行う②
第4週	ハーモニーの基本の習得①	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ①
第5週	ハーモニーの基本の習得②	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ②
第6週	ハーモニーの基本の習得③	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ③
第7週	ハーモニーの基本の習得④	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ④
第8週	ハーモニーの基本の習得⑤	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ⑤
第9週	ハーモニーの基本の習得⑥	様々な合唱作品を用いてハーモニーの基本を学ぶ⑥
第10週	定期演奏会の楽曲の練習①	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う①
第11週	定期演奏会の楽曲の練習②	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う②
第12週	定期演奏会の楽曲の練習③	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う③
第13週	定期演奏会の楽曲の練習④	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う④
第14週	定期演奏会の楽曲の練習⑤	定期演奏会で取り上げる曲目の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う⑤
第15週	前期のまとめ	前期で学んだことを振り返り、後期の学修計画を示す。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	合唱ⅡＡ						
担当教員	三山　博司	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1202		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「合唱Ⅰ」に引き続き、声楽アンサンブルの基本である正しい呼吸法と発声法の上に、表現力豊かなハーモニーを身に付ける。
後期は定期演奏会で取り上げる作品に取り組み、より高度なアンサンブルを学修する。

到達目標

①　正しい呼吸方と発声法を学び、美しく柔軟性にある声で歌うことができる。
②　合唱で歌う言語を正確で美しい発音で歌うことができる。
③　合唱の基本的なテクニックやハーモニーの感覚を身に付けることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回の授業最後に提出するチェックシート、最終週の	70%		
平常点（積極的な歌唱をしているかなどの授業に取り	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『授業で使用する楽譜はそのつど指示する。尚、定期演奏会で使用する楽譜は必ず購入すること。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

演奏会での指揮
合唱指導のセミナー、講習会での講師

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲の予習・復習を必ず行うこと。 特に譜読みを終えた楽曲については念入りに復習を重ね、いつでも歌えるようにしておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

毎授業の開始時に入念な準備体操・呼吸練習及び発声練習を行う。
音楽学科における必修科目です。その必要性、意義を十分に認識し、積極的に参加[歌唱]することが求められます。
原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席した場合には、次回の授業までに楽譜などの配付物を取

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	定期演奏会で取り上げる楽曲の確認	前期に学んだ定期演奏会の期楽曲について全体を通して音とテキストの発音を確認する
第2週	定期演奏会の楽曲の練習⑥	定期演奏会で取り上げる楽曲の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う⑥
第3週	定期演奏会の楽曲の練習⑦	定期演奏会で取り上げる楽曲の譜読み、パート練習、アンサンブル練習を行う⑦
第4週	アンサンブル練習①	詩の内容と音楽を結び付けて表現できるように練習する①
第5週	アンサンブル練習②	詩の内容と音楽を結び付けて表現できるように練習する②
第6週	アンサンブル練習③	詩の内容と音楽を結び付けて表現できるように練習する③
第7週	アンサンブル練習④	詩の内容と音楽を結び付けて表現できるように練習する④
第8週	仕上げの練習①	定期演奏会に向けて仕上げのハーモニー練習を行う①
第9週	仕上げの練習②	定期演奏会に向けて仕上げのハーモニー練習を行う②
第10週	仕上げの練習③	定期演奏会に向けて仕上げのハーモニー練習を行う③
第11週	強化練習①	定期演奏会のためのオーケストラとの指揮者稽古①
第12週	強化練習②	定期演奏会のためのオーケストラとの指揮者稽古②
第13週	強化練習③	定期演奏会のためのオーケストラとの指揮者稽古③
第14週	定期演奏会 ゲネプロ・本番	定期演奏会での演奏
第15週	振り返りとまとめ	定期演奏会の演奏を聴き、振り返りとまとめのレポートを書く
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	西洋美術史Ａ						
担当教員	下濱　晶子	配当年次	１年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1000		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

本授業では、古代から近世16世紀までの流れを解説しながら、西洋美術史の基礎知識を教授する。美術史とは、言葉や文章による叙述と、視覚的イメージを合体させて、歴史の流れを浮かび上がらせるものである。本授業では、古代から中世、近世、近代、現代へと続く西洋美術史の大きな流れについて概説する。絵画を中心に、彫刻、建築等、各時代の美術様式の特徴を理解できるように、映像やパワーポイント、プリント等の写真資料を紹介しつつ講義することにより、西洋美術の通史的な流れを理解させることを目標とする。

到達目標

①　西洋美術の基礎知識を習得できる。
②　西洋美術の古代から近世までの通史的な流れを理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	80%		
授業内の課題を含む平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

下濱晶子監修
10歳からの「美術の歴史」　世界・日本の巨匠と名作がわかる本
2020年　メイツユニバーサルコンテンツ

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、講演・執筆などの実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業計画のキーワードを元に事前に調べ予習、授業後は復習を行ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

美術関係の展覧会や画集やテレビ番組を見るなど、積極的に関わってほしい。
授業内に実施した出席レポートなどのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	西洋美術の基礎知識	西洋美術の年表や基本的用語などの基礎知識を教授する。
第2週	古代①	先史美術の作品を解説する。
第3週	古代②	エジプト美術の作品を解説する。
第4週	古代③	メソポタミア美術の作品を解説する。
第5週	古代④	ギリシャ美術初期の作品を解説する。
第6週	古代⑤	ギリシャ美術盛期の作品を解説する。
第7週	古代⑥	ローマ美術の作品を解説する。
第8週	中世①	初期キリスト教美術　の作品を解説する。
第9週	中世②	ビザンティン美術の作品を解説する。
第10週	中世③	ロマネスク美術の作品を解説する。
第11週	中世④	ゴシック美術の作品を解説する。
第12週	近世①　ルネサンス美術①	初期ルネサンス美術の作品を解説する。
第13週	近世②　ルネサンス美術②	盛期ルネサンス美術の作品を解説する。
第14週	近世③　北方ルネサンス美術	北方ルネサンス美術の作品を解説する。
第15週	総括	授業で紹介した作品の総括を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	西洋美術史Ｂ						
担当教員	下濱　晶子	配当年次	１年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

本授業は、近世17世紀から現代までの流れを解説しながら、西洋美術史についての知識をより深めるための科目である。前期に「西洋美術史Ａ」で習得した西洋美術の基礎知識を踏まえながら、各様式の特徴的な絵画、彫刻、建築等について、具体的な例を取り上げて解説する。西洋では、美術は時代やパトロンの権威を反映しつつ、過去を否定し、新しい様式が次々と生み出されていった。美術の背景にある社会や文化等との関連についても適宜紹介することで、西洋美術に対する理解をより深めさせ、現代人としての教養、審美眼、美的感覚の醸成を計ることを目標とする。

到達目標

①　西洋美術の知識を深めることができる。
②　西洋美術の各時代の様式の特徴的作品を理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	80%		
授業内の課題を含む平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

下濱晶子監修
10歳からの「美術の歴史」　世界・日本の巨匠と名作がわかる本
2020年　メイツユニバーサルコンテンツ

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、講演・執筆などの実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業計画のキーワードを元に事前に調べ、授業後は配付資料を元にノート整理等してまとめてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

美術関係の展覧会や画集やテレビ番組を見るなど、積極的に関わってほしい。
授業内に実施した出席レポートなどのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	近世①	イタリア、スペインのバロック美術について解説する。
第2週	近世②	フランドル、オランダのバロック美術について解説する。
第3週	近世③	フランスのバロック美術について解説する。
第4週	近世④	18世紀ロココ美術の建築や工芸について解説する。
第5週	近世⑤	18世紀ロココ美術の絵画について解説する。
第6週	近世⑥	19世紀の新古典主義とロマン主義美術について解説する。
第7週	近世⑦	19世紀の写実主義美術について解説する。
第8週	近世⑧	19世紀の印象派美術について解説する。
第9週	近世⑨	19世紀の後期印象派、ジャポニスム美術について解説する。
第10週	近代⑩	19世紀の象徴主義美術について解説する。
第11週	現代①	20世紀のフォーヴィスム美術について解説する。
第12週	現代②	20世紀美術のキュビスムについて解説する。
第13週	現代③	20世紀美術のエコール・ド・パリなどについて解説する。
第14週	現代④	20世紀美術のダダ、シュルレアリスムなどについて解説する。
第15週	総括	授業で解説した作品の総括をする。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	共通基礎Ａ						
担当教員	今　義典／佐々木　剛／島名　毅／ 藤本　和彦／吉岡　滋人	配当年次	１年生	開講期	前期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 1000		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、4つのグループに分かれ[油彩][立体][写真][Photoshop]の全ての内容を、実技を通して学ぶアクティブラーニング及びオンラインを活用した授業である。※グループや学び方については履修登録の際、補足説明を行う。
[油彩/佐々木剛] 油彩画の制作を通して、基本的な対象の見方、捉え方、画材の使用方法や特性を理解し表現する力を身につける。
[立体/藤本和彦/松隈康雄] 水粘土を使った自刻・半面像の制作を通し、モデリングの感覚を理解し、構造や空間を把握・探究する。観念的に眺めるのではなく、注意深く観察する事を重視し、積極的に、３次元表現について考察する。
[写真/今義典] スマートフォンからデジタル一眼レフまでカメラの機種を問わずレンズ特性や被写界深度を把握し撮影ベースの実習をリモート・対面で行う。
[Photoshop/島名毅] Photoshopを利用するにあたって、必ず使用することになるツールを中心に演習を行い、基本的な合成する力を身につける。

到達目標

美術・デザインを修めるにあたり必要になる基礎的な力を身につける。さまざまな画材や素材、ソフトウェアに触れ、自らの基盤となる基礎能力を高めることを目標とする。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
[油彩][立体][写真][Photoshop]それぞれの課題（点	-		
[油彩]・[立体]参加の積極性	15%		
[油彩]・[立体]提出の提出・完成度	35%		
[写真]・[Photoshop]参加の積極性	15%		
[写真]・[Photoshop]提出の提出・完成度	35%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『写真＜使用するアプリケーションはPhotoshop,LightRoomClassic＞』					
『立体＜必要に応じて、作品集等使用＞』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

全員が専門のキャリアを１５年以上有するもので構成されている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
それぞれの課題は、授業時間外での制作を前提としています。授業内で適切なアドバイスを受けられるよう課題に応じた予習・復習が必要となります。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

受講生を４グループに分け、全員がGa～Gdの全てに取り組みます。取り組む順番はグループにより異なります（別途指示）。Adobe Creatrive Cloudをインストールしたpcを準備すること。
各クラスで必要なものは適宜クラスルームで指示します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	[油彩] Ga　ガイダンス [油彩] Ga　油彩静物　F6号	用具の確認　使用画材の取り扱い説明　特性の理解 F8号 下描き画材、用具の使い方再確認　制作手順の説明と理解構図の理解
第2週	[油彩] Ga　着彩 [油彩] Ga　着彩	下描き　全体　形体の確認　明暗確認 描画　全体　形体の確認　色相・明彩度の理解
第3週	[油彩] Ga　着彩 [油彩] Ga　着彩	描画　全体　形体の確認　絵具の特性の再確認 描画　描き込み　細部描写
第4週	[油彩] Ga　着彩 [油彩] Ga　講評	描画　描き込み　細部描写　全体確認 講評会を行う
第5週	[立体] Gb　ガイダンス [立体] Gb　塑像	自身の写真を元に首像制作する。自画像デッサン 粘土練り・粗付け
第6週	[立体] Gb　塑像 [立体] Gb　塑像	スケールとボリューム1 スケールとボリューム2
第7週	[立体] Gb　塑像 [立体] Gb　塑像	肉付け パーツ制作 / 細部表現
第8週	[立体] Gb　塑像 [立体] Gb　講評・解体	質感表現　仕上げ 講評会を行う
第9週	[写真] Gc　簡易スタジオ [写真] Gc　建築写真(内観)	自宅(または大学内)で簡易スタジオを設営し商品撮影を行う 建造物の内観を授業内で数点撮影する。
第10週	[写真] Gc　建築写真(外観) [写真] Gc　スタジオ1	建造物の外観を授業内で数点撮影する。 デジタル一眼レフカメラを用いてスタジオ実習を行う Ⅰ
第11週	[写真] Gc　スタジオ2 [写真] Gc　参考作品紹介	デジタル一眼レフカメラを用いてスタジオ実習を行うII 課題制作の参考作家の紹介を行う(zoom)
第12週	[写真] Gc　組写真1or作品鑑賞1 [写真] Gc　組写真2or作品鑑賞2	１週間の期間内に組写真（３点～１０点）を制作。または作品鑑賞のレポート課題
第13週	[Photoshop]　Gd　Lightroom基礎 [Photoshop]　Gd　水平・トリミン	デジタルデータのファイル形式や特性についてのレクチャーを行う。Lightroom classicを利用し色編集の基礎を学ぶ。 Photoshopのインターフェイスに触れ基礎的な操作を学ぶ。
第14週	[Photoshop] Gdさまざまな選択方法① [Photoshop] Gdさまざまな選択方	Photoshopの持つさまざまな選択方法を学ぶ Ⅰ Photoshopの持つさまざまな選択方法を学ぶ II
第15週	[Photoshop] Gd　レイヤーワーク [Photoshop] Gd　写真合成①	Photoshopのレイヤー機能の基本的な操作を学ぶ 今まで学んだ内容を活かし合成写真を作成する Ⅰ
第16週	[Photoshop] Gd　写真合成② [Photoshop] Gd　写真合成③　講評会	今まで学んだ内容を活かし合成写真を作成する II 制作した合成写真をそれぞれプレゼンテーションし講評会を行う
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	共通基礎B						
担当教員	小町谷　圭／玉野　哲也／鳥宮　尚道／ 平向　功一／吉田　潤	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 1001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

① 日本画作品の制作を通して伝統的な画材・技法についての基礎的な表現を習得する （平向）
② 凹版・孔版の構造を理解して制作プロセスを体験しながら、基礎的な製版・印刷技術を習得する（吉田）
③ ブックレットの制作を通して、言葉とビジュアルによる表現方法と、デスクトップパブリッシングの基本について学ぶ（玉野）
④ Adobe Illustratorの基本操作を学び、デジタルによる平面表現に必要な技術を習得する（鳥宮）
⑤ Adobe PremireとAfterEffectsの基本操作を学び、デジタルによる映像表現に必要な技術を習得する（小町谷）

到達目標

1：制作を通して素材の適切な扱い方を身につける。
2：表現技法について理解し、特性を意識した適切な表現を行うことができる。
3：アナログ表現とデジタル表現の特徴を知ることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
素材や技法の特性を活かし制作されているか	40		
制作物の完成度	30		
課題に対する理解度	30		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud』					

参考書等

特になし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は各専攻に関する作品制作、発表、研究、開発のノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後の復習とデータの整理をおこない、次回の事前準備を行うこと。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

受講生を４グループに分けて実施します。受講生はGa～Ge全ての課題（日本画、版画、絵本、Illustrator、Adobe Prmire & AfterEffects）に取り組む必要があります。取り組む課題の順序はグループ毎に異なりますので、別途提示される授業スケジュールを確認してください。
Adobe Creatrive Cloudをインストールしたpcを準備すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	Ga:紙本による日本画①（平向） Ga:紙本による日本画②（平向）	Ga:日本画の歴史・素材の解説、写生（平向） Ga:写生、和紙水張り（平向）
第2週	Ga:紙本による日本画③（平向） Ga:紙本による日本画④（平向）	Ga:骨描き・下塗り（平向） Ga:彩色①（平向）
第3週	Ga:紙本による日本画⑤（平向） Ga:紙本による日本画⑥（平向）	Ga:彩色②（平向） Ga:彩色③、まとめ（平向）
第4週	Gb:版画（凹版・孔版）①（吉田） Gb:版画（凹版・孔版）②（吉田）	Gb:凹版「ドライポイント①」版画の歴史・種類の解説、下絵制作（吉田） Gb:凹版「ドライポイント②」転写、描画（吉田）
第5週	Gb:版画（凹版・孔版）③（吉田） Gb:版画（凹版・孔版）④（吉田）	Gb:凹版「ドライポイント③」描画、印刷（吉田） Gb:凹版「ドライポイント④」印刷（吉田）
第6週	Gb:版画（凹版・孔版）⑤（吉田） Gb:版画（凹版・孔版）⑥（吉田）	Gb:孔版「カッティング法①」下絵制作、製版（吉田） Gb:孔版「カッティング法②」印刷、講評会（吉田）
第7週	Gc:ブックレット①（玉野） Gc:ブックレット②（玉野）	Gc:プランと試作（玉野） Gc:ビジュアル素材制作①（玉野）
第8週	Gc:ブックレット③（玉野） Gc:ブックレット④（玉野）	Gc:ビジュアル素材制作②（玉野） Gc:ビジュアル素材制作③（玉野）
第9週	Gc:ブックレット⑤（玉野） Gc:ブックレット⑥（玉野）	Gc:InDesignによるレイアウト（玉野） Gc:InDesignによるレイアウト、まとめ（玉野）
第10週	Gd:Adobe Illustrator①（鳥宮） Gd:Adobe Illustrator②（鳥宮）	Gd:Illustrator基本操作① 基本ツールと環境設定（鳥宮） Gd:Illustrator基本操作②パスツール（鳥宮）
第11週	Gd:Adobe Illustrator③（鳥宮） Gd:Adobe Illustrator④（鳥宮）	Gd:Illustrator基本操作③文字（鳥宮） Gd:Illustrator基本操作④画像配置、レイヤー（鳥宮）
第12週	Gd:Adobe Illustrator⑤（鳥宮） Gd:Adobe Illustrator⑥（鳥宮）	Gd:課題制作（鳥宮） Gd:講評会（鳥宮）
第13週	Ge:Adobe Prmire & AfterEffects①（小町谷） Ge:Adobe Prmire &	Ge:オリエンテーション、時間表現の設計と絵コンテ（小町谷） Ge:動画編集ソフト基本操作①、ビデオコンテ（小町谷）
第14週	Ge:Adobe Prmire & AfterEffects③（小町谷） Ge:Adobe Prmire &	Ge:動画編集ソフト基本操作②、モーショングラフィクス（小町谷） Ge:動画編集ソフトの基本操作③、モーションロゴ（小町谷）
第15週	Ge:Adobe Prmire & AfterEffects⑤（小町谷） Ge:Adobe Prmire &	Ge:最終課題の制作（小町谷） Ge:講評（小町谷）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	共通基礎C						
担当教員	會田　千夏／石岡　美久／佐々木　剛／ 戸澤　逸美／宮本　一行／吉岡　滋人	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 1002		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業は､6つのグループに分かれ、下記の全ての内容について集中的に取り組む実技科目である。グループ分けや学び方については、履修登録の際に補足説明を行う。
[静物デッサン][人物デッサン][石膏デッサン]　様々なモチーフに対するデッサン経験を通じて、平面表現の基本を理解し、長時間の観察を通して自分の表現を考察す
る力をつける。
[パッケージデザイン]　パッケージデザインの制作を通じて、グラフィックデザインが立体になることも考慮し、応用できる力を身につける。
[プロダクトデザイン]　身の回りの光をカタチ取る実制作を通じて、デザイン表現に共通して必要な観察力やプレゼンテーションする力を身につける。

到達目標

①制作を通じて美術の基礎的知識・表現力を理解することができる。
②それぞれの表現方法を理解し適切に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
出席（[静物デッサン][石膏デッサン][人物デッサン]	30		
提出課題（[静物デッサン][石膏デッサン][人物デッサ	70		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

専門分野での指導経験・企業での勤務経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後の復習とデータの整理をおこない、次回の事前準備を行うこと。	３時間から４時間程度/週

受講時の注意事項

受講生を６グループに分け、全員がGa～Gfの全てに取り組みます。取り組む順番はグループにより異なります（別途指示）。Adobe Creatrive Cloudをインストールしたpcを準備すること。その他、各クラスで必要なものは適宜クラスルームで指示します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	（履修の一例） Ga:デッサンA（會田）①	静物デッサン①
第2週	Ga:デッサンA（會田）②	静物デッサン②　講評
第3週	Ga:プロダクトデザイン（宮本）①	プロダクトについての講義、課題説明
第4週	Ga:プロダクトデザイン（宮本）②	課題制作、プレゼンテーションパネルの制作、講評会
第5週	振り返り	オンデマンド
第6週	Ga:ファッション（石岡）①	ファッションについて講義
第7週	Ga:ファッション（石岡）②	道具の使用方法、パターン基礎、縫製基礎、課題制作
第8週	Ga:デッサンC（佐々木）①	人物デッサン①
第9週	Ga:デッサンC（佐々木）②	人物デッサン②　講評
第10週	振り返り	オンデマンド
第11週	Ga:パッケージデザイン（戸澤）①	パッケージデザインについて説明・調査
第12週	Ga:パッケージデザイン（戸澤）②	企画・制作・プレゼンテーション発表講評
第13週	Ga:デッサンB（吉岡）①	石膏デッサン①
第14週	Ga:デッサンB（吉岡）③	石膏デッサン②　講評
第15週	振り返り	授業を通した振り返りを行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	市民社会と人間関係						
担当教員	金　　昌震	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 1101		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

社会は人と人の「つながり＝関係性」によって成り立っています。
「市民社会」とは、社会の近代化のなかで、個人の自由が平等に保障される領域として考え出された理念です。
そこでは、ひとり一人が尊重され、寛容に認め合うことが重要となります。
この授業では、「市民社会」で果たすべき私たちの責任を問いつつ、現代社会の状況を批判的に捉え返してみたいと思います。
社会事象を読み解くために、基本的な社会学の理論を学んでいきます。
社会学の思考方法をベースとして、市民社会における人間のつながりの様相を理解していきます。

到達目標

①社会における様々な事象を関連付ける（＝体系化する）ための思考法を理解できる。
②物事を相対化する視点を獲得し、そのことによって寛容なコミュニケーション・スキルを実践できる。
③「社会学」という学問の特徴（＝方法論）を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内でのレポート提出	20%		
授業内での定期試験	80%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『教科書は使用しません。 授業内容のシラバスを毎回配布します。』					

参考書等

なし。
授業内で適宜、紹介します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

・市立ユースセンター
・行政審議会

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・参考文献を読むこと、新聞記事を読むことなど。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・私語は絶対禁止。
・質問、意見は歓迎します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション 「社会学」とは何か	・オリエンテーションでは、授業の目的と概要、評価方法、参考文献などを紹介します。 ・「社会学」という学問が成立した社会的背景について説明します。 ・「社会学」とはどのような使命を持った学問か、どのような定義があるのかを学びます。
第2週	社会のなかの「人間」	・社会学が想定する人間像について説明します。 ・「社会化」という概念について学び、社会と人間の関係について理解します。 ・「社会的自我論」から、「私」と「他者」との関係について学びます。
第3週	「役割」を生きるということ	・社会学の中の「役割理論」について学びます。 ・他者からの「役割期待」と自らの「役割獲得」について理解します。 ・役割を通して、私たちがどのような人間関係を構築しているのかを洞察します。
第4週	「規範」と「逸脱」	・社会の秩序はどのように維持されているのかを理解します。 ・社会において「規範」が果たしている機能について学びます。 ・「逸脱」が生じる背景について学び、「ラベリング理論」を理解します。
第5週	「機能分析」の考え方	・多角的な視点のあり方について学びます ・社会事象を具体的に機能分析の方法で検討してみます。 ・「逆機能」という見方を理解します。
第6週	近代化と「教育」　－教育社会学の議論から	・近代化によってどのような「教育」がもたらされたのかを歴史的に学びます。 ・学歴社会の功罪について考えます。 ・教育から就業への接続について理解します。
第7週	近代化と「合理化」という価値	・近代化のなかで、合理主義はどのように位置づけられてきたのかを理解します。 ・合理主義の功罪について議論します。 ・「官僚制」について学びます。
第8週	社会の中のジェンダー構造	・現代社会のジェンダー構造について理解します。 ・マイノリティについて学びます。 ・ジェンダー平等とは何かについて議論します。
第9週	現代の家族ー家族社会学の議論から	・近代化と「家族」の関係について学びます。 ・現代の家族の変容について理解します。 ・家族が抱える課題について議論します。
第10週	少子高齢社会の課題	・少子高齢社会の課題について議論します。
第11週	宗教と社会	・人間社会と「宗教」との関係について学びます。 ・「宗教」はどのようにとらえられてきたのかを歴史文化的に理解します。
第12週	グローバル化する社会	・グローバル化が進展する背景について学びます。 ・グローバル化の功罪について理解します。 ・多文化共生社会について議論します。
第13週	地域社会とコミュニティ	・「ソーシャル・キャピタル論」について学びます。 ・コミュニティが形成されるために必要な人間関係について理解します。 ・「共生社会」が目指す理念について議論します。
第14週	リスク社会と現代	・「環境」、「紛争」、「災害」、「格差」、「人口変動」など、地球規模のリスクについて考えます。 ・「リスク社会」と呼ばれる現代において、必要とされる人間関係とはどのようなものなのか
第15週	「社会学」を学ぶ意義	・授業全体の整理と振り返りをします。 ・「社会学」を学ぶ意義について、あらためて議論します。 ・授業の理解度を確認するため、授業内試験を行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	キャリアデザイン論Ａ						
担当教員	和田　佳子	配当年次	１年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 1901		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

大学で学ぶことはあなたの人生にとって、どんな意味があるのでしょうか。キャリア発達の基礎理論を踏まえつつ、大学で学ぶことの意味と社会で働くことの意味について考え、自分の人生を自分の力で切り開く能動的態度を身につけることの重要性を理解します。現代社会が抱える問題に目を向けながら、これから始まる大学４年間を充実したものにするための道筋を立てます。自己の価値観や行動特性に気づき、自分の生き方のスタイル（自分軸）やテーマを探ることをねらいとします。

到達目標

①　キャリア発達の基礎理論を学び、大学で学ぶことと社会で働くことの繋がりを意識できる。
②　自己理解を深めるとともに将来のキャリア形成を展望できる。
③　有意義な大学生活を送るために必要な学習スキルを理解し、自律的に行動できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・文化・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（授業の参加態度）	30%		
毎回の課題提出	30%		
最終課題	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

授業の中で紹介します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は企業実務経験のある教員、産業カウンセラー・国家資格キャリアコンサルタント有資格の教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
資料を読む、情報を集めるなど提示された課題には必ず取り組んでください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

講義を聞くだけではなく、グループで話しあったり、発表する場面があります。自分の将来を真剣に考える態度、仲間と積極的に関わる姿勢を重視します。授業内のグループワークに積極的に参加しない、あるいは非協力的な姿勢が見られる場合には出席と認めないことがあります。

アクティブ・ラーニング情報

講義を聞くだけではなく、グループで話しあったり、発表する場面があります。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：科目の位置づけとねらい	キャリアデザインの考え方／そもそも、キャリアって何だろう？ 授業への参加の仕方、課題と評価方法 ・10年後に消える仕事、生まれる仕事
第2週	キャリア発達とキャリア形成の基礎理論（１）	ディプロマポリシーとは ・大学で何を学ぶのか～大学4年間で身につけたい力 ・人生で大切にしたいこと（バリューチェック）
第3週	キャリア発達とキャリア形成の基礎理論（２）	キャリア・アセスメントとその使い方、大学４年間とその先を見据えたキャリデザイン ・自己分析・自己理解のためのワーク ・ホランド・タイプ（職業興味）など
第4週	人間関係はなぜ難しいのか～コミュニケーションのメカニズム（１）	学校社会と職場の人間関係の違い ・職場のコミュニケーションの特徴 ・アサーションの考え方
第5週	人間関係はなぜ難しいのか～コミュニケーションのメカニズム（２）	社会人基礎力とはなにか ・社会が大学生に求めるチカラの変遷 ・社会人基礎力チェックで見えてきたもの
第6週	キャリアデザインに影響する外部環境の変化（１）	わたしたちはどんな時代を生きているのか ・産業構造の変化とグローバル・トレンド ・キャリアをデザインするための基礎データ
第7週	キャリアデザインに影響する外部環境の変化（２）	仕事選び、企業選びの新たな視点 ・卒業生の活躍から学ぼう ・「人生案内」に見る現代社会の姿
第8週	キャリアデザインに影響する外部環境の変化（３）	働き方改革と働き方の多様化 ・働くことに関する新しいキーワード ・少子高齢化を分析・理解する
第9週	就業にまつわる社会常識（１）	組織はなぜ必要？　組織の形態と特徴 ・あなたが所属している組織を分析しよう ・組織構造
第10週	就業にまつわる社会常識（２）	働く前に知っておきたい法律 キャリア権とは何か　事例検討 ・労働基準法と就業規則
第11週	就業にまつわる社会常識（３）	仕事とお金の話 ・賃金制度の新たな動き～なぜ1か月25万円もらえるの？
第12週	就業にまつわる社会常識（４）	会社の決算書とは ・IR情報を見てみよう
第13週	新聞の読み方・活かし方	社会情報へのアンテナの立て方 ・新聞やニュースに親しむためのコツ
第14週	授業内試験（最終課題）	・最終課題の予告と評価の付け方
第15週	振り返りとまとめ	課題に対するフィードバック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報検索						
担当教員	上戸　理恵／仙波　希望／西脇　裕之／ 堀内　まゆみ	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 1031		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

情報検索の基本的な原則と技術を学び、情報を効果的に検索し、評価し、活用するスキルを向上させます。情報を活用するために必要な文章作成の技能を習得し、適切な表現を用いて発信するための知識を身につけます。情報リテラシーの概念も包括的に取り扱い、情報の信頼性や倫理的な使用についても理解を深めます。

到達目標

① 情報を検索するための基本原則を理解できる
② オンラインおよびオフラインリソースから情報を効果的に収集できる
③ 情報の信頼性を評価し、信頼性の低い情報源を識別できる
④ 倫理的な情報使用の原則を理解できる
⑤ レポートや研究プロジェクトで情報を活用できる
⑥ レポートや資料を作成する際に、適切な表現・構成を用いて論述することができる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業時の課題	50%		
授業内試験	40%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『グループワークで日本語表現力アップ』	野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと・藤本真理子・福葉小由紀	ひつじ書房	2016	978-4-89476-802-4	この教科書を「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」や「文章構

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
①テキストおよび配布資料を授業前・授業後に読み、整理し、自分の意見を考えておくこと。 ②第1回～第5回で実施する「漢字・語彙テスト」（1）～（7）の正答率が100%になるまで、くり返し受験すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅰ群に該当しています。
「情報検索」で使用する教科書は、「文章構成法」でも引き続き使用します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	・授業の概要・評価方法・注意事項等を確認します。 ・「漢字・語彙テスト」（1）を実施します。
第2週	大学で求められる文章とは何か（上戸 理恵）	・適切な表記・表現を学習します。 ・アカデミックな文章で用いられる表現・文体を学習します。 ・「漢字・語彙テスト」（2）・（3）を実施します。
第3週	レポートの基本構成（上戸 理恵）	・レポートとはどういう文章なのかを学習します。 ・レポートの基本構成である（序論・本論・結論）の3部構成について理解を深めます。 ・「漢字・語彙テスト」（4）・（5）を実施します。
第4週	情報を整理して書く技術（上戸 理恵）	・情報を整理するときのポイントを確認します。 ・パラグラフ・ライティングの基本的な方法を学習します。 ・「漢字・語彙テスト」（6）を実施します。
第5週	レポート作成のプロセスにおける検索（上戸 理恵）	・レポートを作成するプロセスにおいて、「検索」という行為がどのような役割を担っているのかを確認します。 ・検索した情報を自分のレポート内で活用するときの注意点を理解します（引用と出典）。
第6週	図書館での情報検索（上戸 理恵）	・調査したいキーワードを決めて、図書館内での資料を検索します。 ・「OPAC」で検索するだけでなく、関連文献を見つけるために資料の分類や所蔵場所に注目して資料を探します。
第7週	統計を探す／読む①（西脇裕之）	非正規雇用の増加の問題を題材として、インターネットを利用した文献の探し方について学びます。
第8週	統計を探す／読む②（西脇 裕之）	年齢層で分けて見ると非正規雇用が増えたのはどの年齢層でしょうか。入手した統計資料から非正規雇用の推移についての現状を把握します。
第9週	倫理的な情報使用のために（上戸 理恵）	・何が「盗用」（剽窃）とされるのか、そう見なされない論述をするために必要なことは何かを考えます。 ・適切な「コピペ」と不適切な「コピペ」の違いを理解します。
第10週	検索からのレジュメ作成(1)レクチャー（仙波 希望）	これまで学んだ知識を土台として、大学での学びに必須なレジュメ作成について議論します。
第11週	検索からのレジュメ作成(2)プラクティス（仙波 希望）	課題テクストをもとに、実際にレジュメをつくってみます。
第12週	検索からのレジュメ作成(3)ピア・レビュー（仙波 希望）	ピアレビューをつうじて、それぞれのレジュメの改善点を探ります。
第13週	身体表現における情報（堀内 まゆみ）	ダンスなどの非言語的コミュニケーションにおける「情報」とはどのようなものかを考えます。
第14週	生成AIの可能性と課題（上戸 理恵）	・生成AIとは何か、それによって何が可能となったか、課題・問題点としてどのようなことが指摘されているかを理解します。 ・情報の信頼性を吟味し、評価することの重要性を確認します。
第15週	授業のまとめと授業内試験	・授業全体をふり返り、それぞれの話題の要点を把握します。 ・講義内容の定着を確認するための試験を実施します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会問題入門						
担当教員	金　昌震／西浦　功／堀内　まゆみ／丸山　宏昌	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 1911		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ボランティア活動の歴史や現状をふまえつつ、ボランティア活動の原理原則や各社会領域におけるボランティア活動の役割について理解を深めることが授業の目的である。本科目は複数教員によるオムニバス形式で授業を行い、適宜グループワークを用いつつボランティアについての学びを深めるため、毎回のプログラムには積極的に参加することが望ましい。

到達目標

1．ボランティア活動の原理や性質について、歴史的経緯をふまえつつ説明できる。
2．様々な領域におけるボランティア活動の役割や機能について、実践例をふまえつつ説明できる。
3．ボランティア活動の抱える本質的・実践的課題について詳しく説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験	50		
平常点（グループワークへの参加・予復習課題への取	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内で課される予復習課題への取組	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜グループワークを通じてボランティアへの学びを深めます。グループワーク・プログラムには積極的に参加ください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：講義のねらい(西浦)	ボランティア活動の起源と歴史にかんする解説
第2週	ボランティア活動の原理・原則①（西浦）	社会福祉分野のボランティア活動の現状に沿ったボランティアの原理原則の解説
第3週	ボランティア活動の原理・原則②（西浦）	震災ボランティア活動の現状に沿ったボランティアの原理原則を解説
第4週	開発途上国における支援のあり方①（西浦）	開発途上国の抱える「社会問題」を発見するワークショップの実施
第5週	開発途上国における支援のあり方②（西浦）	開発途上国における支援のあり方を考えるワークショップの実施
第6週	アートNPOの役割（堀内）	アートNPOの歴史的経緯及び文化行政・地域社会に果たしてきた役割の解説
第7週	アートボランティアの実際（堀内）	各地のアートボランティアの実際に関する解説と対話型鑑賞のグループワークの実施
第8週	ボランティア活動の社会的意義・個人的意義（堀内）	アートボランティア活動従事者からの講話、及びボランティア活動の社会的意義・個人的意義の考察
第9週	地域社会における「子どもの第三の場所」プロジェクトの立ち上げ（金）	地域のニーズと「子どもの第三の居場所」のプロジェクトに関する解説
第10週	「子どもの第三の場所」を通じた地域社会への結びつき（金）	地域との連携による社会の発展と子どもたちへのプラスの影響に関する解説
第11週	「子どもの第三の場所」をボランティア活動の拠点として（金）	ボランティア活動を通じた地域社会の発展と持続可能性の向上に関する解説
第12週	地域社会の抱える課題①（丸山）	ボランティア実践にあたっての課題①
第13週	地域社会の抱える課題②（丸山）	ボランティア実践にあたっての課題②
第14週	地域社会の抱える課題③（丸山）	ボランティア実践にあたっての課題③
第15週	講義のまとめと授業内試験（西浦）	ボランティア活動に求められる原理原則の確認／授業内試験の実施
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地域社会論Ⅰ						
担当教員	西脇　裕之	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 1111		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この科目は地域・都市の社会学への入門的な位置づけの科目です。
前半では現代の地域生活を支えているさまざまなインフラに焦点を定めて、地域で生活する利用者の視点から都市インフラを社会学的に捉えることをめざします。
後半では社会学における都市研究の代表的なアプローチを学び、都市化という社会変動が何を生み出してきたのか、都市の社会的な効果について考えます。
この授業の目標は、都市化と地域生活を支えるインフラについての知識を、現実社会に当てはめて考えることができるようになることです。

到達目標

1．地域生活を支えるインフラについて利用者の立場からとらえ、論じることができる。
2．地域社会の現実をとらえるアプローチについて理解できる。
3．都市の社会的な効果について、キーワードを用いて説明することができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験（授業内試験）	60%		
各回の小課題（授業後にLMSで提出）	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

田中大介（編著）『ネットワークシティ　現代インフラの社会学』北樹出版

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習＝授業の最後に次回の内容の簡単なガイダンスを行い、キーワード等を予告するので各自で調べて授業に臨むこと。 復習＝LMS上で課題に取り組む。また、前回の課題を振り返り、自分なりの模範解答を改めて作成すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は基本的に講義形式ですが、途中にグループワークを差しはさむ場合があります。各回の小課題については次回の授業時にフィードバックし、解説を加えて復習します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：都市が農村を生み出した	ジェイン･ジェイコブズによれば、 「初めに農村ができて、その次に都市ができた」 という考え方は誤りだと言います。なぜなのでしょうか。この科目全体のガイダンスを行います。
第2週	都市的なものと都市の定義	都市的なものとは何でしょうか。ジンメル「大都市と精神生活」（1903）は、パリでは「14番目屋」という職業が繁盛しており、それは極めて都市的な現象だと伝えています。それはどんな職業であり、その職業の成立がなぜ都市的な現象なのでしょうか。
第3週	都市インフラから見る地域社会（1）スクランブル交差点	現代の地域生活を支えているさまざまなインフラに焦点を定めて、社会学の観点から論じます。ここでは「都市的なもの」の代表の一つと思われる、東京渋谷のスクランブル交差点を取り上げます。
第4週	都市インフラから見る地域社会（2）鉄道	地域生活を支える交通インフラとしての鉄道に注目します。特に阪急電鉄を例にして、鉄道と住宅地開発そしてプロ野球との密接な関係について論じます。また、狭い車内空間で人びとがどのようにして秩序を維持しているのか、そのための工夫について考えます。
第5週	都市インフラから見る地域社会（3）水道水とミネラルウォーター	現代においてミネラルウォーターはすっかり生活に溶け込み、どの地域が取水地であるかを売りにした製品も多く、地域の名水はブランド化しています。上水道のない町や水の郷（取水地）の観光地化に触れます。
第6週	都市インフラから見る地域社会（4）イベントとゴミ	大規模なイベントが開催されるとそこには大量のゴミが発生します。地域社会におけるゴミ処理の歴史について学び、ゴミ捨てを楽しくする工夫について考えます。
第7週	都市インフラから見る地域社会（5）電柱・電線	電柱や電線が日本の地域の景観をこわしていると言われ無電柱化が進められていますが、電柱・電線にある種の美しさやノスタルジーを感じる人もいます。日本の電柱・電線の現状がどのような経緯で成立してきたのか学びます。
第8週	地域社会と文化遺産	本州と比較すると歴史の浅い北海道にも歴史的な建造物が数多くあります。その歴史と活用の現在について事例を紹介するとともに、社会学における集合的記憶論に触れます。
第9週	地域社会と企業・産業	企業と地域社会の相互依存関係について学びます。また、地場産業の課題と展望についても触れます。
第10週	地域メディアの役割	震災時にラジオが果たした役割、まちづくりにおいて地域雑誌が果たした役割についての例を通して、地域メディアがもつ生活感覚と広場感覚について学びます。
第11週	社会学の都市研究のあゆみ（1）シカゴと都市社会学	世界で初めての社会学部はアメリカのシカゴ大学に創設され、都市社会学もシカゴで誕生しました。人間性の実験室としての都市という、シカゴ学派都市社会学の成立と特徴について学びます。
第12週	社会学の都市研究のあゆみ（2）人間生態学のアプローチ	都市への社会学的アプローチの一つに、どんな人びとがどんな地域に住んでいるかを地図に表して、地域社会の特性を把握する人間生態学というアプローチがあります。このアプローチにもとづいて、都市の発展に応じて、各地区がどのように変化していくか、考えます。
第13週	社会学の都市研究のあゆみ（3）参与観察のアプローチ	都市への社会学的アプローチの一つに、特定の社会集団に一定期間参加してその生活の様子をつぶさに観察する参与観察という手法があります。こうした手法にもとづく都市社会学の古典研究を紹介します。
第14週	社会学の都市研究のあゆみ（4）生活様式としてのアーバニズム	なぜ都市が都市的な生活様式、都市的な人間関係やパーソナリティを生み出すのか。生活様式としてのアーバニズムという学説を通して、都市の効果について考えます。
第15週	振り返りとまとめ・授業内試験	授業の全体を振り返り、授業内で期末試験を行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地域社会論II						
担当教員	金　　昌震	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 1112		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

地域社会は「地域」という限定された範囲でありながら、そこで人びとの多様な活動が関係し合っていく「社会」です。そこで、この授業では地域社会学科の4コースの学修と関連するトピックを織り交ぜながら、地域社会のさまざまな側面について理解します。この授業の目標は、地域社会のさまざまな側面について基礎的な知識を身につけて、今後の地域社会についての学修の基礎を理解することです。

到達目標

① 地域社会の諸側面についての基礎的な知識を身につけ、説明することができる。
② 取り扱うトピックに関して、キーワードを適切に使用して論述ができる。
③ 地域社会の課題や可能性について、自分の考えを文章で説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・文化・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末レポートとレジュメ発表	55%		
各回授業のミニ課題	45%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習＝授業の最後に次回の簡単なガイダンスを行い、キーワード等を予告するので各自で調べて授業に臨むこと。 復習＝返却された課題を振り返り、自分なりの模範解答を作成すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は基本的に講義形式ですが、途中にグループワークを差しはさむ回があります。各回のミニ課題については次回の授業時にフィードバックし、解説を加えて復習します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の目的と概要、評価方法、参考文献の紹介
第2週	社会学における地域社会	
第3週	地域社会とコミュニティ	
第4週	地域社会の問題を考える際に―受益圏と受苦圏	
第5週	地域社会と―ソーシャル・キャピタル	
第6週	地域社会における少子化の現状	
第7週	地域社会における高齢化の現状	
第8週	地域社会の過疎化の進行と現状	―奄美大島のフィールドより
第9週	地域社会の過疎化に対応した地域社会の取り組み	―上野村の挑戦
第10週	少子化社会に対応した地域社会の取り組み	―ママ友の形成と住民との交流空間
第11週	高齢化社会に対応した地域社会の取り組み	―富山型デイサービス（日本）
第12週	高齢化社会に対応した地域社会の取り組み	―敬老党の実践（韓国）
第13週	地域社会と観光	
第14週	グローバリゼーションとローカリティ	
第15週	期末レポートのレジュメ発表とフィードバック	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会学基礎						
担当教員	西脇　裕之	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 1102		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この科目は社会学の入門科目です。
「人びとが社会をつくる。しかし、自分たちが思った通りに、ではない。」社会学が扱う内容の重要な点はこの一言に表現されています。社会学は人と人の関わり方に注目することによって、人びとが社会をつくり、また社会に影響される様子を記述・説明していこうとする科学です。
この授業の目標は、近現代社会において社会学が取り組んできた問題と成果についての基礎を学ぶことを通じて、社会学の基本的な考え方とキーワードを理解することです。
また、相互依存のネットワークにおける人間という発想と自律という価値との関係について考察し、その価値を実現するための社会的条件について反省的に理解することをめざします。

到達目標

1．取り扱うトピックに関して、社会学の基礎的なキーワードを適切に使用して論述ができる。
2．社会学の基本的な発想法を理解し、一つの社会現象には多様な原因と結果が関連し合っていることに気づくことができる。
3．社会学が探究してきた、自律の社会的条件について説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。	3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○		5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・介護・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験（授業内試験）	50%		
各回の小課題（授業後にLMSで提出）	35%		
各回のコメントシート（授業内で記入、提出）	15%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

森下伸也（著）　『社会学がわかる事典』　日本実業出版社
櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功（編著）　『アンビシャス社会学』　北海道大学出版会

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習＝授業の最後に次回の内容の簡単なガイダンスを行い、キーワード等を予告するので各自で調べて授業に臨むこと。 復習＝LMS上で課題に取り組む。また、前回の課題を振り返り、自分なりの模範解答を改めて作成すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は基本的に講義形式ですが、途中にグループワークを差しはさむ場合があります。各回の小課題については次回の授業時にフィードバックし、解説を加えて復習します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：社会学のねらいと研究の手順	シラバスの内容を確認するとともに、社会学の対象や方法について概説します。例題を通して、社会研究の手順について学びます。
第2週	社会学の発想法（1）社会的ジレンマから考える	社会学の基本的な発想法を紹介します。お互いの行為選択が相手の選択に依存するようなゲームの状況においてどんな結果が生じうるか、社会的ジレンマ論の基礎について学びます。
第3週	社会学の発想法（2）他者の意味世界を理解する	西欧における資本主義の発達を営利活動の宗教的動機から説明したＭ．ウェーバーの古典的な業績を紹介します。人が自分の行為や世界をどのように意味づけて生きているかという観点に立つ、理解社会学の発想法について学びます。
第4週	社会学の発想法（3）意図せざる結果に注目する	予言の自己成就という現象に関わるＲ．マートンの古典的な業績を紹介します。意図せざる結果が生じるメカニズムと機能分析の発想法について学びます。
第5週	社会学の発想法（4）社会環境から説明する	自殺率の変動を自己本位、アノミーなどのキーワードを用いて、行き過ぎた個人主義の結果として説明したＥ．デュルケムの古典的な業績を紹介します。社会現象を社会環境から説明する発想法を学びます。
第6週	社会学の発想法（5）社会への埋め込みから説明する	経済と産業が社会的なネットワークの中に埋め込まれているというアプローチを紹介し、経済学や人類学と比較した社会学の考え方の特徴について考えます。
第7週	自律の社会的条件（1）交換と贈与から考える	人が自律的であることは近現代社会における重要な価値であり続けています。人間関係を贈与と交換の関係として捉えながら、依存相手の分散という自律の社会的条件について学びます。
第8週	自律の社会的条件（2）模倣説から考える	人が模倣から自由になることの困難を説いたＧ．タルドは、人が個人として自律的でありうるのはどんな場合かという問題意識を抱えていました。複数の集団への所属という自律の社会的条件について学びます。
第9週	自律の社会的条件（3）役割セット論から考える	役割葛藤、役割セットというアイデアを紹介します。また、そのアイデアを子どもの自律性の発達の条件へと展開した議論について学びます。
第10週	自律の社会的条件（4）相手の身になる	人は相手の身になり、他人の役割を取り入れることで、自己を発達させ社会性の能力を高めていきます。このように説いたＧ．Ｈ．ミードの相互作用論を自律の社会的条件として学びます。
第11週	感情の社会学：なぜ感情管理が求められるのか	現代人はなぜキレやすいのか。現代社会ではなぜ感情管理が重視されるのか。カスタマー・ハラスメントなどの現象に触れながら、デュルケムが説いた人格崇拝のアイデアを応用して考えます。
第12週	犯罪の社会学：犯罪機会論と防犯まちづくり	防犯まちづくりの活動を紹介し、その活動の背景にある犯罪機会論とその応用編としての割れ窓理論について学びます。
第13週	都市と飢餓の社会学：都市はなぜ飢えないのか	さまざまな時代や社会を見ても、食糧を生産しない都市では大規模な飢餓は生じていません。食糧の調達という観点から都市と農村の関係を捉えます。
第14週	都市と権力の社会学：反都市主義のゆくえ	都市が引き起こす問題を解決するために、都市をなくそうとする実験をした歴史的事例を取り上げます。社会の安定のために都市が必要不可欠な権力・支配の装置であるという考え方を紹介します。
第15週	振り返りとまとめ・授業内試験	授業の全体を振り返り、授業内で期末試験を行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	文章構成法a						
担当教員	上戸　理恵	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 1021		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

レポートや論文を書くために必要な表現力を実践的な練習を通して学ぶ。論理的な文章に必要な事柄を確認した上で、それを用いて実際に文章を書いてみるという練習を反復することで、表現力の向上を目指す。

到達目標

①　文書作成に必要な基本的な語彙・表現を習得し活用することができる。
②　文書作成に関する基本的な約束事を理解し、それを活用して論理的な文章を書くことができる。
③　自分なりの問いを設定し、それについての自分の意見を論理的に展開できる。また、資料やデータを適切に引用しながら、自分の意見を説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業時の提出物	40%		
レポート課題（最終稿）	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『グループワークで日本語表現力アップ』	野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと・藤本真理子・福葉小由紀	ひつじ書房	2016	978-4-89476-802-4	※「情報検索」で購入した教科書をそのまま

参考書等

なし。授業内で指示する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・配付した資料を授業前および授業終了後に精読すること。 ・漢字や語彙のテストに備えて予習をし、テスト後も指示にしたがって復習をすること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

意欲的な受講態度を期待します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	・授業の概要・評価方法・注意事項等の確認をする。 ・メールの書き方について、基本的なルールやポイントを学修する。
第2週	表現の基礎（1）	・漢字・語彙のテスト（1）を実施する。 ・適切な表記・言葉づかいについての練習問題に取り組む。 ・レポートに用いる文体や表現を学修する。
第3週	情報の整理	・漢字・語彙のテスト（2）を実施する。 ・メモを作成するときの情報整理について学修する。 ・本日の授業内容や今後の抱負を箇条書きでまとめる。その際に、授業で学修した情報整理の
第4週	表現の基礎（2）	・漢字・語彙のテスト（3）を実施する。 ・読みやすい文を書くときのポイントを学修する。 ・日本語の口語文法をふまえた表現のルールを確認する。
第5週	表現の基礎（3）	・漢字・語彙のテスト（4）を実施する。 ・指示語や接続語の役割を理解し、論理展開の分かりやすい文章を作成する。
第6週	アカデミック・ライティングの基本	・漢字・語彙のテスト（5）を実施する。 ・レポートや論文を書くときに求められるルールや表現を学修する。
第7週	レポートの構成	・漢字・語彙のテスト（6）を実施する。 ・〈序論-本論-結論〉から成る三段構成について学修し、それぞれの役割について考える。
第8週	テーマのしぼり込みと資料検索	・漢字・語彙のテスト（7）を実施する。 ・テーマをしぼり込むときのポイントや資料検索の方法を学修する。 ・自分が興味のある分野について、テーマをしぼり込み、レポートで論じるのに適した問いを
第9週	引用と注	・自分の設定したテーマや問いを考える上で必要になる文献を探し、ルールにしたがって引用し、注をつけて出典を示す。
第10週	レポート（初稿）のアウトライン	・レポートのアウトラインを作成する。 ・アウトラインのチェック（セルフチェックとピアチェック）をする。
第11週	レポート（初稿）の作成	・アウトラインを文章化し、レポート（初稿）を完成させる。 ・提示されたレポートの評価基準を確認し、セルフチェックを行い推敲する。
第12週	レポート（初稿）の提出とピアレビューの説明	・レポート（初稿）を提出する。 ・ピアレビューの方法を確認する。 ・「ミスだらけの初稿」をチェックし、添削やレビューを行う練習をする。
第13週	レポート（初稿）のピアレビュー実施	・レポート（初稿）のピアレビューを行い、それぞれのレポートの改善点を検討する。
第14週	レポート（初稿）の書き直し	・ピアレビュー等をふまえて、レポート（初稿）を書き直す。 ・最終稿を提出する前のチェックポイントを確認する。
第15週	レポート（最終稿）の提出と要約文の作成	・レポート（最終稿）を提出する。 ・自分のレポートの内容を200字程度で要約する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	文書実務（Word）e						
担当教員	丸山　宏昌	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1021		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この科目は文書作成ソフトWordの使用技術の習得を通して、日常生活やビジネスシーン、アカデミックライティングなど、多様な文書の作成技術の習得をめざす。Wordは文書作成はもとより、表作成やグラフィックなど多彩な機能を有する。授業では、実際に「調べて」、「考えながら」さまざまな文書を作成することに主眼を置き、Wordの機能を活用できることと、多様な文書作成のスキルを習得することを目標とする。

授業終了後、学内で実施する「文書デザイン検定試験」を受験することができる。

到達目標

① 書くより早く正確に入力し、文書を編集することができる。
② 案内文書を考えながら作成、編集することができる。
③ 電子メールのマナーやモラルを理解し、コミュニケーションツールとして使用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（到達度テスト）	40%		
課題への取り組み状況	30%		
授業への取り組み状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、企業でのPC業務などの実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
基本操作でわからないことがあれば復習しておく。授業後、新しく学習したことを復習し、理解を深める。 入力速度をあげるため、タイピング練習（ブラインドタッチ）を継続練習する。	1時間程度/週

受講時の注意事項

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための選択科目IV群に該当しています。
パソコンを持参すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業内容説明とパソコン使用状況に関するアンケート
第2週	Windows基本操作	タイピング練習（ブラインドタッチ）
第3週	MS‐IMEと文字入力	文字の訂正
第4週	文書作成ソフトWord基礎①	文書の編集
第5週	文書作成ソフトWord基礎②	表の作成
第6週	文書作成ソフトWord基礎③	表の作成の応用
第7週	文書作成ソフトWord基礎④	図形機能と画像挿入
第8週	文書作成ソフトWord応用①	特殊文字（ワードアート）と編集機能応用（行間変更、ドロップキャップなど）
第9週	文書作成ソフトWord応用②	レポート・論文などで必要な様々な機能（ページ番号挿入、セクション区切りなど）
第10週	文書作成ソフトWord応用③	パソコンメールのマナーと形式　PDFファイル変換など
第11週	練習課題作成①	練習課題を作成する
第12週	練習課題作成②	練習課題を作成する
第13週	練習課題作成③	練習課題を作成する
第14週	練習課題作成④	練習課題を作成する
第15週	試験とまとめ	試験とまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報処理演習Ａ（Excel）a						
担当教員	丸山　宏昌	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1031		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

実社会での需要が多い「Microsoft Excel」。このソフトの基本操作から応用までを実社会での使用例や実践テクニックをもりこみながら学習する。
Excelを活用しながら様々な数値の求め方、データの加工方法などを理解する。
授業終了後、学内で実施する「情報処理技能検定（表計算）」を受験することができる。

到達目標

①　Excelの基本操作を理解し、計算式（関数含む）などを入力した表を作成することができる。
②　データベース機能を理解し、必要なデータを抽出・集計することができる。
②　データの集計・整理・加工を行うことができる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点	30%		
課題提出	70%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『初歩から実用まで　100題で学ぶ表計算（第5版）』	森 夏節・常見 ひろこ	日経ＢＰ社			

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

会社内や学校教務事務でのPC業務（Officeソフトを使用して様々な文書作成、会計ソフトの使用など）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後は講義内で学習した内容を繰り返し練習・確認すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

特に予備知識はありません。タイピング練習（ブラインドタッチ、テンキーを含む）を継続練習してください。
本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅰ群に該当しています。
パソコンを持参すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス　EXCELソフトでできること	授業のねらいと進め方、EXCELK本操作説明 テンキーの入力練習
第2週	EXCELの基本操作①	四則演算と簡単な関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNTなど） 表の作成と書式設定
第3週	EXCELの基本操作②	連続データ作成　　コピーと貼り付けオプション
第4週	EXCELの基本操作③	行列の編集（行列の挿入と削除、行列幅の変更）
第5週	EXCELの基本操作④	絶対参照と相対参照
第6週	関数II	IF・ROUND・INT・RANK.EQなど
第7週	グラフの作成	グラフの種類と用途 棒グラフ・線グラフ・円グラフの作成
第8週	データベース機能①	並べ替え・抽出
第9週	データベース機能②	抽出の応用 ビックデータの使用
第10週	関数III	VLOOKUP・IFの応用
第11週	EXCELで集計	関数を使用して集計（データベース関数、COUNTIFなど） ピボットテーブルでクロス集計
第12週	応用練習　実務練習①	検定問題などを使用して復習と練習
第13週	応用練習　実務練習②	検定問題などを使用して復習と練習
第14週	応用練習　実務練習③	検定問題などを使用して復習と練習
第15週	復習とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	基礎演習Ⅰ（石川クラス）						
担当教員	石川　希美	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	SOC 1001			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

教員が用意するテキストをしっかり読み込み、ポイントを整理して、その内容をレジュメにまとめる方法を実践的に学ぶ。
また、レジュメをもとにしてテキストの内容を他者に説明することを通して、テキストの理解を深める。

到達目標

①　テキストで説明されているレポート・論文の書き方の内容を理解し、要約できる。
②　ポイントを押さえてテキストの内容をまとめ、他者に説明できる。
③　特定の話題について自分の意見を述べることができる。
④　自ら課題を設定し、主体的に学習することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・文化・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『グループワークで日本語表現力アップ』（情報検索科目の教科書と同じ）』		ひつじ書房		978-4-89476-802-4	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、テキストを読み込んでおき、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて考察を深めること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に参加すること。2時間目の補習の際には、自ら課題を見つけ、主体的に学習すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の概要、評価方法、参考文献紹介、注意事項
第2週	アカデミックスキル①	大学生の作法
第3週	アカデミックスキル②	講義のノート・テイキングの理解
第4週	アカデミックスキル③	講義のノート・テイキングの実践
第5週	全体ゼミ①	学外活動
第6週	アカデミックスキル④	図書の検索方法・図書館ツアー
第7週	アカデミックスキル⑤	新聞記事を読む・書く・ディスカッションする
第8週	アカデミックスキル⑥	課題図書を読む・書く・ディスカッションする
第9週	アカデミックスキル⑦	情報を収集・整理する
第10週	アカデミックスキル⑧	情報を分析する
第11週	全体ゼミ②	学外活動
第12週	アカデミックスキル⑨	プレゼンテーションの理解
第13週	アカデミックスキル⑩	プレゼンテーションの応用
第14週	アカデミックスキル⑪	プレゼンテーションの実践
第15週	まとめ	学びの振り返りと今後の学習計画を立てる
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	基礎演習Ⅱ（石川クラス）						
担当教員	石川　希美	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	SOC 1002			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

教員が用意するテキストをしっかり読み込み、ポイントを整理して、その内容を要約する方法を実践的に学ぶ。
また、要約を踏まえてレジュメを作成し、その内容を他者に説明することを通して、テキストの理解を深める。
さらに、ビブリオバトルや新聞等を活用し、特定の話題について自分の意見を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力を養う。

到達目標

①　テキストで説明されている思考法の内容を理解し、要約できる。
②　ポイントを押さえてテキストの内容をレジュメにまとめ、他者に説明できる。
③　テキストで取り上げられている話題について自分の意見を述べ、他者と議論することができる。
④　報告会の準備のために他者と協働して作業することができる。
⑤　自ら設定した課題に関して、主体的に学習できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『グループワークで日本語表現力アップ』（情報検索科目の教科書と同じ）』		ひつじ書房		978-4-89476-802-4	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、テキストを読み込んでおき、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて考察を深めること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に参加すること。2時間目の補習の際には、自ら課題を見つけ、主体的に学習すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の概要、評価方法、参考文献紹介、注意事項
第2週	アカデミックスキル①	自分のテーマの探究
第3週	アカデミックスキル②	論説文を調べる
第4週	アカデミックスキル③	ビブリオバトル準備
第5週	全体ゼミ①	学外活動
第6週	アカデミックスキル④	クリティカル・リーディング
第7週	アカデミックスキル⑤	クリティカル・ライティング
第8週	アカデミックスキル⑥	クリティカル・ディスカッション
第9週	アカデミックスキル⑦	クリティカル・リーディング応用
第10週	アカデミックスキル⑧	クリティカル・リーディング応用
第11週	全体ゼミ②	論説文とは
第12週	アカデミックスキル⑨	論説文を読む
第13週	アカデミックスキル⑩	論説文を書く
第14週	アカデミックスキル⑪	論説文をもとにディスカッションする
第15週	まとめ	学びの振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地域実践						
担当教員	石川　希美／上戸　理恵／金　　昌震／ 仙波　希望／堀内　まゆみ／丸山　宏昌／ 和田　佳子	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態		授業回数			
		ナンバリング	SOC 1912	ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目			

授業概要

地域社会におけるボランティア活動に参加することにより、「社会問題入門」（ボランティア論）で学んだ理論に対する理解を深める。また、ボランティア活動を通して、地域社会の抱える課題やボランティア活動そのものの課題について理解し、他者と話し合いながらその原因について考え、その解決策の提案を試みる。なお、本授業は外部団体との連携にもとづくアクティブ・ラーニングの形式を取り入れる。

到達目標

本授業を通して、受講者は以下の項目を満たすことができる。
①　ボランティア活動への参加を通じて、ボランティア論への理解を深め、他者に説明することができる。
②　ボランティア活動の現場で求められる態度や行動を実践することができる。
③　他者と協力しつつ与えられた課題をこなすことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実習への準備および事後報告の取り組み状況	50%		
実習終了後のレポートおよび口頭発表（口頭でフィー	30%		
受け入れ先事業所からの評価表	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
実習時間以外に、レポート作成、口頭発表準備、実習先との打ち合わせ等の作業が必要である。予め設定された期限等をしっかり守って行動すること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

本授業は、大学だけではなく学部の企業やNPO組織などの団体との連携によって展開されている。したがって、受け入れ先での受講生の行動は、すべて大学と受け入れ先との信頼関係に大きな影響を及ぼすことになる。そのことをしっかりと踏まえた上で、主体的で責任ある行動をとること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	地域実践	1．前期開講科目「社会問題入門」（ボランティア論）の中で、具体的なボランティア先の選択方法およびボランティア実践に当たっての研究課題等について説明する。 　　ボランティア実習先は、あらかじめ用意した老人福祉施設、公共施設、児童福祉施設など
第2週	地域実践	2．本科目は実践科目のため、30時間の実習時間をもって１単位と認定する。 　　おおよその目安は、1日6時間で4日間の実習期間に事前準備と事後報告の時間を加えたものとする。
第3週	地域実践	3．実習には、エントリーシートの作成、実習先との具体的な打ち合わせ等の準備と実習終了後の報告（口頭による報告会とレポートの提出）を含むこととする。
第4週	地域実践	［留意事項］ 　　コロナウイルス感染状況等により、ボランティアが実施できない場合には、レポート提出等により代替することもある。
第5週		
第6週		
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報検索						
担当教員	上戸　理恵／仙波　希望／西脇　裕之／ 堀内　まゆみ	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 1031		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

情報検索の基本的な原則と技術を学び、情報を効果的に検索し、評価し、活用するスキルを向上させます。情報を活用するために必要な文章作成の技能を習得し、適切な表現を用いて発信するための知識を身につけます。情報リテラシーの概念も包括的に取り扱い、情報の信頼性や倫理的な使用についても理解を深めます。

到達目標

① 情報を検索するための基本原則を理解できる
② オンラインおよびオフラインリソースから情報を効果的に収集できる
③ 情報の信頼性を評価し、信頼性の低い情報源を識別できる
④ 倫理的な情報使用の原則を理解できる
⑤ レポートや研究プロジェクトで情報を活用できる
⑥ レポートや資料を作成する際に、適切な表現・構成を用いて論述することができる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業時の課題	50%		
授業内試験	40%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『グループワークで日本語表現力アップ』	野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと・藤本真理子・福葉小由紀	ひつじ書房	2016	978-4-89476-802-4	この教科書を「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」や「文章構

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
①テキストおよび配布資料を授業前・授業後に読み、整理し、自分の意見を考えておくこと。 ②第1回～第5回で実施する「漢字・語彙テスト」（1）～（7）の正答率が100%になるまで、くり返し受験すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅰ群に該当しています。
「情報検索」で使用する教科書は、「文章構成法」でも引き続き使用します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	・授業の概要・評価方法・注意事項等を確認します。 ・「漢字・語彙テスト」（1）を実施します。
第2週	大学で求められる文章とは何か（上戸 理恵）	・適切な表記・表現を学習します。 ・アカデミックな文章で用いられる表現・文体を学習します。 ・「漢字・語彙テスト」（2）・（3）を実施します。
第3週	レポートの基本構成（上戸 理恵）	・レポートとはどういう文章なのかを学習します。 ・レポートの基本構成である（序論・本論・結論）の3部構成について理解を深めます。 ・「漢字・語彙テスト」（4）・（5）を実施します。
第4週	情報を整理して書く技術（上戸 理恵）	・情報を整理するときのポイントを確認します。 ・パラグラフ・ライティングの基本的な方法を学習します。 ・「漢字・語彙テスト」（6）を実施します。
第5週	レポート作成のプロセスにおける検索（上戸 理恵）	・レポートを作成するプロセスにおいて、「検索」という行為がどのような役割を担っているのかを確認します。 ・検索した情報を自分のレポート内で活用するときの注意点を理解します（引用と出典）。
第6週	図書館での情報検索（上戸 理恵）	・調査したいキーワードを決めて、図書館内での資料を検索します。 ・「OPAC」で検索するだけでなく、関連文献を見つけるために資料の分類や所蔵場所に注目して資料を探します。
第7週	統計を探す／読む①（西脇裕之）	非正規雇用の増加の問題を題材として、インターネットを利用した文献の探し方について学びます。
第8週	統計を探す／読む②（西脇 裕之）	年齢層で分けて見ると非正規雇用が増えたのはどの年齢層でしょうか。入手した統計資料から非正規雇用の推移についての現状を把握します。
第9週	倫理的な情報使用のために（上戸 理恵）	・何が「盗用」（剽窃）とされるのか、そう見なされない論述をするために必要なことは何かを考えます。 ・適切な「コピペ」と不適切な「コピペ」の違いを理解します。
第10週	検索からのレジュメ作成(1)レクチャー（仙波 希望）	これまで学んだ知識を土台として、大学での学びに必須なレジュメ作成について議論します。
第11週	検索からのレジュメ作成(2)プラクティス（仙波 希望）	課題テクストをもとに、実際にレジュメをつくってみます。
第12週	検索からのレジュメ作成(3)ピア・レビュー（仙波 希望）	ピアレビューをつうじて、それぞれのレジュメの改善点を探ります。
第13週	身体表現における情報（堀内 まゆみ）	ダンスなどの非言語的コミュニケーションにおける「情報」とはどのようなものかを考えます。
第14週	生成AIの可能性と課題（上戸 理恵）	・生成AIとは何か、それによって何が可能となったか、課題・問題点としてどのようなことが指摘されているかを理解します。 ・情報の信頼性を吟味し、評価することの重要性を確認します。
第15週	授業のまとめと授業内試験	・授業全体をふり返り、それぞれの話題の要点を把握します。 ・講義内容の定着を確認するための試験を実施します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	医学概論						
担当教員	眞岡　知央	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1501		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

近年医学・医療の進歩・発展は著しく、専門分化がより進み、様々な職種の人々が医療に携わるようになってきています。そのため医学・医療の全体像を完全に把握することは困難になってきていますが、多くの医療関係者がもつ共通認識や、現代医療における問題点などを理解することを目標に、身近な事例なども踏まえながら皆さんと一緒に考察して行きます。

到達目標

① 医学・医療全般に対するイメージをそれぞれ持つことができる。
② 実際の医療と向き合ったとき、考え方の基礎となる知識を身につける。
③ 現代医療における問題点について意識することができ、それらを改善して行くためにはどうしたら良いか、考察することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回の授業内で行う小テストの合計点が、全講義終了	100%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、医療現場に携わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前には、興味のある分野についてインターネットや書籍で情報を集めるなどしてみてください。授業後は、疑問点を明確にし、箇条書きにするなどして整理し、次回授業後に質問してみてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は基本的に講義形式で行いますが、フォームやメールからの質問を受け付けます。授業内に前回の授業で実施した小テストのフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	身体におけるホメオスターシス	人体における恒常性を維持する仕組みを学びます。
第2週	循環・呼吸器系の形態と機能	人体にとって大切な、心血管系、呼吸器系の仕組みと働きについて学びます。
第3週	消化器系の形態と機能、栄養と代謝	食物からいかにして栄養を吸収してエネルギーに替えるか、また、消化器系に関する病気などについて学びます。
第4週	生体の防衛機構	ウイルスや細菌から身体を守る仕組みについて学びます。
第5週	生活習慣病	現代社会で問題となっている生活習慣病の予防と治療について学びます。
第6週	タバコの害	喫煙の害について学びます。
第7週	アルコールの功罪	飲酒が身体に与える影響について学びます。
第8週	ストレス	身体的、精神的ストレスが人体に与える影響について学びます。
第9週	日本の医療制度①	国民皆保険制度に代表される日本の医療制度について、世界と比較しながら学びます。
第10週	日本の医療制度②	国民皆保険制度に代表される日本の医療制度について、世界と比較しながら学びます。
第11週	全人的医療とチーム医療	医療は個人で完結するものではなく、多くの人とのつながりを必要とします。チーム医療の実際について学びます。
第12週	少子高齢化社会が抱える問題	現在大きな問題となっている少子高齢化について学びます。
第13週	地域医療、救急医療、医療安全など	地域医療、救急医療、医療安全について学びます。
第14週	ターミナル医療	人間の終末期に関するお話をします。
第15週	全体のまとめ、フィードバック等	全体のまとめなどを行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	障がい児教育						
担当教員	石崎　滉介	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1401		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

支援者は支援を行う際に，定型発達の子どもだけではなく，障害のある子どもの個に応じた対応も求められます。その際に必要となるのが特別支援教育に纏わる様々な理論や知見となります。当授業では特別支援教育及び障害児教育を行う上で必要な理論や歴史，実際の支援方法，それに伴うアセスメントについて広く学びます。

到達目標

① 特別支援教育及び障がい児教育の概要を理解することができる。
② 障害の特性や支援について理解することができる。
③ 実際の現場での支援の現場を理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験	50%		
レポート	20%		
授業への参加態度・意欲等の平常点	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次（編）（2020）よくわかる障害児教育 ミネルヴァ書房．
一般財団法人特別支援教育士資格認定協会（編）（2023）特別支援教育の理論と実践 Ⅰ 概論・アセスメント 金剛出版

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

当授業は，放課後等デイサービスにて子どもへの心理支援，保護者への相談・援助，他機関との連携等を行なってきている現職の臨床心理士・公認心理師が授業を行います。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配布資料を読み返して復習したり，授業内容と関連した最近の動向に関心を寄せてください。	3時間程度/週

受講時の注意事項

当授業は特別支援教育にまつわる知識理解とそれがどのように現場に還元できるかを考える授業となります。そのため，各自現場に出る時のことを考えながら受講してください。またレポート課題についてはオンラインでの提出になりますので，各自文書作成ソフトについて理解しておいてください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション，特別支援教育概論①：障害の構造的理解	当授業の受け方や大まかな内容や成績の付け方についてのオリエンテーションを行った後に，そもそもの「障害」とは何かということを考えます。
第2週	特別支援教育概論②：歴史，システム	特別支援教育の歴史やシステムについて学びます。
第3週	障害児教育概論	この後学んでいく様々な障害についての全体像について学びます。
第4週	身体障害の理解と支援（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由等）	身体障害についての理論的背景，支援方法について学びます。
第5週	知的発達症の理解と支援	知的発達症についての理論的背景，支援方法について学びます。
第6週	注意欠如・多動症の理解と支援	注意欠如・多動症（ADHD）についての理論的背景，支援方法について学びます。
第7週	自閉スペクトラム症の理解と支援	自閉スペクトラム症（ASD）についての理論的背景，支援方法について学びます。
第8週	限局性学習症の理解と支援	限局性学習症（SLD）についての理論的背景，支援方法について学びます。
第9週	ギフテッド・2Eの理解と支援	ギフテッドや2E（twice-exceptional）についての理論的背景，支援方法について学びます。
第10週	実際の現場における障がいのある子どもへの支援	実際の臨床現場ではどのような子どもがいて，どのような支援が展開されているのかを学びます。
第11週	アセスメントの理解	子どもだけではなく養育者から得られる情報のアセスメントの観点を学びます。
第12週	心理アセスメントの理解	心理検査やその所見の読み取り方を学びます。
第13週	障害のある子どもの保護者の理解と支援	障害のある子どもの保護者がどのような状態像を示し，どのような支援が行われているのかを学びます。
第14週	支援者の倫理	支援者に求められる職業倫理について学びます。
第15週	まとめと授業内期末試験	今までの授業のまとめを行い，授業内で期末試験を行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	数学Ⅰ						
担当教員	中西　勝範	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1911		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

社会人として必要な基礎力の中で、論理的思考力や数的処理能力等を高め、課題解決能力を身に付けます。授業の進め方は次のとおりです。
①　導入：基本的な概念・原理・法則を理解します。事象を数学的に考察し、表現する方法を確認します。
②　展開：自力解決や協働学習により課題解決に取り組みます。授業進度に応じて代表者がプレゼンテーションすることもあります。
③　まとめ：小テストで理解と定着を確認し、自己評価を行います。

到達目標

①　自ら課題を発見し、解決するための構想を立て、考察することができる。
②　数量の関係を式や図で表現し、的確に処理することができる。
③　論理的に考え抜いて、課題を解決することができる。
④　自分の考えを分かりやすく説明し、互いに自分の考えを伝え合うことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（自力解決・協働学習の取組、小テスト、課題	30%		
定期試験	70%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

北海道教育委員会指導主事として数学担当教諭の研修事業に携わった経験を有する教員が、実務経験に基づき、数学の基礎・基本について講義を行う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配付資料を必ず予習して授業に臨んでください。 課題レポートに取り組み、既習事項の復習を繰り返し行ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

課題意識を持って能動的に学修に取り組んでください。
自己評価を適切に行ってください。
課題レポートを次の授業の開始前に提出してください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション 外延量と内包量	授業概要、成績評価方法等 内包量の性質等
第2週	割合と比の計算	m、nの意味 全体を100とした場合の「部分」の表し方
第3週	方程式Ⅰ	未知数 1次方程式とその解き方 連立方程式とその解き方
第4週	方程式Ⅱ	速度・距離・時間
第5週	料金計算	支払総額と基本料金・割引料金 総額と一人当たりの負担額
第6週	損益算	定価＝仕入れ額＋利益 売値＝定価ー値引き額 利益の積み上げ方式
第7週	仕事算	全体を1とした場合の「部分」の表し方 1日の仕事量と終了までの日数
第8週	分割払い	総額を1とした場合の分割払いの表し方 1回の支払い金額と残金
第9週	集合	ベン図による表記 共通部分 和集合
第10週	場合の数・順列	場合の数 和の法則 積の法則
第11週	組合せ	順列との違い
第12週	確率Ⅰ	事象と確率 積事象 独立な試行の確率
第13週	確率Ⅱ	和事象 排反事象 余事象
第14週	授業の到達目標の達成度の確認	総合演習
第15週	授業の到達目標の達成度の確認 学期末試験	弱点克服
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	数学II						
担当教員	中西　勝範	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1912		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

社会人として必要な基礎力の中で、論理的思考力や数的処理能力等を高め、課題解決能力を身に付けます。授業の進め方は次のとおりです。
① 導入：基本的な概念・原理・法則を理解します。事象を数学的に考察し、表現する方法を確認します。
② 展開：自力解決や協働学習により課題解決に取り組みます。授業進度に応じて代表者がプレゼンテーションすることもあります。
③ まとめ：小テストで理解と定着を確認し、自己評価を行います。

到達目標

① 自ら課題を発見し、解決するための構想を立て、考察することができる。
② 数量の関係を式や図で表現し、的確に処理することができる。
③ 論理的に考え抜いて、課題を解決することができる。
④ 自分の考えを分かりやすく説明し、互いに自分の考えを伝え合うことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観 a 個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（自力解決や協働学習の取組、自己評価、小テ	30%		
定期試験	70%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

北海道教育委員会指導主事として数学担当教諭の研修事業に携わった経験を有する教員が、実務経験に基づき、数学の基礎・基本について講義を行う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配付資料を必ず予習して授業に臨んでください。 課題レポートに取り組み、既習事項の復習を繰り返し行ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

課題意識を持って能動的に学修に取り組んでください。
自己評価を適切に行ってください。
課題レポートを次の授業の開始前に提出してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション 図形と方程式 I	授業概要、成績評価方法等 関数 変化の割合
第2週	図形と方程式 II	放物線 円 図形から方程式へ
第3週	不等式の表す領域 I	直線・放物線の上方・下方 円の内部・外部 連立不等式
第4週	不等式の表す領域 II	領域における最大・最小
第5週	表の読みとり	全体を100または1,000とした場合の「部分」の表し方
第6週	ブラックボックス	入力と出力 関数表記
第7週	推論 I	正しいかどうかの判定 順序（順位）付け
第8週	推論 II	内訳の判定 内包量
第9週	ものの流れと比率	1か所から1か所 2か所から1か所 経由地の通過
第10週	論証	命題と集合 逆・裏・対偶 三段論法
第11週	立体図形	体積 表面積 展開図
第12週	n進法	n進法の表現と計算
第13週	授業の到達目標の達成度の確認 I	総合演習 I
第14週	授業の到達目標の達成度の確認 II	総合演習 II
第15週	授業の到達目標の達成度の再確認 学年末試験	弱点克服
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	哲学						
担当教員	大小田　重夫	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1101		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

「哲学」とは、私たちが持っている常識的な知識をあえて問い直すことによって、固定化し狭量になりがちな思考と生活から抜け出し、よりよく生きようとするための営みである。本講義の目的は、過去の哲学者の実践例を学ぶことを通して、レヴェルの違いはあれ、哲学的思考を実践できるようになることである。

到達目標

1．哲学の代表的な問題について知る。
2．自分が共有できる問題を積極的に見つける。
3．考えたことを論理的に文章化できるようにする。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	60%		
各講義ごとの提出課題の評価（４段階）	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
関心を持ったテーマや哲学者に関する本を見つけ読んでみること。 ノート、配布資料を見直し復習すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

オンデマンド形式のビデオ学習の講義になります。各講義ごとに課題を提出します。課題の提出をもって出席とします。６回以上の未提出（欠席）があった場合、最終のレポートは評価の対象外となります。受講にあたって哲学の予備知識はいっさい必要ありませんが、積極的な授業参加を希望します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	哲学とは何か	道徳や宗教という人間の他の思想と哲学は何が異なるのか、さらには「人間らしさ」という観点から哲学とは何なのかを解説する。
第2週	西洋哲学の歴史（1） ― 古代哲学の歴史	ギリシャの神話的思考から哲学がどのように生まれ、どのように展開したのかを解説する。
第3週	西洋哲学の歴史（2）― 合理主義哲学	デカルトは天動説から地動説へという宇宙観の大転換を経験し、「我思う、ゆえに我あり」という真理に到達した。こうした思想的背景からデカルトの哲学を解説する。
第4週	「心」とは何か ― 心身問題について	「心」とは隠された内面であるという常識的理解を問い直すことを通して、心と身体の関係について考える。
第5週	言葉と意味 ― 現代哲学における言語論的転回について	古典的な言語観においては、言葉の意味は心の中にあると考えられている。フェルディナ・ド・ソシュールの思想の解説を通して、こうした言語観について再考する。
第6週	言葉と行為 ― 言語行為論	古典的な言語観においては、言葉はもっぱら何かを記述するものと考えられている。言語行為論やヴィトゲンシュタインの言語ゲーム論の解説を通して、言語の多様なあり方について考える。
第7週	西洋哲学の歴史（3）― イギリス経験論哲学	イギリス経験論の哲学（ロック、ヒューム）を解説し、人間の思想における経験の持つ意味について考える。
第8週	西洋哲学の歴史（4）― カントの哲学	合理論と経験論の綜合として理解されるカントの哲学を、倫理学を中心に解説する。
第9週	「時間」とは何か（1）	アウグスチヌスやベルクソンの時間論を解説し、時計で計測される時間（時計の針は「空間」の中を動いている）とは異なる、時間の本性について考える。
第10週	「身体」とは何か ― 心身問題について	「自己身体」の経験を主題としたベルクソンやメルロ＝ポンティの哲学を解説し、心と身体の関係について再考する。
第11週	「美」とは何か	美の経験は、他の快（おいしい、楽しい）とは何が異なるのか。カントが美の経験をどのように理解したのかを解説する。
第12週	「私」とは何か ― アイデンティティについて	人間は誰でも様々な「快楽」を追及して生きるが、それら個々の快楽の総和を超えた「幸福」も求める。ポール・リクールの哲学を解説し、こうした葛藤を生きる人間のアイデンティティの形成について考える。
第13週	「身体の自由」について	「性別適合手術」の是非を主題として、「身体の自由」はどこまで許されるのか、について考える。
第14週	「時間」とは何か（2） ― 人間存在と時間	キルケゴールやハイデッガーの哲学をとおして、人間存在と時間との関係について考える。
第15週	西洋哲学の歴史（5）― ニーチェの哲学	デカルト、カントなど合理主義は西洋哲学の主流であった。ニーチェの反合理主義の哲学を解説し、理性とは何か、またその限界について考える。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本国憲法						
担当教員	加藤　信行	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1301		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

・日本国憲法の基本原則や内容について、具体的な裁判例などを取り上げつつ、憲法学上の考察を加える。
・基本的に教科書の流れに沿って授業を進めるが、まずはじめに、法学の基礎や近代憲法の歴史などを学ぶ。
・必要に応じて、民法、刑法、国際法などの関連法分野にも触れることになる。

到達目標

①国の基本法である憲法の意義と内容を、具体的な問題と関連付けて理解し、説明することができる。
②現実のさまざまな社会問題を憲法の観点から考察し、異なる意見を尊重しつつ、妥当な判断を導くことができる。
③法律学的な思考方法に親しみ、社会人として不可欠な法的常識やものの考え方を習得し、論理的に表現することができる。
④重要な憲法裁判例について説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
各回の授業について実施する小テスト（５％	70%		
期末試験	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『いちばんやさしい憲法入門』	初宿正典ほか	有斐閣	2020	978-4-641-22150-5	

参考書等

・初宿正典ほか『目で見る憲法（第6版）』（有斐閣、2024年）など。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・日ごろから新聞等に目を通し、憲法問題と関わりがありそうな記事に留意すること。 ・予習：　事前に配信される講義レジュメを参照しつつ、教科書の関連部分を読み、授業でいかなる問題が取り上げられるかを想定するとともに、分からない言葉や論理について調べておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・覚えることよりも、考えて理解することが大事です。コツコツ積み重ねて勉強してください。
・「授業計画」のうち、最後のほうの授業内容は、授業の進行具合や新たな憲法問題の登場によって変更される可能性もあります。
・小テストなどは、提出期限を厳守してください。期限後に提出しても、不提出となります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、法学の基礎	・授業の形態や進め方についてガイダンスを行ったのち、法律学の初歩的な事項と法学全体における憲法の位置づけについて学ぶ。
第2週	憲法総論	憲法の意味、憲法の歴史、日本国憲法の基本原則と基本構造について学ぶ。
第3週	人権総論、子どもの人権	人権総論（基本的人権のカタログ・分類、人権の制約原理としての公共の福祉、人権享有主体）を学んだ後、人権享有主体としての子どもの人権を学ぶ。 ・教科書テーマ１「ブラック校則：子どもの人権」
第4週	国籍、外国人の人権	人権享有主体としての外国人の人権を学ぶ。その前提として、国籍の問題を理解する。 ・教科書テーマ２「欲しいのはまず選挙権：外国人の権利」
第5週	幸福追求権	広義の幸福追求権について学ぶ。 ・教科書テーマ３「わたしの秘密：プライバシー権」 ・教科書テーマ４「何の自己決定か？：自己決定権」
第6週	法の下の平等	法の下の平等にかかわる諸問題を学ぶ ・教科書テーマ５「再婚は100日後？：　法の下の平等①」 ・教科書テーマ６「むかし親殺しありき：　法の下の平等②」
第7週	信教の自由、表現の自由の意義	信教の自由および政教分離原則を学んだのち、表現の自由に関する前半部分を学ぶ。 ・教科書テーマ７「法廷の宗教戦争：信教の自由」 ・教科書テーマ８「ポルノの権利：表現の自由①」
第8週	表現の規制、経済的自由	表現の自由に関する後半部分を学んだのち、職業選択の自由を中心に経済的自由について学ぶ。 ・教科書テーマ９「人殺し教えます：表現の自由②」
第9週	生存権、教育権	社会権（生存権、教育権）について学ぶ。 ・教科書テーマ11「クーラーのない生活：生存権」 ・教科書テーマ12「教科書はつらいよ：教育権」
第10週	適正手続の保障・死刑制度	身体の自由について、とくに死刑制度について学ぶ。 ・教科書テーマ13「罪と罰のはて：死刑制度」
第11週	象徴天皇制と国民主権	国民主権と天皇制について、とくに天皇の国事行為について学ぶ。 ・教科書テーマ14「皇室外交：天皇」
第12週	平和主義（戦争の放棄）	戦争と平和、安全保障の問題を学ぶ。 ・教科書テーマ15「人権の条件：平和主義」
第13週	三権分立、国会	統治機構のうち、国会について、とくに二院制と議院内閣制を中心に学ぶ。 ・教科書テーマ16「両院は車の両輪：国会①」 ・教科書テーマ17「民の声 vox Dei：国会②」
第14週	裁判所（司法制度）	司法制度や裁判員制度について学ぶ。 ・教科書テーマ19「裁判はだれのために：裁判所」
第15週	まとめ	これまでの授業のまとめと補完を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	臨床医学						
担当教員	加藤　静恵	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1301		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽療法に必要な医学知識、特に脳機能については、胎児期からの発達並びに発達障害・加齢・疾病による変化・精神疾患について概説する。
① 正常な人体の構造や機能を系統的に理解し、音楽療法の対象となる障害の臨床症状に関する知識、診断方法の理解する。
② 乳幼児期から老年期にかけて、こころの生涯発達特性について学び、治療・社会復帰、療育について学習する。
③ 障害へ理解を深めて、暖かい共生社会を模索する姿勢と地域社会での支援活動が可能となる基礎知識を習得する。

到達目標

自分自身の身体状況のアセスメントを実技を通して学び、支援に活かす。
音楽療法士試験の過去の問題を理解し、適切な解答が導き出せる知識を習得する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。 5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験（学期末の授業内試験）	60%		
受講確認レポート課題提出	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『授業前に適宜、資料をアップロードします』					

参考書等

『リハビリテーションビジュアルブック』（Gakken・秀潤社）『人体の構造と機能及び疾病』（ミネルヴァ書房・中央法規）『基礎から学ぶリハビリテーションと音楽療法』（笠井史人）『感覚統合を活かして子どもを伸ばす!音楽療法』(明治図書)　『目からウロコの音楽活動』(三輪書店)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

北翔会医療福祉センター札幌あゆみの園・ひまわり会札樽病院・札樽・すがた医院で小児発達外来を担当しています

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に資料をCampus-Xsにｱｯﾌﾟﾛｰﾄﾞします。 受講終了時のﾘｱｸｼｮﾍﾟｰﾊﾟｰの提出と受講確認課題（復習として講義に関連したトピックスなどの資料を提示しますので考察して理解を深める）の提出を課します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

原則、講義形式は対面で行います。状況によってリモート(Meet/ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ)対応をします。ワークや身体活動も取り入れていきます。講義に関するに質問や相談を個別に受け付けます。人間の身体機能やご自身やご家族など周囲の方の健康についても関心を持ち受講してください。あなたが受講して耳にした知識が誰かの命を救い、人生を変えるかもしれないという意識をもって受講してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	胎児期からの身体作り　健康促進	人の身体・精神の成長・発達 感覚のアセスメント　感覚統合　現在人の身体の評価 胎児期・新生児期からの発達支援
第2週	神経発達症	遺伝性疾患　胎芽病・胎児病　染色体異常 神経発達症(知的障害・境界域知能を含む) 脳性まひ／筋疾患　筋ジストロフィー　SMA／ニ分脊椎
第3週	加齢・老化	摂食・嚥下障害　言葉の発達　言葉の促すかかわり ASD　成人の発達障害 廃用症候群　フレイル　不登校
第4週	生活習慣病	高血圧症・動脈硬化・糖尿病　脂質異常症　高尿酸血症／肥満症／メタボリックシンドローム 途中失明（糖尿病性網膜症・緑内障）全盲の池田先輩
第5週	脳血管疾患　虚血性心疾患	脳の働きと音楽の影響 脳出血・意識障害・脳梗塞･クモ膜下出血 リハビリテーションの実際と音楽療法の可能性
第6週	神経疾患と難病対策	ALS／脊髄小脳変性症／多発性硬化症／パーキンソン病　ジストニア　アレクサンダーテクニーク
第7週	運動器疾患	骨折／変形性関節症／脊椎管狭窄症／椎間板ヘルニア／頚椎症／末梢神経障害
第8週	感染症	感染症　感染予防　呼吸器疾患（結核を含む）　呼吸リハビリテーション 髄膜炎　肝炎　HIV／ADIS
第9週	内科系疾患（消化器　血液　免疫	口腔筋　嚥下リハビリテーション　口腔筋機能療法　消化器疾患　便秘　下痢　ガン　肝胆膵疾患 血液(貧血・白血病など)・自己免疫疾患(関節リウマチ)・腎/泌尿器疾患
第10週	障害の概要	眼疾患　未熟児網膜症　視知覚認知　色覚障害を含む 加齢性変化　成人の失明 難聴　聴覚情報処理障害/聞き取り困難症視覚障害
第11週	基本動作障害	パーキンソン病の理解・片麻痺の理解(脚漕ぎ車椅子) 協調運動障害　発達性協調運動障害 限局性学習症　ディスレキシア　特異的読字障害
第12週	人の姿勢と動作	運動麻痺・歩行障害・半側空間無視と同名半盲 ICT 構音障害・失語症.
第13週	高次脳機能障害　認知症	失語症　失認　失行　注意障がい　記憶障害　健忘症候群　遂行機能障害　社会的行動障害 認知機能の評価　レビー小体型認知症(妻の病)　ユマニチュード
第14週	メンタルヘルス　若者の心の病	精神疾患の分類と診断（ICD－11とDSM５-TR） 精神医学における正常と異常：精神疾患の分類と診断
第15週	精神保健福祉対策 習熟度確認試験(授業内)	サポートファイルさっぽろ　遠隔学習学びの継続 習熟度確認試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	児童心理学						
担当教員	渡辺　舞	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1402		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業では、乳児期・幼児期・児童期・青年期を対象とし、教育現場や社会場面で出会う子どもの行動と心理を理解することを目的とします。

到達目標

①　各発達段階での子どもの発達について、心理学の基本的理論を理解し、概説することができる。
②　教育現場での事例や研究を心理学的に理解し、これらの知識を教育場面や日常生活への実践で応用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観（個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
講義内試験	70%		
毎回の講義で実施する出席課題	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					毎回の講義で資料を配布します。

参考書等

参考書は各講義内で紹介します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習；授業内で配付した資料および指示した参考書を元に、専門用語を理解しておいてください。 復習；授業内で提示した課題について、講義終了後、自分の考えをまとめてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

講義中心の科目ですが、演習や実験も講義内で取り入れていきますので、積極的な授業姿勢を望みます。出席課題は、毎回の授業で提出してもらうことで、評価の対象となります。講義内で実施する実験や出席課題の結果を次回の授業でフィードバックし子どもの理解を深めていきます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション　児童心理学とは	講義内容、講義の方法、評価について説明し、児童心理学とはどのような学問なのか解説します。
第2週	子どもの知覚	子どもの見ている、聞こえている世界を発達的視点から解説します。
第3週	子どもの認知	子どもの記憶を中心とした認知機能について発達的視点から解説します。
第4週	子どもの思考と知能	子どもの思考と知能について発達的視点から解説します。
第5週	子どもの情緒と感情	子どもの情緒と感情について発達的視点から解説します。
第6週	子どもの動機と動機づけ	子どもの動機の特徴と動機づけを高める理論を解説します。
第7週	子どもの人間関係①　愛着	子どもの愛着について発達的視点から解説します。
第8週	子どもの人間関係②　他者理解	子どもが他者の「こころ」を知る過程について発達的視点から解説します。
第9週	子どもの人間関係③　教育現場での人間関係	子どもが教育現場で出会う人間関係とクラス運営について解説します。
第10週	児童期①　幼児期から児童期への移行	幼児期から児童期の子どもの「こころとからだ」の変化を解説します。
第11週	児童期②　仲間関係の発達	児童期以降の重要な人間関係である仲間関係の特徴について解説します。
第12週	青年期①　児童期から青年期への移行	大人への「こころとからだ」の変化を解説します。
第13週	青年期②　アイデンティティの確立	青年期の発達課題であるアイデンティティの確立について発達的視点から解説します。
第14週	配慮を必要とする子どもと家庭への支援	配慮を必要とすることもの理解と家庭支援について解説します。
第15週	まとめと試験	15回の講義を振り返り、最後に講義内試験を実施します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	建学の精神と大谷学Ｂ						
担当教員	宮本　浩尊	配当年次	１年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1002		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この授業では、「建学の精神と大谷学A」で学んだ内容を踏まえて、仏教思想をより詳しく理解することを目標とします。
仏教は、今から2500年前のインドで誕生した宗教です。仏教は、アジア各地の文化の形成に多大な影響を与えました。日本もまた例外ではありません。仏教を学ぶ意義は、私たちが生まれ育った日本という国の精神史・思想史を理解するための基礎を習得することにあります。
そしてまた、札幌大谷大学は、この仏教思想を建学の精神に据える大学です。仏教思想を学ぶことを通して、本学で学ぶ意義を考えたいと思います。

到達目標

① 仏教の基本的な思考法を知り、生活の中で活用することができる。
② 古典に触れることで、人類の叡智を知ることができる。
③ 札幌大谷大学で学ぶ意義について考えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観と個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（出席・課題の提出等）	50%		
授業内試験	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく、「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようになってほしい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業内容、目的、計画、評価方法の確認等を行う。
第2週	インドの文化と思想	仏教が誕生した国インドの文化と思想について講義する。
第3週	釈尊の生涯	釈尊の生涯について講義する。
第4週	釈尊の思想①	釈尊の思想について講義する。
第5週	釈尊の思想②	釈尊の思想について講義する。
第6週	釈尊の思想③	釈尊の思想について講義する。
第7週	釈尊の弟子たちの時代	釈尊の弟子たちの時代に仏教がどのように展開したか講義する。
第8週	大乗仏教の思想①	大乗仏教の思想について講義する。
第9週	大乗仏教の思想②	大乗仏教の思想について講義する。
第10週	中国仏教の成立	仏教が中国にどのように伝わり、定着していったかを講義する。
第11週	飛鳥時代から奈良時代の日本と仏教	仏教が日本にどのように伝わり、定着していったかを講義する。
第12週	平安時代の日本と仏教	仏教が日本でどのように展開していったかを講義する。
第13週	親鸞の思想①	親鸞の思想を時代背景を踏まえながら講義する。
第14週	親鸞の思想②	親鸞の思想を時代背景を踏まえながら講義する。
第15週	まとめと授業内試験	講義のまとめを行い、授業内試験を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	文書実務（Word）a						
担当教員	常見　裕子	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1021		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この科目は文書作成ソフトWord（またはGoogleドキュメント）の使用技術の習得を通して、日常生活やビジネスシーン、アカデミックライティングなど、多様な文書の作成技術の習得をめざす。Wordは文書作成はもとより、表作成やグラフィックなど多彩な機能を有する。授業では、実際に「調べて」、「考えながら」さまざまな文書を作成することに主眼を置き、機能を活用できることと、多様な文書作成のスキルを習得することを目標とする。
また、応用としてPowerPoint（またはGoogleスライド）を使用し、情報を伝える技術や考え方を学ぶ。

到達目標

① 書くより早く正確に入力し、文書を編集することができる。
② プログラム、案内文書などを考えながら作成、編集することができる。
③ 電子メールのマナーやモラルを理解し、コミュニケーションツールとして使用することができる。
④ PowerPoint（またはGoogleスライド）のスライド作成で、情報を的確かつ正確に伝えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題提出	70%		
平常点	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

会社内や学校教務事務でのPC業務（Officeソフトを使用して様々な文書作成、会計ソフトの使用など）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
基本操作でわからないことがあれば復習しておく。 授業後、新しく学習したことを復習し、理解を深める。 入力速度をあげるため、タイピング練習（ブラインドタッチ）を継続練習する。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

パソコン（Mac、Windows問わず）を持参すること。
パソコン内にWordやPowerPointがインストールされていない場合は、Googleドキュメントやスライドを使用する。
特に予備知識はありません。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業内容説明とパソコン使用状況に関するアンケート タイピングの基本
第2週	様々な文字入力と文字の訂正	タイピング練習（ブラインドタッチ） 挿入や削除、コピーや移動などの機能を使用して様々な訂正
第3週	様々な編集	タイピング練習（ブラインドタッチ） 様々な編集機能 知識学習：セキュリティと情報モラル
第4週	ビジネス文書の作成	ビジネス文書の基本構成とレイアウトについて
第5週	表の作成	基本的な表の作成
第6週	表の作成の応用	セルの結合　複雑な表の作成
第7週	実務練習課題①	表入りビジネス文書の作成
第8週	図形機能と画像挿入	図形や画像の編集など
第9週	実務練習課題②	図形や画像、表が入った文書の作成
第10週	実務練習課題③	図形や画像、表が入った文書の作成
第11週	レポート・論文などで必要な様々な機能	ページ番号挿入、セクション区切りなど 知識学習：著作権と引用
第12週	ビジネスメールとファイル変換	ビジネスメールのマナーと形式　PDFファイル変換など
第13週	PowerPoint（またはGoogleスライド）	基本操作
第14週	PowerPoint（またはGoogleスライド）	指示された情報からスライド作成
第15週	復習とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報処理演習Ａ（Excel）c						
担当教員	常見　裕子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1031		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

実社会での需要が多い「Microsoft Excel」。現代社会に必要な情報リテラシー能力を修得するため、このソフトの基本操作から応用、簡単な統計までを実社会での使用例や実践テクニックをもりこみながら学習する。
Excel（またはGoogleスプレッドシート）を活用しながら様々な数値の求め方、データの加工方法などを理解する。

到達目標

①　Excelの基本操作を理解し、計算式（関数含む）などを入力した表を作成することができる。
②　データベース機能を理解し、必要なデータを並べ替え、抽出、集計することができる。
③　適切なグラフを作成することができる。
④　データの集計・整理・加工を行うことができる。
⑤　統計の考え方を理解し、データを分析することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点	30%		
課題提出	70%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『初歩から実用まで　100題で学ぶ表計算（第5版）』	森 夏節・常見 ひろこ	日経ＢＰ社			

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

会社内や学校教務事務でのPC業務（Officeソフトを使用して様々な文書作成、会計ソフトの使用など）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後は講義内で学習した内容を繰り返し練習・確認すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

パソコン（Mac、Windows問わず）を持参すること。
パソコン内にExcelがインストールされていない場合は、Googleスプレッドシートを使用する。
特に予備知識はありません。タイピング練習（ブラインドタッチ、テンキーを含む）を継続練習してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス　EXCELソフト（またはGoogleスプレット）でできること	授業のねらいと進め方、基本操作説明 テンキーの入力練習
第2週	基本操作①	四則演算と簡単な関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNTなど） 表の作成と書式設定
第3週	基本操作②	連続データ作成　　コピーと貼り付けオプション データの種類（量的変数と質的変数）
第4週	基本操作③	行列の編集（行列の挿入と削除、行列幅の変更）
第5週	基本操作④	絶対参照と相対参照
第6週	関数II	IF・ROUND・INT・RANK.EQなど
第7週	グラフの作成	グラフの種類と用途 棒グラフ・線グラフ・円グラフの作成
第8週	グラフの作成	複合グラフ・散布図 不適切なグラフ表現
第9週	データベース機能①	並べ替え・抽出
第10週	データベース機能②	抽出の応用 小規模データの使用
第11週	関数III	XLOOKUP（VLOOKUP） IFの応用（IFS、IF+IF）など
第12週	EXCELで集計	関数を使用して集計（データベース関数、COUNTIF、SUMIFなど） ピボットテーブルでクロス集計
第13週	簡単な統計学①	代表値（平均値、中央値、最頻値）とデータのばらつき（分散、標準偏差など）
第14週	簡単な統計学②	相関係数とヒストグラム
第15週	復習とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	文書作成法						
担当教員	山田　千春	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1051		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

①　実際に文章を書くことを通して、文字言語における表現能力の向上を図る。
②　文末表現や接続の仕方、レトリックの工夫などの技術の習得と、論理的に文章を作成する方法を身につける。

到達目標

①　不適切な文章の修正を通して、課題を発見しつつ適切な表現方法を身につける。
②　文章の種類の具体例と書き方を理解し、目的や相手を意識した文書や文章を書くことができる。
③　小論文等の論理的思考力、手紙等の自己表現力が育つ効果的な文章を書くことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題提出（提出物の内容、提出期限を守っているか）	70%		
レポート（提出物の内容、提出期限を守っているか）	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」』					

参考書等

「なし。授業内で適宜、資料を配付します。」

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
開講中、1冊は新書を読むようにしましょう。日常的に新聞記事を読むように心がけましょう。	1時間程度/週

受講時の注意事項

実際に文章の書き方の基礎・基本を学ぶ授業ですので、積極的な授業参加を期待しています。この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガンダンス、話し言葉と書き言葉について	シラバスを基に、授業内容の説明や評価方法の説明を行う。課題提出の方法など授業を進めていくうえでの注意事項を確認する。話し言葉と書き言葉のそれぞれの特徴を説明し、練習問題に取り組む。
第2週	悪文や誤った日本語の表現について	わかりにくい例文を提示し、そのような表現になってしまう原因について説明をする。その後、わかりにくい例文をわかりやすい文に修正する（練習問題）。また、誤った日本語の表現についても例文を使って説明する。
第3週	手紙や葉書について	手紙や葉書の基本的な構成について説明し、例文を参考にお世話になった先生へ近況報告の手紙を作成する。（提出）
第4週	文章の要約練習	文章の要約ポイントを説明し、要約の練習問題に取り組む。（提出）
第5週	レジュメ、レポート、論文の違いについて	レジュメ、レポート、論文のそれぞれの特徴と違いについて説明し、それぞれ作成するにあたっての注意事項を確認する。引用のルールや引用文献の示し方についても説明を行う。
第6週	新聞記事を読んで感想を書く	新聞記事を読むことのメリットを考え、新聞記事を選択して感想文を作成する。（提出）
第7週	課題文を読んで自分の意見を書く	課題文を提示し、それを読んで自分の意見をまとめる。意見文の文章構成を説明し、それにそって意見文を作成する。（提出）
第8週	自分の主張を論理的に書く①	論理的な文章の構成、主張の根拠となる具体例の書き方を説明する。さらに、接続詞の種類や使用例について確認をする。
第9週	自分の主張を論理的に書く②	前回（8週目）の復習を行い、テーマを提示する。そのテーマに対して、自らの意見をまとめ論理的な文章を作成する。（提出）
第10週	ブックレポート①	ブックレポートについての説明と課題図書の指定をする。ブックレポートの文章構成の確認も行う。
第11週	ブックレポート②	要約のポイント（第4週目）を復習し、課題図書の読解と要約に取り組む。
第12週	ブックレポート③	課題図書の読解と要約に取り組む。
第13週	ブックレポート④	考察とまとめの書き方を説明し、作成に取り組む。（提出）
第14週	テーマを決めて主張文を書く①	テーマの選びのポイントを説明し、自らのテーマを選定する。主張文の文章構成も確認する。
第15週	テーマを決めて主張文を書く②	自分の決めたテーマにそって主張文を作成し、提出する。【レポート】
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	口語表現法						
担当教員	石橋　宜子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1052		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

自分の気持ちや考えを相手に伝えることの大切さ、正しく伝わることの難しさを知り、確かに伝えるためには何が必要かを考えながら、実践を重ねます。
声の出し方、発音の仕方、言葉の選び方、スピーチの構成など、表現のポイントを学びつつ、演習を通して表現力を身につけていきます。
さらに、仲間の発表を聴き、分析することで口語表現力の上達につなげます。

到達目標

①　聞き手を意識し、相手に合わせた伝え方を工夫することができる
②　聞き手に届き、聞き取りやすい話し方を心がけることができる
③　構成を考えて、対象となる聴衆に分かりやすく伝えることができる
以上の力を、学内外の発表やコミュニケーション、就職活動などで積極的に活用できることを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内発表	40%		
スピーチシート、他者評価シートなどの課題提出	30%		
授業内実技試験（発表）	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

講師は放送局キャスター、イベント司会などの実務を経験。現在は、社会人、学生を対象に、話し方・プレゼンテーション、コミュニケーション等を指導しています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
①　意識して声を出す　・・・配布する発音資料や、活字の文章を、ていねいに読む　（一日３～５分） ②　授業内発表のための準備　・・・準備シート作成、原稿を読まずに発表できるよう繰り返し練習 ③　発表後の振り返り　・・・準備シートに感想を書き、提出	2時間程度/週

受講時の注意事項

毎回の授業で、人前で声を出してもらいます。
①自分の発表を振り返り、次に活かすこと、②他の人の発表を聴き、良い点や改善点を分析すること、この２つが上達の秘訣です。
人前で話すのが好きな人は、より多くの場面で相手に伝わる話し方ができるようになってください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	口語表現を考える	・オリエンテーション　（シラバス、授業への向き合い方、期待してほしいこと） ・話し言葉の特性 ・パブリックスピーキングとは
第2週	発声の基本	・姿勢、呼吸法、発声 ・三段構成法を知る（ミニスピーチ）
第3週	伝えることvs.伝わること	・正確に伝える工夫、正確に受け止める工夫 伝えたつもりが伝わらない、分かったつもりが分かっていなかった…の原因と対策
第4週	スピーチ作成の手順	・話の材料の集め方、具体材料を見つける ・スピーチの組み立て方 ・次回発表の準備（次回までに構成表を完成し、繰り返し練習すること）
第5週	スピーチ発表	・他者のスピーチを分析して評価する
第6週	音声表現の技術	・日本語共通アクセント ・イントネーション、ポーズ、プロミネンス
第7週	スピーチを支えるパフォーマンス	・姿勢が与える印象、視線の配り方、しぐさの影響力
第8週	具体的表現で伝える	・聞き手の五感に訴える伝え方
第9週	プレゼンテーションの組み立て	・プレゼンテーションとは ・聴衆分析の方法 ・プレゼンテーション準備（次回までに構成表を完成し、練習を繰り返すこと）
第10週	プレゼンテーション発表	・他者の発表の良い点、改善点を見つける
第11週	古典朗読	・馴染みのある古典の文章を、響きのある声で読む
第12週	あらすじを説明する	・あらすじに必要な要素を知る 筋が簡潔につたえられるか、おすすめポイント（魅力）が伝わるか
第13週	現代文朗読	・豊かな表現力で伝える
第14週	司会のポイント	・イベントの第一印象を決める司会に挑戦
第15週	授業内実技試験	・最終プレゼンテーション ・朗読発表 ・自己評価、他者評価、授業の振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	健康スポーツ学Ａ（体育理論）						
担当教員	田口　夏美	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1511		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

健康や体力の維持・増進、運動・スポーツを楽しむ環境整備とその価値を理解することは、生活を豊かに送るうえでとても大切です。
①　体力の維持・増進
②　身体を動かすこと（運動・スポーツ）の意味、および社会に与える影響の理解
③　発育発達とスポーツの関係の考察
を目的とし、さまざまな視点から運動・スポーツについて考えていく。

到達目標

①　「体力」の理解と、健康を維持・増進するとはどういうことかを理解できる。
②　日々の生活の中における運動・スポーツ場面を考え、その意味や価値について考察し、自分なりの考えを持てるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
各回のレポート	50%		
期末レポート	30%		
意欲・リーダーシップ	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

地域スポーツクラブでのスポーツ・運動指導

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業以外の時間でも積極的に身体を動かす意欲を持ち、新聞・TV・インターネットなど社会の中での運動、スポーツの情報を取り入れる努力をしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

毎回の講義でその日のレポートを提出してもらいます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス　授業内容、方針、評価の説明など	授業内容や評価について説明を行う
第2週	運動・スポーツと安全	安全に運動・スポーツを実施するための怪我や応急処置について学ぶ
第3週	運動・スポーツと体育	運動、スポーツ、体育の違いについて学ぶ
第4週	運動・スポーツと健康、障害	健康と障害がある状態について学ぶ
第5週	運動・スポーツができるようになる過程を考える	運動・スポーツができるようになるまでの過程を考え学ぶ
第6週	運動・スポーツと心理	運動・スポーツを実施するときの心理やそれらが日常生活に与える影響について学ぶ
第7週	運動・スポーツと自然	運動・スポーツと身の回りの自然の関係性について学ぶ
第8週	スポーツで豊かな人生をおくるために	スポーツを通して豊かな人生を送るためにはどうしたらよいのか学ぶ
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	健康スポーツ学Ｂ（体育実技）〔前期〕						
担当教員	大宮　真一／斗澤　由香子	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1512		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

身体活動の意味を理解し、健康維持や体力向上のための基礎知識を得ることを目標とする。有酸素運動、筋力トレーニング、ストレッチ、様々なスポーツなどをバランスよく組み込み、スポーツ活動や日常生活で求められる安全で効率のよい身体活動を身につける。

到達目標

①　日常生活における身体の使い方や姿勢に気づき運動によって心と身体の調子を整える。
②　さまざまな運動の楽しみや喜び、合理的な運動のここちよさを体感する。
③　生涯を通して運動に親しみ、仲間との協力関係作り、健康を守るための素地を作る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
各週毎に記録する自己記録表の提出	30%		
全授業終了後に提出する課題レポート	20%		
個別課題への対応姿勢および集団課題における責任感	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業以外の時間でも、積極的に身体を動かす意欲を持ち、新聞・TV・インターネットなど、社会の中での運動、スポーツの情報を取り入れる努力をする。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実技にふさわしい服装で参加（上靴・ジャージ）。実技を伴う教科なので前日の体調管理には十分気をつけ、規則正しい日常生活を心がけて欲しい。
体調不良時は無理をせず、見学またはレポートで対応。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業全体の説明、アイスブレイクを行う
第2週	レクリエーションゲーム（いろいろな運動）①	レクリエーションゲームを通して学生同士の交流を行う
第3週	レクリエーションゲーム（いろいろな運動）②	レクリエーションゲームを通して学生同士の交流を促進する
第4週	ボールを使った運動（バルシューレ）①	ボールを使った運動の基礎を楽しむ
第5週	ボールを使った運動（バルシューレ）②	ボールを使った運動の応用を楽しむ
第6週	卓球①	卓球の基礎を楽しむ
第7週	卓球②	卓球の応用を楽しむ
第8週	バドミントン①	バドミントンの基礎を楽しむ
第9週	バドミントン②	バドミントンの応用を楽しむ
第10週	ドッジボール①	ドッジボールの基礎を楽しむ
第11週	ドッジボール②	ドッジボールの応用を楽しむ
第12週	バレーボール①	バレーボールの基礎を楽しむ
第13週	バレーボール②	バレーボールの応用を楽しむ
第14週	バスケットボール①	バスケットボールの基礎を楽しむ
第15週	バスケットボール②	バスケットボールの応用を楽しむ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	札幌大谷キャリア支援プログラムＡ-Ⅰ						
担当教員	今　義典	配当年次	１年生	開講期	通年集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1931		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

学生の主体的な個人活動または団体活動を評価し、単位として認定します。本科目は、学部学科をはじめ、社会連携センター及びキャリア支援センターの協力のもと、大学共通科目（キャリア科目）に配置されたアクティブ・ラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。授業科目のＡからＤまでの区分は、次のとおりです。
　札幌大谷キャリア支援プログラムＡ：産学官連携・地域連携活動
　札幌大谷キャリア支援プログラムＢ：学生の主体的な個人活動または団体活動
　札幌大谷キャリア支援プログラムＣ及びＤ：キャリア支援センター等による資格取得・キャリア支援講座・公務員対策講座等
担当教員による事前申請後に開講するプログラムです。プログラムの内容が決定次第、学生ポータルサイトに掲載し、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。内容によっては事前説明会も開催しますので参加してください。

到達目標

授業科目のＡからＤの詳細な内容により到達目標が若干変わりますが、共通の到達目標は、「札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部のディプロマ・ポリシー」に準じます。
①自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができるようになる。
②コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができる。
③専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
○	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力	3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
「成績評価方法・基準」は「授業概要」により異なり			

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『プログラム開始前に担当教員から指示します。』					

参考書等

プログラム開始前に担当教員から指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく、４５時間従事した時間数をもって単位認定します。「授業計画」と同様、「予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間」は、「授業概要」欄に記載された指示に従ってください。	４５時間従事

受講時の注意事項

履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録期間を含め「受講時の注意事項」は、プログラムの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。
注：※通常授業の内容と重複して単位取得することはできません。　　※活動時間数に関わらず、１科目１単位を原則とします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含むアクティブ・ラーニング形式の科目です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	プログラム内容	各プログラムの「授業概要」により内容が異なります。プログラムが決定次第、随時、学生ポータルサイトに掲載するとともに、学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 この授業科目の大まかな流れ・手続きの要領は以下のとおりです。
第2週		
第3週		
第4週		
第5週		
第6週		
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語基礎Ⅰa						
担当教員	石川　希美	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1801		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

読む・聞く・書く・話すの４つの技能全般を指導するが、特に、聞く力と話す力の習得に重点を置く。その中でも、音そのものよりも意味を正確に聞き取り、言いたいことを正確に口頭で伝えるための技能の習得に重点を置く。授業は基本的に以下のように進める。
① 身近な話題や問題に関して、適切に応答したり、自分の意見などを簡潔に説明したりするような、リスニングやスピーキングを重視した様々な言語活動を行う。
② 基本的な語彙・表現についての知識を確認するだけでなく、各自が使い方がわかる、実際に使うことを行う。
③ 回数を追うごとに反復しつつも応用につなげるタスクを取り入れる。

到達目標

① 高校までに習得する基本語彙や基本英語表現を用いて話されたり、書かれたりした文章や会話を理解することができる。
② 英語圏の社会や文化に関する知識を増やす。
③ 大学生の日常生活に関わる様々な事柄について、1人から2人の個人に自分の意見や考えを簡潔かつ正確に表現したり、他の人の意見に質問や適切に返答できる。
④ 適切な言い方がわからない時、既得の知識や技能を活用して、コミュニケーションを円滑に前に進めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。	3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、理解的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験や平常試験	50		
課題・学修状況	30		
授業参加度	20		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『授業内で指定するオンライン教材を購入すること。支払い方法その他は授業で指示する。※1年間利用する』					授業内で指定するオンライン教材を購入する

参考書等

授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習復習は、オンライン教材を用いて学修すること。（学習時間や進捗は教員が把握できる状態にあります）オンライン教材を複数回取り組んだり、ノートにまとめるなど個人が必要な学習を行うことが予習・復習につながります。小テストでは、語句・表現・英文や、授業内容について復習しておくことが求められる。※LMSやGoogle	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

地域社会学科1年生の履修科目です。音楽学科、美術学科は同じタイトルで別の担当教員が実施している科目を履修してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、クラス分けについて	※履修者数が多数の場合には、クラスを複数に分けるかもしれません。
第2週	Unit 1 Listening & 基礎演習	
第3週	Unit 1 Reading & 応用実践	
第4週	Unit 2 Listening & 基礎演習	
第5週	Unit 2 Reading & 応用実践	
第6週	Unit 3 Listening & 基礎演習	
第7週	Unit 3 Reading & 応用実践	
第8週	中間まとめと振り返り	
第9週	Unit 4 Listening & 基礎演習	
第10週	Unit 4 Reading & 応用実践	
第11週	Unit 5 Listening & 基礎演習	
第12週	Unit 5 Reading & 応用実践	
第13週	Unit 6 Listening & 基礎演習	
第14週	Unit 6 Reading ＆応用実践	
第15週	全体のまとめと到達度チェック	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語基礎Ⅰd						
担当教員	赤間　荘太	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1801		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この授業では、英語のダイアローグ（会話文）、コミック、ジョークなどを使用して実践的な用法を学び、英語コミュニケーション能力を身に着けます。また、異文化理解に必要な日本と外国の文化や考え方の違いなども学んでいきます。

到達目標

1. 英語のダイアローグを聞き、簡単な会話文を聞き取れる。
2. 口語表現を学んで発音し、実践的な英会話ができる。
3. コミックやエッセイを読み、英語の文章から内容を読み取ることができる。
4. 異文化を理解して、外国人と円滑なコミュニケーションをとることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
中間試験	25		
期末試験	25		
課題提出（オンライン授業受講）	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Hello New York! / 映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ』	土屋武久、本多吉彦、Braven Smillie	金星堂	2016	978-4-7647-4011-2	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習として、教科書の動画を確認、問題への解答、和訳の作成などをして下さい。復習として、試験に向けて単語や文法などを確認して下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この授業はオンデマンド形式なので、事前に課題を提出して授業動画を視聴することで出席扱いとなります。対面の授業と同様、2/3以上の出席がない場合には試験を受験できませんのでご注意下さい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業および評価方法に関する説明
第2週	Lesson 1	英語ジョークの解説
第3週	Lesson 2	It's So Nice to Meet You!
第4週	Lesson 3	Shaking Hands
第5週	Lesson 4	Is He a Popular Professor?
第6週	Lesson 5	He Showed Me a Way
第7週	Lesson 6	Living with a Host Family
第8週	Lesson 7	For Here or To Go?
第9週	中間試験	オンラインでの中間試験
第10週	Lesson 8	She Is So Beautiful
第11週	Lesson 9	Catching a Cab
第12週	Lesson 10	How Romantic!
第13週	Lesson 11	Online Dating
第14週	Lesson 12	コミックやジョーク画像の和訳
第15週	まとめと期末試験	授業まとめとオンラインでの期末試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語基礎Ⅱa						
担当教員	石川　希美	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1802		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

読む・聞く・書く・話すの４つの技能全般を指導するが、特に、聞く力と話す力の習得に重点を置く。その中でも、音そのものよりも意味を正確に聞き取り、言いたいことを正確に口頭で伝えるための技能の習得に重点を置く。授業は基本的に以下のように進める。
① 身近な話題や問題に関して、適切に応答したり、自分の意見などを簡潔に説明したりするような、リスニングやスピーキングを重視した様々な言語活動を行う。
② 基本的な語彙・表現についての知識を確認するだけでなく、各自が使い方がわかる、実際に使うことを行う。
③ 回数を追うごとに反復しつつも応用につなげるタスクを取り入れる。

到達目標

① 高校までに習得する基本語彙や基本英語表現を用いて話されたり、書かれたりした文章や会話を理解することができる。
② 英語圏の社会や文化に関する知識を増やす。
③ 大学生の日常生活に関わる様々な事柄について、1人から2人の個人に自分の意見や考えを簡潔かつ正確に表現したり、他の人の意見に質問や適切に返答できる。
④ 適切な言い方がわからない時、既得の知識や技能を活用して、コミュニケーションを円滑に前に進めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向け積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、理解的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
試験	50		
課題	30		
授業参加度	20		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『オンライン教材を購入してもらいます。授業内で指示します。』					前期と同じものを使用しますので、前期購入

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習・復習はオンライン教材を学習すること。語句・表現・英文について復習したり、オンライン教材を複数回取り組むなど、各自学習にみあった形で取り組んでいくことが求められる。※LMSやGoogle Classroomを各自適宜確認する習慣をつけること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

社会学部の学生の履修とします。音楽・美術学科の学生は、同じ科目で別の担当者が実施している科目を履修してください。
辞書を持参すること。予習課題や小テストなどのフィードバックはすべて授業内に行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、クラス分けについて	※履修者が多数の場合には、クラスを分けるかもしれません。
第2週	Unit 7 Listening & 基礎演習	
第3週	Unit 7 Reading & 応用実践	
第4週	Unit 8 Listening &基礎演習	
第5週	Unit 8 Reading & 応用実践	
第6週	Unit 9 Listening & 基礎演習	
第7週	Unit 9 Reading & 応用実践	
第8週	中間まとめと振り返り	
第9週	Unit 10 Listening & 基礎演習	
第10週	Unit 10 Reading & 応用実践	
第11週	Unit 11 Listening & 基礎演習	
第12週	Unit 11 Reading & 応用実践	
第13週	Unit 12 Listening & 基礎演習	
第14週	Unit 12 Reading & 応用実践	
第15週	全体のまとめと到達度チェック	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語基礎IId						
担当教員	赤間　荘太	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1802		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この授業では、英語のダイアローグ（会話文）、コミック、ジョークなどを使用して実践的な用法を学び、英語コミュニケーション能力を身に着けます。また、異文化理解に必要な日本と外国の文化や考え方の違いなども学んでいきます。

到達目標

1. 英語のダイアローグを聞き、簡単な会話文を聞き取れる。
2. 口語表現を学んで発音し、実践的な英会話ができる。
3. コミックやエッセイを読み、英語の文章から内容を読み取ることができる。
4. 異文化を理解して、外国人と円滑なコミュニケーションをとることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
中間試験	25		
期末試験	25		
課題提出（オンライン授業受講）	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Hello New York! / 映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ』	土屋武久、本多吉彦、Braven Smillie	金星堂	2016	978-4-7647-4011-2	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習として、教科書の動画を確認、問題への解答、和訳の作成などをして下さい。復習として、試験に向けて単語や文法などを確認して下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この授業はオンデマンド形式なので、事前に課題を提出して授業動画を視聴することで出席扱いとなります。対面の授業と同様、2/3以上の出席がない場合には試験を受験できませんのでご注意下さい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業および評価方法に関する説明
第2週	Lesson 1	I'm Not Feeling Well
第3週	Lesson 2	Travel Insurance
第4週	Lesson 3	Tickets for a Yankees Game
第5週	Lesson 4	What's on the Shopping List?
第6週	Lesson 5	Healthy Diet
第7週	中間試験	オンラインでの中間試験
第8週	Lesson 6	まとめと課題提出
第9週	Lesson 7	MoMA Is Fun
第10週	Lesson 8	The Forth of July Is Coming Up
第11週	Lesson 9	Who Is That Guy?!
第12週	Lesson 10	You're My Best Friend
第13週	Lesson 11	Marriage Age
第14週	Lesson 12	We're Going to Be Late
第15週	まとめと期末試験	授業まとめとオンラインでの期末試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	総合英語A						
担当教員	石川　希美／サイモンズ　クリストファー	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1821		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

Sogo eigo A is a course designed as an introduction to English communication as it is applied to real situations that may be encountered when abroad. Language used to gather information, express desires and react to oral communication will be stressed in this course. Questioning activities will be used as a warm up to introduce weekly topics and a role play conversation to confirm usage in real situations are at the core of the course. Also, a variety of supplemental activities will be provided by the instructor. Also, warm up talk activities will be done weekly in pairs to used common questioning patterns.

到達目標

As an introductory course, confidence building in the use of second language communication is the main objective of this course. Repetition of language functions in pair work exercises will bring about a deeper understanding as well as better recall when in a situation which calls for second language communication is the desired outcome of the class work. Student related themes in the studied texts are meant to give the students a higher motivation to communicate with a goal of expressing themselves and gaining success in their second language ability. A positive and comfortable learning environment for the students is also a goal for this class.

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
Exams	50		
Assignments & Participation	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

Gershon, S., Mares, C.,& Walker, R. "On the Go: English Skills for Gloabal Communication" Pearson Longman, 2003

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
1. Bring necessary things such as dictionaries (apps) and pencils in class. 2. Review what you have learned. 3. Save handouts to review and remember what you have learned.	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

Active participation and a willing attitude will help you learn more.
If a student does not participate and/or disrupt class, she/he will be requested to leave the classroom.
Preparation for exam questions is of the students responsibility and required in the course.

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	Orientation, Asking for personal information	Telling and asking for personal information. Class goals will be discussed.
第2週	Describing and Explaining--Present tense	Topic 1 Friends & Family
第3週	Describing and Explaining--Present tense, Time, Activity, Location	Topic 2 Daily Schedule
第4週	Describing and Explaining--Where, When, How long, How much, What, etc	Topic 3 City & Experiences
第5週	Describing and Explaining--Past Tense, Present Perfect, Future	Topic 4 Travel
第6週	Describing and Explaining--Transportation, Time, Fare, etc	Topic 5 Locations and Directions
第7週	Review	Review on Week 1-6
第8週	Describing and Explaining--Using adjectives	Topic 6 Personality
第9週	Describing and Explaining--Color, Length, Type, and Build	Topic 7 Physical Description
第10週	Describing and Explaining--Combining what you have learned	Topic 8 Best Friend
第11週	Describing and Explaining--Combining what you have learned	Topic 9 Meeting a partner, Talking about someone you admire
第12週	Suggestions-	Topic 10 Suggestions
第13週	Reacting	Topic 11 Agreeing, Disagreeing and Reacting
第14週	Review	Review on Week 8-13
第15週	Achievement Check and Summary	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	総合英語B						
担当教員	石川　希美／サイモンズ　クリストファー	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1822		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

Sogo eigo B is a course designed as an introduction to English communication as it is applied to real situations that may be encountered when abroad. Language used to gather information, express desires and react to oral communication will be stressed in this course. Questioning activities will be used as a warm up to introduce weekly topics and a role play conversation to confirm usage in real situations are at the core of the course. Also, a variety of supplemental activities will be provided by the instructor. Also, warm up talk activities will be done weekly in pairs to used common questioning patterns.

到達目標

As an introductory course, confidence building in the use of second language communication is the main objective of this course. Repetition of language functions in pair work exersises will bring about a deeper understanding as well as better recall when in a situation which calls for second language communication is the desired outcome of the class work. Student related themes in the studied texts are meant to give the students a higher motivation to communicate with a goal of expressing themselves and gaining success in their second language ability. A positive and comfortable learning enviornment for the students is also a goal for this class.

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
Exams	50		
Assignment and participation	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

Gershon, S., Mares, C.,& Walker, R. "On the Go: English Skills for Gloabal Communication" Pearson Longman, 2003

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
1. Bring necessary things such as dictionaries (apps) and pencils in class. 2. Review what you have learned. 3. Save handouts to review and remember what you have learned.	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

Active participation and willing attitude will help you learn more.
*** If a student does not participate and/or disrupt class, she/he will be requested to leave the classroom.
Preparation for exam questions is of the students responsibility and required in the course.

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	Orientation, Talking about your experience	Introduction to classmates. Telling and asking for personal information. Class goals will be discussed.
第2週	Describing & Interview	Topic 1 Learning Style
第3週	Interview & Listening	Topic 2 Festivals
第4週	Describing & Interview	Topic 3 Experience
第5週	Interview & Listening	Topic 4 Sightseeing
第6週	Describing & Interview	Topic 5 Holidays
第7週	Review	Review on Week 1-6
第8週	Describing & Interview	Topic 6 Shopping
第9週	Interview & Listening	Topic 7 Part-time Jobs
第10週	Describing & Interview	Topic 8 Career
第11週	Interview & Listening	Topic 9 Travel & Airport
第12週	Describing & Interview	Topic 10 Travel Overseas
第13週	Interview & Listening	Topic 11 Impressions
第14週	Review	Review on Week 8-13
第15週	Achievement Check and Summary	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	イタリア語基礎Ⅰ						
担当教員	ペッリカノ・エリーザ・イヴァーナ	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1881		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この講義では、イタリア語の基礎文法を身につけることを目的とします。
イタリア語の文の構造、名詞の性別・数、動詞の基礎的な活用を理解し、使いこなせるようになり、イタリア語で簡単な表現を知る。

到達目標

1．コミュニケーションを目的としたイタリア語文法の修得。
2．イタリア語で簡単な文章を読み、内容の要点を理解する事ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観（個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（課題提出回数で計算します。課題の出来栄え	60%		
授業内試験	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

水野留規、キアラ=ザンボルリン『モザイコー体験しよう、イタリア語文法（文法と読み物）』朝日出版社(2008)
マッテオ・カスターニャ、吉富文『イタリアーノ・イタリアーノーイタリア語　はじめの一歩ー』朝日出版社（2015）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回出される課題をこまめに行い、毎回復習をすること。授業内に出てくる単語を自主的にまとめ、勉強すること。 イタリア語の基礎文法は暗記が必要です。特に動詞の活用はよく覚えるようにしましょう。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	イタリア語の書き方・発音 文の構造 数字
第2週	名詞	課題のフィードバック 名詞の性別 名詞の数
第3週	定冠詞と不定冠詞	課題のフィードバック 不定冠詞の性別、数 定冠詞の性別、数
第4週	形容詞	課題のフィードバック 一般形容詞と名詞の合わせ方 形容詞の位置
第5週	指示形容詞と指示代名詞	課題のフィードバック 指示形容詞と指示代名詞questo 指示形容詞と指示代名詞quello
第6週	essere動詞の現在形	課題のフィードバック 主語と人称代名詞 essere動詞の現在形
第7週	avere動詞の現在形	課題のフィードバック avere動詞の現在形 esserciの現在形
第8週	前置詞di,a	課題のフィードバック 前置詞diの使い方 前置詞aの使い方
第9週	前置詞と疑問詞	課題のフィードバック 単純前置詞と複合前置詞 前置詞の使い分け
第10週	所有形容	課題のフィードバック 所有形容詞の単数形 所有形容詞の複数形
第11週	-are動詞の現在形	課題のフィードバック essereとavereの現在形の復習 -are規則動詞の活用
第12週	-ere動詞の現在形	課題のフィードバック -ere規則動詞の活用
第13週	-ire動詞の現在形	課題のフィードバック -ire規則動詞の活用
第14週	総合復習	授業内試験に向けたQ&A（生徒から募集した文法の質問に答える）
第15週	授業内試験	課題のフィードバック 授業内試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	イタリア語基礎Ⅱ						
担当教員	ペッリカノ・エリーザ・イヴァーナ	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1882		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この講義では、イタリア語の基礎文法を身につけることを目的とします。
イタリア語の時制、補助動詞、人称代名詞などの使い方を理解し、使いこなせるようになり、イタリア語で簡単な表現を知る。

到達目標

1．コミュニケーションを目的としたイタリア語文法の修得。
2．イタリア語で簡単な文章を読み、内容の要点を理解する事ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（課題提出回数で計算します。課題の出来栄え	60%		
授業内試験	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

水野留規、キアラ=ザンボルリン『モザイコー体験しよう、イタリア語文法（文法と読み物）』朝日出版社(2008)
マッテオ・カスターニャ、吉富文『イタリアーノ・イタリアーノーイタリア語　はじめの一歩ー』朝日出版社（2015）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回出された課題をこまめに行い、毎回復習をすること。授業内に出てくる単語を自主的にまとめ、勉強すること。 イタリア語の基礎文法は暗記が必要です。特に動詞の活用はよく覚えるようにしましょう。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	講義の紹介 イタリア語基礎Ⅰで扱った文法の復習
第2週	不規則動詞	課題のフィードバック 現在形の不規則動詞
第3週	再帰動詞	課題のフィードバック 再帰動詞 直接代名詞、間接代名詞、再帰代名詞の使い分け
第4週	好き・嫌い	課題のフィードバック 「mi piace」の構造 「mi piace」と「preferisco」の違い
第5週	人称代名詞（2)直接代名詞	課題のフィードバック 直接代名詞 直接代名詞と間接代名詞の使い分け
第6週	人称代名詞（1）間接代名詞	課題のフィードバック 人称代名詞 間接代名詞
第7週	gerundioと現在進行系	課題のフィードバック gerundioの活用 現在進行系
第8週	補助動詞	課題のフィードバック 補助動詞の概念 補助動詞potere、dovere、sapere、volereの活用
第9週	近過去（1）助動詞avereを取る動詞	課題のフィードバック 近過去の概念 過去分詞
第10週	近過去（2）助動詞essereを取る動詞	課題のフィードバック 近過去の活用 過去分詞の不規則変化
第11週	半過去	課題のフィードバック 半過去の活用
第12週	時制（1）現在形	課題のフィードバック 現在形と現在進行系の違い 未来について話すための現在形
第13週	時制（2）近過去と半過去の違い	課題のフィードバック 近過去と半過去の違い
第14週	総合復習	授業内試験に向けたQ&A（生徒から募集した文法の質問に答える）
第15週	まとめと授業内試験	課題のフィードバック 授業内試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ドイツ語基礎Ⅰ						
担当教員	荻原　達夫	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1891		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

ドイツ語の初歩的な文法を習得し、日常的なコミュニケーションのための基礎づくりをします。最終的にはドイツ語技能検定（独検）5 級程度の文法知識をカバーする予定です。感覚的にではなく、論理的にことばをとりあつかう練習をします。

到達目標

① 初歩的な文法を習得し、応用することができる。
② 独検5〜4級程度の文法知識を身につける。
③ ことばを論理的にあつかうことに慣れる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観 a 個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題（14 回）	50		
理解度チェック	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『しっかり身につくドイツ語』	橋本政義	三修社	2021	9784384123050	

参考書等

アポロン独和辞典（同学社）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で学んだ文法、単語、表現等を確実に覚えるようにしましょう。確認のため、毎回課題を出すので、かならず十分な時間をかけてとりくんでください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

課題には締切があります。締切後の提出はいかなる理由があってもだめです。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ドイツ語のアルファベット	アルファベットの読み方をおぼえます。英語とはちょっとちがいます。
第2週	ドイツ語特有の文字，発音の原則	ドイツ語特有の文字（Ä，Ö，Ü，ß）の名前や発音をおぼえます。また単語の読み方も勉強しはじめます。
第3週	母音の読み方，子音の読み方①	単語に出てくる母音（a，e，i，o，u；ä，ö，ü）および子音（b，d，g，ch，h）の読み方を勉強します。
第4週	子音の読み方②，あいさつ，人称代名詞	単語に出てくる子音（s，sch，tsch，sp，st，ß，v，w，z）の読み方を勉強します。発音の仕上げとしてドイツ語のあいさつも練習します。 さらに文法にも入り，人称代名詞をすべておぼえます。
第5週	不定詞，基本的な人称変化①	不定詞（動詞の原形）の形と動詞の変化パターンをおぼえて練習します。このあたりからややたいへんです。
第6週	基本的な人称変化②，名詞の大文字書き	前回にひきつづき変化の練習です。また名詞を書くときの大切な決まりをおぼえます。
第7週	arbeiten，reisen の人称変化	動詞の変化パターンのうち，注意すべきものをとくに 2 つおぼえて練習します。
第8週	sein，haben の人称変化	重要な動詞が出てきます。これをおぼえないとどうにもなりません。
第9週	語順、疑問文、疑問詞	文を組み立てるときのルールをおぼえて練習します。あわせて疑問文の作り方もおぼえます。
第10週	名詞の性，定冠詞	名詞の性別について理解し，この性別に合わせて冠詞の形が変わることをおぼえます。おぼえることが急にふえるのであわてないようにしましょう。
第11週	不定冠詞，格，格変化，4 格	前回にひきつづき，名詞の性別と冠詞の変化について学習します。今回はさらに名詞の格および冠詞の格変化についても理解を深めます。
第12週	名詞と冠詞の 3 格	名詞の格のひとつである 3 格を勉強し，冠詞をこれに合わせて変化させる練習をします。
第13週	名詞と冠詞の 2 格	今回は 2 格を練習します。
第14週	名詞の複数形	名詞の複数形を勉強します。英語とだいぶちがいます。
第15週	理解度チェック	ドイツ語基礎 I の学習内容をどれくらい理解しているかチェックします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ドイツ語基礎II						
担当教員	荻原　達夫	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1892		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、日常的なコミュニケーションのための下地づくりをします。最終的にはドイツ語技能検定（独検）4 級程度の文法知識をカバーする予定です。感覚的にではなく、論理的にことばをとりあつかう練習をします。

到達目標

① 基礎的な文法を習得し、応用することができる。
② 独検4〜3級程度の文法知識を身につける。
③ ことばを論理的にあつかうことに慣れる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観 a 個性を尊重し、若に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題（15回）	100		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『しっかり身につくドイツ語』	橋本政義	三修社	2021	9784384123050	

参考書等

アポロン独和辞典（同学社）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で学んだ文法、単語、表現等を確実に覚えるようにしましょう。確認のため、毎回課題を出すので、かならず十分な時間をかけてとりくんでください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

課題は締切厳守です。締切後の提出はいかなる理由があっても認めません。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	数詞 0〜20	ドイツ語の数詞を学習します．今回は 0〜20 です． 数詞にむずかしい変化や理屈はありません．発音や言い方のパターンを覚えてしまえばなんとかなります．がんばって覚えていきましょう．ついでに数詞を使った足し算・引き算の言い方
第2週	数詞 21〜99，100，1000，値段の言い方	前回にひきつづき，数詞を学習します．今回は 21 以上の数詞です． ドイツ語の数詞は 21〜99 の言い方にちょっとくせがあります．最初のうちはそのくせを意識しておぼえるようにしましょう．
第3週	不規則変化動詞（1），sie と Sie	動詞の新しい変化を学習します．これまで見てきた動詞は ich komme du kommst
第4週	不規則変化動詞（2）	前回にひきつづき，今回も不規則変化動詞を勉強します．前回見た不規則変化動詞は ich fahre du fährst
第5週	werden と wissen，前つづり	今回は werden と wissen の変化，前つづりがテーマです． ドイツ語の動詞には不規則に変化するものがありましたが，werden と wissen のその一つです．ただし，変化がやや変則的なので，ここで一つずつ勉強しておきます．
第6週	分離動詞，非分離動詞	今回は分離動詞，非分離動詞をとりあげます． 前回の授業で「前つづり」というものが出てきましたが，今回はその前つづりがついた動詞の使い方を見ていきます．ポイントは
第7週	命令形	命令形を勉強します． 命令形は命令文を作るときに使う形です．命令なので命令される相手がいないといけません．この場合，相手というのは
第8週	人称代名詞の 4 格と 3 格	人称代名詞の 4 格と 3 格を勉強します． 人称代名詞はいままでにも出てきています．たとえば Ich lerne Deutsch.
第9週	名詞を受ける人称代名詞	前回にひきつづき，人称代名詞を学習します．今回のテーマは名詞を受ける人称代名詞です． 3 人称の人称代名詞 er，sie，es，sie が「彼，彼女，それ，彼ら」という意味で使われることはすでに学びましたが，この4つにはこれ以外の使い方があります．たとえば
第10週	人称代名詞の語順	今回のテーマは人称代名詞の語順です． 前回の授業で「名詞 > 人称代名詞」という置きかえを学習しました．今回はこうして置きかえた人称代名詞の配置方法を紹介します．
第11週	前置詞（1）	今回のテーマは前置詞です． 前置詞というのは in Berlin「ベルリンに」
第12週	前置詞（2）	前回にひきつづき前置詞を勉強します．前回のポイントは「格支配」でした．たとえば mit という前置詞はかならず 3 格とむすびつき，それ以外の格，たとえば 4 格とはむすびつきません．
第13週	所有冠詞，否定冠詞	所有冠詞，否定冠詞を学習します． どちらも「冠詞」とついていることからわかるように，名詞の前に置いて使います． 所有冠詞というのはその名のとおり，「だれそれの」という意味を表す冠詞です．たとえば：
第14週	時刻表現	時刻表現を学習します． ドイツ語で時刻をいうのは数字さえ言えればかなりかんたんです．たとえば2時10分だったら zwei Uhr zehn
第15週	理解度チェック	ドイツ語基礎 II の学習内容をどれくらい理解しているかチェックします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	フランス語基礎Ⅰ						
担当教員	大小田　重夫	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1871		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

簡単な会話の発音、聴き取り、そこで使われている文法の学習をとおして、フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を身につける。会話文の発音と聴き取り練習、文法説明、フランス語の会話文の日本語訳、新たな語彙の発音と暗記を行います。

到達目標

カフェでの注文、ホテルのフロントでの会話などを題材として、フランスを初めて旅するのに最低限必要なコミュニケーションができるようになることを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
各講義ごとの提出課題の評価（４段階評価）	50%		
学期末の定期試験（対面）	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『クロワッサン　基礎からわかるフランス語』	松村博史、バンドロム・エディ	朝日出版社	2016	9784255352602	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
復習として教科書の音声を繰り返し聴く。テレビやラジオの講座も積極的に利用して学習すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

オンデマンド方式のビデオ学習の講義となりますが、学期末に対面での筆記試験を実施します。各講義ごとに課題の提出があります。課題は毎回４段階で評価をつけて、次回の講義動画で解答と解説を行います。課題の未提出（欠席）が６回以上で、期末試験の受験資格を失います。積極的な授業参加を希望します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	つづりと発音のルール①	アルファベットの文字の読み方、つづり記号について学ぶ。
第2週	つづりと発音のルール②	複母音の発音、子音の発音を学ぶ。
第3週	あいさつ、お礼・お詫びの表現①	あいさつ、お礼・お詫びの表現を実際に発音してみる。表現の中に出てくる人称代名詞を覚える。
第4週	あいさつ、お礼・お詫びの表現②	あいさつ、お礼・お詫びの表現を発音して覚える。数詞（１－20）を発音して覚える。
第5週	カフェでの会話①	フランス語の名詞が男性名詞・女性名詞に区別されることを知る。また性に合わせて冠詞の形が異なることを理解する。
第6週	カフェでの会話②	不定冠詞と定冠詞の用法を理解し、それぞれの形を覚える。
第7週	好き嫌いをたずねる①	第１群規則動詞の活用を覚える。
第8週	好き嫌いをたずねる②	否定文のつくり方を学ぶ。様々な否定表現について学ぶ。
第9週	ブティックでの会話①	動詞 être、avoir の使い方を学び、活用を覚える。職業と国籍をたずねる会話をする。
第10週	ブティックでの会話②	「この（その、あの）」を意味する指示形容詞を学ぶ。数詞（20－60）を発音して、覚える。
第11週	人や物について語る①	形容詞の位置、修飾する名詞の性と数に応じた語尾変化について学ぶ。
第12週	人や物について語る②	形容詞の不規則な語尾変化について学ぶ。
第13週	人や物について語る③	時間の表現、国名と国籍の表現を学ぶ。
第14週	誕生日のパーティーについて語る①	動詞 aller（行く）、venir（来る）の活用を覚える。前置詞と定冠詞の縮約形を覚える。
第15週	誕生日のパーティーについて語る②	動詞 aller、venir の用法として、近接過去（近い過去）と近い未来（近接未来）の作り方を学ぶ。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	フランス語基礎Ⅱ						
担当教員	大小田　重夫	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1872		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

簡単な会話の発音、聴き取り、そこで使われている文法の学習をとおして、フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を身につける。会話文の発音と聴き取り練習、文法説明、フランス語の会話文の日本語訳、新たな語彙の発音と暗記を行います。

到達目標

カフェでの注文、ホテルのフロントでの会話などを題材として、フランスを初めて旅するのに最低限必要なコミュニケーションができるようになることを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
各講義ごとの提出課題の評価（４段階評価）	50%		
学期末の定期試験（対面）	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『クロワッサン　基礎からわかるフランス語』	松村博史、バンドロム・エディ	朝日出版社	2016	9784255352602	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
復習として教科書の音声を繰り返し聴く。テレビやラジオの講座も積極的に利用して学習すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

オンデマンド方式のビデオ学習の講義となりますが、学期末に対面での筆記試験を実施します。各講義ごとに課題の提出があります。課題は毎回４段階で評価をつけて、次回の講義動画で解答と解説を行います。課題の未提出（欠席）が６回以上で、期末試験の受験資格を失います。積極的な授業参加を希望します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ホテルのフロントでの会話①	三通りの疑問文の作り方を学ぶ。さまざまな前置詞について学ぶ。
第2週	ホテルのフロントでの会話②	所有形容詞（私の～、あなたの～）の用法を学ぶ。所有形容詞を使って自分の家族の誰かを紹介する。
第3週	アルバイトについて語る①	-ir動詞の活用と用法を覚える。数詞（60－）を発音して覚える。
第4週	アルバイトについて語る②	命令形の作り方を学ぶ。命令形を使って道順を教える。
第5週	理由をたずねる①	様々な疑問詞について学び、疑問文を作ってみる。
第6週	理由をたずねる②	動詞 faire、prendre の用法を学び、活用を覚える。
第7週	理由をたずねる③	パン屋での会話を練習する。ユーロの使い方を学ぶ。
第8週	過去のことを語る①	助動詞として avoir を使う複合過去の作り方を学ぶ。
第9週	過去のことを語る②	助動詞として être を使う複合過去の作り方を学ぶ。過去にしたことについて会話する。
第10週	過去のことを語る③	過去を表す表現を学び、過去にしたことについて会話する。
第11週	列車に乗る①	動詞 vouloir、pouvoir、devoir の用法を学び、活用を覚える。電話での簡単な会話をする。
第12週	列車に乗る②	疑問形容詞 quel （どの、どんな～）の用法を学び、性数変化を覚える。住居に関する語彙を学ぶ。
第13週	比較して語る①	比較級と最上級の文の作り方を学ぶ。
第14週	比較して語る②	フランス入国を想定した空港での会話の練習をする。旅行に関する語彙を学ぶ。
第15週	総合問題（まとめ）	フランス語検定５級の問題を解答する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	中国語基礎Ⅰ						
担当教員	藤野　陽平	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1861		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

本授業は、中国語入門という位置付けとして、次の事項について学びます。1ローマ字発音表記であるピンイ ン(母音、子音、声調)の仕組みと発音方法を学ぶことを通じて、自然な発音を身につけます。2簡単な挨拶文 や基本的な文型を学び、それにかかわる文法について説明します。3一定量の単語を扱い、語彙力を高め、簡 単な会話ができるようになるために準備します。

到達目標

ピンインの読み書きや発音をしっかり身につけ、基本的な文法構造が理解できるようになります。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観 n 個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回の課題の評価から総合的に判断します	100		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『ライト版 中国語でコミュニケー ション』	沈国威 監修/氷野善寛 /小嶋美由紀 /海暁芳 /紅粉芳惠 /阿部慎太郎 共著	朝日出版	2022	978-4-255-45355-2	

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習：該当配布資料(テキスト)の内容について繰り返し音読した上で、疑問点等について事前に整理し、調べておくようにしましょう(所要時間30分)。 復習：既に習った配布資料(テキスト)の内容について繰り返し音読し、文法などを的確に理解しているかどうか確	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

可能な限り毎回課題を提出して各自大きな声で発音練習をすること。そして、積極的に質問やコメントをすること。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	中国語を学ぶ前に知っておくべきことについて
第2週	発音(1)	母音と声調
第3週	発音(2)	子音
第4週	発音(3)	鼻母音と声調の変化
第5週	発音のまとめ	(復習と応用練習)
第6週	第1課 単語と文法	人称代名詞、動詞「是」、副詞「也」・「都」
第7週	第1課 本文と練習	名前の言い方、出身地の言い方
第8週	第2課 単語と文法	動詞術語文、代名詞、疑問詞疑問文
第9週	第2課 本文と練習	所属、専攻の言い方
第10週	第3課 単語と文法	方位詞、名詞述語文、変化の「了」
第11週	第3課 本文と練習	家族や友達の紹介、年齢の言い方
第12週	第4課 単語と文法	前置詞、連動文、反復疑問文、時間の言い方
第13週	第4課 本文と練習	待ち合わせ
第14週	第5課 単語と文法	選択疑問文、助動詞「想」・「要」、省略疑問文、量詞
第15週	第5課 本文と練習	レストランで
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	中国語基礎II						
担当教員	藤野　陽平	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1862		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

前期に引き続き、後期でも中国語の基本的な知識を習得することを目的に授業を展開していきます。まず、語 彙力を高めます。次に、発音は無論、基本的な文型を踏まえつつ、前置詞、副詞、助詞等の使い方を学び、さらには比較表現、使役表現、受け身表現などについても触れることを通じて、より複雑な文章が読めるようにしま す。最終的には、「聞く、話す、読む、書く」能力を一定程度身につけることを目指します。

到達目標

1基本的な文法を習得し、複雑な文章を読むことができるようになります。 2語彙を増やしつつ、基礎的な会話能力を養っていくことができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観 a 個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回の課題の評価から総合的に判断します	100		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『ライト版 中国語でコミュニケー ション』』	沈国威 監修/氷野善寛 /小嶋美由紀 /海暁芳 /紅粉芳惠 /阿部慎太郎 共著	朝日出版社	2022	978-4-255-45355-2	

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習：該当配布資料(テキスト)の内容について繰り返し音読した上で、疑問点等について事前に整理し、調べておくようにしましょう(所要時間45分)。 復習：既に習った配布資料(テキスト)の内容について繰り返し音読し、文法などを的確に理解しているかどうか確	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

可能な限り毎回課題を提出して各自大きな声で発音練習をすること。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	中国語を学ぶ前に知っておくべきことについて
第2週	前期授業で取り上げた基本文型の復習	
第3週	第6課 単語と文法	形容詞述語文、比較、できる系助動詞、100以上の数字
第4週	第6課 本文と練習	買い物をする
第5週	第7課 単語と文法	時点と時量、前置詞「从」・「到」・「离」、結果補語、方位詞
第6週	第7課 本文と練習	道案内
第7週	第8課 単語と文法	完了の「了」、様態補語、二重目的をとる動詞
第8週	第8課 本文と練習	興味があること、できることとできないこと
第9週	第9課 単語と文法	進行の表現、経験の「过」、主述述語文、前置詞「对」・「给」・「跟」
第10週	第9課 本文と練習	旅行の計画
第11週	第10課 単語と文法	「是～的」構文、可能性の「会」、「一点儿」と「有点儿」
第12週	第10課 本文と練習	病院で
第13週	第11課 単語と文法	「把」構文、助動詞「得」、受身文
第14週	第11課 本文と練習	トラブル対応
第15週	全体のまとめ	復習と応用練習
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	映像制作演習Ⅰ						
担当教員	大黒　淳一／小町谷　圭／小山　隼平／門間　友佑	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 1201		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

①音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
②異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③異なる分野の学生との意思疎通をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
○	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力	3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の審査	40%	今後への提案	6%
積極性	15%		
担当業務	15%		
授業外学修	12%		
分析と自己評価	12%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
台本や絵コンテの制作、撮影、作曲など作品制作にかかわる諸作業。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の受け方、単位の根拠、評価基準等の説明
第2週	企画の提案	企画の提案と決定
第3週	企画会議①	グループの編成
第4週	企画会議②	内容の検討
第5週	企画会議③	内容の決定
第6週	制作準備	作業スケジュールの作成、広報業務の分担
第7週	グループごとの制作①	プロットの決定
第8週	グループごとの制作②	台本、絵コンテの制作
第9週	グループごとの制作③	前半部分の撮影
第10週	グループごとの制作④	中間部の撮影、編集
第11週	グループごとの制作⑤	後半の撮影、編集、作曲
第12週	グループごとの制作⑥	すり合わせ
第13週	試写	初号試写、修正作業
第14週	仕上げ	作品の仕上げと発表当日業務の確認・分担
第15週	発表	研究発表（学外公開とするか授業内公開とするかは授業内で決定する）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	映像制作演習II						
担当教員	大黒　淳一／小町谷　圭／小山　隼平／ 門間　友佑	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 1202		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

①音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
②異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③異なる分野の学生との意思疎通をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の審査	40%	今後への提案	6%
積極性	15%		
担当業務	15%		
授業外学修	12%		
分析と自己評価	12%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
台本や絵コンテの制作、撮影、作曲など作品制作にかかわる諸作業。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。また、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は履修者の習熟度や制作物に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の受け方、単位の根拠、評価基準等の説明
第2週	企画の提案	企画の提案と決定
第3週	企画会議①	グループの編成
第4週	企画会議②	内容の検討
第5週	企画会議③	内容の決定
第6週	制作準備	作業スケジュールの作成、広報業務の分担
第7週	グループごとの制作①	プロットの決定
第8週	グループごとの制作②	台本、絵コンテの制作
第9週	グループごとの制作③	前半部分の撮影
第10週	グループごとの制作④	中間部の撮影、編集
第11週	グループごとの制作⑤	後半の撮影、編集、作曲
第12週	グループごとの制作⑥	すり合わせ
第13週	試写	初号試写、修正作業
第14週	仕上げ	作品の仕上げと発表当日業務の確認・分担
第15週	発表	研究発表（学外公開とするか授業内公開とするかは授業内で決定する）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽概論Ａ						
担当教員	小山　隼平	配当年次	１年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

楽典、音響学、楽器学等の各分野で、音楽の実践にとって必要な基礎知識を身につける。

到達目標

①楽典と楽器についての基礎的な知識を身につけ、音楽について考えることができる。
②物理現象としての音、各種音律の原理と問題点、楽器・声の構造等の基礎原理が説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
第１週から第7週までの内容に関する試験	50%		
第9週目から第14週目の内容に関するレポート	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『音楽用語の基礎知識』	久保田慶一	アルテス・パブリッシング	2019	4865591990	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、作曲家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業を受ける前に教科書で該当する箇所を予習しておくこと。授業で配付した資料を利用して復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業内の説明で不明な点は、オフィスアワー等を活用して積極的に質問すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、楽典の仕上げ①	音程、音階
第2週	楽典の仕上げ②	音階と旋法、調
第3週	楽典の仕上げ③	リズム、拍子、反復記号
第4週	楽典の仕上げ④	発想記号
第5週	楽典の仕上げ⑤	和音と和声
第6週	物理現象としての音～振動、共鳴、自然倍音	
第7週	音律について	
第8週	第1週から第7週までの授業内試験(中間)とまとめ	
第9週	楽器について①	ピアノ
第10週	楽器について②	声楽
第11週	楽器について③	オーケストラで使われる楽器
第12週	楽器について④	移調楽器
第13週	吹奏楽の歴史	
第14週	楽器の分類について	
第15週	レポート課題について	レポートの書き方やルールについて説明する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽概論Ｂ						
担当教員	小山　隼平	配当年次	１年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

西洋音楽の主な形式、代表的な曲種の構造と歴史についての基礎知識を身に付ける。

到達目標

①西洋音楽の形式を、楽譜から読み取り、聴き取ることが出来るようになる。
②西洋音楽の代表的な曲種（ソナタ、協奏曲、交響曲、ミサ、オペラ等）の構造、特徴が聴き取れるようになる。
③ポピュラー音楽の代表的な特徴が聴き取れるようになる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

	学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
楽式のレポート	40%		
クラシック音楽に関するレポート	30%		
ポピュラー音楽に関するレポート	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『音楽用語の基礎知識』	久保田慶一	アルテス・パブリッシング	2019	4865591990	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、作曲家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業を受ける前に教科書で該当する箇所を予習しておくこと。授業で配付した資料を活用して復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業内の説明で不明な点は、オフィスアワー等を活用して積極的に質問すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、楽式①	動機、楽節、リート形式
第2週	楽式②	ソナタ形式
第3週	楽式③	ロンド形式
第4週	楽式④	カノンとフーガ
第5週	楽式⑤	変奏形式
第6週	クラシック音楽のジャンル①	舞曲と組曲
第7週	クラシック音楽のジャンル②	協奏曲
第8週	クラシック音楽のジャンル③	交響曲とソナタ
第9週	クラシック音楽のジャンル④	オペラ
第10週	クラシック音楽のジャンル⑤	ミサ曲、レクイエム、オラトリオ、受難曲
第11週	ポピュラー音楽のジャンル①	ブラック・ミュージック
第12週	ポピュラー音楽のジャンル②	ジャズ
第13週	ポピュラー音楽のジャンル③	ロック①（1950年代～1970年代）
第14週	ポピュラー音楽のジャンル④	ロック②（1980年代以降）
第15週	ポピュラー音楽のジャンル⑤	EDM
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	作曲・編曲法Ⅰa						
担当教員	谷津　祐子	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1021		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

楽曲を構成する要素を分析し、曲がどのように作られているかを知ることによって、旋律や和音を効果的に用いた作曲・編曲法を学びます。

到達目標

①　曲の構成要素について理解できる。
②　和音を効果的に用いた伴奏付けや編曲ができる。
③　旋律と和音を意図的に用いた作曲ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験	60%		
提出課題	20%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
なるべく多くの曲を鑑賞しておいてください。また、授業外での作曲・編曲を行う必要がある場合はその都度指示します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

五線紙を各自で用意してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	講義内容、講義計画の説明
第2週	楽曲を構成する要素①音階と和音	楽曲を構成する音階と固有和音についての学習
第3週	楽曲を構成する要素②和音の機能	和音の機能についての学習
第4週	楽曲のアナリーゼ	既存の楽曲を用いた和音分析
第5週	和音による簡単な作曲およびアナリーゼ	これまでの学習内容を基にした簡単な作曲および自作の和音分析
第6週	既成の旋律への伴奏付け、編曲およびアナリーゼ	既成の旋律を用いた伴奏付けおよび和音分析
第7週	借用和音①	借用和音についての学習および分析-1
第8週	借用和音②	借用和音についての学習および分析-2
第9週	和音による簡単な作曲およびアナリーゼ	これまでの学習内容を基にした簡単な作曲および自作の和音分析
第10週	その他の和音	変位和音等その他の和音についての学習
第11週	旋律と非和声音①	和音に対する旋律と非和声音についての学習および分析-1
第12週	旋律と非和声音②	和音に対する旋律と非和声音についての学習および分析-2
第13週	総合的なアナリーゼ	既存の楽曲を用いた和音と旋律の分析
第14週	旋律の作曲と伴奏付け、編曲	これまでの学習内容を基にした旋律と和音による簡単な作曲、編曲-1
第15週	旋律の作曲と伴奏付け、編曲／まとめ	これまでの学習内容を基にした旋律と和音による簡単な作曲、編曲-2 全体のまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	作曲・編曲法ⅡＡ						
担当教員	谷津　祐子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1022		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「作曲・編曲法Ⅰ」で学んだ内容を基に、コードネームによる和音進行や様々な音階を学び、意図的な作曲・編曲ができる力を身に付けます。

到達目標

① 「作曲・編曲法Ⅰ」で学習した内容と照合して、表記や用語の相違点や合致点について理解できる。
② コードネームについて理解し、基本的なコードを用いて自由な進行を作ることができる。
③ 和音や旋律の効果を意図した作曲・編曲ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験	60%		
提出課題	20%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
なるべく多くの曲を鑑賞しておいてください。また、授業外での作曲・編曲を行う必要がある場合はその都度指示します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

五線紙を各自で用意してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	講義内容、講義計画の説明
第2週	コードについて①	基本的なコードの構成および表記についての学習-1
第3週	コードについて②	基本的なコードの構成および表記についての学習-2
第4週	コードについて③	応用的なコードの構成および表記についての学習-1
第5週	コードについて④	応用的なコードの構成および表記についての学習-2
第6週	コード進行①	基本的なコード進行についての学習と分析-1
第7週	コード進行②	基本的なコード進行についての学習と分析-2
第8週	コード進行③	基本的なコード進行についての学習と分析-3
第9週	複合的なコード進行を使用した作曲と編曲およびアナリーゼ	これまでの学習内容を基にした簡単な作曲と和音編曲および自作曲の分析
第10週	コード進行④	応用的なコード進行についての学習と分析-1
第11週	コード進行⑤	応用的なコード進行についての学習と分析-2
第12週	コード進行⑥	応用的なコード進行についての学習と分析-3
第13週	複合的なコード進行を使用した作曲と編曲およびアナリーゼ	これまでの学習内容を基にした簡単な作曲と和音編曲および自作曲の分析
第14週	さまざまな音階について	長音階、短音階以外の音階についての学習
第15週	総合的な作曲と編曲およびアナリーゼ／まとめ	旋律と和音を意図的に用いた作曲と編曲および自作曲の分析 全体のまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法概論						
担当教員	高田　由利子	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 1101		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

①　音楽療法についてその歴史や理論的背景を理解する。
②　音楽療法の事例を紹介し、どのような音楽療法が求められるかについて考察する。
③　音楽療法士としての倫理観を理解する。

到達目標

①　音楽療法の理論が理解できる。
②　音楽療法実践についての基礎知識を理解できる。
③　音楽療法士としての必要な倫理観を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題・習得度	40%		
授業内での発表	30%		
学期末レポート	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

『音楽療法入門　III　理論と実践』一麦出版社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本音楽療法学会認定音楽療法士として、臨床、スーパービジョン、教育の経験を２０年以上有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後に学んだことをノートにまとめておくこと 授業最後に次週の予定を伝えるので、それについて調べておくこと	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	シラバスの説明に基づき、音楽療法士になるために、どのような知識が必要となるかについて説明する。
第2週	音楽療法の定義	音楽療法の定義は日本や海外でさまざまな示し方がされている。まずは定義のもつ役割について考え、さまざまな定義を比較しながら、定義を作成する。
第3週	音楽療法の歴史①	太古の時代から20世紀前半までの音楽療法の歴史を海外の文献も含めて学びます。
第4週	音楽療法の歴史②	20世紀後半から現在に至るまでの歴史を海外の文献も含めて学びます。中間レポートの課題について説明します。
第5週	音楽のもつ療法的効果について①	生理的・心理的側面から音楽のもつ役割について学びます。
第6週	音楽のもつ療法的効果について②	社会的側面からコミュニティにおける音楽の役割について学びます。
第7週	音楽療法の倫理	音楽療法士が携える必要のある倫理について学びます。中間レポートのフィードバックを行います。
第8週	音楽療法の実際　児童領域①	発達障がい児の個別音楽療法について事例と文献から学びます。
第9週	音楽療法の実際　児童領域②	発達障がい児の集団音楽療法について事例と文献から学びます。
第10週	音楽療法の実際　精神科領域①	精神科領域の音楽療法について事例と文献から学びます。
第11週	音楽療法の実際　精神科領域②	精神科領域の音楽療法について、活動例を参考とした模擬体験を通して学びます。
第12週	音楽療法の実際　高齢者領域①	認知症高齢者の音楽療法について事例と文献から学びます。
第13週	音楽療法の実際　高齢者領域②	認知症高齢者の音楽療法について、活動例を参考とした模擬体験を通して学びます。
第14週	プレゼンテーション①	要約した論文をスライドにまとめて発表します。質疑応答を含みます。
第15週	プレゼンテーション②	要約した論文をスライドにまとめて発表します。質疑応答を含みます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法の理論						
担当教員	土屋　益子	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 1102		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽療法の定義や歴史などの基礎知識を学びます。また、主な対象領域の実践について、さらに対象者にあった音楽を提供できるように音楽の機能その他について学んでいきます。

到達目標

①音楽療法とは何かが理解できる。
②音楽療法の必要性を理解できる。
③子ども、成人、高齢者の３領域の音楽療法を学び、対象者を理解し支援の方法が習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（筆記）	50%		
授業内レポート	30%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『音楽療法入門　第3版　第1巻』	W.B.デイビス（編集），栗林 文雄（翻訳）	一麦出版社	2015年	4863250789	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

児童発達支援センターにて実践中。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
教科書を元に、授業計画にしたがって講義内容をノートにまとめてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

音楽療法を学ぶ上で基礎となる科目である。テキスト、配布資料は繰り返し読むことで、着実に理解をして授業に臨んでください。授業内に実施した小テストのフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業内容、授業目的、授業計画、評価方法等を説明します。
第2週	音楽療法の定義	音楽療法士の数だけあると言われている、様々な音楽療法の定義について学びます。
第3週	音楽療法の歴史①（外国）	外国の音楽療法の歴史について学びます。
第4週	音楽療法の歴史②（日本）	日本の音楽療法の歴史について学びます。
第5週	音楽の機能①	音楽にどのような機能があるのかを学びます。
第6週	音楽の機能②	音楽にどのような機能があるのかを学びます。
第7週	音楽療法のプロセス①	音楽療法を実践するまでに、どのようなプロセスがあるのかについて学びます。
第8週	音楽療法のプロセス②	音楽療法を実践するまでに、どのようなプロセスがあるのかについて学びます。
第9週	音楽療法のテクニック	音楽療法にはどのようなテクニックがあるのかについて学びます。
第10週	音楽活動の役割	歌唱や合奏など、それぞれの音楽療法の活動にどのような意義や効果があるのかについて学びます。
第11週	高齢者領域の音楽療法	高齢者領域の音楽療法について学びます。
第12週	障害児（者）領域の音楽療法	障害児（者）領域の音楽療法について学びます。
第13週	精神科領域の音楽療法	精神科領域の音楽療法について学びます。
第14週	他領域の音楽療法	第11～13週までに学んだ領域の他の領域の音楽療法について学びます。
第15週	授業内試験（筆記）とまとめ	筆記試験を行います。 授業の総括をいたします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法の技法						
担当教員	高田　由利子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 1103		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音・音楽を治療に利用するとはどういうことでしょうか。この授業では、音楽のもつ生理的、心理的、社会的作用を理解するとともに、対象者にあった音・音楽の基本的な使い方について学びます。また、対人援助としての音楽の役割について考えます。

到達目標

①　音楽療法における治療構造を理解できる。
②　音楽療法に必要な技法を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題レポート	50%		
授業内発表	30%		
授業参加態度	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配布します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本音楽療法学会認定音楽療法士として、臨床、スーパービジョン、教育の経験を２０年以上有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で学んだことをノートにまとめること。次回の内容をお伝えしますので、その内容について事前に調べておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	シラバスの説明に基づき、音楽療法士になるための技術や知識について、より実践的な知識を学ぶことについて説明する。
第2週	対人援助	対人援助職としての他の職種と比較をしながら、音楽を扱う対人援助者としての音楽療法士の特性について学ぶ。
第3週	音楽療法の治療プロセス	音楽療法のプロセスにおいて必要な、「査定」「実践」「評価」について学ぶ。
第4週	音楽療法における治療構造	音楽療法の実践をするための必要な手続きについて学ぶ。
第5週	能動的音楽療法と受動的音楽療法の方法	能動的音楽療法と受動的音楽療法のアプローチを知り、それぞれの治療的な意味について学ぶ。
第6週	集団音楽療法の形態	集団音楽療法を実施するときに必要な技術や知識について学ぶ。とくに集団力動について知識と体験を通して学ぶ。
第7週	個人音楽療法の形態	個人音楽療法を実施するときに必要な技術や知識について学ぶ。とくに即興的なアプローチについて知識と体験を通して学ぶ。
第8週	音楽療法が生理面に与える影響	音楽療法が生理面に与える影響について、文献に基づいて学ぶ。
第9週	音楽療法が心理面に与える影響	音楽療法が心理面に与える影響について、文献に基づいて学ぶ。
第10週	音楽療法が社会面に与える影響	音楽療法が社会やコミュニティに与える影響について、文献に基づいて学ぶ。
第11週	中間発表・講評	音楽療法に関する文献を要約し、発表する。
第12週	音楽療法で用いる楽曲の使い方	音楽療法で用いる楽曲を紹介し、実際の演奏体験を通して、音楽のもつ療法的な効果について学ぶ。
第13週	音楽療法で用いる楽器の使い方	音楽療法で用いる楽器を紹介し、実際に楽器に触れる体験を通して、楽器を療法的に使う方法について学ぶ。
第14週	音楽療法士の役割	医療や福祉施設における音楽療法士の仕事についての理解を深めながら音楽療法士の社会における役割について学ぶ。
第15週	最終課題・講評	音楽療法に関する文献を要約し、スライドにまとめて発表する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	コードプログレッションＡ						
担当教員	小山　隼平	配当年次	１年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1053		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

コードプログレッション（和声進行）について学びます。
ホモフォニーのもっとも重要な構成原理の１つがコードプログレッションです。
これについて理解を深めることで、作曲や編曲、即興演奏の可能性をさらに拡げることができます。
この科目では、基礎的な考え方を、実際の楽曲を通して身につけます。

到達目標

①スケール（音階）とコード（和声）の関係を理解することができる。
②トニックコード、ドミナントコード、サブドミナントコードの機能を理解することができる。
③簡易なコードプログレッションを自分で作ることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
最終課題	40%		
各回の課題	40%		
課題の取り組み状況	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
スケール(音階)と音程を理解していることが、基本になりますので、確実に覚えましょう。その上で、授業内で指示された課題に取り組んでください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業内での音名は英語を用います。その他の用語も、原則として英語をベースにしたものを用います。また、入試レベルの楽典を理解している前提で授業を進めます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要の説明と楽典の確認
第2週	ダイアトニック・コード	
第3週	ナチュラル・マイナー・スケールとハーモニック・マイナー・スケール	
第4週	第３週の課題のフィードバック	
第5週	セブンス・コードとナインス・コード	
第6週	第５週の課題のフィードバック	
第7週	コードの機能とケイデンス	
第8週	第７週の課題のフィードバック	ドリアンの６度、フリジアンの２度、ピカルディの３度
第9週	セカンダリー・ドミナント	リディアンの４度、ミクソリディアンの７度、パラレル・キーからの借用
第10週	第９週の課題のフィードバック	
第11週	サブスティテュート・ドミナント・コード	
第12週	第１１週の課題のフィードバック	
第13週	ペダルポイント	
第14週	第１３週の課題のフィードバック	
第15週	全体のまとめと最終課題	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	コードプログレッションB						
担当教員	小山　隼平	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1054		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

キーボードハーモニーとリハーモナイズについて学びます。
適切なヴォイシングは、自然なコード進行を作る上で重要です。
また、リハーモナイズの方法を身につけることで、作曲や編曲、即興演奏に役立てることができます。

到達目標

①リハーモナイズができる。
②鍵盤上で、適切なヴォイシングでコードを弾くことができる。
③基本形と転回形の違いを理解し、正しくベースを配置できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
最終課題	40%		
各回の課題	40%		
課題の取り組み状況	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
五線紙上での理論の学修に加えて、鍵盤等を利用し、音をイメージしながらの実習が求められます。授業で配付した資料を参考にして、練習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

「即興演奏A～F」につながる内容を扱うので、事前にこの科目を履修しておくことが望ましいです。また、「コードプログレッションA」の内容を踏まえた学修が主となります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の進め方についての説明とコードプログレッションAの内容の確認
第2週	モーダル・インターチェンジ	
第3週	第２週の課題のフィードバック	
第4週	ピヴォット・コードを用いた転調	
第5週	第４週の課題のフィードバック	
第6週	その他の転調	
第7週	第６週の課題のフィードバック	
第8週	リハーモナイズ	
第9週	第８週の課題のフィードバック	
第10週	ワン・ノートのみのメロディーに対するハーモナイズ	
第11週	第１０週の課題のフィードバック	
第12週	実例の分析	
第13週	第１２週の課題のフィードバック	
第14週	最終課題	
第15週	最終課題のフィードバック	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	器楽合奏Ⅰ（吹奏楽・オーケストラ）						
担当教員	大隅　雅人／河野　泰幸	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1211		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合奏を通して演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な基本的奏法を身につけるとともに、アンサンブルの技能を高める。
演奏会実現に向けて様々な役割を担いプロの演奏家、及び吹奏楽指導者としての能力を学んでいく。

到達目標

楽曲に合った奏法を身につけるとともにアンサンブルの重要性を理解する。
演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要なスキルを身につけ、様々なコンサートなどでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏発表及び特別練習に参加する為にしっかりと準備	50%		
合奏に必要な基本的奏法がなされているか	30%		
楽曲分析や演奏表現をしっかりと取り組めているか	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

演奏家としての実務経験(オーケストラ活動)のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までにしっかりと譜読みをし、更に音楽的な表現ができるレベルまで練習を重ねる。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れですが、コンサートに向けて授業科目別の計画は変更が考えられます。
その場合は事前にお知らせします。
コンサート前の特別練習やオープンキャンパス、吹奏楽セミナーなど各種の本番に絡み、授業回数が増えることがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、合奏	授業内容、目的、計画、役割分担。
第2週	基礎と合奏	簡単な楽曲を使いサウンドのチェック
第3週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第4週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第5週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第6週	合奏	キャンパスコンサートに向けて質の向上
第7週	合奏	キャンパスコンサートに向けて仕上げ
第8週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第9週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第10週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第11週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第12週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第13週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第14週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第15週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第16週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第17週	合奏	定期演奏会に向けて総練習
第18週	合奏	定期演奏会本番
第19週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第20週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第21週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第22週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第23週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第24週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第25週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第26週	合奏	オーケストラ定期の譜読み
第27週	合奏	オーケストラ定期の質の向上
第28週	合奏	オーケストラ定期本番
第29週	合奏	シンフォニック定期総練習
第30週	合奏	シンフォニック定期本番

授業科目	器楽合奏Ⅰ（弦楽合奏・オーケストラ）						
担当教員	岩渕　晴子／大隅　雅人／グレブ　ニキティン／ 河野　泰幸／鈴木　初／中島　杏子	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1221		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

オーケストラ曲などの主要な作品を演奏しながら、合奏の基本的な技術やアンサンブルの表現方法を学ぶ。
また、定期演奏会などの研究成果を発表し、合奏技術や表現力の実践的な習得を目指す。

到達目標

楽曲に合った奏法を身につけるとともに、アンサンブルの重要性を理解する。
演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要な役割を身につけ、定期演奏会や弦楽合奏成果発表演奏会などのコンサートでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
予習、復習などの授業への受講態度	50%		
合奏技術の達成度	30%		
演奏に取り組む姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は演奏家(プロのオーケストラ活動など)としての実務経験のある教員が実践的指導を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までに譜読みをし、安定した演奏になるための練習を行う。 予習、復習を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業に備え椅子、譜面台など合奏できる状態にセッティングをし、各自音出し、チューニングを済ませておく。
数台の弦楽器は貸し出しを行うが、原則楽器は個人持ちが望ましい弦楽合奏など演奏会経費など別途かかる場合があります。
上記の授業計画は基本的な流れであり、演奏会前の特別練習など授業回数や授業内容に変更の可能性があります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	初級、上級クラス分け
第2週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイングについて理解する
第3週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイングについて理解する
第4週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイング、について理解する
第5週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第6週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第7週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第8週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第9週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第10週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第11週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第12週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第13週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第14週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第15週	弦楽合奏本番	前期弦楽合奏成果発表演奏会
第16週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第17週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第18週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第19週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第20週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第21週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第22週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第23週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの仕上げ
第24週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの仕上げ
第25週	音楽学科定期演奏会本番	音楽学科定期演奏会でのオーケストラ演奏 初級はコンサートを必ず聴きにいくこと
第26週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第27週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第28週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第29週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第30週	弦楽合奏成果発表コンサート本番	弦楽合奏成果発表の本番

授業科目	器楽合奏Ⅰ（電子オル・ハイブリッドオケ）						
担当教員	斉藤　宏子	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MU-MS 1231			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

合奏という集団性の高い演奏形態の中で、音楽を通じて、コミュニケーションの取り方や集団の中の個のあり方などを学びます。同時に、協調性や人間性を養います。

到達目標

①楽曲にあった奏法を実践することができる。
②アンサンブルの重要性が理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏技術の達成度	40%		
合奏における役割の理解度と表現力	40%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『エレクトーン・ブルクミュラー25の練習曲CD付』	渡辺暁樹	ヤマハ音楽振興会	2018	9784636955002	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習、練習をして授業に望んでください。また、授業終了後は、復習を必要とします。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

電子オルガンの学習経験の有無は問いません。また、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要の説明とグループ編成の決定
第2週	選曲	
第3週	楽器等の理解	
第4週	グループ内担当の割り振り①（ディスカッション）	
第5週	グループ内担当の割り振り②（決定）	
第6週	楽譜作成、個々の音色づくり（１曲目）	
第7週	楽譜作成、個々の音色づくり（２曲目）	
第8週	楽譜作成、個々の音色づくり（３曲目）	
第9週	楽譜作成、個々の音色づくり（４曲目）	
第10週	グループ全体での音作り（１曲目前半）	
第11週	グループ全体での音作り（１曲目後半）	
第12週	アンサンブル練習（１曲目前半）	
第13週	アンサンブル練習（１曲目後半）	
第14週	アンサンブル練習（１曲目仕上げ）	
第15週	まとめ	授業内で演奏発表を行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノアンサンブルⅠ						
担当教員	鎌倉　亮太／谷本　聡子	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1311		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノアンサンブルの基礎を実技レッスン形式で行う。古典派の連弾曲を使って、両方のパートを知った上で、
役割分担して曲を作っていく過程を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
モーツァルトの連弾曲を題材に、呼吸を合わせ、相手の声部を聴きながら自分の声部を弾ける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏試験	50%		
発表会	40%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。ただし、履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。
詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人で十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修には、アンサンブルを行うためのピアノ演奏能力が必要とされます。初回にプレテストがあります。（音階、アルペジオ全調の中から、当日指定された調を長調・短調ともに弾くこと。音階については、長調（リピート有）をカデンツ付きで弾いた後、和声的短音階、旋律的短音階を続けて弾き（各リピート無）、最後にカデンツを弾くこと。アルペジオはリピート有。）

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	組み合わせを決める。
第2週	グループレッスン	モーツァルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
第3週	グループレッスン	モーツァルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
第4週	グループレッスン	モーツァルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第5週	グループレッスン	モーツァルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第6週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第7週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第8週	合同発表会	中間のまとめ発表
第9週	グループレッスン	モーツァルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
第10週	グループレッスン	モーツァルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
第11週	グループレッスン	モーツァルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第12週	グループレッスン	モーツァルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第13週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第14週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第15週	まとめと期末試験	まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノアンサンブルII						
担当教員	鎌倉　亮太／谷本　聡子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1312		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノアンサンブルの基礎を実技レッスン形式で行う。連弾曲を使って、両方のパートを知った上で、
役割分担して曲を作っていく過程を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
重要な連弾曲の作曲家シューベルトの曲目を題材に、呼吸を合わせることを体感し、そのための方法を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏試験	50%		
発表会	40%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。ただし、履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。
詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人で十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。
発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	組み合わせを決める。
第2週	グループレッスン	シューベルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
第3週	グループレッスン	シューベルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
第4週	グループレッスン	シューベルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第5週	グループレッスン	シューベルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第6週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第7週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第8週	合同発表会	中間のまとめ発表
第9週	グループレッスン	シューベルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
第10週	グループレッスン	シューベルトの連弾曲を課題に読譜を行う。
第11週	グループレッスン	シューベルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第12週	グループレッスン	シューベルトの連弾曲を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第13週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第14週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第15週	まとめと期末試験	まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	オペラ制作演習Ⅰ						
担当教員	岡崎　正治／鎌倉　亮太／角　岳史／ 千葉　　潤／萩原　のり子／針生　美智子	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 1101		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、室内楽、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。
下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.異文化による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
アンサンブル試験および、受講状況による評価	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

新国立劇場等でのオペラ出演・東京二期会オペラ研修所講師。
札幌市内のオペラ団体での指揮・合唱指導等を行う。
札幌文化芸術劇場hitaruとの連携事業で長年に渡りオペラの見どころ・聴きどころを担当。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。 ピアニストは、授業時に合わせができる状態まで譜読みしてくること。	5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項

毎授業の前に発声練習をしてください。
授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
授業開始・終了時にステージ場ミリ・小物等の準備と後片付けを受講者全員で行います。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンスほか	授業の進め方の説明。 一人ずつの声質チェック。 今年度のオペラ公演概要の説明。
第2週	ソロ音楽稽古/合唱稽古①	ガイダンスで指示した曲の音楽稽古。 主に音程・リズムを確認。
第3週	ソロ音楽稽古/合唱稽古②	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。
第4週	身体表現特別講義(予定)	音楽に合わせて動く・振りを覚える等、オペラに必要な身体の使い方を学ぶ。
第5週	ソロ音楽稽古/合唱稽古③	身体表現で得た動きを意識しながら歌唱稽古。
第6週	ソロ音楽稽古/合唱稽古④	言葉・フレーズを主に確認。
第7週	講義Ⅰ（予定）	今回のオペラ作品についての講義
第8週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑤	講義を受けたうえでの解釈を確認した音楽稽古。
第9週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑥	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。
第10週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑦ セリフ稽古①	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。 台本の読み方、声の出し方など実演してアドヴァイス。
第11週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑧ セリフ稽古②	歌唱試験に向けてのアドヴァイス。 前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。
第12週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑨ セリフ稽古③	歌唱試験に向けての仕上げ。 前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。
第13週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑩	歌唱試験に向けての仕上げ。
第14週	ソロ音楽稽古/合唱稽古11	歌唱試験に向けての仕上げ。
第15週	ソロ、合唱、歌唱試験・講評	歌唱試験。 演奏後に担当教員から講評、後期に向けてのアドヴァイス等。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	オペラ制作演習 II						
担当教員	岡崎　正治／鎌倉　亮太／角　岳史／ 千葉　　潤／萩原　のり子／針生　美智子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 1102		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、室内楽、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。
下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に協力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
アンサンブル試験および、受講状況による評価	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

新国立劇場等でのオペラ出演・東京二期会オペラ研修所講師。
ヨーロッパのオペラ公演への出演。
札幌市内のオペラ団体での指揮・合唱指導等を行う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。	5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項

毎授業の前に発声練習をしてください。
授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
授業開始・終了時にステージ場ミリ・小物等の準備と後片付けを受講者全員で行います。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	台本通し稽古	音楽、セリフを通して確認しながら、アドヴァイス。
第2週	立ち稽古① 音楽稽古①	演出家からの動きのアドヴァイス。 楽器個別練習。
第3週	立ち稽古② 音楽稽古②	立ち位置までの移動を中心に確認。 小物の扱いを確認。 楽器個別練習。
第4週	立ち稽古③ 音楽稽古③	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第5週	立ち稽古④ 音楽稽古④	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第6週	立ち稽古⑤ 音楽稽古⑤	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第7週	立ち稽古⑥ 音楽稽古⑥	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第8週	立ち稽古⑦ 音楽稽古⑦	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第9週	立ち稽古⑧ 音楽稽古⑧	演奏と動きの確認。 小物のスタンバイ位置・準備担当者の配置チェック。 楽器個別稽古。
第10週	立ち稽古⑨ 音楽稽古⑨	演奏と動きの確認。 小物のスタンバイ位置・準備担当者の配置チェック。 楽器個別稽古。
第11週	立ち稽古⑩ 音楽稽古⑩	演奏と動きの確認。 小物の最終確認。 楽器個別稽古。
第12週	通し稽古①	演奏と動きの確認。 楽器も合わせて流れを確認。
第13週	通し稽古②	本番に向けての仕上げ。 楽器も合わせて流れを確認。
第14週	通し稽古③	本番に向けての仕上げ。 楽器も合わせて流れを確認。
第15週	G.P/本番	本番後に担当教員から講評。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	デジタルノーテーション						
担当教員	侘美　秀俊	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1051		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

ノーテーションソフトウェアの基本的な使い方を学修します。

到達目標

①ノーテーションソフトウェアを使って楽譜を作ることができる。
②楽譜作成ソフトウェアと周辺機器に関する基礎的な知識を身につける。
③ノーテーションソフトウェアを使って簡単な編曲ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
flatの課題	50%		
MuseScoreの課題	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『flat』					
『MuseScore』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
ソフトウェアの使い方は、資料を使って説明するので、その内容に沿って復習してください。また、パソコンの基本的な操作(マウスやキーボードの使い方、コピー＆ペースト、ファイルの保存)については、事前に調べておいてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

無料楽譜作成ソフトウェアであるflatと、MuseScoreを使用します。
flatはパソコン、タブレット、スマートフォンでの使用が可能ですが、MuseScoreはパソコンのみで使用が可能です。パソコンは、事前に用意してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	flatのアカウントの作成
第2週	flat①	音符の入力
第3週	flat②	発想記号とアーティキュレーションの入力
第4週	flat③	拍子と調の変更
第5週	flat④	１段に２つの声部を割り当てる方法
第6週	flat⑤	コードネームと歌詞の入力
第7週	flat⑥	課題の選曲と共有の方法
第8週	flat⑦	提出課題の作成
第9週	入力用MIDI機器などの周辺機器について	MIDIキーボード等の紹介
第10週	MuseScore①	音符の入力
第11週	MuseScore②	テキストの入力
第12週	MuseScore③	アーティキュレーションの入力
第13週	MuseScore④	拍子と調の変更
第14週	MuseScore⑤	課題の選曲
第15週	MuseScore⑥	提出課題の作成
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ＤＡＷ						
担当教員	塚原　義弘	配当年次	１年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1052		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音声をデジタルデータとして録音、編集。モデリング及びサンプリング音源での作品制作（音楽、音響作品）。MIDIの取り扱い（打込み）。
プラグインエフェクト（音色、音量、空間）の使用法。ミキシング（マルチトラック音源を２トラックに）。
上記の事を習得しそれらを用いて自身の作品制作をします。
この講義はいろいろなレベルの受講者が参加すると思われますので、それぞれのスキルに合った課題設定をしながら各自の作品制作のレベルを上げていく事を念頭に置いています。
自身の作品制作（録音、打込み、音源制作）、作曲作業上でのアイディアスケッチ、バンドメンバーへのdemo音源制作、自身のライブ演奏のバックトラック制作など様々なことを理解していきましょう。

到達目標

音色の調整ができる：イコライザー、コンプレッサー、フランジャー、コーラス
ミキシングができる：音量、定位、ラウドネス、音声データフォーマット
自身の演奏活動のサポート：デモ音源、スケッチ、バックトラック制作ができる
作品制作ができる：作曲、音源制作、デジタル配信、映像作品への楽曲提供
上記の音楽、音響作品を作る上でのPCを用いた基本的操作、考え方を習得できる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加度	10%	作品のオリジナリティー	20%
第６週目の提出物	20%		
コライト作品分担部分の貢献度、作品の完成度	20%		
最終課題　テーマの難易度	10%		
最終課題　DAWの習得度	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

近年の活動
TVアニメ『幽遊白書』のOP・EDの歌唱、馬渡松子の新名義（如月-kisa-）デビューアルバム『Love Legal』アレンジ、ギター、録音。
あがた森魚2021作品「わんだあるびい2021」Co-Produce、ギター、アレンジ、MIX等。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義内で処理しきれなかった制作作業を次の講義まで完成させる。 課題が出た場合予定日までに完成させる。 PCの基本操作の習得。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

音を扱う作業になるので各自ヘッドホン、イヤホーンを持参すること。
DAWのソフトの指定はありませんが初めての場合で無料ソフトを使う場合StudioOne PerTools Introを推奨します。
活発な質問、意見交換を望みます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	講義の進め方、受講者へのアンケート（音楽経験、PCの習得度等の確認）DAWの基本説明。
第2週	譜面が読めなくても演奏できなくても音源制作I 先ずはDAWを触ってみる。	LOOP、サンプリング音源、効果音等の音声データをDAW上に並べて作品を制作、簡単なプラグインの特性、音量の設定方法。 ダイナミクス系（コンプレッサー）音色系（イコライザー）
第3週	譜面が読めなくても演奏できなくても音源制作II 音を編集してみる。	第２週の作業のまとめ プラグインの説明：空間系（エコー、リバーブ等） マルチトラックの音源を２トラックにミックスダウン
第4週	譜面をMIDIに打ち込むI PCで楽器の音を出してみる	DAW上の仮装音源（シンセサイザー、サンプラー等）を使って楽譜を打込む。DAW上の音程、音の長さ、強弱、音量を考えながら音楽的になるようデータの調整をする。仮装音源の基本操作の説明
第5週	譜面をMIDIに打ち込むII ミックスをしてみる	第４週目の作業の続き。 各トラックに入っている音源の調整 元の楽譜に自分なりの解釈をしてリズム、テンポを変えて編集する。
第6週	DAW操作の確認・中間作品提出（4～5週にかけて製作した音源）	DAWでの作業の復習。 波形データとMIDIデータの違い。 プラグインの操作方法。
第7週	コライト演習I（複数人での共同作曲作業） 作業分担決定	最近の音楽制作者も多く取り入れている作業を実際にやってみる。 2～４程度にグループ分けをし、それぞれ役目を決めて作業をする。 例）曲のA,B,Chorusを分担して制作してまとめる。メロディー、アレンジ、打込み、ミックス
第8週	コライト演習II（複数人での共同作曲作業） 各自の作業	各自決められた作業を進める。制作にあたっての質問等に対処しながら進める。役割られた作業の確認。
第9週	コライト演習III（複数人での共同作曲作業） 作品完成に向けてチェック	作業進行状況の確認。ミックス仕上げ。 音色、音量バランスはグループ全体で確認しながら担当者と意見交換しながら進める。
第10週	コライト演習IIII（複数人での共同作曲作業） 作品完成	コライト作業で完成した音源の発表。 試聴、確認、考察 グループ単位での作品提出
第11週	最終課題制作I テーマを決める	作品のテーマ決定。 ジャンル、方法等 音楽的な物以外にも音響作品や効果音、ラジオドラマ的なものなんでもあり。
第12週	最終課題制作II 作品の概略を考える	決定したテーマに向けて作業。 個別にアドバイス等しながら進めます。 制作時の注意点確認
第13週	最終課題制作III 作曲作業	決定したテーマに向けて作業。 個別にアドバイス等しながら進めます。 作品チェック。
第14週	最終課題制作IIII ミックスダウン	決定したテーマに向けて作業。 個別にアドバイス等しながら進めます。 ミックスチェック。
第15週	最終課題提出、作品試聴会	作品の発表試聴。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノ伴奏法A						
担当教員	岡本　孝慈	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1331		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ伴奏法を習得することは独奏を学ぶ上でも大切なことである。また器楽や声楽専攻、作曲や音楽療法の学生にとってもピアノとの正しい共演方法を学べる貴重な機会である。比較的取り組みやすい協奏曲や歌曲、映画音楽なども用いるが、次第に難易度の高い作品にも挑戦し他者と合わせて演奏することを学ぶ。

到達目標

①　テンポ感や音量、音色などを追求することでソルフェージュ力を養うことができる。
②　共演者と互いの個性を認め合い協調することを通して、コミュニケーション力を向上させることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
試験（発表）	60%		
受講態度	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付するので保管ファイルを用意すること。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回実技形式で進められるが、自分が選曲した作品の予習は十分にして授業に臨むこと。	1時間程度/週

受講時の注意事項

全受講生が公平に受講できるよう、随時時間配分します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	取組む作品を決めます
第2週	公開レッスン形式①	
第3週	公開レッスン形式②	
第4週	公開レッスン形式③	
第5週	公開レッスン形式④	
第6週	公開レッスン形式⑤	
第7週	公開レッスン形式⑥	
第8週	公開レッスン形式⑦	
第9週	公開レッスン形式⑧	
第10週	公開レッスン形式⑨	
第11週	公開レッスン形式⑩	
第12週	公開レッスン形式⑪	
第13週	公開レッスン形式⑫	
第14週	公開レッスン形式⑬	
第15週	まとめと試験（発表）	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノ伴奏法Ｂ						
担当教員	鎌倉　亮太	配当年次	１年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1332		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ伴奏法を習得することは独奏を学ぶ上でも大切なことである。本講義では、歌曲、オペラアリアの作品を教材とし、声楽曲の伴奏法を実践的に学ぶ。

到達目標

① テンポ感や音量、音色などソルフェージュ力を養うことができる。
② 共演者と互いの個性を認め合い協調することを通して、コミュニケーション力を向上させることができる。
③ 歌詞を発音することが出来、さらにその意味を理解し、音楽とどのように結びついているかを理解できる。
④ オーケストラ伴奏においては、使用楽器を理解し、その楽器の特性をピアノで再現することができる。
⑤ 声楽の学習者にとっては、伴奏者と合わせるときのポイントを学び、自発的な音楽作りをすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
出席を含む受講態度	40%		
課題曲に対する取り組む姿勢	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回実技形式で進められるが、自分が選曲した作品の予習は十分にして授業に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

受講生全員がレッスンを受けることができるよう、オリエンテーション時に選曲、時間配分をします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	楽譜配布、授業の進め方の説明
第2週	公開レッスン形式①	課題曲１について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第3週	公開レッスン形式②	課題曲１について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第4週	公開レッスン形式③	課題曲２について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第5週	公開レッスン形式④	課題曲２について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第6週	公開レッスン形式⑤	課題曲３について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第7週	公開レッスン形式⑥	課題曲３について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第8週	公開レッスン形式⑦	課題曲４について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第9週	公開レッスン形式⑧	課題曲４について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第10週	公開レッスン形式⑨	課題曲５について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第11週	公開レッスン形式⑩	課題曲５について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第12週	公開レッスン形式⑪	課題曲６について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第13週	公開レッスン形式⑫	課題曲６について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第14週	公開レッスン形式⑬	課題曲７について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第15週	公開レッスン形式⑭	課題曲７について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法演習Ⅰ						
担当教員	高田　由利子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 1401		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽療法の対象を児童、成人、高齢者の3領域とし、その活動内容を学ぶ。グループに分かれ、それぞれの役割の中で音楽療法をどのように実践していくかを論議し、検討することを目的とする。

到達目標

①　児童・成人・高齢者の3領域を理解できる。
②　実践プログラムの立て方を理解し、立案できる。
③　それぞれの役割を理解できる。
④　音楽療法の目的を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
音楽療法実践計画書及びレポート提出	60%		
授業内発表	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本音楽療法学会認定音楽療法士として、臨床、スーパービジョン、教育の経験を２０年以上有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回、授業の最後に次回の内容のガイダンスを行いますので、各自で関連する文献等で調べてから授業に臨んでください。また、フィードバックした課題やワークシートをまとめて、ノートに整理する等復習しておいてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

前期に履修した「音楽療法の理論」および「音楽療法技能Ａ」で使用した教科書を本講義で使用します。ゲストスピーカーや特別講義があります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	シラバスの説明に基づき、授業の概要や目的を説明する。
第2週	児童領域における音楽療法①	児童領域における音楽療法の事例を通して、音楽療法のプロセスについて学ぶ。
第3週	児童領域における音楽療法②	事例に基づいて治療計画を考える。
第4週	児童領域における音楽療法③	第２週と第３週で学んでことに基づいて、グループに分かれてロールプレイをする。体験を通して得られたことを共有する。
第5週	児童領域における音楽療法④	第２週と第３週で学んでことに基づいて、グループに分かれてロールプレイをする。体験を通して得られたことを共有する。
第6週	精神科領域における音楽療法①	精神科領域における音楽療法の事例を通して、音楽療法のプロセスについて学ぶ。
第7週	精神科領域における音楽療法②	事例に基づいて治療計画を考える。
第8週	精神科領域における音楽療法③　グループに分かれたロールプレイその1・フィードバック	第６週と第７週で学んでことに基づいて、グループに分かれてロールプレイをする。体験を通して得られたことを共有する。
第9週	精神科領域における音楽療法④　グループに分かれたロールプレイその2・フィードバック	第６週と第７週で学んでことに基づいて、グループに分かれてロールプレイをする。体験を通して得られたことを共有する。
第10週	高齢者領域における音楽療法①	高齢者領域における音楽療法の事例を通して、音楽療法のプロセスについて学ぶ。
第11週	高齢者領域における音楽療法②	事例に基づいて治療計画を考える。
第12週	高齢者領域における音楽療法③　グループに分かれたロールプレイその1・フィードバック	第10週と第11週で学んでことに基づいて、グループに分かれてロールプレイをする。体験を通して得られたことを共有する。
第13週	高齢者領域における音楽療法④　グループに分かれたロールプレイその2・フィードバック	第10週と第11週で学んでことに基づいて、グループに分かれてロールプレイをする。体験を通して得られたことを共有する。
第14週	プレゼンテーション①講評	各領域の文献を読んで学んだことを発表する。
第15週	プレゼンテーション②講評	各領域の文献を読んで学んだことを発表する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	伴奏実習Ⅰ						
担当教員	河野　泰幸／針生　美智子	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1351		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

① ピアニストにとって重要な伴奏の技能を身につける。
② 各専門分野のレッスンを受けることにより、より視野の広い音楽表現を可能とする。
③ 伴奏者として必要な経験や知識を身につける。

到達目標

① 器楽・声楽の伴奏を通して、コミュニケーション能力を習得できる。
② アンサンブルに必要な聴き方やテクニックを実践しながら習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による他者及び文化を尊重するとともに、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点	10%		
実習（本番での伴奏）	90%		
1回の実習での点数は、副科の授業内試験30点～34			

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『授業ごとに指示する。』					

参考書等

授業ごとに指示する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は演奏家としての実務経験がある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく上記の要件を満たすことをもち単位認定します	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

レッスン受講まで充分な合わせを行うこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンス
第2週		パートナーとの充分なリハーサル
第3週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
第4週		パートナーとの充分なリハーサル
第5週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
第6週		パートナーとの充分なリハーサル
第7週		総練習
第8週		本番①（演奏会・試験等）
第9週		パートナーとの充分なリハーサル
第10週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
第11週		パートナーとの充分なリハーサル
第12週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
第13週		パートナーとの充分なリハーサル
第14週		総練習
第15週		本番②（演奏会・実技試験等）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ステージスタッフ実習Ⅰ（前期）						
担当教員	大黒　淳一／大隅　雅人／鎌倉　亮太／ 河野　泰幸／小山　隼平／高田　由利子／ 谷本　聡子／千葉　　潤／外山　啓介／ 針生　美智子／三山　博司	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1721		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

大学主催のコンサートにおいて、ステージスタッフ等、演奏以外の各種の責務を果たした場合に評価し、単位として認定します。
本科目は、アクティブラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。

到達目標

①コンサートを運営するための、実務に関する汎用的な知識と技術を身につける。
②コンサートの進行表と舞台配置図を書くことができる。
③コンサート中に滞りなく、与えられた任務を遂行できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
担当教員への事前の連絡・報告・相談	15%	他のスタッフとの連携	10%
業務レベルに応じた理解度	15%	積極性・態度	20%
G.P.での実施内容	15%		
改善点・修正点の把握と実行	15%		
コンサート本番での実施内容	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

宮崎隆男著『「マエストロ、時間です」～サントリーホール　ステージマネージャー物語～』（ヤマハミュージックメディア）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく、45時間従事した時間数をもって単位認定します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録機関を含め「受講時の注意事項」は、コンサートの内容が決定次第、Campus Xsや学内掲示等でお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける協定等、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含む科目です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	コンサート①：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第2週	コンサート①：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第3週	コンサート①：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第4週	コンサート①：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第5週	コンサート①：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第6週	コンサート②：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第7週	コンサート②：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第8週	コンサート②：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第9週	コンサート②：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第10週	コンサート②：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第11週	コンサート③：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第12週	コンサート③：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第13週	コンサート③：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第14週	コンサート③：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第15週	コンサート③：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法Ⅰ（主専攻・ピアノ）（谷本先生）						
担当教員	谷本　聡子	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	PI-MS 1101		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ演奏の基礎であるテクニックの習得と作品解釈の基礎になる読譜力の向上を目指す。
バロック、古典、ロマン、近現代の各時代の曲の構成、楽譜の読み取り方を研究する。
個人指導のレッスン形式で、それぞれの技術、経験に応じた選曲をする。

到達目標

ピアノテクニックの研鑽と多様な様式での楽曲表現が習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとらわれず視野を広く持つとともに、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実技試験	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

各自の課題にあった楽譜を用意すること。原則的に「原典版」を使用する。
使用楽譜以外にもう一部楽譜を用意すること（コピー譜可）。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の演奏を聴き、その経験を知り個々の学生に合った課題を与え、次週からの学習計画を練る
第2週		数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る①
第3週		数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る②
第4週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする①
第5週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする②
第6週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする③
第7週		暗譜で演奏できるようにする①
第8週		暗譜で演奏できるようにする②
第9週		自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする①
第10週		自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする②
第11週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める①
第12週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める②
第13週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める③
第14週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める④
第15週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める⑤
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅠ（小山先生）					
担当教員	小山　隼平	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	CP-MS 1101		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

作曲や編曲、サウンドデザインの実技指導を受けます。また、必要に応じて参考となる楽曲の鑑賞・分析や和声法、対位法、管弦楽法の指導も受けます。課題の内容と制作方法については、学習者各自の興味・関心および習熟度に応じて設定します。

到達目標

①興味・関心に応じた作品を制作できる。
②他者の作品から参考になる部分を学ぶことができる。
③作品制作で使用する楽器・機器にかかわる知識を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、作曲家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自作品の制作は授業時間外に進めて下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	興味・関心・習熟度に応じた課題を設定する。
第2週	リファレンスの分析①	リファレンスとして使用する楽曲を決定する。
第3週	リファレンスの分析②	リファレンスとして使用する楽曲を分析する。
第4週	リファレンスの分析③	分析結果に基づき必要な知識や技術などを整理する。
第5週	作品制作①	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第6週	作品制作②	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第7週	作品制作③	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第8週	作品制作④	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第9週	作品制作⑤	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第10週	作品制作⑥	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第11週	作品制作⑦	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第12週	作品制作⑧	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第13週	作品制作⑨	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第14週	作品制作⑩	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第15週	まとめと作品提出	完成した作品の自己評価を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法Ⅰ（副専攻・ピアノ）（谷本先生）					
担当教員	谷本　聡子	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1101		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。

到達目標

基礎と演奏能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（または実技試験）。音楽総合コースの主	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で指示します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習してレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える
第2週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する①
第3週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する②
第4週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③
第5週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④
第6週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤
第7週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥
第8週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦
第9週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する①
第10週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する②
第11週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する③
第12週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する④
第13週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑤
第14週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑥
第15週		まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法Ⅰ（副科・ピアノ）（谷本先生）					
担当教員	谷本　聡子	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1111		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。

到達目標

基礎と演奏能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内実技試験	50%		
平常点	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

詳細な授業計画については，授業内でお知らせします。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える
第2週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する①
第3週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する②
第4週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③
第5週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④
第6週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤
第7週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥
第8週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦
第9週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する①
第10週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する②
第11週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③
第12週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④
第13週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤
第14週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥
第15週		まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	色彩学						
担当教員	桑原　一哲	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1002		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業は色彩の基礎知識を学び、色の持つ特性と感覚を理解し、応用として効果的な配色ができることを習得します。色彩をシステムとして捉え、色相、彩度、明度を基準とした配色、混色を理解します。
さらに、情報化社会の中での色彩の役割、関係を理解した上でカラーユニバーサルデザインの基礎知識と対応策を身につけ多様な色覚に対し配慮された色表現ができる。

到達目標

①　色の見える仕組みと環境による見え方の違いを理解する。
②　カラーシステムによる色相とトーンを理解し、三属性を理解する。
③　多様な色覚の特性と最新の知識を習得しカラーユニバーサルデザインに対応した配色ができるようにする。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
受講ノート評価	40%		
演習課題	40%		
取組み姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『デザインの色彩　部分改訂版』	中田満雄　北畠耀　細野尚志	日本色研事業	2023	978-4-907564-18-6	貼付用色コマが入っています。なくさないよ

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

2000年から2003年までグラフィックデザイナー及びDTPオペレーター。印刷物の配色計画等の実務に携わる。また聾学校にてデザイン教育、特にビジュアル系の科目を中心に担当しており、科目「色彩構成」の授業も長く担当。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
スライド説明時にメモをとり、当日か次回までレポート提出する。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

色コマの貼付用にスティックのりやテープのりを用意してください。※液体のりやでんぷんのり、セロテープは使用しないでください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	色とは何か、可視光線、プリズム、波長	色の見え方は光の波長の範囲によって決まることや、太陽光はすべての波長の光がまとまった白色光であること、また白色光はプリズムを通すことで分光できることを学習する。また、各色の分光特性を理解し、分光分布曲線の特性から、どの色に該当するかを読み取れるようにする。
第2週	目の仕組みと脳、光源と色　標準光源色の見え方、演色性	光を認識する感覚器官である眼の仕組みを理解し、光が色として認識されるプロセスを学習する。また、光源色と物体色の違いが分かり、ものを照らす光の状態によって、物体の色の見え方が変わること（演色性）について理解する。
第3週	明度、彩度、色相について　色の三属性 マンセル表色系、PCCSなどの色相	色を純粋に色知覚の要素として取り出したときに抽出される「色相」「明度」「彩度」のいわゆる「色の三属性」について、それぞれの特徴を知り、それぞれの間にある関係や表記の仕方を学習する。ま
第4週	原色と混色	光の三原色と色料の三原色の違いを知り、加法混色と減法混色、それぞれの仕組みについて理解する。また、色相環における色光と色料の三原色の位置関係から混色の原理を理解し、印刷物の制作やDTPにおけるデータ作成の実際にも応用できるよう学習を進める。
第5週	色の見え方、対比	色の進出性と後退性、膨張性と収縮性、暖色と中性色と寒色といった要素を対立させながら、その基本原理について知見を得る。また、得られた知見については、実際に配色を進めていく際に効果的に活かせるよう、活用方法の実際についても学習する。
第6週	配色調和	色相環やトーン図をベースに、用途や目的、機能等を考慮しながら、一定の法則性に基づいた複数の色のまとまりを選択できるようにする。色の組み合わせ方の法則性は、アナロジーとコントラストにあるが、それを色相とトーンそれぞれに当てはめ、狙いに応じた配色ができるよ
第7週	配色の秩序	配色における色の選択において、一定の法則性に基づいた選択をしていくことで、まとまりと調和のとれた配色が可能になることを学ぶ。具体的には、ドミナントやグラデーション、セパレーション、レピテーションといった原理を利用した配色パターンの演習を行う。また、配色
第8週	色の感情効果	トーン配色と色相配色の違いを理解し、目的に応じた配色計画を行うための前提となる要素を学習していく。トーンに依存する感情、色相に依存する感情について、それぞれイメージ語からの連想と結びつけながら、表現に発展させる。
第9週	色彩計画　配色の実際　イメージから色を選ぶ、表現のための色選び	デザイン計画における配色設計の位置づけを学ぶ。具体的には、色の持つ心理的効果の大きさやデザインにおける特徴づけ、統一感の表現、情報伝達の正確性といった要素について、色彩計画の具体的演習をとおして学習を進める。
第10週	背景色の変化による色の見え方	色の対比や配色調和の学習内容を拡張した内容となる。色相対比、明度対比、彩度対比とそれぞれの強弱をつけていくことで、色の見え方をコントロールしていく具体的手法を学ぶ。
第11週	ファッションやデザインと色彩の関連、カラーコーディネートの実際	これまでに学んだ、色彩感情や色彩調和、配色展開などの基本原理を応用し、これらの原理のバリエーションをファッションにおける配色計画に活かす演習を行う。着衣環境や着用者と衣服の色の適合性、シルエットとデザインイメージ等の重要性を学んでいく。
第12週	色名と使い方　色の分類について 色彩と情報化社会　色彩検定・CUD検定・色彩検定UC級について	系統色名における色の名前の付け方の法則性及び色の伝達方法の基本的手法を学ぶ。また、CMYKやRGB等のデジタル表現における数値指定パターンについても扱う。
第13週	カラーユニバーサルデザイン①　色弱の基礎知識	公共性が高く安全性に関わる分野を中心に行われる配色やデザイン上の改善の具体的手法を学ぶとともに、その社会的背景や合理的配慮といった理念についても学習を進める。
第14週	カラーユニバーサルデザイン②　混同色について、シミュレータによる確認	具体的な印刷物の作成等の事例を通して、様々な色の見え方の理解や色使いへの配慮、配色パターンの原案作成を行う。作成した配色パターンについて、カラーユニバーサルデザインチェックリストやシミュレーションソフトなどでチェックし、問題点などを検証していく一連
第15週	カラーユニバーサルデザイン③　すべての人に見やすい配色	色覚多様性について学習し、C型、P型、D型、T型の違いを理解する。色覚多様性に配慮されていない配色は、製品の利用や情報の理解を妨げる障害になっていることを理解し、配色計画における留意事項の具体を学ぶ。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	デザイン概論						
担当教員	下濱　晶子	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

本授業では、主に西洋の近代から現代のデザインについての知識を教授する。近代のデザインとは、工芸（アート・アンド・クラフト）が生産方式の変化にもとづいてデザインへと変容していく過程である。人々の生活に密着しているデザインという分野を学ぶことで、石・土・ガラス・鉄・紙・布などの素材の性質と機能を理解することを目標とする。またアール・ヌーボー様式など、西洋のデザインに日本美術が与えた影響、その逆に、日本における西洋のデザインの受容と創造も検証し、解説する。

到達目標

①　西洋のデザインの知識を深めることができる。
②　素材の性質と機能を理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	80%		
授業内の課題を含む平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。
授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、講演・執筆などの務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後は復習を行ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

デザイン関係の展覧会や画集やテレビ番組を見るなど、積極的に関わってほしい。
授業内に実施した出席レポートなどのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	デザイン史について解説する。
第2週	イギリスの美術工芸運動	近代デザインの源流としてのアーツ・アンド・クラフツ運動について解説する。
第3週	アール・ヌーボー①	アール・ヌーボーの成り立ちについて解説する。
第4週	アール・ヌーボー②	ネオ・ロココ、ナンシー派について解説する。
第5週	アール・ヌーボー③	アール・ヌーボーのポスターについて解説する。
第6週	ユーゲントシュティル	分離派とウィーン工房について解説する。
第7週	グラフィック・デザイン①	グラフィックメディアの成長について解説する。
第8週	グラフィック・デザイン②	写真の発明とグラフィック・デザインへの応用について解説する。
第9週	グラフィック・デザイン③	世紀末から第一次世界大戦までの作品について解説する。
第10週	バウハウス	バウハウスとその理念について解説する。
第11週	アール・デコ①	アール・デコの幾何学的な形式について解説する。
第12週	アール・デコ②	アール・デコの工芸について解説する。
第13週	アメリカのデザイン	アメリカの主に建築のデザインについて解説する。
第14週	日本のデザイン	日本のデザインの源流について解説する。
第15週	総括	授業内で解説した作品について総括する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教職デザイン						
担当教員	水野　一英	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、教職履修者を対象として、デザイン領域における表現を教授する。色彩構成やレタリング、シンボルマーク等、中学校・高等学校の美術の授業で扱われることが多い教材を基本にして、学校教育の場における実践例などを参考にしながら、デザインの基礎を習得することが目標である。社会におけるデザインの果たす役割と学校におけるデザイン教育の重要性を理解するとともに、将来教職に就き「学ぶ立場」から「教える立場」になることをイメージして、主体的に課題に取り組む姿勢を身につける。

到達目標

中学校の美術教育における基礎的・基本的事項について学習し、実践的な指導力を修得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を掘起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポートおよび課題	40%		
文字のデザイン	20%		
マークのデザイン	20%		
構成	10%		
映像メディアを用いた構成	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『美術資料』		秀学社			

参考書等

中学校、高等学校の美術教科書及び指導書・参考作品など

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

中学校美術科教員を経て、現在、高校の美術科教員をしている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
指示された道具や材料、資料の準備を確実に行うようにしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実技は基本的に実技形式で行います。道具や材料、資料がないと制作に大きく影響するので忘れ物がないようにしてください。また、重要な内容を口頭で伝える場面もあるので、適宜メモをするなどしてください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	デザインの果たす役割	オリエンテーション・講義内容解説
第2週	構成①	デザイン用具等の説明、課題説明、構想
第3週	構成②	制作・講評
第4週	文字のデザイン①	課題説明、構想
第5週	文字のデザイン②	制作・講評
第6週	マークのデザイン①	課題説明、構想
第7週	マークのデザイン②	制作
第8週	マークのデザイン③	講評
第9週	映像メディアを用いた構成①	課題説明、構想
第10週	映像メディアを用いた構成②	制作・講評
第11週	総合課題①	課題説明、構想
第12週	総合課題②	コンセプト決定、制作
第13週	総合課題③	制作、完成
第14週	総合課題④	講評
第15週	まとめ	講義全体の振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教職彫刻						
担当教員	藤本　和彦	配当年次	1年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1013		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

円形や矩形といった幾何形態をモチーフにした原初的構成立体の制作をおこなう。前半は円形（球体を含む）か矩形のいずれかをモチーフとした制作。後半は円形、矩形を造形的に組み合せた制作。構成のバランス感覚や、素材と構成の効果的な関係を探る（前半・後半の計2作品提出）。

到達目標

① 円形や矩形といった幾何形態をモチーフに構成立体を制作する事から、物体や空間といった三次元の基本要素を理解、把握することができる。
② 素材として最も身近な「紙」を様々な状態から探っていくなかで、その可能性を見いだし、応用していくことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平面的素材を効果的に立体へと展開できているか	40%		
素材の特徴や道具の性格を理解し適正に進められたか	40%		
積極的に創意工夫を試み、制作に集中することができ	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

紙による商業施設のディスプレイ制作・設置多数

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
テーマに沿った造形に応用可能な資料を準備・確認し、バリエーションを拡げておくこと。また、制作時には、パーツの構造や接続の方法、組立の順序などを探り、治具の準備とともに次作業の工程をシミュレーションしておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

主素材が「紙」ということから、その制作に必要なもの、また使用可能な道具等を各自、事前に用意しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	モチーフとなる幾何形態の特徴を探り、展開方法を考える
第2週	素材研究	紙の様々な状態を考察する。（厚みや硬さの差など）
第3週	エスキース	前半課題（円形もしくは矩形をモチーフ）のエスキース
第4週	制作準備	エスキースから　マケット(模型)制作
第5週	実制作①	紙と構成の関係を吟味し、丁寧な制作を意識する。パーツ制作
第6週	実制作②	折込、接続、接着の工夫
第7週	実制作③	組み込み、組み立て作業
第8週	実制作④	全体の確認、完成
第9週	エスキース	後半課題　（円形と矩形を組み合せた造形）のエスキース
第10週	制作準備	それぞれのマケット制作
第11週	実制作①	表現の工夫と完成度を重視した制作。パーツ制作
第12週	実制作②	パーツ仕上げ、折込みなど
第13週	実制作③	接続、接着、組み上げ作業
第14週	実制作④	全体の確認、完成
第15週	講評	個別プレゼンテーション、講評、振り返りとまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教職絵画						
担当教員	松村　繁	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1015		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、教職履修者学生を対象として、絵画領域における基礎的な表現を教授する。デッサン・着彩表現を通じ様々な画材の体験と技法を体験し、幅広く絵画的領域を指導できる指導者の育成を行う。

到達目標

① 立体・空間表現を学ぶことにより、絵画空間を表現できる。
② 色々な画材の特性を理解するとにより、様々な絵画表現が可能になる。
③ 美術一般の基礎知識を修得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
絵画に必要な基本的な知識と表現方法の理解度	25		
各課題時間内での作品完成度	65		
授業態度	10		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

東京私立美術大学と札幌私立短大　美術非常勤講師、札幌私立大学　美術専任教員

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
作業の遅れが生じた場合は各自、授業外で制作し講評には完成度のある作品を提出すること 画集やWeb上で他の作品を参考にしながら研究を行うこと	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

画材道具の確認と管理、補充は授業前に確実に行うこと。
アトリエの使用ルールを厳守すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 静物デッサン①(制作)	画材説明・絵画表現に必要な基礎的知識 鉛筆デッサン　四つ切画用紙
第2週	静物デッサン② 鉛筆表現	形体、アウトラインの考え方、固有色を明暗に置き換える際の注意点、陰影による立体表現
第3週	静物デッサン③ 講評	形体、アウトラインの考え方、固有色を明暗に置き換える際の注意点、陰影による立体表現
第4週	着彩表現（水彩）①　静物　F4～F6画用紙	用具の使用方法、水彩の特性の理解 鉛筆による下描き、正確な形体の把握、陰影の確認、陰色の作り方 着彩
第5週	着彩表現（水彩）② 講評	明部と陰色の表現に合わせた絵具の重ね方の工夫 着彩
第6週	フロッタージュ① フロッタージュ（加筆）②	使用用具の説明、手順の確認 構成の工夫
第7週	マーブリング（水性）① マーブリング（油性）②	使用用具の説明、手順の確認
第8週	墨を使った抽象表現 デカルコマニー	使用用具の説明、手順の確認
第9週	コラージュ　構成①	A3画用紙に6週-8週に作成した素材をコラージュ構成する。 作業手順の理解 構図、動きや流れを意識、疎と密のバランス
第10週	コラージュ　構成②	構図、動きや流れを意識、疎と密のバランス 色面構成
第11週	クロッキー（コスチューム）	人体の構造、プロポーション、重心とバランス 使用画材の特徴を生かした表現方法
第12週	クロッキー（裸婦） 講評	人体の構造、プロポーション、重心とバランス 使用画材の特徴を生かした表現方法
第13週	着彩表現(アクリル)①　　静物 F4～F6ボード	使用する画材特性の理解　制作手順の確認 下描きから描画へ 構図の確認
第14週	着彩表現（アクリル）②	的確な形態把握　　明暗による立体表現 全体と部分
第15週	着彩表現（アクリル）③ 講評会	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現基礎（油彩）						
担当教員	松村　繁	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1016		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

絵画表現の基本を理解し、学ぶ方向を確認するとともに、観察力を養い、時間をかけて作り上げる集中力を身につける。
・　油彩用具の使用方法の確認と制作手順を学び、課題を制作する過程を通して理解を深める。
・　明暗と色彩表現の関係を理解し、構成を考えながらモチーフの量感や材質感を空間の中で表現することを学ぶ。

到達目標

① 画材・素材と用具・用法の基礎知識を修得し実践できる。
② 造形の基本となる対象物への観察力・洞察力をさらに深めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品内容と完成度	70		
画材特性の理解	20		
平常点	10		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

東京私立美術大学と札幌私立短大　美術非常勤講師、札幌私立大学　美術専任教員

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
作業の遅れが生じた場合は各自、授業外で制作し講評には完成度のある作品を提出すること 画集やWeb上で他の作品を参考にしながら研究を行うこと	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

造形表現を希望する学生の内、自分で油彩道具一式やキャンバスを持参できる者のみが受講できる
画材道具の確認と管理、補充は授業前に確実に行うこと
アトリエの使用ルールを厳守すること

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 授業準備	画材についての基礎知識（危険物の取り扱い注意点を含む） ・クロッキー帳に複数枚エスキースをしてからキャンバス作業に進む ・構図を決める時に背景の要素も取り入れて画面のバランスを考えること
第2週	静物1 ①　F10号	制作手順の確認、構図について キャンバスに下描き　形体・明暗確認
第3週	②　描画	揮発性油での下描きから、乾性油での全体描画 ・ここで背景とモチーフの明暗関係を意識しながら主役の見せ方を考える
第4週	③　描画	全体描写
第5週	④ 描画	部分描写と全体　個々の質感表現 ・細部描写は必要だが、常に全体のバランスを意識しながら進めること
第6週	⑤　描画	細部描写と全体 ・完成が近付くにつれて守りに入らないこと ・最後まで自分の表現したかった事が画面から伝わっているかを確認しそこを見据えて積極的
第7週	⑥　描画	①～⑤まで全体確認
第8週	⑦　描画　／　講評	
第9週	静物２ ①　F10号	下描き　構図の確認　囲みモチーフになるので背景がより複雑になる ・クロッキー帳に複数枚エスキースをしてからキャンバス作業に進む ・構図を決める時に背景の要素も取り入れて画面のバランスを考えること
第10週	②　描画	全体描写 ・ここでも背景とモチーフの明暗関係を意識しながら主役の見せ方を考える 形体・明暗確認　空間表現
第11週	③　描画	全体描写 形体・明暗確認　空間表現
第12週	④　描画	部分と全体　個々の質感表現 ・細部描写は必要だが、常に全体のバランスを意識しながら進めること 空間表現　明暗コントラストの効果を考える
第13週	⑤　描画	部分と全体　個々の質感表現 ・完成が近付くにつれて守りに入らないこと ・最後まで自分の表現したかった事が画面から伝わっているかを確認しそこを見据えて積極的
第14週	⑥　描画	①～⑤まで全体確認
第15週	⑦　描画　／　講評	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現基礎（日本画）						
担当教員	関本　麻己子	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1016		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

日本画という言葉が生まれた背景を知り、日本画という言葉の定義を広く知る。
また、仏画や障壁画という需要とそのための絵師集団が制作していた過去の日本画の形態と、作者自身の表現方法の手段の一つとなった現代まで、それぞれの時代の作品の制作方法を試し模写することで違いを理解する。また現代の世界に置かれた日本画の立場を知ることで現代のマテリアルとしての可能性を知り、自身の制作の中でどのように日本画材を活用し発表していくかを探る術を身につける。
授業を通し制作過程を記録しデータに残す習慣を身につける。それが未来の自身の制作に役立てられることを知る。

到達目標

曖昧さを含んだ『日本画』という定義そのものを学生自身が知り、そのことを説明できることができるようになる。
膠の利点、ドーサの問題点を分かった上で、それらを用いた制作の意味を自身で考えることができる。
古くから行われてきた、裏打ちの意味、生麩糊を使う意味を理解した上で、糊をつくり裏打ちが出来る。
現代に開発された新しいメディウム、顔料、明治期以降に作られた人工岩絵具、天然の岩絵具、古くから使われている絵の具の違いを理解し、それらを活用し用いて表現できる。
和紙にもさまざまなものがあることを体験し、その特徴を踏まえて自身の制作において何を使うべきかを選択できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題の提出（それぞれの課題への意欲が、制作態度、	50%		
質問をしたり、用意された画材をさまざまに試してみ	20%		
レポート提出（授業で見聞きした知識を、授業外で各	20%		
授業内での作業理解（なぜそうするのか、理屈を理解	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本画における大学での教育経験を有している。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内で出てきた作家名、団体名、その他必要なことを各自調べてそこから新たなものを自分なりに発見し、ノートにまとめる。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

椅子ではなく和式の部屋で行う授業ですので、それに相応しい格好で参加してください。日本画というものを広く楽しめる授業であるということです。
１５週で三枚の作品を制作するため６号の木製パネルが三枚必要になります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	『日本画』を知る	この授業をとるきっかけとなった各自の日本画の知識が、日本画の断片にすぎないことを知る。言葉が出来た明治時代に着目し、その時代の作者、作品を明治前の作品との比較、考察。そして現代作家にも同じ技法が使われていることもそれらと重ね合わせて知る。
第2週	合成紙である三彩紙を使った日本画制作。	サイズ材としてのドーサの役割と問題点を踏まえて、中性サイズ材を使用した合成紙でまずは下図がわりに日本画制作を行う。アクリル樹脂であうアートグルーを膠の代わりに使う。 絵の具の特徴を知るための制作。
第3週	合成紙である三彩紙を使った日本画制作の続き。	水干、岩絵具の違いを踏まえて制作。
第4週	合成紙である三彩紙を使った日本画制作の続き。	粗い絵の具も使ってみることで、岩絵具の面白さを体感する。
第5週	三彩紙で描いた作品を元に2枚目の制作。 雲肌麻紙使用、中性サイズ材。膠使	ドーサのが酸性であるということを念頭に保存の観点から、また、新しい素材の安全性を確かめるための30年後の自分のためのテストピースとして、中性サイズ材を使用。
第6週	雲肌麻紙の制作、続き。 絵の具が重なる面白みを知る。	二枚目であることで、下に入れる色の影響を考えながら色を選ぶ面白さを学び、効率よく色を選べるようになる。
第7週	雲肌麻紙の制作、続き。	水干絵具、岩絵具、顔料の違い、天然と人工の特徴と違いを感じる。 岩絵具の粒子の大きさによる使い心地の違い学んだことを活かして彩色。
第8週	雲肌麻紙の制作、続き。	水干絵具、岩絵具、顔料の違いを天然と人工の特徴と違いを考える。 岩絵具の粒子の大きさによる使い心地の違いを学んだことを活かして彩色。
第9週	伝統的と言える、手漉きの楮紙使用して制作。	二枚の制作を通して、三枚目の作品の下図を作る。
第10週	顔料で染める。	下図から、必要なところに必要な顔料を染み込ませる。 乾かし、ドーサをひく。伝統的なドーサというものを使い、滲みどめをする。
第11週	裏打ち。	生麩糊（ショウフノリ）を作る。 裏打ち。
第12週	彩色。膠を使用。	紙の表面による違いを感じる。
第13週	彩色。	紙の違いは制作にどう影響するのか、を知る。
第14週	彩色。	水干絵具、岩絵具、顔料の違いや天然絵具と人工絵具の特徴と違いを知る。 紙の違い、岩絵具の粒子の大きさによる使い心地の違いそれらを学んだことを活かして彩色。
第15週	作品講評	三点の制作を通して知り得た日本画についての知識をまとめ、各自発表する。お互いの発表を聞くことで、また新たに自身の知識に足りなかった要素を加える
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現基礎（版画）						
担当教員	鳴海　伸一	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1016		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

木版画と銅版画の基礎を中心とした実習をとおして版表現の魅力と自身の表現の展開を探る。
「木版画」では陽刻法、墨版１色で刷毛や刷子を用いて伝統的な制作を行い、「銅版画」では腐蝕法のエッチングとアクアチントを用いて作品を作り上げる。また様々な刷り方、現代版画の技法にもふれ、時代に求められる制作を模索する。

到達目標

・版種形態を把握し、版表現の魅力を生かした作品づくりができる。
・扱っている道具や材料の特性を理解し、安全かつ正確に制作できる事を目標とする。
・環境や材料にとらわれず、柔軟な制作の可能性を模索できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品の完成度と魅力（発想力・構成力・技術力）	65%		
制作に対する積極的な探求心・意欲・姿勢	35%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本美術家連盟／版画学会
札幌市芸術文化財団 札幌芸術の森版画専門員
札幌芸術の森版画工房運営・管理

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
学内図書館等を利用し、版画に関する書籍（作品、技法書など）を閲覧しておいてください。 また、制作に関わる注意事項、作業手順、動作などを把握し、イメージしておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

汚れても良い服装またはエプロンを着用のこと。
作業時に必要なゴム手袋などを各自用意していただきます。※詳細は授業内で説明します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	本講義で制作する「木版画」と「銅版画」の製作概要を説明します。 実技において必要な道具、材料、服装などを解説します。
第2週	銅版画①／下絵づくり	銅版画制作に際し、下絵をつくります。
第3週	銅版画②／描画	下絵をトレーシングペーパーに写し、銅板にニードルで描画をしてゆきます。
第4週	銅版画③／製版	描画が済んだ銅板を腐蝕させ、版をつくります。
第5週	銅版画④／アクアチントと刷り	アクアチントという技法を用いて、グレートーンの諧調面をつくります。
第6週	銅版画⑤／刷り	腐蝕によって製版した銅版をプレス機で印刷します。 印刷後は水張りをします。
第7週	銅版画⑥／刷りと仕上げ	裁断、署名を施し銅版画の作品を完成させます。
第8週	木版画①／下絵づくり	木版画制作に際し、下絵をつくります。
第9週	木版画②／転写と彫り	下絵をトレーシングペーパーに写し、カーボン紙で版木に下絵を転写。 彫りの準備をします。
第10週	木版画③／彫り	板木への彫りを進めてゆきます。
第11週	木版画④／彫りと試し摺り	彫り終えた版木の調子をみるため試し摺りをします。
第12週	木版画⑤摺り	版面の調子を整えたのち、本摺りを行います。
第13週	木版画⑥本摺りと仕上げ	本摺り、裁断、著名を施し木版画の作品を完成させます。
第14週	まとめ	「銅版画」と「木版画」の基礎制作をとおしてその魅力、 可能性を自身でまとめます。
第15週	講評	作品を並べ、鑑賞。担当教員による講評を行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現基礎（立体）						
担当教員	藤本　和彦	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1016		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

表現において各人が様々なものに抱く「イメージ」を展開し、具現化するには幅広い形式や媒体・素材　があるが、ここではその一環として課題テーマに対する「イメージ」の形態化・実空間化を試みる。個別の意見交換から、テーマを設け、「イメージ」を深化させる。素材としてはモデリング・カービング、双方の性質を兼ね備えた「石膏」を使用し、イメージの「抽象的」再現をおこなう。

到達目標

①素材の特徴や実空間を把握し、各自の内にある表現の方向性や可能性を探り出す事ができる。
②自己の周りにある様々な事象に対し、解釈や視点を拡大・探求できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品（2作品の提出。丁寧かつ創意ある制作だった	60%		
制作ノート（正確な記録、復習的に分析されている	20%		
積極的な制作姿勢（自発的な展開、集中した作業で	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

モニュメント、スペース等の計画、作成、設置等多数

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
図書館等にて「彫刻」や「立体造形」関係の画集などに適宜目を通し、作品・表現への意識を高めておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

用具の準備や点検・整備・補充を確実にしておくこと。石膏使用のため、汚れるので、作業に適した服装で受講し、作業後の清掃など自発的におこなうこと

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	課題テーマのイメージを深化させ、展開方法を練る。
第2週	素材研究	素材となる石膏を考察、扱い方や芯材・支持体までを考察
第3週	課題１エスキース	アイデアスケッチからマケット制作など
第4週	課題１実制作①	芯棒制作、スタッフ（繊維状補強材）にて補強
第5週	課題１実制作②	石膏直付けと成形（盛り付け・削り）
第6週	課題１実制作③	石膏直付けと成形（盛り付け・削り）荒らし・研磨
第7週	課題１実制作④	仕上げ作業（必要に応じて台座の制作・組み立て）
第8週	課題１提出	作品発表・個人講評・振り返りとまとめ
第9週	課題②エスキース	アイデアスケッチからマケット制作など
第10週	課題２実制作①	芯棒制作、スタッフ（繊維状補強材）にて補強
第11週	課題２実制作②	石膏直付けと成形（盛り付け・削り）
第12週	課題２実制作③	石膏直付けと成形（盛り付け・削り）荒らし・研磨
第13週	課題２実制作④	石膏直付けと成形、スタッフ補強等
第14週	課題２実制作⑤	仕上げ作業（必要に応じて台座の制作・組み立て）
第15週	課題２提出	作品発表・個人講評・振り返りとまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	統計学入門						
担当教員	中村　聖	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 1201		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

統計調査から得られた膨大なデータをそのまま解釈することはできません。目的に合った視点からデータを分析することで、はじめてそこから意味のある情報を引き出すことができます。本講義では、統計調査データを分析することを前提として、データ分析のために必要となる基礎的な知識を修得することをねらいとします。講義の前半では、調査から得られたデータを適切な方法で処理し、提示するための記述統計学を扱います。後半にかけては、統計的検定を用いて結果を客観的に評価するための推測統計学を取り上げます。

到達目標

1．記述統計学の基礎を修得する
統計量によって示される結果から、変数の特徴および異なる変数間の関係を解釈することができる。

2．推測統計学の基礎を修得する
推定の理論的背景について説明することができる。
統計的検定を用いて、変数間の関係性の有無および大きさを判断することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験	70		
課題とワークシートへの取り組み状況	30		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

神林博史・三輪哲　『社会調査のための統計学　－生きた実例で理解する－』 技術評論社、2011年

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回、授業の終わりに、データ分析に関する課題を提示する。次回の授業時に解説を行う。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅰ群に該当しています。
第2回授業時までに、電卓を用意してください。詳しくは初回授業時に説明します。
パソコンを使用する際は持参してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	講義のオリエンテーション、データとは（尺度水準、量的変数、質的変数）
第2週	データの基礎集計①	変数の分布と中心（度数分布表、平均値、中央値、最頻値、ヒストグラム）
第3週	データの基礎集計②	変数のばらつき（範囲、分位数、分散、標準偏差）
第4週	データの基礎集計③	変数のばらつきを考慮した比較（標準化と標準得点）
第5週	変数間の関連①	量的変数の関係（共分散、相関係数、散布図、相関関係と因果関係）
第6週	変数間の関連②	質的変数の関係（クロス集計表、オッズ比）
第7週	変数間の関連③	相関関係と因果関係（因果関係、疑似相関、媒介関係、3重クロス集計表）
第8週	推測統計学の基礎①	母集団と標本（母集団、標本、無作為抽出）
第9週	推測統計学の基礎②	統計的推定の考え方（標本抽出分布、中心極限定理、点推定、区間推定）
第10週	推測統計学の基礎③	統計的検定の考え方（帰無仮説と対立仮説、検定統計量、限界値と棄却域、第1種の過誤と第2種の過誤、両側検定と片側検定）
第11週	推測統計学の基礎についての振り返り	ワークシートによる振り返り（母集団と標本、中心極限定理、帰無仮説と対立仮説）
第12週	統計的検定①	クロス集計表の統計的検定（期待度数、観測度数、カイ2乗値、カイ2乗検定）
第13週	統計的検定②	平均値の差の統計的検定 （t値、t検定）
第14週	統計的検定③	3つ以上の平均値の差の検定 （F値、分散分析）
第15週	全体のまとめと定期試験	テスト問題のフィードバック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地方自治入門						
担当教員	鹿谷　雄一	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 1501		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

現代日本における地方自治の基礎的なしくみと機能について理解する。
住民（有権者）、地方議員（議会）、都道府県知事・市町村長（首長）やこれらを支える地方公務員それぞれの役割について学び、政治・行政・財政・政策などの視点を踏まえながら地方自治を取り巻く環境や諸課題への対応について理解を深める。また、地方自治の主人公として、住民が参加する意義について理解を深めるとともに、具体的な取組事例について考察することで、必要な方策のあり方を考え理解を深める。

到達目標

1．地方自治に関する基礎的なしくみの知識を習得し、自治体の意義と機能について説明することができる。
2．地方自治体の運営を支えるしくみとそのあり方について説明することができる。
3．地方自治の主人公として、自治体の活動について自分の意見・考えをまとめることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーション・スキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
小課題（10回）	25%		
小テスト（２回：第５週と第９週）	20%		
レポート（第11週提示予定）	25%		
学期末試験	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

馬場健・南島和久編著『地方自治入門』法律文化社、2023年。
今井照『地方自治講義』ちくま新書、2017年。
これらのほか、授業内で提示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
小課題は授業内容を踏まえて調べまとめるもので、授業の内容や資料の見直しをおこないながら取り組むこと。 新聞・ニュースに日々接するとともに、興味のある分野について情報を収集すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

小課題は、授業内容を踏まえて、自治体の状況について継続して調べることになる。
レポートは、小課題で調べた内容を踏まえて作成することになる。
小テストの実施、小課題・レポートの提出、これらのフィードバックのほか、授業資料の配布はLMSでおこなう。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	1．イントロダクション 2．地方自治の重要性	地方自治をめぐる関心の全体像の確認。 地方自治の意義の確認。
第2週	憲法における地方自治	日本国憲法における地方自治の位置づけについて考察。 地方自治に関する多様な法について確認。
第3週	自治体の統治のしくみ	二元代表制といわれる地方自治制度について考察。 地方自治に関わる主な主体（アクター）について確認。
第4週	住民の権利と地方選挙	住民のさまざまな権利について考察。 地方選挙の特徴について考察。
第5週	地方議会と議員の活動	住民の代表である公選議員で構成される地方議会について考察。 地方議会の改革の方向性について考察。
第6週	知事・市町村長の役割と自治体の組織	住民の代表である公選首長（知事・市町村長）の役割について考察。 首長を支える組織について考察。
第7週	地方自治を支える公務員の役割	全体の奉仕者である地方公務員について考察。 地方公務員を取り巻く状況について考察。
第8週	地方自治の歴史と地方分権	明治維新後の自治制度とその展開について考察。 戦後改革、地方分権改革による地方自治の変化について考察。
第9週	広域行政と狭域行政	複数の自治体による広域行政について考察。 コミュニティ・町内会や都市内分権などによる狭域行政について考察。
第10週	自治体の政策と計画	自治体の未来の行動手段となる諸計画について考察。 自治体における政策とその評価について考察。
第11週	自治体の予算と財政	自治体の活動に必要となる財源の配分となる予算について考察。 国から地方への財政移転などについて考察。
第12週	自治体経営と公共施設	多様な手法により自治体のスリム化を目指す改革について考察。 自治体が所有する公共施設についての管理について考察。
第13週	特色ある自治体の条例	地方議会の議決によって制定される条例の特徴について考察。 全国の先進的な条例について考察。
第14週	住民参加の推進	住民の自治意識による住民参加について考察。 公共を担うために住民とのガバナンスの構築について考察。
第15週	1．授業内期末試験 2．多様な自治、住民自身の選択？	二元代表制以外の地方自治制度について考察。 自治体が制度を選択できる環境は可能かについて考察。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	法学入門						
担当教員	津幡　笑	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 1401		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

情報化、高齢化、雇用形態の多様化という社会の変化に応じて、法律は改正されあるいは新たな法律が制定されている。社会の変化は、法律の変化をもたらしている。社会の変化を知ることと同時に法律の変化を日常生活でのいろいろな場面から知ることが重要である。日常生活を送る中で出会う事件や事故と法律の関連を知り、法律の基礎となっている領域に関する法知識の修得を目指す。

到達目標

法律を理解する上で必要な基礎的概念を日常用語と法律用語との双方から理解することができる。本講義を通して、社会生活を営む中で接する事象の中から法律的問題が生じうる可能性を発見し回避するために必要な基礎知識を習得することができる。基礎的な法律の専門用語を説明できる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

	学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験	70%		
小テスト	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前配布されるレジュメを読み込むこと。授業後は小テストの範囲を中心に復習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

講義内配布資料に記載されていない部分については、図書館に配架の法学入門に関する書籍を参考 にすること。講義で取り上げた内容は、定期試験の範囲となる。 「民法入門」、「民法A,B」、「知的財産法概論」及び「企業と法」は、「法学入門」を履修済みであることを前提に講義が展開される。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	法学の基礎知識
第2週	法律の構造、法律用語	
第3週	法の分類、裁判の仕組み	
第4週	条文の読み方、法学の学習について	
第5週	民法（1）	民法ってどんな法律？民法の基本原理
第6週	民法（2）	民法の規定から考える民法の考え方
第7週	民法（3）	物権・債権
第8週	憲法（1）	国の基本法としての憲法
第9週	憲法（2）	人権
第10週	憲法（3）	統治機構
第11週	刑法	刑法概論
第12週	行政法（1）	行政法の基礎
第13週	行政法（2）	行政事件訴訟法、行政手続法
第14週	フィールドワーク	裁判所に裁判の傍聴に行ってみよう
第15週	まとめと到達度チェック	まとめと到達度チェック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	経済学入門						
担当教員	澁谷　朋樹	配当年次	1年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 1301		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

本講義は、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎的体系を理解するとともに、経済に関する情報を理論的・論理的に捉える基本的な力を養うことが目的である。その際に、日本における実際の経済事象に関する出来事や社会の仕組みに関しても説明していく。また、地域経済を分析するための手法を紹介する。

到達目標

①経済の基本的な仕組みを理解することができる
②経済学の基本的な考え方を理解することができる
③各種データを活用しながら、日本経済の全体像を把握することができる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
期末レポート	50%		
小テスト	20%		
コメントペーパー	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

N・グレゴリー・マンキュー／片桐満他訳（2025）『マンキュー 入門経済学［第4版］』センゲージ・ラーニング株式会社
※その他のものは、必要に応じて紹介する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
日頃から各メディアの報道を通じて、国内外の経済動向に目を向けておくこと。授業後は、内容をノートに整理して復習に役立てること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この科目は、オンデマンド形式で進めます。コメントペーパーを通じて寄せられた質問等は、次回以降の講義に回答します。小テストのフィードバックは講義内で行います。なお、時事問題を取り上げる予定なので、必ずしも授業計画に沿って進めるとは限りません。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	講義概要や評価方法、注意事項等の説明
第2週	経済学の基本	経済学の基本的な考え方
第3週	需要と供給	需要曲線、供給曲線、市場メカニズム
第4週	消費者行動の理論	消費者の嗜好、予算制約と消費選択
第5週	企業行動の理論	生産費用と生産量、完全競争
第6週	市場構造	完全競争市場の調整メカニズム
第7週	市場の効率性	効率的な資源配分、不完全競争と独占
第8週	市場の失敗と政府の役割①	外部経済と政府介入
第9週	市場の失敗と政府の役割②	公共財とは、公共財の最適供給
第10週	GDPとは	三面等価の原則、名目と実質、景気循環の考え方
第11週	総需要と総供給	総需要曲線、総供給曲線
第12週	生産と成長	生産性、経済成長と公共政策
第13週	貨幣と金融	貨幣とは、貯蓄・投資、金融政策
第14週	財政と社会	歳入・歳出、日本の財政赤字
第15週	少子高齢化と経済社会	福祉レジーム、日本の社会保障政策
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	経営学入門						
担当教員	五十嵐　誠	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2302		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

現代社会において、企業や組織の活動は、私たちの暮らしや社会の仕組みと密接に関わりがあります。本授業では、企業がどのような考え方に基づき意思決定し、社会に価値を提供しているのかを体系的に学ぶ。授業を通じて、学生が経営という社会的活動の基本を理解し、社会の仕組みを多角的に考える視点を身につけることを目指す。
経営学の理論、用語を受動的に学ぶだけではなく、事例紹介やグループワーク、課題提出を通じて、学生が主体的に考えられるような授業運営をしていく。

到達目標

①経営学の基本用語や考え方を理解し、企業の経営について分析し、自分の言葉で説明できるようになる
②経営の視点から社会やニュースに関心を持ち、自分の意見を考えることができる
③自分の働き方やキャリアについて、経営の視点を持って将来考えられるようになる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。	3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・介護・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
講義時におけるワーク（ディスカッション、アンケー	20%		
講義毎の事後課題	40%		
最終レポート	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付する。』					

参考書等

『1からの経営学(第3版)』吉村 典久他（碩学舎）
『新しい経営学』三谷 宏治（ディスカヴァー・トゥエンティワン）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

・1996年4月～2016年9月：NTT東日本に入社し、営業、サービス開発、経営企画、コールセンター運営等の幅広い業務に従事しながら、大学院にてMBA取得
・2016年10月～2020年11月：札幌のITベンチャーであるエコモット株式会社の経営企画担当役員として、札証アンビシャス、東証マザーズ

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習として、講師が指示する内容についてニュース、インターネット等で調べて、自身の考えを整理しておくこと。復習として、授業にて学んだ内容に関する事後課題を提出すること。	2～3時間程度/週

受講時の注意事項

全ての授業にてワーク（ディスカッション、アンケート、クイズ等）を実施するので、PC、スマートフォン、タブレット端末等のインターネット接続可能なデバイスを用意すること。
受講生のニーズを踏まえて　内容を変更することがある。

アクティブ・ラーニング情報

ディスカッションやグループワーク、発表なども多いのでパソコン関連やプレゼン関連の授業を復習しておいてください。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の概要、成績評価方法、注意事項の説明
第2週	経営学とは何か	経営学を学ぶ意味、企業・組織と社会のつながりについて
第3週	企業の目的と社会的責任	企業の存在意義、CSR、ステークホルダーの考え方について
第4週	経営戦略の基本①	経営戦略とは何か？／企業環境の捉え方（外部分析・内部分析）について
第5週	経営戦略の基本②	SWOT分析、競争優位性、戦略目標の立て方について
第6週	経営戦略の実践①	実際の企業事例に基づいた戦略実行プロセスについて
第7週	経営戦略の実践②	ケーススタディ形式で経営戦略を策定する
第8週	組織マネジメントと人的資源	組織文化、組織構成、リーダーシップとダイバーシティについて
第9週	マーケティングの基本	環境分析、STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）、マーケティングミックス（4P）等について
第10週	マーケティングの実践	実際の企業事例に基づいたマーケティング戦略について
第11週	ナレッジマネジメントとDX	経営資源としての情報利活用について
第12週	グローバル化と中小企業経営	多国籍企業、地域密着型企業、ベンチャー企業の特性について
第13週	SDGsと持続可能な経営	社会課題への対応と経営の新たな役割について
第14週	将来の働き方とキャリア	キャリア形成、多様な働き方、自分にとっての「働く」とは
第15週	まとめと振り返り	全体の復習と理解度の確認
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	現代社会と福祉						
担当教員	西浦　功	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 1601		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

世界有数の豊かな国であるはずの日本でも、日常生活に様々な課題を抱える人は数多い。彼らの悩みを生み出す社会的背景を理解しつつ、現実的な支援のあり方を考える力を身につけることが、本講義の目的である。本講義では、高齢者及び障害者の福祉のみならず、子育てや教育・労働現場等の様々な領域における福祉の事例について解説する。また社会福祉の方法論の一部を実際に体験する機会を設けつつ、様々な社会問題の解決に対して福祉が担う役割についての理解を深める。

到達目標

①福祉のしくみについて大まかに説明できること
②福祉を必要とする人々の抱える悩みと背景を説明できること
③望ましい福祉のあり方を自ら考え提案できること

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加態度	４０		
授業内試験	４０		
中間レポート	２０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各回の授業終了時に課題を出すので、よく学習したうえで次回の授業に臨むこと。また、講義レジュメで空欄補充を要するところは学期末試験の出題範囲となるので、よく復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

毎回の講義で提出を課すレスポンスシートで出席確認／参加態度評価を行うため、出し忘れのないように注意すること。また授業時に課題のフィードバックを実施する。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、現代社会と福祉	
第2週	福祉と社会保障、生活を守るための様々なしくみ	
第3週	公的扶助のしくみと課題	
第4週	貧困問題の背景と対策	
第5週	家族と福祉のかかわり	
第6週	高齢者介護の今・むかし	
第7週	障害とは何かを考える	
第8週	障害者と脱施設化	
第9週	自立生活運動の目指すものは何か	
第10週	育児をめぐる諸問題①	育児に関する「常識」を疑う
第11週	育児をめぐる諸問題②	母親の「育児不安」の背景
第12週	不登校問題の背景や支援のあり方	
第13週	なぜ人は過労死するか―その背景と対策	
第14週	認知症から考える高齢者ケア	
第15週	総括―福祉と家族と専門職／授業内試験	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	観光社会学						
担当教員	仙波　希望	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 3711		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

観光を社会学するとは一体どのようなことなのか。
かつてダニエル・ブーアスティンは『幻影の時代』のなかで、19世紀半ばを過ぎた頃から、英語において新たな言葉として「観光客 tourist」というものが登場し、その辞書的定義が「楽しむために旅行する人」であったと指摘しています。
しかし昨今のダークツーリズムの隆盛やオーバーツーリズムに対する警鐘をみてとっても、単に「楽しい」ものとして観光を捉えることは明らかに困難です。
観光とはまさに社会学の黎明期に現れた現象です。同時に近代を特徴づける営為でもある。
本講義ではこの観光社会学における多様な観点を、前半部では主にキーワードをもとに整理し、後半部では北海道阿寒湖畔のアイヌコタン、修学旅行、アートによるまちおこしといったケーススタディをもとに、みなさんで議論していきたいと思います。

到達目標

【1】現代観光の特徴を理解し，社会現象としての観光が理解できるようになること。
【2】多様なキーワードを介しつつ観光をめぐる諸問題を広い観点で理解できるようになること。
【3】観光事象の分析を通して、社会の変遷過程を理解できるようになること。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加の度合い（コメント・ディスカッション	30		
中間レポート	30		
最終レポート	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

広告企業にてコピーライター・ディレクター業務に従事。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内容に関連した資料は，事前に共有するので、必ず予習として熟読してくること。授業後は，内容を整理するとともに授業内レポートの復習を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・Google FormによるQ&Rシステムを活用する
・随時ショート＆ロングディスカッションの機会を設ける
・レポート執筆時におけるピアレビューを実施する

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	(1)イントロダクション	観光社会学というレンズからいかに「観光」という現象を考えらえるか。本講義全体にかかわる問いを提示します。
第2週	(2)1965年の常磐ハワイアンセンター(1)	炭鉱の街から「ハワイ」へと変貌をとげた街を題材に、映像作品なども活用し観光にまつわる多様なアクター、課題について学びます。
第3週	(3)1965年の常磐ハワイアンセンター(2)	炭鉱の街から「ハワイ」へと変貌をとげた街を題材に、映像作品なども活用し観光にまつわる多様なアクター、課題について学びます。
第4週	(4)観光社会学の基本概念を学ぶ(1)観光のまなざし／真正性	テーマにあげたキーワードをもとに、観光社会学における基本的な枠組みについて学習します。
第5週	(5)観光社会学の基本概念を学ぶ(2)シミュレーション・ディズニーランド／感情労働とホスピタリティ	テーマにあげたキーワードをもとに、観光社会学における基本的な枠組みについて学習します。
第6週	(6)観光社会学の基本概念を学ぶ(3)ジェンダー／ポストコロニアル／伝統の創造	テーマにあげたキーワードをもとに、観光社会学における基本的な枠組みについて学習します。
第7週	(7)中間レポートレポート・ピアレビュー	中間課題のレポートを各自持参し、ピアレビューならびにディスカッションを行います。
第8週	(8)文化の客体化と現代の観光(1)	北海道阿寒湖畔のアイヌコタンを検討主題とし、映像作品などをとおして文化・伝統と観光地化のあいだにみられる様々な葛藤――文化の客体化論――について議論します。
第9週	(9)文化の客体化と現代の観光(2)	北海道阿寒湖畔のアイヌコタンを検討主題とし、映像作品などをとおして文化・伝統と観光地化のあいだにみられる様々な葛藤――文化の客体化論――について議論します。
第10週	(10)修学旅行とツーリズム(1)：戦前―戦後の連続性	伊勢・京都・奈良への修学旅行が人気になり、また再起動する過程を戦前―戦後をつうじて捉え返します。
第11週	(11)修学旅行とツーリズム(2)：ピースツーリズムを考える	広島・長崎を目的地に実施される修学旅行から、現在のピースツーリズムの課題について考えます。
第12週	(12)現代アートとツーリズム(1)：アート、ジェンダー、ツーリズム	昨今注目をあつめる現代アートと芸術祭を主題に、ジェンダーとツーリズムの関係性について議論します。
第13週	(13)現代アートとツーリズム(2)：アート、ジェンダー、ツーリズム	昨今注目をあつめる現代アートと芸術祭を主題に、ジェンダーとツーリズムの関係性について議論します。
第14週	(14)最終レポート・ピアレビュー	最終課題のレポートを各自持参し、ピアレビューならびにディスカッションを行います。
第15週	(15)サマリー	講義全体の総括を行い、修正レポートを提出します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	コミュニケーションの社会学						
担当教員	西脇　裕之	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 1503		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業の目標は、コミュニケーションの基礎と諸問題について社会学の観点から理解することです。
かつてはメディアがコミュニケーションを促進し、民主主義を発展させるという楽観的な考え方がありました。しかし、現代ではインターネットが社会を分断するのではないかという危惧が抱かれています。他方で、日本社会では社会化の過程において、同調性の能力はよく獲得されても、自律性が発揮されにくいということが以前より指摘されてきました。
この授業ではコミュニケーションの成り立ちについての基礎を学ぶとともに、現代そして日本社会におけるコミュニケーションをめぐるさまざまな問題を取り上げて論じていきます。

到達目標

1．私たちのコミュニケーションがどのようにして成立するのか、その基礎について説明できる。
2．集団や組織におけるコミュニケーションの問題とその対処法について論述できる。
3．現代のメディア環境や日本社会の特徴が引き起こすコミュニケーションの問題について論述できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
			4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーション・スキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・文化・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験（授業内試験）	60%		
各回の小課題（授業内で記入、提出）	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

田中辰雄、浜屋　敏（著）『ネットは社会を分断しない』角川新書
岡本浩一（著）『無責任の構造』PHP新書

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習＝授業の最後に次回の内容の簡単なガイダンスを行い、キーワード等を予告するので各自で調べて授業に臨むこと。 復習＝返却された課題を振り返り、自分なりの模範解答を作成すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は基本的に講義形式ですが、途中にグループワークを差しはさむ回があります。各回の小課題については次回の授業時にフィードバックし、解説を加えて復習します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	シラバスの内容を確認するとともに、この科目で取り上げる主なトピックを紹介します。
第2週	毛づくろいと立証ゲーム	コミュニケーションには大きく分けて、職場で仕事を遂行するためのコミュニケーションと友人関係を維持するためのコミュニケーションという2つのモードがあります。それぞれの特徴について学びます。
第3週	気持ちのわかりあい	日本的なコミュニケーションの特徴を紹介し、その特徴がどのような歴史的な経緯で生まれきたのか、地域移動と社会移動の活発さという観点から見ていきます。
第4週	欲望の三角形	人間の欲望は他人の欲望の模倣から成り立つという理論を紹介し、その理論にもとづいて羨望や嫉妬などの感情の成立について考えます。
第5週	パロティングと沈黙のらせん	ある世論調査の結果をもとに、マスメディアが私たちの意見の形成や意見の表明にどのような影響を及ぼしているのか、考えます。
第6週	管理放送・表示とパターナリズム	日本の公共空間は、人びとを誘導したり管理したりする放送やサインであふれています。どのような理由でこうした現状になっているのか、日本的なコミュニケーションの特徴から考えます。
第7週	「みんな」とは違う意見を言えるか	同調の実験研究をもとに、「みんな」に合わせて自分の意見を言えなくなってしまう現象について論じます。はたして、同調を引き起こしてしまう「みんな」とは何人なのか。自分の意見を表明しにくくなるのはどのような場合か、逆に自分の意見を表明しやすくなるのはどのような
第8週	ディコミュニケーションの機能	ディスコミュニケーションとは対話における意味のすれ違いを指します。ディスコミュニケーションがもたらす暴力性やプラスの機能について、実際の事件や『ドン・キホーテ』の物語を例にして考えます。
第9週	まちがい主義と発想法	人間は完璧な真理や理解に到達はできないとしても、まちがいを重ねていくことで少しずつまちがいを減らしていくことができるという考え方を紹介します。この考え方にもとづいて、コミュニケーションも常に暫定的な理解のもとに進んでいくということについて考えます。
第10週	ネットは社会の分断を促すか	「ネットでは極端な主張が目につきやすく、人びとが選択的に情報接触をしやすいために、社会の分断が促進される」という仮説を紹介します。素材として自粛警察、キャンセルカルチャー、タイパなどの現代の現象を取り上げます。
第11週	ネット原因説を検証する	前週で取り上げた「ネットが社会の分断を促す」という仮説は本当に正しいのか。批判的な研究も紹介しつつ、SNSを中心にネットの影響について考えます。
第12週	集団討議のゆくえ	集団で話し合えばお互いにチェックが働き、慎重な結論に落ち着くのか。社会的手抜き、社会的促進という現象が起こると、集団討議のゆくえはどうなりやすいのか。その課題と対処の方法について考えます。
第13週	自由からの逃走	現代では世界の国々の半分以上が民主的というよりも権威主義的になっていると言われています。権威主義とは何なのか。かつてドイツ国民がなぜヒトラーを熱狂的に支持したのか。歴史から学ぶとともに、権威主義を個人の特性と組織の特性の両面から理解していきます。
第14週	組織における属人主義の罠	日本の組織に多く見られる権威主義の一種である属人主義が引き起こす問題について紹介し、その対処法を考えます。
第15週	振り返りとまとめ・授業内試験	授業の全体を振り返り、授業内で期末試験を行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地域社会とICT						
担当教員	井門　正美	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 1601		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

①学生が、わが国及び北海道の人口減少と少子高齢化の実態から、国や地方自治体の進める地方創生策について理解する。
②学生が、地方創生策と関連して国や地方自治体の進める「Society5.0」(ICT)について具体的事例に基づき理解する。
③学生が、北海道の地方創生策におけるICTの果たす役割について考究し、具体的事例地を挙げて提案することができる。

到達目標

①学生が、システム思考を身に付け、人口減少・少子高齢化におけるわが国と地域社会の実態と課題を捉えることができる。
②学生が、わが国の地方創生策としての「Society5.0」(ICT)」について理解し、ICT化による北海道の地域活性化策を調べることができる。
③学生が、役割実践法(役割体験学習論)を理解し、受講者同士の協同学習によって、北海道の地域的課題解決に向けて提案することができる。
④学生が、ICT機器を活用し、調べ学習を通してプレゼンテーションのスライド作りを行い、提案することができる。
⑤学生が、自身の発表を自己評価すると共に、仲間の発表に対して適切にコメントすることができる。
⑥学生が、講義のまとめとして、最終課題であるレポートを完成させることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・人間・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
受講記録カード(15回分)に毎回講義終了後に学んだこ	30		
テーマに関する調べ学習を行った後、プレゼンテー	30		
プレゼンテーションについては、自身のプレゼンの自	10		
最終レポートは、講義(第１部～第３部、役割体験セッ	30		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『学びの臨場感を醸成するオンライン授業ゲーミング』	井門正美	1500円＋税	2023	978-4-921102-56-2	電子書籍 初回授業で直接渡しま

参考書等

なし。授業内やClassroom投稿で随時紹介します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

長く日本や諸地域の人口減少・少子高齢化問題や地方創生・地域活性化について研究をしてきました。昨今は、アイヌの人々、その文化や歴史を理解するプロジェクトを推進してきました。こうした成果を皆さんの授業でも紹介したいと思います。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業のコマによって事前事後学習は異なりますが、概ね1コマにつき、事前事後各90分程度を必要とします。 3時間程度／週	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

当然のことですが、授業中の私語、居眠りなどはしないで下さい。私の授業は受講している学生の皆さんの協働的・体験的な学びを重視していますので、発言や討論などに積極的に参加して下さい。フレンドリーで和やかな授業にしたいと思いますので、宜しくお願い致します。
私は博士論文で「役割体験学習論」という教授学習理論を提案し、理論の継続的な発展と実践を20年以上取り組んできました。授業では、皆

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション 教員自己紹介、講義概要、受講記録カードの配布と説明、評価と評定等	教員が自己紹介を行った上で、少人数の場合には学生も自己紹介を行う。 その上で、講義概要を伝え、受講の仕方、受講記録カードへの記入、評価と評定等について話し、講義全体の見通しを学生に持たせる。
第2週	第１部「地域社会」を捉える① 日本の人口減少問題と地方創生－まち・ひと・しごと創生－	「消滅可能性都市」の話題を導入として、わが国の人口減少・少子高齢化問題について関心を持たせる。 その上で、わが国の地方創生策「まち・ひと・しごと創生」(第1期)を取り上げ、データに基づ
第3週	第１部「地域社会」を捉える② 北海道の人口減少問題と地方創生－いくつかの事例地を取り上げて－	北海道の人口減少・少子高齢化問題に焦点を当てる。特に、五十嵐智嘉子氏の北海道の地域圏の捉え方(ダム機能、放水路)から、北海道の人口動態を把握する。最後に、第2期北海道創生総合戦略と第2期札幌未来創生プランに示された実態と活性化策を理解させる。
第4週	第１部「地域社会」を捉える　③北海道における地方創生化策－夕張市を手がかりに－	日本で唯一の財政再生団体である夕張市の財政破綻の経緯を紹介した上で、夕張市の長期ビジョンと総合戦略を取り上げ、データに基づきながら、夕張市の実態と活性化策を理解させる。
第5週	第２部「ICT」を捉える①「Society 5.0」とは－「第5期科学技術基本計画」－	国が進める第5期科学技術基本計画の中で主軸となる「Society 5.0」という未来社会がどのような社会なのかを、基本計画や内閣府の動画等を紹介して理解を図る。
第6週	第２部「ICT」を捉える② ICTの進展で社会がどう変わってゆくのか-産業の変化-	Society 5.0の未来社会は、スマートシティ(スマートローカル)がキーワードとなる。ICT化が進展したスマートシティ・スマートローカルは、どのような社会なのか、特に産業分野ごとのICT化について、進行事例を紹介して理解させる。
第7週	第２部「ICT」を捉える③ ICTの進展で社会がどう変わってゆくのか-スマートシティ-	スマートシティ・スマートローカルについて、トヨタ自動車が進める実験都市「Woven City」やその他の事例を文献・資料や動画などを取り上げて紹介し、未来社会に向けた最新の取り組みについて把握させる。
第8週	第２部「ICT」を捉える④ ICTの進展で社会がどう変わってゆくのか-デジタル田園都市国家構	岸田政権が2021年度から始めた地方創生策について、すでに紹介した総合戦略(1期・2期)との関わりを説明し、この「デジタル田園都市国家構想」がどのような地方創生策なのか捉えさせる。
第9週	第３部「役割体験ワークショップ」① 役割体験とGS「北海道創生」－シ	これまで学んだ第１部(地域社会を捉える)と第2部(ICTを捉える)をベースにして、北海道の地方創生をどうすればよいのか。学生が「北海道庁若手職員」という役柄を担って、人口減少や地域活性化策等について提案する学習を第３部で行う。
第10週	第３部「役割体験ワークショップ」② 役割体験とGS「北海道創生」－調	学生が自身の担当したテーマについて調べ学習を行い、プレゼン用スライドを作成する。 調べ方、スライド作成の仕方など、分からないことは教員が随時学生の質問に対応する。
第11週	第３部「役割体験ワークショップ」③ 役割体験とGS「北海道創生」－調	学生が自身の担当したテーマについて調べ学習を行い、プレゼン用スライドを作成する。 調べ方、スライド作成の仕方など、分からないことは教員が随時学生の質問に対応する。
第12週	第３部「役割体験ワークショップ」④ 役割体験とGS「北海道創生」－調	学生が自身の担当したテーマについて調べ学習を行い、プレゼン用スライドを作成する。 調べ方、スライド作成の仕方など、分からないことは教員が随時学生の質問に対応する。
第13週	第３部「役割体験ワークショップ」⑥ 役割体験とGS「北海道創生」－調	学生が自身の担当したテーマについて調べ学習を行い、プレゼン用スライドを作成する。 調べ方、スライド作成の仕方など、分からないことは教員が随時学生の質問に対応する。
第14週	第３部「役割体験ワークショップ」⑦ 役割体験とGS「北海道創生」事後	学生が作成したスライドを用いて北海道の人口減少問題や活性化策について提案する。提案に対しては他の学生からが質問を行ったり、教士がコメントをする。
第15週	講義のまとめ 講義を振り返る、評価と評定、課題「私の考えるICTを活用した北海道	これまでの講義のまとめを行う。 その上で、最終課題を伝え、受講記録カード、プレゼンスライド完成版、学びに関するレポートの提出について提出方法や期限を伝える。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ソルフェージュCa						
担当教員	小山　隼平	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2003		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜 に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、 視唱、試奏、リズム打ちに加え、楽譜を用いず音楽を聴くことだけで行う分析や、移調奏・移調唱、伴奏付けなどを、習熟度に応じて設定します。

到達目標

①習熟度に応じた読譜・記譜ができる。
②様々な種類の様式や楽譜に対応し、演奏できる。
③耳で聴いた楽曲を分析的にとらえることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
クラス別試験	40%		
全クラス統一試験	40%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で扱った課題をよく見直し、必要に応じて練習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各自で五線紙を用意してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、クラ ス別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	
第2週	基礎的な課題①	視唱
第3週	基礎的な課題②	和音のききとり
第4週	基礎的な課題③	和音付け
第5週	基礎的な課題④	伴奏付け
第6週	札幌コンサートホールKitaraでのパイプオルガン特別講義（5/22）	
第7週	基礎的な課題⑤	転調を含む和音
第8週	基礎的な課題⑥	転調を含む伴奏
第9週	基礎的な課題⑦	伴奏の移調
第10週	応用的な課題①	和音付け
第11週	応用的な課題②	伴奏付け
第12週	応用的な課題③	転調を含む和音
第13週	応用的な課題④	伴奏の移調
第14週	クラス別試験とまとめ	
第15週	全クラス統一試験とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ソルフェージュDa						
担当教員	小山　隼平	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2004		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜 に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、 視唱、試奏、リズム打ちに加え、楽譜を用いず音楽を聴くことだけで行う分析や、移調奏・移調唱、即興的な 伴奏付けなどを、習熟度に応じて設定します。

到達目標

①習熟度に応じた読譜・記譜ができる。
②様々な種類の様式や楽譜に対応し、演奏できる。
③耳で聴いた楽曲を分析的にとらえ、表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
クラス別試験	40%		
全クラス統一試験	40%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で扱った課題をよく見直し、必要に応じて練習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各自で五線紙を用意してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、クラス別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	
第2週	基礎的な課題①	楽器のききとり
第3週	基礎的な課題②	編成のききとり
第4週	基礎的な課題③	アンサンブルのききとり
第5週	基礎的な課題④	管弦楽の聴音
第6週	基礎的な課題⑤	分析
第7週	基礎的な課題⑥	小編成のスコアリーディング
第8週	基礎的な課題⑦	大編成のスコアリーディング
第9週	応用的な課題①	編成のききとり
第10週	応用的な課題②	分析
第11週	応用的な課題③	管弦楽の聴音
第12週	応用的な課題④	スコアリーディング
第13週	応用的な課題⑤	総合的な課題
第14週	クラス別試験とまとめ	
第15週	全クラス統一試験とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽史Ａ						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	２年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

① 単に音楽作品の歴史的発展を辿るだけではなく、音楽に関わる人間の文化的・社会的な営みを、歴史的な文脈のなかで幅広く理解する。
② 中世におけるグレゴリオ聖歌と教会音楽の発達、ルネサンス時代の教会音楽と世俗音楽、バロック時代、古典派のそれぞれの音楽様式を理解する。

到達目標

① 各時代固有の音楽様式や形式が理解され、聴き取れるようになる。
② 各ジャンル等の成立背景、演奏環境の特徴と作品との関連が説明できる。
③この講義を通して得た知識を、自分自身の専攻分野に実践的に活かすことができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート課題１	30%		
レポート課題2	30%		
レポート課題3	30%		
出席フォーム等による意見	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考

参考書等

『西洋音楽の歴史』　高橋 浩子他著　東京書籍

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
教科書を用いた予習、教科書・講義スライドによる復習	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

レポート課題は提出締め切りを厳守すること。期限内に提出されたレポートについてはコメントを付けて返却し直したものを再提出することでフィードバックします。また講義についての意見等を適宜授業クラスルーム内で紹介します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	中世におけるグレゴリオ聖歌の成立と多声音楽の誕生	キリスト教の隆盛と典礼様式の確立／ミサと聖務日課／グレゴリオ聖歌の概要とネウマ譜、教会旋法／初期ポリフォニーとしてのオルガヌム
第2週	ルネサンス① 多声音楽の発展	ブルゴーニュ楽派／フランドル楽派の作曲様式と作品
第3週	ルネサンス② 世俗音楽、器楽	ルネサンス時代のマドリガル・シャンソン、器楽ジャンルと楽器
第4週	ルネサンス③バロックへの移行	過渡期の様式としてのヴェネツィア楽派、プロテスタント教会の成立とコラール
第5週	バロック① オペラの誕生	バロック音楽の概要／フィレンツェにおけるオペラの成立／ヴェネツィアにおける商業オペラの成立
第6週	バロック② 教会音楽	オペラの影響を受けた教会音楽／オラトリオ／受難曲／カンタータ
第7週	バロック③ 器楽	声楽から器楽の独立／バロックソナタの分類と具体的作品／トッカータとフーガ
第8週	バロック②④器楽	バロック協奏曲の成立
第9週	初期古典派の音楽① 交響曲の発達	ギャラント様式と多感様式／ソナタ形式の充実／交響曲の発達
第10週	初期古典派の音楽② オペラの発展①	メタスタジオによる台本改革／セリアとブッファ／グルックのオペラ改革
第11週	古典派① ハイドンの創作と勤機労作	ソナタ形式の新たな発展／ハイドンの創作
第12週	古典派② モーツァルトのオペラ	モーツァルトのオペラ創作概観／「フィガロの結婚」／「魔笛」
第13週	古典派③モーツァルトの器楽	モーツァルトの創作概観／協奏曲／交響曲
第14週	古典派④ベートーヴェンの器楽１	ベートーヴェンの創作概観／ピアノソナタにおける古典派様式の変化／交響曲「英雄」
第15週	古典派④ベートーヴェンの器楽２	中期から晩年にかけての創作概観／交響曲「運命」「第九」
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽史Ｂ						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	２年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

① 単に音楽作品の歴史的発展を辿るだけではなく、音楽に関わる人間の文化的・社会的な営みを、歴史的な文脈のなかで幅広く理解する。
② 19世紀から、近代、20世紀までの西洋音楽及び明治時代以降の日本の洋楽それぞれの音楽の特徴と時代背景との関わりを理解する。

到達目標

① 各時代固有の音楽様式や形式が聴き取れるようになる。
② 各ジャンル等の成立背景、演奏環境の特徴と作品との関連が説明できる。
③講義で得た知識を、自分自身の専攻分野に実践的に活動できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート課題１	30%		
レポート課題2	30%		
レポート課題3	30%		
出席フォーム等での意見	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考

参考書等

『西洋音楽の歴史』　髙橋浩子他著　東京書籍

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
教科書による予習、教科書と講義スライドによる復習	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

レポート課題の締切を厳守すること。レポート課題については、最初に提出したものをコメントを付けて返却し、再提出することでフィードバックします。出席フォームで講義内容への意見を出してもらい、適宜クラスルーム内で意見を紹介します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	19世紀① ドイツ・リート①	ドイツ・リートの隆盛の背景／リートの形式
第2週	19世紀② ドイツ・リート②	連作歌曲形式／19世紀後半のドイツ・リートの変容：保守派と革新派
第3週	19世紀③ ピアノ音楽:性格小品とヴィルトゥオーゾ	パガニーニとリスト／リストの超絶技巧とピアノ改良／性格小品の典型としてのノクターンとショパン
第4週	19世紀④ 標題音楽的傾向の管弦楽	ベートーヴェン以降の交響曲の発達／ベルリオーズ「幻想交響曲」
第5週	19世紀⑤ 絶対音楽的傾向の管弦楽	19世紀後半の交響曲概観／シューベルト／メンデルスゾーン、シューマン／ブラームス
第6週	19世紀⑥ イタリア・オペラ	ベルカント・オペラ／ヴェルディの創作①／ヴェルディの創作②
第7週	19世紀⑦ ドイツ・ロマン主義オペラ	ドイツ・ロマン主義とオペラ／ウェーバー「魔弾の射手」／ヴァーグナーのオペラ創作／楽劇の理念と技法
第8週	19世紀⑧ 民族主義的な傾向	19世紀後半における民族主義の背景／音楽的な民族主義／ロシア音楽
第9週	世紀末① フランス印象主義と音楽	フランス近代音楽の隆盛と背景／サン・サーンス、フランク、フォーレ／サティ、ドビュッシー
第10週	世紀末② 表現主義、12音音楽	世紀末ウィーンの時代背景と芸術／マーラー、シュトラウス／シェーンベルクの創作
第11週	リズムの革新	20世紀音楽におけるリズムの革新／ストラヴィンスキー、バルトーク、メシアン、ミニマル音楽
第12週	音響素材の拡大	音響素材の拡大／特殊奏法／打楽器音楽／具体音楽／電子音楽／偶然性の音楽
第13週	両大戦間の音楽：新古典主義、ソ連の音楽	第1次大戦後のヨーロッパ音楽／新古典主義／ソ連「社会主義リアリズム」
第14週	日本の洋楽受容１	日本の洋楽受容の特徴／明治期における洋楽受容／国歌、唱歌教育／滝廉太郎／明治初期の演奏家
第15週	日本の洋楽受容2	明治後期から昭和までの創作／山田耕作／民族派とアカデミズム派／戦後日本の前衛音楽
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本美術史Ａ						
担当教員	齊藤　千鶴子／寺嶋　弘道	配当年次	２年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2000		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

人間の創造性と感性の所産である美術について、多様な展開をとげた日本美術の歩みを各時代の代表作によって概観し、その基礎知識を学ぶとともに、人びとの暮らしや生活空間と密接に結びついた特徴的なテーマについて、時代と空間を往来しながらその特質を探求します。
また、学修者自身が美の所在を考え自らの言葉で表現し、またはその内容を他者と共有するなど、思索と考察を深めます。
さらにこれらの美術史を構成する美術作品が文化財として保護・活用され、新たな美的価値の創造に果たす美術館の役割や意義にも理解を深めつつ、機会をとらえて美術館において実作に触れ、創造性を学ぶ美的体験の一助とします。

到達目標

1　日本美術史の概略を理解し、様式や表現に関する基礎用語を適切に用いることができることを目指します。
2　日本美術の特質について、具体的な事例をあげて説明できることを目指します。
3　芸術文化の創造と伝播、技術や技法の発案と継承について、視覚芸術をめぐるさまざまな視点から考察することができることを目指します。
4　文化財の保護や美術史研究の場である美術館の機能を理解し、また、美術館での美的体験を他者と共有し考えを表現できることを目指します。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を掘起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
ミニレポートまたはセルフワーク（ほぼ毎回）	６０%		
中間テスト	１０%		
期末定期試験	２０%		
おすすめアート報告書（受講確認票15回）	１０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、山下裕二・髙岸輝『日本美術史』美術出版社、河野元昭 『日本美術史入門』平凡社、神林恒道・新関伸也『日本美術101鑑賞ガイドブック』三元社、『日本美術全集』(全20巻)小学館、『日本美術館』小学館

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、美術館館長・学芸員として実務経験のある教員が、創造性を探求する基本的な態度を実践的に指導します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・授業終了後は配付資料、ノート、参考書等を読み返し、講義テーマを整理しておくこと。 ・授業と直接・間接に関わるミニレポートまたはセルフワークを課題として提示しますので、速やかに作成し期限までに提出すること。学修者の思索や考察を促すこれらの課題は期末評価の比重が高いため、期限に遅れても必ず	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・各回とも作品画像を提示しながら授業を進めますので、授業終了後に復習し、受講確認票を兼ねた「おすすめアート報告書」を忘れず提出すること。
・ミニレポートやセルフワークは必要に応じ、提出期限後の授業で解説・評価・指導内容を例示し、またはＩＣＴを活用してフィードバック

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	文化財へのアプローチ	授業概要、シラバス、受講上の留意点、成績評価方法等を説明。 《世界遺産探訪 ― もう一人の平山郁夫とその美術館》 をテーマに、日本画家平山郁夫の業績を辿りつつ、芸術探求の態度を学びます。 〔寺嶋〕
第2週	縄文・弥生時代の美術	《岡本太郎の縄文発見@東京国立博物館》 をテーマに、芸術家岡本太郎の美的体験を通して古今の美の所在を探求します。 〔寺嶋〕
第3週	飛鳥・奈良時代の美術１ 仏教美術	《仏像から写経まで ― 奈良のトレンド検索》 をテーマに、古代日本の仏教美術を通観し、美の源流とその特質を探ります。 〔齊藤〕
第4週	飛鳥・奈良時代の美術２ 渡来文化	《正倉院宝物にみる東西 ― 日本のロイヤルコレクション》 をテーマに、文化芸術の伝播と受容の実相を検証します。 〔寺嶋〕
第5週	平安時代の美術１ 仏教建築	《浄土への祈り ― 「中尊寺」「平等院」と御仏の造形》 をテーマに、仏像を中心とした宗教芸術の空間構成や寺院建築の美のありようを考察します。 〔寺嶋〕
第6週	平安時代の美術２ 絵巻物	《国宝「源氏物語絵巻」と「鳥獣人物戯画」を読む》 をテーマに、日本美術の頂点をなす独自の絵画表現の特質を今日的観点もふまえてひも解きます。 〔齊藤〕
第7週	鎌倉時代の美術１ 仏像 中間テストの実施とそのフィードバック	《運慶・快慶、見参！ ― もののふの時代を生きる道》 をテーマに、この時代の仏像彫刻のあらましと仏師の表現の固有性を解き明かします。また、中間テストを実施し、その内容をフィードバックします。 〔寺嶋〕
第8週	鎌倉時代の美術２ 書跡	《墨蹟クローズアップ ― 親鸞上人の書》 をテーマに、中世日本で大きな発達を遂げた書の世界を概括し、伝統文化の継承の歴史を学びます。 〔齊藤〕
第9週	室町・桃山時代の美術	《文化の伝承 ― 茶の湯の美・もてなしの心としつらえ》 をテーマに、伝統芸術の様式美と受け継がれるその精神世界を今日の視点で振り返ります。 〔寺嶋〕
第10週	江戸時代の美術１ 障壁画	《厚岸・正行寺：よみがえった襖絵 ― 障壁画の時代を探る》 をテーマに、わが国独自の絵画様式の保護と修理の実情を検証します。 〔寺嶋〕
第11週	江戸時代の美術２ 浮世絵	《渓斎英泉と浮世絵の図像学 ― 江戸庶民の美意識》 をテーマに、近世日本で独自の発展を遂げた浮世絵芸術の諸相とその特質を探ります。 〔寺嶋〕
第12週	近代の美術１ 日本	《新旧アカデミズムの相克 ― 近代ニッポン・文明開化150年の光と影》 をテーマに、明治・大正・昭和戦前期の美術の潮流を西欧美術の動向とともに俯瞰します。 〔寺嶋〕
第13週	近代の美術２ 北海道	《有島武郎・三岸好太郎・本郷新 ― モダン北海道の創造者》 をテーマに、個性豊かな北海道の美術家の芸術性を関連作家の表現世界と対比しつつその特異性を明らかにします。 〔寺嶋〕
第14週	現代の美術	《ホワイトキューブのジレンマ ― ポップカルチャー時代の美術館》 をテーマに、今日の美術館が抱える課題を省みながら、美術の社会性と今後の姿を展望します。 〔寺嶋〕
第15週	フィールドワーク	市内の美術館を実際に訪問し、展覧会の調査と作品鑑賞を行い、史的な観点から自らの考えや気づきを考察し他者と共有します。実施日時は別途調整。 〔寺嶋〕
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本美術史Ｂ						
担当教員	平　利弘	配当年次	２年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

本授業では「日本美術史A」で学んだ日本美術の歩みの概要をふまえた上で、日本美術史の画期を彩った重要な絵師や仏師に焦点をあて、その足跡と代表的な作品を学ぶ。講義では、彼らがそれぞれの時代の潮流のなかで、いかに個性的創造を成し得たのかについて理解をめざす。この科目は、美術館学芸員としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っている。

到達目標

1 日本美術の重要な作家を知り、その作品や美意識を理解し、説明することができる。

2 各作家について、その時代における個性や独創性を理解し、説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
小課題(13回)	50%		
小レポート(2回)	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

源豊宗 著『日本美術の流れ』(新思索社、2006年)、辻惟雄 著『日本美術の歴史』(東京大学出版会、2005年)、『日本美術全集』(全20巻、小学館、1996年～)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、美術館学芸員としての実務経験のある教員が行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に美術全集等で次回テーマを調べ、授業後には配付資料を読み返すほか、参考文献や関係美術館のHP等を活用して理解を深めましょう。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各回とも作品画像を提示しながら授業を進めます。毎回の授業後の小課題(ワークシート方式)、中間と最終の小レポートに取り組み、提出、それぞれに評価などを付しフィードバックを行います。そのほか、画集のほかテレビ番組、ラジオ、映画などの視聴や、美術、文化関係の展覧会の観覧などを通してセンスを磨くことをお勧めします。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	日本美術の感性~その水脈と系譜~	日本の美的感性について、「あはれ」「かざる」「あそび」「縄文的と弥生的」「外来文化の受容」などのキーワードで考える。また、谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』も読み解く資料として提示。そのほか「日本」「中国」「ヨーロッパ」の美術の根幹的な違いについて資料の読み解き
第2週	百済観音と救世観音~仏教の始まりをたどりつつ	我が国の仏像のはじまりとして、止利仏師とその代表作《釈迦三尊像》などをとりあげ、日本の仏教美術の黎明期の状況について学ぶ。
第3週	雪舟とその時代	画域の広い雪舟の作品のなかから代表的なものをピックアップし、その特異な創作のポイントや謎めいた表現に注目する。時代を超えて、雪舟が遺した“絵画とは斯くあるべし”の精神に触れる。
第4週	〈障壁画のライバル〉狩野永徳と長谷川等伯	自然をねじ伏せるような圧倒的な力で表現する狩野永徳。対して、長谷川等伯の眼差しは自然を凝視し、そこに潜む美しい意匠や気配を探りあてるものだった。時代の分岐点を共有する対照的な二人の絵師の存在を通して、桃山時代の美術表現の振幅や変遷について考える。
第5週	〈飾るこころ 琳派1〉本阿弥光悦と俵屋宗達	「琳派」は、桃山時代の闊達な精神を王朝美術への回帰に生かす独創的なものだった。日本的な自然観や飾りの美意識を体現する「琳派」について、その創始となった本阿弥光悦と俵屋宗達の代表的な作品を通して考える。
第6週	〈飾るこころ 琳派2〉尾形光琳と琳派の画家たち	前週に引き続き、「琳派」を引き継ぎ斬新な装飾芸術を大成させた尾形光琳を中心に、その後の酒井抱一や鈴木其一の個性などに焦点を当てる。琳派の流れをたどり、その変遷や時代背景について学ぶ。
第7週	〈江戸のユルかわ〉白隠・仙崖と与謝蕪村	「ユルくて、かわいい」をキーワードに、禅画の分かりやすい表現で民衆を教化した白隠慧鶴や仙崖義梵を、また南画（文人画）の代表格としての与謝蕪村を取り上げる。三人の自由で型破りな表現を通して、江戸時代の民衆や町衆に受け入れられた感覚的で情緒的な美術を学ぶ。
第8週	〈写生のこころ〉円山応挙の世界	江戸時代後期に活躍した円山応挙は、その自然美を余すところなく写しとるため、徹底して観察し大胆、軽妙な筆遣いによって見たままに表現することを目指した。その「写生」に基づく新しい画風に注目し、日本の絵画の流れを一変させた状況について学ぶ。
第9週	〈江戸の遊行僧〉円空と木喰	円空と木喰は、災害・飢饉に苦しむ庶民を救済する民間の宗教活動家として、各地を行脚しながら仏像や神像を残した。二人の遊行僧の作品を通して、江戸時代の庶民に受け入れられた美術の多様性に触れる。
第10週	〈江戸の奇想〉伊藤若冲の世界	円山応挙とも時代を共有する江戸時代の中期、その精緻・華麗な彩色画や即興的な水墨画で脚光を浴びた伊藤若冲について、特異な個性を発揮した創作と共に、多様な個性を育んだ時代状況について考える。
第11週	〈町人美術の成熟〉葛飾北斎と浮世絵	葛飾北斎が生まれた江戸時代は、錦絵が考案されヨーロッパの画法や顔料の導入など、日本美術史の大きな変動期にあった。ここでは江戸庶民に喝采を浴びた浮世絵絵師としての側面と、19世紀ヨーロッパで巻き起こったジャポニスムの機縁となった側面に注目し、奇想的なイマジ
第12週	〈近代のあけぼの〉油絵の開拓者・高橋由一	洋画の黎明期、《鮭》の画家として知られる高橋由一は、まだ油絵具もキャンバスも目にすることができない幕末・明治初期にあって独自の研鑽を重ねた人だった。また、画技の修得にとどまらず美術雑誌の発行や画塾の創設に力を注ぐなど、油絵普及のパイオニアとしても知られ
第13週	〈近代日本画の革新〉横山大観の世界	横山大観は、美術学校在学中から、岡倉天心、橋本雅邦の俊英として際立った才能をあらわし、絵画に自然の写生を超える表現を求めた師・岡倉天心が理想とした東洋美術の近代化と、日本画の新生面をひらいた。その創作を通して、外来美術の受容の状況と、日本の美術表現の
第14週	〈近代洋画の鬼才〉三岸好太郎とモダンアート	日本近代洋画の奇才とも称される三岸好太郎は、大正期から昭和初期の新しい美術思潮にふれるなかで、独自の個性を色濃く示す道化のテーマや、幻想と詩的ファンタジーの世界を展開した。その作品を通して、近代日本洋画の一端を学ぶ。
第15週	展覧会鑑賞(道立三岸好太郎美術館)	美術館での作品鑑賞を通し、美術表現を学ぶ。（期末レポートの課題とする）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	クリエイターズライブラリー						
担当教員	島名　毅	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2003		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この授業は、学生が自分の専攻選択に役立てるためのガイダンスとして設定されています。
講義では、様々な分野で活躍するクリエイターや教員の仕事内容とその思考プロセスを紹介します。
各専門家が語る経験と知識を通じて、学生は幅広い視野を持って自分のキャリアパスを考える機会を得ます。
オンデマンドの授業とし、提示される録画を見て考えをまとめることにより、「多様なクリエイティブ業界を知る」「専門家の考え方を理解する」「自分自身のキャリア目標を明確にする」という能力を身につけることを目指します。

※各週におけるタイトル及び内容は主な予定であり、順番等については入れ替わります。

到達目標

・様々なクリエイティブ業界の特徴を理解することができる。
・専門家の思考プロセスと創造的アプローチを理解することができる。
・自分のキャリア目標と専攻選択の理由を明確にすることができる。
・専門家の示した方法を基に自分なりのクリエイティブなアイデアに発展させるための素地を得ることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
出席レポート	70%		
最終レポート	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は各専門のスペシャリストとして個人・企業問わず経験を有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自分の進む専攻や専門を意識し、普段からさまざまなことに興味をもって接すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

週ごとに視聴する動画を共有します。その動画に対するレポート提出をもって出席とします。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	絵画① - 油彩A	オンデマンドにて配信する
第2週	絵画② - 油彩B	オンデマンドにて配信する
第3週	絵画③ - 日本画	オンデマンドにて配信する
第4週	立体	オンデマンドにて配信する
第5週	版画	オンデマンドにて配信する
第6週	写真	オンデマンドにて配信する
第7週	映像	オンデマンドにて配信する
第8週	メディアアート	オンデマンドにて配信する
第9週	グラフィックデザイン	オンデマンドにて配信する
第10週	グラフィックデザイン・アートディレクション	オンデマンドにて配信する
第11週	グラフィックデザイン・パッケージデザイン	オンデマンドにて配信する
第12週	プロダクトデザイン	オンデマンドにて配信する
第13週	空間デザイン	オンデマンドにて配信する
第14週	ファッションデザイン	オンデマンドにて配信する
第15週	デジタルファブリケーション	オンデマンドにて配信する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門基礎A						
担当教員	川上　理恵／鳥宮　尚道／鳴海　伸一／ 平向　功一／藤本　和彦／松村　繁／ 水野　剛志／山本　武	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

課題選択型の授業となります。「油彩」「日本画」「版画」「立体」「プロダクト（デジタルファブリケーション含む）【前半】＋Webデザイン基礎【後半】」の５つの中から１つを選択します。
それぞれの課題の中で設定される素材について知り、技法や取り扱いについての理解を深めます。
○油彩：油彩画の特性を理解し、形・構図・構成・色彩の調和(バルール)など油彩画制作における基本を修得し表現力を身につける。
○日本画：日本画の基礎を学びながら写生を基本に静物・人物についての日本画を制作する。
○版画：実験・検証・研究をテーマに、多用な製版方法と版表現を学び、個性的かつ発展的な表現方法を 用いた研究制作を行う。
○立体：金属を使用した立体作品制作を通して、素材の特徴や魅力を理解し、構成やバランスを学ぶ。/モデリング・カービング、双方の性質を兼ね備えた「石膏」を使用し、イメージの「抽象的」「具象的」再現(制作)をそれぞれ一点ずつ行う。
○プロダクト＋Webデザイン基礎：身近な製品・道具のリデザインを行い、プロトタイプを制作し平面から立体へ形を忠実に起こす技法を身

到達目標

○油彩：画材・素材と用具・用法の基礎知識を修得し、対象物を的確に表現することができる。
○日本画：対象をしっかりと観察する力を身に着ける。また伝統的な画材や素材、表現の基礎を理解しながら日本画表現をすることができる。
○版画：卒業後も生涯をとおした作品づくりと表現の拡大をねらう事のできる知識と技術を身につけ、自 分らしい作品づくりが出来る。
○立体：「カービング」とは違った制作を通して、より効果的で深い内容の表現方法を膨らませる事ができる。/素材の特徴の理解を深めることによって、他素材や加工方法に関連する新しい表現や発想の糸口を発見することができる。
○プロダクト＋Webデザイン基礎：自らの提案についてデザインを伝達する方法を表現でき、検証することができる。+Webサイトに適した素材の作成ができ、構造について説明ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を掘起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
制作物の完成度	60		
課題に対する理解度	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

教員は各専攻に関する作品制作、発表、研究、開発のノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・制作に遅れが出た場合や内容深化のために、各自時間を作って制作すること。画集やWeb上で作品を調べ、制作に反映できるよう研究をすること。 ・授業後の復習とデータの整理をおこない、次回の事前準備を行うこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

油彩：造形表現を希望する学生の内、自分で油彩道具一式やキャンバスを持参できる者のみが受講できます。アトリエの使用ルールを厳守すること
日本画：絵具・用具などの日本画用具一式は事前に指示しますので履修者が各自購入してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	油＞ガイダンス　静物（Ｆ15号）制作① 日＞写生について(平向)/鉛筆デッ	油＞形と構図 背景とモチーフの関係を明暗効果を合わせて考える 日＞写生についての説明(平向)/デッサン(水野) 版＞講義の概要説明と郷土の版画史を学ぶ。
第2週	油＞静物（Ｆ15号）制作② 日＞植物写生(平向)/鉛筆デッサン(水野)	油＞形と空間 日＞写生(平向)/デッサン(水野) 版＞軽快な描画が可能なソフトグランドエッチングの製版を行う。
第3週	油＞静物（Ｆ15号）制作③ 日＞本画制作①(平向)/着彩デッサン(水野)	油＞色彩と調子　　細部描写・全体と部分 日＞花(平向)/デッサン(水野) 版＞ソフトグランドの版をプレス機を用いて刷る。
第4週	油＞静物（Ｆ15号）制作④/講評 裸婦① 日＞本画制作②(平向)/着彩デッサ	油＞形と構図　プロポーションと重心 日＞花(平向)/デッサン(水野) 版＞筆の勢いが可能なリフトグランドエッチングの製版を行う。
第5週	油＞裸婦(F15号）制作② 日＞本画制作③(平向)/着彩デッサン（水野）	油＞背景とモチーフの関係を明暗効果を合わせて考える 日＞花(平向)/デッサン(水野) 版＞リフトグランドの版をプレス機を用いて刷る。
第6週	油＞裸婦（Ｆ15号）制作③ 日＞本画制作④(平向)/本画制作①(水野)	油＞色彩と調子 日＞花(平向)/人物(水野) 版＞彫らない版画、ニスを用いた版を制作する。
第7週	油＞裸婦（Ｆ15号）制作④　講評 日＞本画制作⑤(花)(平向)/本画制作②(人物)(水野)	油＞細部描写・全体と部分 日＞花(平向)/人物(水野) 版＞彫らない版画、ニスを用いた版の製版を行う。
第8週	油＞静物（Ｆ15号）制作① 日＞静物写生(平向)/本画制作③(人物)(水野)	油＞構図、構成　背景とモチーフの関係を明暗効果を合わせて考える 日＞静物(平向)/人物(水野) 版＞プレス機を用いてニス版の刷りを行う。
第9週	油＞静物制作② 日＞本画制作①(平向)/本画制作④(水野)	油＞空間とコントラスト 日＞鳥(平向)/人物(水野) 版＞厚紙を用いたコラージュグラフィックの版を制作する。
第10週	油＞静物制作③ 日＞本画制作②(平向)/本画制作⑤(水野)	油＞全体と部分 日＞鳥(平向)/人物(水野) 版＞凹版刷り、凸版刷りなど多彩な刷りを体験する。
第11週	油＞静物制作④／講評　コスチューム（F15号）制作① 日＞本画制作③(平向)/本画制作⑥	油＞構図と形体　　プロポーションと重心 日＞鳥(平向)/人物(水野) 版＞凹凸版刷りとヘイター刷りの体験
第12週	油＞コスチューム（F15号）制作 日＞本画制作④(平向)/本画制作⑦(水野)	油＞正確な形体把握 日＞鳥(平向)/人物(水野) 版＞厚紙とメディウムを用いた簡易版を作る。
第13週	油＞コスチューム制作② 日＞本画制作⑤(平向)/本画制作⑧(水野)	油＞空間の意識、調子と色相 日＞鳥(平向)/人物(水野) 版＞プレス機を使用しなくても刷ることのできる表現法を体験する。
第14週	油＞コスチューム制作② 日＞本画制作⑥(平向)/本画制作⑨(水野)	油＞細部描写　全体と部分 日＞鳥(平向)/人物(水野) 版＞感光樹脂版、ポリエステルプレート、石膏刷り、トランスファー簡易プレス機、展示方法
第15週	油＞コスチューム制作②　講評 日＞講評会・まとめ 版＞まとめ/版画論考	油＞細部描写　全体と部分 日＞発表・講評とまとめ 版＞版表現の可能性を皆さんでディスカッションする。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門基礎Ｂ						
担当教員	會田　千夏／石岡　美久／小町谷　圭／ 今　義典／佐々木　剛／島名　毅／ 玉野　哲也／戸澤　逸美／鳥宮　尚道／ 平向　功一／藤本　和彦／宮本　一行／ 吉岡　滋人／吉田　潤	配当年次	２年生	開講期	後期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2002		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

① エディトリアルデザイン（戸澤・玉野）
　ページによる時間軸の概念及び視点誘導について演習を通し修得する。
　ポートフォリオ制作を通じて、自らの作品について紹介する表現を身につける。

② セレクション課題（全専攻の担当教員）
　課題についての深い考察と検証を行う必要性について理解する。課題テーマを与えプロポーザル提出後１０週で作品を完成させる。これまでの学習内容を踏まえ、３年次からの専攻を意識した創作活動を行う。作品を含め、希望と成績順を参考に専攻を決定する。

到達目標

①演習を通じてエディトリアルデザインの基本を身につける。
②表現意図に適した形式と内容、メディアを選択できる。
③作品テーマやコンセプトについて相手に適切に伝えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を掘起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
制作物の完成度	60		
課題に対する理解度	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud 』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は各専攻に関する作品制作、発表、研究、開発のノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
受講者が調べたり発表したりする学習活動を取り入れます。授業時間以外にも教員とのミーティングや必要な情報を調べ表現するための作業が生じます。受講者の積極的な参加の姿勢が求められます。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

授業では、メールでのやり取りやコンピュータを用いた発表などを行います。事前に制作に必要な工具や材料の手配、発表の準備などの確認をすること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前に告知するので、必ず授業毎に確認しておく事。
教員に相談する際は、「クリエイターズライブラリー」（2年前期）の内容を確認すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	課題・プロポーザルの説明	課題解釈のための参考作品紹介、参考プロポーザルの紹介
第2週	InDesign①②	IllustratorとInDesignの違い、ページの概念 ※並行してプロポーザル（スライド）の準備を進めること
第3週	InDesign③④ プロポーザル提出／教員面談	ページトレース。 プロポーザル提出後、教員との面談を行う
第4週	制作指導①	研究室や専攻をベースに、教員からの指導を受けて作品制作を進める。 必要に応じて制作機材の講習会を実施する。
第5週	制作指導②	研究室や専攻をベースに、教員からの指導を受けて作品制作を進める。 必要に応じて制作機材の講習会を実施する。
第6週	制作指導③	研究室や専攻をベースに、教員からの指導を受けて作品制作を進める。 必要に応じて制作機材の講習会を実施する。
第7週	制作指導④	研究室や専攻をベースに、教員からの指導を受けて作品制作を進める。 必要に応じて制作機材の講習会を実施する。
第8週	制作指導⑤	研究室や専攻をベースに、教員からの指導を受けて作品制作を進める。 必要に応じて制作機材の講習会を実施する。
第9週	制作指導⑥	研究室や専攻をベースに、教員からの指導を受けて作品制作を進める。 必要に応じて制作機材の講習会を実施する。
第10週	制作指導⑦	研究室や専攻をベースに、教員からの指導を受けて作品制作を進める。
第11週	制作指導⑧	研究室や専攻をベースに、教員からの指導を受けて作品制作を進める。
第12週	制作指導⑨ ポートフォリオ講座	研究室や専攻をベースに、教員からの指導を受けて作品制作を進める。 参考となるポートフォリオを紹介しつつ、形式や見せ方についてアドバイスを行う。
第13週	ポートフォリオ講座 制作指導⑩	参考となるポートフォリオを紹介しつつ、形式や見せ方についてアドバイスを行う。 研究室や専攻をベースに、教員からの指導を受けて作品制作を進める。
第14週	審査会設営	作品形態に応じて作品発表・審査する会場を設営する。
第15週	審査会	全作品の審査及び講評を行う。 作成したポートフォリオを提出する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会調査入門						
担当教員	西浦　功	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 2211		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

質問紙調査による量的調査手法に基づいた情報収集と分析のための基本的知識を学ぶ。テーマ設定から仮説構築・サンプリング・設問構成等の調査技法やマナー及びデータ解析手法を調査事例に基づいて学習し，量的調査の一連の流れを理解する。

到達目標

① 量的調査の目的や調査手法としての利点・課題を理解できる。
② 量的調査の主な手順について理解できる。
③ 量的調査の実施の際に求められる調査法・分析手法について理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用））

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加態度（課題提出）	４０		
授業内試験	４０		
中間レポート	２０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
上記「授業計画」欄の各週計画の【　】内に記載しています。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

毎回の授業で課される予復習課題については、後日の講義でフィードバックを行います。
本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅰ群に該当しています。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	量的調査の目的と意義　【量的調査の目的・意義に関する復習】
第2週	調査データの活用	国勢調査と官庁統計　【統計の種類・統計法に関する復習】
第3週	質問紙調査の特徴	利点と課題　【質的、量的調査の比較・整理】
第4週	調査テーマの設定	概念・仮説の構成　【作業のふり返りと補完】
第5週	調査対象の設定	全数調査と標本調査　【標本調査の意義の整理】
第6週	サンプリングの方法①	有意抽出と無作為抽出の違い　【無作為抽出の意義の整理】
第7週	サンプリングの方法②	標本数と誤差　【指定課題への取り組み】
第8週	サンプリングの方法③	サンプリングの種類と目的　【各手法の特徴と用途の整理】
第9週	調査票の構成	質問文・選択肢・全体構成　【避けるべき質問例の復習】
第10週	実査の過程	調査票の配布・回収方法の種類　【各方法の利点、欠点の整理】
第11週	調査データ分析の手順①	エディティング・コーディング・クリーニング　【作業のふり返りと補完】
第12週	調査データ分析の手順②	単純集計　【集計結果のふり返りと補完】
第13週	調査データ分析の手順③	関連性の分析　【分析結果のふり返りと補完】
第14週	調査データ分析の手順④	検定の意味と方法　【指定課題への取り組み】
第15週	全体の総括	科学的な調査とは何か　【「科学的調査の条件」について整理】／授業内試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会調査応用						
担当教員	伍　嘉誠	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 2212		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

面接聴き取り調査をはじめとする質的調査手法に基づいた情報収集と分析のための基本的知識を学ぶ。
テーマ設定から質問内容の検討、実査、分析に至る質的調査の技法やマナーについて調査事例に基づいて学習し、質的調査の一連の流れを理解する。

到達目標

① 社会調査の対象者に対して必要な倫理的配慮のあり方を理解できる。
② 様々な質的調査の種類とその利点・課題について理解できる。
③ 質的調査の主な手順・分析手法について理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への取り組み・演習課題・コメントシート	50%		
最終レポート	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
上記「授業計画」欄の各週計画の【　】内に記載しています。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

個人やグループ単位で行う課題を出しますので、講義内容と指示をよく聴き、積極的に取り組んでください。コメントシートや課題の成果については、授業内で適宜、口頭にてフィードバックを行います。
本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅱ群に該当しています。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	社会調査の歴史・意義【社会調査の背景・意義に関する整理】
第2週	社会調査の種類	目的と方法【社会調査の目的・特徴に関する整理】
第3週	質的調査のねらい	利点と課題【質的／量的調査の特徴の整理】
第4週	事例研究	目的・対象に応じた手法【事例研究の目的・特徴に関する整理】
第5週	参与観察法	目的・対象に応じた手法【参与観察法の目的・特徴に関する整理】
第6週	インタビュー１	傾聴・聴き取りの技法と注意点【演習のふり返り】
第7週	インタビュー２	聴き取りの段取りを考える【インタビューガイドの作成】
第8週	ドキュメント調査	目的・対象に応じた手法【ドキュメント調査の目的・特徴に関する整理】
第9週	ライフヒストリー	目的・対象に応じた手法【ライフヒストリーの目的・特徴に関する整理】
第10週	質的調査におけるデータの整理と分析	データの整理【コーディング・図式化の実施】
第11週	フィールドワーカーの立場と調査倫理	調査倫理【調査倫理に関する検討】
第12週	研究事例１	実際の研究事例を用いた学習【実例を基づいた調査・分析手法の学習】
第13週	研究事例２	実際の研究事例を用いた学習【実例を基づいた調査・分析手法の学習】
第14週	研究事例３	実際の研究事例を用いた学習【実例を基づいた調査・分析手法の学習】
第15週	まとめ	調査企画案の発表、総括【発表準備】
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報処理演習Ｂ（Excel）a						
担当教員	丸山　宏昌	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 2042		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「情報処理演習Ⅰ（Excel）」を基本として、今後社会調査を学ぶうえで必要となる情報処理能力を習得することを目的とする。具体的には、1つの変数の特徴や2つの変数の関係など基本的な統計量を用いたデータ処理や分析を表計算ソフト（Excel）で行うことができる基礎的技能を身につける。

到達目標

①　基本的な記述統計への理解を深めることができる。
②　表計算ソフト（Excel）を利用して、1つの変数の特徴や２つの変数の関係などのデータ処理や分析することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観と個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（到達度テスト）	40%		
課題への取り組み状況	30%		
授業への取り組み状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

『初歩から実用まで　100題で学ぶ表計算（第5版）』(情報処理演習Ａで購入)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、システムエンジニアとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。	1時間程度/週

受講時の注意事項

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅰ群に該当しています。
パソコンを持参すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業のねらいと進め方、成績評価、Excelの基本操作　【Excelの操作の復習】
第2週	変数の種類・変数の種類	変数の種類（質的・量的）とデータ入力　【変数の種類についての復習】
第3週	表とグラフの作成	大小比較、構成比、推移、バランス等　【グラフの作成の課題】
第4週	1つの変数の特徴①	データの図表化（度数分布とヒストグラム）　【度数分布表の作成の課題】
第5週	1つの変数の特徴②	代表値（平均値、中央値、最頻値）　【代表値を求める課題】
第6週	1つの変数の特徴③	散布度（分散、標準偏差、変動係数）　【散布度についての復習】
第7週	1つの変数の特徴④	標準化（標準得点、偏差値）　【標準化についての復習】
第8週	中間テスト	前半の振り返りと授業内試験（到達度テスト）　【振り返り】
第9週	2つの変数の関係①	散布図　【散布図の作成の課題】
第10週	2つの変数の関係②	共分散　【共分散についての復習】
第11週	2つの変数の関係③	相関係数　【相関係数に関する課題】
第12週	2つの変数の関係④	クロス集計　【クロス集計表の作成の課題】
第13週	ピボットテーブルによるクロス集計の方法①	表の作成、平均値、度数、構成比、データの更新　【クロス集計の課題】
第14週	ピボットテーブルによるクロス集計の方法②	並べ替えと階層区分、形式を利用してコピー、表・グラフ作成　【クロス集計の課題】
第15週	到達度テスト	後半の振り返りと授業内試験（到達度テスト）、全体のまとめ　【振り返り】
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	文章要約実践						
担当教員	上戸　理恵	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 2021		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

前半では、文章を要約する方法を実践的な練習を通して学ぶ。その後、レポート作成に必要な基礎的な事柄について課題に取り組み、文章作成の練習を行っていく。

到達目標

①要約の方法を理解し、評論文等を的確に要約できる。
②他人の意見と自分の意見を区別して示すことができる。
③適切な表現・形式を用いて論理的文章（レポート）を作成することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業時の提出物	40%		
レポート課題（最終稿）	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『グループワークで日本語能力アップ』	野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと・藤本真理子・稲葉小由紀	ひつじ書房	2016	978-4-89476-802-4	※「情報検索」、「文章構成法」で使用した

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・配付した資料を授業前および授業終了後に精読すること。 ・宿題の指示があった場合は、期限内に提出できるように取り組むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

意欲的な受講態度を期待します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	・授業の概要・評価方法・注意事項等を確認する。 ・メールの書き方について、基本的なルールやポイントを学修する。
第2週	文章作成の基本ルール	・レポートや論文を書くときに求められるルールや表現・表記を学修する。 ・読みやすい文を書くときのポイントをふまえて、練習問題に取り組む。
第3週	要約の方法①　キーワードと主題	・資料を読んで、キーワードになっている言葉を見つけ、その文章の主題を把握する。
第4週	要約の方法②　トピックセンテンスと論の展開	・パラグラフ・ライティングで書かれた文章を要約するときのポイントを学修する。 ・文章で使われている接続語や指示語の役割を考える。
第5週	要約の実践①　新聞記事を要約する	・新聞記事を読み、キーワードと主題を把握する。 ・トピックセンテンスに注目して要約を行う。
第6週	要約の実践②　新書（の一部）を要約する	・新書（の一部）を読み、キーワードと主題を把握する。 ・トピックセンテンスに注目して要約を行う。
第7週	原文引用と要約引用	・2つの引用の方法を確認し、それぞれの特徴や注意点を学修する。 ・引用した文献の出典を適切な方法で示す。
第8週	レポートのテーマについて	・資料を読み、要点や論拠について整理する。 ・レポートのテーマについて考える。
第9週	自分の「問い」を見つける	・レポートにおける「問い」の重要性を学修する。 ・レポートのテーマをもとに、自分の「問い」を考える。
第10週	レポート（初稿）のアウトライン	・レポートのアウトラインを作成する。 ・アウトラインのチェック（セルフチェックとピアチェック）をする。
第11週	レポート（初稿）の作成	・アウトラインを文章化し、レポート（初稿）を完成させる。 ・提示されたレポートの評価基準を確認し、セルフチェックを行い推敲する。
第12週	レポート（初稿）の提出とピアレビューの説明	・レポート（初稿）を提出する。 ・ピアレビューの方法を確認する。 ・「ミスだらけの初稿」をチェックし、添削やレビューを行う練習をする。
第13週	レポート（初稿）のピアレビュー実施	・レポート（初稿）のピアレビューを行い、それぞれのレポートの改善点を検討する。
第14週	レポート（初稿）の書き直し	・ピアレビュー等をふまえて、レポート（初稿）を書き直す。 ・最終稿を提出する前のチェックポイントを確認する。
第15週	レポート（最終稿）の提出と要約文の作成	・レポート（最終稿）を提出する。 ・自分のレポートの内容を200字程度で要約する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	論理的文章作成実践						
担当教員	上戸　理恵／加藤　裕明／仙波　希望／津幡　笑／西浦　功／西脇　裕之／堀内　まゆみ	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 2022		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

前半では、レポートや論文を書くために必要な読解力や表現力を実践的な練習を通して身につけます。その後、社会学部の専門分野の内容に即した基礎的な事項や研究方法について各コース担当者からの講義をもとに理解します。専門分野ごとに課題に取り組み、論理的に自分の意見を示す技能を習得します。

到達目標

①新聞記事や評論文等の内容を把握し、論理的な文章に必要な事柄を理解できる。
②適切な引用の方法を身につけ、他人の言葉と自分の意見を区別して示すことができる。
③専門別の課題内容を踏まえて、現在、社会でどのような問題が起きているかを理解できる。
④専門別の課題内容について、個別の事象や見解に対する自分の意見を筋道立てて説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーション・スキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業時の課題等	50%		
中間レポートおよび最終レポート	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『グループワークで日本語能力アップ』	野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと・藤本真理子・稲葉小由紀	ひつじ書房	2016	978-4-89476-8	「文章要約実践」で使用したテキストを継続

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・配布した資料を授業前・授業後に精読すること。 ・文章作成上の注意点について、教科書を使って自習し、ライティングスキルについての理解を深める。 ・授業時間外に提出するよう指示された課題がある場合は、それに取り組み、期限内に提出すること。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

意欲的な受講態度を期待します。専門分野の講義担当者は順番が入れ替わることがあります。
文章作成上の注意点やルールは、教科書（『グループワークで日本語能力アップ』）を適宜参照してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション（上戸理恵）	・授業の概要・評価方法・注意事項等を確認します。
第2週	アカデミックライティングの基本（上戸理恵）	・大学でのレポート作成で求められる文体や表現について確認し、「読みやすい文章」のために必要なポイントを学修します。
第3週	アウトラインとパラグラフ（上戸理恵）	・序論、本論、結論の基本構成を学修し、論理的文章における「一貫性」についての理解を深めます。 ・アウトラインをもとにパラグラフを意識した文章を作成します。
第4週	引用の方法（上戸理恵）	・論証のポイントを学修し、論証する上で引用がどのような役割を果たすのかを確認します。 ・引用のルールについて学修し、自分の言葉と他人の言葉を区別して示す方法を身につけます。
第5週	文献の読解と中間レポート（上戸理恵）	・文献のキーワードや論旨を把握し、それを引用するかたちで、テーマの背景について説明します。 ・文献のキーワードを使って、レポートの問題提起の文章を作成します。
第6週	法律的な課題を考える（津幡笑）	「裁判のIT化」について、法律の基礎的な知識をふまえてどのようなことが議論になっているのかを検討します。検討した内容をもとに小レポートを作成します。
第7週	議論するために書く（仙波希望）	短いテクストを読み、自身の意見・根拠を文章で提示した上で、クラス全体でディスカッションを行います。
第8週	教育・福祉的な課題を考える①（西浦功）	取り上げる問題について、教育や福祉の研究領域でどのような議論があるのかを整理します。あるテーマについての論文を読み、論文の構成や展開の仕方、論点を強調する方法を確認します。論文における「根拠」の必要性やそれを提示する方法についても学びます。
第9週	教育・福祉的な課題を考える②（西浦功）	第8週で取り上げたテーマについて、複数の論文を取り上げる意味について理解し、「自分の意見」の組み立て方を学びます。複数の論文をそれぞれ批判的に読むことを意識して、レポート作成に取り組みます。
第10週	「創造性」の視点から地域の問題を考える（堀内まゆみ）	身体表現を含めた芸術表現を取り上げ、その多様なあり方に触れます。また、芸術表現の「創造性」が地域コミュニティのなかでどのような役割を果たし得るのかを考えます。
第11週	地域における「教育コミュニティ」を考える（加藤裕明）	現在の学校教育の課題を検討し、オルタナティブな教育実践として地域再生と学校改革を推進している自治体の実践事例を学びます。現代社会における「学び」や「教育」のあり方を問い直し、新しい「学び」とは何かを考えます。
第12週	観光・メディア的な課題を考える①（西脇裕之）	日本に来る観光客への対応として、街の公共サインを取り上げます。公共サインの多言語表記とピクトグラムについて検討し、その活用事例と限界について考えます。
第13週	観光・メディア的な課題を考える②（西脇裕之）	メディアとしての「まち」について考えます。札幌市の歴史的建造物と公園を取り上げ、それらの場所が市民によってどのようにまなざされてきたのかを学びます。
第14週	各課題のフィードバック（上戸理恵）	・各回の授業内容をふり返り、報告書を作成します。
第15週	授業内試験（最終レポート）とまとめ（上戸理恵）	・個別の事例から導き出されるキーワードについて理解を深めます。 ・講義内容を報告した上で、文献の内容に引きつけて整理します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門基礎演習Ⅰ（石川クラス）						
担当教員	石川　希美	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	SOC-2003			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

教員が用意するテキストをしっかり読み込み、ポイントを整理して、その内容を要約する方法を実践的に学ぶ。
また、要約を踏まえてレジュメを作成し、その内容を他者に説明することを通して、テキストの理解を深める。
さらに、三年次・四年次の専門ゼミの概要を学び、次年度以降の専門ゼミ選択への意識を高める。

到達目標

① テキストで説明されている内容を理解し、要約できる
② ポイントを押さえてテキストの内容をレジュメにまとめ、他者に説明できる。
③ テキストから引き出した問題について自分の意見を述べ、それについて他者と議論することができる。
④ 自ら設定した課題に関して、主体的に学習できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『グループワークで日本語表現力アップ』（情報検索科目の教科書と同じ）』		ひつじ書房		978-4-89476-802-4	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、テキストを読み込んでおき、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて考察を深めること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に参加すること。2時間目の補習の際には、自ら課題を見つけ、主体的に学習すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の概要、評価方法、参考文献紹介、注意事項
第2週	アカデミックスキル①	自分のテーマの深堀
第3週	アカデミックスキル②	資料検索実践
第4週	アカデミックスキル③	資料整理・分析
第5週	全体ゼミ①	学外活動
第6週	アカデミックスキル④	クリティカル・リーディング
第7週	アカデミックスキル⑤	クリティカル・ライティング
第8週	アカデミックスキル⑥	クリティカル・ディスカッション
第9週	アカデミックスキル⑦	クリティカル・リーディング応用
第10週	アカデミックスキル⑧	学術図書とは
第11週	全体ゼミ②	学外活動
第12週	アカデミックスキル⑨	学術図書を読む
第13週	アカデミックスキル⑩	学術図書を書く
第14週	アカデミックスキル⑪	学術図書をもとにディスカッションする
第15週	まとめ	学びの振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門基礎演習Ⅱ（石川クラス）						
担当教員	石川　希美	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	SOC-2004			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

教員が用意するテキストをしっかり読み込み、ポイントを整理して、その内容を要約する方法を実践的に学ぶ。
また、要約を踏まえてレジュメを作成し、その内容を他者に説明することを通して、テキストの理解を深める。
さらに、三年次・四年次の専門ゼミの概要を学び、次年度以降の専門ゼミ選択への意識を高める。

到達目標

① テキストで説明されている内容を理解し、他者に説明できる。
② ポイントを押さえてテキストの内容をまとめ、他者に伝えることができる。
③ 他者の説明を聞き、疑問点や関連する自分の意見等を述べ、共通の話題について、他者と議論することができる。
④ 自ら設定した課題に関して、主体的に学習できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『グループワークで日本語表現力アップ』（情報検索科目の教科書と同じ）』		ひつじ書房		978-4-89476-802-4	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、テキストを読み込んでおき、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて考察を深めること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に参加すること。2時間目の補習の際には、自ら課題を見つけ、主体的に学習すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の概要、評価方法、参考文献紹介、注意事項
第2週	アカデミックスキル①	自分のテーマを決める
第3週	アカデミックスキル②	資料検索実践
第4週	アカデミックスキル③	資料整理・分析
第5週	全体ゼミ①	学外活動
第6週	アカデミックスキル④	クリティカル・リーディング
第7週	アカデミックスキル⑤	クリティカル・ライティング
第8週	アカデミックスキル⑥	クリティカル・ディスカッション
第9週	アカデミックスキル⑦	クリティカル・ディスカッション
第10週	アカデミックスキル⑧	学術論文とは
第11週	全体ゼミ②	学外活動
第12週	アカデミックスキル⑨	学術論文を読む
第13週	アカデミックスキル⑩	学術論文を書く
第14週	アカデミックスキル⑪	学術論文をもとにディスカッションする
第15週	まとめ	学びの振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	文学						
担当教員	上戸　理恵	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2101		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

文学表現を分析的に読む技法を身につけ、文学表現を通して現代社会の様々な問題を多面的に考察する思考力を養うことを目標とする。文学作品を複数取り上げ、文学表現を分析する技法・理論を紹介しながら個々の作品の特徴を考察し、文学的な言語表現の特質を具体的に講義する。また、テーマによってマンガ作品（主に少女マンガ）も取り上げ、表現の特徴や効果が、作品の読解や解釈とどのように関連しているのかを検討する。

到達目標

① 近現代の日本の小説作品において、〈書くこと〉（および〈読むこと〉）がどのように表象されているのかを検討し、自明視された枠組みを相対化する視点を見つけることができる。
② 現代の小説作品や少女マンガを、〈境界の問い直し〉という視点から読解することができる。
③ 文学表現を分析する理論や技法を理解し、文学表現を分析的に読むことができる。
④ マンガ表現（主に少女マンガ）における表現上の特徴を理解し、多様な基準からその作品を読む意義について説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験	60%		
授業時のアウトプット・小課題	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配布した資料を授業前および授業終了後に精読すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

トピックや作品ごとにオンライン上でグループワークを行います。回によってはインターネット上のコンテンツ紹介もあるため、パソコンを持参することを推奨します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	・授業の概要・評価方法・注意事項等を確認する。 ・自分自身をモデルにした小説の冒頭部を書いてみる。
第2週	私小説の周辺	・日本の近現代文学史を概観し、〈私小説〉というジャンルについて確認する。 ・太宰治の略歴や作品、評価について確認する。 ・作家情報について深く知るためのツールをいくつか確認する。
第3週	太宰治「道化の華」を読む	・太宰治「道化の華」における作中人物の配置や語り、プロットを確認する。 ・太宰治「道化の華」の小説的仕掛けが、〈私小説〉的な読みに対してどのように作用しているのかを考察する。
第4週	フィクションの理論	・虚構と現実の関係についてどのような方法や理論があるのかを学ぶ。 ・特に、「メタフィクション」「書簡体小説」の理論を中心に取り上げる。 ・次回の導入として、取り上げる作品の一部を読む。
第5週	太宰治「恥」を読む	・太宰治「恥」における作中人物の配置や語り、プロットを確認する。 ・太宰治「恥」の小説的仕掛けがどのような「読み」を相対化しているのかを検討する。 ・次回の導入として、取り上げる作品の一部を読む。
第6週	金井美恵子「プラトン的恋愛」を読む	・金井美恵子「プラトン的恋愛」における語りの技法を確認する。 ・金井美恵子「プラトン的恋愛」によって、どのような「読み」が相対化されているのかを検討する。
第7週	金井美恵子「声」を読む	・金井美恵子「声」を読み、同作者の「プラトン的恋愛」と比較する。 ・「引用」という手法の批評性について検討する。 ・次回の導入として、取り上げる作品の一部を読む。
第8週	星野智幸「モミチョアヨ」を読む	・星野智幸「モミチョアヨ」における人称の種類を確認し、その効果について検討する。 ・星野智幸「モミチョアヨ」のプロットや表現についても検討する。
第9週	中間まとめ	・作家本人と作中人物を一致させて読む行為を相対化する意義について確認する。 ・作品外の情報と作品内世界との関係について考察する。 ・ここまでの内容をふり返り、小説の読み方がどのように変化したのかを確認する。
第10週	笙野頼子「胸の上の前世」を読む	・笙野頼子「胸の上の前世」における物語構造を確認し、現実／幻想（夢）の境界や、ジェンダーやセクシュアリティの境界をゆさぶる小説の仕掛けに着目する。 ・小説とそこに引用された複数のテクストとの関係を確認し、間テクスト性の概念を学ぶ。
第11週	花の二十四年組の先駆性	・1970年代以降の少女マンガの革新性を〈境界〉というキーワードで問い直す。 ・次回の導入として、取り上げる作品の一部を読む。
第12週	大島弓子「バスカルの群れ」を読む	・大島弓子「バスカルの群れ」における物語構造や展開、表現技法を確認する。 ・大島弓子「バスカルの群れ」に描かれた〈女装する少年〉について考察する。
第13週	少女マンガにおける異性装のテーマ	・少女マンガにおける〈異性装〉のテーマを概観し、ジェンダーやセクシュアリティの境界を問い直す表象がどのような意味を持つ持つのかを考察する。 ・次回の導入として、取り上げる作品の一部を読む。
第14週	嶽本野ばらと少女文化	・小説家・嶽本野ばらと彼が牽引した「ゴスロリ」（ゴシック＆ロリータ）カルチャーについて取り上げ、現代の消費文化において「ゴスロリ」というあり方がどのような役割を果たしているのかを考察する。
第15週	まとめと授業内試験	・全体の授業をまとめて、フィクションと現実との多様な関係について理解を深める。 ・授業内で提示されたキーワードや作品の理解に関わる試験を実施する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	政治学						
担当教員	三須　拓也	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2402		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

現代の政治情勢を理解するには、出来事の歴史背景や他の出来事との関連を理解すべきです。この講義では、身近な問題を手がかりにしながら、その「読み解き方」を学びます。この授業はオンデマンド授業として行います。

到達目標

① 政治と経済の基礎的知見を身につける。
② 新聞の政治、経済ニュースが理解できるようになる。
③ 経済のグローバル化が政治に与える影響を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力	3.多様な価値観（個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
まとめの課題（レポート）①	40%　評価基		
まとめの課題（レポート）②	60%　評価基		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

サラ・ロレンツィーニ『グローバル開発史』（名古屋大学出版会、2022年）
益田実ほか編『冷戦史』（法律文化社、2024年）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配付資料に目を通し、予習復習に役立てること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

主体的に講義に「参加」する意思を持つ学生を歓迎します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	授業の概要説明	【事前学修】シラバスの確認／【授業内容】イントロダクション、国際感覚の重要性／【事後学修】講義中で言及した文献等（第1回）の確認
第2週	日本の動きと世界の動きの繋がり	【事前学修】パワーポイント資料・第2回の確認／【授業内容】日本の動きと世界の動き／【事後学修】講義中で言及した文献等（第2回）の確認
第3週	新聞記事の特徴について	【事前学修】パワーポイント資料・第3回の確認／【授業内容】新聞の読み方／【事後学修】講義中で言及した文献等（第3回）の確認
第4週	政治と情報のスピンとは何か	【事前学修】パワーポイント資料・第4回の確認／【授業内容】政治情報の読み解き方、スピンについて／【事後学修】講義で言及した資料（第4回）の確認
第5週	政治の分析手法について	【事前学修】パワーポイント資料・第5回の確認／【授業内容】政治分析の仕方、ステイクホルダーを意識する／【事後学修】講義で言及した資料（第5回）の確認
第6週	開発主義国家とは何か	【事前学修】パワーポイント資料・第6回の確認／【授業内容】「韓流」に見るオールド・メディアの苦境①／【事後学修】講義で言及した資料（第6回）の確認
第7週	日本のマスメディアの問題について	【事前学修】パワーポイント資料・第7回の確認／【授業内容】「韓流」に見るオールド・メディアの苦境②／【事後学修】講義で言及した資料（第7回）の確認
第8週	アジアの構造的権力としてのアメリカについて	【事前学修】パワーポイント資料・第8回の確認／【授業内容】「韓流」に見るオールド・メディアの苦境③／【事後学修】講義で言及した資料（第8回）の確認 第1回～第8回までのまとめの課題①。
第9週	経済的格差と政治の関係について	【事前学修】パワーポイント資料・第9回の確認／【授業内容】「肥満」から考える格差と政治／【事後学修】講義で言及した資料（第9回）の確認
第10週	経済の金融不動産業化と政治について	【事前学修】パワーポイント資料・第10回をの確認／【授業内容】「マクドナルド化する経済」と政治①／【事後学修】講義で言及した資料（第10回）をの確認
第11週	経済摩擦と日米関係について	【事前学修】パワーポイント資料・第11回の確認／【授業内容】「マクドナルド化する経済」と政治②／【事後学修】講義で言及した資料（第11回）の確認
第12週	大日本帝国の遺産について	【事前学修】パワーポイント資料・第12回の確認／【授業内容】「ラーメン」から考える日本政治と国際関係①／【事後学修】講義で言及した資料（第12回）の確認
第13週	戦後のアメリカの支配と自民党政治の遺産について	【事前学修】パワーポイント資料・第13回の確認／【授業内容】「ラーメン」から考える日本政治と国際関係②／【事後学修】講義で言及した資料（第13回）の確認
第14週	中華帝国の国際関係における遺産について	【事前学修】パワーポイント資料・第14回の確認／【授業内容】現代日本政治の特色／【事後学修】講義で言及した資料（第14回）の確認
第15週	講義のまとめ	【授業内容】第1回～第14回までのまとめの課題②、これまでの講義についての質疑応答／【事後学修】講義で言及した資料（第1～14回）の確認
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	芸術メディア論						
担当教員	平塚　弘明	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2711		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

メディア技術の発展は、文化や社会に大きな影響を与えるとともに、多様な芸術表現の形態を生み出してきた。この授業では、学生は様々なメディア技術の特性、その歴史的な発展と、これと関連した芸術表現の展開を、具体例に則して理解する。

到達目標

①学生は、メディア論、メディア史の基本的な知識を身につけることができる。
②学生は、芸術表現のあり方を、メディア技術の特性と関連させて理解することができる。
③学生は、メディア技術がもたらした社会的・文化的な変容を捉える、芸術表現の感性を理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
4回のミニレポート(シラバス中の「フィードバック」	50%(17.5%		
授業ごとの課題	50%(5%×課		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
原則、授業ごとに課題が設定されています。課題を提出することで出席とみなします。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

文章を書いてもらうことが多いとに注意してください。また、提出していただいた課題やミニレポートについては、「フィードバック」にて受講者全員に公開される場合があります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	「メディア論」とは何か、概略を説明し、授業内容の大まかな枠組み、および受講の方法と注意点、成績評価の方法などを説明する。
第2週	文字や印刷がもたらしたもの	「文字」もメディアであることを指摘し、メディア論の古典的文献を通して、「文字」というメディアもたらしたものについて理解する。
第3週	印刷と国民国家	印刷技術は文字の大量複製を可能にした。このことがもたらした結果について、B・アンダーソンの古典的文献などを通して理解する。
第4週	フィードバック１	授業前に、第2週、第3週の内容を踏まえたレポートを課し、この週でレポートの内容について幾つかの補足を行う。興味深い論点についてはより掘り下げた解説を行うことがある。
第5週	19世紀の都市、その変容	19世紀のヨーロッパでは、広い意味での「メディア」が大きく展開した時代だといえる。ここでは、デパートと博覧会を取り上げ、これが何を背景として起こり、何を表しているのかを知る。
第6週	視覚メディアの展開と新しい視覚イメージ(科学写真、心霊写真)	19世紀に生まれた「メディア」の一つである写真を取り上げ、いわゆる「芸術」という枠組みとは異なる写真のあり方について知り、そのようなあり方の背景にある人間の関心の変化を理解する。
第7週	音とメディア	19世紀以降の聴覚「メディア」を対象とし、音を記述・記録しようとする試みや、それらが導入されたことによる変化などを理解する。
第8週	フィードバック２	授業前に、第5週～7週の内容を踏まえたレポートを課し、この週でレポートの内容について幾つかの補足を行う。興味深い論点についてはより掘り下げた解説を行うことがある。
第9週	コミュニケーションとしてのうわさやデマ	SNSの普及により、デマやフェイクニュースなどがクローズアップされるようになったが、そもそもデマな流言はSNSの登場以前から存在していた。なぜそういったものが存在するのか、社会学における蓄積などを通して理解する。
第10週	UFOと都市伝説	デマや都市伝説は人間が広めているものであるため、素性のわからない都市伝説でも、その時代の人間の不安や欲望が投影されていることがある。文学研究者の「都市伝説の分析」を通して、そのような視点でデマや都市伝説を理解する。
第11週	フィードバック３	授業前に、第9週～10週の内容を踏まえたレポートを課し、この週でレポートの内容について幾つかの補足を行う。興味深い論点についてはより掘り下げた解説を行うことがある。
第12週	異なるメディアへの翻訳１	ここからは、メディア＝制作上の媒質と捉え、絵画・文学・音楽・映像・漫画などの「メディア」間の差異や、それらを「架橋」することについて知る。その一回目は、レッシング『ラオコオン』を通したやや硬質な話題。
第13週	異なるメディアへの翻訳２	様々な「メディア」間の差異や架橋についての第二回。ここではMVやそれに類するものを取り上げ、音を視覚化する努力や工夫について学ぶ。
第14週	異なるメディアへの翻訳３	様々な「メディア」間の差異や架橋についての第三回。ここでは、音の映像化、または文学の映像化を取り上げる。
第15週	フィードバック４	授業前に、第12週～14週の内容を踏まえたレポートを課し、この週でレポートの内容について幾つかの補足を行う。興味深い論点についてはより掘り下げた解説を行うことがある。また、全体の総括を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本の地理（教職）						
担当教員	菊地　達夫	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2111		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

日本の地理（地誌／人文・自然）における地域的特色の理解を授業のテーマとします。日本の地誌を九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道の7地方に分け、それらの地域的特色の理解を行います。その理解には、動態地誌的方法（作業学習）を用いて地理的な見方・考え方を高めます。また、地域的特色は、日本の地域構造（全体）、周辺地域（外国）を含みます。

到達目標

①　日本の7地方の地域的特色について説明できる。
②　周辺地域（外国）を含む日本の地域構造について説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（到達度テスト）	50%		
授業課題	30%		
受講態度・参加意欲	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

文部科学省（2018）：『中学校学習指導要領解説社会編』山口幸男編（2011）：『動態地誌的方法におけるニュー中学校地理の展開』明治図書、地理教育研究会編（2010）：『授業のための日本地理第５版』古今書院、地理教育研究会編（2006）：『授業のための世界地理第４版』古今書院、菊地俊夫編（2011）：『世界地誌シリーズ1　日本』朝倉書店、中村和郎他編（2006）：『日本地誌2　日本総論Ⅱ（人文・

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

担当者は、高等学校教員（地歴、公民科）の経験を有します。この間、教育実習生の指導も実施してきました。
講義では、その知見も活かしていきます。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習は、参考書等を使用しながら、授業計画の内容(地域的特色)を、進度に合わせ概要理解しておくこと。復習は授業後、画像内容（転記したもの）、口頭説明、資料・作業返却課題の内容を振り返り、地域的特色（図解の説明）を確認しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業内容に関する質問等は、原則、授業終了後に受けつけます。国内外における報道内容（地名表出のあったもの）では、地理的位置を確認する習慣をつけること。学習指導要領解説の関係する内容を授業前後でよく確認しておくこと。また、学習指導要領（小学校社会科と高校地歴科・公民科を含む）の関連内容には、とくに注意しておくこと。作業課題等の成果は、返却時に講評を行います。また、文教政策の動向に

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の到達目標、展開方法。評価方法、地理学概念、地理学の構造を学修します。
第2週	地誌の種類	静態地誌、動態地誌、比較地誌の違いを学修します。
第3週	地理的区分	形式区分と実質区分の違いを学修します。
第4週	九州地方の地域的特色	中核（関連）事象を用いて九州地方の地域的特色を学修します。
第5週	中国・四国地方の地域的特色	中核（関連）事象を用いて中国・四国地方の地域的特色を学修します。
第6週	近畿地方の地域的特色	中核（関連）事象を用いて近畿地方の地域的特色を学修します。
第7週	中部地方の地域的特色	中核（関連）事象を用いて中部地方の地域的特色を学修します。
第8週	関東地方の地域的特色	中核（関連）事象を用いて関東地方の地域的特色を学修します。
第9週	東北地方の地域的特色	中核（関連）事象を用いて東北地方の地域的特色を学修します。
第10週	北海道地方（北方領土を含む）の地域的特色	中核（関連）事象を用いて北海道地方の地域的特色を学修します。
第11週	日本の全体構造	中軸地帯とそれ以外の地域を対比して、人口・産業集積を関連させながら地域的特色を学修します。
第12週	周辺の地域構造（竹島／島根県　韓国）	歴史的経緯に触れながら、竹島の地域的特色を学修します。
第13週	周辺の地域構造（尖閣諸島／沖縄県　中国　台湾）	歴史的経緯に触れながら、尖閣諸島の地域的特色を学修します。
第14週	各授業内容の到達目標の確認	各授業内容の到達目標（重点）を確認します。
第15週	各授業内容の到達目標の整理と振り返り	各授業内容の到達目標（重点）の全体構造を振り返りします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本の地理						
担当教員	遠藤　正	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2111		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

日本の各地域の地理と地域の情勢、観光地としての特性について理解することを授業のテーマとする。具体的には、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄から、テーマや地域などを選び、その地域の特徴を理解する。特に、近年地域の活性化策として観光が注目されていることから観光の視座を身につけることも狙いである。また、時事テーマを授業内で取り入れ、地域の現状や課題をより具体的に理解する。
＜留意事項＞授業は原則教室での座学を基本とする。オンラインなどの場合もある。

到達目標

①日本の地理について、自然環境や地理的特性を理解し、説明できる。
②地域の現状、課題などを理解し、説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（授業態度等）	20		
授業内確認テスト（授業内で実施する）　ただし、出	80		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。 授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

地域まちづくりや観光の専門家・有識者として、自治体や民間企業と連携したプロジェクトなどを実践している。また、インバウンドによる地域活性化についても、専門家・有識者として活動している。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回関連する資料・文献等で調べて授業に臨んでください。 時事問題を常に確認の上、課題を確認してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

適宜参加者に発言を求めます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、国内の現状について	授業の基本的説明を行なう。また、日本における少子高齢化や産業構造など、国内の地域の現状や課題を学ぶ。
第2週	地域の現状について（北海道を中心に）	日本における少子高齢化や産業構造など、国内の地域の現状や課題を事例を踏まえて学ぶ。観光についての基礎知識も学ぶ。なお、北海道を題材に理解を深める。
第3週	九州・沖縄地方	九州・沖縄地方をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の状況も学ぶ。
第4週	時事テーマ、トピックによる地域の理解1	地域の産業構造や社会動向を学ぶ目的で、全国から事例を選んで紹介する。その上で、地域における今後の課題を把握し、その対策などを学ぶとともに、受講生も自身の視点で打開策などを考え、検討を深める。
第5週	中国・四国地方	中国・四国地方をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の状況も学ぶ。
第6週	時事テーマ、トピックによる地域の理解2	地域の産業構造や社会動向を学ぶ目的で、全国から事例を選んで紹介する。その上で、地域における今後の課題を把握し、その対策などを学ぶとともに、受講生も自身の視点で打開策などを考え、検討を深める。
第7週	近畿地方	近畿地方をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の状況も学ぶ。
第8週	中部地方	中部地方をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の状況も学ぶ。
第9週	時事テーマ、トピックによる地域の理解3	地域の産業構造や社会動向を学ぶ目的で、全国から事例を選んで紹介する。その上で、地域における今後の課題を把握し、その対策などを学ぶとともに、受講生も自身の視点で打開策などを考え、検討を深める。
第10週	関東地方	関東地方をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の状況も学ぶ。
第11週	東北地方	東北地方をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の状況も学ぶ。
第12週	学習内容のレビュー	ここまでの学習した内容について、知識の整理と定着を図る。また、単位認定のための確認テストについて解説を行なう。
第13週	授業内確認テスト	ここまでの学習内容について確認テストを実施する。
第14週	時事テーマ、トピックによる地域の理解4	地域の産業構造や社会動向を学ぶ目的で、全国から事例を選んで紹介する。その上で、地域における今後の課題を把握し、その対策などを学ぶとともに、受講生も自身の視点で打開策などを考え、検討を深める。
第15週	各授業内容の到達目標の確認、授業内テストのフィードバック	本授業の総括を行うともに、授業内のテストについてフィードバックを行なう。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	発達心理学						
担当教員	柳内　景太	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2401		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

発達について多角的な観点から捉え理解することを目指し、胎児期から老年期に至る発達の過程に関する基本的な知識を学びます。特に、胎児期から児童期に関する子どもの発達を重点的に扱います。また、各発達段階で起こり得る問題や発達障害について、臨床現場での事例を交えながら解説します。

到達目標

①　胎児期から老年期までの各発達段階における特徴や課題について説明できる。
②　子どもの発達を捉えるための基本的な視点や方法の重要性を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（毎回のリアクションシート・講義への取り組	50%		
授業内試験	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

ベーシック発達心理学（開一夫ら，東京大学出版会）、発達心理学Ⅰ・Ⅱ（無藤隆ら，東京大学出版会）　ほか、必要なものは授業内でその都度アナウンスします。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

学習障害児の検査や支援、児童相談所一時保護所の児童生活指導員など、児童における社会福祉の現場に携わっている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義前は、予習として各回のテーマに関する基礎的な知識について、参考書を読み確認しておくと良いでしょう。 講義後は、講義内容を踏まえて、配布資料やノートを確認して復習してください。	2～3時間程度/週

受講時の注意事項

初めて発達心理学を学ぶ人を対象にしたオンデマンド講義です。講義の補助として映像教材などを用います。毎回リアクションシートに感想・質問を記載して、提出してもらいますので、欠席せずに積極的に参加してください。リアクションシートに記載された質問は、次回講義の始めに回答します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション 発達とは	受講の仕方や課題の提出方法について確認する。また、「発達」とは何を意味するのか、「発達心理学」ではどのようなことを学習するのかを理解する。
第2週	発達研究の歴史、理論、研究手法	これまでの発達心理学の研究内容やその方法、主要な理論について学習する。
第3週	発達の基礎：遺伝と環境	発達には、遺伝と環境のどちらが重要なのか、それぞれの理論について学び、理解を深める。
第4週	胎児期・乳幼児期の発達	お腹の中にいる赤ちゃんが、どのように発達し、生まれてくるのかについて学ぶ。また、生まれたばかりの赤ちゃんの発達についても学習する。
第5週	乳幼児期の認知と愛着	赤ちゃんがどのように世界について知っていくかについて学ぶ。また、乳幼児と親とのかかわり方について理解する。
第6週	幼児期の言語と認知	幼児期の子どもがどのように物事を認知し、どのように言語を獲得して、話せるようになるのかを学習する。
第7週	幼児期の自我と社会性	自我が芽生えることによる影響を学ぶ。また、同年代の子どもとどのように触れ合うのかについて理解を深める。
第8週	まとめ①　―胎児期～幼児期の発達―	胎児期から幼児期までのまとめとして、演習問題を解き、これまでの振り返りをする。
第9週	児童期の認知	小学生1年生頃～6年生頃までの間に、物事の捉え方や考え方がどのように変化するのかを、ピアジェの認知発達理論をもとに学習する。
第10週	児童期の学習と社会性	小学生における学びの発達について学習する。また、小学生の社会性の発達についても学習し、どのような集団を形成するのかについて学ぶ。
第11週	青年期の発達	中・高生における身体的な成熟に伴う心理的な変化について学習する。特に、アイデンティティの形成について理解を深める。
第12週	成人期の発達	就職や結婚による環境の変化に伴う心理的な変化について学習する。また、成人後期における身体機能の減衰による心理的な危うさについても学ぶ。
第13週	老年期の発達	人生の最後の段階である老年期において、どのような心理的・身体的変化があるのかについて理解する。また、死に臨む心理についても学習する。
第14週	発達障害	発達障害とは何か、どのような困難を抱えているのか、どのように支援すればよいのかについて学ぶ。
第15週	まとめ②と授業内試験	オンラインで試験を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	臨床心理学概論						
担当教員	田澤　佳江	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2411		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この授業では、臨床心理学に関する基礎的な理論について学びます。臨床心理学における諸理論を概観し、さらに臨床現場で用いられる心理アセスメントや心理療法などの援助技法にはどのようなものがあるのかを学習していきます。

到達目標

①臨床心理学の基礎的な理論を理解することができる。
②日常生活の中でみられる人間の心理を、臨床心理学的な視点から把握することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出課題	65%		
期末課題	35%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この授業は、カウンセラーとして心理療法の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義前に配布される講義資料を事前に読んでから授業に臨んでください。提出課題の成績が出た後は、正誤を確認しながら講義内容をまとめてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この科目はオンライン・オンデマンド方式で実施します。
講義内で実施した課題は、後日フィードバックします。毎回の課題提出が出席を兼ねており、出席確認は毎週締切日があります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	15回実施の講義内容の紹介と、単位取得をするための条件などについて解説する。出席確認シートの提出をもって出席とみなす。
第2週	臨床心理学とはなにか	臨床心理学とはなにか、その歴史、方法論の特徴について学ぶ。この回より毎回、小テストが実施される。この課題の提出をもって出席とみなす。
第3週	臨床心理学の理論背景	臨床心理学の代表的理論モデルとして、精神力動モデル、学習モデル、成長モデルについて解説し、その違いを知る。
第4週	臨床心理学と援助対象①　精神障害	臨床心理学的支援の援助対象となる、さまざまな精神障害について解説する。
第5週	臨床心理学と援助対象②　パーソナリティ障害・発達障害	臨床心理学的支援の援助対象となる、パーソナリティ障害と発達障害について解説する。
第6週	心理アセスメント①　質問紙検査	臨床心理アセスメント技法のひとつである心理検査をとりあげ、代表的な質問紙検査をいくつか紹介する。
第7週	心理アセスメント②　投映法検査	第6回講義の続きとして、心理検査の中の投映法検査をとりあげる。投映法検査の中の代表的なものをいくつか解説する。
第8週	心理アセスメント③　作業検査・知能検査	第5～6回講義に引き続き、心理検査の中の作業検査と知能検査について紹介する。また心理検査を活用する際に注意すべき点などについても解説する。
第9週	心理療法①　精神分析療法	心理療法とは何か、まずは全般的に心理療法にみられる特徴について概説し、その後心理療法の諸理論についてふれる。この回は、精神分析療法をとりあげる。
第10週	心理療法②　来談者中心療法・行動療法	心理療法の中の代表的なものを紹介する。この回は、来談者中心療法と行動療法についてとりあげる。
第11週	心理療法③　家族療法・集団療法	心理療法には、個人ではなく集団を対象としたものもある。この回は、そのような治療法として、家族療法と集団療法を紹介する。
第12週	心理療法④　分析心理学・芸術療法	心理療法の中には、深層心理を扱う分野があり、その代表的なものとしてユング心理学(分析心理学)を取り上げ、その理論について紹介する。また、イメージを治療に活用する芸術療法についても解説する。
第13週	臨床心理学的地域援助①　コミュニティ心理学の考え方	臨床心理学的地域援助としてのコミュニティ・アプローチについて、その歴史や起源を紹介し、コミュニティ心理学の基本的な考え方について学習する。
第14週	臨床心理学的地域援助②　各種領域での援助方法	様々な領域において実践されている臨床心理的援助には、どのようなものがあるのかを紹介する。
第15週	まとめと期末課題	これまでの提出課題を振り返り、それを元に期末課題に取り組んでもらう。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	リハビリテーション医学						
担当教員	中村　眞理子	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2501		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

リハビリテーションとは、様々な障害を持った人々に対し、その障害を可能な限り回復治癒させ、残された能力を最大限に高め、身体的・精神的・社会的にできる限り自立した生活が送れるように援助することである。本講義では、障害者（児）や高齢者に対するリハビリテーションの理念や目的、方法を包括的に学ぶ。また、代表的な疾患をとりあげ、障害のとらえ方と支援の考え方を理解することを目的とする。

到達目標

①リハビリテーションの理念や考え方を説明できる。
②リハビリテーションの方法に対する認識を深め、理解することができる。
③障害に対する理解や支援のあり方を述べることができる。
④代表的疾患について、リハビリテーションの概略を説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力	3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題	70		
学習状況（課題への取り組み）	30		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

目で見るリハビリテーション医学　　柳澤信夫　監修　丸善出版
上記のもの以外でも、リハビリテーション医学に関する書籍を参考にすることを勧めます。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

大学教員（作業療法学科/現職）、臨床経験、当該科目の非常勤講師経験を有する

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前：学習内容関連参考書等を用いた予習 事後：講義内容の復習、講義資料・参考書・調べ学習から課題に取り組む。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業に対応して提示する課題に、参考書等、調べ学習も含めて確実に取り組んでください。
授業進行は、知識の積み重ねを意識し組んでいますので、課題は計画的に、提出は締め切り厳守でお願いします。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス リハビリテーションの概説	リハビリテーションの歴史、定義
第2週	リハビリテーションの理念と考え方	専門職とチームアプローチ 障害構造・障害のみかた
第3週	高次脳機能障害のリハビリテーション	高次脳機能障害、失語・失認・失行、健忘、遂行機能障害の症候 半側無視、失認、治療介入方法
第4週	脳障害の一般症状	脳障害にみられる一般症状
第5週	廃用症候群	廃用症候群について 筋力・関節可動域の測定法と訓練、生活との関連
第6週	精神機能	精神機能 精神障害について
第7週	疾患と障害① 　脳血管障害のリハビリテーション	脳梗塞、脳出血、くも膜下出血
第8週	自助具、環境調整	自助具 障害と生活機能
第9週	疾患と障害② リウマチのリハビリテーション	病態と介入
第10週	疾患と障害③ 片麻痺のADL	片麻痺のADLの実際と介入
第11週	疾患と障害④ 切断 装具	上下肢の切断と義手・義足 杖、車椅子
第12週	疾患と障害⑤ 脊髄損傷のリハビリテーション	脊髄損傷の病態と介入
第13週	疾患と障害⑥ 発達障害	ADHD,自閉症　他
第14週	疾患と障害⑦ 小児のリハビリテーション	脳性麻痺、二分脊椎、筋ジストロフィー　他
第15週	疾患と障害⑧ 神経変性疾患のリハビリテーション	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症　等
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	民族音楽Ⅰ						
担当教員	川﨑　瑞穂	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2731		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

民族音楽（諸民族の音楽）とは何でしょうか。知っているつもりでも説明するのは難しいかもしれません。本講義では、諸民族の音楽がどのように研究されてきたのかを知った上で、日本の音楽と世界の音楽との関係を理解します。第1～5回は、諸民族の音楽がどのように研究されてきたのかを学び、人間にとっての音楽の意味について理解します。第6～8回は、日本の民俗芸能を例にとり、地域に伝わる音楽文化を学びます。第9～15回は、日本音楽史を概観し、世界の音楽とのつながりを学びます。なお、講義内容は受講生の興味関心や進捗状況に応じて変更の可能性があります。

到達目標

1．民族音楽学（音楽民族学）の歴史と成果を理解し、音楽について様々な角度から論じることができる。
2．様々な時代・地域の音楽文化を理解し、異文化や他者の考えを尊重し、受け止めることができる。
3．音楽の様々なしくみを理解することで、多様な現場で音楽を活かすことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
第1～14回の小テスト	90		
第15回の記述問題＆授業全体での意見・質問等の貢献	10		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

【参考書】（その他、講義の中で随時紹介します。）
・川﨑瑞穂 2018 『徳丸流神楽の成立と展開―民族音楽学的芸能史研究―』第一書房
・久保田慶一（編） 2009 『キーワード150　音楽通論』アルテスパブリッシング

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本の民俗音楽に関する実務経験（川崎市教育委員会文化財調査員ほか）を活かし、全国各地に伝わる様々な音楽文化の紹介を交えて講義を行います。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義前までに該当部分の文献等を熟読し、諸民族の音楽文化について予習してください。授業後は講義で示された文献等を参照するほか、講義で採り上げられていた音楽や芸能を動画や音源等で確認しながら復習し、各音楽文化の特徴を整理しておいてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

課題は毎回必ず期限内に提出してください。また、感想や意見、質問等がある場合はメールしてください。個別に回答します。講義では、馴染みのある音楽から初めて聴く音楽まで、あらゆる音楽に触れます。面白いと思った音楽があったら、ぜひそのジャンルの音楽を色々聴いてみてください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	講師の自己紹介ほか、講義内容についての説明。授業計画、予習・復習、課題提出、評価・単位認定など、シラバスについての説明。
第2週	［世界音楽の研究1］民族音楽とは何か―主題と変奏―	いくつかの著名な音楽論をたよりに、そもそもの音楽という文化自体を考える。「主題と変奏」という観点から世界の音楽を考える方法を学ぶ。
第3週	［世界音楽の研究2］音楽の意味とは何か―音楽記号学―	いくつかの著名な音楽論をたよりに、音楽における「意味」について学び、これからの講義を受講する上での土台を形成する。
第4週	［世界音楽の研究3］比較音楽学・民族音楽学（音楽民族学）・音楽人類学	比較音楽学・民族音楽学（音楽民族学）・音楽人類学、それぞれの言葉が意味することや、それらの歴史的展開について学ぶ。
第5週	［世界音楽の研究4］サウンドスケープ・生態音楽学	世界の音楽文化と、文化をとりまく音環境との関係について、これまでの有名な研究をたよりに考え、音環境の今日的な問題についても学ぶ。
第6週	［日本の民族音楽1］祭礼―山鉾屋台行事―	日本各地に伝わる山鉾屋台行事を例に、祭礼と音楽との関係について学ぶ。特に祇園祭における信仰と音楽との関わりを理解する。
第7週	［日本の民族音楽2］民俗芸能―里神楽（民間神楽）―	日本各地に伝わる民間神楽（里神楽）を例に、民俗芸能と音楽との関係について学ぶ。
第8週	［日本の民族音楽3］民俗芸能―獅子舞―	日本各地に伝わる獅子舞を例に、民俗芸能と音楽との関係について学ぶ。
第9週	［日本の音楽・世界の音楽1］古典芸能―雅楽―	雅楽を例に、古典芸能と音楽との関係について学ぶ。雅楽の歴史を学んだ上で、実際にどのように演奏するのかについて、楽譜の読み方を例に学ぶ。
第10週	［日本の音楽・世界の音楽2］江戸期の音楽―朝鮮通信使と琉球使節の音楽―	朝鮮通信使と琉球使節の音楽を例に、江戸期の音楽について学ぶ。音楽的特徴だけでなく、日本の地域の芸能や祭礼にどのような影響を与えたのかについても理解する。
第11週	［日本の音楽・世界の音楽3］日本の大衆音楽史1―幕末・明治・大正―	日本の近代化とその音楽との関係について学ぶ。特に大正時代までの大衆音楽を例に、民族音楽と大衆音楽との関係について理解する。
第12週	［日本の音楽・世界の音楽4］日本の大衆音楽史2―昭和前期～中期（戦中戦後）―	日本の近代化とその音楽との関係について学ぶ。特に昭和前期～中期の大衆音楽を例に、音楽と世相との関係について理解する。
第13週	［日本の音楽・世界の音楽5］日本の大衆音楽史3―昭和後期―	現代日本の音楽と世界の音楽との関係について学ぶ。特に昭和後期の大衆音楽を例に、音楽における異種混交性について理解する。
第14週	［日本の音楽・世界の音楽6］日本の大衆音楽史4―平成―	現代日本の音楽と世界の音楽との関係について学ぶ。特に平成の大衆音楽を例に、音楽とマスメディアとの関係について理解する。
第15週	［日本の音楽・世界の音楽7］日本の大衆音楽史4―令和―	現代日本の音楽と世界の音楽との関係について学ぶ。特に令和の大衆音楽を例に、音楽とウェブメディアとの関係について理解する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	民族音楽Ⅱ						
担当教員	川﨑　瑞穂	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2732		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

民族音楽（諸民族の音楽）とは何でしょうか。知っているつもりでも説明するのは難しいかもしれません。本講義では、様々なトピックに分けて諸民族の音楽について学びます。第1～4回は、諸民族の音楽がどのように研究されてきたのかを知り、研究方法について理解します。第5～10回は、世界の音楽文化を例にとり、それぞれの特徴を理解します。第11～15回は、世界の文化における祭礼と音楽とのつながりを学びます。なお、講義内容は受講生の興味関心や進捗状況に応じて変更の可能性があります。

到達目標

1．民族音楽学（音楽民族学）の歴史と成果を理解し、音楽について様々な角度から論じることができる。
2．様々な時代・地域の音楽文化を理解し、異文化や他者の考えを尊重し、受け止めることができる。
3．音楽の様々なしくみを理解することで、多様な現場で音楽を活かすことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
第1～14回の小テスト	90		
第15回の記述問題＆授業全体での意見・質問等の貢献	10		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

【参考書】（その他、講義の中で随時紹介します。）
・川田順造 1988 『聲』筑摩書房
・柘植元一・塚田健一（編） 1999 『はじめての世界音楽―諸民族の伝統音楽からポップスまで―』音楽之友社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

日本の民俗音楽に関する実務経験（川崎市教育委員会文化財調査員ほか）を活かし、全国各地に伝わる様々な音楽文化の紹介を交えて講義を行います。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義前までに該当部分の文献等を熟読し、諸民族の音楽文化について予習してください。授業後は講義で示された文献等を参照するほか、講義で採り上げられていた音楽や芸能を動画や音源等で確認しながら復習し、各音楽文化の特徴を整理しておいてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

課題は毎回必ず期限内に提出してください。また、感想や意見、質問等がある場合はメールしてください。個別に回答します。講義では、馴染みのある音楽から初めて聴く音楽まで、あらゆる音楽に触れます。面白いと思った音楽があったら、ぜひそのジャンルの音楽を色々聴いてみてください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	講義内容についての説明。授業計画、予習・復習、課題提出、評価・単位認定など、シラバスについての説明。
第2週	［世界音楽の視角1］音楽とシャーマニズム	世界音楽をどのような観点から考えることができるのかについて学ぶ。特にシャーマニズムにおける音楽の役割について理解する。
第3週	［世界音楽の視角2］音楽考古学	世界音楽をどのような観点から考えることができるのかについて学ぶ。特に日本における音楽考古学の展開について理解する。
第4週	［世界音楽の視角3］音楽図像学	世界音楽をどのような観点から考えることができるのかについて学ぶ。特に伎楽・琵琶楽・散楽を例に、音楽図像学の展開について理解する。
第5週	［世界音楽の諸相1］パプアニューギニア―音楽とサウンドスケープ―	世界の様々な音楽文化について、地域それぞれの特徴から学ぶ。特にパプアニューギニアにおける音楽とサウンドスケープとの関係について理解する。
第6週	［世界音楽の諸相2］インドネシア―ゴング文化―	世界の様々な音楽文化について、地域それぞれの特徴から学ぶ。特にインドネシアほか、様々なゴング文化について理解する。
第7週	［世界音楽の諸相3］アフリカ―トーキングドラム―	世界の様々な音楽文化について、地域それぞれの特徴から学ぶ。特にトーキングドラムを例に、音楽による歴史の伝承について理解する。
第8週	［世界音楽の諸相4］アメリカ合衆国―ミュージカル―	世界の様々な音楽文化について、地域それぞれの特徴から学ぶ。特にミュージカルを例に、アメリカ合衆国の音楽文化について理解する。
第9週	［世界音楽の諸相5］アメリカ合衆国―ジャズ―	世界の様々な音楽文化について、地域それぞれの特徴から学ぶ。特にジャズを例に、アメリカ合衆国の音楽文化について理解する。
第10週	［世界音楽の諸相6］ラテンアメリカ―ルンバ・サンバ・マンボ・タンゴ―	世界の様々な音楽文化について、地域それぞれの特徴から学ぶ。特にルンバ・サンバ・マンボ・タンゴなどを例に、音楽と舞踊・祭礼との関係について理解する。
第11週	［祭礼と音楽1］クリスマスの諸行事と音楽	祭礼と音楽との関係について、地域それぞれの特徴から学ぶ。特にクリスマスを例に、音楽文化の時代的・地域的変容について理解する。
第12週	［祭礼と音楽2］北海道・東北地方の音楽と芸能	祭礼と音楽との関係について、地域それぞれの特徴から学ぶ。特に北海道・東北地方を例に、芸能文化と音楽の関係について理解する。
第13週	［祭礼と音楽3］九州・沖縄地方の音楽と芸能	祭礼と音楽との関係について、地域それぞれの特徴から学ぶ。特に九州・沖縄地方を例に、芸能文化と音楽の関係について理解する。
第14週	［祭礼と音楽4］カーニバルの諸行事と音楽	祭礼と音楽との関係について、地域それぞれの特徴から学ぶ。特にカーニバルを例に、音楽文化・祭礼文化の通文化性について理解する。
第15週	［祭礼と音楽5］無形民俗文化財と無形文化遺産	祭礼と音楽との関係についての講義のまとめとして、無形民俗文化財と無形文化遺産について理解する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会福祉						
担当教員	西浦　功	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2601		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

世界有数の豊かな国であるはずの日本でも、日常生活に様々な課題を抱える人は数多い。彼らの悩みを生み出す社会的背景を理解しつつ、現実的な支援のあり方を考える力を身につけることが、本講義の目的である。本講義では、高齢者及び障害者の福祉のみならず、子育てや教育・労働現場等の様々な領域における福祉の事例について解説する。

到達目標

①　我々の社会を支える社会保障・社会福祉の制度について、その概要を適切に説明できる。
②　社会的に弱い立場の人々が抱える生活課題が、どのような社会的背景から生み出されるのかを詳しく説明できる。
③　我々の社会に求められる福祉のあり方を、具体的な生活場面と結びつけながら説明できる。
④　地域や国家等のマクロな視点を意識しながら、望ましい福祉のあり方について自分の意見を構築することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加態度（課題提出）	４０		
授業内試験	４０		
中間レポート	２０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各回の授業終了時に課題を出すので、よく学習したうえで次回の授業に臨むこと。また、講義レジュメで空欄補充を要するところは学期末試験の出題範囲となるので、よく復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・本科目は芸術学部生を対象とした授業であるため、社会学部生は履修しないこと。
・毎回の講義で課す予復習課題の提出状況で出席確認／参加態度評価を行うため、出し忘れのないよう注意すること。また授業時に課題のフィードバックを実施する。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：現代社会と福祉	
第2週	福祉と社会保障、生活を守るための様々なしくみ	
第3週	公的扶助のしくみと課題	
第4週	貧困問題の背景と対策	
第5週	家族と福祉のかかわり	
第6週	高齢者介護の今・むかし	
第7週	障害とは何かを考える	
第8週	障害者と脱施設化	
第9週	自立生活運動の目指すものは何か	
第10週	育児をめぐる諸問題①	育児に関する「常識」を疑う
第11週	育児をめぐる諸問題②	母親の育児不安の背景
第12週	不登校問題の背景や支援のあり方	
第13週	なぜ人は過労死するか：その背景を考える	
第14週	認知症から考える高齢者ケア	
第15週	総括―福祉と家族と専門職／授業内試験	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会思想史						
担当教員	小林　淑憲	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2301		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

西洋社会の歴史を大づかみに捉えれば，古典古代（ギリシア・ローマ）の世界が崩壊するにともなって，キリスト教が広がっていき，やがて宗教的な対立を経てから西洋の社会が世俗化・宗派化へ向かっていくという図式で説明される。この授業では，このような図式で説明される西洋の歴史の中で，古典古代から19世紀半ばに至る個々の思想家が，どのような問題を抱え，それをどのように解決しようとしたかを明らかにする。

到達目標

1.西洋社会思想史の大まかな流れを把握する。
2.個々の思想家がおかれた歴史的状況と，思想家が抱えた問題との対応を理解する。
3.個々の思想家の思想的特色を，その時代や地域の特色と対応させながら他人に説明できるようにする。
4.自分がおかれた状況と，解決すべき問題およびその解決方法について考察することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業5回ごとに，主として択一式の小テストを合計3回	60%		
学期末にレポート（40字×40行＝1600字(程度)，A4用	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『社会思想家はなにを追い求めたか　プラトンからカルヴァンまで』	小林淑憲	日本経済評論社	2024		2024年3月に刊行されました。第9週までは

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
第9週までは上記の教科書を読んで予習する。復習は思想家と置かれた状況との関係を中心に置き，知らなかった言葉なども意味を確認して欲しい。オンライン授業につき，授業は繰り返し視聴することができるので復習に役立てて欲しい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業ではいろいろな思想家の思想を紹介しますが，薄いもので良いので思想家の作品（著作）を自分で実際に読んでみることをすすめます。実際に読んでみると私の話している思想家・作品のイメージとは若干異なるイメージを持つかも知れません。しかし，むしろそれで良いのです。どちらが正しいとか間違っているとかいう問題ではありません。本当に自分で読んでみれば，それは貴重な経験で，個人個人の持った感

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション　社会思想史の対象と方法	（1）「社会思想史って何だろうか？」で，社会と思想と歴史についてお話しします。 （2）「社会思想史をどう見るか？」では社会思想史を見るときの注意点を考察します。 （3）「ヨーロッパ社会思想史の基調は何か？」では，ヨーロッパの社会思想史を一つの物語とについてお話しします。特にプラトンの社会思想については，イデア，魂の不死，想起説，哲人政治，哲人教育などについて論じます。
第2週	古典古代とプラトン	古典古代の思想の特色，古代ギリシアの政治と社会，プラトンの生涯，プラトンの社会思想について論じます。
第3週	アリストテレス	アリストテレスの社会思想の特色を，プラトンに対する批判という視角から論じます。具体的には目的論，共同体論，所有についての考え方，ポリスの形成と維持などについて考察します。
第4週	ヘレニズムとキケロー	マケドニアの隆盛によって古代ギリシアのポリスが衰退した後の思想の特色を，エピクロス派とストア派に注目してお話しします。ストア派に関して特にキケローを具体的に取り上げ，その思想的課題を，自然法と平等という観点から検討します。
第5週	キリスト教とその展開	キリスト教を社会思想として見たときに，どのような特色を見出すことができるかについてお話しします。キリスト教には，ギリシア思想とは違う固有の時間の観念があって，その観念が独特な社会思想を生み出しているという話をします。
第6週	アウグスティヌスとトマス・アクィナス	古代と中世の境目に位置するアウグスティヌスについては，その人間観，歴史観，国家観などを検討し，中世を代表する思想家トマス・アクィナスについては，信仰と理性，法概念，商取引と利子などについて論じます。
第7週	ルネサンスと宗教改革を再考する	従来のルネサンス・宗教改革の見方を相対化します。ルネサンスも宗教改革も，状況の変化にともなって新しい思想を産み出したけれども，どちらも古代的・中世的なものの見方を持続させていることを指摘します。
第8週	マキアヴェッリ	15世紀後半から16世紀前半期のフィレンツェの時代状況においてマキアヴェッリの社会思想を『君主論』を中心において考察します。彼の人間観や統治の技術に焦点を当てて考えます。
第9週	ルターとカルヴァン	宗教改革を推進した二人の思想家を取り上げます。ルターについては，おいたちや信仰義認説，聖書主義，万人司祭説，商業観を中心に，カルヴァンについては，ルターとの違い，人間観，教会制度や国家論などを論じます。
第10週	新しい自然観の発展	アリストテレス以来の伝統的な目的論的自然観が，新しい機械論的自然観に取って代わられていったことをお話しします。ただコペルニクスやケプラー，ガリレオ，デカルト，ニュートンなど新しい自然観を推進した思想家も，実はキリスト教を信じていた人々だったことを無視す
第11週	ホッブズとロック	宗教改革以降，ヨーロッパは宗教的な対立が政治的な闘争に発展するという歴史を経験しました。とくに17世紀イングランドは内乱を頂点とする国内対立の歴史だったといって過言ではありません。内乱期についてはホッブズを中心にその人間観，国家論，宗教論について検討しま
第12週	啓蒙思想とドルバック	18世紀になるとヨーロッパの思想状況は大きく変化します。つまり17世紀までの，人間に対する悲観的な見方が，完成可能性への信頼という楽観的見方へという変化です。この見方は宗教観にも表れていて，人々の道徳的基礎が神から良心や理性へと移行していき，理神論や無神論
第13週	ルソー	18世紀は一口に啓蒙の時代と呼ばれますが，ルソーは意外にもこの啓蒙運動に対して批判的・懐疑的な思想を展開しました。そのことを『学問技芸論』と『人間不平等起源論』を中心に検討します。
第14週	スミス	スコットランド啓蒙思想の代表的思想家アダム・スミスの社会思想を，『道徳感情論』を中心に考察します。カルヴァン派の影響の強い思想的土壌に生まれ育ったスミスですが，彼はカルヴァンの元々の思想とは全く違う，非常に楽観的な人間観をもって社会を考察していたことを
第15週	ヘーゲルと市民社会	元々は神学者だったヘーゲルは，フランス革命をはじめとする時代状況の変化の中で，宗教よりも国家という共同体をどのように意味づけるかに関心を集中させました。そのことを，『歴史哲学講義』を中心に取り上げて論じます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	文化人類学						
担当教員	北原　モコットゥナシ	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2121		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

日本社会でくらす人々は、日本文化や他の文化に対して、一定の思い込みをしていることがあります。これは、本学の学生についても同様でしょう。この講義を通して学生が、世界の諸地域で暮らす人々の文化に触れ、人間の文化の普遍性と多様性を知りつつ、これまで身に付けてきた文化に関する思い込みに変化を起こすことを主目的とします。
特に、北海道を中心とする日本列島北部の先住民族アイヌの文化を知り、日本文化や周囲の文化と対比することで双方についての理解を深めつつ、他者との共存について考えられるようになることを目指します。

到達目標

① 学生は講義を通して文化人類学の基本的な概念と用語を知り、周囲に対して説明できるようになる。
② 学生は他者と共存するための視点、感覚を学生それぞれの立場から身につけ、人に伝えられるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
出席（質問・感想）	60%		
課題（小テスト）	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『最新アイヌ学がわかる』』	佐々木史郎・北原モコットゥナシ（監修・著）	株式会社エイアンドエフ	2024	978-4-909355-48-5 C0039	

参考書等

北原モコットゥナシ（著）田房永子（漫画）2023『アイヌもやもや』303BOOKS。
北原モコットゥナシ2022『つないでほどく　アイヌ・和人』（https://www.cais.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2022/04/caisbooklet_12.pdf）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

博物館・大学におけるアイヌ文化研究と普及・教育業務。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各回の授業後に、課題（質問・感想の入力、小テスト）に取り組む。 この作業を通し、その回の講義で何を学んだのかを振り返り、確認しておくこと。 講義中に指示があった場合は、関連資料に事前に目を通し、自分なりの意見をまとめること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

課題（小テスト）は、その週の授業についての理解度を知るために実施する。資料を閲覧せず、試験に回答だけ記入することのないように。
質問・感想は翌週以降に共有し、コメントするので、個人情報は書かないように注意すること。授業の改善要望、取り上げて欲しいテーマを書いても良い。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス・文化について	講義形式、成績評価の方法を説明。 文化人類学における「文化」概念と、自文化中心主義、文化相対主義など取り上げて説明する。
第2週	日本社会の多様性	「国民」と「民族」、様々なマイノリティ性・マジョリティ性について取り上げ、日本社会の多様性について理解するとともに、自己の立ち位置を確認する。
第3週	アイヌ語１	言語一般が持つ特徴と、アイヌ語の基礎的な発音や基本構文などを取り上げる。
第4週	アイヌ語２	アイヌ語と他の言語を比較する。言語の系統論と、アイヌ語や日本語が孤立語だとされることを取り上げる。
第5週	宗教１	宗教とは何か、宗教の類型など、宗教についての基本的な考え方を解説する。日本と中国の事例を取り上げ、アイヌの宗教との比較をする。
第6週	宗教２	神の観念、世界観などについて、アイヌと日本の事例を比較し、両者の個性と共通性を理解する。
第7週	アイヌ語の地名	東北地方北部から樺太にかけての地名には、アイヌ語に由来するものが多く含まれる。しかし、今日ではそれらの多くが漢字で表記されていることもあり、日常的にアイヌ語の地名に触れつつも、そのことを実感しないことも多い。
第8週	狩猟文化１	近代までに形成されたアリュートとアイヌの狩猟文化を取り上げる。海獣を中心に、主要な対象動物と狩猟の技法、動物の利用法などを取り上げる。 近代以降の法制により、狩猟の在り方がどのように変化したかを解説する。
第9週	狩猟文化２	近代までに形成されたアイヌの狩猟文化を取り上げる。陸獣を中心に、主要な対象動物と狩猟の技法、動物の利用法などを取り上げる。 近代以降の法制により、狩猟の在り方がどのように変化したかを解説する。
第10週	人種神話と人種主義	西洋近代の中で生まれた人種主義について、研究の動機と虚構性などを取り上げる。人種主義を援用することで植民地主義が正当化されていった歴史などを解説する。
第11週	音楽	ある文化の内からの視点、外からの視点による音楽の定義を論じる。アイヌ文化において、近代までに形成されたさまざまな音楽的文学、楽器とそれらの今日的展開を紹介する。
第12週	衣服文化	近代までに形成されたアイヌの衣服文化について、素材、形態、製作技法などを解説する。 それらが周囲の文化との接点のなかで形成された過程に注目し、文化間の相関性を考える。
第13週	文学	アイヌ社会における文字文学と口承文学の概要を紹介する。比較文学研究の手法と、東アジアの文学が持つ共通性を解説する。
第14週	植民地主義	植民地主義と文化人類学の歴史、植民地支配が今日の社会に及ぼす影響などを解説する。
第15週	多文化共生	日本における多民族・多文化状況の形成過程と、80年代以降の多文化共生政策の特徴・課題などを解説。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本の歴史						
担当教員	秋山　淳子	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2112		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

地域を学ぶ上で不可欠な知識である歴史について、基礎的知識を習得する。授業では同時代的視点に立って、欧米及びアジアの歴史的発展との比較をしつつ、世界及び日本の歴史的潮流を概観的かつ包括的に把握する。

到達目標

世界史上の歴史的な流れに対応させて、日本史の基礎知識を学ぶ。歴史の因果関係に焦点を当てて、世界史と日本史の基本的事項を理解し、説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回授業後に提出する質問・コメントペーパーの内容	40%		
期末レポート	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習として、授業に関連する地理的な情報と歴史的用語について調べておき、授業後は講義内容をよくまとめ、ノート整理を行ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。毎回授業動画を視聴した後に、質問やコメント等を提出してください。特に返信が必要と判断したものについては、適宜返信のかたちでフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	歴史を学ぶ意義ーヨーロッパ世界と日本の古代国家から見てー	ヨーロッパ世界と日本の古代国家から見て、歴史を学ぶ意義について考える。
第2週	東アジアの形成ー中国・日本ー	中国での古代文明と日本のムラ・クニの発生について学ぶ。
第3週	8世紀の世界と日本の社会・経済	中華文明とアジア世界およびその中での日本の律令制形成について学ぶ。
第4週	ヨーロッパ「封建」社会と日本の武家政権を比較して	中世ヨーロッパでの封建制社会と、日本における平安貴族政権および武家政権の成立を比較しつつ学ぶ。
第5週	中世社会のなりたちー日本と世界を比較してー	ヨーロッパにおける中世社会と、日本における鎌倉政権の誕生とその土地支配のあり方を比較しつつ学ぶ。
第6週	ルネッサンス社会の到来と日本の戦国時代	ルネッサンスから大航海時代への流れおよびキリスト教の海外布教・鉄砲伝来と、日本の戦国時代の展開について関わらせて学ぶ。
第7週	江戸幕府の成立とアジア世界	江戸幕府の成立と、同時期のアジア世界の展開について学ぶ。
第8週	「鎖国」時代の日本と対外関係	「鎖国」体制の成立と江戸時代国内経済の発達および対外関係について学ぶ。
第9週	欧米列強のアジア進出と幕末開港	幕末開港に至る過程を、当時の国際情勢（欧米列強の帝国主義的発展と植民地分割の進展）と関わらせて学ぶ。
第10週	世界の工業化と日本の産業革命	世界の工業化の中で、対外自立をはかる明治政府による殖産工業政策の展開と産業革命について学ぶ。
第11週	第一次世界大戦ー近代から現代へー	初めての総力戦となった第一次世界大戦の展開とそれによって大きな転換をみせた国際関係を理解した上で、近代から現代へ、大衆消費社会をキーワードにアメリカと日本の事例から学ぶ。
第12週	世界恐慌とファシズムの台頭	アメリカから発生した恐慌が奥州・日本をはじめ世界に波及し、国際秩序を崩壊させ、ファシズムが台頭する課程を学ぶ。
第13週	第二次世界大戦と戦時体制	日本が英米を中心とする国際社会と対立を強めるなかで、最終的に日中戦争、太平洋戦争に至る過程と戦時体制について学ぶ。
第14週	第二次世界大戦後の国際秩序と日本の復興	敗戦後日本の戦後改革と財閥解体・農地改革など経済の「民主化」について学ぶ。
第15週	戦後の冷戦構造と日本の高度成長	戦後、冷静構造が定着する中、日本が敗戦から復興し、「奇跡の成長」とも言われる高度成長に至った要因について学ぶとともに、高度成長をその後のバブル景気と比較して違いを理解する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	臨床心理学						
担当教員	田澤　佳江	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2412		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

臨床心理学は、心理学の理論と技術によってこころの問題を理解し、適切な援助を行うための基礎となる学問です。この授業では、心理臨床的援助に関わる代表的なテーマに絞って講義をすすめます。また、知的理解にとどまらず、実習による体験学習なども織り交ぜながら援助技法について学んでいきます。

到達目標

①こころの問題に対する臨床心理学的なとらえ方の基礎を理解できる。
②臨床心理学で用いられる援助技法についての基礎的理解ができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観（個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出課題	80%		
期末課題	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、カウンセラーとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義前に配布される講義資料を事前に読んでから授業に臨んでください。テスト形式の提出課題の成績が出た後は、正誤を確認しながら講義内容をまとめてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。
授業内で実施した課題は、後日フィードバックします。課題提出が出席確認を兼ねており、出席確認は毎週締切日があります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	15回実施の講義内容の紹介と、単位取得をするための条件などについて解説する。出席確認シートの提出をもって出席とみなす。
第2週	パーソナリティの深層心理学的理解	パーソナリティの理解の仕方にはどのような種類のものがあるのか、類型論、特性論、力動的理解について解説しその違いについて学ぶ。この回より毎回、提出課題が出題される。この課題の提出をもって出席とみなす。
第3週	パーソナリティの発達①　エリクソンの自我発達理論　乳幼児から児童期	発達理論について、主にエリクソンの理論を中心に概観する。この回は乳児期から児童期の発達課題を中心に学習する。
第4週	パーソナリティの発達②　エリクソンの自我発達理論　思春期から老年期	第3回講義の続きとして、エリクソンの発達理論を中心に学ぶ。この回は、思春期から老年期にかけての発達理論について学習する。
第5週	パーソナリティと適応①　適応と不適応	心理的な適応とは何か、心理的不適応状態とはどういうことなのかについて解説する。また心理的不適応における要因についても学ぶ。
第6週	パーソナリティと適応②　適応問題	心理的不適応問題について紹介する。この回は適応問題とみなされるさまざまな問題の中から、いくつかをピックアップして紹介する。
第7週	パーソナリティ査定の諸技法	アセスメント技法の1つとして面接技法について紹介する。また、第8回講義よりアセスメント技法として心理検査をとりあげるため、この回はそれに先駆けて質問紙検査の体験実習も行う。
第8週	描画検査の実習(バウムテスト/HTP)	アセスメント技法として、心理検査について紹介する。また、この回は心理検査の中の描画検査法を中心に体験実習も行う。この回はバウムテストとHTPテストを用いる。
第9週	描画検査の実習(風景構成法)	第8回に引き続き、心理検査についてその実施方法や留意点について解説する。後半では、描画検査の中の風景構成法を使い体験実習を行う。
第10週	心理療法諸理論の概説	心理療法とは何か、多くの治療体系に共通するものは何かを解説する。その後、心理療法の中から代表的なものを複数とりあげて紹介する。
第11週	来談者中心療法の理論	心理療法として代表される来談者中心療法についてとりあげその理論、基礎的技法について学ぶ。
第12週	来談者中心療法の実際	第11回講義で学んだ理論を踏まえ、実際の来談者中心療法はどのように行われているのかを資料を使って学習する。
第13週	遊戯療法の理論と実際	子どもの心理療法として遊戯療法がある。それはどのような理論で行われているものなのか、通常の遊びとは何が異なるのかなどをを学習する。
第14週	パーソナリティと適応③　デートDVについて	適応問題の一つであるデートDVをとりあげ、それはどのような問題であるのかについて資料を通して学習する。
第15週	まとめと期末課題	これまでの提出課題を振り返り、それを元に期末課題に取り組んでもらう。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	北海道の地理						
担当教員	遠藤　正	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2201		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

北海道の地理を理解するとともに、地域の主要な産業、課題、文化など幅広く北海道を理解するとともに、少子高齢化・人口減少などの地域の実情を知る。また、北海道の観光にも着目し、地域づくりを観光の視点を交えて学ぶ。
＜留意事項＞授業は原則教室での座学を基本とする。オンラインなどの場合もある。

到達目標

① 北海道の地理について、その特性を理解し、説明できる。
② 地域の特徴や課題を認識し、地域社会と関わっていく視点を身につける。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（授業態度等）	20		
授業内確認テスト（授業内で実施する）出席不足の場	80		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

地域まちづくりや観光の専門家・有識者として、自治体や民間企業と連携したプロジェクトなどを実践している。また、インバウンドによる地域活性化についても、専門家・有識者として活動している。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回関連する資料・文献等で調べて授業に臨んでください。北海道のニュース等時事問題を常に確認し、北海道の状況を理解してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

適宜参加者に発言も求めます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の基本的説明を行なう。また、北海道における少子高齢化や人口の動向など、道内の地域の現状や課題を学ぶ。
第2週	北海道の地理（道南地方）	道南をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の関係性や経済波及効果についても説明を行う。
第3週	時事テーマ、トピックによる地域の理解1	地域の産業構造や社会動向を学ぶ目的で、道内から事例を選んで紹介する。その上で、道内の地域における、今後の課題を把握し、その対策などを学ぶとともに、受講生も自身の視点で打開策などを考え、検討を深める。
第4週	北海道の地理（道北地方1）	道北をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の関係性や経済波及効果についても説明を行う。
第5週	時事テーマ、トピックによる地域の理解2	地域の産業構造や社会動向を学ぶ目的で、道内から事例を選んで紹介する。その上で、道内の地域における、今後の課題を把握し、その対策などを学ぶとともに、受講生も自身の視点で打開策などを考え、検討を深める。
第6週	北海道の地理（道北地方2）	道北をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の関係性や経済波及効果についても説明を行う。
第7週	時事テーマ、トピックによる地域の理解3	地域の産業構造や社会動向を学ぶ目的で、道内から事例を選んで紹介する。その上で、道内の地域における、今後の課題を把握し、その対策などを学ぶとともに、受講生も自身の視点で打開策などを考え、検討を深める。
第8週	北海道の地理（道東地方1）	道東をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の関係性や経済波及効果についても説明を行う。
第9週	時事テーマ、トピックによる地域の理解4	地域の産業構造や社会動向を学ぶ目的で、道内から事例を選んで紹介する。その上で、道内の地域における、今後の課題を把握し、その対策などを学ぶとともに、受講生も自身の視点で打開策などを考え、検討を深める。
第10週	北海道の地理（道東地方2）	道東をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の関係性や経済波及効果についても説明を行う。
第11週	北海道の地理（道央地方1）	道央をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の関係性や経済波及効果についても説明を行う。
第12週	学習内容のレビュー	ここまでの学習した内容について、知識の整理と定着を図る。また、単位認定のための確認テストについて説明を行なう。
第13週	授業内確認テスト	ここまでの学習内容について確認テストを実施する。
第14週	北海道の地理（道央地方2）	道央をテーマに、地域の特徴、課題、観光動向などを学ぶ。また、近年増加するインバウンドと地域の関係性や経済波及効果についても説明を行う。
第15週	授業内容の到達目標の確認、授業内テストのフィードバック	本授業の総括を行うともに、授業内のテストについてフィードバックを行なう。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	北海道の生活文化						
担当教員	齋藤　貴之	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2211		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この授業では、北海道に暮らす人びとの住民構成、北海道各地の多彩な暮らし、生活儀礼と世界観、信仰と宗教、年中行事と食、など北海道の人びとの暮らしの中に脈々と受け継がれている行為や習慣などのさまざまな事例を題材として取り上げ、その現状や変化、地域差などを解き明かしていくことで、北海道に暮らす人びとの行動や考え方の根底にある「北海道らしさ」を知り、理解する。

到達目標

北海道の生活文化を学ぶことを通して、自らを育んでくれた北海道の文化・風習・歴史に気づき、それらが持つ意味や役割を再認識しながら、身近な事例を通してそれらを学ぶための思考を養うことができ、その知識や理解を深めることができる。同時に、ものの考え方、ものの見方を身につけて、社会に出てからも自分の力を十分に発揮するために必要な基礎力を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回の授業で提出してもらう授業課題の提出状況や内	60%		
期間中に2回予定している課題レポート	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付しますので、適宜閲覧またはダウンロードしてください。』					

参考書等

なし。随時紹介し、必要に応じて配布しますので、適宜閲覧またはダウンロードしてください。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
【予習】次回の講義のテーマを確認し、それに関連する文献や資料を調べるほか、新聞やニュースなど通して北海道の歴史や文化に関する用語に触れておいてください。 【復習】講義で取り扱ったテーマに関し、配布されたレジュメや資料などを見直し、理解を深めてください。講義の学修が必要です。	総計10時間、平均で毎回最低予習20分、復習20分

受講時の注意事項

毎回、授業動画で出題する問いへの回答、ならびにその授業の感想やコメント等を記入し、提出してもらいます。授業内に成績講評と課題レポートのフィードバックを行います。
授業期間内に2回実施を予定している学外授業・フィールドワークへの積極的な参加を成績に加味します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：この講義の流れと進め方、なぜ今北海道の生活文化か	この講義の流れと進め方などについて説明し、なぜ今北海道の生活文化かということで、グローバル時代に自文化、つまり北海道の生活文化を学ぶことの必要性について考える。
第2週	東アジアと北海道の古代史：古代人はどこから来たのか	北海道の古代人がどこから来たのかを探りながら、北海道をめぐるものと人の流れについてとりあげ、北海道は古代よりアジアの一角として、特に北東アジアからのさまざまな文化的影響を受けてきたということを学ぶ。
第3週	人とものが集う場所：定期市とその役割	今も暮らしの中に生きている市をとりあげながら、市というのは、いつの時代もそれぞれの地域の「今」を映し出す「鑑」のような存在であるということを学ぶ。
第4週	フィールドワークの心得：見る方法、聞く方法、撮る方法について学ぶ	学外授業に向けて、フィールドワークとその注意点について説明し、見る方法と聞く方法ということで、フィールドワークとはどのようなものかということを学ぶ。
第5週	【学外授業】定期市で学ぶ in 豊平神社骨董市	現代に生きる定期市ということで、実際に定期市に足を運んで、定期市とはどういうものか、今も暮らしの中に息づいている定期市とはどんなものかなどを体験してもらいながら、課題に取り組む。
第6週	【学外授業】博物館で異文化体験 in 北海道博物館	アイヌの人びとの歴史と文化ということで、北海道博物館を訪れ、専門家の講義を受講し、その後、展示されている博物館資料を手がかりに、課題に取り組む。
第7週	北海道の暮らしと家族：系図に学ぶ我が家の歴史と家族	日本人のもつ家族の姿とはどのようなものかをひもときながら、家族というのは、生きもののように社会の変化に合わせて変わっていくものであり、決して普遍的なものではないということについて学ぶ。
第8週	アイヌ文化と現代：アイヌの文化と文化多様性	ゴールデンカムイを手がかりに、最も身近な異文化のひとつであるアイヌの文化について学ぶことで、日本の文化の多様性を再発見しつつ、北海道における文化多元主義の可能性について考える。
第9週	北海道の海の暮らし：漁村の暮らしと採集漁	海に暮らす人びとのルーツをたどりながら、漂海民と磯漁師という海とともに暮らす2つの集団をとりあげ、海の民の活動を支えるものについて考える。
第10週	北海道の町の暮らし：都市の暮らしと祭り	よさこい祭りについてとりあげ、都市における祭りの役割と機能について詳しく見ていくことで、都市の祭りという新たな主役による新しい祭りが地域社会の活性化につながっていることを学ぶ。
第11週	北海道の暮らしと年中行事：年中行事と行事食	今日でも実施率の高い正月と盆をとりあげ、それらの本来の意味や役割にも注目しながら、どのような変化を遂げ、今、どのような意味や役割をもって実施されているのかについて考える。
第12週	近代の北海道：北海道開拓とアイヌ	蝦夷地が北海道になって以降、開拓のために日本各地から多くの人が北の大地に入植し、それによって北海道とそこに暮らすアイヌの人たちの暮らしがどのように変化してきたかについて学ぶ。
第13週	北海道の職人文化：人とものとをつなぐ北海道の鍛冶屋	北海道の鍛冶屋についてとりあげ、その変化と現状から、北海道の鍛冶屋が果たしてきた役割と、今後も生き残っていくために必要な要素とは何かについて考える。
第14週	観光：アニメ・ツーリズム、アニメ・マンガによる観光、聖地巡礼	観光、特にアニメ・ツーリズムについてとりあげ、アニメや漫画などのサブカルチャーも有力な観光コンテンツであり、それらを利活用したアニメ・ツーリズムが今後の日本の観光振興、地域振興の中核を担うかもしれないということを学ぶ。
第15週	北海道の昆布：北海道の昆布が支える日本の文化	昆布とは何か、どこで採れて、どのようにして昆布になるのかなどについて詳しく見ていくことで、北海道の昆布が古くから宣告各地で広く利用され、多様な文化の形成に大きな役割を果たしてきたということを学ぶ。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報処理演習Ｂ（Excel）a						
担当教員	丸山　宏昌	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 2042		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「情報処理演習Ⅰ（Excel）」を基本として、今後社会調査を学ぶうえで必要となる情報処理能力を習得することを目的とする。具体的には、1つの変数の特徴や2つの変数の関係など基本的な統計量を用いたデータ処理や分析を表計算ソフト（Excel）で行うことができる基礎的技能を身につける。

到達目標

①　基本的な記述統計への理解を深めることができる。
②　表計算ソフト（Excel）を利用して、1つの変数の特徴や２つの変数の関係などのデータ処理や分析することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観と個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（到達度テスト）	40%		
課題への取り組み状況	30%		
授業への取り組み状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

『初歩から実用まで　100題で学ぶ表計算（第5版）』(情報処理演習Ａで購入)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、システムエンジニアとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。	1時間程度/週

受講時の注意事項

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅰ群に該当しています。
パソコンを持参すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業のねらいと進め方、成績評価、Excelの基本操作　【Excelの操作の復習】
第2週	変数の種類・変数の種類	変数の種類（質的・量的）とデータ入力　【変数の種類についての復習】
第3週	表とグラフの作成	大小比較、構成比、推移、バランス等　【グラフの作成の課題】
第4週	1つの変数の特徴①	データの図表化（度数分布とヒストグラム）　【度数分布表の作成の課題】
第5週	1つの変数の特徴②	代表値（平均値、中央値、最頻値）　【代表値を求める課題】
第6週	1つの変数の特徴③	散布度（分散、標準偏差、変動係数）　【散布度についての復習】
第7週	1つの変数の特徴④	標準化（標準得点、偏差値）　【標準化についての復習】
第8週	中間テスト	前半の振り返りと授業内試験（到達度テスト）　【振り返り】
第9週	2つの変数の関係①	散布図　【散布図の作成の課題】
第10週	2つの変数の関係②	共分散　【共分散についての復習】
第11週	2つの変数の関係③	相関係数　【相関係数に関する課題】
第12週	2つの変数の関係④	クロス集計　【クロス集計表の作成の課題】
第13週	ピボットテーブルによるクロス集計の方法①	表の作成、平均値、度数、構成比、データの更新　【クロス集計の課題】
第14週	ピボットテーブルによるクロス集計の方法②	並べ替えと階層区分、形式を利用してコピー、表・グラフ作成　【クロス集計の課題】
第15週	到達度テスト	後半の振り返りと授業内試験（到達度テスト）、全体のまとめ　【振り返り】
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報処理応用演習Ⅰ						
担当教員	丸山　宏昌	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2033		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「情報処理演習Ⅰ（Excel）」・「情報処理演習Ⅱ（Excel）」を基本として、今後社会調査を学ぶうえで必要となる情報処理能力を習得することを目的とする。具体的には、標本に基づく推測統計を表計算ソフト（Excel）で行うことができる基礎的技能を身につける。

到達目標

① 基本的な推測統計への理解を深めることができる。
② 表計算ソフト(Excel)を利用して、標本に基づく推測統計の分析ができる。
③ 仮説の検定と相関分析ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観と個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（到達度テスト）	40%		
課題への取り組み状況	30%		
授業への取り組み状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

『初歩から実用まで　100題で学ぶ表計算（第5版）』(情報処理演習Ａで購入)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、システムエンジニアとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。	1時間程度/週

受講時の注意事項

本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅱ群に該当しています。
パソコンを持参すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業のねらいと進め方、成績評価、Excelによる記述統計　【Excelの操作の復習】
第2週	推測統計の基礎①	母集団と標本、母数と標本統計量　【標本統計量についての復習】
第3週	推測統計の基礎②	確率変数と確率分布　【確率分布についての復習】
第4週	推測統計の基礎③	標本分布、標準誤差　【標準誤差に関する課題】
第5週	仮説検定の考え方①	帰無仮説と対立仮説、有意水準、両側・片側検定　【仮説検定の考え方についての復習】
第6週	仮説検定の考え方②	検定の手順　【仮説検定の手順についての復習】
第7週	中間テスト	推測統計の基礎と仮説検定の考え方の振り返りと授業内試験(到達度テスト)　【振り返り】
第8週	仮説検定の方法①	独立性の検定　【独立性の検定に関する課題】
第9週	仮説検定の方法②	比率の差の検定　【比率の差の検定に関する課題】
第10週	仮説検定の方法③	平均の差の検定　【平均の差の検定に関する課題】
第11週	仮説検定の方法④	分散の差の検定　【分散の差の検定に関する課題】
第12週	相関分析①	散布図と相関係数　【相関係数についての復習】
第13週	相関分析②	Excelの分析ツールによる相関分析　【相関分析に関する課題】
第14週	相関分析③	相関係数の検定　【相関係数に関する課題】
第15週	到達度テスト	仮説検定と相関分析の振り返りと授業内試験(到達度テスト)、全体のまとめ　【振り返り】
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	コンピュータプログラミングⅠ						
担当教員	山田　志真子	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2701		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業では、はじめてプログラミングを行う初学者を対象に、近年、幅広く利用されているJAVA言語を用いて、基本的なプログラミング技法の学習を実習形式で行います。
数学やプログラミングに関する専門的な知識などはなくてもかまいません。
授業目標としては、プログラミングの基本的な文法を学習し、それらを用いて、自分自身で目的に応じたプログラムを作ることができることを目的としています。
自分自信でプログラミングを書いて、動かしてみることで、プログラミングの楽しさを実感してもらえれば幸いです。

到達目標

本講義の到達目標は、JAVAの基本的な文法を理解し、それを利用して、自分が解決したい問題に対して、自分で解決法を考えて、プログラムを作成できるようになることです。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎授業出される課題をもとに評価します。	100		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

プログラマーとしての実務経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業中の実習で取り組んだ問題に対する復習、および、課題に取り組む時間として週2-3時間が大体の目安となります（ただし個人差による）	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

持ち運び可能なパソコンを所持し、大学へも持参可能な方のみ履修可能な科目です。また、履修に当たってはあらかじめjavaをインストールしてください。javaのインストール方法については事前にGoogleClassRoom(クラスコード: qbhpgss)のほうへアップロードしておきますので、受講前に確認し、必ず各自のパソコンにインストールしておいてください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の進め方と講義概要
第2週	文字と数値	文字列リテラル、数値リテラル、エスケープシーケンス、リテラル同士の連結について説明します。
第3週	変数の扱い方	変数の型、変数の宣言、キーボードからの入力について説明します。
第4週	変数と演算子 (1)	演算子を使った計算、インクリメント・デクリメント演算子について説明します。
第5週	変数と演算子 (2)	代入演算子、演算子の優先順位、型変換について説明します。
第6週	キャスト演算子と条件分岐 if文の使い方	キャスト演算子と条件分岐 if文の使い方について説明します。
第7週	復習	今まで習った内容のいろいろな演習問題を行います。
第8週	条件分岐 switch文と理論演算子	条件分岐 switch文と理論演算子について説明します。
第9週	繰り返し処理 for文の使い方	繰り返し処理 for文の使い方について説明します。
第10週	繰り返し処理 while文/do whileの使い方	繰り返し処理 while文/do whileの使い方について説明します。
第11週	繰り返し処理 for文の応用問題	for文と条件分岐の組み合わせの問題とfor文のネスト構造(for文の入れ子)について説明します。
第12週	配列 (その1)	配列の宣言と配列要素の確保について説明します。
第13週	配列 (その2)	配列を使ったいろいろな練習問題を行います。
第14週	2次元配列	2次元配列について説明します。
第15週	クラスの基本	クラスの基本について説明します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	札幌大谷キャリア支援プログラムＡ-Ⅰ						
担当教員	今　義典	配当年次	１年生	開講期	通年集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1931		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

学生の主体的な個人活動または団体活動を評価し、単位として認定します。本科目は、学部学科をはじめ、社会連携センター及びキャリア支援センターの協力のもと、大学共通科目（キャリア科目）に配置されたアクティブ・ラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。授業科目のＡからＤまでの区分は、次のとおりです。
　札幌大谷キャリア支援プログラムＡ：産学官連携・地域連携活動
　札幌大谷キャリア支援プログラムＢ：学生の主体的な個人活動または団体活動
　札幌大谷キャリア支援プログラムＣ及びＤ：キャリア支援センター等による資格取得・キャリア支援講座・公務員対策講座等
担当教員による事前申請後に開講するプログラムです。プログラムの内容が決定次第、学生ポータルサイトに掲載し、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。内容によっては事前説明会も開催しますので参加してください。

到達目標

授業科目のＡからＤの詳細な内容により到達目標が若干変わりますが、共通の到達目標は、「札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部のディプロマ・ポリシー」に準じます。
①自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができるようになる。
②コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができる。
③専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
○	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力	3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
「成績評価方法・基準」は「授業概要」により異なり			

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『プログラム開始前に担当教員から指示します。』					

参考書等

プログラム開始前に担当教員から指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく、４５時間従事した時間数をもって単位認定します。「授業計画」と同様、「予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間」は、「授業概要」欄に記載された指示に従ってください。	４５時間従事

受講時の注意事項

履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録期間を含め「受講時の注意事項」は、プログラムの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。
注：※通常授業の内容と重複して単位取得することはできません。　　※活動時間数に関わらず、１科目１単位を原則とします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含むアクティブ・ラーニング形式の科目です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	プログラム内容	各プログラムの「授業概要」により内容が異なります。プログラムが決定次第、随時、学生ポータルサイトに掲載するとともに、学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 この授業科目の大まかな流れ・手続きの要領は以下のとおりです。
第2週		
第3週		
第4週		
第5週		
第6週		
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語応用Aa						
担当教員	赤間　荘太	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2803		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この授業では英語基礎で学んだことを活かし、レベルの高い文献を読んでいきます。日本に住んでいる外国人が書いた異文化理解についてのエッセイを読み、自分の意見を英語で書くことにより実践的な英語力を身につけていきます。

到達目標

1. 英語のエッセイを読み、内容を理解して説明することができる。
2. 英作文を書き、自分の意見を英語で表現することができる。
3. 異文化を理解して、外国人と円滑なコミュニケーションをとることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
中間試験	25		
期末試験	25		
課題提出（オンライン授業受講）	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習として、英語エッセイを読み、問題への解答、和訳の作成などをして下さい。復習として、試験に向けて単語や文法などを確認して下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この授業はオンデマンド形式なので、事前に課題を提出して授業動画を視聴することで出席扱いとなります。対面の授業と同様、2/3以上の出席がない場合には試験を受験できませんのでご注意下さい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業および評価方法に関する説明
第2週	Lesson 1	"Small Talk with Strangers," "Sharing Future Plans"
第3週	Lesson 2	"Foreign Teachers vs. Freshmen," "A Simple Life in the Country"
第4週	Lesson 3	"Melting Pot," "One Parent, One Language"
第5週	Lesson 4	"The Daily Fight on Japanese Trains," "Homestay Visit in California"
第6週	Lesson 5	"Let's Study Foreign Customs before Going Abroad," "TV Shows Featuring Food"
第7週	Lesson 6	"Party Schools," "Traveling to Asia vs. Europe"
第8週	中間試験	オンラインでの中間試験
第9週	Lesson 7	まとめと課題提出
第10週	Lesson 8	"An Organized Tour," "Tanning in Japan"
第11週	Lesson 9	"Fashionably Late," "PB&J Sandwich"
第12週	Lesson 10	"American Heroes," "Bargaining"
第13週	Lesson 11	"Welcoming Neighbors," "To Be a Salesperson in America"
第14週	Lesson 12	"Will Kyoto's Atmosphere Be Destroyed by Modern Concrete?," "You Are What You Eat"
第15週	まとめと期末試験	授業まとめとオンラインでの期末試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語応用Ab						
担当教員	サイモンズ　クリストファー	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

In this course, content for the course will be varied in order to keep motivation high for the students as well as provide the practical skills needed for improvement. Classes will generally open with a warm up talk activity based on a list of general information gathering questions provided to be used on a weekly basis abou treal activities from the students personal lives. A core textbook will be the base of weekly lessons. Each unit will cover real life situations which present a target language through natural dialogues, listening challenges in native and non-native accents and role play pair work which consolidates the unit language in a way that gives confidence and meaning to their language learning.

到達目標

The first goal of this course is to provide the students with the practical skills they need to communicate effectively in English in situations that would be encountered abroad and to promote an interest in internationalism as an opportunity. Other course goals include students ability to share experiences and personal language production with partners. The varied activities used will highlight areas of ability and areas of needed practice for the students in their language progress. Enjoyment of the course studies is of importance as this leads to higher motivation.

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
Activity	10		
Participation	40		
Contribution	25		
Exam & Quiz	25		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『"On The Go"』	Gershon, Wares, Walker	Pearson/ Longman Asia ELT	2016	978-962-00-5254-5	英語応用A，Bで同じ教科書を使用します。

参考書等

Reference materials will be shown in class when necessary.

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
Practice of units studied with textbook CD, preparation for oral or written exams will take between 30 minutes to one hour of preparation time.	1時間程度/週

受講時の注意事項

Feedback will be given in class.

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	Warm up talk introduction, discussion of course goals, classmates introduction activity	
第2週	Warm up talk, Introduction of Unit 1,reservations, expressing desires, arranging	
第3週	Continue Unit 1,listening activity based on target language, role play of hotel	
第4週	Warm up talk, Unit 2: Information gathering about facilities on a university	
第5週	Warm up talk, continue Unit 2 themes, substitution cues used with practical dialogue	
第6週	Warm up talk, Unit 4: Asking for and giving directions, building language needed to give and	
第7週	Warm up talk, pair work: giving directions by use of a city map and understanding location	
第8週	Warm up talk, short pair work oral quiz on the first three units	
第9週	Warm up talk, listening for comprehension activity, Introduction of Unit 5: Asking	
第10週	Warm up talk, continue unit 5: Ordering a meal at a restaurant, use of translation cards to make	
第11週	Warm up talk, Unit 6: Pricing and reading numbers, asking for information in a rental	
第12週	Warm up talk, role play at a rental goods shop with a partner, giving advice to given	
第13週	Warm up talk, Unit 7: Learning about taking transportation, reading time schedules and	
第14週	Warm up talk, continue unit 7 using real maps and transportation schedules,	
第15週	Review & Final Challenge	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語応用Ba						
担当教員	赤間　荘太	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2804		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この授業では英語基礎で学んだことを活かし、レベルの高い文献を読んでいきます。日本に住んでいる外国人が書いた異文化理解についてのエッセイを読み、自分の意見を英語で書くことにより実践的な英語力を身につけていきます。

到達目標

1. 英語のエッセイを読み、内容を理解して説明することができる。
2. 英作文を書き、自分の意見を英語で表現することができる。
3. 異文化を理解して、外国人と円滑なコミュニケーションをとることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
中間試験	25		
期末試験	25		
課題提出（オンライン授業受講）	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習として、英語エッセイを読み、問題への解答、和訳の作成などをして下さい。復習として、試験に向けて単語や文法などを確認して下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この授業はオンデマンド形式なので、事前に課題を提出して授業動画を視聴することで出席扱いとなります。対面の授業と同様、2/3以上の出席がない場合には試験を受験できませんのでご注意下さい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業および評価方法に関する説明
第2週	Lesson 1	"September Newness," "The Case of the Magically Appearing Money"
第3週	Lesson 2	"Communication Styles of Japanese and American Men," "Japanese College Students Sitting at the Back in the Classroom"
第4週	Lesson 3	"Gift-giving Habits," "Asian and Western Cabin Attendants"
第5週	Lesson 4	"Service by Employees," "Students and Teachers in England"
第6週	Lesson 5	"Why Won't Japanese Sit Next to Me in the Train?," "Busy?"
第7週	中間試験	オンラインでの中間試験
第8週	Lesson 6	まとめと課題提出
第9週	Lesson 7	"I'm Not a Free, Walking English Lesson," "Public Schools in England"
第10週	Lesson 8	"Karaoke Is Now Conquering the World," "Ability to Use Chopsticks"
第11週	Lesson 9	"Who Controls the Family Finances?," "The World's Rudest Taxi Drivers"
第12週	Lesson 10	"Are Japanese People Rude?," "I Voted!"
第13週	Lesson 11	"My First Trip to New York," "Train Monsters"
第14週	Lesson 12	"Caring Aging Parents," "The Less Traveled Road"
第15週	まとめと期末試験	授業まとめとオンラインでの期末試験
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語応用Bb						
担当教員	サイモンズ　クリストファー	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

In this course, a continuation of the course in order to keep high motivation for the students as well as the practical skills they need will be carried out. To achieve this goal use of a variety of study activities such as a weekly warm up talk based on a list of common questioning patterns will be used. In addition to this list, a textbook providing pair work questions, various listening activities and a practical role play confirming understanding and pronunciation are used. Through these activities confidence will increase and language learning achieved.

到達目標

As in Eigo Oyo A, this course will provide the practical skills needed to communicate/ survive in social situations abroad and promote interest in Internationalism and the opportunities it allows in future career or travel situations. Students will have the chance to share personal information, ask for information, confirm understanding and use practical language in a given situation encountered abroad. Again, enjoyment in their studies and a positive atmosphere are also a desired goal.

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、自律性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
Activity	10		
Participation	40		
Contribution	25		
Exams & Quizzes	25		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『"On The Go"』	Gershon, Wares, Walker	Pearson/ Longman Asia ELT	2016	978-962-00-5254-5	英語応用Aで教科書を購入した人は、引き続

参考書等

Reference materials will be shown in class when necessary.

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
Practice of units studied with textbook CD, preparation for oral and written exams will take at least between 30 minutes to one hour of preparation time. Also, learning given warm up questions will be expected.	1時間程度/週

受講時の注意事項

Feedback will be given in class.

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	Introduction to the second semester. Pair work activity about students summer vacation.	
第2週	Warm up talk. Unit 8: Hotels. Asking about past experiences/ checking in and related problems	
第3週	Warm up talk. Continue checking in role play using supplemental prints provided by instructor	
第4週	Warm up talk. Textbook listening exercise followed by an introduction to Unit 9:	
第5週	Warm up talk. Learn vocabulary used in describing clothes with use of pictures. Start role play	
第6週	Warm up talk. Begin Unit 10: At the airport. Checking in for an international flight and	
第7週	Warm up talk. Continue unit roleplay expressing desires and giving flight information. Also,	
第8週	Warm up talk. Oral evaluation through role play on one of the related situations covered in	
第9週	Warm up talk. Unit 12: Describing family and hometown in casual conversation	
第10週	Warm up talk. Role play: describing family and hometown with a practice partner at a	
第11週	Warm up talk. Listening exercise on travel updates. Unit 13: Deciding on tourist activities	
第12週	Warm up talk. Asking for information about a tourist activity and role play on	
第13週	Warm up talk. Unit 16: Saying farewell to others when leaving using social situations. Customs	
第14週	Warm up talk. Practice role play saying farewell to a class partner. Review for second	
第15週	Review & Final Challenge	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	イタリア語応用Ａ						
担当教員	ペッリカノ・エリーザ・イヴァーナ	配当年次	２年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2883		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この講義では、イタリア語基礎ⅠとⅡで学んだ基礎文法を使いこなし、イタリア語で簡単な読み書きをする力を身につける。
さらに、より高度なイタリア語で自分を表現できる文法を身につける。

到達目標

1.　イタリア語の簡単な文章を読み、内容を理解することができる。
2.　イタリア語で簡単な文章を書き、考えを表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（課題提出回数で計算します。課題の出来栄え	60%		
レポート	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回出される課題をこまめに行い、毎回復習をすること。授業内に出てくる単語を自主的にまとめ、勉強すること。 言語勉強は、運動と一緒です。よく使えそうな言葉を何回も練習すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

イタリア語基礎ⅠとⅡを必ず受講してから、この授業を受講してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンス 基礎ⅠとⅡの内容振り返り 自己紹介の書き方
第2週	習慣について話す（1）今週の予定	課題へのフィードバック 現在形と現在進行形の復習 読み物：今週の予定
第3週	習慣について話す（2）ルーティンについて話す	課題へのフィードバック 再帰動詞の現在形と近過去の復習 読み物：ルーティン
第4週	習慣について話す(3)最近やっていること、昔やっていたこと	課題へのフィードバック 半過去の使い方の復習 読み物：今と昔の習慣
第5週	文法：未来形	課題へのフィードバック 未来形 未来形と現在形の使い分け
第6週	経験について話す（1）旅行日記	課題へのフィードバック 近過去の復習 読み物：旅行日記
第7週	経験について話す（2）とある日の出来事	課題へのフィードバック 近過去と半過去の復習 読み物：出来事
第8週	経験について話す（3）やったことある？	課題へのフィードバック 近過去とよく使う副詞 読み物：体験
第9週	文法：近過去と直接代名詞の合わせ方	課題へのフィードバック 直接代名詞の復習 近過去と直接代名詞の合わせ方
第10週	好みについて話す（1）私はフランス料理が好き	課題へのフィードバック 「mi piace」の復習 読み物：料理と好み
第11週	好みについて話す（2）推しについて話す	課題へのフィードバック 「preferire」、「preferito」の使い方 読み物：私の推し
第12週	好みについて話す（3）昔好きだったこと	課題へのフィードバック 「mi piace」の過去形 読み物：子供の頃の流行
第13週	文法：条件法	課題へのフィードバック 条件法の活用 条件法の使い方
第14週	手紙を書く（1）遠くにいる友だちへ	課題へのフィードバック 手紙の書き方 読み物：留学時代の友達
第15週	手紙を書く（2）お願いのメール	課題へのフィードバック メールの書き方 読み物：先生へのメール
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	イタリア語応用Ｂ						
担当教員	ペッリカノ・エリーザ・イヴァーナ	配当年次	２年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2884		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

この講義では、イタリア語基礎IとIIで学んだ基礎文法を使いこなし、イタリア語で簡単な読み書きをする力を身につける。
さらに、より高度なイタリア語で自分を表現できる文法を身につける。

到達目標

1.　イタリア語の簡単な文章を読み、内容を性格に理解することができる。
2.　イタリア語で簡単な文章を書き、考えを表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（課題提出回数で計算します。課題の出来栄え	60%		
レポート	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回出される課題をこまめに行い、毎回復習をすること。授業内に出てくる単語を自主的にまとめ、勉強すること。 言語勉強は、運動と一緒です。よく使えそうな言葉を何回も練習すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

イタリア語基礎IとII、及び応用Aを必ず受講してから、この授業を受講してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンス 応用Aの振り返り 自己分析の書き方
第2週	これからのことについて話す（1） 卒業後の自分	課題へのフィードバック 未来形の復習 読み物：将来の夢と卒業後の予定
第3週	これからのことについて話す（2） いつか、世界一周旅行したい	課題へのフィードバック 条件法の復習 読み物：いつか、世界一周旅行したい
第4週	夢と現実（1）理想の旅仲間	課題へのフィードバック 条件法の復習 読み物：理想の旅仲間
第5週	夢と現実（2）最悪のホテル宿泊	課題へのフィードバック 条件法の復習 読み物：最悪のホテル宿泊
第6週	文法：接続法現在	課題へのフィードバック 接続法現在 接続法現在とよく使われる動詞
第7週	意見と気持ちを表現する（1）私は そう思う	課題へのフィードバック 接続法の復習 読み物：意見交換
第8週	意見と気持ちを表現する（2）嬉し いこと、悲しいこと	課題へのフィードバック 接続法の復習 読み物：楽しみにしている
第9週	文法：命令形	課題へのフィードバック 命令形の復習 命令形の丁寧語
第10週	お願いをする（1）聞いてよ！	課題へのフィードバック 命令形の復習 読み物：聞いてよ！
第11週	お願いをする（2）迷子になった観 光客	課題へのフィードバック 条件法の復習 読み物：迷子になった観光客
第12週	アドバイスをする（1）道案内	課題へのフィードバック 命令形（丁寧語）の復習 読み物：道案内
第13週	アドバイスをする（2）頑張ろう！	課題へのフィードバック 条件法の復習、補助動詞dovereの復習 読み物：頑張ろう！
第14週	文法：接続法半過	課題へのフィードバック 接続法現在形の復習 接続法半過去
第15週	予想外なことを表現する：学生生活 を振り返る	課題へのフィードバック 接続法半過去の復習 読み物：学生生活を振り返る
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ドイツ語応用A						
担当教員	荻原　達夫	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2893		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

ドイツ語の基礎的な文法を確実なものにし、やや高度な表現にも対応できるようにします。最終的にはドイツ語検定（独検）3 級程度の文法知識をカバーする予定です。感覚的にではなく、論理的にことばをとりあつかう練習をします。

到達目標

① 基礎的な文法を確実に習得し、応用することができる。
② 独検3〜2級程度の文法知識を身につける。
③ ことばを論理的にあつかうことに慣れる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題（14 回）	50		
理解度チェック	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『しっかり身につくドイツ語』	橋本政義	三修社	2021	9784384123050	

参考書等

アポロン独和辞典（同学社）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で学んだ文法、単語、表現等を確実に覚えるようにしましょう。確認のため、毎回課題を出すので、かならず十分な時間をかけてとりくんでください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

課題にはしめきりがあるので注意しましょう。
課題が提出された場合，こちらからコメントでフィードバックをしますので，かならず確認してください（課題の再提出を求めることがあります）．

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	発音のおさらい①	前期に学習した内容をおさらいします。今回は母音の読み方のおさらいです。
第2週	発音のおさらい②，人称変化，sein	子音の読み方をおさらいします。そのあとで規則的な人称変化および sein の変化を思い出していきましょう。
第3週	不規則変化動詞，haben	不規則変化動詞の変化をおさらいします。haben の使い方も思い出しましょう。
第4週	冠詞の格変化	名詞の性別，格，冠詞の格変化をおさらいします。
第5週	疑問詞	これまでに学習した疑問詞をまとめておさらいします。
第6週	前置詞	前置詞をまとめておさらいします。
第7週	人称代名詞①	人称代名詞のおさらいです。1 格を中心におさらいします。
第8週	人称代名詞②	人称代名詞のおさらいです。3 格，4 格を中心におさらいします。おさらいは今回までです。
第9週	話法の助動詞①	ここから新しく学習する内容です。 話法の助動詞の種類と変化を勉強します。
第10週	話法の助動詞②，möchte	話法の助動詞の構文（枠構造）について勉強します。ついでに möchte という動詞も紹介します。
第11週	未来形	未来形を勉強します。未来形も話法の助動詞と同じ構文を使います。
第12週	形容詞①	形容詞の用法と格変化を勉強します。今回は強変化です。
第13週	形容詞②	形容詞の弱変化と混合変化を勉強します。
第14週	比較級と最上級	形容詞の比較級，最上級の作り方，およびその使い方を勉強します。
第15週	理解度チェック	ドイツ語応用 A の学習内容をどれくらい理解しているかチェックします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ドイツ語応用Ｂ						
担当教員	荻原　達夫	配当年次	２年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2894		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

ドイツ語の基礎的な文法を確実なものにし、高度な表現にも対応できるようにします。最終的にはドイツ語検定（独検）3〜2級程度の文法知識をカバーする予定です。感覚的にではなく、論理的にことばをとりあつかう練習もしていきます。

到達目標

① 基礎的な文法を確実に習得し、応用することができる。
② 独検3〜2級程度の文法知識を身につける。
③ ことばを論理的にあつかうことに慣れる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観 a 個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		○	5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題（14回）	50		
理解度チェック	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『しっかり身につくドイツ語』	橋本政義	三修社	2021	9784384123050	

参考書等

アポロン独和辞典（同学社）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で学んだ文法、単語、表現等を確実に覚えるようにしましょう。確認のため、毎回課題を出すので、かならず十分な時間をかけてとりくんでください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

課題は締切厳守です。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	曜日，月，季節	曜日・月・季節の言い方をまとめて学習します． 曜日名・月名・季節名はそのまま覚えるだけですが， 月曜日に（am Montag）
第2週	序数，日付	今回学習するのは序数の作り方と使い方です． ものの数をかぞえるとき（一つ，二つ，…）はふつうの数字を使いますが，順番を示すとき（一番，二番，…）は序数という特別な形を使います．
第3週	zu 不定詞①	zu 不定詞を学習します． 不定詞というのは動詞の原形のことなので kommen
第4週	zu 不定詞②	zu 不定詞の 2 回目です．今回は zu 不定詞の使い方を勉強します． まず「〜すること」という意味にもとづいた ふつうの使い方（名詞的な使い方）
第5週	副文	副文を勉強します。これまで学習してきた Er kommt heute nicht.「かれはきょう来ません」 のような文（ふつうの文）に対して
第6週	再帰動詞	今回は再帰動詞です． 再帰動詞というのは再帰代名詞をともなう動詞のことです． そして再帰代名詞というのは主語を指す代名詞のことです．たとえば
第7週	過去形	過去形の勉強です。 過去形というのは「〜した」という意味を表す動詞の形のことですが，英語とちがって，ドイツ語の過去形は——現在形と同じように——変化します．たとえば lernen の過去形は
第8週	不規則動詞の過去形	今回は不規則動詞の過去形です． 不規則動詞といのは過去基本形の作り方が規則的でない動詞のことです．なので，前回学習した規則動詞とちがって，パターンにもとづいて過去基本形を作ることができません．どうして
第9週	分離動詞の過去形	分離動詞の過去形です． 分離動詞というのは，アクセントのある前つづりをもち，主文においてその前つづりが分離する動詞のことでした．たとえば aufstehen「起きる」という動詞だったら，前つづりの auf が
第10週	動詞の 3 基本形，過去分詞	今回はまず動詞の 3 基本形とはどういうものかを勉強します． 3 基本形がわかれば，ドイツ語にでてくる動詞はすべて理解することができるので，これはとても大切です．そしてそのあとで，3 基本形の一つである
第11週	分離動詞の 3 基本形，過去分詞に ge- のつかない動詞	前回学習したように，動詞の 3 基本形というのは不定詞，過去基本形，過去分詞のことでしたが，今回はこれらが分離動詞の場合はどうなるのかを勉強します．ふつうの動詞とちょっとちがうのでしっかりおぼえましょう．それから過去分詞にge- のつかない動詞も紹介します．過
第12週	現在完了形	今回学習するのは現在完了形です． 現在完了形は動詞の3基本形で勉強した過去分詞を使う表現で，意味は過去形と同じ「〜した」．　たとえば
第13週	話法の助動詞の現在完了形	前回にひきづつき現在完了形を学習します．今回のテーマは，ちょっと特殊な使い分けをする話法の助動詞の現在完了形です． まず話法の助動詞のふつうの用法（a）と独立用法（b）
第14週	受動態	受動態を学習します． 受動態というのは「〜される」という意味を表す構文のことで（「〜する」というふつうの文は能動態といいます），ドイツ語では次のような形をしています．
第15週	理解度チェック	ドイツ語応用 B の学習内容をどれくらい理解しているかチェックします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	フランス語応用Ａ						
担当教員	大小田　重夫	配当年次	２年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2873		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

「フランス語Ⅰ（基礎）」及び「フランス語Ⅱ（基礎）」で学習した文法の確認と復習、新たな文法事項の学習とともに、語彙力を含めた表現力、フランス語を聞き取る力の拡充を目的とします。会話文の発音と聴き取り練習、文法説明、フランス語の会話文の日本語訳、新たな語彙の発音と暗記を行います。

到達目標

簡単な日常会話の聴き取りやそこで使われている文法の学習をとおして、ワンランクアップしたコミュニケーションができることを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
各講義ごとの課題提出	40%		
各講義ごとの提出課題の評価（４段階評価）	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『クロワッサン２　もっと知りたいフランス語』	松村博史、バンドロム・エディ	朝日出版社	2017	9784255352770	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
復習として教科書の音声を繰り返し聴く。テレビやラジオの講座も積極的に利用して学習すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

オンデマンド方式のビデオ学習の講義となります。各講義ごとに課題の提出があります。課題は毎回４段階で評価をつけ、次回の講義動画で解答と解説を行います。積極的な授業参加を希望します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	動詞の現在形と複合過去の復習①	今の活動について、「頻度」に関する表現を使って簡単な会話をする。
第2週	動詞の現在形と複合過去の復習②	これまでの経験について、「頻度」に関する表現を使って簡単な会話をする。
第3週	直接・間接目的語の代名詞①	直接目的語と間接目的語の違いを理解し、使用できるようにする。。
第4週	直接・間接目的語の代名詞②	目的語を使った会話の練習をする。
第5週	強勢形の代名詞	強勢形と呼ばれる、代名詞の強調された形を覚える。「コミュニケーション」に関する表現を覚える。
第6週	代名動詞の使い方①	代名動詞を理解し、その活用を学ぶ。代名動詞を使った一日の行動に関する表現を学ぶ。
第7週	代名動詞の使い方②	代名動詞の複合過去形の作り方を学ぶ。
第8週	中性代名詞	中性代名詞 en, y ,le の用法を理解し、簡単な会話をする。
第9週	指示代名詞	指示代名詞を学ぶ。「程度」に関する表現を学ぶ。
第10週	未来についての表現①	単純未来形の活用を学び、それを使った簡単な会話をする。
第11週	未来についての表現②	前未来形の用法を学ぶ。「～と言う」「～と思う」などの表現を学ぶ。
第12週	短文読解「日本マニアのフランス人」①	マンガ大国であるフランスの日本マンガ人気についての短い文章を読む。（前半）
第13週	短文読解「日本マニアのフランス人」②	マンガ大国であるフランスの日本マンガ人気についての短い文章を読む。（後半）
第14週	文法補足①	現在分詞の作り方と用法を学ぶ。ジェロンディフ（分詞構文）を学ぶ。
第15週	文法補足②	過去分詞の作り方を用法を学ぶ。受動態の作り方を学ぶ。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	フランス語応用Ｂ						
担当教員	大小田　重夫	配当年次	２年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2874		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

「フランス語Ⅰ（基礎）」及び「フランス語Ⅱ（基礎）」で学習した文法の確認と復習、新たな文法事項の学習とともに、語彙力を含めた表現力、フランス語を聞き取る力の拡充を目的とします。会話文の発音と聴き取り練習、文法説明、フランス語の会話文の日本語訳、新たな語彙の発音と暗記を行います。

到達目標

簡単な日常会話の聴き取りやそこで使われている文法の学習をとおして、ワンランクアップしたコミュニケーションができることを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
各講義ごとの課題提出	40%		
各講義ごとの提出課題の評価（４段階評価）	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『クロワッサン２　もっと知りたいフランス語』	松村博史、バンドロム・エディ	朝日出版社	2017	9784255352770	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
復習として教科書の音声を繰り返し聴く。テレビやラジオの講座も積極的に利用して学習すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

オンデマンド方式のビデオ学習の講義となります。各講義ごとに課題の提出があります。課題は毎回４段階で評価をつけ、次回の講義動画で解答と解説を行います。積極的な授業参加を希望します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	過去について語る①複合過去と半過去	複合過去と半過去の用法の違いを理解し、半過去の活用を覚える。
第2週	過去について語る②複合過去と半過去	半過去形を使って、これまでの経験について簡単な会話をする。
第3週	過去について語る③大過去	大過去の用法を理解する。「活動」に関する表現を学ぶ。
第4週	時・理由・条件を表す接続詞①	時・理由を表す接続詞を学ぶ。それらの接続詞を使った簡単な会話をする。
第5週	時・理由・条件を表す接続詞②	条件を表す接続詞を学ぶ。「大学生活」に関する表現を学ぶ。
第6週	仮定の話をする①	条件法現在の用法を学び、その活用を覚える。
第7週	仮定の話をする②	条件法現在を使って、想像の世界について会話する。
第8週	仮定の話をする③	条件法過去の用法を理解する。「レストラン」に関する表現を学ぶ。
第9週	関係代名詞①	関係代名詞 qui，que の用法を理解する。「観光地」に関する表現を学ぶ。
第10週	関係代名詞②	関係代名詞 où，dont の用法を理解する。関係代名詞を使った簡単な会話をする。
第11週	強調構文	強調構文の作り方を学ぶ。
第12週	接続法①	接続法の考え方を理解し、接続法現在の活用を覚える。
第13週	接続法②	接続法を使った簡単な会話を行う。
第14週	接続法③	接続法過去の用法を理解する。「いろいろなあいづち」の表現を学ぶ。
第15週	短文読解「ワッフルとムール・フリットの国ベルギー」	フランス語、ドイツ語、オランダ語が話され、多様な文化をもつ国であるベルギーに関する短文を読む。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	中国語応用Ａ						
担当教員	藤野　陽平	配当年次	２年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2863		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

本授業は、基礎中国語の応用編(前期)という位置付けとして、次の事項について学びます。1前年度の「中国語Ⅰ・Ⅱ」で扱った基礎的な文法を再確認しつつ、応用力を高めていくことで入門レベルからステップアップしていきます。2前期には、日常的な場面を想定した比較的にやさしいパッセージを用いて様々な文法や文型について、どのような場面でどのように使うかを学習します。3そして、練習問題を解きながら、学習内容をしっかり身につけているか、知識を応用できるかを確認します。4その上で、シチュエーション別の会話の時間を設け、自然な発音はもちろん、簡単なコミュニケーションがスムーズにできるようにします。

到達目標

1基礎文法をマスターし、応用力を身につけることができます。
2語彙力を高め、よりスムーズに簡単な会話ができるようになります。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題の提出	60%		
課題の取り組み具合	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『仲間で話そう中国語 初級から中級へ』』	徐送迎	朝日出版社	2019	978-4-255-45320-0	

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習:該当配布資料(テキスト)の内容について繰り返し音読した上で、疑問点等について事前に整理し、調べておくようにしましょう(所要時間30分)。 復習:既に習った配布資料(テキスト)の内容について繰り返し音読し、文法などを的確に理解しているかどうか確	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

可能な限り毎回出席して大きな声で発音及び会話の練習をすること。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンスと発音の復習	ガイダンスと発音の復習
第2週	第1課 単語と文法	第1課の単語と文法を理解します。
第3週	第1課 本文と練習	第1課の本文を訳し、それに基づいた練習をします。
第4週	第2課 単語と文法	第2課 の単語と文法を理解します。
第5週	第2課 本文と練習	第2課の本文を訳し、それに基づいた練習をします。
第6週	第3課 単語と文法	第3課の単語と文法を理解します。
第7週	第3課 本文と練習	第3課の本文を訳し、それに基づいた練習をします。
第8週	第1－3課 総復習	第1－3課で学習した内容を復習し、定着させます。
第9週	第4課 単語と文法	第4課の単語と文法を理解します。
第10週	第4課 本文と練習	第4課の本文を訳し、それに基づいた練習をします。
第11週	第5課 単語と文法	第5課の単語と文法を理解します。
第12週	第5課 本文と練習	第５課の本文を訳し、それに基づいた練習をします。
第13週	第6課 単語と文法	第6課の単語と文法を理解します。
第14週	第6課 本文と練習	第6課の本文を訳し、それに基づいた練習をします。
第15週	第4－6課 総復習	第4－６課で学習した内容を復習し、定着させます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	中国語応用Ｂ						
担当教員	藤野　陽平	配当年次	２年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 2864		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

本授業は、基礎中国語の応用編(前期)という位置付けとして、次の事項について学びます。1前年度の「中国語Ⅰ・Ⅱ」で扱った基礎的な文 法を再確認しつつ、応用力を高めていくことで入門レベルからステップアップしていきます。2前期には、日常的な場面を想定した比較的にやさしいパッセージを用いて様々な文法や文型について、どのような場面でどのように使うかを学習します。3そして、練習問題を解きながら、学習内容をしっかり身につけているか、知識を応用できるかを確認します。4その上で、シチュエーション別の会話の時間を設け、自然な発音はもちろん、簡単なコミュニケーションがスムーズにできるようにします。

到達目標

1基礎文法をマスターし、応用力を身につけることができます。
2語彙力を高め、よりスムーズに簡単な会話ができるようになります。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観 a 個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題の提出	60%		
課題の取り組み具合	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『仲間で話そう中国語 初級から中級へ』』	徐送迎	朝日出版社	2019	978-4-255-45320-0	

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習:該当配布資料(テキスト)の内容について繰り返し音読した上で、疑問点等について事前に整理し、調べておくようにしましょう(所要時間30分)。 復習:既に習った配布資料(テキスト)の内容について繰り返し音読し、文法などを的確に理解しているかどうか確	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

可能な限り毎回出席して大きな声で発音及び会話の練習をすること。
この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンスと基本文法の復習	
第2週	第7課 単語と文法	
第3週	第7課 本文と練習	
第4週	第8課 単語と文法	
第5週	第8課 本文と練習	
第6週	第9課 単語と文法	
第7週	第9課 本文と練習	
第8週	第7－9課 総復習	
第9週	第10課 単語と文法	
第10週	第10課 本文と練習	
第11週	第11課 単語と文法	
第12週	第11課 本文と練習	
第13週	第12課 単語と文法	
第14週	第12課 本文と練習	
第15週	第10－12課 総復習	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	映像制作演習III						
担当教員	大黒　淳一／小町谷　圭／小山　隼平／門間　友佑	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 2203		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

①音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
②異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③異なる分野の学生との意思疎通をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の審査	40%	今後への提案	6%
積極性	15%		
担当業務	15%		
授業外学修	12%		
分析と自己評価	12%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
台本や絵コンテの制作、撮影、作曲など作品制作にかかわる諸作業。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。また、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は履修者の習熟度や制作物に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の受け方、単位の根拠、評価基準等の説明
第2週	企画の提案	企画の提案と決定
第3週	企画会議①	グループの編成
第4週	企画会議②	内容の検討
第5週	企画会議③	内容の決定
第6週	制作準備	作業スケジュールの作成、広報業務の分担
第7週	グループごとの制作①	プロットの決定
第8週	グループごとの制作②	台本、絵コンテの制作
第9週	グループごとの制作③	前半部分の撮影
第10週	グループごとの制作④	中間部の撮影、編集
第11週	グループごとの制作⑤	後半の撮影、編集、作曲
第12週	グループごとの制作⑥	すり合わせ
第13週	試写	初号試写、修正作業
第14週	仕上げ	作品の仕上げと発表当日業務の確認・分担
第15週	発表	研究発表（学外公開とするか授業内公開とするかは授業内で決定する）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	映像制作演習Ⅳ						
担当教員	大黒　淳一／小町谷　圭／小山　隼平／門間　友佑	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 2204		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

①音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
②異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③異なる分野の学生との意思疎通をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の審査	40%	今後への提案	6%
積極性	15%		
担当業務	15%		
授業外学修	12%		
分析と自己評価	12%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
台本や絵コンテの制作、撮影、作曲など作品制作にかかわる諸作業。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。また、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は履修者の習熟度や制作物に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の受け方、単位の根拠、評価基準等の説明
第2週	企画の提案	企画の提案と決定
第3週	企画会議①	グループの編成
第4週	企画会議②	内容の検討
第5週	企画会議③	内容の決定
第6週	制作準備	作業スケジュールの作成、広報業務の分担
第7週	グループごとの制作①	プロットの決定
第8週	グループごとの制作②	台本、絵コンテの制作
第9週	グループごとの制作③	前半部分の撮影
第10週	グループごとの制作④	中間部の撮影、編集
第11週	グループごとの制作⑤	後半の撮影、編集、作曲
第12週	グループごとの制作⑥	すり合わせ
第13週	試写	初号試写、修正作業
第14週	仕上げ	作品の仕上げと発表当日業務の確認・分担
第15週	発表	研究発表（学外公開とするか授業内公開とするかは授業内で決定する）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	和声法Ⅰ						
担当教員	小山　隼平	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2021		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

和声の学習は与えられたバスに基づき四声体を作り上げること（バス課題の実施）を根幹とします。
このような学習に加え、和声に関する基礎的な知識を身につけます。

到達目標

①和音の機能に関する知識を身につけ、説明することができる。
②三和音、七の和音の配置方法を身につけ、適切な配置で書くことができる。
③三和音、属七の和音の連結ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○		5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（筆記）	40%		
単元ごとの小テスト	30%		
課題の実施状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『名曲で学ぶ和声法』	柳田孝義	音楽之友社	2014	9784276102422	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
音程と音階に関する知識が既にあり、大譜表を読めることが前提になります。その上で、授業内で提示される課題に取り組んでください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この科目では、ほぼ毎回課題の実施が求められます。
また、課題に取り組む上で、五線紙か楽譜作成ソフトウェア、あるいはDAWが必要になります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	基礎知識の確認、および三和音の成り立ちについての説明
第2週	和音の機能と配置について	
第3週	三和音（基本形）の連結①長調	
第4週	三和音（基本形）の連結②短調	
第5週	三和音（第一転回形）の配置について	
第6週	三和音（第一転回形）の連結①基本的な考え方について	
第7週	三和音（第一転回形）の連結②８小節程度の課題の実施	
第8週	三和音（第二転回形）の機能と配置について	
第9週	三和音（第二転回形）の連結①基本的な考え方について	
第10週	三和音（第二転回形）の連結②８小節程度の課題の実施	
第11週	属七の和音の機能と配置について	
第12週	属七の和音の連結①基本的な考え方について	
第13週	属七の和音の連結②８小節程度の課題の実施	
第14週	和音設定について	
第15週	授業内試験（筆記）とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	和声法Ⅱ						
担当教員	小山　隼平	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2022		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

和声の学習は与えられたバスに基づき四声体を作り上げること（バス課題の実施）を根幹とします。
このような学習に加え、和声に関する基礎的な知識を身につけます。

到達目標

①変化和音が何かを理解することができる。
②副次調や副属の和音が何かを理解することができる。
③転調を含むバス課題を実施することができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（筆記）	40%		
単元ごとの小テスト	30%		
課題の実施状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『名曲で学ぶ和声法』	柳田孝義	音楽之友社	2014	9784276102422	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
「和声法Ⅰ」の内容を理解している前提で授業を進めます。その上で、授業内で提示される課題に取り組んでください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

ほぼ毎回課題の実施が求められます。
また、課題に取り組む上で、五線紙か楽譜作成ソフトウェア、あるいはDAWが必要になります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の概要の説明と前期の内容の確認
第2週	属九の和音の連結①配置と連結の基本的な考え方について	
第3週	属九の和音の連結②８小節程度の課題の実施	
第4週	副七の和音の連結①配置と連結の基本的な考え方について	
第5週	副七の和音の連結②８小節程度の課題の実施	
第6週	準固有和音の連結	
第7週	ナポリの和音の連結	
第8週	ドリアの六度、エオリアの七度	
第9週	副次調、副属の和音について	
第10週	副次調、副属の和音の連結①配置と連結の基本的な考え方について	
第11週	副次調、副属の和音の連結②８小節程度の課題の実施	
第12週	転調を含む課題①調判定	
第13週	転調を含む課題②課題の実施	
第14週	転調を含む課題③総括	
第15週	授業内試験（筆記）とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	和楽器						
担当教員	花季　汀月	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2411		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

小・中・高校とも以前にも増して日本音楽を学ぶ機会が多くなっている。特に教職をめざす者にとって日本の音楽の知識は必須であり、福祉の分野ではコミュニケーションツールとしての活用が大いに期待される。特に中学校・高等学校において和楽器の導入が必修になっている中、三味線をはじめとする和楽器の演奏を体験することにより日本音楽の理解を深め、次世代への継承する知識の一端を習得できる内容とする。また、三味線を中心に和楽器それぞれの歴史、特長、構造、演奏法などについても解説する。

到達目標

①　日本の伝統音楽で活用される三味線を、楽譜を用いて演奏できる。
②　さまざまな和楽器における特徴や演奏方法を知り、他者へ伝えることができる。
②　西洋音楽とは全く異なる日本の音を感じることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（レポート課題、授業姿勢など）	60		
授業内実技発表	20		
最終課題提出	20		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。講義時に資料を配布します。』					

参考書等

なし。講義時に資料を配布します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏者として実務経験のある教員が実践的授業を行っています

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
知識をただ習得するだけでなく、自分の言葉として他者に伝えられるよう自己研鑽に努めること	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

三味線、バチなどは、ていねいに扱うこと
配布した資料は、次回講義時に忘れず持参すること

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	三味線実技①　三味線の音を鳴らしてみる①	2名に対して1提づつ楽器を用い、構え方、弾き方、扱い方について体験する
第2週	三味線実技②　三味線の音を鳴らしてみる②	撥を扱った三味線の弾き方を学ぶ
第3週	三味線実技③　調弦「本調子」で弾いてみる	本調子の曲を弾けるようになる 三味線で使用する三線譜（文化譜）の読み方を知り、調弦について学ぶ
第4週	三味線実技④　調弦「三下り」で弾いてみる	三下りの曲を弾けるようになる 三味線で使用する三線譜（文化譜）の読み方を知り、調弦について学ぶ
第5週	三味線実技⑤　調弦「二上り」で弾いてみる	二上りの曲を弾けるようになる 三味線で使用する三線譜（文化譜）の読み方を知り、調弦について学ぶ
第6週	三味線実技⑥　合奏①	替手を交えた合奏曲に挑戦する（荒城の月、虫のこえなど）
第7週	三味線実技⑦　合奏②	難度の高い合奏曲に挑戦する
第8週	オンデマンド講義　和楽器について	三味線以外の和楽器について、歴史から特徴について解説
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本の伝統歌唱						
担当教員	花季　汀月	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2412		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

初等・中等教育において日本音楽を学ぶ機会が広がる中、特に教職をめざす者においてはその知識の習得が求められる。日常生活では中々触れる機会の少ない伝統音楽について広く理解するために、もっとも身近な歌唱を通して、歴史や種類、特徴、現代における位置づけ、日本語の情緒などについて学ぶ。

到達目標

①　日本の伝統音楽の概要を知ることができる。
②　日本の伝統音楽について時代背景をふまえて理解することができる。
③　明治維新以前に作られた歌曲の歌唱に取り組み、その音楽性や歌唱方法における西洋音楽との違いを感じられる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（レポート課題、授業姿勢など）	70		
最終課題の提出	30		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します』					

参考書等

なし。授業内で指示します

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏者として実務経験のある教員が実践的授業を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
日本歌唱の歴史や現代に息づく姿を知り、他者に説明できるようにすること。課題としてあげられた伝統歌曲が歌えるよう自己研鑽に努めること	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

講義は基本的にオンデマンドとするが、事前に配布した課題曲の音源を聴き、対面授業の際に歌えるようにしておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	講義（オンデマンド）：日本の伝統歌唱について	ガイダンス　授業内容・目的・評価法など、課題曲（３曲）の紹介と実践
第2週	講義（オンデマンド）：日本の音楽とは　日本音楽・歌曲の歴史　1	古代における音楽・歌曲の歴史を学ぶ
第3週	講義（オンデマンド）：日本の音楽とは　日本音楽・歌曲の歴史　2	中世における音楽・歌曲の歴史を学ぶ
第4週	講義（オンデマンド）：日本の音楽とは　日本音楽・歌曲の歴史　3	近世における音楽・歌曲の歴史を学ぶ
第5週	講義（オンデマンド）：日本の音楽とは　日本音楽・歌曲の歴史　4	江戸～近代における音楽・歌曲の歴史を学ぶ
第6週	講義（オンデマンド）：時代背景から考える日本歌曲について	江戸時代における歌曲の流行と、その在り方について考察する
第7週	実技（対面授業）：日本の伝統的な歌唱方法について	伝統的な歌唱方法と古来からの伝承方法を知る
第8週	講義（オンデマンド）：振り返りとこれからの邦楽の可能性について	これまでの学びを全般的に振り返り、伝統的な歌曲を含めた邦楽の可能性について考察する
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	指揮法						
担当教員	鎌倉　亮太	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2501		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

基本的な指揮の動き、約束事を知る。その上でその約束事が、ジャンルと様式、時代によって、どのように変化するか知る。曲を知り楽譜を理解することにより、指揮のあり方を導き出すための訓練を積む。

到達目標

全くの初心者が指揮を勉強するのに必要な語句や方法を学びその上で基本的な指揮の動き、約束事を知る。さらにジャンルや様式によってどのように腕で音楽が表現できるか、楽譜から指揮の動きを導き出すための勉強の仕方や方法を身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での指揮・実演の発表	60%		
平常点	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

初心者のためのバトンテクニック入門『はじめての指揮法』　斉田好男著　音楽之友社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲についての十分な予習・復習を必要とします。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

教室で生徒に音楽を教えるために、必要な要素・科目です。必要性を十分に理解し、授業には真剣に参加してください。指揮の経験の有無は問いませんが、学ぶ姿勢（授業態度と歌唱の参加）と必要な準備をしてきたかどうかを、重要視します。原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	
第2週	４拍子の振り方の基礎	１台ピアノを使った演習
第3週	３拍子の振り方の基礎	１台ピアノを使った演習
第4週	２拍子の振り方の基礎	１台ピアノを使った演習
第5週	６拍子の振り方の基礎	１台ピアノを使った演習
第6週	４拍子の振り方の応用	２台ピアノを使った演習
第7週	３拍子の振り方の応用	２台ピアノを使った演習
第8週	２拍子の振り方の応用	２台ピアノを使った演習
第9週	６拍子の振り方の応用	２台ピアノを使った演習
第10週	合唱曲を使用した指揮法（合図の出し方）①	合唱を用いた演習
第11週	合唱曲を使用した指揮法（合図の出し方）②	合唱を用いた演習
第12週	合唱曲を使用した指揮法（合図の出し方）③	合唱を用いた演習
第13週	合唱曲を使用した指揮法（拍子やテンポが変化する曲）①	合唱を用いた演習
第14週	合唱曲を使用した指揮法（拍子やテンポが変化する曲）②	合唱を用いた演習
第15週	合唱曲を使用した指揮法（拍子やテンポが変化する曲）③	合唱を用いた演習
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	合唱指導法						
担当教員	三山　博司	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2511		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

中学校や高等学校の現場に立ち、音楽の授業において合唱の指導をするために必要な準備について学ぶ。中学・高校の教科書に掲載されている合唱曲を中心に教材として用い、、実際に合唱団を決められた時間内で指導する体験を通じて、必要な合唱指導のテクニック、そして的確なコミュニケーションの方法を体得する。

到達目標

①　合唱指導者・合唱指揮者として、中学校や高等学校の授業の他、クラブ活動としての合唱部や一般の合唱団などそれぞれの合唱団の実力やカラーに相応しい楽曲を探すことができる。
②　取り組む楽曲の楽譜と資料を準備し、音取りから音楽づくり、美しいハーモニーの構築に至るまでの手順と方法を理解し、実践できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での合唱指導	60%		
レポート課題	20%		
平常点（授業での合唱団として積極的に歌唱している	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

さまざまな形態の合唱団の指導、及び演奏会での指揮
セミナー・講習会での講師
合唱コンクール、アンサンブルコンテストなどの審査

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回の授業内容に対する十分な準備と復習が必要になります。実際に合唱団を指導するにあたってマニュアル通りではなく、各自のやり方を見つけられるよう十分な時間を取ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

教職必修科目であり、原則としてすべての授業に出席することが求められますが、やむを得ない理由で欠席する場合は必ず担当教員に連絡すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	学修計画を示す。
第2週	音取りについて①	音取りについての手順を学ぶ①
第3週	音取りについて②	音取りについての手順を学ぶ②
第4週	音取りについて③	音取りについての手順を学ぶ③
第5週	言葉について①	合唱でよく取り上げられる楽曲の言葉（言語）の理解とディクションについて①
第6週	言葉について②	合唱でよく取り上げられる楽曲の言葉（言語）の理解とディクションについて②
第7週	日本の合唱曲①	教科書などにある日本の合唱曲を用い、与えられた時間内で音取りからハーモニー練習ま合唱団を指導する①
第8週	日本の合唱曲②	教科書などにある日本の合唱曲を用い、与えられた時間内で音取りからハーモニー練習まで合唱団を指導する②
第9週	日本の合唱曲③	教科書などにある日本の合唱曲を用い、与えられた時間内で音取りからハーモニー練習まで合唱団を指導する③
第10週	日本の合唱曲④	教科書などにある日本の合唱曲を用い、与えられた時間内で音取りからハーモニー練習まで合唱団を指導する④
第11週	日本の合唱曲⑤	教科書などにある日本の合唱曲を用い、与えられた時間内で音取りからハーモニー練習まで合唱団を指導する⑤
第12週	外国の合唱曲①	ラテン語など外国語の合唱曲を教材に、与えられた時間内で音取りからハーモニー練習まで合唱団を指導する①
第13週	外国の合唱曲②	ラテン語など外国語の合唱曲を教材に、与えられた時間内で音取りからハーモニー練習まで合唱団を指導する②
第14週	外国の合唱曲③	ラテン語など外国語の合唱曲を教材に、与えられた時間内で音取りからハーモニー練習まで合唱団を指導する③
第15週	まとめ	授業を振り返り、学修した内容をまとめる
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技教材研究Ⅰ（ピアノ）						
担当教員	後山　美菜子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2601		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

幼児から小学校低学年を対象とした、ごく初歩のための多様な導入メソッドとピアノ教材を知る。
ピアノ実技導入の補助手段としてソルフェージュ（フォルマシォン・ミュジカル）・リトミックにも触れる。

到達目標

①　ピアノ導入指導に必要な基礎知識を習得できる。
②　指導に必要な初見視奏の能力を習得できる。
③　教材を幅広く知ることによって、ピアノを学習する生徒のタイプや始める年齢を考慮した適切なテキストや教具選びができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
視奏能力	３０％		
指導者としての興味拡大と知識の学修	５０％		
指導者としてのコミュニケーション能力	２０％		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

長年ピアノ指導に携わり、当初から当講義を担当してきた。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配付した資料（教材コピー）をよく読み、練習しておくこと。	１時間程度/週

受講時の注意事項

配付資料は必ず持参し、必要な時に取り出せるよう整理しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	
第2週	ソルフェージュ導入	
第3週	特に低年齢の子ども（３歳児以下）の導入法	
第4週	ロシアの教材	
第5週	ハンガリーの教材	
第6週	アメリカの教材①	トンプソンほか
第7週	アメリカの教材②	ラーニング･トゥ･プレイほか
第8週	アメリカの教材③	バスティンほか
第9週	日本の教材①	うたとピアノの絵本ほか
第10週	日本の教材②	ピアノランドほか
第11週	日本の教材③	オルガンピアノの本ほか
第12週	ドイツの教材	
第13週	フランスの教材	
第14週	教材（テキスト）の選び方と教具について	
第15週	導入教材全般のまとめと整理	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技教材研究Ⅱ（ピアノ）						
担当教員	後山　美菜子	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2602		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ導入教則本終了程度のレッスン使用曲を様式別に選び、テクニック・楽曲把握など様々な角度から指導内容を検討する。
補助手段として広い意味でのソルフェージュ活用（フォルマシォン・ミュジカル）への意識を高める。

到達目標

①　初期のピアノ指導に必要な音楽的基礎知識を活用できる。
②　指導に必要な初見視奏の能力を展開できる。
③　教材を幅広く知ることによって、ピアノを学習する生徒のタイプや始める年齢を考慮した適切な教材選びができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
視奏能力	３０％		
指導者としての興味拡大と知識の学修	４０％		
指導者としてのコミュニケーション能力	１５％		
レポート	１５％		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、指示します。リトミック等の特講については別途周知します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

長年ピアノ指導に携わり、当初から当講義を担当してきた。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配付した資料（教材コピー）をよく読み、練習しておくこと。	1時間程度/週

受講時の注意事項

配付資料は必ず持参し、必要な時に取り出せるよう整理しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	様々な角度の読譜展開（ソルフェージュ活用）	
第2週	バロックの作品①	教則本終了程度
第3週	バロックの作品②	オーディション課題曲研究
第4週	古典派の作品①	教則本終了程度
第5週	古典派の作品②	オーディション課題曲研究
第6週	ロマン派の作品①	教則本終了程度
第7週	近現代の作品①	教則本終了程度
第8週	学外見学学習	オーディション聴講とレポート
第9週	テクニック教材	うたとピアノの絵本ほか
第10週	バロックの作品③	様々な舞曲等
第11週	古典派の作品③	ソナチネへのつなぎ
第12週	ロマン派の作品②	
第13週	近現代の作品②	
第14週	教則本終了程度の連弾曲	
第15週	まとめとレポートのフィードバック	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技教材研究Ⅰ（吹奏楽・合唱）						
担当教員	鎌倉　亮太／河野　泰幸／内藤　淳一	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2611		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、主に邦人の合唱作曲家に焦点を当てる。日本の合唱の歴史において、戦後から現代に至るまで多くの作曲家が合唱作品を残した。その作曲家について理解することはもちろん、各々の作品を幅広く理解することを目的とする。実際に代表作を調べ、演奏してみることでその作曲家自身や作品について深く理解する。そのために、本授業では事前課題を基に、実際に録音を聴いたり演奏したりする体験をもつ。また、スコアリーディングにも目を向け、読譜や楽曲分析の訓練も併せて行う。

到達目標

①　国内における合唱音楽の歴史的知識を整理して説明できる。
②　主だった邦人作曲家について、その人物についてや作風について理解できる。
③　新曲を自分で分析し、演奏やリハーサルのための準備ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での課題	80%		
学修状況	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

全日本合唱コンクール北海道ブロック審査員。
札幌市民芸術祭「市民合唱祭」審査員。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
与えられた曲のみならず、自分で楽譜・楽曲を探してくる課題も多いので、図書館を十分に活用すること。与えられ決められた課題の楽曲については、十分に勉強し指導・指揮のための準備をしてくること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実際に合唱の指導にあたる指導員・指揮者にとってレパートリーの問題は重要で、この授業では邦人作曲家のレパートリーを増やすための機会を学生に提供する。よってその必要性は大きく希少性も高いということを、参加する学生は十分に認識して出席すること。実施した課題について授業内でフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の進め方、成績評価についての確認。日本における合唱の役割、位置付けを理解する。
第2週	邦人作曲家についての理解	NHK全国学校音楽コンクール、全日本合唱コンクール等を参考に課題曲や自由曲で取り上げられている作曲家について知る。
第3週	作曲家①についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第4週	作曲家②についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第5週	作曲家③についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第6週	作曲家④についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第7週	作曲家⑤についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第8週	作曲家⑥についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第9週	作曲家⑦についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第10週	作曲家⑧についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第11週	作曲家⑨についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第12週	作曲家⑩についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第13週	作曲家⑪についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第14週	作曲家⑫についての研究	人物や作風の理解・代表曲の楽曲分析
第15週	講評とまとめ	１２名の作曲家とその代表作について知り、日本の合唱文化にどんな影響を与えているかについてまとめる。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技教材研究Ⅱ（吹奏楽・合唱）						
担当教員	鎌倉　亮太／河野　泰幸／内藤　淳一	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2612		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

吹奏楽で演奏される楽曲は、古典音楽から現代音楽、さらにジャズやポップスまで加わり多様な傾向を見せている。
幅広いジャンルの音楽が指導できるよう、より深く作品を理解する技術を身につける。

到達目標

導入期の指導に必要な音楽基礎知識を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の理解度	60%		
受講状況（積極的な質問や発言）および平常点	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家、吹奏楽指導者としての実務経験のある教員が、教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までに、指示された事項を調べて準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	吹奏楽コンクール課題曲	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰを研究する
第2週		吹奏楽コンクール課題曲Ⅱを研究する
第3週		吹奏楽コンクール課題曲Ⅲを研究する
第4週		吹奏楽コンクール課題曲Ⅳを研究する
第5週	名曲を研究する	吹奏楽の名曲を研究する　ホルスト①
第6週		吹奏楽の名曲を研究する　ホルスト②
第7週		吹奏楽の名曲を研究する　ヴァンデルロースト①
第8週		吹奏楽の名曲を研究する　ヴァンデルロースト②
第9週		吹奏楽の名曲を研究する　A.リード①
第10週		吹奏楽の名曲を研究する　A.リード②
第11週		吹奏楽の名曲を研究する　バーンズ①
第12週		吹奏楽の名曲を研究する　バーンズ②
第13週		内藤淳一先生作品を読み解く
第14週		吹奏楽のポップス作品を研究する①
第15週		吹奏楽のポップス作品を研究する②
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法各論Ⅰ						
担当教員	土屋　益子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 2201		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

障害児への音楽療法に焦点を当て、実際のセッションを組む際に必要となる子どものアセスメント、治療目標の設定、治療構造の設定、治療プログラム、評価の仕方や留意点について学ぶ。

到達目標

・児童領域における様々な対象者のニーズと特徴の知識を養う。
・障害児への音楽療法の組み方（アセスメント・治療目標・治療構造・治療プログラム）について説明できる。
・対象者への関わり方、音楽ならではの関わり方などを身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験・発表	50%		
課題レポート	30%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、発達障害児への音楽療法の実務経験のある教員が実践的教育を行っている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業計画にしたがって講義内容をノートにまとめてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

将来の音楽療法士資格取得を考え、積極的に質問することが望ましい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業内容、授業目的、授業計画、評価方法等を説明します。
第2週	対象者理解その１　　発達について	子どもの発達について学びます。
第3週	対象者理解その2　　アセスメント	アセスメントについて学びます。
第4週	対象者理解その３　障害について	さまざまな障害について、そして神経発達症とは何か、その種類およびその支援方法について学びます。
第5週	治療目標について	治療目標の立て方について学びます。
第6週	治療構造について	様々な治療構造の設定について学びます。
第7週	治療プログラムについて	実際の治療プログラムの立て方について学びます。
第8週	子ども音楽療法の現場①	子どもの音楽療法の現場を見学します
第9週	子ども音楽療法の現場②	子どもの音楽療法の現場を見学します
第10週	音楽療法の実際①　ノードフロビンズ音楽療法	ノードフロビンズの音楽療法について、DVDを視聴して理解を深めます。
第11週	音楽療法の実際②　乳幼児へのアプローチ	乳幼児を対象にした音楽療法の実践について、DVDを視聴して理解を深めます。
第12週	音楽療法の実際③　学齢児・成人へのアプローチ	学童期や成人に対する音楽療法の実際について、DVDを視聴して理解を深めます。
第13週	ロールプレイ①	自ら対象者の想定し、ニーズをもとにした目標をたて、これに添った音楽活動を考え、内容に則した音楽を作曲し、発表します。
第14週	ロールプレイ②	自ら対象者の想定し、ニーズをもとにした目標をたて、これに添った音楽活動を考え、内容に則した音楽を作曲し、発表します。
第15週	試験とまとめ	授業内試験と授業の総括をいたします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法各論Ⅱ						
担当教員	高田　由利子	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 2202		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

高齢化社会において音楽療法のニーズが高まりつつある高齢者における音楽療法について学びます。
高齢者が抱える身体面や心理面についての知識を得ることで理解を深めます。さらに、音楽療法を行う上で考慮すべき点を考えながら、高齢者にとって音楽療法がどのような役割を担っているかを学びます。
この授業ではさまざまな事例に基づき、音楽療法の目的、技法、評価について学びます。

到達目標

① 高齢者の特性を理解できる。
② 高齢者の音楽療法の必要性を認識できる。
③ 高齢者の音楽療法の目的と方法を理解し、実施内容について述べることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内レポート	30%		
体験ワークへの取り組み	30%		
授業内発表（期末）	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本音楽療法学会認定音楽療法士として、臨床、スーパービジョン、教育の経験を２０年以上有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後に学んだことをノートにまとめておくこと 授業最後に次週の予定を伝えるので、それについて調べておくこと	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	シラバスの説明に基づき、高齢者の音楽療法を実践するとき、どのような知識が必要となるかについて説明する。
第2週	高齢者の抱える問題：身体面	高齢者の抱える身体面の問題について学ぶ。また、音楽が問題の改善にどのように働きかけることができるのかについて学ぶ。
第3週	高齢者の抱える問題：心理面	高齢者の抱える心理面の問題について学ぶ。また、音楽が問題の改善にどのように働きかけることができるのかについて学ぶ。
第4週	高齢者の抱える問題：社会面	高齢者の抱える社会面の問題について学ぶ。また、音楽が問題の改善にどのように働きかけることができるのかについて学ぶ。
第5週	高齢者の音楽療法① 日本の事例	日本における高齢者の音楽療法について歴史的背景も含めて事例から学ぶ。
第6週	高齢者の音楽療法② 日本の事例	日本における高齢者の音楽療法について文化的背景も含めて事例から学ぶ。
第7週	高齢者の音楽療法の役割② 海外の事例	海外における高齢者の音楽療法について文献を通して学ぶ。
第8週	高齢者の音楽療法の実践① アセスメント	高齢者の音楽療法を実践するときの手続きとして、アセスメントをどのように行うのかについて学ぶ。
第9週	高齢者の音楽療法の実践② 目的設定	高齢者の音楽療法を実践するときの手続きとして、目的の設定ををどのように行うのかについて学ぶ。長期目標と短期目標を使い分けることについても学ぶ。
第10週	高齢者の音楽療法の実践③ プログラムの立て方 その1	高齢者の音楽療法を実践するときの手続きとして、プログラムをどのように立てるのかについて学ぶ。
第11週	高齢者の音楽療法の実践④ プログラムの立て方 その2	高齢者の音楽療法を実践するときの手続きとして、プログラムを立てたとき、確認する必要事項について学ぶ。
第12週	高齢者の音楽療法の実践⑤ 評価	高齢者の音楽療法を実践した後の手続きとして、評価をどのようにするのかについて学ぶ。
第13週	高齢者の音楽療法の実践⑤ 研究	高齢者の音楽療法を実践した後の手続きとして、評価を用いてどのように症例研究へと進むのかについて学ぶ。
第14週	課題発表・講評①	高齢者における音楽療法について、２つの文献を要約し、スライドにまとめて発表する。
第15週	課題発表・講評②	高齢者における音楽療法について、２つの文献を要約し、スライドにまとめて発表する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	即興演奏Ａ						
担当教員	小山　隼平／向坂　元吾	配当年次	２年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MU-MS 1361			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

①コードネームを理論的に理解できる。
②一定のルールに沿って即興的に音を出すことができる。
③適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
参加状況	20%	知識と技術	16%
音楽によるコミニュケーション力	16%		
表現のアイディア	16%		
成長の実感	16%		
考え方・取り組む姿勢	16%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	
第2週	グループ分け、選曲	ルールの理解
第3週	グループごとにセッションをする（前半）①	ルールに沿った表現
第4週	グループごとにセッションをする（前半）②	リズムの表現
第5週	グループごとにセッションをする（前半）③	スケールの理解
第6週	グループごとにセッションをする（前半）④	スケールの理解
第7週	グループごとにセッションをする（前半）⑤	スケールに沿った表現
第8週	グループごとにセッションをする（前半）⑥	総括
第9週	中間発表	
第10週	グループごとにセッションをする（後半）①	ルールに沿った表現
第11週	グループごとにセッションをする（後半）②	リズムの表現
第12週	グループごとにセッションをする（後半）③	スケールの理解
第13週	グループごとにセッションをする（後半）④	スケールの理解
第14週	グループごとにセッションをする（後半）⑤	スケールに沿った表現
第15週	期末発表とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	即興演奏Ｂ						
担当教員	小山　隼平／向坂　元吾	配当年次	２年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 1362		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

①コードネームを理論的に理解できる。
②一定のルールに沿って即興的に音を出すことができる。
③適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
参加状況	20%	知識と技術	16%
音楽によるコミニュケーション力	16%		
表現のアイディア	16%		
成長の実感	16%		
考え方・取り組む姿勢	16%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	
第2週	グループ分け、選曲	ルールの理解
第3週	グループごとにセッションをする（前半）①	ルールに沿った表現
第4週	グループごとにセッションをする（前半）②	リズムの表現
第5週	グループごとにセッションをする（前半）③	スケールの理解
第6週	グループごとにセッションをする（前半）④	スケールの理解
第7週	グループごとにセッションをする（前半）⑤	スケールに沿った表現
第8週	グループごとにセッションをする（前半）⑥	総括
第9週	中間発表	
第10週	グループごとにセッションをする（後半）①	ルールに沿った表現
第11週	グループごとにセッションをする（後半）②	リズムの表現
第12週	グループごとにセッションをする（後半）③	スケールの理解
第13週	グループごとにセッションをする（後半）④	スケールの理解
第14週	グループごとにセッションをする（後半）⑤	スケールに沿った表現
第15週	期末発表とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	器楽合奏III（吹奏楽・オーケストラ）						
担当教員	大隅　雅人／河野　泰幸	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2213		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合奏を通して演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な基本的奏法を身につけるとともに、アンサンブルの技能を高める。
演奏会実現に向けて様々な役割を担いプロの演奏家、及び吹奏楽指導者としての能力を学んでいく。

到達目標

楽曲に合った奏法を身につけるとともにアンサンブルの重要性を理解する。
演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要なスキルを身につけ、様々なコンサートなどでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏発表及び特別練習に参加する為にしっかりと準備	50%		
合奏に必要な基本的奏法がなされているか	30%		
楽曲分析や演奏表現をしっかりと取り組めているか	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

演奏家としての実務経験(オーケストラ活動)のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までにしっかりと譜読みをし、更に音楽的な表現ができるレベルまで練習を重ねる。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れですが、コンサートに向けて授業科目別の計画は変更が考えられます。
その場合は事前にお知らせします。
コンサート前の特別練習やオープンキャンパス、吹奏楽セミナーなど各種の本番に絡み、授業回数が増えることがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、合奏	授業内容、目的、計画、役割分担。
第2週	基礎と合奏	簡単な楽曲を使いサウンドのチェック
第3週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第4週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第5週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第6週	合奏	キャンパスコンサートに向けて質の向上
第7週	合奏	キャンパスコンサートに向けて仕上げ
第8週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第9週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第10週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第11週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第12週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第13週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第14週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第15週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第16週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第17週	合奏	定期演奏会に向けて総練習
第18週	合奏	定期演奏会本番
第19週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第20週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第21週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第22週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第23週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第24週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第25週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第26週	合奏	オーケストラ定期の譜読み
第27週	合奏	オーケストラ定期の質の向上
第28週	合奏	オーケストラ定期本番
第29週	合奏	シンフォニック定期総練習
第30週	合奏	シンフォニック定期本番

授業科目	器楽合奏III（弦楽合奏・オーケストラ）						
担当教員	岩渕　晴子／大隅　雅人／グレブ　ニキティン／ 河野　泰幸／鈴木　初／中島　杏子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2223		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

オーケストラ曲などの主要な作品を演奏しながら、合奏の基本的な技術やアンサンブルの表現方法を学ぶ。
また、定期演奏会などの研究成果を発表し、合奏技術や表現力の実践的な習得を目指す。

到達目標

楽曲に合った奏法を身につけるとともに、アンサンブルの重要性を理解する。
演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要な役割を身につけ、定期演奏会や弦楽合奏成果発表演奏会などのコンサートでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
予習、復習などの授業への受講態度	50%		
合奏技術の達成度	30%		
演奏に取り組む姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は演奏家(プロのオーケストラ活動など)としての実務経験のある教員が実践的指導を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までに譜読みをし、安定した演奏になるための練習を行う。 予習、復習を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業に備え椅子、譜面台など合奏できる状態にセッティングをし、各自音出し、チューニングを済ませておく。
数台の弦楽器は貸し出しを行うが、原則楽器は個人持ちが望ましい弦楽合奏など演奏会経費など別途かかる場合があります。
上記の授業計画は基本的な流れであり、演奏会前の特別練習など授業回数や授業内容に変更の可能性があります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	初級、上級クラス分け
第2週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイングについて理解する
第3週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイングについて理解する
第4週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイング、について理解する
第5週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第6週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第7週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第8週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第9週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第10週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第11週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第12週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第13週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第14週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第15週	弦楽合奏本番	前期弦楽合奏成果発表演奏会
第16週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第17週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第18週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第19週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第20週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第21週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第22週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第23週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの仕上げ
第24週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの仕上げ
第25週	音楽学科定期演奏会本番	音楽学科定期演奏会でのオーケストラ演奏 初級はコンサートを必ず聴きにいくこと
第26週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第27週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第28週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第29週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第30週	弦楽合奏成果発表コンサート本番	弦楽合奏成果発表の本番

授業科目	器楽合奏III（電子オル・ハイブリッドオケ）					
担当教員	斉藤　宏子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2233		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合奏という集団性の高い演奏形態の中で、音楽を通じて、コミュニケーションの取り方や集団の中の個のあり方などを学びます。同時に、協調性や人間性を養います。

到達目標

①楽曲にあった奏法を実践することができる。
②アンサンブルの重要性が理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏技術の達成度	40%		
合奏における役割の理解度と表現力	40%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『エレクトーン・ブルクミュラー25の練習曲CD付』	渡辺暁樹	ヤマハ音楽振興会	2018	9784636955002	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習、練習をして授業に望んでください。また、授業終了後は、復習を必要とします。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

電子オルガンの学習経験の有無は問いません。また、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要の説明とグループ編成の決定
第2週	選曲	
第3週	楽器等の理解	
第4週	グループ内担当の割り振り①（ディスカッション）	
第5週	グループ内担当の割り振り②（決定）	
第6週	楽譜作成、個々の音色づくり（１曲目）	
第7週	楽譜作成、個々の音色づくり（２曲目）	
第8週	楽譜作成、個々の音色づくり（３曲目）	
第9週	楽譜作成、個々の音色づくり（４曲目）	
第10週	グループ全体での音作り（１曲目前半）	
第11週	グループ全体での音作り（１曲目後半）	
第12週	アンサンブル練習（１曲目前半）	
第13週	アンサンブル練習（１曲目後半）	
第14週	アンサンブル練習（１曲目仕上げ）	
第15週	まとめ	授業内で演奏発表を行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノアンサンブルIII						
担当教員	鎌倉　亮太／谷本　聡子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	MU-MS 2313			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

ピアノアンサンブルの基礎を実技レッスン形式で行う。連弾曲を使って、両方のパートを知った上で、
役割分担して曲を作っていく過程を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
アンサンブルの練習を積んだ上で、ロマン派以降の生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による他者及び文化をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏試験	50%		
発表会	40%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。ただし、履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。
詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人で十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	組み合わせを決める。
第2週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
第3週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
第4週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第5週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第6週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第7週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第8週	合同発表会	中間のまとめ発表
第9週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
第10週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
第11週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第12週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第13週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第14週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第15週	まとめと期末試験	まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノアンサンブルIV						
担当教員	鎌倉　亮太／谷本　聡子	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2314		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノアンサンブルの基礎を実技レッスン形式で行う。連弾曲を使って、両方のパートを知った上で、
役割分担して曲を作っていく過程を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
アンサンブルの練習を積んだ上で、ロマン派以降の生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏試験	50%		
発表会	40%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。ただし、履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。
詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人で十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	組み合わせを決める。
第2週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
第3週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
第4週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第5週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第6週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第7週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第8週	合同発表会	中間のまとめ発表
第9週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
第10週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に読譜を行う。
第11週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第12週	グループレッスン	自由曲（連弾曲）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第13週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第14週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第15週	まとめと期末試験	まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	合唱III						
担当教員	内藤　淳一	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2203		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合唱ⅠとⅡで習得した内容を基礎として、より高度な声のハーモニーを実習します。
授業前半では日本の合唱作品（NHK全国学校音楽コンクール課題曲、武満徹作曲「死んだ男の残したものは」他）を取り上げ、様々な視点からアプローチした楽曲分析を踏まえ、語感を大切にした合唱表現やハーモニーの要求する音楽的抑揚の表現などを学んでゆきます。授業後半からは定期演奏会（11月21日(金)Kitaraで開催予定）で取り上げる楽曲に集中的に取り組み、オーケストラと一体となった音楽表現へのアプローチを理解します。

到達目標

①合唱ⅠとⅡで学んだ正しい呼吸法と発声法を定着させ、合唱における歌唱表現に生かすことができる。
②言葉やハーモニーの要求する音楽的抑揚を的確に捉え、演奏に反映することができる。
③作品の持つ様式を理解し、適切に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
チェックシート（毎回の授業の最後に提出する振り返	75%		
平常点（チェックシートから読み取れる授業に取り組	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。 定期演奏会で取り上げる楽曲については購入することが必要となること					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

合唱指導者として中学校や高等学校での部活動指導や授業での指導など、実務経験は豊富にあり。
全日本合唱コンクールやNHK全国学校音楽コンクール、声楽アンサンブルコンクール、滝廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールなどで全国大会出場経験多数あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配布された楽譜をその時間中に歌う場合は授業内での譜読みとなります。そのために必要な読譜力を普段から磨いておく必要があります。合唱ⅠとⅡで習得した発声法や呼吸法は各自でしっかり復習して定着させておいてください。	1時間程度/週

受講時の注意事項

この合唱IIIは選択の授業ではありますが、器楽演奏や作編曲などのすべての音楽の基本が歌うことにあると考え、音楽学科にとっての大切な科目ととらえてもらえればと思います。
授業では作曲家としての楽譜の書かれ方に着目し、合唱指導者としての言葉と音楽とのより高い次元での融合を目指した授業にしてゆくの

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	第1週ではこの授業の１年間の授業展開について説明します。 実技としては合唱ⅠとⅡで習得した発声法と呼吸法を確認します。その具体的な方法の一つとして、教育現場（授業や部活動など）でよく行われているピアノ伴奏法に加え、器楽練習のデ
第2週	日本の合唱作品を学ぶ①	第2週では詩と音楽との関わり、言葉を伴った動機の展開と和声について考えながら合唱表現を工夫してゆきます。楽曲は「虹」（森山直太朗・御徒町凧作詞作曲）と「死んだ男の残したものは」（詩：谷川俊太郎　曲：武満徹）です。学校教育現場で歌われることの多いNコン課題
第3週	日本の合唱作品を学ぶ②	第3週では到達目標②にある「言葉やハーモニーの要求する音楽的抑揚を的確に捉え、演奏に反映」させる具体的な方法を考えて工夫してみます。
第4週	日本の合唱作品を学ぶ③	第4週では前週に続き到達目標②にある「言葉やハーモニーの要求する音楽的抑揚を的確に捉え、演奏に反映」させる具体的な方法をさらに試行します。 その表現しようとしているところを歌詞やハーモニーに感じながら歌ってみましょう。
第5週	日本の合唱作品を学ぶ④	第5週ではこの２曲それぞれの全体像を把握しながら、それらの楽曲構成を念頭に置いた音楽表現を工夫します。
第6週	日本の合唱作品を学ぶ⑤	第6週ではこの２曲をそれぞれ総括的に取り扱い、その表現すべきところを確認しながらまとめの合唱をしてゆきます。
第7週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（１）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習①
第8週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（２）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習②
第9週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（３）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習③
第10週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（４）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習④
第11週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（５）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑤
第12週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（６）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑥
第13週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（７）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑦
第14週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（８）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑧
第15週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（９）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑨
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	合唱IV						
担当教員	内藤　淳一	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2204		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合唱IIIで習得した内容を踏まえ、より高度な声のハーモニーを実習します。
定期演奏会（11月21日(金)Kitaraで開催予定）で取り上げる楽曲の練習が主な内容となりますが、オーケストラとの共演で合唱がそのハーモニーの色彩感を表現し、言葉の抑揚やリズムの特徴などを踏まえた歌唱表現を学びます。

到達目標

定期演奏会で取り上げる大規模場楽曲の練習を通して以下のような到達目標を達成する。
①正しい発声法と呼吸法のさらなる習得に努め、それらを合唱表現に生かしてゆくことができる。
②より複雑なハーモニーの抑揚をくみ取り、それを合唱表現に生かしてゆくことができる。
③語感とその抑揚を生かした発音に努め、表情豊かに合唱表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
チェックシート（毎回の授業の最後に提出する振り返	60%		
振り返りシート（最終のレポート）	15%		
平常点（チェックシートから読み取れる授業に取り組	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

合唱指導者として中学校や高等学校での部活動指導や授業での合唱指導など、豊富な実務経験あり。
全日本合唱コンクールやNHK全国学校音楽コンクール、声楽アンサンブルコンクール、滝廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールなどで全国大会出場経験多数あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配布された楽譜をその時間中に歌う場合は授業内での譜読みとなります。そのために必要な読譜力を普段から磨いておく必要があります。合唱ⅠとⅡで習得した発声法や呼吸法は各自でしっかり復習して定着させておいてください。	1～2時間程度/週

受講時の注意事項

この合唱IVも選択の授業ではありますが、器楽演奏や作編曲などのすべての音楽の基本が歌うことにあると考え、音楽学科にとっての大切な科目ととらえてもらえればと思います。
授業では作曲家としての楽譜の書かれ方に着目し、合唱指導者としての言葉と音楽とのより高い次元での融合を目指した授業にしてゆくの

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習①	前期に学んだ定期演奏会で取り上げる楽曲についての確認。 詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(1)
第2週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習②	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(2)
第3週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習③	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(3)
第4週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習④	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(4)
第5週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習⑤	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(5)
第6週	定期演奏会に向けた全体練習①	楽曲全体の譜読みを完了し仕上げの練習を行う(1)
第7週	定期演奏会に向けた全体練習②	仕上げの練習(2)
第8週	定期演奏会に向けた全体練習③	仕上げの練習(3)
第9週	定期演奏会に向けた全体練習④	仕上げの練習(4)
第10週	定期演奏会に向けた全体練習⑤	仕上げの練習(5)
第11週	定期演奏会のための強化練習①	オーケストラとの合同練習(1)
第12週	定期演奏会のための強化練習②	オーケストラとの合同練習(2)
第13週	定期演奏会のための強化練習③	オーケストラとの合同練習(3)
第14週	定期演奏会のための全体総練習および本番	全体総練習ではプログラムの進行に従って練習を進め、適宜確認をしつつ出入りを含めた総合的な練習をする。
第15週	総括	定期演奏会を振り返りレポートを作成する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	オペラ制作演習III						
担当教員	岡崎　正治／鎌倉　亮太／角　岳史／ 千葉　　潤／萩原　のり子／針生　美智子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 2103		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、室内楽、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。
下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.異文化さまざまな価値を尊重しながら、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に協力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
アンサンブル試験および、受講状況による評価	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

新国立劇場等でのオペラ出演・東京二期会オペラ研修所講師。
札幌市内のオペラ団体での指揮・合唱指導等を行う。
札幌文化芸術劇場hitaruとの連携事業で長年に渡りオペラの見どころ・聴きどころを担当。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。 ピアニストは、授業時に合わせができる状態まで譜読みしてくること。	5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項

毎授業の前に発声練習をしてください。
授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
授業開始・終了時にステージ場ミリ・小物等の準備と後片付けを受講者全員で行います。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンスほか	授業の進め方の説明。 一人ずつの声質チェック。 今年度のオペラ公演概要の説明。
第2週	ソロ音楽稽古/合唱稽古①	ガイダンスで指示した曲の音楽稽古。 主に音程・リズムを確認。
第3週	ソロ音楽稽古/合唱稽古②	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。
第4週	身体表現特別講義(予定)	音楽に合わせて動く・振りを覚える等、オペラに必要な身体の使い方を学ぶ。
第5週	ソロ音楽稽古/合唱稽古③	身体表現で得た動きを意識しながら歌唱稽古。
第6週	ソロ音楽稽古/合唱稽古④	言葉・フレーズを主に確認。
第7週	講義Ⅰ（予定）	今回のオペラ作品についての講義
第8週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑤	講義を受けたうえでの解釈を確認した音楽稽古。
第9週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑥	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。
第10週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑦ セリフ稽古①	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。 台本の読み方、声の出し方など実演してアドヴァイス。
第11週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑧ セリフ稽古②	歌唱試験に向けてのアドヴァイス。 前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。
第12週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑨ セリフ稽古③	歌唱試験に向けての仕上げ。 前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。
第13週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑩	歌唱試験に向けての仕上げ。
第14週	ソロ音楽稽古/合唱稽古11	歌唱試験に向けての仕上げ。
第15週	ソロ、合唱、歌唱試験・講評	歌唱試験。 演奏後に担当教員から講評、後期に向けてのアドヴァイス等。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	オペラ制作演習Ⅳ						
担当教員	岡崎　正治／鎌倉　亮太／角　岳史／ 千葉　　潤／萩原　のり子／針生　美智子	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 2104		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、室内楽、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。
下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に労力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
アンサンブル試験および、受講状況による評価	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

新国立劇場等でのオペラ出演・東京二期会オペラ研修所講師。
ヨーロッパのオペラ公演への出演。
札幌市内のオペラ団体での指揮・合唱指導等を行う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。	5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項

毎授業の前に発声練習をしてください。
授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
授業開始・終了時にステージ場ミリ・小物等の準備と後片付けを受講者全員で行います。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	台本通し稽古	音楽、セリフを通して確認しながら、アドヴァイス。
第2週	立ち稽古① 音楽稽古①	演出家からの動きのアドヴァイス。 楽器個別練習。
第3週	立ち稽古② 音楽稽古②	立ち位置までの移動を中心に確認。 小物の扱いを確認。 楽器個別練習。
第4週	立ち稽古③ 音楽稽古③	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第5週	立ち稽古④ 音楽稽古④	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第6週	立ち稽古⑤ 音楽稽古⑤	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第7週	立ち稽古⑥ 音楽稽古⑥	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第8週	立ち稽古⑦ 音楽稽古⑦	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第9週	立ち稽古⑧ 音楽稽古⑧	演奏と動きの確認。 小物のスタンバイ位置・準備担当者の配置チェック。 楽器個別稽古。
第10週	立ち稽古⑨ 音楽稽古⑨	演奏と動きの確認。 小物のスタンバイ位置・準備担当者の配置チェック。 楽器個別稽古。
第11週	立ち稽古⑩ 音楽稽古⑩	演奏と動きの確認。 小物の最終確認。 楽器個別稽古。
第12週	通し稽古①	演奏と動きの確認。 楽器も合わせて流れを確認。
第13週	通し稽古②	本番に向けての仕上げ。 楽器も合わせて流れを確認。
第14週	通し稽古③	本番に向けての仕上げ。 楽器も合わせて流れを確認。
第15週	G.P/本番	本番後に担当教員から講評。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音響デザインⅠ						
担当教員	大黒　淳一	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2051		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音という存在からイマジネーションを広げて幅広い作曲の概念を学び、様々な音響の制作手法を実践する。フォーリーサウンド、サウンド・スケープ、サウンド・インスタレーション、ライブ・エレクトロニクス、電子音響音楽、EDMなど。実際に制作をおこないながら、音や作品について考える。

到達目標

①　身近な音から幅広い作曲の概念について理解できる。
②　録音機材の使用や編集能力を養うことができる。
③　感性を磨いて豊かな表現力や創造力を高めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業姿勢・意欲	50		
作品提出、発表(小課題および最終課題)	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『音楽ソフト　Ableton Live(mac/win) 』					

参考書等

授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、サウンドアーティストとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

・国内外のCM番組楽曲制作・MA などのポストプロダクション業務（SONY/UNIQLO/マルボロのCMなど）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回、授業で学んだことや参考資料などを読んでノートにまとめて整理すること。 復習として授業で学んだことをノートを確認し実践してみること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・DAWがインストールされたノートパソコンを用意ください。
(推奨DAW:Ableton Liveなど / 推奨PC : Apple M1 Macbookなど　(Windowsでも可))
もし用意が難しい場合は学内のPC(iMac)で行うことができます。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	音とは何か、音の概念や音が鳴る現象	
第2週	フォーリーサウンド①　生活空間の様々な音や環境①	
第3週	フォーリーサウンド②　生活空間の様々な音や環境②	
第4週	サウンド・スケープ①　音空間におけるアート作品①	
第5週	サウンド・スケープ②　音空間におけるアート作品②	
第6週	録音素材からリズムを制作する①	
第7週	録音素材からリズムを制作する②	
第8週	録音素材からメロディーを制作する①	
第9週	録音素材からメロディーを制作する②	
第10週	音楽の構成を考える　トラック制作①	
第11週	音楽の構成を考える　トラック制作②	
第12週	動画に音・音楽をつける　サウンドエフェクト①	
第13週	動画に音・音楽をつける　サウンドエフェクト②	
第14週	音響を使った様々な音楽①	
第15週	音響を使った様々な音楽②	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音響デザインII						
担当教員	大黒　淳一	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2052		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音という存在からイマジネーションを広げて幅広い作曲の概念を学び、様々な音響の制作手法を実践する。フォーリーサウンド、サウンド・スケープ、サウンド・インスタレーション、ライブ・エレクトロニクス、電子音響音楽、EDMなど。実際に制作をおこないながら、音や作品について考える。

到達目標

①　身近な音から幅広い作曲の概念について理解できる。
②　録音機材の使用や編集能力を養うことができる。
③　感性を磨いて豊かな表現力や創造力を高めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとさ他及び交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業姿勢・意欲	50		
作品提出、発表(小課題および最終課題)	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『音楽ソフト　Ableton Live(mac/win)』					

参考書等

授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、サウンドアーティストとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

・国内外のCM番組楽曲制作・MA などのポストプロダクション業務（SONY/UNIQLO/マルボロのCMなど）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回、授業で学んだことや参考資料などを読んでノートにまとめて整理すること。 復習として授業で学んだことをノートを確認し実践してみること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・DAWがインストールされたノートパソコンを用意ください。
(推奨DAW:Ableton Liveなど / 推奨PC : Apple M1 Macbookなど　(Windowsでも可))
もし用意が難しい場合は学内のPC(iMac)で行うことができます。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	シンセサイザー合成の基礎①	
第2週	シンセサイザー合成の基礎②	
第3週	動的なサウンドデザイン制作①	
第4週	動的なサウンドデザイン制作②	
第5週	波形の編集 ワープ・タイムストレッチ①	
第6週	波形の編集 ワープ・タイムストレッチ②	
第7週	立体音響/サラウンド/バイノーラルサウンド制作①	
第8週	立体音響/サラウンド/バイノーラルサウンド制作②	
第9週	エフェクト加工①	
第10週	エフェクト加工②	
第11週	電子音響音楽の制作①	
第12週	電子音響音楽の制作②	
第13週	電子音響音楽の制作③	
第14週	電子音響音楽の制作④	
第15週	作品発表と講評	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽リテラシー演習Ⅰ						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2041		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

①音楽に関する情報（音楽事典、伝記資料、楽譜等）の収集・読解・分析・要約の方法を身に着ける。
②音楽やそれを取り巻く問題に対して、①で獲得した能力を活用しながら、自分自身の考えを主張するための技術（発表、論述）を学ぶ。

到達目標

①音楽学的な文献の収集や批判的読解ができる。
②音楽学の研究方法の基礎が身につく。
③演習を通じて獲得したスキルを自分自身の専攻分野に活かすことができるようになる（発表、プログラム解説、卒論等）。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による多様な交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

「音楽用語の基礎知識」（久保田慶一編著、アルテス）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

音楽学の分野での論文、曲目解説等の執筆経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自分自身が関心のあるテーマを幾つか考えておいてください。また個人的な興味だけでなく、社会にとってどのような意味があるのか、幅広い視点を持つことが大切です。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この授業は受講生に個別に時間設定し、対面またはオンラインで指導を行います。したがって、時間割に縛られず、自由に受講時間を設定できます。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、音楽研究の方法論の概説、テキスト紹介	音楽を分析する、作曲背景を調べる、等々の具体例を紹介。
第2週	レポートのテーマ相談	関心のあるテーマを複数挙げて、内容を検討する。
第3週	レポートのテーマ相談	調べるテーマを絞る。
第4週	参考文献の検索	参考文献の検索方法を図書館で体験する。
第5週	参考文献の読解①	集めた資料（著作、論文、楽譜）に応じた読解や分析の仕方を説明。
第6週	参考文献の読解②	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第7週	参考文献の読解③	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第8週	参考文献の読解④	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第9週	レポート作成①	レポート執筆の要領（全体の構成、書式、参考文献、譜例）を説明。
第10週	レポート作成②	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第11週	レポート作成③	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第12週	レポート作成④	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第13週	レポート作成⑤	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第14週	レポート作成⑥	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第15週	まとめ、講評	教員の講評をもとに自分自身の達成度を考える。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽リテラシー演習II						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2042		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

①音楽に関する情報（音楽事典、伝記資料、楽譜等）の収集・読解・分析・要約の方法を身に着ける。
②音楽やそれを取り巻く問題に対して、①で獲得した能力を活用しながら、自分自身の考えを主張するための技術（発表、論述）を学ぶ。

到達目標

①音楽学的な文献の収集や批判的読解ができる。
②音楽学の研究方法の基礎が身につく。
③演習を通じて獲得したスキルを自分自身の専攻分野に活かすことができるようになる（発表、プログラム解説、卒論等）。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

音楽用語の基礎知識」（久保田慶一編著、アルテス）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

音楽学の分野での論文、曲目解説等の執筆経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自分自身が関心のあるテーマを幾つか考えておいてください。また個人的な興味だけでなく、社会にとってどのような意味があるのか、幅広い視点を持つことが大切です。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この授業は受講生に個別に時間設定し、対面またはオンラインで指導を行います。したがって、時間割に縛られず、自由に受講時間を設定できます。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、テキスト紹介	音楽を分析する、作曲背景を調べる、等々の具体例を紹介。
第2週	レポートのテーマ相談	関心のあるテーマを複数挙げて、内容を検討する。
第3週	レポートのテーマ相談	調べるテーマを絞る。
第4週	参考文献の検索	図書館で教員の指導を受けながら、参考文献を自分自身で検索する。
第5週	参考文献の読解①	集めた資料（著作、論文、楽譜）に応じた読解や分析の仕方を説明。
第6週	参考文献の読解②	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第7週	参考文献の読解③	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第8週	参考文献の読解④	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第9週	レポート作成①	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第10週	レポート作成②	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第11週	レポート作成③	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第12週	レポート作成④	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第13週	レポート作成⑤	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第14週	レポート作成⑥	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第15週	まとめ、講評	教員の講評をもとに自分自身の達成度を考える。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノ伴奏法C						
担当教員	岡本　孝慈	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2333		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ伴奏法Aでの学びをふまえ、単なる協調にとどまらずソリストとピアニストとして互いの個性を尊重しそれをどのようにして融合させるかを模索する。

到達目標

① 楽曲の構成感や表現方法など、密度の高いアンサンブルが出来るようになる。
② 演奏のみならず聴衆とのコミュニケーションのために重要な口頭での楽曲解説など話術を向上させることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
試験（発表）	60%		
受講態度	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付するので保管ファイルを用意すること。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回実技形式で進められるが、自分が選曲した作品の予習は十分にして授業に臨むこと。	1時間程度/週

受講時の注意事項

全受講生が公平に受講できるよう、随時時間配分します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	取組む作品を決めます
第2週	公開レッスン形式①	
第3週	公開レッスン形式②	
第4週	公開レッスン形式③	
第5週	公開レッスン形式④	
第6週	公開レッスン形式⑤	
第7週	公開レッスン形式⑥	
第8週	公開レッスン形式⑦	
第9週	公開レッスン形式⑧	
第10週	公開レッスン形式⑨	
第11週	公開レッスン形式⑩	
第12週	公開レッスン形式⑪	
第13週	公開レッスン形式⑫	
第14週	公開レッスン形式⑬	
第15週	まとめと試験（発表）	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノ伴奏法D						
担当教員	鎌倉　亮太	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2334		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ伴奏法を習得することは独奏を学ぶ上でも大切なことである。本講義は、歌曲、オペラアリアの作品を教材とし、声楽曲の伴奏法を実践的に学ぶ。なお、本科目では、ピアノ伴奏法Bの内容から更に発展した教材を扱う。

到達目標

① テンポ感や音量、音色などを追求することでソルフェージュ力を養うことができる。
② 共演者と互いの個性を認め合い協調することを通して、コミュニケーション力を向上させることができる。
③ 歌詞を発音することが出来、さらにその意味を理解し、音楽とどのように結びついているかを理解できる。
④ オーケストラ伴奏においては、使用楽器を理解し、その楽器の特性をピアノで再現することができる。
⑤ 演奏者自らが課題に気づき、自発的にリハーサルを進めることができる。
⑥ 声楽の学習者にとっては、伴奏者と合わせるときのポイントを学び、能動的な音楽作りをすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
出席を含む受講態度	40%		
課題曲に対する取り組む姿勢	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回実技形式で進められるが、自分が選曲した作品の予習は十分にして授業に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

受講生全員がレッスンを受けることができるよう、オリエンテーション時に選曲、時間配分をします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	楽譜配布、授業の進め方の説明
第2週	公開レッスン形式①	課題曲１について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第3週	公開レッスン形式②	課題曲１について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第4週	公開レッスン形式③	課題曲２について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第5週	公開レッスン形式④	課題曲２について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第6週	公開レッスン形式⑤	課題曲３について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第7週	公開レッスン形式⑥	課題曲３について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第8週	公開レッスン形式⑦	課題曲４について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第9週	公開レッスン形式⑧	課題曲４について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第10週	公開レッスン形式⑨	課題曲５について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第11週	公開レッスン形式⑩	課題曲５について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第12週	公開レッスン形式⑪	課題曲６について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第13週	公開レッスン形式⑫	課題曲６について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第14週	公開レッスン形式⑬	課題曲７について歌詞の理解と共に、曲全体をアナリーゼしながら伴奏部分の役割を理解する。
第15週	公開レッスン形式⑭	課題曲７について、歌手と合わせた時の伴奏の役割について理解を深めながら、曲の仕上がりを目指す。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	伴奏法Ⅰa						
担当教員	岡本　孝慈	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2031		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

伴奏法を習得することは大切なことである。教育現場ではメロディーに対して簡単な伴奏を付けることがしばしば要求されるし、バランスとセンスの良いアレンジは高い演奏評価にもつながる。比較的取り組みやすい教科書に掲載されているような童謡や歌曲への伴奏付けや、音楽教室講師に必要なグレード取得、また初見などソルフェージュ応用力向上を図る。（岡本：グレード取得方向、浅井：教員採用試験方向）

到達目標

①　ソルフェージュ力や和声感を向上させ、より正確で迅速な伴奏付けを修練することで、初見演奏能力を向上させることができる。
②　既存の曲、または新曲に相応しい伴奏や、色彩的な和音、リズムの工夫を凝らした即興的な伴奏付けを身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による他及び交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
試験	70%		
課題、平常点	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付するので保管ファイルを用意すること。　』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回課題に取り組むことになるが、修正した課題は必ず復習すること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

受講生は2グループに分割され、同講義時間に2つの教室で担当教員が実施する。オリエンテーリング時に受講クラスを選択することが出来るが、後期には再び変更することが出来る。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション（合同）　あらかじめアンケートで希望する進路方向を提出しそれぞれのクラス分かれ	
第2週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第3週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第4週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第5週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第6週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第7週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第8週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第9週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第10週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第11週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第12週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第13週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第14週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第15週	まとめと試験	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	伴奏法Ⅱa						
担当教員	岡本　孝慈	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2032		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

伴奏法を習得することは大切なことである。教育現場ではメロディーに対して簡単な伴奏を付けることがしばしば要求されるし、バランスとセンスの良いアレンジは高い演奏評価にもつながる。比較的取り組みやすい教科書に掲載されているような童謡や歌曲への伴奏付けや、音楽教室講師に必要なグレード取得、また初見などソルフェージュ応用力向上を図る。（岡本：グレード取得方向、浅井：教員採用試験方向）

到達目標

①　ソルフェージュ力や和声感を向上させ、より正確で迅速な伴奏付けを修練することで、初見演奏能力も向上させることができる。
②　既存の曲、または新曲に相応しい伴奏や、色彩的な和音、リズムの工夫を凝らした即興的な伴奏付けを身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとどまる個及び交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
試験	70%		
課題、平常点	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付するので保管ファイルを用意すること。　』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回課題に取り組むことになるが、修正した課題は必ず復習すること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

受講生は2グループに分割され、同講義時間に2つの教室で担当教員が実施する。オリエンテーリング時に受講クラスを選択することが出来るが、後期には再び変更することが出来る。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	前期の取り組みなどを踏まえて担当教官と話し合い、進路方向に合ったクラス分かれる。	
第2週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第3週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第4週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第5週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第6週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第7週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第8週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第9週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第10週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第11週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第12週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第13週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第14週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第15週	まとめと試験	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法技能C						
担当教員	土屋　益子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 2303		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽療法実践を行う上で必要な、即興演奏の知識・技術の習得を目的とする。また、音楽療法実践で必要となる、鍵盤楽器による伴奏付け、移調、アレンジを対象者に応じて表現する技術を習得し、臨機応変に演奏を変化させる技術を習得する。

到達目標

① コードネームを把握し、鍵盤楽器による適切な伴奏付けができる。
② 音楽療法の対象者、そして場面に合った表現ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験	50%		
課題レポート	30%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後は講義内容をノートにまとめてください。授業で扱った曲は、必ず練習をしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は毎回実技形式で行います。十分練習した上で授業内で発表すること。
授業内に実施した模擬セッションのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業内容、授業目的、授業計画、評価方法等について説明いたします。
第2週	即興に必要なコードネームの読み方、コードの仕組み①	コードの名前・構成音、分類と用法などについて学びます。
第3週	即興に必要なコードネームの読み方、コードの仕組み②	コードの名前・構成音、分類と用法などについて学びます。
第4週	コード付けとコード譜の鍵盤楽器による伴奏付けの練習①	第２・３週で学んだ知識を活かし、実際にコード譜を見ながら鍵盤楽器で伴奏をし、実践力を身につけます。
第5週	コード付けとコード譜の鍵盤楽器による伴奏付けの練習②	第２・３週で学んだ知識を活かし、実際にコード譜を見ながら鍵盤楽器で伴奏をし、実践力を身につけます。
第6週	コード付けとコード譜の鍵盤楽器による伴奏付けの練習③	第２・３週で学んだ知識を活かし、実際にコード譜を見ながら鍵盤楽器での伴奏する実践力を身につけます。
第7週	曲の雰囲気に合った伴奏パターンの工夫と表現の練習①	曲調に合わせた、伴奏アレンジをして、そして実際に演奏することによって、実践力を身につけます。
第8週	曲の雰囲気に合った伴奏パターンの工夫と表現の練習②	曲調に合わせた、伴奏アレンジをして、そして実際に演奏することによって、実践力を身につけます。
第9週	曲の雰囲気に合った伴奏パターンの工夫と表現の練習③	曲調に合わせた、伴奏アレンジをして、そして実際に演奏することによって、実践力を身につけます。
第10週	模擬セッション①	実際のセッション（療法の場）を想定し、ロールプレイをし、終了後に振り返りをします。
第11週	模擬セッション②	実際のセッション（療法の場）を想定し、ロールプレイをし、終了後に振り返りをします。
第12週	基本拍の持続とテンポの変化、対象者に合わせて移調する①	対象者の状況に合わせて、テンポや調性などを変化させて伴奏し、現場実践力を身につけます。
第13週	基本拍の持続とテンポの変化、対象者に合わせて移調する②	対象者の状況に合わせて、テンポや調性などを変化させて伴奏し、現場実践力を身につけます。
第14週	基本拍の持続とテンポの変化、対象者に合わせて移調する③	対象者の状況に合わせて、テンポや調性などを変化させて伴奏し、現場実践力を身につけます。
第15週	授業内試験とまとめ	課題曲の伴奏付けの試験をします。 講義の総括をいたします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法技能D						
担当教員	土屋　益子	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 2304		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽療法実践を行う上で必要な、即興演奏の知識・技術の習得を目的とする。音楽的イディオム、伴奏形を自由に使い分け、行動の変化に同調させたり、反応を引き出す弾き方をしたり、臨機応変に演奏を変化させる技術を身につける。

到達目標

① 音楽的イディオム、伴奏形を使い分け、即興演奏ができる。
② 音楽療法の対象者に合わせた即興演奏ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験	30%		
授業内での課題発表	50%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

児童発達支援センターにて実践中。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後は講義内容をノートにまとめてください。模擬セッションは終了後にセッション映像を見て、後日レポートを提出してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は毎回実技形式で行います。自分の選曲した曲の練習をして授業に臨んでください。 授業内に実施した模擬セッションのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業内容、授業目的、授業計画、評価方法等を説明します。
第2週	音楽療法の活動目的に合わせたアレンジと表現の演習①	歌唱・合奏・アクティビティなど、活動の種類に合わせてアレンジ・演奏をして、現場実践力を身につけます。
第3週	音楽療法の活動目的に合わせたアレンジと表現の演習②	歌唱・合奏・アクティビティなど、活動の種類に合わせてアレンジ・演奏をして、現場実践力を身につけます。
第4週	音楽療法の活動目的に合わせたアレンジと表現の演習②	歌唱・合奏・アクティビティなど、活動の種類に合わせてアレンジ・演奏をして、現場実践力を身につけます。
第5週	模擬セッション①	実際のセッション（療法の場）を想定し、ロールプレイをし、終了後に振り返りをします。
第6週	模擬セッション②	実際のセッション（療法の場）を想定し、ロールプレイをし、終了後に振り返りをします。
第7週	音楽的イディオムに応じた即興演奏の演習①	音楽的イディオムについて学び、そのイディオムを使って即興演奏をし、即興技術を身につけます。
第8週	音楽的イディオムに応じた即興演奏の演習②	音楽的イディオムについて学び、そのイディオムを使って即興演奏をし、即興技術を身につけます。
第9週	音楽的イディオムに応じた即興演奏の演習③	音楽的イディオムについて学び、そのイディオムを使って即興演奏をし、その技術を身につけます。
第10週	模擬セッション	実際のセッション（療法の場）を想定し、ロールプレイをし、終了後に振り返りをします。
第11週	即興的音楽活動①	即興演奏を用いた療法的活動をデザインするための構成法などを学びます。
第12週	即興的音楽活動②	即興演奏を用いた療法的活動をデザインするための構成法などを学びます。
第13週	即興的音楽活動③	即興演奏を用いた療法的活動をデザインするための構成法などを学びます。
第14週	即興的音楽活動④	即興演奏を用いた療法的活動をデザインするための構成法などを学びます。
第15週	授業内試験とまとめ	講義で学んだことを活かし、ロールプレイを実施します。 授業の総括をいたします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法演習Ⅱ						
担当教員	高田　由利子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 2402		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

① 音楽療法士として必要な感性化トレーニングを行う。
② ロールプレイを通して音楽療法士としての基本的な対応の技術を体得する。
③ チームケアとしてのグループ活動を体験する。

到達目標

① 対象者に合わせたプログラムの作成ができる。
② 音楽療法士として必要な感性を持つことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	30%		
発表技術	30%		
発表態度	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

『静かな森の大きな木』生野里花 春秋社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

日本音楽療法学会認定音楽療法士として、臨床、スーパービジョン、教育の経験を２０年以上有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回、実技形式で進められて行きますので、事前に配布した資料や参考書をもとに予習・練習をしておいてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

クリエイティブな活動を行うので音楽に限らず、芸術全般に対して興味を持ち情報を得るこ と。グループワークについてのフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	シラバスの説明に基づき、音楽療法士になるために、どのような知識が必要となるかについて説明する。
第2週	芸術療法	芸術療法の概要を学びます。芸術が治療としてどのような役割を持つのか考えてみます。
第3週	表現者としての音楽療法士について	音楽療法士の役割にある表現者としての意味について考えます。
第4週	表現アートセラピーワークショップ① 概論	表現アートセラピーの概要を学びます。その後、ワークショップを通して表現アートセラピーについての学びを深めます。
第5週	表現アートセラピーワークショップ② 実践	ワークショップを通して表現アートセラピーについての学びを深めます。
第6週	表現アートセラピーワークショップ③ ふりかえり	表現アートセラピー体験について振り返り、自己洞察の意味について学びます。
第7週	創造的音楽療法について①	創造的音楽療法について、国内外の事例を通して学びます。
第8週	創造的音楽療法について②	創造的音楽療法について、国内外の事例を通して学びます。
第9週	創造的音楽療法について③	創造的音楽療法について、様々な旋法を使った即興体験から音のもつ療法的な役割について学びます。
第10週	創造的活動について④	創造的音楽療法について、様々な旋法を使った即興体験から音のもつ療法的な役割について学びます。
第11週	グループプレゼンテーションに向けたプランニング	グループプレゼンテーションに向けて、グループに分かれて計画します。
第12週	グループワーク①	グループプレゼンテーションに向けて、各グループに分かれて準備します。
第13週	グループワーク②	グループプレゼンテーションに向けて、各グループに分かれて準備します。
第14週	グループワーク③	グループプレゼンテーションに向けて、各グループに分かれて準備します。
第15週	発表とフィードバック	グループで発表します。その後、振り返りをしながら、グループワークの療法的な意味について考えます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	伴奏実習III						
担当教員	河野　泰幸／針生　美智子	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2353		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

① ピアニストにとって重要な伴奏の技能を身につける。
② 各専門分野のレッスンを受けることにより、より視野の広い音楽表現を可能とする。
③ 伴奏者として必要な経験や知識を身につける。

到達目標

① 器楽・声楽の伴奏を通して、コミュニケーション能力を習得できる。
② アンサンブルに必要な聴き方やテクニックを実践しながら習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点	10%		
実習（本番での伴奏）	90%		
1回の実習での点数は、副科の授業内試験30点～34			

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『授業ごとに指示する。』					

参考書等

授業ごとに指示する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は演奏家としての実務経験がある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく上記の要件を満たすことをもち単位認定します	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

レッスン受講まで充分な合わせを行うこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンス
第2週		パートナーとの充分なリハーサル
第3週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
第4週		パートナーとの充分なリハーサル
第5週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
第6週		パートナーとの充分なリハーサル
第7週		総練習
第8週		本番①（演奏会・試験等）
第9週		パートナーとの充分なリハーサル
第10週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
第11週		パートナーとの充分なリハーサル
第12週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
第13週		パートナーとの充分なリハーサル
第14週		総練習
第15週		本番②（演奏会・実技試験等）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ステージスタッフ実習III（前期）						
担当教員	大黒　淳一／大隅　雅人／鎌倉　亮太／ 河野　泰幸／小山　隼平／高田　由利子／ 谷本　聡子／千葉　　潤／外山　啓介／ 針生　美智子／三山　博司	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2723		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

大学主催のコンサートにおいて、ステージスタッフ等、演奏以外の各種の責務を果たした場合に評価し、単位として認定します。
本科目は、アクティブラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。

到達目標

①コンサートを運営するための、実務に関する汎用的な知識と技術を身につける。
②コンサートの進行表と舞台配置図を書くことができる。
③コンサート中に滞りなく、与えられた任務を遂行できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
担当教員への事前の連絡・報告・相談	15%	他のスタッフとの連携	10%
業務レベルに応じた理解度	15%	積極性・態度	20%
G.P.での実施内容	15%		
改善点・修正点の把握と実行	15%		
コンサート本番での実施内容	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

宮崎隆男著『「マエストロ、時間です」～サントリーホール　ステージマネージャー物語～』（ヤマハミュージックメディア）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく、45時間従事した時間数をもって単位認定します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録機関を含め「受講時の注意事項」は、コンサートの内容が決定次第、Campus Xsや学内掲示等でお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける協定等、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含む科目です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	コンサート①：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第2週	コンサート①：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第3週	コンサート①：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第4週	コンサート①：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第5週	コンサート①：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第6週	コンサート②：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第7週	コンサート②：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第8週	コンサート②：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第9週	コンサート②：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第10週	コンサート②：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第11週	コンサート③：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第12週	コンサート③：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第13週	コンサート③：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第14週	コンサート③：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第15週	コンサート③：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏研究Ⅰ（谷本演奏クラス）						
担当教員	谷本　聡子	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2121		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

個人レッスンの形式で、専攻分野に対する研究を深めます。
また、学外のオーディション、コンクールや演奏会等へ参加するか、または発表機会を設けることを前提とし、それに対しての準備や事後評価を行います。

到達目標

①自分の専攻分野について研究を深め、社会の中での音楽家、演奏家としてのあり方を能動的に考えることができる。
②学外のオーディションやコンクール、演奏会等へ参加したり、自分で発表の機会を作ったりすることで、１人の音楽家として、社会に向けた自己の発信をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
① 学外のコンサート（音の輪コンサートを含む）や	60%		
② 取り組む姿勢	20%		
③ ①以外の発表機会に対する積極性	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家あるいは作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
練習や創作の時間を充分確保することはもちろんですが、それに加えて楽曲分析や文献の調査、創作環境の向上につながる情報収集を絶えず行って下さい。	3時間以上/日

受講時の注意事項

事前に実施した、演奏クラス選抜試験に合格した学生のみが履修できます。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	演奏・研究	ガイダンス
第2週		研究テーマの検討
第3週		研究テーマの決定
第4週		演奏研究または作品制作①
第5週		演奏研究または作品制作②
第6週		演奏研究または作品制作③
第7週		演奏研究または作品制作④
第8週		演奏研究または作品制作⑤
第9週		演奏研究または作品制作⑥
第10週		演奏研究または作品制作⑦
第11週		発表に向けての準備①
第12週		発表に向けての準備②
第13週		発表に向けての準備③
第14週		発表に向けての準備④
第15週		発表に向けての準備⑤
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法実習Ⅰ						
担当教員	土屋　益子	配当年次	2年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 2401		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

実習に必要な態度を身につけ、社会福祉施設や病院実習で考慮すべき事項を学ぶ。礼儀、服装などについて確認をし、音楽療法士としてふさわしい態度を身につける。施設、病院の音楽療法を観察、記録しその後、観察内容についての疑問点を話し合い、音楽療法士としての能力を養う。

到達目標

① 施設、病院の仕事を理解する。
② 観察、実習の評価が適切かを理解する。
③ 知識を実習に結びつけることができる。
④ 提出物に配慮できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実習先からの評価	60%		
音楽療法実習計画書	20%		
授業内レポート	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

高齢者施設での実務経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
グループでの準備を有する課題を指示します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

音楽療法実習は5回の実習を行う。授業内容と関連して、1～2回の学外見学を行う。
授業内に実施した模擬セッションのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業内容、授業目的、授業計画、評価方法等について説明いたします。
第2週	音楽療法士としての職業倫理、衛生管理など	音楽療法士としての職業倫理、衛生管理などに学びます。
第3週	高齢者の音楽療法の治療構造	高齢者の音楽療法の治療構造について学びます。
第4週	高齢者の音楽療法における歌唱活動①	高齢者の現場における歌唱活動の意義と効果について学びます。
第5週	高齢者の音楽療法における歌唱活動②	高齢者の現場を想定して、歌唱活動のロールプレイをします。終了後に振り返りもします。
第6週	高齢者の音楽療法における楽器活動①	高齢者の現場における、楽器活動の意義と効果について学びます。
第7週	高齢者の音楽療法における楽器活動②	高齢者の現場における、楽器活動の意義と効果について学びます。
第8週	高齢者の音楽療法における楽器活動③	高齢者の現場を想定して、楽器活動のロールプレイをします。終了後に振り返りもします。
第9週	高齢者の音楽療法におけるアクティビティ①	高齢者の現場における、アクティビティの意義と効果について学びます。
第10週	高齢者の音楽療法におけるアクティビティ②	高齢者の現場を想定して、アクティビティのロールプレイをします。終了後に振り返りもします。
第11週	高齢者の音楽療法の評価	高齢者の音楽療法の評価の種類や見方などについて学びます。
第12週	施設や病院における他職種との連携①	高齢者の現場で、どのような職種があるのか、また音楽療法士がどのように他職種と連携しているかについて学びます。
第13週	施設や病院における他職種との連携②	高齢者の現場で、どのような職種があるのか、また音楽療法士がどのように他職種と連携しているかについて学びます。
第14週	音楽療法活動の見学①	実際に高齢者の音楽療法の現場を見学します。
第15週	音楽療法活動の見学②	実際に高齢者の音楽療法の現場を見学します。
第16週	施設や病院での実践と記録、評価①	高齢者の現場で実習をします。
第17週	施設や病院での実践と記録、評価②	高齢者の現場で実習をします。
第18週	施設や病院での実践と記録、評価③	高齢者の現場で実習をします。
第19週	施設や病院での実践と記録、評価④	高齢者の現場で実習をします。
第20週	施設や病院での実践と記録、評価⑤	高齢者の現場で実習をします。
第21週	施設や病院での実践と記録、評価⑥	高齢者の現場で実習をします。
第22週	施設や病院での実践と記録、評価⑦	高齢者の現場で実習をします。
第23週	施設や病院での実践と記録、評価⑧	高齢者の現場で実習をします。
第24週	施設や病院での実践と記録、評価⑨	高齢者の現場で実習をします。
第25週	施設や病院での実践と記録、評価⑩	高齢者の現場で実習をします。
第26週	施設や病院での実践と記録、評価⑪	高齢者の現場で実習をします。
第27週	施設や病院での実践と記録、評価⑫	高齢者の現場で実習をします。
第28週	実習を通して学んだことの振り返り①	実習で学んだことを発表しあい、振り返りをします。
第29週	実習を通して学んだことの振り返り②	実習で学んだことを発表しあい、振り返りをします。
第30週	まとめ	講義の総括をします。

授業科目	室内楽Ⅰ（谷本クラス）						
担当教員	谷本　聡子	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2301		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ、管弦打楽器等を様々な形で組み合わせ、アンサンブルを実技レッスン形式で行う。編成は二重奏から八重奏くらいまでの範囲とする。バロックから近現代までのオリジナルの室内楽曲を中心に、楽譜の読み方を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりうえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己とさまざまな価値観を互いに尊重しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実技試験、実技試験の評価は、複数の採点者の素点を	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人かつグループで譜読みをし、合わせて練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。グループとして、しっかりとした練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。ピアノコース・管弦打楽コース以外の学生が履修を希望する場合は、プレイスメントテストを行う場合がある。	1時間以上/日

受講時の注意事項

楽譜は「原典版」を使用することが望ましい。
取り上げるのは、原則出版されているオリジナルの室内楽曲となります。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。実技演奏法（主科）又は実技演奏法（副専攻）を履修していること。副専攻の場合は同一楽器

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンスを行い、履修グループごとに課題曲を決める
第2週	レッスン	楽曲の譜読み、分析を中心に課題曲をグループごとに研究する①
第3週		楽曲の譜読み、分析を中心に課題曲をグループごとに研究する②
第4週		アンサンブルでの練習の仕方を話し合いながら、曲創りをする①
第5週		アンサンブルでの練習の仕方を話し合いながら、曲創りをする②
第6週		アンサンブルでのバランスの聴き方に留意しながら楽曲の総合練習をする①
第7週		アンサンブルでのバランスの聴き方に留意しながら楽曲の総合練習をする②
第8週		演奏試験とまとめ
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法III（主専攻・ピアノ）（谷本先生）					
担当教員	谷本　聡子	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	PI-MS 2103		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ演奏の基礎であるテクニックの習得と作品解釈の基礎になる読譜力の向上を目指す。
バロック、古典、ロマン、近現代の各時代の曲の構成、楽譜の読み取り方を研究する。
個人指導のレッスン形式で、それぞれの技術、経験に応じた選曲をする。

到達目標

ピアノテクニックの研鑽と多様な様式での楽曲表現が習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実技試験	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

各自の課題にあった楽譜を用意すること。原則的に「原典版」を使用する。
使用楽譜以外にもう一部楽譜を用意すること（コピー譜可）。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の演奏を聴き、その経験を知り個々の学生に合った課題を与え、次週からの学習計画を練る
第2週		数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る①
第3週		数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る②
第4週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする①
第5週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする②
第6週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする③
第7週		暗譜で演奏できるようにする①
第8週		暗譜で演奏できるようにする②
第9週		自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする①
第10週		自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする②
第11週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める①
第12週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める②
第13週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める③
第14週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める④
第15週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める⑤
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	作曲・編曲実技・サウンドクリエイションIII（小山先生）					
担当教員	小山　隼平	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	CP-MS 2103		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

作曲や編曲、サウンドデザインの実技指導を受けます。また、必要に応じて参考となる楽曲の鑑賞・分析や和声法、対位法、管弦楽法の指導も受けます。課題の内容と制作方法については、学習者各自の興味・関心および習熟度に応じて設定します。

到達目標

①興味・関心に応じた作品を制作できる。
②他者の作品から参考になる部分を学ぶことができる。
③作品制作で使用する楽器・機器にかかわる知識を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、作曲家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自作品の制作は授業時間外に進めて下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	興味・関心・習熟度に応じた課題を設定する。
第2週	リファレンスの分析①	リファレンスとして使用する楽曲を決定する。
第3週	リファレンスの分析②	リファレンスとして使用する楽曲を分析する。
第4週	リファレンスの分析③	分析結果に基づき必要な知識や技術などを整理する。
第5週	作品制作①	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第6週	作品制作②	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第7週	作品制作③	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第8週	作品制作④	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第9週	作品制作⑤	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第10週	作品制作⑥	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第11週	作品制作⑦	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第12週	作品制作⑧	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第13週	作品制作⑨	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第14週	作品制作⑩	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第15週	まとめと作品提出	完成した作品の自己評価を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法III（副専攻・ピアノ）（谷本先生）					
担当教員	谷本　聡子	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2103		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。

到達目標

基礎と演奏能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（または実技試験）。音楽総合コースの主	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で指示します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習してレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える
第2週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する①
第3週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する②
第4週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③
第5週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④
第6週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤
第7週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥
第8週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦
第9週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する①
第10週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する②
第11週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する③
第12週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する④
第13週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑤
第14週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑥
第15週		まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法III（副科・ピアノ）（谷本先生）					
担当教員	谷本　聡子	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2113		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。

到達目標

基礎と演奏能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内実技試験	50%		
平常点	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

詳細な授業計画については，授業内でお知らせします。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える
第2週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する①
第3週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する②
第4週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③
第5週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④
第6週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤
第7週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥
第8週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦
第9週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する①
第10週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する②
第11週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③
第12週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④
第13週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤
第14週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥
第15週		まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	コンテンポラリーアート						
担当教員	細川　麻沙美	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2004		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業では、現代社会におけるコンテンポラリーアートを、広く取り上げ、紹介することで、その状況を知り、理解することが出来る。講義では、コンテンポラリーアートに紐付く美術史的な視点に重きを置きつつ、経済的な観点や技術的な変化を含め広く俯瞰することで、アートに対する理解を深め、今後の作品鑑賞や創作活動に繋がる意識や知識、ひいては現代社会そのものを考察する力を身につける。また、札幌国際芸術祭事務局マネージャー（2013年～）の実務経験を踏まえ、過去の芸術祭での作品展開やキュレーションの変化など、グローバルな観点での芸術祭の在り方や位置付けなども知ることが出来る。

到達目標

① 美術史の流れを踏まえて、現代社会におけるコンテンポラリーアートの在り方や状況を理解することできる。
② 上記を踏まえ、芸術作品やプロジェクトを歴史や現代社会と関連させて鑑賞・考察することができる。
③上記を踏まえ、自らの制作成果に対する客観性を持つことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を掘起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	30%		
平常試験	40%		
学期末試験	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

美術手帖編『現代アート事典』美術出版社、末永照和監修『カラー版20世紀の美術』美術出版社、馬定延『日本メディアアート史』美術出版社　他、授業内で参考文献を多数扱います。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

札幌国際芸術祭事務局（2013～）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる参考文献等を用いて、積極的に美術史への理解を深めること。可能であれば、実際の美術作品、アートプロジェクトを、難しい場合は、オンライン上で、多様な芸術表現を多く鑑賞すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

美術史の大きな流れを掴むために、講義内容はきちんと確認してください。初めての用語やアーティスト名は、必ずチェックをし、自ら調べるようにしてください。また、実際に作品する機会を積極的に設けてください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	コンテンポラリーアート（現代美術）とは	この講義の導入として「コンテンポラリーアート」とはどのようなものかを紐解きながら、講師の自己紹介を交えて、シラバスに基づく講義内容を紹介します。
第2週	作品を鑑賞するとは	アートを知るためには、まずは、じっくり見ることが必要です。改めて、作品の鑑賞方法を考えてみます。
第3週	アートシーンとは何か、美術作品を巡る現在	作品を鑑賞するためには、まずが、作品自体を作るアーティストが必要ですが、鑑賞環境を作り上げるには多く人が関わっています。そういったアートを取り巻く現代を広く捉えて紹介します。
第4週	日本の美術 ①　明治維新まで	「日本美術史」は明治維新以降に誕生します。コンテンポラリーアートを捉えるために、まず日本の美術史をダイジェスト的に見ていきます。
第5週	日本の美術 ②　1945 年までの美術	コンテンポラリーアートを捉えるために、日本の美術史をダイジェスト的に見ていきます。大きな転換期を迎える第２次世界大戦までの日本美術史です。
第6週	西洋美術の流れ ①　20世紀までの美術	日本美術史と区別される西洋美術史をコンテンポラリーアートを捉えるために、ダイジェスト的に見ていきます。
第7週	西洋美術の流れ ②　20世紀以降の美術	日本美術史と区別される西洋美術史をコンテンポラリーアートを捉えるために、ダイジェスト的に見ていきます。
第8週	コンテンポラリーアートの変遷 ①　抽象表現主義以降	第2次世界大戦以降、グローバリゼーションが進む世界のアートの変遷を見ていきます。
第9週	コンテンポラリーアートの変遷 ②　1970、80 年代を中心に	コンテンポラリーアートという言葉を象徴する代表的な作品が多く生み出された時代を見ていきます。
第10週	コンテンポラリーアートの変遷 ③　20世紀末から21世紀へ	21世紀になって４半世紀がたった今日、更なるアートの変遷を見てみます。
第11週	コンテンポラリーアートを巡る多様な表現 ①　アート×テクノロジー	最先端の技術を取り入れるとはどういうことか。 スペキュラティブデザイン、AI、XR、NFTなど新しい動向を紹介します。
第12週	コンテンポラリーアートを巡る多様な表現 ②　世界のアートフェスティバル	国内外で開催されている展覧会・フェスティバルを取り上げながら、講師が関わっている札幌国際芸術祭の開催事例も紹介します。
第13週	コンテンポラリーアートを巡る多様な表現 ③　海外の事例を中心に	国内外で開催されている展覧会などを具体的に紹介しながら、2025年に起きてる動向を紹介します。
第14週	コンテンポラリーアートを巡る多様な表現 ④　国内の事例を中心に	国内外で開催されている展覧会などを具体的に紹介しながら、2025年に起きてる動向を紹介します。
第15週	総括とテストの実施	講義を踏まえたテストを実施します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報デザイン論						
担当教員	鳥宮　尚道	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2003		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

「情報デザイン」という言葉がデザインのひとつの分野として一般的に認知されるようになったのは、1980年代後半頃からであった。情報デザインの中心的な課題である「情報をどのように“わかりやすく”伝えるのか」というテーマは、今日ますます重要性を増している。この授業では、情報を伝えるための手法や表現、デザイナーや研究者の制作物や研究成果などを紹介し、解説することで、「情報を伝えるための方法」としての情報デザインの意義を理解することが目的である。

到達目標

①　デザインに関する用語等の基礎知識を説明できる。
②　人とデザインの関わりを踏まえたデザインプロセスについて説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
期末レポート	60		
授業内への参加意欲（各回の質問に対する回答を積極	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

特に「観察からのデザイン」「ユーザビリティ」について、企業の製品開発時におけるニーズ調査、ユーザーテストなどの実践を複数件取り組んできた。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回、次回のキーワードを紹介するので調べておくことが望ましい。また、学んだ事柄を確認し理解を更に深めること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各回毎に授業内容に関する質問があります。資料などを調べ、見識を深めてもらいたい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	「情報」をデザインするとは	授業全体の流れについて説明し、特に重要なキーワードについて確認する。
第2週	図・地図と情報デザイン	膨大なデータに形を与えて表される「情報」。その情報を視覚的に表した図や地図について解説する。
第3週	記号・文字と情報デザイン	我々が普段接する情報は「記号」である。情報伝達を支える文字も記号と捉え、表現における文字の扱い、フォントの進化について解説する。
第4週	複製技術とメディア	メディアはコミュニケーションを支えている。これまでの主要なメディアを振り返り、その特徴を解説する。
第5週	“時代”を映す広告・ポスター	広告・ポスターに表現されるものにはメッセージが含まれる。名作と呼ばれるポスターを取り上げ、その時代背景と表現の関係を考える。
第6週	“時代”を映すCM	TVCMは様々な表現の実験の場であった。時代の価値観を鋭く取り上げていた昭和時代のTVCMを解説。
第7週	情報の視覚化①　アイソタイプ、ピクトグラム	様々な社会問題を解決する１つの方法として生まれたピクトグラム。その発生から、実験的に取り組まれたこれまでのオリンピックで用いられたピクトグラムの解説。
第8週	情報の視覚化②　ダイアグラム	情報の理解を促すために生まれたダイアグラムやインフォグラフィック。「伝える」ことを意識して作られた静的な表現、動的な表現を複数取り上げ解説する。
第9週	情報の構造化	ネイサン・シェドロフ、リチャード・ソウルウーマンの考え方を紹介し、情報を分類して組み立てる方法について解説する。
第10週	わかりやすさのデザイン	デザインをおこなう上で「わかりやすさ」「使いやすさ」を考慮することは必要条件となっている。ノーマンの「アフォーダンス」の解説を中心に、混乱を招く事例を紹介しながら解説する。
第11週	エモーショナル・デザイン	ノーマンの言う「本能的デザイン」「行動的デザイン」「内省的デザイン」について解説し、人の情動に働きかけるデザインについて考える。
第12週	観察からのデザイン	デザイン思考のプロセスにおいて特に重要とされる「観察」の行為は、デザインにユーザー視点を反映させるために注目されている。IDEOの取り組みを紹介しながら解説する。
第13週	ユーザビリティ	人が外界の情報をいかに取得するかはインタフェースの問題が重要となっている。インタフェースを通じて人とモノ、人と外界の様々なインタラクションを促すための考慮すべき点いついて解説する。
第14週	情報デザインの役割と広がり	デザイン開発の現場で実際に取り組まれたニーズの発見、把握、検証のプロセスを紹介し、実践の方法について解説する。
第15週	まとめ、授業内質問へのフィードバック	これまでの授業全体について振り返り、情報デザインの役割について考える。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	感性デザイン論						
担当教員	宮本　一行	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2008		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、感性デザインについて教授する。
「人間中心のシステム」が求められるデザインの領域では、従来の論理的な思考だけではなく、人間の基本的能力でもある「感性的思考」が重視されている。
感性工学によるデザイン手法の成り立ちやその意義について理解を深めるとともに、グループディスカッションを通じて、他者の感性的判断や働きについて分析することに取り組む。
また、デザインの今日的な展開を踏まえ、ユーザーのニーズや価値観、社会的な課題や展望を発見する力を身につける。

到達目標

①　デザインの基本である人間情報について理解する。
②　デザインにおける科学的アプローチの基本的知識・手法を習得する。
③　グループワークを通し、チームでデザインを評価する軸を導き出す。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート課題	35		
授業への参加意欲	65		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

D・A・ノーマン（2015）『誰のためのデザイン？増補・改訂版　―認知科学者のデザイン原論』新曜社
橋田規子（2020）『エモーショナルデザインの実践　―感性とものをつなぐプロダクトデザインの考えかた』オーム社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

デザイン事務所におけるプロダクトデザイン開発の実務経験

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回、次回のキーワードを紹介するので調べておくことが望ましい。また、学んだ事柄を確認するとともに、自主制作に活かしながら理解をさらに深めること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業の中盤（第７週）に最終レポート課題を出題する。
なお最終レポートは、第８週以降の授業時間内に作成・分析したデータを使用するため、授業を欠席した場合には授業時間外での作業が必要となる。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	これから授業を受ける上で専門用語の整理を行いながら、実際の作品事例を紹介する。
第2週	プロダクトデザインと感性工学	感性デザインという手法に関して、「①思想とプロダクト」「②感性とデザイン」「③現場のデザイン工程」について講義を行う。
第3週	感性デザインとはなにか	感性デザインに用いられる感性工学に関して、「①デザインにおける感性工学」「②感性工学における評価」「③デザインにおける造形の要素と秩序」について講義を行う。
第4週	ワード出しのブレスト	分析を行うために必要な２種類のワード「①直表現ワード」「②イメージワード」について紹介し、実際に書き出してみる。
第5週	感性評価①　概要と手順	調査対象に対して、好みの度合いを考え、ランダリングによる評価ワード出し（グループディスカッション）に取り組む。
第6週	感性評価②　アンケート調査方法	先週の①に対して、テキストマイニングによる分析を行う。また、SD法によるアンケートに回答してみる。
第7週	SD法によるアンケートの実施例	先週の②の分析から得られた「デザインの方向性」について報告する。また、サンプル数が多い場合の分析事例についても紹介する。
第8週	SD法のアンケート作成①　調査対象の選定	最終レポートを段階的に作成していくにあたり、個人の興味に合わせた調査対象を選定する。また、調査シートを作成する。
第9週	SD法のアンケート作成②　好みの度合いを調査	先週の①を用いて、調査対象の好みの度合いを図る。また、それらの平均値を求めることで、定量的な分析を試みる。
第10週	SD法のアンケート作成③　ランダリングによる評価ワード出し	先週の②を用いて、ランダリングによる評価ワード出し（グループディスカッション）に取り組む。
第11週	SD法のアンケート作成④　評価ワードの分類	先週の③を踏まえ、テキストマイニングによる分析を行い、軸となる評価ワードを選定する。
第12週	SD法のアンケート作成⑤　アンケートの作成	これまで得られた情報を整理して、Googleフォームを用いたアンケートを作成する。
第13週	アンケートの回答	作成されたGoogleフォームに対して、受講生同士で相互回答する。
第14週	セマンティック・プロフィールの作成	先週のアンケート結果から、SDプロフィール（図表）を作成し、それぞれの「共通点」「相違点」「参照点」を考察する。
第15週	最終レポートのまとめ	これまで得られた情報を整理して、最終レポートをまとめる。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	美術概論						
担当教員	下濱　晶子	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	FA-MS 2007			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○

授業概要

本授業では、造形の理論として主に美術理論の知識を教授する。美術とは、視覚的または空間的な美を表現する建築・絵画・彫刻・工芸などの造形芸術全般を指す。本授業では「美術とは何か」という問題を、各時代の美術理論を通して習得させる。西洋ではチェンニーノ・チェンニーニの「技法書」が書かれたルネサンス期から20世紀に至るまでの社会的背景と、その時代に支配的であった造形原理や美術理論を紹介する。日本では、明治期の白樺派などの理論を取り上げ、ロダン、セザンヌ、ゴッホら印象主義以後の西洋美術の日本における受け入れられ方を解説する。

到達目標

①　美術理論の知識を習得できる。
②　美術表現と社会的条件との関係を理解できる。
③　作品の技法や材質も把握できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	80%、		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。　』					

参考書等

下濱晶子監修
１０歳からの「美術の歴史」世界・日本の巨匠と名作がわかる本
2020年　メイツユニバーサルコンテンツ

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、講演・執筆などの実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後は復習を行ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

美術関係の展覧会や画集やテレビ番組を見るなど、積極的に関わってほしい。
授業内に実施した出席レポートなどのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	古代社会	古代社会と美術について解説する。
第2週	ギリシャ・ローマ時代	ギリシャ・ローマ時代の美術理論と作品について解説する。
第3週	中世の美術理論と技法①	中世の初期キリスト教美術、ビザンティン美術、初期中世美術の美術理論と技法について解説する。
第4週	中世の美術理論と技法②	中世のロマネスク美術、ゴシック美術の美術理論と技法について解説する。
第5週	ルネサンスの美術理論と技法①	イタリア初期ルネサンス美術の美術理論と技法について解説する。
第6週	ルネサンスの美術理論と技法②	イタリア盛期ルネサンス美術の美術理論と技法について解説する。
第7週	ルネサンスの美術理論と技法③　北方	北方ルネサンスの美術理論と技法について解説する。
第8週	絶対主義社会と美術	ヨーロッパ１７世紀の絶対主義時代の社会と美術について解説する。
第9週	ロココ社会と美術	ヨーロッパ１８世紀のロココ時代の社会と美術について解説する。
第10週	市民社会と美術	ヨーロッパ１８世紀末から１９世紀初頭の市民社会と美術について解説する。
第11週	19世紀の美術理論と技法①	19世紀の主に近代の建築の美術理論と技法について解説する。
第12週	19世紀の美術理論と技法②	19世紀の主に近代の彫刻と工芸の美術理論と技法について解説　する。
第13週	19世紀の美術理論と技法③	19世紀の近代の絵画の美術理論と技法について解説する。
第14週	20世紀の美術理論	20世紀の絵画の美術理論と技法について解説　する。
第15週	総括	授業で紹介した作品の総括を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	総合表現演習Ａ						
担当教員	會田　千夏／菊池　有騎／佐々木　剛／ 島田　晶夫／玉野　哲也／宮本　一行	配当年次	２年生	開講期	前期	単位数	4
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本科目は、多彩な表現を行う上で必要な知識や技術を５つのカテゴリーから選択して学ぶ。
〔a1〕画材と表現、〔a2〕絵画分析と制作、〔b〕キャラクターデザイン、〔c〕クラフトアート、〔d〕3DCG、〔e〕画像生成AIといった異なるジャンルを設け、各自学習の方向性に見合った内容をそれぞれ選択し、受講すること。

【絵画を希望する学生】
前半第８週まで：〔a1〕絵画分析と制作（佐々木 剛）、後半第９週から：〔a2〕画材と表現（會田 千夏）

【絵画以外を希望する学生】
前半第８週まで：〔b〕キャラクターデザイン（菊池 有騎）、または〔c〕クラフトアート（島田 晶夫）のいずれかを選択

到達目標

本科目は、3年次専攻の選択及び将来の目標を見据えるためのものとする。
学びたいことに焦点を当て、未来のビジョンを明確にすることを目標とし、授業で学んだ内容の組み合わせにより、独自の発想や創作、発信・構築ができるようになることを本授業の到達目標に掲げる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を掘起し、解決を図ることができます。
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
制作物の完成度	60		
課題の意図を理解し積極的に取り組む姿勢	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud』					
『Blender (3DCG) 』					
『その他、授業内で適宜、必要なソフトや材料を指示します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

担当教員は（それぞれの科目内容に適した）実務経験を有します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
技術的要件が多いので、各回毎に復習不明点の確認を行い次回に備えること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実習費を徴収する科目があります。また、前・後半の科目選択に関しては事前に希望を取ります。
対面・オンライン・オンデマンドの授業形態はそれぞれ異なりますので、必ず授業毎に確認してください。
それぞれ使用するソフトや材料が異なりますので、授業に合わせてノートPCや必要な材料などを適宜準備すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	〔a1〕絵画分析と制作 〔b〕キャラクターデザイン 〔c〕クラフトアート	〔a1〕具象絵画の明暗構成 〔b〕オリジナルキャラクター三面図、表情集制作、企画構想 〔e〕イントロダクション（機材・課題説明）
第2週	〔a1〕絵画分析と制作 〔b〕キャラクターデザイン 〔c〕クラフトアート	〔a1〕具象絵画の明暗構成、制作 〔b〕頭身、プロポーション、人体基礎、シルエット 〔e〕プロトタイプの設計
第3週	〔a1〕絵画分析と制作 〔b〕キャラクターデザイン 〔c〕クラフトアート	〔a1〕具象絵画の「色」について、模写制作（単色 〔b〕表情集制作、頭部、俯瞰と煽り構図と感情表現 〔e〕木材加工①
第4週	〔a1〕絵画分析と制作 〔b〕キャラクターデザイン 〔c〕クラフトアート	〔a1〕模写制作（単色から彩色） 〔b〕レイアウト。背景とキャラクター配置 〔e〕木材加工②
第5週	〔a1〕絵画分析と制作 〔b〕キャラクターデザイン 〔c〕クラフトアート	〔a1〕模写演習（彩色） 〔b〕レイアウト。対比と取り方とアイレベルの関係 〔e〕木材加工③
第6週	〔a1〕絵画分析と制作 〔b〕キャラクターデザイン 〔c〕クラフトアート	〔a1〕抽象絵画習作（白黒） 〔b〕レイアウト。一点透視図法と二点透視図法 〔e〕木材加工④
第7週	〔a1〕絵画分析と制作 〔b〕キャラクターデザイン 〔c〕クラフトアート	〔a1〕2次元・2.5次元・3次元絵画の方法と制作 〔b〕レイアウト完成。清書作業と完成作品提出 〔e〕木材加工⑤・講評
第8週	〔a1〕絵画分析と制作 〔d〕3DCG 〔e〕画像生成AI	〔a1〕制作と講評 〔d〕3DCGの基本的な考え方 〔e〕画像生成AIの概説
第9週	〔a2〕画材と表現 〔d〕3DCG 〔e〕画像生成AI	〔a2〕支持体と下地　次週から「私」をテーマに写実と抽象化の2パターンを６週輪掛けて制作 〔d〕ソリッドモデラー基本操作
第10週	〔a2〕画材と表現 〔d〕3DCG 〔e〕画像生成AI	〔a2〕下書き・インプリミトゥーラ 〔d〕サーフェイスモデラー基本操作
第11週	〔a2〕画材と表現 〔d〕3DCG 〔e〕画像生成AI	〔a2〕本描き①　形の確認 〔d〕課題モデリング①：よく使うモディファイア 〔e〕課題演習③
第12週	〔a2〕画材と表現 〔d〕3DCG 〔e〕画像生成AI	〔a2〕本描き②　背景、空間について 〔d〕課題モデリング②：スカルプト機能操作 〔e〕課題演習④
第13週	〔a2〕画材と表現 〔d〕3DCG 〔e〕画像生成AI	〔a2〕本描き③　透明色と不透明食の使い分けについて 〔d〕課題モデリング③：UV編集・テクスチャペイント 〔e〕課題演習⑤
第14週	〔a2〕画材と表現 〔d〕3DCG 〔e〕画像生成AI	〔a2〕本描き④　主題を生かすための粗密について 〔d〕課題モデリング④：シェーダー・レンダリング 〔e〕課題演習⑥
第15週	〔a2〕画材と表現 〔d〕3DCG 〔e〕画像生成AI	〔a2〕本描き⑤　全体バランスを意識しながら細部の調整・講評 〔d〕まとめと講評 〔e〕まとめと講評
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	総合表現演習Ｂ						
担当教員	遠藤　ひとみ／小町谷　圭／島名　毅／本田　詩織	配当年次	２年生	開講期	後期	単位数	4
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本科目は、多彩な表現を行う上で必要な知識や技術を４つのカテゴリーから学ぶ。
〔1〕ファッション（遠藤）、〔2〕ゲームデザイン（小町谷）、〔3〕プロンプトエンジニアリング（島名）、〔4〕染色（本田）といった異なるジャンルを設け、各自学習の方向性に見合った内容をそれぞれ選択し、受講すること。
【前半（第８週まで）】　〔1〕ファッション、または〔2〕ゲームデザインのいずれかを選択
【後半（第９週から）】　〔3〕プロンプトエンジニアリング、または〔4〕染色のいずれかを選択
〔1〕と〔3〕、〔1〕と〔4〕、〔2〕と〔3〕、〔2〕と〔4〕の４つの組み合わせの中から１つ選択して受講すること。
なお曜日が複数分かれているので、履修登録時に担当教員に確認すること。

到達目標

本科目、３年次専攻の選択及び将来の目標を見据える指針とする。
学びたいことに焦点を当て、未来のビジョンを明確にすることを目標とし、授業を通して学んだ内容の組み合わせにより、独自の発想、創作、発信のワークフローが構築することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
制作物の完成度	60%		
課題の意図を理解し積極的に取り組む姿勢	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud』		Adobe			

参考書等

Adobe導入のこと。その他のソフトウエアは目的に応じて利用します。
授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は(この授業科目に関連した)実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
技術的要件が多いので、各回毎に復習、不明点の確認を行い、次回に備えること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

PC持参必須。予備知識は必要としません。前・後半の科目選択に関して、事前に希望を取ります

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	〔1〕ファッション（遠藤） 〔2〕ゲームデザイン（小町谷）	立体裁断による型出し① フレームワーク①
第2週	〔1〕ファッション（遠藤） 〔2〕ゲームデザイン（小町谷）	立体裁断による型出し② フレームワーク②
第3週	〔1〕ファッション（遠藤） 〔2〕ゲームデザイン（小町谷）	立体裁断による型出し③ 素材制作①
第4週	〔1〕ファッション（遠藤） 〔2〕ゲームデザイン（小町谷）	立体裁断による型出し④ 素材制作②
第5週	〔1〕ファッション（遠藤） 〔2〕ゲームデザイン（小町谷）	縫製① シーン制作①
第6週	〔1〕ファッション（遠藤） 〔2〕ゲームデザイン（小町谷）	縫製② シーン制作②
第7週	〔1〕ファッション（遠藤） 〔2〕ゲームデザイン（小町谷）	縫製③ シーン制作③
第8週	〔1〕ファッション（遠藤） 〔2〕ゲームデザイン（小町谷）	仕上げ・講評会 まとめ
第9週	〔3〕大規模言語モデルとは（島名） 〔4〕染色（本田）	大規模言語モデルの仕組み・レクチャー 素材や染料などの解説・準備①
第10週	〔3〕生成AIとは（島名） 〔4〕染色（本田）	生成AIの仕組み・レクチャー 素材や染料などの解説・準備②
第11週	〔3〕プロンプトエンジニアリング基礎①（島名） 〔4〕染色（本田）	ChatGTP演習① 実制作①
第12週	〔3〕プロンプトエンジニアリング基礎②（島名） 〔4〕染色（本田）	ChatGPT演習② 実制作②
第13週	〔3〕プロンプトエンジニアリング応用①（島名） 〔4〕染色（本田）	ChatGPT演習③ 実制作③
第14週	〔3〕プロンプトエンジニアリング応用②（島名） 〔4〕染色（本田）	大規模言語モデルを活用したツール制作① 実制作④
第15週	〔3〕プロンプトエンジニアリング応用③（島名） 〔4〕染色（本田）	大規模言語モデルを活用したツール制作② 講評会
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	フォトグラフィ〔前期〕						
担当教員	今　義典	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2019		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

銀塩写真全般を学ぶ。ピンホールカメラを通じレンズを介さなくとも映像が結ばれることを知り、次いでフィルムカメラへと移行していく。
レンズの画角や焦点距離、絞り・速度・感度などを主にデジタルカメラで学び、その成果をフィルムカメラで活かしていく。

到達目標

・基本的なカメラ操作ができることを到達目標に掲げる
・　光学の原理や仕組みをカメラオブスキュラを通して理解する。偶然を必然に変える力を養う。
・　独力での遂行＞フィルム写真では撮影・現像・スキャニング・プリント・展示・保存までの一連を、またデジタルにおいても撮影から出力までを行えるようにする。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出課題に対しての技術的完成度及び出席率	75%		
提出課題に対しての表現の独自性	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

銀塩写真の指導経験は前任校（東京芸術大学写真センター）から約24年
デジタル写真の撮影から現像、出力、展示に関するキャリアは約17年

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は必ず先週伝えた内容を思い出し、周到な準備をすること。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があればWEBなどで検索をかけるなどし、次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

一斉に始まる現像処理、フィルム装填の練習では遅刻は認めない。また途中の入室もできない。15週のうち２回あります。
履修希望者が想定以上に膨らんだ際には、レポートによる定員設定を行い上位８名を定員とする。９位以降１３位未満は後期にシフトの権限を与える。暗室は本校の規模であれば極端に狭隘とはいえないが、学習環境一定の水準を保つため必要。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	カメラ制作（工作１）
第2週	ピンホールカメラ①	カメラ制作（工作2）
第3週	ピンホールカメラ②	カメラ制作（工作3）または撮影
第4週	ピンホールカメラ③	撮影開始
第5週	ピンホールカメラ④	撮影
第6週	ピンホールカメラ⑤	撮影　プリント
第7週	ピンホールカメラ⑥	撮影　プリント　提出
第8週	デジタル写真①　撮影	スタジオでの実習１
第9週	デジタル写真②　画像処理①	スタジオでの実習２
第10週	デジタル写真③　画像処理②中間講評会	RAWデータ
第11週	作品研究III	銀塩写真の作家紹介（リモート）
第12週	フィルム写真（35mm）	①撮影（自由課題）
第13週	フィルム写真（35mm）	②現像・プリント①
第14週	フィルム写真（35mm）	③現像・プリント②
第15週	講評会	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	テキスタイル〔前期〕						
担当教員	森迫　暁夫	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2020		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ケシゴムスタンプでリピートのしくみを学んだ後、洋型紙をつかった型染めで、四方送りというリピート技法を学ぶ。学生は、リピートというシンプルで奥深い世界を知り、それを体験することで身につける。

到達目標

基本的なリピート技法を学ぶことで工芸と染と模様について学び、自らの表現の幅を広げ、教育実習へのアイデアにつなげることができる。
学生は、伝統的な工芸の世界に触れることにより、日本の工芸の大切さについて述べることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の評価	50%		
授業の内容に積極的に取り組むことができたか	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

過去にテキスタイル協会に所属し、作品を発表。現在は個人で発表しています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
屋外での作業がある為、天候に左右されることがあります。授業時間内で終わる為にも、自宅での作業は必ず必要です。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業では工程も多いのでしっかりとメモを取り、時間どおりに制作することも重要視する。材料費として1人2,000円を徴収する。授業では工程も多いのでしっかりとメモを取り，時間どおりに制作することも重要視する。
授業の初めに個々でお話をし、それぞれどういった方向性で学びたいか聞いています。学生自身もただ授業に来るだけでなく、より自分のた

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション　授業についてとテキスタイル、工芸について	授業概要、自己紹介、テキスタイルの歴史など。 一時間目を非常に大切に思っています。必ず出席して欲しいです。
第2週	課題①　ケシゴムスタンプによるリピートの研究（原画描き）	リピートの基礎を正方形による四方送りで学びます。そのための原画描き。 アイデア出しの指導。
第3週	ケシゴムを彫る（デザインナイフ使用、カッティングの技術向上）	原画を消しゴムに転写し、デザインナイフで彫っていきます。 彫りは全体で指導しますがここにも指導していきます。
第4週	法則を考えスタンピング（リピートの仕組を学ぶ） トートバック作成。	彫った消しゴムをスタンピングして押す方向と組み合わせでデザインが変わることを研究します。 気に入った組み合わせを選び、オリジナルのトートバックを作ります。
第5週	課題②　型染めによる四方送り（原画）　手ぬぐい制作	一つ目の課題の応用編として手ぬぐい用の原画を描いていきます。 消しゴムと違うところは鏡面が作れるところなので、より幅の広いデザインができるようになります。
第6週	原画、彫り（リピートを意識して原画づくり、型をカッティング）	洋型紙に原画を写し彫っていきます。 型染めの性質上、原画が地つづきになっていないといけませんので、それをうまくデザインとして彫っていきます。
第7週	彫り	洋型紙は分厚いので彫って行くのに少し根気がいります。 原画で鋭角なところや細かいところは特に丁寧に彫っていきます。
第8週	のり置き①　型ののりのつくり方指導	型のりを作るところからやります。 のりに必要な材料を測り全員で練ってゆきます。 板に生地を張って、刷り箸ペンを使って青花で型を置くための方眼を描いていきます。そこに
第9週	のり置き②　のりの置き方指導	のり置きは完全に乾燥させてから次の場所に置いていくため時間がかかります。各自暇な時間を有効的に使えるように何か準備しておいてください。
第10週	豆汁引き①　大豆から豆汁をつくる	一晩つけ置いておいた大豆をミキサーにかけ、豆汁を作ります。 のりの強化と、染料が余計に浸透してしまわないように豆汁を引いていきます。（地入れ） 次週から染めに入れる学生は必ず作業着を用意してください。
第11週	豆汁引き②　地染め（地入れ、染めの為の準備）	地入れした生地を刷毛を使って染めていきます。 （作業着着用） めんどくさがって適当に作業すると失敗してしまうので注意。
第12週	地染め（色を入れてゆく）	地入れした生地を刷毛を使って染めていきます。 （作業着着用） めんどくさがって適当に作業すると失敗してしまうので注意。
第13週	蒸し（定着）	出来上がった作品を新聞紙で巻き、蒸し器に入れて一時間蒸していきます。 必ず誰か火のそばにいてもらいますが、必要な暇な時間ができますので何か有意義な時間になるものを準備しておいてください。
第14週	洗い（のりを落す）	蒸した作品を洗っていきます。 余分な染料を落としながらのりを落としていきます。
第15週	講評	作品を講評していきます。 のり置きから洗いまでは時間に誤差が出てしまいますので、時間がある人は乾いた作品に色を挿していきます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	シルクスクリーン〔前期〕						
担当教員	森迫　暁夫	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2029		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、版画の基礎を学ぶ実技科目として、シルクスクリーン（孔版）の制作指導を行う。シルクスクリーンの特徴と、主に感光製版による多様な表現方法を紹介し、基礎的な技法を教授する。作品の制作を通して、学生各自は自分の表現に合った描画方法、技法の展開などを模索する。シルクスクリーンによる表現の特性を活かし、グラフィックデザイン、イラストレーション、絵画など、様々な表現へと展開させる応用力を身につけることを目的とする。

到達目標

学生は、シルクスクリーンの特徴を習得し、各自の表現の幅を広げることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の完成度	40%		
授業の内容に積極的に取り組むことができたか	40%		
シルクスクリーンの特徴を理解し作品に反映させるこ	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

個人や企画など展示発表。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
時間的にタイトな作業になるので、授業前に配付したプリントで各自の作業を必ず予習すること。また、プリントはあくまで参考程度のものなので、各自工程をまとめてくることも必要。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業で必ず用意するものは、作業着・ウエス（綿のもの）・空きビン・筆記用具（メモ帳も可）です。受講の人数は、原則としては制限はしていませんが、あまりに多い場合、後期に変更など考えてもらう場合もあります。また、グループワークも必要となる場合もあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	授業内容、授業計画、目標、評価、版の可能性（4版式について）	授業概要、自己紹介、４版式についてなど。 一時間目の授業を非常に大切に思っています。受講を悩んでいる学生も含め必ず出席していただきたいです。
第2週	（紙）課題①　３択の中から原画を描いていく。 ・平面を立体にする（正多角形の展	課題に引っ張られて合わせて原画を描いても良いが、基本的に自分の描きたいものを描くスタンスは崩さない。 展開図で原画制作していくのは非常に難しいけれど学びも大きいと思うので特に立体に興味の
第3週	・カラーカンプ（色プラン） ・四六全判のB全紙を購入（作品を	・四六全判のB全紙を購入しB3サイズに切っていく。しっかりと定規とカッターで切る。 ・原画は各自で原寸でコピーを２枚作り、一枚はカラーカンプ用、一枚は版下用として取っておく。
第4週	・版下制作（カッティング又は手描き）	・３週目で作った版下用のB3の紙に製版用のフィルムを貼り、カッティング、もしくは手描きで版下を作っていく。フィルムには裏表があるので注意。 ・手描きの人はポスカ黒（商品名）かジェッソ黒を使って版下を作っていく。他の商品は使用
第5週	・製版（感光製版） ・ピンホール埋め	感光乳剤を版に塗り、作った版下を使って製版していく。 感光した時にどうしてもできてしまうピンホール（ホコリによってできてしまう版）をヒラー、または目止め液を使って埋めていく。
第6週	刷り①　1色目	１版目を刷っていく。 紙には油性のインクを使用。インクの場所、説明。
第7週	刷り②　ヒラー、目止めを使い1版目に加工を入れる	１版目の版にヒラー、目止めを使って加工して刷る。
第8週	刷り③　2色目	２版目を刷る。
第9週	刷り④　2版目にも加工を入れる	２版目の版にヒラー、目止めを使って加工して刷る。
第10週	講評 原画で展開図を選んでいる人は組み立て	講評。 各自のコンセプト、工夫した点など発表。
第11週	（布）課題②布用原画描き トートバッグなど、身に付けることを意識して原画作成	よりデザインを意識して原画を制作。 刷られる媒体は各自で用意してください。 （あまり布目が粗くないものの方が良いです）
第12週	版下制作（カッティング又は手描き）	紙と違い面倒な準備は要りませんがフィルムの裏表には注意して版下を作っていく。
第13週	製版（布用乳剤を使用し感光製版）	布用の感光乳剤を版に塗り、製版。
第14週	刷り	各自で用意した布製品に刷っていく。
第15週	まとめ（展示）と講評	講評。 各自のコンセプト、工夫した点など発表。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	リトグラフ〔前期〕						
担当教員	關川　敦子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2028		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、版画の基礎を学ぶ実技科目として、リトグラフ（平版）の制作指導を行う。基本的な平版の原理を理解させ、版面への描画、製版の作業工程を教授する。前半は単色一版刷りの作品制作で上記の過程を体験し、後半は版の重なりによる混色（イエロー、マゼンタ、シアン+ブラック）を考えて四色四版刷りの作品を完成させる。リトグラフの特徴のひとつに描画材料の違いによる様々な表現形態がある。油性クレヨン、ダーマトグラフ（油性色鉛筆）など、扱いやすい材料を使用し、基本的な描画と製版技術を習得することを目標とする。

到達目標

①　基本的な版画の種類・特徴、リトグラフ（平版）の歴史・原理についてその特色・他版種との違いを理解できる。
②　描版、製版、印刷（刷り）という基本的な作業工程を身につけ、単色一版刷り作品を制作することができる。
③　版の重なりによる混色等を考えながら、多色多版刷り作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
リトグラフの基本的な制作過程について理解できた	10%		
描画材料の特色を生かし、オリジナリティのある表現	40%		
完成した二点の作品を撮影し、制作に際してのコンセ	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に配布資料をよく読んでおいてください。下図、描版など授業内での作業の遅れは、各自授業外に取り組んでおいてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実技授業ですので、作業に適した服装を用意してください。
第二製版、刷りはプレス機を使用しての個別の作業になるため、作業順序、時間などは、授業前日までに連絡します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、リトグラフについて	授業開始にあたっての注意事項などの説明。 リトグラフの歴史及び、各版種（凹版、凸版、孔版、平版など）の違いについて。 テキストプリントを配布して授業の概要を説明。
第2週	単色一版刷り作品①	下図の準備、描版。
第3週	単色一版刷り作品②	描版、第一製版。
第4週	単色一版刷り作品③	第二製版。
第5週	単色一版刷り作品④	第二製版、刷り。
第6週	単色一版刷り作品⑤	刷り。仕上げ。
第7週	四色四版刷り作品①	下図、描版。
第8週	四色四版刷り作品②	描版、第一製版。
第9週	四色四版刷り作品③	描版、第一製版、第二製版。
第10週	四色四版刷り作品④	第二製版、刷り。
第11週	四色四版刷り作品⑤	第二製版、刷り。
第12週	四色四版刷り作品⑥	刷り。
第13週	四色四版刷り作品⑦	刷り。
第14週	四色四版刷り作品⑧	刷り。
第15週	四色四版刷り作品⑨	刷り。仕上げ。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	漫画表現						
担当教員	いがらし　なおみ	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2030		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

CLIP STUDIO等のデジタルツールを使用し、漫画制作、イラストレーション制作、アニメーション制作の業界のワークフロー、基礎知識を中心に、実習形式と座学の両方の形式で学びます。PCやiPadのない環境でも受講は可能ですが、機材があるほうが、機能や使用方法等を理解し、現場に即した内容の学び、身につける事ができます。

到達目標

マンガ業界、イラストレーション・デザイン業界、アニメ業界に共通する、創作課程のポイントや実作業を学ぶことを目指しています。さらに近年CLIP STUDIOなどデジタルツールも各会社では標準となり、仕事内容にも幅や展開の可能性というメリットも出てきています。デジタルの有効性なども知っていただき、学生のみなさんの就職に直接繋げられる、生きた学習内容を目指しております。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
まんが・イラスト・アニメという仕事の作業(課題)に	50%		
提出された作品のクオリティ	25		
与えられた課題に対する取り組む姿勢や態度	25		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『clip studioEX及び、Pro。基本はEXをお勧めします。またはiPad版のclip studioでも可。』		セルシス			

参考書等

特になし。授業内で資料、データ等を配布、または、推薦書を紹介します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業日の計画どおり進むように事前に予習、下調べ、準備等の予習が重要になります。	2時間～3時間程度/週

受講時の注意事項

遅刻の場合は、必ず名前と理由を教員に、言ってから、自席に着席してください。
わからない場合は、必ず言ってください。
わかった場合も必ず意思表示してください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	■自己紹介 ■業界の仕事について ■漫画の歴史・基礎	授業始めるの辺りの注意事項及び、自己紹介、漫画、イラスト、アニメの業界や仕事についてのお話。漫画の歴史、基礎的な事の解説。
第2週	■漫画制作基礎	キャラクター設定、バックボーン、ストーリーのプロット制作等。
第3週	■漫画制作①	漫画制作の実習
第4週	■漫画制作②	漫画制作の実習
第5週	■漫画制作③	完成、提出、合評
第6週	■イラスト制作基礎 ■イラストレーターの仕事について ■CLIP STUDIO基礎	イラスト制作の基礎とCLIP STUDIOの基礎。 ラフチェック
第7週	■イラスト実習①	ラフ・実作業
第8週	■イラスト実習②	完成、提出、合評
第9週	■アニメーションワークフロー ■絵コンテ・カメラワーク	アニメ概論、定義などの基礎。 アニメーション業界のワークフロー 絵コンテ用語の解説・カメラワーク
第10週	■絵コンテ実習①	絵コンテ実習
第11週	■絵コンテ実習②	絵コンテ実習
第12週	■絵コンテ実習③	完成、提出、合評
第13週	■原画①	原画のLO作業
第14週	■原画②	原画作業
第15週	■原画③	完成・提出・合評
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	映像メディア表現						
担当教員	門間　友佑	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 1017		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、近年益々多種多様化が進む「映像メディア」の基礎的な知識や仕組み、実際の制作についての学習を行う。
自己の表現手段や情報の伝達、その他多岐にわたる「映像メディア」の基礎を理解し、応用につなげることを目的とする。
また本授業は「造形表現領域」・「教職履修」履修者を主とする選択授業として、2年以降の他の「メディア系」教科にリンクさせていくベース科目としての位置付けである。

到達目標

①　映像の仕組み、構成などについての知識を身につける。
②　映像編集ソフト（DaVinci Resolve）を使用した編集やカラーコレクションの基礎的な操作や
　　デジタルカメラ、スマートフォン等での映像撮影の基本など、映像完成までに必要な基礎知識を身につける。
③　映像を通しての表現についての考察、それを加味した映像制作を行う。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
制作物の完成度	60%		
課題の把握、取り組む姿勢	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『DaVinci Resolve』					無料ソフトウェア

参考書等

ブラックマジックデザイン社の無料の映像編集ソフトウェアDaVinci Resolveを使用します。
推奨スペック以下でも制作はできますが、処理等に時間がかかることなどがあります。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

様々な種類の映像制作の企画・撮影・編集・監督などを行う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
技術的要件が多いため、各回毎に復習、不明点の確認、課題の提出を行い、次回に備えること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

PC持参必須。無料の映像編集用ソフトウェアを使用した授業を行います。
ソフトウェアや映像制作に必要な映像を保持できるストレージ容量を確保してください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	映像メディアについての基礎知識	現代の多岐にわたる映像メディアについての解説
第2週	映像制作についての基礎知識 制作1 簡易な映像制作①	映像を構成する要素についての解説 企画・撮影
第3週	制作1 簡易な映像制作②	完成した映像の公開・講評
第4週	制作2 スマートフォンなどを使用した映像制作①	企画の作成・使用する小物などの準備
第5週	制作2 スマートフォンなどを使用した映像制作②	撮影・編集
第6週	制作2 スマートフォンなどを使用した映像制作③	撮影・編集 完成した映像の公開・講評
第7週	ソフトウェアの基礎操作①	DaVinci Resolveの基礎操作について
第8週	ソフトウェアの基礎操作②	DaVinci Resolveの基礎操作・カラーコレクションについて
第9週	制作3 映像の企画と構成の考案①	企画の作成・映像構成の作成・使用する小物などの準備
第10週	制作3 映像の企画と構成の考案② 映像制作①	企画の作成・映像構成の作成・使用する小物などの準備 撮影①
第11週	制作3 映像の企画と構成の考案③ 映像制作②	撮影②
第12週	制作3 映像制作③	撮影③ 編集①
第13週	制作3 映像制作④	編集②
第14週	制作3 映像制作⑤	編集③
第15週	制作3 映像制作⑥	完成した映像の公開・講評
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	サウンドデザイン（基礎）						
担当教員	大黒　淳一	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 3024		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

サウンドデザインの基礎から学び、現在の多様化したマルチメディア環境に於ける音表現の向上を目指す。主に音楽製作の現場で用いられる音楽ソフトウェアAbleton Liveや、録音機器類を用いて音制作の基礎を習得してサウンドデザインの実践を行っていく。授業では映像に音や音楽を付ける製作などの課題を通して段階的に進み、発表及び相互批評会の場を設けながら行う。

到達目標

①　音や音楽に於ける創造力と制作手法を身につけることができる。
②　映像表現に於けるサウンドトラックの制作ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業姿勢・意欲	50		
作品提出、発表(小課題および最終課題)	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『音楽ソフト　Audacity(mac/win)』					
『音楽ソフト　Ableton Live(mac/win)』					

参考書等

参考図書なし。授業内で指示します。

<<この授業では音楽制作のためにノートパソコンなどのPC環境が必要になります。mac/win可>>

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、サウンドアーティストとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

・国内外のCM番組楽曲制作・MA などのポストプロダクション業務（SONY/UNIQLO/マルボロのCMなど）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回、授業で学んだことや参考資料などを読んでノートにまとめて整理すること。 復習として授業で学んだことをノートを確認し実践してみること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・音楽経験の有無は全く必要としません。積極的な授業姿勢を望みます。
・やむを得ない場合を除く欠席、遅刻は授業姿勢として評価しています。
・機器やソフトウェアの操作方法などは、逐一ノートなどを取ってください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	サウンドデザインのガイダンス	サウンドデザインのためのガイダンス
第2週	音の基礎、音楽の基礎	音の基礎、音楽の基礎について
第3週	サウンドデザイン基礎①	Audacityを使用した基礎演習
第4週	サウンドデザイン基礎②	Audacityを使用した基礎演習
第5週	サウンドデザイン基礎③	Ableton Liveを使用した基礎演習
第6週	サウンドデザイン基礎④	Ableton Liveを使用した基礎演習
第7週	録音機材、レコーディング、音編集の基礎	録音機器を使用した音編集の基礎
第8週	サウンドデザイン制作①	フィールドレコーディング
第9週	サウンドデザイン制作②	シンセサイザーでの音作り
第10週	サウンドデザイン制作③	サウンドロゴ制作
第11週	サウンドデザイン編集①	MAD制作
第12週	サウンドデザイン編集②	Mashup制作
第13週	課題制作①	映像のサウンドトラック制作
第14週	課題制作②	映像のサウンドトラック制作
第15週	発表、講評会、まとめ	発表、講評会、まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	アニメーション（基礎）						
担当教員	菊池　有騎	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 2021		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

アニメーションという映像分野での視点から「絵」を考え、１枚のイラストでは触れられない様な様々な表現に挑戦させる。
また動きという考え方、映像という観点で時間やタイミングの管理方法を身につける。

到達目標

アニメーションはイラストと違い多様な物を多様な角度から描く力が必要となるため、自らの「技術」を基礎、根底から見つめ直し、積み重ねることで到達する完成点という創作本来の姿を体験する。
具体的には、「好き」であることに取り組む反面、技術を習得するうえで必然的な知識の会得と、実践を繰り返し完成させるということの難しさと対面させる。

習得すべきはアニメーションという技術はもちろん、「描く」ということの奥深さを感覚ではなく「知識」や「理屈」から導き出す力を養うことで
意味や意図のある絵を表現できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出課題評価。	80%		
授業態度、参加姿勢。	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

テレビアニメーション制作。
作画監督「呪術廻戦」「無職転生」「進撃の巨人」「ジョジョの奇妙な冒険ストーンオーシャン」等。
原画「僕のヒーローアカデミア」「Spy×Family」「名探偵コナン100万ドルの五稜星」「呪術回線」「ダンジョン飯」「葬送のフリーレン」

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習や復習は基本必要ありませんが、各週の作業工程が遅れると時間外での作業が必要になる場合が発生します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

高い興味と感心をもって授業を受けて下さい。
欠席、遅刻が多くなるとアニメーションを制作するための基盤の知識や技術、経験が不足し、課題の進捗や完成度に大きく影響します。
当方でその遅れや習熟度不足に対する補填を行うことはありませんので授業内でしっかり理解できるまで質問してください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	アニメーションの基礎知識	現在アニメーション業界ではどのようにアニメーションが制作されているのか。 歴史や工程、制作分野等を知り、絵の世界と共に映像の世界であることを認識する。
第2週	基礎原画体験 「回転」参考	物が回る様子を描く。 奥行きの知覚とそれに伴った平面上での表現 考え方。
第3週	基礎原画体験 「回転」応用	前回の参考制作を基軸にし自分で考え描画作成に挑戦することで 「原画」という工程作業への理解を深める。
第4週	基礎原画体験 「回転」応用	原画工程の完成と確認。 フィードバック
第5週	中割り体験 「回転」応用	原画の中割り(動画工程)を体験する。
第6週	創作課題 「コンテの作成」	テーマに沿った動きの表現に挑戦する。 企画立案、絵コンテの作成」
第7週	創作課題 「レイアウトの作成」	コンテをベースにした決まり絵の作成。 「レイアウト作業」
第8週	創作課題 「原画の作成」	決まり絵を基準とし、動きの作成していく。 「ラフ原画作業。」
第9週	創作課題 「原画の作成」	決まり絵を基準とし、動きの作成していく。 「ラフ原画作業。」
第10週	創作課題 「原画の作成」	ラフ原画をそろえ、タイミングや中割りの枚数を考える。 「タイムシート」の制作。 および原画の清書作業。
第11週	創作課題 「原画の作成」	原画の清書作業。
第12週	創作課題 「中割りの作成」	中割り作業の開始。
第13週	創作課題 「中割りの作成」	中割りの作成。
第14週	創作課題 「中割りの作成」	中割りの作成。
第15週	創作課題 「撮影、編集」	課題の完成と提出。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	統計学応用						
担当教員	中村　聖	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2201		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

相関係数やクロス表といった2変量の基礎的な分析方法を理解したうえで、多変量解析の分析手法や分析結果の読み取り方を習得することを目指し、社会事象の背後にあるより複雑な因果のメカニズムを多変量の関係から説明できるようになる。

到達目標

①統計分析に関する基礎的な用語や概念について理解できるようになる。
②授業で取り扱う分析手法を理解し、目的に応じた分析が選択できるようになる。
③分析結果の解釈、および、報告を想定した結果の整理を適切に行うことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業で実施する課題	100		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回、授業の終わり、分析結果の読み取りに関する課題を提示する。次回の授業時に解説を行う。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

統計学入門の内容を理解していることを前提に、授業を行います。
本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅱ群に該当しています。
パソコンを使用する際はご持参ください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	1変量の記述統計の基礎	尺度水準と変数の分類法、および、記述統計量について学ぶ （量的変数、質的変数、平均、標準偏差）
第2週	2変数の関連の記述統計①	量的・質的変数の相関関係に関する分析方法を学ぶ （相関係数、クロス集計表）
第3週	2変数の関連の記述統計②	変数間の関連の有無について注意すべき点を学ぶ （3重クロス集計表）
第4週	推測統計の基礎	推測統計の基礎について振り返る（母集団、標本、標本抽出分布、中心極限定理、点推定、区間推定）
第5週	2変数の関連の推定と検定①	統計的検定について確認するとともに、相関係数の検定と区間推定を学ぶ （相関係数の検定と区間推定）
第6週	2変数の関連の推定と検定②	クロス表の独立性に関するカイ二乗検定について学ぶ （クロス表の独立性の検定）
第7週	分散分析	3つ以上のグループ間で平均値が異なるかを確認する分析方法について学ぶ （3つ以上のグループの平均値の比較）
第8週	重回帰分析①	独立変数と従属変数の間に線形関係をあてはめるモデルについて学ぶ （重回帰分析）
第9週	重回帰分析②	ダミー変数を独立変数として用いる方法と交互作用効果の検討方法について学ぶ （ダミー変数、交互作用効果）
第10週	重回帰分析③	独立変数を段階的に投入する階層的重回帰分析の仕組みについて学ぶ （階層的重回帰分析）
第11週	ロジスティック回帰分析①	従属変数が0と1の二値変数の場合に用いる回帰分析について学ぶ （二項ロジスティック回帰）
第12週	ロジスティック回帰分析②	従属変数が質的変数であり、3値以上の場合に用いる回帰分析について学ぶ （多項・順序ロジスティック回帰分析）
第13週	ログリニア分析	ログリニア分析の基礎について学んだ後、3重クロス表におけるモデル選択について理解を深める（ログリニア分析）
第14週	主成分分析	変数の線形結合から総合得点を構成する手法について学ぶ（主成分分析）
第15週	因子分析	変数の線形結合から潜在的要因を抽出する方法を学ぶ （因子分析）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	経済学応用						
担当教員	堤　泰一	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2202		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本講座「経済学応用」では、皆さんが今まで習ってきた「公民」もしくは「政治経済」で習ってきた抽象的な経済学理論を使って具体的な現在の経済現象を分析し、私たち個人または社会が現在から将来に向けて如何なる経済行動もしくは政策をとることが望ましいのかを考える力を養成します。
そのため、本講座を受講する皆様は既に「経済学入門」を履修していることが望ましくはありますが、具体的な現在の経済現象を分析するに必要な限度で既存の「経済学」のエッセンスを確認しつつ授業を進めていきますので、既存の経済学を知らないとしても、これから社会に出ていく皆様が将来に向けて如何なる経済行動をとり、如何なる経済政策を支持することが望ましいのかを考える力を養成したいと考える学生の皆様は是非受講して戴きたく存じます。

到達目標

抽象的な経済学理論を使って具体的な現在の経済現象を分析し、私たち個人または社会が現在から将来に向けて如何なる経済行動もしくは政策をとることが望ましいのかを考えられるようになります。また、大学卒業程度の公務員試験や各種資格試験で一般に問われる経済学が理解できるようになります。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験（経済学を基礎に経済現象を記述によって	50%		
ディスカッション（経済学を基礎に経済現象を口頭に	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

杉本栄一「近代経済学の解明（上）（下）」岩波文庫
河邑厚徳･グループ現代「エンデの遺言」講談社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

証券会社の証券外務員として、国債、社債、株式等有価証券のファイナンス業務に従事してきた経験を持っております。また、証券外務員、行政書士、宅地建物取引士などの実務資格も有しており、各種資格試験で問われる経済知識を熟知しております。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
皆さんが一週間のなかで気になった経済ニュース一つを発表してもらいます。その際、なぜ気になったのか、それが今後の経済社会にどのような影響をもたらすのかを考えておいて下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業には主体的に参加して頂きます。自ら考えたことや疑問に思ったことを積極的に発言すると同時に、他者の発言を傾聴し、自らの考えの肥やしとしていく姿勢が望まれます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	イントロダクション	講義の目標、進め方、評価方法について説明します。
第2週	経済学の全体像	ミクロ経済学とマクロ経済学の成立過程と視点の違いを説明します。
第3週	消費者行動	限界効用、無差別曲線、限界代替率等を確認しつつ最適消費者行動を解説します。
第4週	生産者行動	限界費用概念を用いて最適生産者行動を解説します。
第5週	市場論	自由競争市場と独占的市場及び市場の失敗について学びます。
第6週	国民所得論	消費＋投資＝賃金+利潤＝総付加価値が均衡する三面等価の原則について学びます。
第7週	乗数効果	ケインズによって示された国民所得を増幅させる経済政策について学びます。
第8週	IS,LM分析	ヒックスによって示された利子率と国民所得の関係を学びます。
第9週	産業連関表	レオンチェフによって示された各種産業の投入と需要の相関関係について学びます。
第10週	地域経済分析	産業連関表を用いて日本国経済、北海道及び札幌市の経済構造を分析します。
第11週	証券市場論	実体経済と金融経済の関係について学習します。
第12週	証券投資理論	証券価格を形成する外国為替価格、利子率、利潤率等のファンダメンタルズ分析を通して、証券投資理論を学習します。
第13週	地域通貨論	法定通貨に頼らない経済活動の交換システムを諸外国及び我が国の事例から学習します。
第14週	望ましい経済行動や経済政策とは	本講座で学んだ経済学理論や経済データを基に、受講生一人ひとりが考える望ましい経済行動や経済政策についてディスカッションをしたいと思います。経済行動や経済政策に答えはないので、皆様一人ひとりの理想を自由闊達に論じて欲しく思います。
第15週	総復習及び学期末試験	ミクロ経済･マクロ経済・証券市場論の重要ポイントを復習するとともに本講座での学習成果を紙面に発揮して頂きます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	経営学応用						
担当教員	今野　喜文	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2303		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本講義では，経営戦略の観点から現代企業の課題を理解することを目的とする。より具体的には,経営戦略論の登場から現在に至るまでの発展過程を概説することによって,経営戦略に関わる現代的課題の理解を深める。この理解を踏まえた上で,今日の大企業が直面するさまざまな問題にフォーカスをあて，それらの課題を解決するための戦略的・組織的対応について検討することにしたい。

到達目標

①学生が経営戦略の基礎的な知識を理解し説明できるようになること。
②学生が講義課題を通じて、企業や経営についての情報収集と分析の基礎的なことができるようになること。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
			4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・会社・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート課題提出	４０%		
学期末試験	６０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『経営戦略集中講義』』	今野喜文 真木圭亮	中央経済社	2024	4502499814	

参考書等

経営戦略学会（2023）『キーワードからみる　経営戦略ハンドブック』　同文館出版

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・日ごろから,新聞やニュースなどを通じて，現実の企業動向に注意を払う。また，各自で次回のテキスト通読を通じて重要事項についてまとめる。 ・講義終了後，理解が不十分な箇所を調べ，それでもわからなかった箇所は次の講義で質問できるように準備して	2時間から4時間程度/週

受講時の注意事項

本講義はオンデマンド講義と対面講義を組み合わせて行う。現在のところ、以下を予定しているが、出張等で変更する場合があることに留意すること。

アクティブ・ラーニング情報

ディスカッションやグループワーク、発表なども多いのでパソコン関連やプレゼン関連の授業を復習しておいてください。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、経営学とは何か	経営学応用の全体像について解説します。 [授業概要] ・ガイダンス、授業進行
第2週	経営戦略とは何か	戦略とは何かを確認します。 [授業概要] ・企業の目的、ビジョンとミッション
第3週	シナジー概念と成長ベクトル	企業の多角化戦略について考えます。 [授業概要] ・企業戦略におけるイゴール・アンゾフの貢献
第4週	多角化戦略	多角化戦略について考えます。 [授業概要] ・アンゾフの多角化戦略の類型
第5週	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント	製品ライフサイクル、経験曲線効果及びプロダクト・ポートフォリオ・マネジメントについて概説します。
第6週	業界構造分析	業界構造分析の全体像について解説します。 [授業概要]
第7週	3つの基本戦略と価値連鎖分析	3つの基本戦略と価値連鎖分析について解説します。 [授業概要]
第8週	競争地位別戦略	競争地位と競争戦略との関係について解説します。 [授業概要]
第9週	経営資源と競争優位	経営資源と競争優位との関係について解説します。 [授業概要]
第10週	組織能力と競争優位	競争優位の源泉としての組織能力について学びます。 [授業概要]
第11週	競争環境の変化とダイナミック・ケイパビリティ	競争環境の類型とダイナミック・ケイパビリティについて学習します。 [授業概要]
第12週	イノベーション戦略	イノベーション戦略について学習します。 [授業概要]
第13週	オープンイノベーション戦略	オープンイノベーションについて学習します。 [授業概要]
第14週	ブルー・オーシャン戦略	ブルーオーシャン戦略について学習します。 [授業概要]
第15週	総括とまとめ	これまでの授業内容を確認する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	公共の倫理						
担当教員	多田　光宏	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2501		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「公共」においては、多様な倫理的な問題があり、私的な事柄が公共（性）と関わる場面では、価値観の衝突が生じる。特に応用倫理学の扱う諸問題においては、個人的な価値観と社会通念上の価値観が対立することは少なくない。このような対立に直面した場合に、どのようなことに注意し、どのようなことを考えなくてはならないのか、それを本講義では探っていく。
このような探求を通じて、私的な事柄と公共的な事柄との関係について、学生が自分自身の知見を広げ、自分自身の考えを深められるようになることを目的とする。

到達目標

学生が、応用倫理学の扱う問題の基本的な知識を身につけることによって、自分自身の知見を広げ、自分自身の考えを深められるようになること。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点	30		
レポート	70		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。』					授業内で適宜、資料を配付します。

参考書等

加藤尚武　『応用倫理学のすすめ』　丸善ライブラリー　1994年

その他は、授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義で扱う内容を自分自身の問題として受け止め、ニュース等も視聴し、主体的に考える時間をもつように努めてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション　（授業の方法・内容）	授業の方法や提出物の内容や提出方法について説明する。
第2週	公共とは何か①	倫理学の基礎理論と公共性について講義する。
第3週	公共とは何か②	倫理学の基礎理論と公共性について講義する。
第4週	生命倫理と公共性①（臓器移植）	臓器移植の方法の種類、および、それらから生じる倫理的な諸問題について講義する。
第5週	生命倫理と公共性②（臓器移植）	脳死・臓器移植を認めることと社会の在り方について講義する。
第6週	生命倫理と公共性③（臓器移植）	臓器移植の倫理的な諸問題についてまとめの講義をする。
第7週	生命倫理と公共性④（着床前診断）	出生前診断のひとつである胎児診断とその倫理的諸問題について講義する。
第8週	生命倫理と公共性⑤（着床前診断）	出生前診断のひとつである着床前診断の現状とその倫理的諸問題について講義する。
第9週	生命倫理と公共性⑥（着床前診断）	着床前診断が社会に与える影響について倫理的な観点から講義する。
第10週	生命倫理と公共性⑦（尊厳死）	尊厳死と安楽死の違いについて、また、それぞれの倫理的な諸問題について講義する。
第11週	生命倫理と公共性⑧（尊厳死）	尊厳死や安楽死が問題となる具体的な事例について、また、その具体的事例に関わる倫理的な諸問題について講義する。
第12週	生命倫理と公共性⑨（尊厳死）	尊厳死や安楽死についての個人的な判断の積み重ねが前例となり、それが社会に与える影響について倫理的な観点から講義する。
第13週	環境倫理と公共性①	水俣病を具体的な事例として取り上げ、一企業の行動が社会に与える影響、および、それに関わる倫理的な諸問題について講義する。
第14週	環境倫理と公共性②	水俣病を具体的な事例として取り上げ、個人と社会の関わりについての倫理的な諸問題について講義する。
第15週	講義内容のまとめ	これまでの講義内容のまとめを行うとともに、提出課題の作成方法について講義する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	民法入門						
担当教員	津幡　笑	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2401		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本科目「民法入門」では、民法の基本原理と構造を概観する。民法は人々の日常生活に密接に関わる法律であり、契約、不法行為、物権、家族関係など、様々な法的問題について規定している。この授業では、民法の基礎概念を理解し、実生活における法的問題の解決に必要な基本的な法律知識を身につける。

到達目標

民法の基本的な構造と、契約、物権、不法行為、家族法などの主要な分野に関する基礎知識を身につけることができる。具体的な事例に基づいて法的問題を分析し、論理的に解決策を考えられるようになる。民法が個人の生活や社会全体にどのように影響を与えるかを理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、積極的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験	70%		
小テスト	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『18歳からはじめる民法（第5版）』	潮見佳男・ 中田邦博・ 松岡久和編	法律文化社	2023	978-4-589-04260-6	
『デイリー六法2025』	編修代表 長谷部 由起子	三省堂	2024	4385158819	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前に毎回の授業範囲の教科書を読み込み、小テスト範囲を中心に復習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

法学入門を受講していることを前提に講義は進められる。民法入門から受講しはじめる場合は、自分でわからない用語を調べたり教員に質問する等、主体的に講義に臨むこと。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス・イントロダクション	民法とはなにか
第2週	バイクで事故を起こしたら	不法行為に基づく賠償責任
第3週	インターネット上で中傷されたら	プライバシー、表現の自由と不法行為責任
第4週	自転車を購入したら	契約、債務不履行とは
第5週	英会話教室に通ったら	契約、消費者保護
第6週	インターネット通販で靴を買ったら	通信販売に適用される法律は
第7週	友人に貸した自転車を取り戻したい	物権、使用貸借
第8週	入学するときにお金を借りたら	消費貸借
第9週	自分のクレジットカードを作ったら	クレジットカードの仕組み
第10週	アパートを借りたら	賃貸借
第11週	親が家を新築したら	所有権、登記、契約不適合責任
第12週	結婚したら	婚姻、親子
第13週	離婚したら	離婚、親権、扶養
第14週	認知症になったら、亡くなったら	成年後見制度、相続
第15週	まとめと到達度チェック	まとめと到達度チェック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	憲法A						
担当教員	盛永　悠太	配当年次	2年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2403		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

・日本国憲法の規定とその意味するところに関する解釈、議論、最高裁判所をはじめとした判例を通じて法的な観点から物事を捉える力を身につける。
・「憲法A」では、日本国憲法の人権分野を取り扱う。

到達目標

・憲法典で人権を保障することには、どのような意義と必要性があるのか説明することができる。
・日本国憲法の規定について、法的な観点から説明することができる。
・日本国憲法の規定や各種の人権について、学説・判例の立場から説明することができる。
・社会における様々な問題を法学の観点から捉え、説明し、論ずることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
①中間試験(第9週目にて実施)：第1回～第8回までの内	50%		
②学期末試験(定期試験にて実施)：第10回～第15回ま	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『図録日本国憲法　第2版』　』	斎藤一久・堀口悟郎	弘文堂	2021年		

参考書等

・青井未帆、山本龍彦『憲法Ⅰ　人権 第2版』(有斐閣、2024年)：資格試験等で自ら勉強する必要がある人には、教科書として指定している『図録 日本国憲法 第2版』よりもこちらを勧める(もちろん、ここで挙げたもの以外で各人が選んだものを教科書として使うことは妨げない)。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・授業前や後に教科書を読む／読み返す。 ・受講中に教員の話を聞きながら教科書を眺める。	1時間程度/週

受講時の注意事項

・この授業はオンデマンドで行われる。
・授業の各回の内容は、教科書として指定している斎藤一久・堀口悟郎(編)『図録日本国憲法　第2版』(弘文堂、2021年)の該当箇所に沿ったものとなっている。動画や配布資料(レジュメ)では、この教科書の内容を念頭に置いて説明や参照を求めていることがある。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	憲法とは何か	・ガイダンス ・法学の勉強の仕方 ・「憲法」とは何か
第2週	人権の射程	・人権の主体(外国人、未成年、法人) ・人権の私人間効力
第3週	新しい人権	・公共の福祉(日本国憲法第13条) ・幸福追求権 ・プライバシー、自己決定権
第4週	法の下の平等	・家族と性別 ・法の下の平等と最高裁判決
第5週	思想・良心の自由	・「思想」、「良心」の意味 ・思想・良心の自由への侵害とは？
第6週	信教の自由	・個人の信教の自由 ・政教分離原則
第7週	表現の自由(1)	・表現の自由の価値 ・表現の自由の保障範囲
第8週	表現の自由(2)	・性表現 ・名誉、プライバシー、尊厳
第9週	中間試験	第1回～第8回までの範囲
第10週	集会・結社の自由	・集会の自由 ・結社の自由
第11週	職業選択の自由	・規制目的二分論 ・最高裁判例の傾向
第12週	財産権	・私有財産制度と規制 ・損失補償
第13週	生存権と労働基本権	・生存権の性質と判例の傾向 ・労働問題と労働者の権利
第14週	学問の自由と教育を受ける権利	・学問の自由と大学の自治 ・教育を受ける権利
第15週	刑事手続上の権利	・適正手続 ・令状主義と無罪推定の原則
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	民法A						
担当教員	津幡　笑	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2405		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

我々の生活にもっとも密接に関わるのが民法である。この講義では、民法の総則、物権部分を扱う。民法の基本原則を基に、体系的な知識を得ることを目標とする。民法規範が実際の事例でどのように適用されるかを、基礎から学ぶ。「民法A,B」は、「法学入門」を履修済みであることを前提に講義が展開され、民法入門の後に民法A,民法Bと履修することが望ましい。しかし民法入門を履修せずに民法A,B順不同で履修することも可能である。

到達目標

将来の公務員試験や各種資格試験の基礎固めとして、用語の理解から始まり、条文・判例を理解する。その結果、具体的な事例について、何が法的に問題となるのか論点を明示し、それに対して講義で学んだ民法の具体的な規定を当てはめて、解決策を示すことができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーション スキル、理解的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験	70%		
小テスト	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『公務員試験　最初でつまずかない民法Ⅰ［改訂版］』	鶴田　秀樹	実務教育出版	2024	9784788945333	
『デイリー六法2025』	長谷部 由起子	三省堂	2024	4385158819	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回の授業範囲の教科書を事前に読む。授業後は小テストの範囲を中心に復習する。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

教科書に記載されていない部分については、図書館に配架の民法に関する書籍を参考 にすること。講義で取り上げた内容は、定期試験の範囲となる。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	民法の学習の仕方 民法総則、物権の特徴、構造
第2週	制限行為能力者	
第3週	失踪宣告 法人 物	
第4週	意思表示	
第5週	代理	
第6週	無効・取消し 条件・期限	
第7週	時効	
第8週	物権の性質と特徴 不動産物権変動①	
第9週	不動産物権変動②	
第10週	即時取得 占有	
第11週	所有権 共有	
第12週	用益物権 担保物権の種類と性質	
第13週	質権 抵当権①	
第14週	抵当権② 譲渡担保	
第15週	まとめと到達度チェック	まとめと到達度チェック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	会計学							
担当教員	岩橋　忠徳	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2301		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

企業会計を株主・投資家などの企業外部にいる人を対象にする会計（財務会計）と経営者・管理者などの企業内部にいる人を対象とする会計（管理会計）とに分け、各領域において会計が果たしている意義や役割について学習する。貸借対照表と損益計算書の読み方、複式簿記の仕組みなどを取り扱い、学生が企業会計の全体像について理解する。

到達目標

① 学生が現代社会において企業会計が果たしている役割について説明することができる。
② 学生が企業会計の2つの領域である財務会計と管理会計について説明することができる。
③ 学生が複式簿記の基本的な仕組みについて説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末の授業内試験	85%		
課題プリント（計算問題など）の提出	15%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『新版はじめまして会計学』	岩橋忠徳ほか	中央経済社	24		

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業では教科書を使いますので、授業前に教科書をよく読んでノートにまとめてください。また、授業後は配付された資料や板書を復習のために整理したうえでノートにまとめてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は休まず、出席してください。欠席すると講義を理解するのが難しくなります。配付資料は復習にも使ってください。授業内に実施した試験のフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	会計学を学ぼう	会計という言葉は「お会計する」などいって使われますが、会計学が単にお金の計算だけではないことを説明します。本講義では株式会社の会計を扱うため、株式会社制度の概要やその経済的活動と会計の関係についても解説します。
第2週	財務諸表概論	財務諸表に含まれる貸借対照表と損益計算書について、各々の役割を説明します。また、財務諸表を作成する際の前提となる会計公準、特に貨幣的測定の公準と継続企業の公準について解説します。
第3週	日本の企業会計制度	財務諸表の作成・開示の根拠となる2つの法律、会社法と金融商品取引法について説明します。また、財務諸表の信頼性を担保するための監査制度、会計基準がどのように設定されるのかについても解説します。
第4週	簿記とは何か	企業で用いられる簿記、いわゆる複式簿記とは何か、その目的について説明します。また、簿記上の取引を会計記録に変換するための仕訳がどのように行われるのかについて、具体的な取引例を用いて解説します。
第5週	簿記一巡の手続き	複式簿記における2つの主要簿、仕訳帳と総勘定元帳における転記、簿記上の記録を検証する試算表、その後に続く決算整理仕訳がどのように行われるのかについて、具体的な数値を用いて解説します。
第6週	財務諸表の作成	複式簿記で作成された記録から財務諸表がどのように導き出されるのかについて説明します。特に、貸借対照表に含まれる資産、負債、純資産、また損益計算書に含まれる収益、費用がどのような金額で表させるのかを理解してもらいます。
第7週	貸借対照表の構造	貸借対照表と損益計算書の連携について、利益あるいは損失から説明します。また、貸借対照表の機能、区分表示を解説した後、資産の評価基準としての取得原価と時価について理解してもらいます。
第8週	損益計算書の構造	損益計算書で行わる3つの損益計算の内容について説明します。また、売上高に対する売上原価は単に仕入金額ではないこと、損益計算書に記載される5つの利益について解説します。
第9週	経営分析（収益性分析）	財務諸表を活用するために行われる経営分析とは何か、その目的について説明します。また、経営分析の手法、経営分析で用いられる5つの指標を解説します。さらに、収益性分析の指標を用いて、具体的な数値を計算することで理解を深めてもらいます。
第10週	経営分析（安全性分析）	経営分析のうち、会社が継続していくことができるのかを分析する安全性分析について短期的な視点と長期的な視点から説明します。また、安全性分析の指標を用いて、具体的な数値を計算することで理解を深めてもらいます。
第11週	原価計算（税品原価と期間原価）	原価計算が果たす役割、その目的について説明します。また、製造直接費と製造間接費からなる製品原価、販売費及び一般管理費から構成される期間原価について、具体例を挙げて解説します。
第12週	原価計算（全部原価計算と直接原価計算）	ある製品を作った場合、その製品を作るのに費やしたすべての製造費用をもってその製品の製造原価とする考え方の全部原価計算、また変動的製造直接費と変動的製造間接費から製造原価が構成されるという考え方の直接原価計算について説明します。
第13週	業績管理会計	管理会計が果たす役割について解説します。また、PDCAサイクルとは何か、売上高予算や売上原価予算に関して、具体例を挙げて計算過程を説明しながら理解を深めてもらいます。
第14週	意思決定会計	経営上の意思決定における会計情報の貢献と限界について説明します。また、業務執行的意思決定と戦略的意思決定、機会原価と埋没原価に関して、具体的な数値を計算することで理解を深めてもらいます。
第15週	授業のまとめと授業内試験	会計学は専門用語が多く、理解しづらい箇所が出てくると考えられるので、説明が不十分であった箇所について説明を加えます。本講義において、どの程度の理解が得られたかを確認します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地域社会と政治						
担当教員	鹿谷　雄一	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2502		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

地域社会が抱える課題について、地域政治（地方政治）と関わる観点から理解する。
地域社会の課題は、多様化・複雑化し、知事・市町村長（首長）や議員（地方議会）のみで解決できるものではない。これらに地域政治（地方政治）の運営を委任している住民（有権者）や企業（市場）なども加わって取り組むことで、安定した地域社会を実現することができる。地域社会における具体的な問題の所在と解決方策の事例を踏まえながら、中長期的な視点をもって考察することによって地域社会と地域政治（地方政治）の関係の理解を深める。

到達目標

1．地域社会が抱える諸課題について理解し、説明することができる。
2．地域社会の活動を支える担い手（アクター）について説明することができる。
3．地域社会が抱える諸課題の解決に必要な取り組みや方策について、社会の一員として考えを示すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向け積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
小課題（10回）	25%		
小テスト（2回：第5週と第9週）	20%		
レポート（第11週提示予定）	25%		
学期末試験	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で提示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
小課題は授業内容を踏まえて調べまとめるもので、授業の内容や資料の見直しをおこないながら取り組むこと。 新聞・ニュースに日々接するとともに、興味のある分野について情報を収集すること。 関心のある特定の道内市町村のHPや広報誌を定期的に参照して情報を収集すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

小課題は、授業内容を踏まえて、関心のある特定の道内市町村の状況について継続して調べることになる。
レポートは、小課題で調べた内容を踏まえて作成することになる。
小テストの実施、小課題・レポートの提出、これらのフィードバックのほか、授業資料の配布はLMSでおこなう。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	1．イントロダクション 2．「新しい公共」の担い手	共通理解としての、団体自治と住民自治の確認。 地域社会の担い手の確認。
第2週	人口問題：少子化・高齢化と外国人	人口減少社会のなかでの地域社会の状況について考察。 自治体における在住外国人に関する諸問題について考察。
第3週	地方政治：担い手不足と議会改革	増えている無投票当選となり手不足解消に向けた取り組みについて考察。 議会改革のなかで議員の報酬と定数について考察。
第4週	地方行政：行政の守備範囲	公と私、官と民など行政との境界線について考察。 自治体間連携のあり方について考察。
第5週	住民組織：非営利組織の役割	NPOやボランティアの役割と自治体との関係について考察。 地域運営組織の状況と課題について考察。
第6週	民間企業：地域における社会的責任	地域社会において住民である企業の役割と貢献について考察。 企業と自治体との関係について考察。
第7週	危機管理：大規模災害と地域社会	平時から緊急時への自治体の組織の切り替えについて考察。 大規模災害時における住民と市町村との関係について考察。
第8週	地域福祉：共助と公助による福祉	市町村が多くを担う社会福祉について考察。 国民健康保険と介護保険の諸課題について考察。
第9週	地域交通：地域住民の足の確保	地域公共交通の供給主体について考察。 細る既存の地域公共交通に対して新たな地域公共交通のあり方について考察。
第10週	スポーツ：健康増進と施設管理	自治体が推進する健康・スポーツに関する取り組みについて考察。 スポーツ施設の管理について考察。
第11週	生活環境：ゴミをめぐる問題	市町村の役割が大きい廃棄物行政について現状と課題について考察。 ごみ屋敷やペット問題など新しい問題への取り組みについて考察。
第12週	環境問題：エネルギーをめぐる問題	国際的な枠組みのなかで施設による地域活性化など自治体への影響について考察。 施設建設で住民との間で政治化する環境問題について考察。
第13週	観光振興：観光資源の創造と活用	観光に関する自治体の組織と役割について考察。 観光の支援策について考察。
第14週	住宅問題：まちづくりと移住促進	都市と農村それぞれのまちづくりの取り組みについて考察。 地域おこし協力隊を含めた定住・移住促進策について考察。
第15週	1．授業内学期末試験 2．持続可能な地域社会：住民の役割の高まり	地域社会の維持に向け、住民一人ひとりの意識の見直しについて考察。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	子ども家庭福祉論						
担当教員	金　　昌震	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2601		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

私たちはなぜ「家族」を必要とするのでしょうか。人口減少社会のなかで、家族はどのように変容していくのでしょうか。現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、及び子どもの人権擁護について理解し、家族の変遷をたどりながら、家族に関する固定観念を見直し、家族を相対化する視点を身につけます。また、家族と地域の関わり、社会制度としての家族、ケア機能と家族について、具体的な事例を基に理解を深めていきます。

到達目標

① 家族の変容過程を時代状況の変動と対応させながら理解できる。
② 家族の「多様化」を意識・実態・制度のレベルから多角的に考察する方法を理解できる。
③ 家族の機能について捉えなおし、家族の可能性について説得的な議論ができるようになる。
④ 「家族」をとおして、社会変化と人々の意識変容を逆照射する視点を獲得できる。
⑤ 地域社会による家族支援の実態を理解できる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、理解的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スティアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末レポートとレジュメ発表	55%		
各回授業のミニ課題	45%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
日常生活のなかで、家族に関連する社会現象や時代のトピックスに関心を持ち、敏感な感受性を磨くことが重要です。映画やドラマ、小説、漫画など、家族をテーマにしたものはたくさんあります。新聞には必ず目を通してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

＊本科目は2021年度以前の「現代の家族」に該当します。すでに「現代の家族」の単位を修得済みの学生は履修できません。意欲的な受講態度を期待します。授業内での質問を歓迎します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション（授業の目的と概要、評価方法、参考文献の紹介）	
第2週	「家族」とは何か　固定観念を疑う	
第3週	「結婚」の意味　誰と結婚するのか、なぜ結婚するのか	
第4週	未婚化は進むのか　シングル化する社会	
第5週	イエ制度と戦後日本の近代家族　家族の変容を歴史的に探る	
第6週	近代家族のなかの「子ども」　子どもの位置づけの変化	
第7週	「子育て」は誰が担うのか　育児不安と父親不在	
第8週	社会全体による子どもケア	
第9週	家族のなかの暴力　DV、児童虐待、高齢者虐待	
第10週	貧困と格差　家族を巡る社会保障	
第11週	社会保障、社会福祉における子どもの権利	
第12週	脱青年期の親子関係　長期化する関係性	
第13週	子どもをめぐる問題と自立支援	
第14週	地域と家族　家庭の自律を支援する	
第15週	期末レポートのレジュメ発表とフィードバック	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	観光事業論						
担当教員	朝倉　俊一	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 3512		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

観光を構成する様々な要素についての理解を深めます。また、北海道観光を取り巻くプロジェクトや産業を取り上げ、様々な視点から具体的な事例を知り、北海道の地域特性や観光事業のあり方について理解を深めます。最後に北海道の観光を取り巻く最新事情を通じて、北海道観光の未来について考えます。

到達目標

①北海道の観光の特徴を理解できる。
②産業としての観光の広がりを理解できる
③観光産業の分野別の特性について理解できる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用））

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点	50%		
レポート	30%		
試験	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

北海道内を中心に主に行政の観光政策や観光施設の整備・運営に関する実務経験を有しています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自ら選んだ観光に関連する書籍を読み、ビブリオバトル形式でレポートの取りまとめ・発表をしてもらいます。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

旅行に興味があり、意欲と好奇心を持つ学生の受講を希望します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	観光に関する基礎知識を学びます。
第2週	観光と地域経済	産業としての観光の役割や広がりについて学びます。
第3週	北海道観光の国際化	国際化が進む北海道の観光の実態を理解します。
第4週	観光政策	行政が実施する観光施策について学びます。
第5週	観光移動	北海道新幹線を例に観光移動について学びます。
第6週	まちづくりと観光	道の駅を例に自治体の観光振興について学びます。
第7週	宿泊産業	宿泊施設の種類や事業構造について学びます。
第8週	交通産業	交通産業の役割や課題について学びます。
第9週	食と観光	食資源を通じた地域づくりについて学びます。
第10週	DMOと旅行業	DMOや旅行業の役割について学びます。
第11週	観光マーケティング	ファムトリップを例に観光マーケティングについて学びます。
第12週	官民連携による観光施設づくり	官民連携による観光施設づくりについて学びます。
第13週	レポート発表	観光に関する書籍をビブリオバトル形式で発表します。
第14週	これからの北海道観光	最新の話題を通じ観光産業の将来について考えます。
第15週	まとめと試験	授業を通じて得られた知識を問う試験を実施します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	インターンシップ概論						
担当教員	和田　佳子	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2931		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

インターンシップの種類や目的を知り、インターンシップ実習に参加する意識を高めます。実習先となる企業についての研究方法を学ぶとともに、実習に出る前の心構えや準備しておくべきことを具体的に学びます。職場内で信頼されるために必要となる対人コミュニケーション能力やビジネスマナーを体験型のトレーニングを交えて修得します。

到達目標

①インターンシップに参加する目的と意義を理解し、自らの職業選択・キャリア形成を展望できる
②社会が求めるコミュニケーション能力やマナーを理解し、日常で実践できる
③社会で起きている出来事や課題に関心を持ち、自ら調べ、解決法を考えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
参加状況（グループディスカッション参加、出席状況	40%		
授業内課題（毎回のシート提出）	30%		
最終課題	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。必要に応じて授業内で提示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は企業実務経験のある教員、産業カウンセラー・国家資格キャリアコンサルタント有資格の教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
資料を読む、情報を集めるなど、指示された課題には必ず取り組んでください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

科目の性質上、遅刻や欠席が多い場合は不可となる場合があります。自己管理、時間厳守などを徹底するトレーニングの場としてください。
グループワークや発表などのアクティブ・ラーニングが含まれています。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	本科目の位置づけとねらい 到達目標の確認と評価の付け方 履修上の注意事項
第2週	インターンシップの種類と目的・定義	多様化するインターンシップ インターンシップの国際比較：日本のインターンシップの特徴 インターンシップの歴史と現代のインターンシップ
第3週	企業が求める能力の変遷	インターンシップ受け入れ企業が学生に期待すること 大学で身につけたい能力
第4週	業界・企業研究の仕方	企業が学生に求めるもの（実習プログラム分析） 先輩・体験者から学ぶ
第5週	業界・企業研究の仕方	先輩・体験者から学ぶ ＊一般常識・ビジネスマナーの基本
第6週	プロフィールシートの作成	ジョブ・カードを活用した自己分析 自己分析からアピールポイントの抽出 自己紹介と自己PRの違い
第7週	プロフィールシートの作成	自己紹介書の作成（課題）
第8週	演習課題：「勝手に企業説明会」実施に向けて	任意の企業を選び、その企業の強みと課題を調べて発表する
第9週	リサーチ・ワーク	発表内容の構成 情報収集
第10週	リサーチ・ワーク	発表内容の構成 情報収集
第11週	課題作成演習	資料作成と発表準備
第12週	課題作成演習	資料作成と発表準備
第13週	発表	成果発表と評価
第14週	発表	成果発表と評価
第15週	まとめと振り返り	まとめ 授業アンケート
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	憲法Ｂ						
担当教員	盛永　悠太	配当年次	２年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2404		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

日本国憲法の規定とその意味するところに関する解釈、議論、最高裁判所をはじめとした判例を通じて法的な観点から物事を捉える力を身につける。
「憲法B」では、日本国憲法の統治機構および憲法総論の分野を取り扱う。
講義の中では、前期の「憲法A」を受講していることを前提にした説明を行うことがある。

到達目標

・憲法典で統治機構を具体的に定めることには、どのような意義と必要性があるのか説明することができる。
・日本国憲法の規定について、法的な観点から説明することができる。
・日本国憲法の規定する統治機構および権力分立について、学説・判例の立場から説明することができる。
・社会における様々な問題を法学の観点から捉え、説明し、論ずることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
①中間試験(第9週目にて実施)：第1回～第7回までの内	50%		
②学期末試験(定期試験にて実施)：第9回～第15回まで	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『図録日本国憲法　第2版』　』	斎藤一久・堀口悟郎	弘文堂	2021年		

参考書等

・青井未帆、山本龍彦『憲法Ⅰ　人権 第2版』(有斐閣、2024年)：資格試験等で自ら勉強する必要がある人には、教科書として指定している『図録 日本国憲法 第2版』よりもこちらを勧める(もちろん、ここで挙げたもの以外で各人が選んだものを教科書として使うことは妨げない)。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・授業前や後に教科書を読む／読み返す ・受講中に教員の話を聞きながら教科書を眺める	1時間程度/週

受講時の注意事項

・この授業はオンデマンドで行われる。
・授業の各回の内容は、教科書として指定している斎藤一久・堀口悟郎(編)『図録日本国憲法　第2版』(弘文堂、2021年)の該当箇所に沿ったものとなっている。動画や配布資料(レジュメ)では、この教科書の内容を念頭に置いて説明や参照を求めていることがある。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	統治機構総論	・立憲主義 ・権力分立
第2週	国民主権	・国民主権と民主主義(デモクラシー) ・政治の領域と裁判の領域
第3週	参政権と選挙制度	・参政権 ・選挙制度と公職選挙法
第4週	国会	・国会の地位と組織 ・国会の審議
第5週	議院と議員	・議院自立権と国会の権限 ・国会議員と議事運営
第6週	内閣	・内閣の組織と運営 ・文民条項 ・内閣総理大臣の地位と権限
第7週	行政	・国の行政機構と官僚機構 ・行政改革と日本政治
第8週	中間試験	第1回～第7回までの範囲
第9週	裁判所	・最高裁判所/裁判所と国民審査 ・司法権の独立と裁判官
第10週	司法権と憲法訴訟	・司法権の意味と法律上の争訟 ・憲法訴訟と「違憲判決」
第11週	地方自治	・地方自治の歴史 ・地方自治制度の特色
第12週	財政	・税金と予算 ・国の財政支出と統制
第13週	天皇制	・象徴天皇制 ・天皇の国事行為と公的行為
第14週	平和主義	・日本国憲法第9条の解釈 ・自衛権、9条解釈、国際貢献
第15週	日本憲法史	・大日本帝国憲法時代 ・日本国憲法の制定と成立 ・今日の日本国憲法と憲法改正
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	コミュニティとまちづくり						
担当教員	堀内　まゆみ	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2711		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

あなたはコミュニティと聞いて、どんなものを思い浮かべるでしょうか。
コミュニティは人々のイメージに過ぎないと言う人もいますし、実際に存在するものであると言う人もいます。こうしたコミュニティのさまざまな捉え方を学び、コミュニティに関係しているいくつかの概念について学びます。
コミュニティの定義がいかに変わりやすいものであるかを理解し、自分の関わっている、あるいは今まで関わってきたコミュニティについて分析的に捉えることを通して、これからの地域社会をどのようにしていくことが望ましいのか、考える力を身につけましょう。

到達目標

1. コミュニティのさまざまな捉え方について説明できる。
2. コミュニティの考え方を使って、身近な事象について説明できる。
3. コミュニティに関わるテーマに対して、自身の意見を持つことができる。
4. 未来のコミュニティのあり方について、自身の関心にもとづき提案できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
小レポート①	15		
小レポート②	15		
授業への参加度合い（発言・ディスカッションへの積	30		
プレゼンテーション（内容・パフォーマンス・資料）	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

アートプロジェクトの企画、実践、コーディネーション。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
小レポート①②の作成を念頭に、授業で学んだことをもとに、自身の関心に沿ってテーマを決めて調査し、その内容をまとめる。 最終プレゼンテーションに向けて、資料の作成、読み上げ原稿の作成、リハーサルなどの作業を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・SlidoやNotionなどのシステムを活用し、双方向的な講義スタイルを採用する
・授業ではワークショップやグループワークを通じて、視覚的・言語的な対話の機会を設ける
・最終プレゼンテーションに向けて、段階的な発表内容のブラッシュアップを意識しつつ受講すること

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	イントロダクション	身の回りにどのようなコミュニティがあるかについて、ディスカッションとグループワークを通して考えます。
第2週	コミュニティの捉え方	これまで「コミュニティ」は歴史を通じてどのように扱われてきたのかについて学びます。
第3週	コミュニティとアイデンティティ	コミュニティへの帰属感覚は、私たちのアイデンティティにどんな影響をもたらすのかについて考えを広げます。
第4週	コミュニティと表象	個人に内在する複数のアイデンティティに目を向けつつ、コミュニティにおける多様性と表象の問題について議論します。
第5週	ケーススタディ① ー テーマを決める	コミュニティについて関心のあるテーマを1つ決めて、小レポート①を作成します。
第6週	コミュニティと身体性	コミュニティダンスのワークショップを通じて、身体感覚に根ざしたコミュニティの成り立ちについて理解を深めます。
第7週	日本のコミュニティ	伝統的地域共同体とコミュニティ政策の経緯について学び、日本のコミュニティの特徴について考えます。
第8週	地域社会と場づくり	遊びやアートを仲立ちとした場づくりの実践を学ぶことを通じて、コミュニティ形成について理解を深めます。 ＊本コマでは、ゲストスピーカーの登壇を予定しています。
第9週	ケーススタディ② ー テーマを深める	ケーススタディ①で決めたテーマを、第6～9週の講義を踏まえてブラッシュアップし、小レポート②を作成します。
第10週	コミュニティにおけるフォークロワ	「あたらしい民話」のワークショップを通じて、コミュニティにおける語りの役割について考えます。
第11週	地域創生とコミュニティ	北海道の地域創生や社会的起業の実際を学ぶことを通じて、社会的課題について考えます。 ＊本コマでは、ゲストスピーカーの登壇を予定しています。
第12週	アートプロジェクト	各地のアートプロジェクトの事例を通じて、文化芸術の地域コミュニティへの関わり方について考えます。
第13週	コミュニティと医療 ー　イギリスの事例を通じて	社会的処方の考え方を知り、地域社会における医療や福祉のあり方について議論してみます。
第14週	ケーススタディ③ ー　プレゼンテーション①	講義を通じて深めてきたテーマをもとに、プレゼンテーションを行います。（前半グループ）
第15週	ケーススタディ④ ー　プレゼンテーション②	講義を通じて深めてきたテーマをもとに、プレゼンテーションを行います。（後半グループ）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会心理学						
担当教員	後藤　聡	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2801		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

対人関係には様々な心の諸相がともなう。個人では発生しない集団特有の心理現象も存在する。また、社会で受け取る情報は人間の心に様々な影響を与える。それらの概念、発生のメカニズム、機能、行動の要因などについて教授し、社会生活に活用する資質を育成する。毎回の講義ごとに異なったテーマを取り上げ、講義内容の理解を深めさせるために、既存の研究結果や具体的な事例を根拠として裏付けながら解説するので、自分と対照させながら理解してもらう。

到達目標

① 人間関係における、あるいは集団内で起こる自らの心理現象について理解し、それが他者に与える影響に気づき、良好な人間関係の形成・維持の実践、自分の行動調整に活かす基盤とすることができる。
② 社会で触れる情報を多角的に分析し、その結果を適応な社会生活に活かすことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
筆記試験	70%		
授業内で出題する課題（設問に対する適切な内容と指	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習は必要ありません。復習を求めます。主に授業中にプリント内へ記入した用語の意味とその有効性を理解してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

正当な理由なく授業を欠席した者は、その時間に指示した課題を提出することができません。提出課題について、必要があれば口頭でフィードバックします。
ガイダンスにおいて禁止事項として示した行動が見られた者には減点を課すことがあります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 心理学のトピック	
第2週	自己呈示	他者に見てもらいたいと思う自己の姿をイメージして、その姿どおりに見てもらえるように自らの言動を組み立てたり、外見を整えたりすることの目的と危険性。
第3週	援助行動	意図的に他者に利益を与える行動に影響する心理的要因。
第4週	攻撃行動	他者に危害を加えようとする意図的行動の分類と発生要因。
第5週	ステレオタイプ	あるカテゴリーに含まれる人が共通で持っていると信じられている特徴の発生要因と偏見や差別への発展。
第6週	対人コミュニケーション	何らかの心理状態にある者が他者に情報を伝達するコミュニケーションの分類と他者を誤解する要因。
第7週	対人認知	人間に関する様々な情報を手掛かりに、性格、能力、感情、意図、態度など、人の特性や心理過程を推理する仕組みと下位過程。
第8週	社会の中の誤り	説得、同調行動、集団的無知において誤りを生じさせる要因。
第9週	道徳性	道徳性と道徳、慣習との違い、道徳性の仕組み。
第10週	演繹と帰納	演繹と帰納の違いと帰納において人を誤解する要因。
第11週	社会的比較	他者と自己を比較する目的、プラス効果とマイナス効果。
第12週	社会的ジレンマ	社会全体で行うべき適切な行動ができない要因と様々なトピック。
第13週	うわさ	うわさの三種類とその功罪。
第14週	社会的現実	日常の中で生じる現実感を生む要因とその危険性。
第15週	筆記試験と本授業のまとめ	筆記試験と本授業の総括
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	企業と法						
担当教員	津幡　笑	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2412		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「企業と法」では、ビジネスの世界で遭遇する可能性のある法律問題に焦点を当てる。実際のビジネスシーンで適用される法律の基礎知識を学び、企業運営における法的課題への理解を深めることを目的とする。カバーされる主要な法律領域は、契約法、不法行為法、会社法、知的財産法、消費者法、そして労働法が含まれる。これらの法律分野を通じて、学生は企業が直面する様々な法的問題を解決するための基礎を学ぶことができる。また、法律がビジネス戦略にどのように影響を与えるかについても探求する。

到達目標

企業運営に影響を与える主要な法律領域の基本的な概念と原則を理解することができる。
ビジネス実務における法的課題を特定、分析し、解決策を提案する能力を身につけることができる。
企業の社会的責任と法的義務のバランスを取る重要性を理解できる。
ビジネス実務法務検定試験３級に出題される分野の基礎的知識を修得し，関連する専門用語を説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
			4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験	70%		
小テスト	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前配布される資料を読む。講義の中での小テストで出題された事項を中心に復習をすること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

法学入門，民法入門を履修済みであることを前提に，東京商工会議所が実施するビジネス実務法務検定試験３級の出題範囲を中心に講義は進められる。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 権利の主体	
第2週	意思表示 代理	
第3週	債務不履行 契約不適合責任	
第4週	不当利得、事務管理、不法行為	
第5週	法人	
第6週	会社の機関（1）	
第7週	会社の機関（2）	
第8週	企業財産の管理	
第9週	債権の管理と回収（1）	
第10週	債権の管理と回収（2）	
第11週	企業活動に関する法規制	
第12週	その他企業が守らなくてはいけない法	
第13週	労働法（1）	
第14週	労働法（2）	
第15週	まとめと到達度チェック	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	行政学						
担当教員	浅野　一弘	配当年次	２年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2413		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

新型コロナウイルスへの対応をみてもわかるように、われわれが日々の生活をしていくうえで、役所＝行政機関とのかかわりは密接不可分といってよい。近年では、多発する自然災害などとの関連で、とりわけ、危機時におけるわれわれと行政機関との“協働”について注目があつまってきている。
そこで、今年度の本講義においては、地域社会がかかえる課題を的確に把握することを目的に、「危機管理」を大きなテーマの一つとしつつ、行政学の基礎概念の修得をこころみる。

到達目標

協働の意識をもつ地域社会の一員として、行政機関について日々報じられるニュースに関心をいだくとともに、危機管理というキーワードをもとに、日本の行政の実像を冷静かつ積極的に議論し、その課題や解決策を提示する論理的思考力・知識を修得できるようになる。また、ディスカッションをとおして、他者の意見を尊重できるようになる。
さらに、本講義では、公務員試験の教養試験対策にくわえ、民間企業の一般常識試験にも対応できるような能力が養成できることに関しても、目的としている。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業、施設、行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーション・スキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・介護・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
Google Classroom上での小テスト（履修にあたって、	１０%		
Google Classroom上での学期末試験（履修にあたっ	９０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『日本政治をめぐる争点－リーダーシップ・危機管理・地方議会－』』	浅野一弘	同文舘出版	2012	9784495464516	授業時に毎回使用するので、各自、かなら

参考書等

参考書としては、さしあたって、浅野一弘『危機管理の行政学』（同文舘出版、２０２５年）（※　ソフトカバーのものを使用すること）をあげておく。　危機管理に関する理解をさらに深めたい場合、教科書とあわせて丹念に読破すること。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
【予習】教科書の該当箇所を精読し、授業テーマに関するトピックをおさえておく。なお、高等学校で使用していた「政治経済」の教科書をもっている場合、事前に、授業内容にあたる部分を熟読しておくこと。こうした作業をつうじて、学修内容の基本的な意味を的確におさえておく。また、授業では、時事的なテーマもあつかうので、	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業時の重要な連絡、小テストや学期末試験は、Google Classroom（クラスコード：【xmj7dfk】）上で実施するので、単位修得のためには、かならず、大学のメールアドレスをもちいて、Google Classroomに登録をしておくこと。未登録の場合、単位認定はきわめて困難となるので、注意すること。

アクティブ・ラーニング情報

Zoomによるオンライン授業（アクティブ・ラーニングの要素をもりこむ）を実施する場合もありうるので注意すること。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	「行政」の意味－行政学の基礎概念（１）－	歴史的視点、さらには比較の視点から、「行政」の意味を考え、日本の行政の現実をみる目をやしなう。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、とりわけ、日本における「行
第2週	行政国家とは？－行政学の基礎概念（２）－	歴史的視点から、日本において行政国家化がどのように進展したのか、その経緯を修得し、日本の行政の“いま”をみる目をやしなう。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、とりわけ、日本における行政
第3週	情報公開の重要性－行政学の基礎概念（３）－	危機管理との関連をつよく意識しつつ、TAPEということばを手がかりに、日本の情報公開の現状と課題について考える。可能であれば、外国の事例との比較をこころみる。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な情報公開の意
第4週	官僚制とは？－行政学の基礎概念（４）－	危機管理との関連をつよく意識したうえで、日本における官僚制の特色について考える。可能であれば、米国の官僚制との比較もおこなう。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、ひんぱんに登場する官僚制と
第5週	政官関係の現状と課題－行政学の基礎概念（５）－	危機管理との関連をつよく意識しながら、政官関係の動向に着目する。このことによって、とりわけ、日本における立法部と行政部との関係の実態を探る。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な政官関係の内
第6週	ガバナンスとガバメント－行政学の基礎概念（６）－	危機管理との関連をつよく意識し、ガバメントとガバナンスということばに着目し、日本における地方分権改革の動向の一端を検証する。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要なガバメントか
第7週	「危機」概念の多様化－危機管理の行政学（１）－	近年、「危機」ということばのもつ意味が多様化してきているとされているが、ここでは、どのような変化がみられたのかをおさえる。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な「危機」概念
第8週	「危機管理」の意味－危機管理の行政学（２）－	「危機」ということばが多様化すると同時に、「危機管理」という語の意味もひろがってきているので、ここでは、その変容のプロセスについて検討する。 なお、今回の到達目標は、行政において、「危機管理」の意味がどのように変化してきたか
第9週	行政機関と危機管理－危機管理の行政学（３）－	日本の行政機関の特色をみるだけでなく、国・地方の行政機関において、どのような危機管理策が講じられているかに着目する。 なお、今回の到達目標は、行政機関における危機管理策を深く理解し、その知識をもちいて
第10週	新型コロナウイルスをめぐる危機管理－危機管理の行政学（４）－	新型コロナウイルスをめぐって、日本の行政機関や企業などがどのような対策を講じてきたのかを検証するとともに、その後の状況にも十分留意する。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な新型コロナウ
第11週	東日本大震災をめぐる危機管理－危機管理の行政学（５）－	東日本大震災の折りに、日本の行政機関がどのように対応してきたのかについて検証したうえで、阪神・淡路大震災時の議論にも着目する。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な東日本大震災
第12週	市町村合併と危機管理－危機管理の行政学（６）－	日本の市町村合併の実態について検証したうえで、危機管理についての議論がどれほど軽視されてきたかに関しても着目する。 なお、今回の到達目標は、日本の行政の一端を考察するうえで、きわめて重要な市町村合併
第13週	環境をめぐる危機管理－危機管理の行政学（７）－	近年注目をあつめる環境問題に関して、危機管理という視点からアプローチをすることで、日本の環境政策の一端を学修する。とりわけ、海洋ごみ問題をとりあげる。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要な環境問題、と
第14週	公務員の“失言”をめぐる危機管理－危機管理の行政学（８）－	なぜ、「全体の奉仕者」である公務員の“失言”がひんぱんにくり返されるのかに着目し、この問題を危機管理の視点からアプローチして学修する。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、公務員の“失言”問題を深く
第15週	リーダーシップと危機管理－危機管理の行政学（９）－	危機管理を考えるうえでもっとも重要とされるリーダーシップについて、内閣総理大臣、地方自治体の首長のおのおのにわけ、学修する。 なお、今回の到達目標は、行政の危機管理を考察するうえで、きわめて重要なリーダーシッ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	マーケティング入門						
担当教員	五十嵐　誠	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2311		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

現代社会において、企業や組織が提供する製品やサービスは、私の日常生活や価値観の形成に大きな影響を与えており、その活動の中心には、マーケティングという考え方がある。本授業では、企業がどのように顧客のニーズを把握し、商品やサービスの開発、価格設定、流通、プロモーションといった意思決定を行い、社会に価値を提供していくかを実在する企業の事例を交えながら、体形的に学んでいく。
マーケティングの理論、用語を受動的に学ぶだけではなく、事例紹介やグループワーク、課題提出を通じて、学生が主体的に考えられるような授業運営をしていく。

到達目標

①マーケティングのねらいを理解し、企業の市場選択の考え方や方法を理解することができる
②企業の市場分析の実際を理解することができる
③マーケティングの視点から社会やニュースに関心を持ち、自分の意見を考えることができる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
講義時におけるワーク（ディスカッション、アンケー	20%		
講義毎の事後課題	40%		
最終レポート	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

『1からのマーケティング<第4版>』廣田 章光他（碩学舎）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

・1996年4月～2016年9月：NTT東日本に入社し、営業、サービス開発、経営企画、コールセンター運営等の幅広い業務に従事しながら、大学院にてMBA取得
・2016年10月～2020年11月：札幌のITベンチャーであるエコモット株式会社の経営企画担当役員として、札証アンビシャス、東証マザーズ

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習として、講師が指示する内容についてニュース、インターネット等で調べて、自身の考えを整理しておくこと。復習として、授業にて学んだ内容に関する事後課題を提出すること。	2～3時間程度/週

受講時の注意事項

全ての授業にてワーク（ディスカッション、アンケート、クイズ等）を実施するので、PC、スマートフォン、タブレット端末等のインターネット接続可能なデバイスを用意すること。
受講生のニーズを踏まえて　内容を変更することがある。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	オリエンテーション　（授業の概要、成績評価方法、注意事項の説明）
第2週	第Ⅰ部 マーケティング発想の経営①	マーケティング発想の経営（ドリルを売るには穴を売れ、ハーレーダビッドソン）
第3週	第Ⅰ部 マーケティング発想の経営②	マーケティング論の成り立ち（フォードになくてGMにあったもの）
第4週	第Ⅰ部 マーケティング発想の経営③	マーケティングの基本概念（ペットボトル入りコーヒー「クラフトボス」）①
第5週	第Ⅰ部 マーケティング発想の経営④	マーケティングの基本概念（ペットボトル入りコーヒー「クラフトボス」）②
第6週	第Ⅱ部 マーケティングのマネジメント①	製品のマネジメント（カレーメシの開発）
第7週	第Ⅱ部 マーケティングのマネジメント②	価格のマネジメント（明治「ザ・チョコレート」の価格マネジメント）
第8週	第Ⅱ部 マーケティングのマネジメント③	広告のマネジメント（「ファブリーズ」による消臭市場の創造 ）
第9週	第Ⅱ部 マーケティングのマネジメント④	チャネルのマネジメント（化粧品業界の流通経路とメーカーの多様なチャネル ）
第10週	ケーススタディ①	企業のマーケティング事例を分析する①
第11週	ケーススタディ②	企業のマーケティング事例を分析する②
第12週	ケーススタディ③	企業のマーケティング事例を分析する③
第13週	最終レポート演習①	最終レポートの出題、最終レポート作成に向けた演習①
第14週	最終レポート演習②	最終レポート作成に向けた演習②
第15週	最終レポート演習③	最終レポート作成に向けた演習③
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	産業経済地理						
担当教員	飯田　治	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2332		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

北海道は、全国に先駆けて人口減少と少子・高齢化が進行しており、道内各市町村では数多くの解決すべき問題を抱えている。一方、北海道は広大な土地、恵まれた四季折々の自然、さらには新鮮で安全な食材が豊富であり。コロナの終息に伴いインバウンド需要も回復傾向にある。こうした中、千歳市に工場進出した最先端半導体の国産メーカー・ラピダスは今春試験操業を開始すうことととなっているほか、GXや特区構想などは、今後の北海道経済発展の起爆剤になるとみられる。本講義では、北海道経済の現状と道内各地域の地域経済構造を理解し、地域経済の活性化とは何かを自分自身で考え、提言できる力を身につけることを目的としている。

到達目標

①各種経済統計の種類・見方を説明できる。
②北海道経済のあゆみを理解し、説明できる。
③道内各地域の産業経済動向を理解し、説明できる。
④北海道経済活性化に向けての課題を理解し、自分自身の考えを述べることが出来る。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業態度(質問、課題提出)	40%		
レポート提出(2回）。なお、２回とも提出しなければ	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

道内金融機関とシンクタンクに長年従事。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
新聞を読むように心がけてください。特に、地域経済や中小企業に関連する記事に注意してください。講義内容との関係の有無等、自分で考え整理する習慣を身につけてください。講義後は、講義で説明した内容を整理し、自分自身で説明できるように努力してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

質問、意見、要望など積極的な発言と授業への参加を求めます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	講義内容を紹介し、「産業経済地理」とは何かを理解する。 授業の進め方、成績評価について理解する。
第2週	経済学の基礎知識の復習及び確認	講義で用いる最低限の経済学の知識を確認する。
第3週	各種経済統計の種類と見方	各種経済統計の見方を理解する。
第4週	北海道経済の立ち位置～全国との比較	他都府県及び世界各国との比較等で北海道経済の特徴を把握する。
第5週	北海道経済の現状	日本銀行、北海道経済産業局などの資料をもとに、北海道経済の現状を把握する。
第6週	北海道経済のあゆみ①(明治維新～第二次世界大戦前)	明治維新から戦前までの北海道経済のあゆみを理解する。 ～開拓使、屯田兵、官営工場払下げ、北のウオール街、他～
第7週	北海道経済のあゆみ②(第二次世界大戦後～)	戦後から高度成長期までの北海道経済のあゆみを理解する。 ～旧北海道開発庁誕生、開発計画、炭鉱閉山。他～
第8週	RESAS(地域経済分析システム）を用いた地域経済構造分析	RESASを用いて地域経済構造を分析する。
第9週	圏域(振興局)別の産業経済動向①(道央、道南、道北)	広大な北海道ではなく細分化した地域で検証する。
第10週	圏域(振興局)別の産業経済動向②(オホーツク、十勝、釧路・根室)	広大な北海道ではなく細分化した地域で検証する。
第11週	札幌一極集中について	札幌一極集中の功罪を検討する。
第12週	地域活性化とは何か	地域活性化の事例を紹介する。 ～道の駅、ふるさと納税、コンパクトシテイ、移住、他～
第13週	今後の北海道経済の注目点①	今後の北海道経済を占う上での注目点を検討する。 ～北海道新幹線札幌延伸、ラピダス進出、再生可能エネルギー、宇宙関連、第二青函トンネル、JR北海道～
第14週	今後の北海道経済の注目点②	今後の北海道経済を占う上での注目点を検討する。 ～インフラ老朽化、自然災害(地震）、北極海航路、地球温暖化、他～
第15週	講義のまとめ	北海道経済活性化に向けての課題を検討する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	財政学						
担当教員	野口　剛	配当年次	2年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2333		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

国の予算と税の制度(しくみ)の基本を学ぶことを通じ、講義受講者が税財政について考えていくための基礎材料を提供する。講義受講者は、提供された基礎材料を繰り返し学習して摂取することにより、税財政の現状や諸課題を知り、理解し、身に付けられる。

到達目標

・税財政が現代経済とどのようにかかわり、どのような役割を果たしているかを知ることができる。
・わが国の税財政の基本的な理屈、しくみ、現状、問題点などを把握することができる。
・税財政に関するニュースに関心を持ち、その内容が少しでも理解できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用））

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
中間試験	50%		
講義内試験	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。担当者作成のレジュメ(パワーポイントスライド)、資料を配布します。』					

参考書等

なし。講義の理解を深めるうえで参考となる文献は、その都度、レジュメ(パワーポイントスライド)に記載しますので、適宜参照するようにしてください。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
(予習)新聞やテレビ，インターネットのニュースを通じて，1週間の政治や経済，社会の動向を把握するようにしてください。 (復習)配布スライドの見直しや関連文献・資料の読み込みを行う。また、講義の要点の整理(まとめ)をしてくださ	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

特になし。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	講義を受講するにあたっての注意事項、成績評価方法、講義スケジュール等を説明する
第2週	財政とは何か	財政という用語を紐解くことから、財政学の対象、視点等を説明する
第3週	予算その1	財政法の諸原則、予算編成プロセスを説明する
第4週	予算その2	予算の類型(本予算、補正予算など)を説明する
第5週	予算その3	補正予算の問題点を説明する
第6週	予算その4	わが国財政の現状を説明する
第7週	予算その5	国債の種類と発行根拠、しくみを説明する
第8週	第1週から第7週のまとめと中間試験	第1週から第7週の講義内容を中間試験の範囲とします
第9週	税の基礎その1	なぜ税というものが世の中に存在するのか？、税原則と税の役割(機能)を説明する
第10週	税の基礎その2	税は誰が負担するのか？税の分類の視点などを説明する
第11週	所得税その1	そもそも所得とはどのように定義されるのか、わが国の所得税の特徴などを説明する
第12週	所得税その2	所得税の税額算出方法を説明し、演習を行う
第13週	消費税その1	消費課税の類型と付加価値税の計算方法を説明し、演習を行う
第14週	消費税その2	消費税が直面する問題を説明し、どのように解決を図ることができそうかを説明する
第15週	第9週から第14週のまとめと講義内試験	第9週から第14週の講義内容を講義内試験の範囲とします
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地域福祉の理論と方法						
担当教員	西浦　功	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2611		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本科目では、その歴史的な発展の過程をふまえつつ、地域福祉とは何かについてまず理解するとともに、近年拡大・深刻化する様々な地域福祉の課題について学びを深め、今後の日本の地域福祉の将来の在り方を考察する。基本的には講義形式だが、福祉の現場で用いられるワークショップ体験等の受講生参加型プログラムを盛り込むことで、地域福祉の現場感覚に即した授業を実施する。

到達目標

(1) 地域福祉とは何か、その歴史的変遷をふまえつつ、説明することができる。
(2) 地域福祉の主体と対象について、具体的に説明することができる。
(3) 地域福祉に係る専門職及び組織・団体について、具体的活動内容をふまえて説明することができる。
(4) 地域福祉活動の推進方法について、具体的事例に基づいて説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向け積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加態度（授業課題）	４０		
授業内試験	４０		
中間レポート	２０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各回の授業終了時に課題を出すので、よく学習したうえで次回の授業に臨むこと。また、講義レジュメで空欄補充を要するところは学期末試験の出題範囲となるので、よく復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

毎回の講義で課される予復習課題で参加態度を評価するため、出し忘れのないように注意すること。また授業時に課題のフィードバックを実施する。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	
第2週	地域福祉の概念と理念	「地域福祉とは何か」を考える
第3週	コミュニティと地域社会	
第4週	地域福祉の歴史と理論の発展①	海外の地域福祉
第5週	地域福祉の歴史と理論の発展②	日本の地域福祉
第6週	地域福祉の主体と対象①	地域社会における専門職の働き
第7週	地域福祉の主体と対象②	地域社会における地域住民の働き
第8週	地域福祉に係る行政組織や民間組織の役割①	地域を支える様々な組織と団体
第9週	地域福祉に係る行政組織や民間組織の役割②	地域福祉に求められる組織間連携
第10週	地域福祉における住民参加と協働	
第11週	地域福祉におけるサービスと活動	
第12週	地域福祉とネットワーキング	
第13週	地域における社会資源の活用・調整・開発	
第14週	地域福祉計画の実践と展望―地域福祉計画と地域福祉活動	
第15週	まとめ　今後の地域福祉の展望／授業内試験	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ニューツーリズム論						
担当教員	遠藤　正	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2712		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

従来の団体旅行から個人旅行（FIT)が中心となり、着地型の観光に代表されるニューツーリズムが拡大してきた。近年は、アドベンチャートラベルをはじめ体験型の観光分野もさらに注目されている。北海道は自然環境に恵まれ、体現型観光で大きなポテンシャルを持っている地域である。本講義では、スポーツツーリズム（例えば冬のスキー）や道内各地の体験型観光を通じてニューツーリズムを学習し、その特徴などを理解する。また、映像等も利用し、体験型観光の先進事例を知る。
＜留意事項＞授業は原則教室での座学を基本とする。オンラインなどの場合もある。

到達目標

①従来型のツーリズムとニューツーリズムの違いを理解し、説明できる。
②北海道のアドベンチャートラベルや体験観光を理解し、説明できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（授業態度等）	20		
授業内確認テスト（授業内で実施する）なお、出席不	80		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

地域まちづくりや観光の専門家・有識者として、自治体や民間企業と連携したプロジェクトなどを実践している。また、インバウンドによる地域活性化についても、専門家・有識者として活動している。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回関連する資料・文献等で調べて授業に臨んでください。時事問題を常に確認の上、課題を確認してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

適宜参加者に発言も求めます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の基本的説明を行なう。また、日本の観光現状や課題を学ぶ。
第2週	観光の基礎1	従来型の観光から最近の観光まで、日本のおける経過を学び、理解する。また、近年増加するインバウンドの基礎知識を身につける。
第3週	観光の基礎2	従来型の観光から最近の観光まで、日本のおける経過を学び、理解する。また、近年増加するインバウンドの基礎知識を身につける。
第4週	時事テーマ、トピックによる観光の理解1	観光の実際を学ぶため、具体的な事例を取り上げて解説する。観光現場における課題、商品開発、セールス・プロモーション、DMOなどの受け入れ態勢、オーバーツーリズムなどの観光公害などについても適宜解説し、観光の理解を深める。
第5週	インバウンドの潮流1	現在、観光産業に大きく影響を与えているインバウンドについて学ぶ。観光消費額、滞在期間など地域への波及効果を学ぶとともに、観光公害など近年の課題も取り上げる。
第6週	インバウンドの潮流2	現在、観光産業に大きく影響を与えているインバウンドについて学ぶ。観光消費額、滞在期間など地域への波及効果を学ぶとともに、観光公害など近年の課題も取り上げる。
第7週	時事テーマ、トピックによる観光の理解2	観光の実際を学ぶため、具体的な事例を取り上げて解説する。観光現場における課題、商品開発、セールス・プロモーション、DMOなどの受け入れ態勢、オーバーツーリズムなどの観光公害などについても適宜解説し、観光の理解を深める。
第8週	ニューツーリズム1	従来型の観光と比較し、何が新しく、どのような違いがあるのか。具体的な観光の形態を解説し、ニューツーリズムを理解する。
第9週	ニューツーリズム2	従来型の観光と比較し、何が新しく、どのような違いがあるのか。具体的な観光の形態を解説し、ニューツーリズムを理解する。
第10週	時事テーマ、トピックによる観光の理解3	観光の実際を学ぶため、具体的な事例を取り上げて解説する。観光現場における課題、商品開発、セールス・プロモーション、DMOなどの受け入れ態勢、オーバーツーリズムなどの観光公害などについても適宜解説し、観光の理解を深める。
第11週	ケーススタディー（インバウンドとスキー）	ニセコに代表されるように、インバウンドのスキーヤーと地域やスキー場に発生している事象を理解する。地域への経済効果、雇用創出といった面と物価や地価の上昇など地域への影響についても理解する。
第12週	学習内容のレビュー	ここまでの学習した内容について、知識の整理と定着を図る。また、単位認定のための確認テストについて説明を行なう。
第13週	授業内確認テスト	ここまでの学習内容について確認テストを実施する。
第14週	ケーススタディー（スポーツツーリズム）	スポーツと観光の事例を紹介し、スポーツツーリズムの地域への貢献を学ぶ。また、北海道の特徴を生かしたスポーツツーリズムも学ぶ。
第15週	授業内容の到達目標の確認、授業内テストのフィードバック	本授業の総括を行うともに、授業内のテストについてフィードバックを行なう。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地域メディア論						
担当教員	加藤　知美	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2701		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

かつての伝統的な地域社会では内部でのコミュニケーションの効率が良かった反面、近隣家庭の事情が筒抜けになるなどプライバシーが守りにくい状態があった。しかし、現代社会では住民どうしの関わりやコミュニケーションは希薄になり、さまざまな地域課題の解決も行政等、外部の機能（システム）に依存しがちである。一方、マスメディアが伝える地域情報はステレオタイプになりがちで、地域の実態から乖離してしまう傾向が見られる。こうした社会状況のもとで、地域情報を発信・共有し、地域内コミュニケーションを促進する場・空間としての地域メディアが地域の社会課題の解決ツールとして注目されている。本講義では特に北海道のコミュニティＦＭ放送をとりあげ、具体的な事例を扱いながら、地域メディアの機能と公共性について考える。

到達目標

①　メディアリテラシーの必要性を理解し身につける。
②　地域メディアの機能について説明することができる。
③　コミュニティＦＭの公共性について説明することができる。
④　北海道のコミュニティＦＭの現状を説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向け積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・ｽﾎﾟｰﾂなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
期末レポート	50		
授業内課題	30		
授業への参加態度	20		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

コミュニティFM放送局の経営、番組編成、番組制作、放送ボランティア養成
NHKラジオレポーター

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後は配付資料を読み直して講義内容の復習をしてください。 ワークシートもしくは課題が授業時間内に完了しなかった場合は次週までに完成させてください。 また、授業時間外にラジオやテレビ、新聞の視聴を課すことがあります。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	イントロダクション、災害とメディア	イントロダクションは授業の進め方について。 北海道胆振東部地震の体験などを思い起こし、災害時のラジオの有用性を考えます。
第2週	新聞を読む、テレビを観る、ラジオを聴く	新聞、テレビ、ラジオのマスメディアの特性を理解します。普段接することの少ないメディアも実際に視聴します。
第3週	ニュースができるまで	マスメディアの報道やネットニュースについて取材から発信までの過程を理解し、実際に自身の身の回りの出来事からニュース原稿を作成します。
第4週	ドキュメンタリー番組と調査報道	フィクションとノンフィクション、ドキュメンタリーとドラマなどの比較を通じてドキュメンタリーのジャンルを理解します。また、発表報道と調査報道の比較を通じてメディアの役割を考察します。
第5週	メディアリテラシーを身につける	メディアの特性を知り、受け手として、また送り手としてのメディア行動を考えます。
第6週	コミュニティとメディア	コミュニティにおけるコミュニケーションツールとしてのメディアの役割を考察し、市民参加や自治との関係を探ります。
第7週	北海道はコミュニティＦＭ発祥の地	代表的な地域メディアであるコミュニティFMについて、北海道の特徴的な事例を理解します。
第8週	市民が創るメディア	市民による番組づくり事例からコミュニティメディアの意義を考察します。また、地域の課題解決を目指す番組アイディアを出し合い、番組企画書を実際に作成します。
第9週	非営利放送と地域メディア	地域社会における非営利セクターの役割を理解しつつ、地域メディアの非営利性、公共性を考えます。
第10週	被災地のコミュニティＦＭ	地震や台風などの大規模災害で必要とされる情報と地域メディアが果たす役割を阪神淡路大震災や東日本大震災などの事例から学びます。また自治体が運営する臨時災害FMについても理解を深めます。
第11週	コミュニティＦＭと多文化共生	グローバル化によって地域には様々なルーツをもつ人々が共生するようになった現代において、地域メディアが地域の多様性を保障する役割を果たす事例から地域の多文化共生について考察します。
第12週	コミュニティＦＭで地域の課題解決	コミュニティFMが地域の公共空間として機能し地域課題の解決を目指している事例に触れ、そのプロセスについて理解を深めます。
第13週	海外にみるパブリックアクセス	欧米やアジアの各国で商業メディア、マスメディアの発展の中で市民がメディアにアクセスする権利を獲得した経過を理解し、メディアと民主主義や市民自治について考察します。
第14週	地域メディアを活用する	身近な地域でメディアに参加したり新たなメディアを興したりすることを具体的に想定してシミュレーションします。
第15週	地域メディアのこれから	地域メディアについての放送政策の動向や近年増える大規模災害におけるコミュニティFMの連携や課題を理解し、地域メディアのこれからを考えます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	アンケート作成法						
担当教員	金　　昌震	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS2221		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

社会調査の実施に至る具体的なプロセスについて、調査票（アンケート用紙）の作成方法を中心に学ぶ。
社会的な課題・調査目的の設定、課題や目的に適した調査対象の選定や設問の方法、遵守すべき調査倫理など、適切な調査設計を行うための知識と能力を身につける。

到達目標

① 社会が抱える課題に関心を持ち、自身の周囲にある事柄と結び付けた社会的な調査目的を設定することができる。
② 回答の偏りを防ぐなど、質問の作成方法や調査票の構成について、基礎的な注意事項を理解できる。
③ 概念の操作化や仮説構築について理解を深め､実践を通して適切な仮説･質問を作成できる。
④ 調査倫理をはじめとする、社会調査における配慮すべき事柄について理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
最終課題（レポートとアンケート作成）	60%		
授業への取り組み・コメントなど	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各自で関心領域についての資料や文献等の収集を進め、疑問点を整理しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

①自分の関心のある分野の動向・現状について調べてみるなど、社会の状況を自分なりに把握するよう努めること。②最終的に自分のオリジナルなアンケート調査票の提出が求められているため、欠席は課題作成に大きく影響します。③本科目は「社会調査実務士」の必修科目、「社会調査アシスタント」の必修科目です。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	（授業の目的と概要、評価方法、参考文献の紹介）
第2週	現代社会におけるアンケート調査の意義	
第3週	アンケート調査の企画の手順	
第4週	調査課題の設定	
第5週	調査対象と調査内容の設定	
第6週	アンケート票の質問の順序と注意点	
第7週	調査方法の選択	
第8週	データ入力とデータクリーニング	
第9週	回収票の集計と妥当性の確認	
第10週	調査と倫理	調査票調査に求められる倫理的配慮
第11週	既存の調査票の探索と検討	
第12週	アンケート調査の質問票のデザインと検討	
第13週	アンケート調査の実施と集計	受講生を対象に実施
第14週	クロース表・グラフ作成と分析・解釈	
第15週	調査結果のレポート作成と発表	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地域課題研究Ⅰ（西浦クラス）						
担当教員	西浦　功	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3231		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「社会調査入門」及び「社会調査応用」で学んだ基礎を踏まえて、専門演習のゼミナールごとに、札幌市内及び近郊でフィールドワーク経験を積むことを目的とする。フィールドに入る準備、インタビュー調査の実施までのプロセスを経験を通して学ぶ。

到達目標

① インタビュー調査を中心としたフィールドワークの手順を理解できる。
② 適切な調査計画を立案できる。
③ 現地学習において必要な作業を進めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
調査計画書	５０		
事前資料調査での小レポート、その他の提出物	３０		
実地調査における貢献、参加態度	２０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
上記「授業計画」欄の各週計画の【　】内に記載しています。	２時間から３時間程度/週

受講時の注意事項

本科目は「専門演習Ⅰ」と連動した科目であり、履修者も「専門演習Ⅰ」の各ゼミと重なります。フィールド調査のコマ数はゼミによって変更となる可能性があります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業概要とスケジュールの説明　【調査に向けた問題関心の整理】
第2週	フィールドワーク調査の流れ	調査手順の説明　【調査手順の流れの整理】
第3週	調査テーマの選定	テーマの検討　【調査テーマのしぼりこみ】
第4週	事前資料調査	資料探索と読み込み　【資料を利用した調査の課題】
第5週	事前資料調査の報告・共有	：報告と相互検討　【調査の報告準備】
第6週	フィールド調査の企画①	調査項目の検討 【ブレーンストーミングの整理】
第7週	フィールド調査の企画②	調査項目の集約 【調査項目の集約】
第8週	フィールド調査の企画③	調査計画の立案 【調査計画の検討に関する課題】
第9週	フィールド調査の企画④	調査計画書の作成 【調査計画書の完成】
第10週	フィールド調査の企画⑤	質問文の作成 【質問文案の準備】
第11週	フィールド調査の企画⑥	インタビューガイドの作成 【インタビューガイドの完成】
第12週	インタビュー調査の予行演習	課題にもとづいたインタビュー　【予行演習の振り返り】
第13週	フィールド調査の実施①	観察とインタビュー 【フィールドノートの整理】
第14週	フィールド調査の実施②	観察とインタビュー 【フィールドノートの整理】
第15週	フィールド調査の振り返り	調査対象者への礼状の作成【フィールド調査の振り返り】
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地域課題研究Ⅱ（西浦クラス）						
担当教員	西浦　功	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3232		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「地域課題研究Ⅰ」で実施した現地調査で収集したデータを整理・分析して、根拠にもとづいた知見を引き出す。収集したデータと分析結果を調査報告書にまとめ、報告会を実施する。

到達目標

① 質的調査の手順に沿って、調査データを分析することができる。
② 事実として収集したデータとその分析から、知見や提言を引き出すことができる。
③ 調査のプロセスと成果を報告書にまとめることができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
調査報告書	７０		
調査データの整理・分析における貢献	２０		
調査報告の出来栄え	１０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
上記「授業計画」欄の各週計画の【　】内に記載しています。	２時間から３時間程度/週

受講時の注意事項

本科目は「専門演習Ⅱ」と連動した科目であり、履修者も「専門演習Ⅱ」の各ゼミと重なります。ゼミによっては本科目においてもフィールド調査を実施する可能性があります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業概要とスケジュールの説明　【フィールドノートの整理】
第2週	調査データの整理①	インタビュー起こし　【インタビュー起こし作業の補完】
第3週	調査データの整理②	インタビュー起こし　【インタビュー起こし作業の補完】
第4週	調査データの分析①	キーワードの抽出　【キーワードの抽出作業の補完】
第5週	調査データの分析②	コーディング　【コーディング作業の補完】
第6週	調査データの分析③	SWOT分析　【分析作業の補完】
第7週	分析結果の考察と提言①	考察作業と提言の導出　【分析結果の考察作業】
第8週	分析結果の考察と提言②	考察と提言の相互検討　【分析結果にもとづく提言の検討】
第9週	調査報告書の作成①	分担執筆　【報告書の執筆作業】
第10週	調査報告書の作成②	分担執筆箇所の相互検討　【報告書の完成】
第11週	プレゼンテーション資料の作成・準備①	パワーポイントの作成　【演習時の作業の補完】
第12週	プレゼンテーション資料の作成・準備②	パワーポイントの作成　【プレゼン資料と発表原稿の点検】
第13週	調査報告のリハーサル	リハーサルと点検　【リハーサルの振り返りと資料の修正】
第14週	調査報告会①	報告と質疑応答　【報告会の振り返り】
第15週	調査報告会②	報告と質疑応答　【報告会の振り返り】
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅰ（西浦クラス）						
担当教員	西浦　功	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「専門ゼミ」の導入科目としてグループワークを通じて意思疎通の方法を学ぶとともに、各受講生のテーマに沿った文献の購読とディスカッションを通じて、自分の問題関心を社会学的に考察するための力を身につけることを本科目の目的とする。

到達目標

① 他者の意見や考えを深く理解しつつ、自分の意見を適切に述べることができる。
② 様々なリサーチを通じて、現代社会の抱える課題を明らかにし、適切に説明することができる。
③ 現代社会の抱える諸問題について、その社会的背景を具体的に説明することができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
ゼミ発表、グループワークへの参加態度、予復習課題	５０		
期末レポート	５０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各回の演習では、主として文献講読を通じて各社会領域が抱える課題や対応策について理解を深める。事前に提示される文献については次回までに良く読み込み、専門用語の語義を確認するほか、ゼミ発表者に対する質問や意見について事前にまとめておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

発表者に対する質問や意見表明等、ディスカッションには積極的に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	
第2週	論文検索の方法	
第3週	多様性理解のグループワーク①	地球からの脱出
第4週	多様性理解のグループワーク②	リフレーミングの基礎と応用
第5週	「地域社会の再生」について考える①	「近代化」とは何かを考える
第6週	「地域社会の再生」について考える②	仮説と現実を行き来する
第7週	自分の問題関心を「社会学」する①	過疎問題の背景
第8週	自分の問題関心を「社会学」する②	地域社会と再生とスポーツ
第9週	自分の問題関心を「社会学」する③	動物虐待問題をいかに解決するか
第10週	自分の問題関心を「社会学」する④	格差問題の社会的背景
第11週	自分の問題関心を「社会学」する⑤	児童虐待問題の背景と対策
第12週	自分の問題関心を「社会学」する⑥	災害時における情報発信と支援
第13週	自分の問題関心を「社会学」する⑦	アフターコロナ社会の構想
第14週	自分の問題関心を「社会学」する⑧	観光まちづくりの現状と課題
第15週	前期の振り返りとレポート作成指導	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅰ（西脇クラス）						
担当教員	西脇　裕之	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

テーマとしてコミュニティFMと歴史的建造物をとりあげ、資料の講読、ラジオ番組制作、観察調査を行います。
この授業の目標は地域社会における「場所」＝広義のメディアをめぐる問題について、利用者と管理者の立場に立って理解することです。
テーマに関する資料を講読していくことで、コミュニティFMと歴史的建造物についての理解を深めます。
また、「地域課題研究Ⅰ」の授業と連動しつつ、札幌市内の歴史的建造物の観察調査を行い、その保存と記憶をめぐる課題と活用法について調べていきます。
月に1回コミュニティFMの生放送番組の企画・制作を行って、公共の電波を通じて伝える意義とその責任について考えます。

到達目標

1．歴史的建造物についての資料講読と訪問調査を通して、歴史的建造物の保存と活用をめぐる課題を指摘することができる。
2．コミュニティFMの番組制作を通して、公共的なメディア空間にふさわしいコミュニケーションの作法を身につける。
3．演習活動を通じて、ゼミナールとしての集団的な学習スキルや協働する力を高める。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
コミュニティFM番組制作への貢献	40%		
調査・報告の出来栄え	30%		
期末レポート	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『北海道建築 北の大地に根づく建物と暮らし』	角 幸博、荒井宏明	トゥーヴァージンズ	2024	9784867910191	

参考書等

札幌市まちづくり政策局都市計画部地域計画課『歴史を活かした景観まちづくりガイド』（札幌市ホームページにて公開）
赤谷正樹（著）『まち歩き　札幌の歴史』北海道新聞社
越野 武（著）『札幌クラシック建築追想』亜璃西社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習=テキストや資料を事前に読み、疑問点や意見をまとめる。また、番組の企画制作に向けた事前準備を行う。 復習=番組制作の反省、授業の振り返りと活動の成果を整理する。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

毎月第4火曜日にコミュニティFM三角山放送局（西区）での生放送番組の企画・制作・放送を行います。
また、歴史的建造物の観察調査のために教室外へ出かける場面があります。
いずれもゼミ集団としての活動ですので、時間や規律をしっかり守って行動することが重要です。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：コミュニティFM、歴史的建造物、社会学 コミュニティFM番組の年間計画を	ゼミで行う活動とキーワードについてのガイダンスを行います。 2025年度の「たにラジ」の年間計画を立てます。
第2週	コミュニティFM番組（4月）の企画	4月22日に放送する番組の企画を立て、進行表を作成します。
第3週	コミュニティFM番組（4月）の放送	4月22日にコミュニティFM三角山放送局で行う1時間の生放送の活動に振り替えます。
第4週	コミュニティFMについて調べる	コミュニティFMを含む地域メディアの役割について学びます。番組を放送する三角山放送局の特色について調べます。
第5週	歴史的建造物について調べる（1） 歴史的景観資源とは何か	札幌市の歴史的景観資源についての資料を読みます。札幌市内の歴史的建造物を選び、関連するテキストを読みます。
第6週	コミュニティFM番組（5月）の企画	5月27日に放送する番組の企画を立て、進行表を作成します。
第7週	コミュニティFM番組（5月）の放送	5月27日にコミュニティFM三角山放送局で行う1時間の生放送の活動に振り替えます。
第8週	歴史的建造物について調べる（2） 北海道開拓の村	北海道の歴史的建造物を移築、保存している「野外博物館 北海道開拓の村」について調べます。
第9週	コミュニティFM番組（6月）の企画	6月25日に放送する番組の企画を立て、進行表を作成します。
第10週	コミュニティFM番組（6月）の放送	6月25日にコミュニティFM三角山放送局で行う1時間の生放送の活動に振り替えます。
第11週	歴史的建造物について調べる（3） 札幌軟石の建造物フィールドワーク	夏休み期間中に札幌軟石を使用した建造物を訪問調査する活動に振り替えます。
第12週	歴史的建造物について調べる（4） 北海道開拓の村フィールドワーク	夏休み期間中に北海道開拓の村を訪問調査する活動に振り替えます。
第13週	コミュニティFM番組（7月・8月）の企画	7月22日、8月26日に放送する番組の企画を立て、進行表を作成します。
第14週	コミュニティFM番組（7月）の放送	7月22日にコミュニティFM三角山放送局で行う1時間の生放送の活動に振り替えます。
第15週	コミュニティFM番組（8月）の放送	8月26日にコミュニティFM三角山放送局で行う1時間の生放送の活動に振り替えます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅰ（金鎔基クラス）						
担当教員	金　鎔基	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ビジネスパーソンは正解が明確ではない状況下で、様々な現象への意思決定を行う必要がある。ビジネスにおける現象に対して経営理論が持つ普遍性で対処できるようになる拠り所（思考の軸）を手に入れることを目的として経営理論を学ぶ。経営学は経済学、心理学（マクロとミクロ）、社会学から成り立っているといわれている。本科目ではその中でも経済学ディシプリンの経営理論およびマクロ心理学ディシプリンの経営理論を、教科書を中心に学術書や論文の輪読を行いながら学ぶ。たくさんの企業や経営者、従業員、会社組織などに、普遍的に当てはまり、実証研究に堪えうるビジネスの真理法則(How、When、Why)を学ぶ。また、卒業論文の指導も個別面談を中心に行う。

到達目標

① ビジネスの現象に対処できる拠り所（思考の軸）としての経営理論を理解できるようになる
② 経済学ディシプリンの経営理論が理解できるようになる
③ マクロ心理学ディシプリンの経営理論が理解できるようになる
④ 卒業論文のテーマを作成し、プレゼンテーションとディスカッションができるようになる

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（準備学習・参加態度等）	50%		
アウトプット（プレゼンテーション・レポート）	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『世界標準の経営理論』	入山章栄	ダイヤモンド社	2019	9784478109571	

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
教科書の該当箇所をしっかり読み自分なりの意見を考えておくこと。卒業論文の作成では、個別指導を行うので指定されたパートをしっかり書いてくること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックは授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	オリエンテーション　/　卒業論文テーマ作成概要
第2週	経済学ディシプリンの経営理論①	経済学ディシプリンの経営理論：SCP理論
第3週	経済学ディシプリンの経営理論②	経済学ディシプリンの経営理論：リソース・ベースト・ビュー（RBV）
第4週	経済学ディシプリンの経営理論③	経済学ディシプリンの経営理論：情報の経済学、エージェンシー理論
第5週	経済学ディシプリンの経営理論④	経済学ディシプリンの経営理論：取引費用理論（TCE）
第6週	経済学ディシプリンの経営理論⑤	経済学ディシプリンの経営理論：ゲーム理論
第7週	経済学ディシプリンの経営理論⑥	経済学ディシプリンの経営理論：リアル・オプション理論
第8週	中間まとめ	中間まとめ　/　卒業論文テーマ中間報告会
第9週	マクロ心理学ディシプリンの経営理論①	マクロ心理学ディシプリンの経営理論：カーネギー学派の企業行動理論（BTF）
第10週	マクロ心理学ディシプリンの経営理論②	マクロ心理学ディシプリンの経営理論：知の探索・知の深化の理論
第11週	マクロ心理学ディシプリンの経営理論③	マクロ心理学ディシプリンの経営理論：組織の記憶の理論
第12週	マクロ心理学ディシプリンの経営理論④	マクロ心理学ディシプリンの経営理論：組織の知識創造理論（SECIモデル）
第13週	マクロ心理学ディシプリンの経営理論⑤	マクロ心理学ディシプリンの経営理論：認知心理学ベースの進化理論
第14週	マクロ心理学ディシプリンの経営理論⑥	マクロ心理学ディシプリンの経営理論：ダイナミック・ケイパビリティ理論
第15週	まとめと振り返り	まとめと振り返り　　/　卒業論文テーマ発表会
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅰ（津幡クラス）						
担当教員	津幡　笑	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ゼミを通じて、法律のみかた、考え方を学びます。
毎回、民事法を中心とする 1 つの判例を取り上げ、担当者が事前に調べた事案や判決内容、学説などの概要を報告し、それについて出席者全員で議論します。
報告された判例に関係する民事法の基礎知識を全員で確認します。
取り上げるテーマには、「地域」の視点などを適宜取り入れるように努めます。

到達目標

公務員試験、宅建士試験など各種試験に対応する民事法の基礎知識を習得します。
民間就職希望の学生も、企業法務の基礎知識を学び、契約書を読んでその内容を理解できるようになることを目指します。
将来社会で活躍するために必要となるリーガルマインド(法的思考)を身につけます。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
担当報告とそれをまとめたレポート	70%		
毎回の出席・授業発言状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
報告担当者は２週間以上前から事前に教員と個別面談をしながら報告準備します。報告終了後はレポートを提出します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

報告担当者だけでなく全員が議論に参加すること。ただ座っているだけでは出席点として評価しません。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンス・報告分担決定
第2週	法令・判例・文献の調べ方	法令・判例・文献の調べ方
第3週	判例の読み方	判例の読み方
第4週	法学概論	法学入門他法律科目の振り返り
第5週	第１報告	
第6週	第２報告	
第7週	第３報告	
第8週	第４報告	
第9週	第５報告	
第10週	第６報告	
第11週	第７報告	
第12週	第８報告	
第13週	第９報告	
第14週	第１０報告	
第15週	まとめと到達度チェック	まとめと到達度チェック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅰ（仙波クラス）						
担当教員	仙波　希望	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「研究は、はじめる『前』がいちばん難しい。」
4年次になんとか完成させる卒業論文の執筆にむけ、本演習では自らの問いを見定め、研究計画に落とし、3年次に執筆する書評論文にむけた研究プロジェクトの最初の段階をふむことが専門演習Ⅰの目的です。問いの芽をつくり育むこと（前半）、そして問いをテーマと絡ませながら鍛えること（後半）を各自で実践し、後期の書評論文執筆にむけた準備作業を万全にしていきましょう。

到達目標

【1】レジュメ作成、口頭発表・ディスカッションをつうじて、アカデミックスキルの基礎を習得できる。
【2】書評論文執筆にむけた個人ワークおよびプレゼンテーションによって、自ら課題を見出し、提示する力をもつことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加の度合い（発表・コメント・ディスカッ	40		
成果物（発表会・報告会レジュメ）	60		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

随時、それぞれの「問い」に則しながら、授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

広告企業においてコピーライター・ディレクター業務に従事。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
文献精読、レジュメ作成、リサーチクエスチョンの設定、先行研究群の構築および読み込み、書評論文対象書籍の確定。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・不測の事態や突然の体調悪化などを除き、報告担当回の欠席は認められません。
・「宿題」ではなく、積極的な自らの「課題」として、それぞれのタスクをこなしていってください。
・Google FormによるQ&Rシステムを活用する。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	イントロダクション―最も難しいのは、研究に着手する前の段階だ	本演習全体のスケジュールを確認し、発表の分担や発生するタスクについて参加者全員で確認する。
第2週	リサーチのはじめかた(1)	『リサーチのはじめかた』「第1章 問いとは？」を活用し、2年間のゼミで自ら鍛える「問い」を考え、議論する。
第3週	リサーチのはじめかた(2)	『リサーチのはじめかた』「第2章 きみの問題は？」を活用し、2年間のゼミで自ら鍛える「問い」を考え、議論する。
第4週	リサーチのはじめかた(3)	『リサーチのはじめかた』「第3章 成功するプロジェクトを設計する」を活用し、2年間のゼミで自ら鍛える「問い」を考え、議論する。
第5週	わたしの「問い」発表会(1)	これまでに作成してきた「問い」をクラス全体で発表・討議する。
第6週	わたしの「問い」発表会(2)	これまでに作成してきた「問い」をクラス全体で発表・討議する。
第7週	全体フィードバック	前回までの発表会を振り返り、各自の方向性を見定めるためのフィードバックを実施する。
第8週	「問い」を深める―社会学と格闘する・前半戦(1)	『21世紀を生きるための社会学の教科書』「第1章　想像力―自分が作ったわけではない世界で行為すること」を輪読し、自身の「問い」とのつながりを考える。
第9週	「問い」を深める―社会学と格闘する・前半戦(2)	『21世紀を生きるための社会学の教科書』「第２章　理論―社会的なるものを思考する」を輪読し、自身の「問い」とのつながりを考える。
第10週	「問い」を深める―社会学と格闘する・前半戦(3)	『21世紀を生きるための社会学の教科書』「第３章　社会―２１世紀を生きる人間」を輪読し、自身の「問い」とのつながりを考える。
第11週	「問い」を深める―社会学と格闘する・前半戦(4)	『21世紀を生きるための社会学の教科書』「第４章　歴史―巨人の肩の上に立つ」を輪読し、自身の「問い」とのつながりを考える。
第12週	報告会事前準備(1)　(書評)論文の書き方	論文の書き方に関するレクチャーおよび研究報告会にむけた個人ワークを実施する。
第13週	報告会事前準備(2)　先行研究の集め方	先行研究群構築にまつわるレクチャーおよび研究報告会にむけた個人ワークを実施する。
第14週	研究計画報告会(1)	書評論文執筆にむけた研究計画報告会を開催する。
第15週	研究計画報告会(2)	書評論文執筆にむけた研究計画報告会を開催する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅰ（加藤クラス）						
担当教員	加藤　裕明	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

近年、学校改革の哲学として「学びの共同体」が全国に広がっています。
「専門演習Ⅰ」（加藤ゼミ）では、「学びの共同体」の哲学による学校改革をテーマとして、テキスト（佐藤学『学校を改革する』）に関するゼミ生のレポートをもとに対話します。学生は「問い」を立て、レポートを書き、対話するスキルを身につけることができます。

到達目標

「専門演習Ⅰ」によって、受講者は以下に関する知識・能力・態度等を習得することが期待されます。

① 現代の学校教育の問題を説明することができる。
② 学校改革のための「学びの共同体」の哲学について説明することができる。
③ 「社会に開かれた学校」「地域とともにある学校」について説明することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。	3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
①課題レポート１（テキストに関するレポート）の提	35%		
②課題レポート２（「学びの共同体」の授業を実際に	35%		
③ゼミ活動でのリアクションペーパー提出、積極的な	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『新版　学校を改革する』』	佐藤学	岩波ブックレット	2023	978-4-00-271078-5	

参考書等

なし

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

加藤は、札幌市立高等学校に30年間勤務し、教科指導、ＨＲ指導、部活動指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきました。そしてこの間、演劇部活動、演劇教育の実践を質的方法によって研究し、博士学位（Ph.D教育学）を取得しました。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習：ゼミ当日までに、全員（レポート発表者だけでなく）必ずその日のテキスト範囲を読んでおきましょう。 復習：その日発表のあったレポートについて、読み直し、テキストと対比させながら、仲間のレポートの良い点についてまとめ、自分のレポートに活かしましょう。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

パソコンは毎回持参してください。スマホ不可。リアクションペーパーは、PCからWordで毎回提出していただきます。
「地域課題研究Ⅰ」と連動させ、札幌市内の中学校・高校等へのフィールドワークに行き、「学びの共同体」のビジョンと哲学にもとづいた授業改革、学校改革を現在進行形で学びます。また、「日本一の公教育を目指すまち」のフレーズで有名な、安平町へのフィールドワークを

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業のすすめ方、課題レポートの書き方、ファシリテーションのすすめ方、評価等について説明する。また、レポートの分担範囲を決める。
第2週	21世紀の社会と学校	テキスト『新版　学校を改革する』範囲１を読み、第四次産業革命が進行する現代において、なぜ教育のイノベーションが必要か、学生のレポートをもとに対話する。
第3週	「学びの共同体」のヴィジョンと哲学	テキスト『新版　学校を改革する』範囲2を読み、「学びの共同体」のヴィジョンと哲学について、学生のレポートをもとに対話する。
第4週	「学びの共同体」の活動システム	テキスト『新版　学校を改革する』範囲3を読み、「学びの共同体」の活動システムについて、学生のレポートをもとに対話する。
第5週	協同的学びによる授業改革	テキスト『新版　学校を改革する』範囲４を読み、「協同的学びによる授業改革」について、学生のレポートをもとに対話する。
第6週	教師間の同僚性の構築	テキスト『新版　学校を改革する』範囲5を読み、「教師間の同僚性の構築」について学生のレポートをもとに対話する。
第7週	保護者との連帯、教育委員会との連携	テキスト『新版　学校を改革する』範囲6を読み、「保護者との連帯、教育委員会との連携」について、学生のレポートをもとに対話する。
第8週	国内外のネットワーク	テキスト『新版　学校を改革する』範囲7を読み、学びの共同体の、「国内外のネットワーク」について、学生のレポートをもとに対話する。
第9週	中間まとめ	「学びの共同体」に関し、わかったこと、わからなかったことについて対話する
第10週	地域にパイロットスクールをつくろう	テキスト『新版　学校を改革する』範囲8を読み、地域における学びの共同体の「パイロットスクールづくり」について、学生のレポートをもとに対話する。
第11週	中学における学びの共同体の実践に学ぶ	「学びの共同体」を実践する中学における授業研究会に参加し、学生のレポートをもとに対話する。
第12週	高校における学びの共同体の実践に学ぶ	「学びの共同体」を実践する高校における授業研究会に参加し、学生のレポートをもとに対話する。
第13週	授業の中の子どもの学び	「北海道学びのネットワーク」等に参加し、授業の中の子どもの学びを見とる目について、学生のレポートをもとに対話する。
第14週	授業リフレクション	「北海道学びのネットワーク」等に参加し、授業リフレクションの実際を体験し、学生のレポートをもとに対話する。
第15週	ふりかえり	「学びの共同体」とその実践について、子どもの姿から学んだことを学生のレポートをもとに対話する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅰ（金昌震クラス）						
担当教員	金　　昌震	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、北海道浦河町にある「べてるの家」でのフィールドワークを通じて、「生きづらさ」や「障害」とともに暮らす人々の実践と語りから、地域共生の社会的条件を考察する。当事者研究、精神医療、ケアの文化、共同体と個人、制度と実践の関係に注目し、参与観察と記述を通じて社会学的に分析・表現する力を養う。

到達目標

1．「べてるの家」の実践に関する理解を深める。
2．当事者研究の思想と方法を概観できる。
3．精神障害・ケア・地域包摂に関する社会学的視点を獲得する。
4．調査倫理に配慮した参与観察・記述ができる。
5．フィールドでの体験をもとに、分析・報告・発信ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・介護・福祉・家族・観光・スタディツアーなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用））

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加の度合い（発表・コメント・ディスカッ	30%		
文献レビューおよびディスカッションへの貢献	30%		
レポート課題と最終発表	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『べてるの家の「非」援助論』	浦河べてるの家	医学書院	2002	978-4-260-33210-1	

参考書等

授業中に紹介し、必要に応じて配布する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

国立大学で研究員として社会調査の業務に従事。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
文献精読、レジュメ作成、事前ディスカッションなど	2時間から3時間程度/1回

受講時の注意事項

・やむを得ない事態などを除き、報告担当回の欠席は認めない。
・ゼミ中にタスクをクリアすること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：べてるの家とは何か	地域概要、映像資料・紹介文の読解、目的共有
第2週	社会学的フィールドワークとは何か	方法論（参与観察・記述・倫理）導入
第3週	「当事者研究」とは何か	文献講読（熊谷晋一郎、向谷地生良など）
第4週	社会的排除と包摂の視点	福祉社会学、共生社会の理論的理解
第5週	テーマ設定と調査設計	関心領域の明確化、問いの立案
第6週	調査準備とガイド作成	観察項目、インタビュー項目の設計
第7週	現地フィールドワーク①：べてる訪問	日常の観察、当事者との交流（1回目）。夏休み中に実施。
第8週	現地フィールドワーク②：べてる訪問	作業所、当事者研究会、語りの記録（2回目）。夏休み中に実施。
第9週	現地フィールドワーク③（任意）	可能であれば追加訪問・聞き取り
第10週	データ整理と初期分析	メモの共有、グラウンデッド記述法の導入
第11週	小グループ報告会	データの扱い方を習得する。
第12週	データ分析②	テーマごとに気づきや仮説の発表
第13週	報告書の構成と執筆ワークショップ	序論・方法・本論・考察の構成づくり
第14週	成果発表準備	スライド作成、プレゼン練習
第15週	成果発表・ふりかえり	研究成果の口頭発表と総括討議
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅱ（西浦クラス）						
担当教員	西浦　功	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

次年度の卒業研究への導入として研究方法論の基礎を学ぶとともに、社会福祉のしくみについての理解を深めるための文献購読とディスカッションを通じて、社会福祉的な観点から自分の問題関心を深め、問題解決について柔軟に考察を深める力を身につけることを本科目の目的とする。

到達目標

① 研究方法の基礎を理解し、自分なりの方法で応用することができる。
② 研究上の重要なキーワードについて、複数の視点から理解を深めることができる。
③ 上記をふまえて、自分の発見した社会課題に対して複眼的な視点から解決策を提案することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
発表内容・グループワークへの参加・予復習課題への	５０		
期末レポート	５０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

山田昌弘、2020、『日本の少子化対策はなぜ失敗したのか？』光文社新書.
井出栄策、2024、『ベーシックサービス』小学館新書.
神屋高雪、2014、『“町内会”は義務ですか？』小学館新書.

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業計画の後半部分では、主として文献購読を通じて現代社会の課題や対応策について理解を深める。自分が発表担当する章については事前に良く読み込み、専門用語の語義を確認するほか、ゼミ発表者に対する質問や意見についてまとめておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。またレポートについては後日担当教員からフィードバックを行うので、改善を要する点についてきちんと確認すること。

アクティブ・ラーニング情報

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	研究の基本を学ぶ①	前期期末レポート課題の振り返り
第2週	研究の基本を学ぶ②	研究とは何か
第3週	研究の基本を学ぶ③	多様な考え方を意識・共有する
第4週	研究の基本を学ぶ④	昔と今の比較から考える
第5週	研究の基本を学ぶ⑤	国内外の比較から考える
第6週	日本の少子化対策を考える①	日本の少子化対策の失敗
第7週	日本の少子化対策を考える②	欧米中心主義的発想の陥穽
第8週	日本の少子化対策を考える③	日本で有効な少子化対策は可能か？
第9週	ベーシックサービスを考える①	私の幸せとあなたの幸せは矛盾するか？
第10週	ベーシックサービスを考える②	できる改革とできない改革
第11週	ベーシックサービスを考える③	真のライフセキュリティを目指して
第12週	町内会のあり方を考える①	町内会は入らなくてもいいのか？
第13週	町内会のあり方を考える②	町内会は必要か？
第14週	町内会のあり方を考える③	町内会の新たなかたちを提案する
第15週	後期の振り返りとレポート作成指導	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅱ（西脇クラス）						
担当教員	西脇　裕之	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「専門演習Ⅰ」に引き続き、コミュニティFMと歴史的建造物をテーマとして、資料講読、ラジオ番組制作、観察調査を行います。
この授業の目標は地域社会における「場所」＝広義のメディアをめぐる問題について、利用者と管理者の立場に立って理解することです。
「地域課題研究Ⅱ」の授業と連動しつつ、コミュニティFMの番組制作と歴史的建造物調査の成果をとりまとめていきます。
後半では、4年次の「専門演習Ⅲ・Ⅳ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」に向けて卒業論文のテーマをしぼり、研究計画を立てていきます。

到達目標

1．歴史的建造物についての資料講読と訪問調査を通して歴史的建造物の保存と活用をめぐる課題を指摘することができる。
2．コミュニティFMの番組制作を通して、公共的なメディアにふさわしいコミュニケーションの作法を身につける。
3．コミュニティFMの番組制作と歴史的建造物調査の成果をレポートにまとめることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業、施設、行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
コミュニティFM番組制作への貢献	40%		
調査・報告の出来栄え	30%		
期末レポート	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『北海道建築　北の大地に根づく建物と暮らし』	角 幸博、荒井宏明	トゥーヴァージンズ	2024	9784867910191	

参考書等

札幌市まちづくり政策局都市計画部地域計画課『歴史を活かした景観まちづくりガイド』（札幌市ホームページにて公開）
赤谷正樹（著）『まち歩き　札幌の歴史』北海道新聞社
越野 武（著）『札幌クラシック建築追想』亜璃西社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習=テキストや資料を事前に読み、疑問点や意見をまとめる。また、番組の企画制作と調査に向けた事前準備を行う。 復習=番組制作の反省、授業の振り返りと活動の成果を整理する。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

毎月第4火曜日にコミュニティFM三角山放送局（西区）での生放送番組の企画・制作・放送を行います。
また、歴史的建造物の観察調査のために教室外へ出かける場面があります。
いずれもゼミ集団としての活動ですので、時間や規律をしっかり守って行動することが重要です。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	後期ガイダンス コミュニティFM番組（9月）の企画	後期のゼミ活動についてのガイダンスを行います。 9月23日に放送する番組の企画を立て、進行表を作成します。
第2週	コミュニティFM番組（9月）の放送	9月23日にコミュニティFM三角山放送局で行う1時間の生放送の活動に振り替えます。
第3週	歴史的建造物調査についての中間まとめ	前期の専門演習Ⅰで調査できたことを整理し、補足すべき点を考えます。
第4週	卒業研究の流れをつかむ	卒業研究の流れを把握して、研究テーマについて考えます。
第5週	コミュニティFM番組（10月）の企画	10月22日に放送する番組の企画を立て、進行表を作成します。
第6週	コミュニティFM番組（10月）の放送	10月28日にコミュニティFM三角山放送局で行う1時間の生放送の活動に振り替えます。
第7週	歴史的建造物についての補足調査	ここまでの歴史的建造物調査について、文献資料調査や現地調査が必要であれば補足します。
第8週	コミュニティFM番組（11月）の企画	11月25日に放送する番組の企画を立て、進行表を作成します。
第9週	コミュニティFM番組（11月）の放送	11月25日にコミュニティFM三角山放送局で行う1時間の生放送の活動に振り替えます。
第10週	卒業研究に向けて問いを育てる	各自の卒論のテーマを考えて発表してもらいます。特にリサーチ・クエスチョンについて検討します。
第11週	歴史的建造物調査の報告資料を作成する	年度末の地域課題研究の報告会へ向けて、プレゼン資料を作成していきます。プレゼン資料は冬休み中にとりまとめができるようにします。
第12週	コミュニティFM番組（12月～3月）の企画	12月～3月に放送する番組の企画を立て、進行表を作成します。
第13週	コミュニティFM番組（12月）の放送	12月23日にコミュニティFM三角山放送局で行う1時間の生放送の活動に振り替えます。
第14週	歴史的建造物調査についてのプレゼンテーション資料のまとめ	地域課題研究のプレゼン資料をまとめ、各自のレポートを作成します。
第15週	コミュニティFM番組（1月～3月）の放送	1月27日、2月24日、3月24日にコミュニティFM三角山放送局で行う1時間の生放送の活動に振り替えます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅱ（金鎔基クラス）						
担当教員	金　鎔基	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ビジネスパーソンは正解が明確ではない状況下で、様々な現象への意思決定を行う必要がある。ビジネスにおける現象に対して経営理論が持つ普遍性で対処できるようになる拠り所（思考の軸）を手に入れることを目的として経営理論を学ぶ。経営学は経済学、心理学（マクロとミクロ）、社会学から成り立っているといわれている。本科目ではその中でもミクロ心理学ディシプリンの経営理論および社会学ディシプリンの経営理論を、教科書を中心に学術書や論文の輪読を行いながら学ぶ。たくさんの企業や経営者、従業員、会社組織などに、普遍的に当てはまり、実証研究に堪えうるビジネスの真理法則(How、When、Why)を学ぶ。また、卒業論文の指導も個別面談を中心に行う。

到達目標

① ビジネスの現象に対処できる拠り所（思考の軸）としての経営理論を理解できるようになる
② ミクロ心理学ディシプリンの経営理論が理解できるようになる
③ 社会学ディシプリンの経営理論が理解できるようになる
④ 卒業論文の研究概要を作成し、プレゼンテーションとディスカッションできるようになる

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（準備学習・参加態度等）	50%		
アウトプット（プレゼンテーション・レポート）	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『世界標準の経営理論』	入山章栄	ダイヤモンド社	2019	9784478109571	

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
教科書の該当箇所をしっかり読み自分なりの意見を考えておくこと。卒業論文の作成では、個別指導を行うので指定されたパートをしっかり書いてくること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックは授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	オリエンテーション　/　卒業論文研究概要作成
第2週	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論①	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：リーダーシップの理論
第3週	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論②	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：モチベーションの理論
第4週	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論③	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：認知バイアスの理論
第5週	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論④	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：意思決定の理論
第6週	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論⑤	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：感情の理論
第7週	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論⑥	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論：センスメイキング理論
第8週	中間まとめ	中間まとめ　/　卒業論文研究概要中間報告会
第9週	社会学ディシプリンの経営理論①	社会学ディシプリンの経営理論：エンベデッドネス理論
第10週	社会学ディシプリンの経営理論②	社会学ディシプリンの経営理論：「弱いつながりの強さ」理論、ストラクチャル・ホール理論
第11週	社会学ディシプリンの経営理論③	社会学ディシプリンの経営理論：ソーシャルキャピタル理論
第12週	社会学ディシプリンの経営理論④	社会学ディシプリンの経営理論：社会学ベースの制度理論、資源依存理論
第13週	社会学ディシプリンの経営理論⑤	社会学ディシプリンの経営理論：組織エコロジー理論、エコロジーベースの進化理論
第14週	社会学ディシプリンの経営理論⑥	社会学ディシプリンの経営理論：レッドクイーン理論
第15週	まとめと振り返り	まとめと振り返り　/　卒業論文研究概要発表会
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅱ（津幡クラス）						
担当教員	津幡　笑	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ゼミを通じて、法律のみかた、考え方を学びます。
毎回、民事法を中心とする 1 つの判例を取り上げ、担当者が事前に調べた事案や判決内容、学説などの概要を報告し、それについて出席者全員で議論します。
報告された判例に関係する民事法の基礎知識を全員で確認します。
取り上げるテーマには、「地域」の視点などを適宜取り入れるように努めます。

到達目標

公務員試験、宅建士試験など各種試験に対応する民事法の基礎知識を習得します。
民間就職希望の学生も、企業法務の基礎知識を学び、契約書を読んでその内容を理解できるようになることを目指します。
将来社会で活躍するために必要となるリーガルマインド(法的思考)を身につけます。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
担当報告とそれをまとめたレポート	70%		
毎回の出席・授業発言状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
報告担当者は２週間以上前から事前に教員と個別面談をしながら報告準備します。報告終了後はレポートを提出します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

報告担当者だけでなく全員が議論に参加すること。ただ座っているだけでは出席点として評価しません。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、ディスカッションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンス・報告分担決定
第2週	法令・判例・文献の調べ方	法令・判例・文献の調べ方
第3週	卒論テーマの選び方（1）	卒論に向けて準備をしよう
第4週	第１報告	
第5週	第２報告	
第6週	第３報告	
第7週	第４報告	
第8週	第５報告	
第9週	第６報告	
第10週	第７報告	
第11週	第８報告	
第12週	第９報告	
第13週	第１０報告	
第14週	卒論テーマの選び方（2）	卒論に向けて準備をしよう
第15週	まとめと到達度チェック	まとめと到達度チェック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅱ（仙波クラス）						
担当教員	仙波　希望	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「論文を書く、をとりあえずやってみる。」
はいどうぞ、と言われてみても、長大な卒業論文の書き上げることははなはだ難しい。その準備作業として来年度の卒論完成に先んじ、本演習では書評論文にまつわる作業――資料読み込み、先行研究設定、意義や課題の抽出、レジュメをとおした構造化、実際の執筆にディスカッション、リバイス・リバイス・リバイス…――を半期の間一貫して実践し、最終的な完成まで漕ぎ着けることを唯一にして最大の目標とします。こうした個人作業と並行して、前期から継続する「問いの深掘り」議論も行います。

到達目標

【1】レジュメ作成、口頭発表・ディスカッションをつうじて、アカデミックスキルの基礎を習得できる。
【2】書評論文執筆にむけた個人ワークおよびプレゼンテーションによって、自ら課題を見出し、提示する力をもつことができる。
【3】書評論文執筆をつうじて汎用的なライティング・スキルを獲得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加の度合い（発表・コメント・ディスカッ	20		
成果物（発表会・報告会レジュメ）	20		
書評論文	60		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』			3	837257	
				510310	

参考書等

随時、それぞれの「問い」に則しながら、授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

広告企業においてコピーライター・ディレクター業務に従事。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
文献精読、レジュメ作成、リサーチクエスチョンの設定、先行研究群の構築および読み込み、書評論文対象書籍の確定。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・不測の事態や突然の体調悪化などを除き、報告担当回の欠席は認められません。
・「宿題」ではなく、積極的な自らの「課題」として、それぞれのタスクをこなしていってください。
・Google FormによるQ&Rシステムを活用する。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	書評論文執筆にむけたスケジューリング・タスク設定	前期で設定した研究計画の進捗状況確認、および今後のスケジューリング等を行います。
第2週	対象書籍に関するブリーフィング	書評論文対象書籍の全体レジュメ報告にむけて、各種必要・補足事項を整理し、ハンドアウトを精緻化します。
第3週	対象書籍全体レジュメ検討会(1)	書評論文対象書籍の内容についての報告・ディスカッションを実施します。
第4週	対象書籍全体レジュメ検討会(2)	書評論文対象書籍の内容についての報告・ディスカッションを実施します。
第5週	「問い」を深める―社会学と格闘する・後半戦(1)	「第５章　問い―社会学的想像力を育むには」『21世紀を生きるための社会学の教科書』を輪読し、自身の「問い」とのつながりを考えます。
第6週	「問い」を深める―社会学と格闘する・後半戦(2)	「第６章　リサーチ―経験的なものに批判的に関与する」『21世紀を生きるための社会学の教科書』を輪読し、自身の「問い」とのつながりを考えます。
第7週	構成検討に関するレクチャー	書評論文を書く上の見取り図である構成に関する方法論についてレクチャーします。
第8週	書評論文初回構成検討会(1)	書評論文を書く上の見取り図である構成の初案を発表・検討・議論します。
第9週	書評論文初回構成検討会(2)	書評論文を書く上の見取り図である構成の初案を発表・検討・議論します。
第10週	「問い」を深める―社会学と格闘する・後半戦(3)	「第７章　トラブル―不平等の苦しみ」『21世紀を生きるための社会学の教科書』を輪読し、自身の「問い」とのつながりを考えます。
第11週	「問い」を深める―社会学と格闘する・後半戦(4)	「第８章　ビジョン―社会学的希望を創造する」『21世紀を生きるための社会学の教科書』を輪読し、自身の「問い」とのつながりを考えます。
第12週	執筆に向けたワークショップ	実際に執筆するためのワークショップを行います。
第13週	書評論文最終構成発表会(1)	書評論文構成の最終案を発表・検討・議論します。
第14週	書評論文最終構成発表会(2)	書評論文構成の最終案を発表・検討・議論します。
第15週	書評論文提出・全体講評	書評論文を提出し、全体講評を行い、卒業研究への架橋をはかります。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅱ（加藤クラス）						
担当教員	加藤　裕明	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「専門演習Ⅱ」（加藤ゼミ　後期）では、「専門演習Ⅰ」、「地域課題研究Ⅰ、Ⅱ」と連動し、演習をすすめます。これは、4年生での卒業論文執筆の準備となるものです。前期に「専門演習Ⅰ」「地域課題研究Ⅰ」において学んだフィールドワークをさらに具体的に使いこなすことができるようにするための場です。学生のみなさんには、自分の研究の「問い」を明確にし、その手がかり（データ）を集めることができるよう、フィールドワークを実践していただきます。その上で、各自の卒業論文のテーマを絞りこみ、研究計画を立案し、ゼミ内で検討していきます。

到達目標

「専門演習Ⅱ」（加藤ゼミ　後期）によって、学生のみなさんは、以下のような知識や能力、姿勢を習得することが期待されます。

①中学校や高校の「学びの共同体」の授業に参加し、「学びの共同体」のビジョンとは何か、について説明できる。
②「学びの共同体」の研究会に参加し、その中の子どもの学びについて説明できる。
③卒業論文のための研究計画を立案できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、理解的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・介護・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
①課題レポート（問題関心）の提出・発表・修正	50%		
②ゼミ活動での積極的な参加・発言、リアクション	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし、授業内で適宜、資料を配布します。ただし、専門演習Ⅰで使用した『新版　学校を改革する』は引き続き活用します。』					

参考書等

①「専門演習Ⅰ」で使用したテキスト『新版　学校を改革する』は、「専門演習Ⅱ」でも活用します。必ず持参してください。
②北海道安平町公式ホームページ（https://www.town.abira.lg.jp/chiikishinko/ijupr/edu）「あびら教育プラン」
③株式会社Founding　Baseホームページ（https://foundingbase.jp/n/na5d8ab2d12a8）「日本一の公教育を目指すまち」

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

加藤は、札幌市立高等学校に30年間勤務し、教科指導、ＨＲ指導、部活動指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきました。そしてこの間、演劇部活動、演劇教育を質的方法によって研究し、博士学位（PhD.教育学）を取得しました。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習：ゼミの前に必ずその日のテーマに関わるテキストの範囲を読んでおきましょう。 復習：その日発表のあったレポートについて読み直し、テキストと対比させながら、その良い点についてまとめ、自分のレポートに活かしましょう。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニングを中心とする演習です。卒業論文を目標に、各自の主体的な参加を望みます。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、フィールドワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業の位置づけ、スケジュール、課題、評価等の説明
第2週	卒業論文とは何か	論文とレポートの違いについて考える
第3週	卒業論文のテーマ設定①	各自の卒業論文のテーマを発表し、対話する。
第4週	卒業論文のテーマ設定②	各自の卒業論文のテーマを絞り込む。
第5週	問題関心	「問題関心」について、学び、対話する。
第6週	フィールドワークの方法	フィールドワークの方法および参与観察法と半構造化インタビュー法について学ぶ。
第7週	研究計画の立案①	研究計画とは何か、について学び合い、研究計画を立案する
第8週	研究計画の立案②	卒業論文のための各自の「問題関心」をレポートにして発表する
第9週	研究計画の中間発表	各自の「問題関心」について、ゼミ内で学び合う。
第10週	フィールドワークと調査の実施①	学校や地域へのフィールドワークを行い、対象者とのラポール形成をはかる。
第11週	フィールドワークと調査の実施②	「学びの共同体」の学校をフィールドワークし、各自の卒論テーマを絞り込む。
第12週	フィールドワークと調査の実施③	「学びの共同体」の学校をフィールドワークし、各自の卒論テーマに合わせて半構造化インタビューを実施する。
第13週	フィールドワーク結果のまとめ①	学びの共同体を実践する中学・高校の参与観察によって得られた結果を報告し合い、ゼミ内で対話する
第14週	フィールドワーク結果のまとめ②	安平町の「地域教育経営」の参与観察結果によって得られた結果を報告し合い、ゼミ内で対話する
第15週	「専門演習Ⅱ」のまとめ	各自の卒業論文執筆に向けた研究計画とフィールドワーク全体のまとめを行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅱ（金昌震クラス）						
担当教員	金　　昌震	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 3006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本ゼミでは、地域社会学の視点から現代の地域に関わる諸課題を捉え、学生自身の関心に基づいた調査と研究を行う。また、学生が地域社会に関する社会学的な問いを立て、自ら調査を行い、論理的な分析と文章表現によって研究成果をまとめる力を育成する。

到達目標

1．自分の関心に基づいた研究テーマを明確にできる。
2．先行研究を調べ、問いを立てる力を取得できる。
3．社会調査の基本的な方法を理解し、実践できる。
4．研究成果を適切に表現し、論文としてまとめるライティング・スキルを獲得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加の度合い（発表・コメント・ディスカッ	40		
仮論文（期末課題）	60		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『新版　論文・レポートの基本』	石黒圭	日本実務出版社	2024	978-4-534-06080-8	

参考書等

授業中に提示し、配布する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

国立大学で研究員として社会調査の業務に従事。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
文献精読、レジュメ作成、事前ディスカッションなど	2時間から3時間程度/1回

受講時の注意事項

・やむを得ない事態などを除き、報告担当回の欠席は認めない。
・ゼミ中にタスクをクリアすること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーションと自己紹介	ゼミの目的と流れの確認。研究テーマ設定の重要性。学生の関心領域の共有。
第2週	問いを立てる：研究テーマの設定	良い問いとは何か。興味関心からテーマを絞り込むワーク。仮の問いを一文で立ててみる。
第3週	先行研究を探す（文献検索入門）	学術文献の種類と質の違い。図書館データベース・Google Scholarの使い方。先行研究の簡単なレビュー演習などを行う。
第4週	問いの検証と絞り込み	問いの具体化・定義づけ。関連研究との差異・貢献の整理。指導教員との個別相談。
第5週	研究計画書の作成	研究目的・問い・方法・スケジュールの整理。フィードバックと再構成、提出（小レポート）。
第6週	調査法の基礎①：量的調査とは	質問紙調査の設計方法。サンプリングと統計的処理の理解。
第7週	調査法の基礎②：質的調査とは	インタビュー・観察・参与観察。インタビューガイドの作成演習。
第8週	研究倫理とフィールドへの入り方	インフォームド・コンセント。プライバシーと匿名性の確保。危機管理・トラブル対応。
第9週	調査設計の発表とフィードバック	各自の調査方法・対象の発表。互いに質問・助言を行う。調査計画の最終化。
第10週	中間報告①：調査の進捗と仮分析	フィールドでの経験報告。初期分析結果と気づきの共有。方向修正の必要性確認。
第11週	中間報告②：インタビューまたは統計処理結果の検討	エビデンスの整理と表現方法。考察のフレームの検討。
第12週	論文構成の立て方と執筆練習①	序論・本論・結論の基本構造。各セクションの役割と流れ。論文草稿の一部（序論）の執筆。
第13週	論文執筆練習②と個別指導	添削フィードバック。書き言葉・接続表現の工夫。各自の進捗確認と壁打ち相談。
第14週	プレゼン発表会①	研究の要点をまとめて発表（10分）。他者からのコメント・質疑応答。
第15週	プレゼン発表会②とまとめ	残りの発表と全体討論。今後の修正ポイント確認。本格的な論文完成に向けての最終スケジュール確認。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	北海道の歴史						
担当教員	中島　宏一	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3201		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

北海道の歴史について、総合的に学習できるような情報を提供する。そのうえで、足もとの生活文化史に焦点をあてながら、そのような物事にも歴史があり、相互に関わりあいながら人間社会が成り立っていることを理解するように努める。開拓期の環境や衣食住、商工業など具体的な事例の変遷を通して、歴史を身近なものとして再認識する機会とする。さらに、それらを日本の歴史の中に位置づけることで、北海道が歩んできた歴史の独自性と普遍性を学ぶとともに、歴史を学ぶことが単に過去を学ぶことではなく、今を生きる皆さんの現在、そして未来を考えるうえでの重要な基盤であることへの理解を促す授業とする。

到達目標

①北海道の歴史の全体的な流れについて、正しい知識を身につける。
②身近な生活習慣、社会・経済環境などについて、具体的な対象を事例として挙げ、多様な角度から歴史を見ることができる習慣を身につける。
③近世以来の日本における北海道の位置づけを確認したうえ、近代における北海道開発を経て、現在の北海道の生活文化が形づくられてきた過程を学び、未来の北海道を考える素地を養う。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
出席	60		
小レポート	20		
授業まとめレポート	20		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『ありません。必要に応じて資料を紹介します。』					

参考書等

授業内で紹介します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

博物館学芸員

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内に提示した資料をよく読み、授業後は内容をノートなどにまとめるか、提示資料をファイルしておいてください、北海道の歴史について、第１週目の授業で提示する「授業計画」のテーマ別内容（本シラバス）の復習に心がけてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

本授業は歴史学習ですが、北海道が歩んできた道程を学ぶことで、北海道を学び、知り、北海道を語ることができる人材になることを期待しています。つまり、本授業は「地元学」を意識して進めます。
本授業がきっかけとなり、皆さんが未来の北海道を創造する人間になっていくことを希望します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	○ガイダンス（授業計画、評価基準） ○北海道の歴史の始まり～旧石器文	○授業計画、小レポート課題提出、試験（レポート課題） ○北海道には１２０万年の歴史がある ○旧石器文化、縄文文化、北海道独自の文化形成（続縄文文化、オホーツク文化、擦文文化）
第2週	○北海道独自の文化～アイヌ文化	○アイヌ文化の形成 ○アイヌの生活文化を脅かした和人の進出 ○ロシアの進出とアイヌ民族
第3週	○北海道の近世①～漁業の発達と日本海海運の隆盛	○西蝦夷地における ニシン漁 ○西廻り航路（北前船）の整備 ○ニシンに付加価値（ニシン粕）を求めた近江商人
第4週	○北海道の近世②～外国の進出と北方防備	○列強の進出 ○蝦夷地開拓論の始まり ○ロシアの脅威
第5週	○北海道の近世③～近代への道	○東北諸藩の蝦夷地警衛に見る幕府の蝦夷地政策 ○蝦夷地の幕府直轄とアイヌへの風当たり ○蝦夷地開発の始まり
第6週	○北海道の近代①～北海道開発の始まり	○開拓使の設置 ○開拓使１０年計画 ○開拓長官黒田清隆による札幌本府の建設
第7週	○北海道の近代②～札幌農学校	○クラーク博士 ○札幌農学校の開校 ○教育方針と卒業生
第8週	○北海道の近代③～明治初期の開拓の担い手、移民と屯田兵	○北海道の近代化は、本州府県の移住者たちのマンパワーで進められた ○士族移住 ○屯田兵
第9週	○北海道の近代④～開拓者たちのくらし	○仲間と連帯で開墾作業 ○本州以南と異なる自然環境 ○沿岸から内陸へ進む開拓
第10週	○札幌建設～京の都をイメージした街づくり	○開拓判官島義勇の札幌建設構想 ○開拓長官鍋島直正と佐賀藩の近代技術 ○桑園開墾
第11週	○炭鉄港～北海道の近代化と経済を支えた産業	○炭鉱開発は九州から ○北海道の炭鉱開発 ○炭鉱（ヤマ）の暮らし
第12週	○北海道のお酒の話	○明治から昭和初期の酒造 ○本州とは異なる酒造の展開 ○北前船で運ばれた酒
第13週	○北海道の郷土料理	○白米を腹いっぱい食べた漁村の食事 ○雑穀米を食べた農村の食事 ○洋食の普及
第14週	○北海道がスイーツ王国といわれる理由	○北海道酪農の始まり ○北海道酪農の父、エドウイン・ダン ○酪農の普及にアイスクリーム
第15週	○街の形成と住宅の改良	○定住者の増加による街の発達 ○通信と電気の普及 ○商業の発達
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	北海道の美術						
担当教員	中村　聖司	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3211		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

北海道における美術活動は、明治になってから道内主要都市を中心に活発化し、今日に至るまで多様な作家を輩出してきた。個人による制作に限らず、明治末からグループ展、大正期には公募展が始まり、なかには今日まで継続している団体もある。近年では芸術祭のような大きなアート・プロジェクトが実現されるようになった。また、道内各地の美術館も、美術の振興と普及に大きな役割を果たしてきた。しかしまた、明治以前からアイヌの人々が優れた造形を生み出し、また近世においても北海道ならではの美術が生まれていたことは見落とせない。
本講義ではこうした北海道美術の歩みをたどり、重要な作家や作品を深く知り、北方に開花した美術の成果を学ぶとともに、北海道の歴史や自然条件と美術との関係について理解する。

到達目標

①北海道の美術の流れの概略を理解できる。
②北海道美術の重要な作家とその作品について知ることができる。
③北海道の歴史や自然条件と、美術との関係について理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観（個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
意欲的に授業に取り組めたかを、各授業後の小課題	50%		
北海道美術史、作家についてのレポート（2,000字程	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

北海道立近代美術館編『ミュージアム新書』全30巻、北海道新聞社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

美術館学芸員としての実務経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に画集、インターネット等で次回テーマについて調べ、授業後には配付資料をもとにノートなどを整理をしてください。また関連した道内外の美術展覧会を調べ、可能であれば観覧してみてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各授業への取り組みと、最終レポートを同等に重視します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	北海道の美術・ハイライト	「北海道の美術」（特に近代）の重要な作品30点を、知ってもらうことが目的です。
第2週	近世の美術	近世（16世紀末～19世紀半ば）の北海道の美術について知ることが目的です。
第3週	幕末～明治の美術	北海道の幕末から明治時代（1850年代～1910年頃）の美術について知ることが目的です。
第4週	中原悌二郎とその時代	北海道生まれの美術家の中で、日本の近代美術史に大きな足跡を残した最初の人物・中原悌二郎（なかはらていじろう）と、彼に関連する同時代の美術について知ることが目的です。
第5週	画壇の形成と道外への進出	大正期（1910年代～1920年代）の北海道における美術活動について知ることが目的です。
第6週	三岸好太郎とその時代	日本の洋画史に大きな足跡を残した三岸好太郎と、彼が活躍した昭和初期（1920～30年代）の北海道の美術について知ることが目的です。
第7週	戦前、戦中の美術	戦前（1935[昭和10]年前後から1941年頃まで）から戦中（1941年頃から1945年まで）の北海道の美術について知ることが目的です。
第8週	抽象と具象	戦後（1945年から1950年代初め）の北海道美術における抽象表現と具象表現について知ることが目的です。
第9週	前衛グループの活動	北海道における1960年代から1970年代の前衛美術について知ることが目的です。
第10週	現代の美術	現代の北海道の美術について知ることが目的です。
第11週	工芸、建築、デザイン、写真	北海道の工芸、建築、デザイン、写真の主要な作家・作品について知ることが目的です。
第12週	北海道の美術館の活動	北海道立近代美術館を中心に、北海道における美術館の活動について知り、それが北海道の美術にとってどのような意義を持つのか理解することが目的です。
第13週	「縄文」と美術館	主に北海道の縄文文化について、美術館の視点から知ることが目的です。
第14週	「アイヌアート」と美術館	アイヌ民族の美術について、美術館の視点から知ることが目的です。
第15週	北方で美を考える	「北方」という言葉を道しるべに、北海道の美術における「美」についてより深く考える手がかりを探ります。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	北海道の産業						
担当教員	五味　宏	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3221		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本講義の目的は「北海道の産業」がどのような経緯をたどって変化してきたのかを学び、将来の発展に必要な必要な要素とは何か、理解することにあります。
また、講義の中での発言や提出文により、伝える力を養います。
講師は、札幌テレビ放送（株）＝ＳＴＶの報道局解説委員で、双方向（インタラクティブ）な授業運営が基本です。
教材は、ＳＴＶが制作した「見たい！知りたい！北海道」（2017年～2019年）などの番組を予定しています。
その番組を講義の中で視聴して、北海道に見合った事業や新しい産業の可能性について、掘り下げる視点を磨きます。
【なお、視聴する番組や、授業の内容については変更する可能性があります。ご容赦願います。】

2025年3月現在での、集中講義の日程は　8月28日（木）＝①②③　　29日（金）＝④⑤⑥　　9月1日（月）＝⑦⑧⑨　　9月4日（木）

到達目標

①相手に自分の考えを伝えられること。
②みんなと同じ意見ではなく、自分らしい、独自の考えを表現すること。
③社会に出たときに、自分の考えをしっかり伝えたり、周りから信頼されるために何が必要か、考えること。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力	3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
各回の課題提出	３０%		
提出した課題の完成度（＝視点）	４０%		
質疑応答の頻度	３０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

札幌テレビ放送（株）報道局の解説委員として、どさんこワイド朝のレギュラーコメンテーターとして、毎週火曜日と水曜日にニュースの解説をしています。また、小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻（専門職大学院）ビジネススクールの講師として「ジャーナリストの視点からみた企業変革」（15コマ）を担当しています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で習得した情報に加えて、各回のテーマをインターネット等で調べて、北海道の産業の特徴や強みをノートに書きだして、理解を深めてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

本講義では、テレビ番組を見て感じたことや、それを「北海道の産業」の強みとしてどう生かすか、考える事がポイントです。みんなと同じではなく、自分自身の意見や考え、独自の視点を持つことを高く評価します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	【北海道の産業とは？】	入門とガイダンス 【北海道のなりたち】について
第2週	【北海道の漁業】	【留萌とニシンと数の子】に学ぶ
第3週	【北海道の酪農】	【おいしい牛乳って？】
第4週	【北海道の農業】	【北見のスゴイにんじん】
第5週	【北海道の食】	【スープカレー・奥芝商店の経営変革】
第6週	【北海道から世界へ①】	【ライスボール・プレーヤー】
第7週	【北海道から世界へ②】	【札幌発！「フラワー・デザイン」】
第8週	【北海道の技術①】	【室蘭の製鉄とオリンピック】
第9週	【北海道の技術②】	【北海道が生んだ魔法の氷】
第10週	【産業と文化】	ソラタビ北海道【前編】ＶＴＲ創立60周年記念番組「ソラタビ北海道」完全版 2019年1月6日放送
第11週	【産業と文化】	ソラタビ北海道【後編】ＶＴＲ創立60周年記念番組「ソラタビ北海道」完全版 2019年1月6日放送
第12週	【北海道の産業】まとめ	まとめ
第13週	【北海道・ミライの産業①】北海道のSDGsと ソーシャル・ビジネス	北海道のＳＤＧｓはどうすすんでいるのか、解説します。 また、人口減少など、北海道の困りごとを解決し、事業化する「ソーシャル・ビジネス」を学びます。
第14週	【北海道・ミライの産業②】企業の森づくり、海の森づくり	環境にやさしい企業が、企業の森づくりを実践しています。中には、ブルーカーボンと言って海の森づくりに取り組む企業もあります。
第15週	【北海道・ミライの産業③】GX（グリーントランスフォーメーション）って何？	脱炭素化と経済成長の両立を目指す「GX」（グリーントランスフォーメーション）。 政府は2024年、北海道・札幌市など全国で４つの地域を「GX金融・資産運用特区」に選定しました。北海道や札幌市、道内経済界の狙いを学びます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽心理学						
担当教員	吉野　巌	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3421		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽の聴取（鑑賞）と音楽演奏に関わる認知過程について、認知心理学や認知科学の視点から考える。また、音楽学習に関わる生得的要因と環境的要因に目を向けるとともに、学習を促すために親や教師がどのようなことができるのか、発達・教育心理学の視点から考える。これらのトピックを通して、音楽心理学の研究方法についても触れる。

到達目標

1．音楽聴取や音楽演奏に関わっている認知機能や運動機能について理解し、用語や概念を正しく使うことができる。
2．音楽学習に関わる生得的要因と環境的要因について理解し、（将来の）指導者・音楽療法士、または養育者としてどのようなことができるのかについて考え、自分の言葉で表現することができる。
3．音楽家が技能を獲得し熟達していく過程について理解し、音楽家、（将来の）指導者・音楽療法士、または養育者としてどのようなことができるのかについて考え、自分の言葉で表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観を容認し（寛容性）、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点：毎回授業の終わりに、参加度確認と教員への	60 %		
グループワーク：グループワークでの個人の貢献度と	10 %		
最終レポート：提出状況、提出のタイミング、及びそ	30 %		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『演奏を支える心と科学』	リチャード・パーンカット／ゲーリー・E・マクファーソン	誠信書房	2011	978-4-414-30626-2	図書館での館内閲覧・複写可能

参考書等

星野悦子（編著）「音楽心理学入門」誠信書房 3,740円（第1回～第6回講義内容に関連）
谷口高士（編著）「音は心の中で音楽になる：音楽心理学への招待」北大路書房 3,080円（第1回～第6回講義内容に関連）
太田信夫（監修）中島・谷口ら（編著）「音響・音楽心理学」北大路書房 2,530円（第1回～第6回講義内容に関連）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
「授業計画」に示した「宿題（復習）」や、独自の興味に基づいた情報の探索や文献読解など	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

(1) 教科書を購入しない場合は、必ず図書館のカウンターで「音楽心理学の教科書」を借り、館内閲覧するか該当章を複写して、予習・復習に使ってください。
(2) 授業前半（第1～第6回）では、参考図書の内容に基づいて講義を行います。図書館で館内閲覧するか該当章を複写して、予習・復習に

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション 旋律の認知	(a)シラバス、授業計画の詳細の説明 (b)講義：音の高さの知覚、旋律の群化・体制化、復習（宿題）の説明
第2週	リズムの認知	(a)旋律の認知・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：拍節構造の認知、リズムパターンの認知、復習（宿題）の説明
第3週	調性・和声の認知	(a)リズムの認知・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：調性的体制化、調性の効果に関する実験、和声の認知、復習（宿題）の説明
第4週	音楽と感情(1)：音楽に込められた感情の認知	(a)調性和声の認知・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：音楽の感情的性格の認知、音楽の感情価に関する実験、音楽による気分の変化、復習（宿題）の説明
第5週	音楽と感情(2)：曲に込めた感情は聴き手に伝わっているのか	(a)音楽と感情(1)グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：音楽の感情のコミュニケーション（教科書第14章）、音楽鑑賞における比較聴取実験、復習（宿題）の説明
第6週	音楽が認知・行動に与える影響	(a)音楽と感情(2)グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：気分一致効果、モーツァルト効果、音楽による動機づけへの効果、復習（宿題）の説明
第7週	音楽的発達：遺伝と環境	(a)認知行動への影響・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：遺伝と環境の影響を示唆する知見（教科書第1章、第2章）、絶対音感、復習（宿題）の説明
第8週	音楽と脳：楽器訓練すると脳は発達するのか？	(a)音楽的発達・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：音楽の認知と演奏に関わる脳部位、楽器訓練と脳発達（教科書第5章）、失音楽症、復習（宿題）の説明
第9週	動機づけと演奏不安	(a)音楽と脳・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：動機づけの理論と練習（教科書第3章）、自己効力感・完全主義と演奏不安（教科書第4章）、復習（宿題）の説明
第10週	読譜と初見試奏	(a)動機づけと演奏不安・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：読譜の認知プロセス（教科書第7章）、初見試奏と校正者のエラー（教科書第9章）、
第11週	音楽技能の習得：練習	(a)読譜と初見試奏・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：練習とメタ認知（教科書第10章）、熟達者の認知や練習の特徴、復習（宿題）の説明
第12週	音楽の記憶：暗譜するには？	(a)音楽技能の習得・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：記憶の理論、音楽の符号化と表象、暗譜と記憶方略（教科書第11章）、復習（宿題）の説明
第13週	楽曲構造のコミュニケーション：楽曲の構造的特徴をどう聴き手に伝えるのか	(a)音楽の記憶・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：芸術的逸脱、楽曲の構造的特徴をどう聴き手に伝えるのか（教科書第13章）、復習（宿題）の説明
第14週	演奏における身体の動き：動きは大切！	(a)楽曲構造のコミュニケーション・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)講義：演奏者の動きと印象、映像の視覚的効果、演奏における身体の動きの生成（教科書第
第15週	全体の総括	(a)演奏における身体の動き・グループワーク：宿題をもとに小グループでディスカッションを行う。 (b)総括：ディスカッション「音楽心理学を自分の演奏や音楽鑑賞にどのように生かしていく
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	国際社会と政治						
担当教員	若月　秀和	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3241		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

20世紀の二度にわたる世界大戦と米ソ冷戦を経て、国際社会の相貌は、ナショナリズムの拡がりとグローバル化、国家間の相互依存の深化により、大きく変化した。特に、近年は中東や東アジアの国際情勢は不穏となる一方、米国など先進諸国を中心に排他的なナショナリズムが台頭してきている。このような不穏で混沌とした現状の国際社会をより的確に把握するため、この講義では、外交史的アプローチに則って、17世紀の主権国家体制の成立から冷戦後の国際政治史を概観しつつ、現代の世界を世界を考察したい。そして、この授業を通じて、履修生が、現在、私達の目前で日々展開される国際政治の事象を、長期的な国際関係史の文脈で把握することで、より冷静かつ大局的な視点で理解する能力を身に付けたい。

到達目標

学生が国際政治のダイナミズムを長期的視点に立って把握したうえで、私たちが今現在立っている世界の位相を考えられるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、属性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業後に行われる確認テストの得点による評価	100%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配布します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後にはレジュメやノートの見直しするとともに、配布資料や参考文献をよく読み、理解を深める。また、国際政治や日本外交に関して、新聞やニュースではどのように取り上げられているかチェックする。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は基本的に講義形式で進める。毎回、授業の最初に前回の授業内容に関するフィードバックの意味を込めた質問を、学生に対して行うので、復習やノートまとめを怠らないこと。この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	主権国家体制の形成と制度化	16世紀の欧州における宗教改革から、17世紀の三十年戦争、フランスのルイ14世の侵略戦争を経て、西欧の主権国家体制が形成、制度化される過程を学ぶ。
第2週	勢力均衡の時代	戦争の世紀とされる「長い18世紀」から、相対的安定期のウィーン体制、19世紀半ばの動乱期を経て、ビスマルク体制まで、欧州の五大国間の勢力均衡が維持されてきた過程を学ぶ。
第3週	第一次世界大戦へ	19世紀末のビスマルク体制の崩壊と、大国間の帝国主義政策をめぐる確執の激化の中で、欧州の勢力均衡システムが膠着化した結果、第一次世界大戦に勃発に至る軌跡を学ぶ。
第4週	ヴェルサイユ体制の成立	第一次世界大戦の過程で、米国とソ連という二つの理念国家が国際政治に登場する状況下、大戦後の新たな国際秩序・ヴェルサイユ体制の形成とその問題点を学ぶ。
第5週	ヴェルサイユ体制の展開から崩壊	不安定なヴェルサイユ体制を補強する役目を持つロカルノ体制による相対的安定期を現出しながらも、1929年の世界恐慌を契機に「権力政治」に回帰する国際潮流の中で、現状打破国である日独伊三国が、ヴェルサイユ体制を崩壊させる過程を追う。
第6週	第二次世界大戦をめぐる国際政治	第一次大戦後に孤立主義的傾向を強めた米国が、ローズヴェルト大統領の政治指導の下で、第二次大戦に参戦する過程を追ったうえで、大戦下で「大同盟」を事実上結んだ米英仏三大国の協力と確執の軌跡を学ぶ。
第7週	東西に分断される欧州	大戦末期に萌芽した米英ソ「大同盟」の対立が、永続的な「鉄のカーテン」と化して、欧州を東西に分断していく過程を、東欧の共産化と米国における対ソ封じ込め政策の生成、欧州の経済復興と西側同盟の形成を軸に学ぶ。
第8週	アジアへの冷戦の波及	欧州で発生した東西冷戦対立が、アジアで同時に勃興していた脱植民地化の流れと交錯しながら、中国や朝鮮半島、インドシナ半島等に波及し（朝鮮やインドシナでは熱戦となりつつ）、アジアを東西に分断していく過程を学ぶ。
第9週	東西冷戦体制の固定化と第三世界での米ソの綱引き	東西冷戦体制は、1955年の西独の再軍備とNATO加盟、ワルシャワ条約機構の成立により固定化する一方、米ソの確執の焦点は欧州から第三世界へ移行するとともに、軍事・政治のみならず経済や文化面などに多面的な競争となっていく過程を追う。
第10週	危機の時代―ベルリンからキューバへ	1950年代半ば以降、米ソ超大国間の「雪解け」が演出される中で、スプートニク打ち上げで気勢が上がるフルシチョフ体制下のソ連が、第二次ベルリン危機やキューバ・ミサイル危機を引き起こすも、米ソ両国はそれらを克服した末、一定の協調関係を構築する過程を学ぶ。
第11週	多極化する冷戦体制	東西冷戦体制が続く中、西側では西欧諸国や日本が目覚ましい経済復興を遂げ、ドゴールのフランスが自主外交を展開する一方、東側ではチェコスロヴァキアで自由化運動が起き、中ソ対立が顕在化する。このような東西冷戦体制の多極化を学ぶ。
第12週	1970年代のデタントの時代	ヴェトナム戦争の泥沼化で疲弊した米国は、ニクソン・キッシンジャー外交により勢力均衡原理に基づき、ソ連・中国と緊張緩和を図り、自国の戦略的地位を立て直す行動に出る一方、欧州では西独のブラント政権が「東方政策」により、ソ連・東欧諸国との関係改善を推進する。
第13週	新冷戦の時代―「人権外交」から「強い米国」へ	1970年代後半、ソ連が第三世界での進出を活発化させた結果、米ソ間のデタントは急速に衰退し、80年代に入ると米ソ間の緊張は「新冷戦」と呼ばれるほど高まる。カーターの「人権外交」からレーガンの「強い米国」を軸に、変容する国際環境を学ぶ。
第14週	急転直下の東西冷戦体制の崩壊―東欧革命から湾岸戦争、ソ連崩壊	1980年代後半、米ソ間の緊張は急速に緩和し、89年の東欧革命により一気に東西冷戦体制が崩壊、91年のソ連崩壊に至る。「新世界秩序」を掲げる米国のブッシュ政権に対し、湾岸戦争に勝利するも、冷戦後の国際秩序を明確に打ち出すまでに至らなかった。1980年代後半から
第15週	冷戦後の世界―米国一極体制とグローバル化、そして混沌へ	冷戦終結後の世界は、グローバル化の進展の下、米国が唯一の超大国として君臨したが、そのような時代は長く続かなかった。21世紀に入り、米国は「テロとの戦い」で著しく消耗する一方、中国がグローバル経済を活用して急速に大国化し、プーチンのロシアも国際秩序の現状変
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	国際社会と経済						
担当教員	飯田　治	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3242		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

国際社会の動きを歴史を通して理解し、本質的な原因を考える。また、基本的な経済統計や経済理論を学び、国際社会の動きと日本経済の関係を理解する。

到達目標

① 国際社会の動きを歴史を通して説明できる。
② 国際社会と日本経済の関係を述べることができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	60		
平常点(意欲・態度、課題提出)	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を適宜配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

道内金融機関とシンクタンクに長年従事。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習は、国際社会の問題について関心を持ち、新聞や各種ニュースをよく読んでみてください。 復習は、講義内容をきちんとまとめてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

質問、意見、要望など積極的な発言と授業への参加を求めます。
受講生数によっては、グループ討議形式を検討します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	講義内容を紹介するとともに、成績評価を理解する。
第2週	経済のグローバリゼーション	グローバリゼーションの概念と現状を説明する。 国際社会を理解する上での基礎知識(宗教、民族、地理、歴史など）を覚える。
第3週	経済学の考え方・復習①(主にマクロ)	需要と供給やGDPの基本概念を説明する。
第4週	経済学の考え方・復習②(国際収支など) 為替相場の決定理論・メカニズム	国際収支について説明する。 為替相場の決定理論について説明する。
第5週	貿易について～保護貿易尾と自由貿易	比較優位の概念から貿易の利益を理解する。
第6週	世界の見方①～アメリカ	北米（主にアメリカ）社会を理解し、日本経済との関係を把握する。
第7週	世界の見方②～欧州	欧州社会(東欧、ロシアを含む）を理解し、日本経済との関係を把握する。
第8週	世界の見方③～中国	中国社会を理解し、日本経済との関係を把握する。
第9週	世界の見方④～新興国、中東他	北米、欧州、中国以外の国・社会を理解し、日本経済との関係を把握する。
第10週	歴史を振り返る①～19世紀後半	明治維新からの日本と同時期の世界の動きを理解する。
第11週	歴史を振り返る②～20世紀前半（～1945年）	二度の世界大戦や世界大恐慌を中心に国際社会を理解する。
第12週	歴史を振り返る③～20世紀後半(～2000年)	第二次世界大戦後の国際社会を理解する。
第13週	歴史を振り返る④～21世紀(2001年～)	サブプライム、リーマンショック、新型コロナウイルスなど、2001年以降の国際社会の出来事を振り返る。
第14週	最近の国際社会	最近の国際社会の時事問題について考察する。
第15週	総括 今後の国際社会の課題	授業についてのふり返る。 地球温暖化、拡大する経済格差、SDGsなど、今後の国際社会の課題について考える。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	西洋史						
担当教員	蒲生　崇之	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3231		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

今なお世界の政治や経済に影響を及ぼし続けている「西洋」の歴史から、「私たち」は何を学び得るのか、「私たち」の現在と未来を視野に入れながら考えます。
また、教職を志す学生は、現行学習指導要領に、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という育成を目指す資質・能力の3本柱が示されていることをふまえて、学習指導を考えていくことが求められますが、3本柱の中でも「学びに向かう力」や「人間性」を育成するとは、一体どのようなことなのか、イメージがわかないという人もいることでしょう。この講義では、20世紀ごろまでの西洋史を概観しながら、「学びに向かう力」や「人間性」が評価のキーワードとなるような歴史の授業の評価についても考えます。

到達目標

この講義によって習得する知識・能力・態度等は以下の通りです。
①　（知識）「私たち」の現在に影響を与えている、「西洋」が形作られる過程で生じている構造は、いつどのように成立したのか、具体的な出来事に基づいて理解する。
②　（能力）「西洋」が形作られる過程で生じている構造が与えている影響について、自分の見聞や体験と結びつけて説明できるようになる。
③　（態度）「西洋」が形作られる過程で生じている構造について、これからの社会を形成していくときにどのように受け継いだり克服していくのが望まれるか、深く考えようとする。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
講義内容に関するミニ・レポートの作成と提出（第14	42%		
最終回の総括課題レポートの作成・提出	58%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

・池上俊一『ヨーロッパ史入門　原形から近代への胎動』岩波ジュニア新書945（岩波書店）
・池上俊一『ヨーロッパ史入門　市民革命から現代へ』岩波ジュニア新書946（岩波書店）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義の使用スライドを事前に配布するようにするので、可能な限り講義の前に目を通し、自分自身でわからない歴史用語を調べたり、関連しそうな文献に目をとおすなど、理解を深めように努めてください。	2時間程度/週

受講時の注意事項

内容は概説なので、高校時代の教材が手元にあれば、なお望ましい。また、この西洋史の講義内容は、後期の東洋史の講義内容の基調になるので、可能であれば両方受講することが望ましい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	歴史とは何か	歴史学と西洋史研究の課題
第2週	古代の環地中海世界①	エジプト・メソポタミア・ギリシャ・ローマ時代の政治
第3週	古代の環地中海世界②	ギリシャ・ローマ時代の社会と文化・宗教
第4週	ヨーロッパ世界の形成と展開①	ラテン＝カトリック圏の形成と展開
第5週	ヨーロッパ世界の形成と展開②	ビザンツ帝国・イスラム帝国とギリシャ正教圏の形成と展開
第6週	近世ヨーロッパと大航海時代①	大航海時代
第7週	ヨーロッパ世界の形成と展開②	ルネサンスと宗教改革
第8週	革命の時代①	市民の台頭と産業革命
第9週	革命の時代②	アメリカ独立戦争とフランス革命と「国民」
第10週	帝国主義の時代	欧米列強と植民地主義・帝国主義
第11週	二つの大戦①	第一次世界大戦と国際協調
第12週	二つの大戦②	第二次世界大戦と戦後処理
第13週	現代的諸課題と西洋①	冷戦と植民地主義
第14週	現代的諸課題と西洋②	ナショナリズム・グローバリズムと資源開発
第15週	講義のまとめと総括課題レポートの作成・提出	ウクライナ戦争と歴史認識と教育
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	知的財産法概論						
担当教員	津幡　笑	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3232		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

知的財産法の基本的な考え方について習得する。ニュースで特許権侵害や著作権侵害の事件を耳にしたり、ネットで「パクリ」が炎上したりと、知的財産の保護については関心が高まる昨今であるが、権利者の保護は発明や創作へのインセンティブになる一方、その保護が過剰であれば自由な創作活動や研究開発の萎縮を招く。本講義では、代表的な特許法と著作権法を中心に、権利の保護と自由の範囲のバランスを法がどのようにとっているのか解説し、意匠法、商標法、不正競争防止法についても簡単に解説する。

到達目標

知的財産権の基本知識の定着を目標とする。特許法、著作権法については知的財産管理技能検定３級受験レベルの知識を修得することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験	70%		
小テスト	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『１８歳からはじめる知的財産法』	大石玄・佐藤豊編	法律文化社	2021	4589041642	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

行政書士として著作権相談員を務めた。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前に毎回の講義の範囲の教科書を読み、講義の後は小テストの範囲を中心に復習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

法学入門を履修していることを前提に講義は進められるが、この科目から履修することも可能である。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	知的財産法概論	知的財産権とは
第2週	著作権法（1）	著作物とは
第3週	著作権法（2）	著作者とは
第4週	著作権法（3）	著作権の内容
第5週	著作権法（4）	著作隣接権
第6週	著作権法（5）	著作権の制限
第7週	特許法（1）	特許制度概要
第8週	特許法（2）	特許要件
第9週	特許法（3）	特許権侵害の要件と防御
第10週	不正競争防止法（1）	営業秘密
第11週	意匠法（1）	デザインの保護
第12週	意匠法（2）	デザインの保護範囲
第13週	不正競争防止法（2）	不正競争防止法によるネーミングの保護
第14週	商標法	商標法によるブランドの保護
第15週	まとめと到達度チェック	まとめと到達度チェック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	美学Ａ							
担当教員	北村　清彦	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	SO-CE 3701			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

芸術が新たなるものの創造である限り、芸術に対する考え方も刻々と変化しています。芸術に関し、今日の私たちが当然と思っていることがどのような経緯で成立してきたのか、古代・中世・ルネサンス・近代・現代における西洋の芸術理論を取りあげ講述します。パワーポイントを使っての講義になります。それによって、私たちは現在、どのような場に立って、芸術を制作し、演奏し、鑑賞しているのかを自ら考察する足がかりを築くことができるようになります。

到達目標

① 西洋における芸術概念の変遷について理解する。
② 歴史的な問題が単に過去の問題ではなく、今日的課題にも通じていることを理解する。
③ 自ら芸術について考察する能力を高める。
④ 今日の芸術文化活動や行為についての関心を深める。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験（学期末の授業内試験）	50%		
3回のレポート課題提出	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。 事前にLMSで講義資料を配付します。また授業内でも適宜、資料を配					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前に講義資料をLMSで配布するので、各自でダウンロードして、概要を予習してください。また講義に基づく課題レポート課題を3回（※のついている第5週、9週、12週）出題しますので、提出締め切り（原則、講義が行われた翌週の水曜日23：59）までにLMSを通じて提出してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

レポート作成に際して、ネットなどからコピー、ペーストしたものは不可とします。他者の意見を引用する際には必ず引用符をつける等の仕方で明確に区別し、その出典元を明示すること。またChatGPTなどの生成AIの使用も禁止します。なおレポートの書き方については、第1回目の講義で説明します。提出された課題レポートは添削の上返却します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス レポートの書き方	講義の進め方、成績評価の方法などの履修上の注意 レポートの書き方･提出の仕方
第2週	芸術の語義	「芸術」「美術」「アート」「テクネー」「ミメーシス」「ポイエーシス」などの語彙がどのような意味で用いられてきたのかを確認する。
第3週	古代の芸術論（1） プラトン	プラトンの「詩人追放論」とその議論の背景
第4週	古代の芸術論(2) アリストテレス	アリストテレス『詩学』とギリシア悲劇
第5週	古代の芸術論（3） 修辞学	修辞学の有効性と危険性 ※第1回レポート課題出題
第6週	中世の芸術論（1） 自由七科	学芸と芸術の関係
第7週	中世の芸術論（2） イコノクラスム	偶像破壊の現代的問題
第8週	ルネサンスの芸術論（1） アルベルティ	遠近法の問題
第9週	ルネサンスの芸術論（2） ジョルジョ・ヴァザーリ	ヴァザーリ『美術家列伝』と美術史の萌芽 ※第2回レポート課題出題
第10週	近代の芸術論（1） ヴィンケルマンとレッシング	古典主義について
第11週	近代の芸術論（2） リーグルとヴェルフリン	様式論の成立と展開
第12週	近代の芸術論(3) パノフスキー	図像解釈学 ※第3回レポート課題出題
第13週	近代の芸術論（4） ヘーゲル	ヘーゲルの「芸術終焉論」
第14週	現代の芸術論	芸術における現代とは何か？
第15週	まとめと学期末試験（学期末の授業内試験）	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	美学Ｂ						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	３年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3702		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

第1週から第6週までは、西洋芸術史を辿りながら、音楽・美術の個別の様式やジャンルからは見えてこない、各時代固有の芸術観・美学観を概観する。第7週から第14週までは、現代の芸術やアートを手がかりに、新しい創作手法や現象に見られる現代の美的感性を概観する。

到達目標

① 音楽・美術に共通する各時代の根本的な芸術観について説明できる。
② 現代芸術やアートの意味や意義を説明できる。
③ 日常的な感覚で捉えていることを言語化できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート１	50%		
レポート2	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

美学・芸術學に関する研究論文執筆の経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業でとり上げる予定または解説した概念や作品例をよく予習・復習しておくこと。自分の身近な例で考えてみること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

芸術に関する専門知識は必要ありません。いろいろな芸術やアートに関心のある方に、受講をお勧めします。度々、授業内容についての質問や意見を提出してもらい、クラスルームで意見を共有し、コメントしながら学びを深めます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	授業ガイダンス	授業内容の説明／成績評価等の説明
第2週	過去の芸術観①　古代ギリシャ、中世	古代ギリシャ時代の芸術観／古代ギリシャ時代の音楽理論・美術理論
第3週	過去の芸術観②　バロック時代	人間の感覚への関心／バロック音楽情緒論／バロック美術のアレゴリー絵画
第4週	過去の芸術観③　古典美学における芸術・芸術家	カントによる芸術・芸術家の定義／現代にも当てはまる実例
第5週	過去の芸術観④　形式主義	ハンスリックの音楽美論／ヴェルフリンの形式主義的な絵画史観／アヴァンギャルドの芸術論
第6週	過去の芸術観⑤　モダニズム	前衛芸術と時代背景／音楽・美術・映画のアヴァンギャルド
第7週	過去の芸術観⑥　ポストモダニズム	ポストモダニズムの定義／ポストモダニズムの具体例とその理解
第8週	現代芸術の手法と理解①　引用、コラージュ、間テクスト性	引用・コラージュ・間テクスト性それぞれの概念／それぞれに関連する実践例
第9週	現代芸術の手法と理解②　芸術とジェンダー	ジェンダーやセクシャリティの概念／19世紀のジェンダーと音楽・美術／フェミニズムと現代芸術
第10週	現代芸術の手法と理解③　視覚と聴覚	共感覚／視覚と聴覚の融合を目指した実践例
第11週	現代芸術の手法と理解④　ナショナリズム	ナショナリズムの概念／音楽・美術でのナショナリズム／日本の場合
第12週	現代芸術の手法と理解⑤　クレオール性	クレオール性の概念／クレオール音楽としてのレゲエ／ブラジル美術の食人族
第13週	芸術の手法と理解⑥　芸術と身体性	ヘルダーの触覚・彫刻論／現代での触れる彫刻、ポストヒューマンと彫刻／モダンダンスの身体性の表現
第14週	芸術の手法と理解⑦　複製技術とポピュラーカルチャー	複製技術論の古典概説／現代メディアとサブカルチャーの関連性
第15週	現代芸術の手法と理解⑧　「カワイイ」の美学	現代日本のサブカルチャーに見る「カワイイ」／日本的美学としての「かわいい」の歴史と文化／「かわいい」分析
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	東洋史						
担当教員	蒲生　崇之	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3232		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

今なお世界の政治や経済に影響を及ぼし続けている「東洋」の歴史から、「私たち」は何を学び得るのか、「私たち」の現在と未来を視野に入れながら考えます。
また、教職を志す学生は、現行学習指導要領に、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という育成を目指す資質・能力の3本柱が示されていることをふまえて、学習指導を考えていくことが求められますが、3本柱の中でも「学びに向かう力」や「人間性」を育成するとは、一体どのようなことなのか、イメージがわかないという人もいることでしょう。この講義では、20世紀ごろまでの東洋史を概観しながら、「学びに向かう力」や「人間性」が評価のキーワードとなるような歴史の授業の評価についても考えます。

到達目標

この講義によって習得する知識・能力・態度等は以下の通りです。
①　（知識）「私たち」の現在に影響を与えている、「東洋」が形作られる過程で生じている構造は、いつどのように成立したのか、具体的な出来事に基づいて理解する。
②　（能力）「東洋」が形作られる過程で生じている構造が与えている影響について、自分の見聞や体験と結びつけて説明できるようになる。
③　（態度）「東洋」が形作られる過程で生じている構造について、これからの社会を形成していくときにどのように受け継いだり克服していくのが望まれるか、深く考えようとする。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
講義内容に関するミニ・レポートの作成と提出（第14	42%		
最終回の総括課題レポートの作成・提出	58%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

和田春樹ほか『東アジア近現代通史　19世紀から現在まで』上・下（岩波書店、岩波現代全書043・044）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義の使用スライドを事前に配布するようにするので、可能な限り講義の前に目を通し、自分自身でわからない歴史用語を調べたり、関連しそうな文献に目をとおすなど、理解を深めように努めてください。	2時間程度/週

受講時の注意事項

内容は概説なので、高校時代の教材が手元にあれば、なお望ましい。また、この東洋史の講義内容は、前期の西洋史の講義内容を基調とするので、可能であれば両方受講することが望ましい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	歴史（東洋史）とは何か	歴史学と東洋史研究
第2週	古代のアジア諸地域①	中華帝国と周辺地域
第3週	古代のアジア諸地域②	中央・西アジア・南アジアの帝国と周辺地域
第4週	東アジア世界の帝国の展開	モンゴル帝国の形成と展開
第5週	西アジア世界の帝国の展開	オスマン・トルコ帝国の形成と展開
第6週	明・清帝国の形成と展開	東西交流とアヘン戦争
第7週	帝国主義の形成とアジア地域	北清事変と日清戦争、フランス領インドシナの形成
第8週	帝国主義の展開とアジア地域	辛亥革命と日露戦争、インドの独立運動
第9週	二つの大戦とアジアの諸地域①	第一次世界大戦と戦後処理
第10週	二つの大戦とアジアの諸地域②	日中戦争と第二次世界大戦
第11週	戦後のアジアの諸地域①	戦後処理とベトナム戦争・香港問題
第12週	戦後のアジアの諸地域②	東南アジア諸国と中華人民共和国の国家形成
第13週	現代的諸課題とアジアの諸地域①	ベトナム戦争から冷戦の集結へ
第14週	現代的諸課題とアジアの諸地域②	日中・日韓（北朝鮮を含む）の戦後賠償と今日的課題
第15週	講義のまとめと総括課題レポートの作成・提出	核兵器廃絶をめぐる課題
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	国際社会と法						
担当教員	加藤　信行	配当年次	3年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3243		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

国際法（国際公法）を学ぶ。
国際法は、国際社会において国家間の関係をはじめとする諸関係を規律する法であり、長い歴史と極めて広範な内容をもつ。
国際法は、条約や慣習国際法の形で存在し、国内法と密接かつ複雑に関連している。今日、その重要性はいっそう高まっている。
この授業では、ビジュアル要素を豊富に盛り込んだ新しい教科書を使い、その大半を取り上げることによって、国際法の基礎と概要を学ぶ。

到達目標

・国際法の特徴や諸分野を述べることができる。
・国際社会の諸問題を法的視点で考え、法的にはどのようなことが問題となるかを理解できる。
・情報が氾濫する現代社会において、国際問題や世界情勢をルールに照らして判断することができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力

	学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
	5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回の授業について実施する小テスト（５％	70%		
期末試験	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『ビジュアルテキスト国際法（第3版）』	加藤信行ほか	有斐閣	2022年	978-4-641-04692-4	

参考書等

・加藤信行ほか『概説国際法』（有斐閣、2024年）
・杉原高嶺『基本国際法（第4版）』（有斐閣、2023年）
・玉田大ほか『国際法（第2版）』（有斐閣、2022年）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・授業前に、予め教科書の関連部分を読み、疑問点を整理するとともに、授業内容を想定しておく。 ・授業後、教科書を読み返し、授業内容などをまとめた自分自身のノートを作成する。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・この授業は、オンラインのオンデマンド授業で実施される予定である。
・小テストなどの提出物は、必ず提出期限内に提出すること。期限後に提出しても、不提出となる。
・上記「授業計画」の最後のほうの予定は、国際法の新たな動きや授業の進行具合によって変更される可能性がある。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、国際法をなぜ学ぶのか	・教科書（第3版）１～１１頁。 ①授業のやり方などについてのガイダンスを行ったのち、 ②国際法の必要性、重要性を理解し、
第2週	国際社会のルールはこうしてできた：　国際法の成り立ち	・教科書（第3版）１２～２０頁。 ・国際法の歴史を学ぶ。近代ヨーロッパにおいて誕生した国際法がどのような発展を遂げて今日に至ったのか、その歴史をたどる。
第3週	国際社会で守るルール：　国際法総論	・教科書（第3版）２１～２８頁。 ・国際法の拘束力、国際法の効力、国際法の責任など、国際法に関する一般的基礎理論ないし国際法総論にあたる分野を学ぶ。
第4週	国ができたり、なくなったり：　国家とは	・教科書（第3版）２９～３５頁。 ・国際法の基本的法主体である「国家」について学ぶ。国家の要件、国家承認、国家承継、国家の基本的権利義務、国家管轄権、国家免除などを理解する。
第5週	国と国がつきあう①：　条約法	・教科書（第3版）３６～４３頁。 ・条約に関する国際法を学ぶ。条約の概念、条約の締結、条約に対する留保、条約の効力などを理解する。
第6週	国と国がつきあう②：　外交・領事関係法	・教科書（第3版）４３～４８頁。 ・外交関係および領事関係に関する国際法を学ぶ。外交使節・領事の歴史・任務・構成、外交特権免除・領事特権免除、その他の国家機関の特権免除について理解する。
第7週	領土のない国はない①：　国家領域、領土紛争	・教科書（第3版）４９～５７頁。 ・国家領域の構成と領域主権、領域権原、領土紛争とその法的解決、日本の領土問題などを理解する。
第8週	領土のない国はない②：　特殊地域、宇宙	・教科書（第3版）５７～６１頁。 ・広義の国際化地域等について学ぶ。国際河川・国際運河、南極・北極、宇宙空間・天体などを理解する。
第9週	海の恵みを分かち合う①：　海洋法の構造、航行利用	・教科書（第3版）６２～７１頁。 ・海洋法の歴史と海洋の区分、内水・領海と接続水域、国際海峡と群島水域、公海の秩序と公海漁業、について理解する。
第10週	海の恵みを分かち合う②：　海洋資源の利用	・教科書（第3版）７１～７８頁。 ・排他的経済水域と大陸棚、海域の境界画定、深海底とその資源について理解する。
第11週	国が集まってグループをつくる：　国際組織	・教科書（第3版）７９～８６頁。 ・国際組織の目的や歴史、国連と国連ファミリー、専門分野の国際組織、地域的国際組織について概観する。
第12週	人権を国際的に保護する①：　国籍・難民	・教科書（第3版）８７～９３頁。 ・国籍の取得・得喪・抵触、外国人の地位、外交的保護、難民の保護について理解する。
第13週	人権を国際的に保護する②：　国際人権保障	・教科書（第3版）９３～１０２頁。 ・国連における国際人権保障、国際人権保障、人権条約の国内的実施について理解する。
第14週	国の安全を守る：　安全保障	・教科書（第3版）１４８～１５９頁。 ・戦争と国際法、武力不行使原則、自衛権、集団安全保障、国連平和維持活動などについて理解する。
第15週	補足とまとめ	・これまでの授業内容を振り返るととともに、第１４週までで扱わなかった問題に触れる。 ・期末試験も行う予定である。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	欧米社会論						
担当教員	坂尻　昌平	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3244		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

映画を通して見たヨーロッパとアメリカとの関係を扱う講義となる。映像・映画は19世紀末に誕生し、あまねく世界に普及していったのだが、ヨーロッパとアメリカではそれぞれに違いがあり、また共通性がある。歴史的・地理的・社会的・文化的・美学的な違いと共通性に着目しつつ、欧米社会の過去・現在・未来を明らかにしてゆきたい。映像・映画を通してヨーロッパとアメリカとの出会いと反発、憧憬と軽蔑にまで至る諸々の出来事とその余波を、学生が自発的学べるようにすることが目標である。なお、毎時間に上映する映画については、あくまでも予定であり、変更することもある。

到達目標

学生が、欧米社会論を受講することで、ヨーロッパとアメリカという違いと共通点を多々もった社会・文化を映画を通して柔軟に説明できることを目標とする。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回、講義終了後にコメントペーパーを提出してもら	-		
コメントペーパー	40%		
授業内試験	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。』					授業内で適宜、資料を配布します。

参考書等

特になし。ただし、授業内にプリントを準備する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
その日の講義内容をプリントを見ながら、確認し、それについてまとめること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

毎回、映画を上映します。何が映っているのかを集中して見ること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーションと19世紀末に誕生した映画について	エジソン、リュミエール兄弟、メリエス
第2週	サイレント喜劇の黄金時代と第一次世界大戦(1914－18)	三大喜劇王：チャップリン、キートン、ロイド
第3週	サイレント映画の終わりと大恐慌時代(1929－33)のはじまり	トーキー(発声)映画『ジャズ・シンガー』の誕生、トーキー映画を巡る悲喜劇ミュージカル『雨に唄えば』
第4週	第二次世界大戦(1939－45)と戦後イタリア映画	ロッセリーニとデ・シーカ　ハリウッド映画へのイタリア映画のインパクト
第5週	50年代～60年代ヨーロッパ映画の復活とフランス・ヌーヴェル・ヴァーグ現象	ゴダールとトリュフォー：映画史の発見、既存の体制に反抗する若者
第6週	ヌーヴェル・ヴァーグのミュージカル映画	ジャック・ドゥミ：『シェルブールの雨傘』、『ロシュフォールの恋人たち』
第7週	イタリア映画のヌーヴェル・ヴァーグ	二人の監督：ベルナルド・ベルトルッチとマルコ・ベロッキオ
第8週	アメリカ50年代の光と影	オードリー・ヘプバーン主演『ローマの休日』と赤狩り、アメリカ的生活：サーク『悲しみは空の彼方に』
第9週	アメリカ60年代～70年代の青春の栄光と挫折：ニューシネマの誕生	ベトナム戦争後遺症映画、ヒッピー文化：『イージー★ライダー』
第10週	アメリカ70年代ベトナム戦争の終わりとニューシネマの終わり	コッポラの映画：『ゴッドファーザー』、『地獄の黙示録』
第11週	アメリカ70年代のハリウッド・ルネッサンスのはじまり	ルーカス『スターウォーズ』、スピルバーグ『未知との遭遇』
第12週	アメリカ80年代インディーズ映画の興隆	ジム・ジャームッシュ『ストレンジャー・ザン・パラダイス』
第13週	アメリカ90年代～2000年代以降：現実と夢、ヴァーチャル・リアリティの可能性	ウォシャウスキー兄弟『マトリックス』三部作、クリストファー・ノーラン『インセプション』
第14週	英国における「007」の映画的変遷	ジェームズ・ボンドとボンド・ガールと敵のイメージの変容、ショーン・コネリーとスコットランド独立運動、作家イアン・フレミングの理想像だったロジャー・ムーア、スパイ映画の変容、米ソ対立からテロ組織との戦いへ
第15週	映画を通して見た「欧米社会論」のまとめと学期末授業内試験	「欧米社会論」を映画を通して見た時に、何が見えてきたのかを考える
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	介護概論						
担当教員	本間　美幸	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3601		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

少子高齢社会といわれる現代では、介護を必要とする人の増加を背景に「介護」に関連する様々な課題が問われています。「介護」とはそもそもどういうことを言うのでしょうか。介護および介護福祉の概念・理念から、授業をスタートさせます。それらを踏まえて、介護福祉サービスを提供するための基本的な考え方と技法まで学び、介護を必要とする方のニーズに沿った援助について考えていきます。

到達目標

①　介護・介護福祉についての基本的知識を身につける。
②　介護を取り巻く状況について、社会情勢と関連付けて考えることができる。
③　介護を必要とする人の尊厳の保持と自立支援の重要性を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験	50%		
平常点	30%		
リアクションペーパー	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、社会福祉の現場に携わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内で配付した資料を活用して講義内容をまとめ、予習・復習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

特に予備知識は必要としませんが、日頃から社会情勢に興味関心を持つことを期待します。また、提示された問いについて自身で考え、発言や質問など積極的な受講姿勢を求めます。
リアクションペーパーの内容を翌週の授業でフィードバックし、学びを深めていきます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	授業ガイダンス～介護とは何か	介護の概念を言葉の意味から考え、これから学ぶ「介護・介護福祉」のイメージ作りをします。
第2週	介護を必要とする人の理解	介護を必要とする人たちについて、高齢者とそのご家族を中心に学びます。
第3週	介護が必要な人と家族のための制度	介護保険制度の概略を学び、関連する諸制度の概観を理解します。
第4週	介護が展開される場	介護サービスを提供する多様な現場、施設・機関について学び、高齢者の暮らす場所について考えます。
第5週	認知症高齢者ケア①認知症の理解	認知症の原因疾患の学びを通して認知症とはどういうものか整理し、認知症を巡る研究や支援について概観します。
第6週	認知症高齢者ケア②適切な関わり方	認知症の方への適切な関わり方を学ぶとともに、認知症予防の視点でも考えます。
第7週	介護援助の基本① コミュニケーション	介護する際の基本となるコミュニケーションについて、その技法を知り、介護におけるコミュニケーションの意義を考えます。
第8週	介護援助の基本② 社会的な生活の支援	介護が必要になっても主体的にその方らしく生きるために、人間関係や社会性が大切という視点から、レクリエーション援助のことを考えます。
第9週	介護援助の基本③ 日常生活の支援	人間の生活の基盤となる「移動」の支援について考え、サルコペニア・フレイルなどの比較的新しい概念を理解します。
第10週	介護援助の基本④ 食べるを支援	食生活の支援について、食事の意義から学び、食事介助における留意点を学習します。
第11週	介護介護援助の基本⑤ 排泄の支援	排泄の意義と排泄介護における介護の基本姿勢を学びます。
第12週	介護福祉における倫理	介護を提供する側の倫理観について学び、専門職としての社会的責任を考えます。
第13週	社会の変容と介護福祉	変わりゆく社会や生活環境、人の気持ちなどに対応して、求められる介護福祉はどうあるべきかを考えます。
第14週	尊厳を支える介護	終末期の介護まで視野に入れて、「人の尊厳」とは何かを改めて考えます。
第15週	授業内試験とまとめ（介護福祉の新たな課題）	介護概論の学びの振り返りと、理解度確認を行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報処理応用演習 II						
担当教員	丸山　宏昌	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3034		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「情報処理演習 I （Excel）」・「情報処理演習 II （Excel）」及び「情報処理応用演習 I 」を基本として、今後社会調査を学ぶうえで必要となる情報処理能力を習得することを目的とする。具体的には、社会調査データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、回帰分析を中心に取り上げ、表計算ソフト（Excel）で処理することができる基礎的技能を身につける。

到達目標

① 多変量解析について理解することができる。
② 回帰分析、重回帰分析のデータ処理や分析を表計算ソフト(Excel)で行えるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観と個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（到達度テスト）	40%		
課題への取り組み状況	30%		
授業への取り組み状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

『初歩から実用まで　100題で学ぶ表計算（第5版）』(情報処理演習Ａで購入)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、システムエンジニアとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
上記「授業計画」欄の各週計画の【 】内に記載しています。	1時間程度/週

受講時の注意事項

本科目は、「社会調査実務士」を取得するための社会調査実務関係の情報処理演習に該当しています。
かならずパソコンを持参すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業のねらいと進め方、成績評価、Excelによる推測統計 【Excelの推測統計の復習】
第2週	多変量データの解析①	データの種類(変数の種類と役割) 【データの種類についての復習】
第3週	多変量データの解析②	多変量解析の手法(数量化理論、主成分分析など) 【多変量解析の手法についての整理】
第4週	多変量データの解析③	Excelの統計解析機能(統計関数と分析ツール) 【Excelの統計解析機能を使用した課題】
第5週	回帰分析①	回帰分析の基礎(最小二乗法、回帰式、回帰直線) 【回帰分析の考え方についての復習】
第6週	回帰分析②	単回帰分析の方法(散布図と近似曲線) 【単回帰分析を使用した課題】
第7週	回帰分析③	単回帰分析の結果の解釈　【単回帰分析の結果を解釈する課題】
第8週	中間テスト	多変量データの解析と回帰分析の振り返りと授業内試験(到達度テスト) 【振り返り】
第9週	重回帰分析①	重回帰分析の方法 【重回帰分析を使用した課題】
第10週	重回帰分析②	重回帰分析の結果の解釈 【重回帰分析の結果を解釈する課題】
第11週	重回帰分析③	ダミー変数を含んだ重回帰分析 【ダミー変数を含んだ重回帰分析の課題】
第12週	重回帰分析④	説明変数の絞り込み 【説明変数の絞り込みについての復習】
第13週	重回帰分析⑤	重回帰分析の事例1 【重回帰分析を使用した課題】
第14週	重回帰分析⑥	重回帰分析の事例2 【重回帰分析を使用した課題】
第15週	到達度テスト	重回帰分析の振り返りと授業内試験(到達度テスト)、全体のまとめ 【振り返り】
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	コンピュータプログラミングII						
担当教員	山田　志真子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 3702		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業では、はじめてプログラミングを行う初学者を対象に、近年、幅広く利用されているJAVA言語を用いて、基本的なプログラミング技法の学習を実習形式で行います。数学やプログラミングに関する専門的な知識などはなくてもかまいません。コンピュータプログラミングIで学習した内容をベースに、さらに、クラスの機能などを中心に学んでいきます。尚、この講義は積み上げ科目なので１の単位を修得した方のみ履修できます。

到達目標

本講義の到達目標は、JAVAの基本的な文法を理解し、Java言語の構文とオブジェクト指向プログラミングの基礎を習得することです。更に、目的に応じたプログラムを作成する技術を習得することを目標とします。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力	3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎授業出される課題をもとに評価します。	90		
小テスト	10		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

プログラマーとしての実務経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業中の実習で取り組んだ問題に対する復習、および、課題に取り組む時間として週2-3時間が大体の目安となります（ただし個人差による）	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

持ち運び可能なパソコンを所持し、大学へも持参可能な方のみ履修可能な科目です。
授業資料の配布、及び、課題の提出はGoogleClassRoomにて行います。
GoogleClassRoomは新LMSへ変更する可能性があります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション & JAVA構文の復習（1）	授業の進め方、成績評価方法について説明します。又、JAVAの復習として変数の取り扱い方について説明します。
第2週	JAVA構文の復習（2）	式と演算子について説明します。
第3週	JAVA構文の復習（3）	条件分岐(if文，switch文)について説明します。
第4週	JAVA構文の復習（4）	繰り返し処理(for 文/ while文/ do while文)について説明します。
第5週	JAVA構文の復習（5）	配列について説明します。
第6週	JAVA構文の復習（6）	for文のネスト構造とソートアルゴリズムについて説明します。
第7週	JAVA構文の復習（7）	いろいろな演習問題(条件分岐/配列/for文/while文/do while文/break文/continue文)を行っていきます。
第8週	クラスの基本(1)	クラスの宣言と利用について説明します。
第9週	クラスの基本(2)	クラスのメソッドについて説明します。
第10週	クラスの機能(1)	アクセス制限、オーバーロードについて説明します。
第11週	クラスの機能(2)	コンストラクタ，クラス変数，クラスメソッドについて説明します。
第12週	クラスの利用	クラスの利用方法について説明します。
第13週	継承	クラスの継承について説明します。
第14週	オーバーライド	クラスのオーバーライドについて説明します。
第15週	抽象メソッドとインターフェイス	抽象メソッドとインターフェイスについて説明します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	札幌大谷キャリア支援プログラムＡ-Ⅰ						
担当教員	今　義典	配当年次	１年生	開講期	通年集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1931		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

学生の主体的な個人活動または団体活動を評価し、単位として認定します。本科目は、学部学科をはじめ、社会連携センター及びキャリア支援センターの協力のもと、大学共通科目（キャリア科目）に配置されたアクティブ・ラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。授業科目のＡからＤまでの区分は、次のとおりです。
　札幌大谷キャリア支援プログラムＡ：産学官連携・地域連携活動
　札幌大谷キャリア支援プログラムＢ：学生の主体的な個人活動または団体活動
　札幌大谷キャリア支援プログラムＣ及びＤ：キャリア支援センター等による資格取得・キャリア支援講座・公務員対策講座等
担当教員による事前申請後に開講するプログラムです。プログラムの内容が決定次第、学生ポータルサイトに掲載し、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。内容によっては事前説明会も開催しますので参加してください。

到達目標

授業科目のＡからＤの詳細な内容により到達目標が若干変わりますが、共通の到達目標は、「札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部のディプロマ・ポリシー」に準じます。
①自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができるようになる。
②コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができる。
③専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
○	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力	3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
「成績評価方法・基準」は「授業概要」により異なり			

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『プログラム開始前に担当教員から指示します。』					

参考書等

プログラム開始前に担当教員から指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく、４５時間従事した時間数をもって単位認定します。「授業計画」と同様、「予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間」は、「授業概要」欄に記載された指示に従ってください。	４５時間従事

受講時の注意事項

履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録期間を含め「受講時の注意事項」は、プログラムの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。
注：※通常授業の内容と重複して単位取得することはできません。　　※活動時間数に関わらず、１科目１単位を原則とします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含むアクティブ・ラーニング形式の科目です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	プログラム内容	各プログラムの「授業概要」により内容が異なります。プログラムが決定次第、随時、学生ポータルサイトに掲載するとともに、学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 この授業科目の大まかな流れ・手続きの要領は以下のとおりです。
第2週		
第3週		
第4週		
第5週		
第6週		
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語コミュニケーションⅠ						
担当教員	川内　裕子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

学生は、地元を含む北海道の特定地域を選び、選んだ地域のすばらしさを海外に発信するための具体的な方法の基礎を日本人教員とともに学んでいく。自分自身や地域についての英語プレゼンテーションと、質疑応答を含めた会議を英語で行い、好印象を持ってもらえるようにするための基本的な知識や技能を習得することを目的とする。日本および北海道に関わる文化語彙を増やしながら、おもてなしのためのプレゼンテーションを作ることを通して、いざとなれば、自分の所属する地域や機関のために、自分が持っている英語力を最大限に駆使して、通訳者や観光ガイドの役割を果たせるような人材となるための基礎的な知識と技能の習得を目指す。後期および4年次の英語の授業に接続している。

到達目標

①　日⇒英、英⇒日の通訳演習を通じ、日本語と英語の発想の違いや類似性を学びながら、北海道の特定地域や産業の紹介や宣伝をするための効果的な表現を身につける。
②　英語による会議運営の基本に関する知識と技能を身につけ、上記①に関する話題での（１）会議の司会進行を務めることができ、また、必要に応じて（２）プレゼンテーションが行えるようになる。
③　リスニング、シャドーイング、ディクテーション、スラッシュリーディング、サイトトランスレーションなどといった通訳技術について理解し、それらの技術に習熟することによって英語力を継続的に高める努力ができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内小テスト（4回）	80		
授業参加度	20		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『Developing Interpreting Skills for Communication <Revised Edition> 『通訳とコミュニケーションの総合演習［改訂版］』』	斎藤彩子他	南雲堂	2017	978-4-523-17845-3	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

担当教員は現役の翻訳家、会議同時通訳者。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習は、授業で指示される課題を準備してくること。復習は、授業で学修した語彙や表現を、予習課題として与えられる具体的なタスクの中で実際に使ってみることで、それらの使い方に慣れたり、理解が十分でない点がないか確認する。質問事項をまとめておく。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

辞書必携。ただし、高校時代に使っていたもので良い。電子辞書でも構わない。授業内に実施した小テストのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（シラバスに沿って説明）	コースおよび教材と、異文化間の交流や交渉における通訳者の役割についての説明 実践練習（教科書について／基礎確認問題） 英語を口にすることに慣れる
第2週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	Unit 1 E→J　は暗記および順番に一文ずつ通訳しながら英語にする練習 J→E　は例文を利用して自分、家族について英語にする練習
第3週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	Unit 2 E→J　は暗記および順番に一文ずつ通訳しながら英語にする練習 J→E　は例文を利用して大学生活について英語にする練習
第4週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	Unit 3 E→J　は暗記および順番に一文ずつ通訳しながら英語にする練習 J→E　は例文を利用して趣味について英語にする練習
第5週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	教科書のUnitを使った練習 英語での会議の基本（1）： 会議で使用する基本的表現、意見を述べる表現
第6週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	教科書のUnitを使った練習 英語での会議の基本（2）： 会議の次第、進め方、まとめ方、議長の役割
第7週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	教科書のUnitを使った練習 英語での会議の基本（3）： トピックを選ぶ／意見を英語でまとめる／リサーチが必要な内容を確認する／（議長の使う表
第8週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	教科書のUnitを使った練習 英語での会議の基本（4）： 選んだトピックについてdiscussionを深める
第9週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	教科書のUnitを使った練習 英語での会議の基本（5）： 会議実践形式小テスト（第1回）＋フィードバック
第10週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（1）	教科書のUnitを使った練習 プレゼンテーションの種類、構成、基本的表現 原稿作成（Introducing yourself）
第11週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（2）	教科書のUnitを使った練習 プレゼンテーション原稿完成、リハーサル、質問の扱い方 実践形式小テスト（第2回）Self-introduction　＋フィードバック
第12週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（3）	教科書のUnitを使った練習 実践形式小テスト（第2回）Self-introduction　＋フィードバック プレゼンテーション（Introducing Hokkaido, Sapporo or your hometown with a focus on a
第13週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（4）	教科書のUnitを使った練習 プレゼンテーション原稿作成（添削）＋フィードバック 通訳実戦形式小テスト（第3回）
第14週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（5）	教科書のUnitを使った練習 プレゼンテーション原稿作成（添削）、リハーサル＋フィードバック
第15週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（6）	教科書のUnitを使った練習 英語プレゼンテーションの実践形式小テスト　（第4回）＋フィードバック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	英語コミュニケーションII						
担当教員	アン・マリー・ミラー　望月	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

The goal of the semester will be to increase students' confidence in presenting themselves in front of an audience.

到達目標

In this semester, we will work on the skills necessary for giving a public speech or presentation. Students will prepare and practice speeches to perform for the class.

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
"Grades will be based on class participation and	Each speech		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Getting Ready for Speech 』	C. LeBeau, D. Harrington,	Language Solutions, Inc			2002

参考書等

Before the start of the course, students can practice speaking (in English or Japanese) in front of a mirror.

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
Before the start of the course, students can practice speaking (in English or Japanese) in front of a mirror.	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	Introduction	Introduction to the class and discussion of content
第2週	Unit 1	Unit 1 Self-introduction speech basics
第3週	Unit 1 continued	Unit 1 Self-introduction speech continued, practice with a partner
第4週	Speech Unit 1	Unit 1 Perform Self-introduction speeches
第5週	Unit 2	Unit 2 Introducing someone
第6週	Unit 2 Speech	Unit 2 Practice and Perform Introduction speeches
第7週	Unit 3	Unit 3 Demonstration Speech basics
第8週	Unit 3 continued	Unit 3 Demonstration Speech basics
第9週	Unit 3 Speech	Unit 3 Demonstration perform speech
第10週	Unit 4	Unit 4 Layout Speech basics
第11週	Unit 4	Unit 4 Layout Speech basics
第12週	Unit 4 Speech	Unit 4 Perform Layout Speeches
第13週	Begin working on Final Speech	Discuss choice of topic for Final Speech
第14週	Final Speech preparation	Prepare Final Speeches
第15週	Final Speeches (#5)	Perform Final Speeches
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	映像制作演習Ⅴ						
担当教員	大黒　淳一／小町谷　圭／小山　隼平／門間　友佑	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 3205		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

①音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
②異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③異なる分野の学生との意思疎通をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
○	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の審査	40%	今後への提案	6%
積極性	15%		
担当業務	15%		
授業外学修	12%		
分析と自己評価	12%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
台本や絵コンテの制作、撮影、作曲など作品制作にかかわる諸作業。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。また、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は履修者の習熟度や制作物に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の受け方、単位の根拠、評価基準等の説明
第2週	企画の提案	企画の提案と決定
第3週	企画会議①	グループの編成
第4週	企画会議②	内容の検討
第5週	企画会議③	内容の決定
第6週	制作準備	作業スケジュールの作成、広報業務の分担
第7週	グループごとの制作①	プロットの決定
第8週	グループごとの制作②	台本、絵コンテの制作
第9週	グループごとの制作③	前半部分の撮影
第10週	グループごとの制作④	中間部の撮影、編集
第11週	グループごとの制作⑤	後半の撮影、編集、作曲
第12週	グループごとの制作⑥	すり合わせ
第13週	試写	初号試写、修正作業
第14週	仕上げ	作品の仕上げと発表当日業務の確認・分担
第15週	発表	研究発表（学外公開とするか授業内公開とするかは授業内で決定する）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	映像制作演習VI						
担当教員	大黒　淳一／小町谷　圭／小山　隼平／門間　友佑	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 3206		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

①音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
②異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③異なる分野の学生との意思疎通をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
○	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
○	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の審査	40%	今後への提案	6%
積極性	15%		
担当業務	15%		
授業外学修	12%		
分析と自己評価	12%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
台本や絵コンテの制作、撮影、作曲など作品制作にかかわる諸作業。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。また、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は履修者の習熟度や制作物に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の受け方、単位の根拠、評価基準等の説明
第2週	企画の提案	企画の提案と決定
第3週	企画会議①	グループの編成
第4週	企画会議②	内容の検討
第5週	企画会議③	内容の決定
第6週	制作準備	作業スケジュールの作成、広報業務の分担
第7週	グループごとの制作①	プロットの決定
第8週	グループごとの制作②	台本、絵コンテの制作
第9週	グループごとの制作③	前半部分の撮影
第10週	グループごとの制作④	中間部の撮影、編集
第11週	グループごとの制作⑤	後半の撮影、編集、作曲
第12週	グループごとの制作⑥	すり合わせ
第13週	試写	初号試写、修正作業
第14週	仕上げ	作品の仕上げと発表当日業務の確認・分担
第15週	発表	研究発表（学外公開とするか授業内公開とするかは授業内で決定する）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	楽曲分析Ⅰ						
担当教員	内藤　淳一	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業では管弦楽作品のオーケストレーション分析に必要な管弦楽法（本学の授業では今年度から開講されないため）の説明を含め、和声法、対位法、旋律法、ピアノ書法、合唱書法、弦楽書法、そして各楽器の楽器法などの説明を、取り上げる楽曲に応じ適宜簡潔に行っていきます。こうしたことから、この授業は楽曲分析ではありますが、作曲コースを含め、様々なコース専攻の今後に役立つと考えています。
前期の「楽曲分析Ⅰ」では有名な楽曲を多く取り上げ、そこにある和声構造を分析してその特徴や調性について見つつ、一方で主題となる旋律や動機がどのように展開されているかを見てゆきます。下記の授業計画により詳しく書かれていますが、授業計画前半では和声分析に重きを置いて進めてゆきます。和声法の進度は受講生でまちまちかもしれません。そこをよく勘案して進めたいと考えています。音楽教科書にもよく取り上げられる鑑賞教材としての「魔王」（シューベルト作曲）や歌唱教材の「カーロ・ミオ・ベン」（ジョルダーニ作曲）、「この道」（山田耕筰作曲）などから、ピアノ曲として有名なものまで幅広く、そして数多く取り上げてゆく予定です。授業計画後半ではソナタ形式の分析を大きな柱とするために、調性構造の分析や動機の有機的展開をモーツァルトの交響曲などで見てゆきます。こうしたことにより、

到達目標

音楽を論理的に読み解く方法論とその姿勢を身につけることができる
音楽に対する確かな考え方を打ち立て、そしてそれを演奏や文章表現で他者に的確に伝えようとする意識を深めることができる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.異質なる多様及び交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
インプレッションシート（基本的に毎回）	40%		
授業内で提出する分析シート（3回程度）	20%		
最終総括レポート	20%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

楽曲分析については、毎年全国各地で開催される「吹奏楽コンクール課題曲講習会」の講師を務めている他、楽曲分析に基づいた指揮指導を日常的に行うなどの実務経験があります。そうしたクラシックからジャズやポップスなどのあらゆるジャンル、あらゆる演奏形態での音楽分析や解説などには定評があり、このような経験がこの楽曲分析の授業に反映されるため、自身の専門である作編曲の視点からの授業展開が可

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
シラバスに示された予定楽曲を授業前にできるだけ聴いて把握しておいてください。授業内でも適宜パソコンなどで視聴しますが、CDやDVDなどの本格的な音源ではないので、その楽曲について事前に知っておくことがより早く授業内容を把握し理解を深めます。また最終の総括の内容に示してあるように、この半年の学修をレポートとし	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

和声法についての受講生それぞれの習熟度については個人差もあることから、授業での説明はわかりやすいように丁寧にしてゆくつもりです。とはいえある程度の和声法の知識や、何よりも新しい知識に対する関心の高さや意欲が大切です。受講時には積極的に質問しておくよう心掛けておきましょう。また上にも書いてあるので再度の注意喚起となりますが、取り上げる楽曲名が事前にわかっているので、その楽曲に

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業のスタートに際し、受講生それぞれの和声法習熟度や楽典の知識等について質問や解説をして講義のスタートラインを把握しようと思います。和声法については「読み取るための和声法」であるため、パス課題実習などのスキルは必要ありません。並行してコードネーム表記に
第2週	和声と楽曲構造の分析（1）	バッハ作曲：平均律クラヴィーア曲集より第1巻第1曲「Prelude」Cdurの和声分析を試みます。和音の音頭数字（大文字ローマ数字）とコードネーム（アルファベットと数字）で見てゆきます。こうした分析を経て、和声だけでフレーズ感が醸成されてゆく様を感じ取ることがで
第3週	和声と楽曲構造の分析（2）	第3週も和声分析を中心に調性の展開にも着目して授業を進めます。この週ではシューベルト作曲の歌曲「魔王」の見事な和声法（調性の展開）を見ていく予定です。中学校では鑑賞教材ということで、ここまで詳細に見ることができないのが残念なほど、そのよく考えられた作曲技
第4週	和声と楽曲構造の分析（3）	ショパン作曲の「ノクターン変ホ長調作品９の２」を取り上げ、和声と調性の分析をしつつ、旋律の装飾方法などにも注目してショパンならではの書法を分析的に見てゆきます。それが楽曲構造にどう反映し、どのような演奏表現を要求するのかについても考えます。楽曲分析が演
第5週	和声と楽曲構造の分析（4）	第4週では変奏曲の楽曲構造分析としてモーツァルト作曲の「きらきら星変奏曲」を取り上げます。シンプルな童謡をここまで見事にピアノ曲として成り立たせている、その凄さを改めて実感してもらえればと考え、この楽曲を設定しました。この作品では和声法と旋律法との関係、
第6週	和声と楽曲構造の分析（5）	バッハ作曲の２声のインヴェンションから第1番Cdur、第6番Edur、第8番Fdur、第13番amollを見てゆきます。線的に書かれたシンプルなポリフォニーですが、その旋律線から和声と調性を確認してゆきます。さらに冒頭の動機がどのように展開するのか、模倣様式の見事な実例と
第7週	ソナタ形式の分析（1）	ソナタ形式についての概略を説明し、それに沿ってまずは簡易なソナタ形式で作曲されたピアノ曲のソナチネなどを見てゆきます。クーラウのソナチネ（4/4拍子ハ長調Op20-1）、ベートヴェンのピアノソナタ第19番（2/4拍子ト短調Op49-1）で長調と短調のソナタ形式の例を確認
第8週	ソナタ形式の分析（2）	モーツァルト作曲の交響曲第40番の第1楽章を例に、彼の手堅くてお手本のようなソナタ形式とその独創的な展開、そして緻密で見事な作曲技法を示したオーケストレーションなども見てゆきます。時間があればですが、このモーツァルトの後期三大交響曲（39番～41番）の最後を
第9週	ソナタ形式の分析（3）	ベートーヴェン作曲のピアノソナタ「月光」から、自由で幻想曲風に書かれたものの、そこはベートヴェン、しっかりとソナタ形式を意識できる第1楽章の書かれ方を見てゆきます。解説本やネット上ではあまりソナタ形式とは紹介されないのですが、ソナタ形式の片鱗？や第1楽章を
第10週	【関話休題】 ジャズやポップスにおけるコードネーム表記とその説明、和声法音頭	コードネーム表記の仕組みを今一度確認してそれが楽典的にどういった和音の種類に当たるか、和声法ではそれをどう表記するのかという相互の関連を説明します。また楽曲形式もポップスではイントロ、Aメロ、Bメロ、サビ、Cメロ、アウトロなどと部分分けしますが、それが
第11週	歌詞を持つ音楽の楽曲分析（1）	第11週では独唱曲における歌詞と音楽との関連について解説してゆきます。第3週との関わりでシューベルト作曲のドイツリートを数曲取り上げる予定です。「魔王」でも解説していますが、そのほかの楽曲でもピアノの伴奏の書法は重要であるため、彼の他の楽曲でも歌詞が意味
第12週	歌詞を持つ音楽の楽曲分析（2）	第12週では合唱作品に視点を移し、モーツァルト作曲の「Ave Verum Corpus」をまず取り上げ、その言葉と音楽との見事な一致、和声法の妙、そして十字架のモチーフの存在を旋律だけではなく、オーケストレーション全体からも読み取ってゆきます。次にヘンデルの「ジョージ2
第13週	歌詞を持つ音楽の分析分析（3）	第13週ではモーツァルトの絶筆となったレクイエムの冒頭の楽曲「Kyrie」、そしてバッハやヘンデルの楽曲にもたびたび現れる十字架のモチーフがいかに散りばめられているのかなどを見てゆき、彼が最晩年にたどり着いたポリフォニーの書法をフーガの分析を通してみてゆきま
第14週	歌詞を持つ音楽の楽曲分析（4）	第14週では日本人の書く合唱作品（木下牧子作曲「夢みたものは」「鵠」、髙島みどり作曲「Hymn～夜の女神ラートリーに捧げる～」、三善晃作曲「三つの抒情」より）を取り上げ、木下作品では日本語の語感とを生かした言葉と音楽との関係や、詩をどのように解釈して作曲家
第15週	総括	前期の授業で取り上げた楽曲についての分析という作業、そしてそこから得られた演奏という音楽表現への関わり、さらに自分自身や指揮指導者としての他者への練習方法の提案にどう結び付けられるのかなど、楽曲分析が「絵に描いた餅」とならず、「分析のための分析」「分析
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	楽曲分析Ⅱ						
担当教員	内藤　淳一	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3002		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業では前期に引き続き、管弦楽作品のオーケストレーション分析に必要な管弦楽法（本学の授業では今年度から開講されないため）の説明を含め、和声法、対位法、旋律法、ピアノ書法、合唱書法、弦楽書法、そして各楽器の楽器法などの説明を、取り上げる楽曲に応じ適宜簡潔に行っていきます。こうしたことから、この授業は楽曲分析ではありますが、作曲コースを含め、様々なコース専攻の今後に役立つと考えています。
楽曲分析Ⅱでは作曲家個人にスポットを当て、その作曲家の作品の中でも個性的で音楽的にも重要と思われる楽曲について取り上げてゆきます。また、前期の「楽曲分析Ⅰ」においてソナタ形式の分析を中心の一つに据えたように、この「楽曲分析Ⅱ」ではフーガについての理解を深めて楽曲分析をしてゆくことになります。フーガ以外の視点でも見てゆきますが、取り上げる作曲家としてはフーガについてはバッハを、ピアノ書法や旋律法、和声的特徴についてはショパンを、オーケストレーションと楽曲形式の分析としてはチャイコフスキーの交響曲を、動機操作やテーマの見事な展開例としてはラフマニノフを、ロマン派から近現代への分岐点にあり和声法上のエポックとしてはワーグナーのト

到達目標

受講学生がこの授業を通して習得することのできることは以下の通りです。
①音楽を論理的に読み解く姿勢と様々なスキルを身につけることができる。
②音楽に対して分析に基づく確かな自分自身の意見を持つことができる。
③楽曲分析を通して得た音楽観やその楽曲や作曲家に対する考え方を口述や文章で表現することができる。
④楽曲分析に基づいた楽曲解説をコンサートなどにおいて口頭で説明し、プログラムなどに書くことができる。
⑤楽曲分析を根拠としてその楽曲の表現方法や練習方法を打ち立てることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来のなお標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.異質なる者相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
インプレッションシートの内容	30%		
期間途中で課された分析レポート	30%		
最終の分析レポート	30%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

楽曲分析については、毎年全国各地で開催される「吹奏楽コンクール課題曲講習会」の講師を務めている他、楽曲分析に基づいた指揮指導を日常的に行うなどの実務経験がある。そうしたクラシックからジャズやポップスなどのあらゆるジャンル、あらゆる演奏形態での音楽分析や解説などには定評がある。このような経験がこの楽曲分析の授業に反映されるため、専門である作編曲の視点からの授業展開が可能。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
前期と同様に予習としてここで取り上げられる楽曲について事前に聴いておくことが必要となります。できれば何回か視聴しその楽曲の全体像や音楽的特徴、その楽曲の音楽史的な重要性なども調べておきたいところです。最終のレポートではそれまでの授業への参加の姿勢がレポート内容に表れますので、各時間とも意識を高く持って授業	1～２時間程度/週

受講時の注意事項

前期の「楽曲分析Ⅰ」と同様。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	J.S.Bachの作品について（1）	フーガの形式について作曲するためのスタイルとして「学習フーガ」を基に説明し、実際の楽曲についてフーガの実際のスタイルを見てゆきます。中学校で鑑賞教材として取り上げられているバッハの「小フーガ ト短調」を例にその主題の構造や対旋律の特徴、主題の提示と応答、
第2週	J.S.Bachの作品について（2）	バッハのパイプオルガンのための楽曲から「幻想曲とフーガ ト短調」を取り上げます。フーガの前段となる幻想曲部分も音楽的に深い内容が感じられるため、その和声構造や動機の展開などをつぶさに見てゆきたいと考えています。まずは楽譜を見ながら楽曲を改めて聴き、幻想曲
第3週	F.Chopinの作品について（1）	ショパンの代表的なポロネーズの一つである「英雄ポロネーズ」変イ長調 作品53を中心的に取り上げて（「軍隊ポロネーズ」「幻想ポロネーズ」にも若干触れてみたいと考えています）そのポロネーズである所以となる音楽的特徴を見てゆきます。そして何よりも彼の和声法の斬新
第4週	F.Chopinの作品について（2）	ショパンの代表的な練習曲から「別れの曲」ホ長調 作品10の3、「革命」ハ短調 作品10の12、「大洋」ハ短調 作品25の12を取り上げ、練習曲としてのピアノ書法にどのような性格や一貫性を持たせたのかを読み解いてみましょう。考える参考例としての練習曲（ex.ツェルニー
第5週	F.Chopinの作品について（3）	ショパンの4つあるバラードから第1番を取り上げ、そこに認められるソナタ形式への意識、彼のピアノ書法の集約ともいえる書き方、調性の大胆な設定、そして何よりも細部にまでびっしりと書き込まれた「ため息の動機」について詳しく見てゆきます。一つの楽曲をここまで徹底
第6週	S.Rachmaninovの作品について（1）	第6週では鍵盤楽器を取り上げてきた流れの最後に、ラフマニノフの代表的なピアノ作品である前奏曲嬰ハ短調「鐘」を取り上げます。「鐘」という愛称で呼ばれているこの小品では、彼の作曲の音楽的特徴でもある鐘の音型を把握しておきたいと思います。また初期の作品とはい
第7週	S.Rachmaninovの作品について（2）	ラフマニノフ(2)では彼のピアノ協奏曲として見事な作曲技法を示した第2番ハ短調 作品18を取り上げます。交響曲第1番の初演の失敗による酷評によって極度の神経衰弱に陥り、作曲の筆も手に取ることができなくなったラフマニノフですが、医学的暗示療法によって徐々に回復しこ
第8週	【閑話休題】和声法の崩壊～トリスタン和声を読み解く～	和声法の崩壊は様々な作曲家の実例に示されて徐々に進んでいきました。民族音楽の台頭は機能和声を大胆に打ち破り、古い教会旋法での回帰も機能和声を必要とはせず、全音音階と増三和音や下行変位された属和音も静かに和声法の礎を揺るがせていました。機能和声法が既に
第9週	P.I.Tchaikovskyの作品について（1）	チャイコフスキーの三大交響曲の一つ、交響曲第4番ヘ短調 作品36の第1楽章を取り上げます。交響曲の第1楽章なので当然ソナタ形式で作曲されていますが、チャイコフスキーの楽曲構成方法には、第1主題と第2主題の主題労作で楽曲を展開するという方法がかなり拡大されてい
第10週	P.I.Tchaikovskyの作品について（2）	第10週でも彼の傑作交響曲の一つ、第5番ホ短調 作品64の第4楽章を取り上げます。第1楽章冒頭に置かれた主題の終楽章での回帰も圧倒的効果を生み出しているのですが、楽曲構成上そうした特徴的なテーマや、様々な主題や動機が効果的に考えられて配置されてゆく様は、とてつ
第11週	O.Respighiの作品について	レスピーギの色彩的でドラマチックなオーケストレーションの秘密を探ります。彼のローマ三部作から「祭り」と「松」を取り上げます。交響詩「ローマの祭り」からは第4楽章『主顕祭』にスポットを当てます。この賑やかで騒がしく、そして手回しオルガンや酔っ払いまで登場す
第12週	I.Stravinskyの作品について	ストラヴィンスキーの代表的なバレエ音楽の一つ「春の祭典」から数曲を取り上げ、悪い意味で一大センセーションを引き起こしてしまった、パリ・シャンゼリゼ劇場での初演当時における超現代的な音楽内容を考えてみます。当時の聴衆の耳や音楽的な期待を見事に裏切る理由の
第13週	A.Schönberg（アメリカ帰化後はSchoenberg）の作品について	シェーンベルクといえば12音音楽の創始者ではありますが、その理論を理解しておく前に、いかに彼がまだ若いうちに後期ロマン派のトリスタン和声を含むワーグナーの和声法をすでに身につけてしまっていたのかを探っておきたいと思います。そのために彼の弦楽合奏曲（弦楽六
第14週	20世紀以降の音楽作品について	20世紀以降の現代の音楽は様々な変化し、その流れもいくつかの支流があってこれまでの音楽史的なとらえ方はできないのではないかと思われます。ここでは現代的な手法で書かれた音楽を分析するために知っておきたい技法を念頭に置き、その音楽技法（語法）に基づいた音楽
第15週	総括	後期の総括としてここまでの14回を振り返ります。その上で振り返りのレポートを課し、時間内にその提出をもって最終の評価に加えて講義を終了します。作曲家個人とその代表作や音楽的な重要性で見てきた後期の内容を振り返り、言葉によって質の高い音楽レポートを作成でき
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	鍵盤音楽史A						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

バロックの時代から19世紀前半までの鍵盤音楽の歴史を概観し、各時代固有の楽器の構造や演奏習慣の問題との関連などを理解する。

到達目標

① 各時代の演奏習慣や楽器の特性と、音楽作品との関連が説明できる。
② 各時代に固有の音楽様式やジャンルの特徴が説明できる。
③ この講義を通して身に付けた知識を、自分自身の専攻分野で活かすことができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート1	50%		
レポート2	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

ピアノコースの試験曲については、できる限り授業内で取り上げます。授業範囲で取り上げてほしい作品を出席フォームでリクエストすることもあります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	バッハの鍵盤音楽①　平均律	バロック時代の演奏習慣／バッハの鍵盤音楽創作概観／「平均律」第1巻の解釈
第2週	バッハの鍵盤音楽②　協奏曲	バッハの協奏曲編曲／「イタリア協奏曲」／バッハの鍵盤協奏曲
第3週	バッハの鍵盤音楽③　ゴールドベルク変奏曲	ゴールドベルク変奏曲解説／バッハと象徴
第4週	古典派のピアノ音楽①　ハイドンのソナタ	古典派のピリオド楽器／古典派音楽のトピック／ハイドンのソナタ第54番
第5週	古典派のピアノ音楽②　モーツァルトのソナタ	モーツァルトの創作概観／ピリオド楽器とソナタの関係
第6週	古典派のピアノ音楽③　モーツァルトの協奏曲	モーツァルトの協奏曲創作概観／ピアノ協奏曲のイメージ
第7週	古典派のピアノ音楽④　ベートーヴェンのソナタ1	ベートーヴェンの創作概観／初期のピアノソナタ
第8週	古典派のピアノ音楽④　ベートーヴェンのソナタ2	中期のピアノソナタ
第9週	古典派のピアノ音楽④　ベートーヴェンのソナタ3	ベートーヴェン晩年の特徴／晩年のソナタ
第10週	古典派のピアノ音楽⑥　ベートーヴェンの協奏曲	ベートーヴェンの協奏曲概観／協奏曲第3番、第5番
第11週	幻想曲①	ソナタ形式の変容と19世紀の幻想曲／シューベルト／リスト
第12週	幻想曲②	シューマン／ショパン
第13週	ショパンのバラード	ソナタ形式の変容とショパンのバラード／バラード第1番／第4番
第14週	ロマン派の協奏曲①	幻想曲と協奏曲／シューマン／リスト第1番
第15週	ロマン派の協奏曲②	民族主義とピアノ協奏曲／ショパン／グリーク
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	鍵盤音楽史Ｂ						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	３年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

①　「鍵盤音楽史Ａ」を継続し、盛期ロマン派から現代までのピアノ作品を取り上げ、個々の作曲家の音楽様式やピアノ書法の基本的な特徴を理解する。
②　印象派以降は、必ずしも作曲家別ではなく、リストと印象主義、ジャズと協奏曲等、関連性のある作曲家・作品の比較も行って、それぞれの特徴を理解する。

到達目標

①　各作曲家の音楽様式や作曲技法と、音楽作品との関連が説明できる。
②　近現代の作品の新しいピアノ書法の特徴が把握でき、自分なりの作品解釈ができるようになる。
③　この講義を通して身に付けた知識を、自分自身の専攻分野で活かすことができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート1	50%		
レポート2	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

ピアノコースの試験曲については、できる限り授業内で取り上げます。必要に応じて、授業で取り上げてほしい作品をリクエストすることもあります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	盛期ロマン派のピアノ音楽①　ショパン「エチュード」	19世紀のエチュード・ブーム／ショパンのエチュードとそのモデル
第2週	盛期ロマン派のピアノ音楽②　リスト「超絶技巧練習曲」	リストのエチュードのモデル、影響／「超絶技巧」の変容
第3週	盛期ロマン派のピアノ音楽③　リストのピアノ創作	リストのピアノ創作概観／各時期の代表作
第4週	印象主義のピアノ音楽①　ドビュッシー「版画」、「映像」	ドビュッシーの創作背景／初期のピアノ曲
第5週	印象主義のピアノ音楽②　ドビュッシー「前奏曲」	ドビュッシー「前奏曲」解説
第6週	印象主義のピアノ音楽③　ラヴェル	ラヴェルの創作概観／「鏡」とそのモデル
第7週	リストと印象主義	水に因んだピアノ曲の比較
第8週	ジャズと20世紀ピアノ協奏曲	ジャズの影響を受けたピアノ協奏曲／ラヴェル／ショスタコーヴィチ
第9週	スクリャービン	スクリャービン創作概観／各時期の代表作解説
第10週	ラフマニノフ①	ラフマニノフの創作概観／「前奏曲」／ピアノ協奏曲第2番
第11週	ラフマニノフ②	ラフマニノフ晩年の特徴／「コレッリの主題による変奏曲」／パガニーニ狂詩曲／ニコライ・メトネル
第12週	プロコフィエフ①	プロコフィエフの創作概観／初期のピアノ作品
第13週	プロコフィエフ②	プロコフィエフ晩年の特徴／ソナタ第6番／ショスタコーヴィチ「24の前奏曲とフーガ」
第14週	バルトーク	バルトークの創作概観／各時期の作曲技法と代表作
第15週	20世紀のピアノ協奏曲	プロコフィエフとバルトークの協奏曲
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	オペラ史A						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3013		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

前期はバロック時代から、古典派、初期イタリア・ロマン派オペラ、ヴェルディまでを取り上げて、オペラの歴史を概観しながら、登場人物の性格付け、舞台や台詞の構造と音楽形式との関連等を理解する。
また、オペラ内容に関連するミュージカルも取り上げて、同様の観点から理解する。

到達目標

① 個々の作品における役柄の特徴や、歌詞内容・演技と音楽との関連が理解でき、登場人物の性格付けを自分なりに掘り下げられるようになる。
② 宮廷オペラ、オペラ・セリア、オペラ・ブッファ、ジングシュピール等、各ジャンルの様式的特徴が理解され、歴史的・社会的背景から説明できる。
③ この講義を通じて獲得された知識を、自分自身の専攻分野で活用できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート１	50%		
レポート２	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業範囲で関わりのある作品があれば、事前に申し出てください。授業内で取り上げることもあります。オペラの内容や演出の意図などについて、出席フォームで意見を出してもらい、クラスルームで共有しコメントしながら学びを深めます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	モーツァルト「フィガロの結婚」①	オペラ・ブッファ概説／モーツァルトのオペラ創作概説／「フィガロの結婚」第１、第2幕
第2週	モーツァルト「フィガロの結婚」②	「フィガロの結婚」第3、第4幕
第3週	モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」①	ドン・ジョヴァンニ伝説／「ドン・ジョヴァンニ」第1幕
第4週	モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」②	「ドン・ジョヴァンニ」第2幕
第5週	モーツァルト「魔笛」	ジングシュピール概説／「魔笛」
第6週	ミュージカル「オペラ座の怪人」	作曲者紹介／「オペラ座の怪人」
第7週	19世紀イタリア・オペラ① ロッシーニ	オペラ・ブッファの発展／ベルカント概説／「セヴィリアの理髪師」
第8週	19世紀イタリア・オペラ② ベルカント・オペラ	ベルカント・オペラ概説／ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」
第9週	19世紀イタリア・オペラ③ ベルカント・オペラ	ベッリーニ「ノルマ」
第10週	ヴェルディ① 「ラ・トラヴィアータ」	ヴェルディのオペラ創作／「ラ・トラヴィアータ」
第11週	ヴェルディ② 「リゴレット」	「リゴレット」概説／著名ナンバー解説
第12週	ヴェルディ③ 「アイーダ」	ヴェルディの後期創作概観／「アイーダ」成立背景／作品解説
第13週	ヴェルディ④ 「オテッロ」	ヴェルディ晩年の特徴／「オテッロ」原作と台本／作品解説
第14週	ヴェリズモ・オペラ	ヴェリズモ概説／「カヴァレリア・ルスティカーナ」／「道化師」
第15週	ミュージカル「レ・ミゼラブル」	「レ・ミゼラブル」の時代背景／作品解説
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	オペラ史Ｂ						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	３年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3014		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

19世紀ロシア、フランスのオペラ、ヴァーグナー、プッチーニ等の作品及びオペラと関連の深いミュージカル作品を取り上げて、オペラの歴史を概観しながら、登場人物の性格付け、舞台や台詞の構造と音楽形式との関連等を理解する。

到達目標

① 個々の作品における役柄の特徴や、歌詞内容・演技と音楽との関連が理解でき、登場人物の性格付け を自分なりに掘り下げられるようになる。
② ロマン主義の影響やヴァーグナーの楽劇理論、ヴェリズモ等、新しいオペラ創作の問題が理解され、作品解釈をより深く掘り下げられるようになる。
③ 講義を通して身に付けた知識を、自分自身の専攻分野で活用できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.異文化による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート１	50%		
レポート2	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業範囲で関わりのある作品があれば、事前に申し出てください。授業が1回にまとまらない場合、2回分に分けて同時配信することがあります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	19世紀フランス・オペラとビゼー「カルメン」	19世紀のフランスオペラ創作の背景／「カルメン」の時代背景／作品解説
第2週	オッフェンバックのオペレッタ	オペレッタの成立／19世紀後半のフランス／「地獄のオルフェ」作品解説
第3週	19世紀ドイツ・ロマン主義オペラとヴァーグナー①	19世紀ドイツオペラ創作の背景／ヴァーグナーのオペラ創作／「タンホイザー」解説①
第4週	19世紀ドイツ・ロマン主義オペラとヴァーグナー②	「タンホイザー」解説②
第5週	ヨハン・シュトラウスのオペレッタ	ヨハン・シュトラウスⅡ世の創作概観／「こうもり」作品解説
第6週	19世紀ロシア・オペラ①	19世紀ロシアオペラ創作の背景／ムソルグスキー「ボリス・ゴドゥノフ」解説
第7週	19世紀ロシア・オペラ②	チャイコフスキー創作概観／チャイコフスキー「エフゲニ・オネーギン」作品解説
第8週	プッチーニ①　「ラ・ボエーム」	プッチーニのオペラ創作概観／「ラ・ボエーム」作品解説
第9週	ラーソン「レント」	「レント」成立背景としてのアメリカ現代史／「レント」作品解説
第10週	プッチーニ②　「トスカ」	プッチーニ「トスカ」作品解説
第11週	プッチーニ③　「蝶々夫人」	19世紀ヨーロッパとジャポニスム／「蝶々夫人」作品解説
第12週	ミュージカル「ミス・サイゴン」	20世紀におけるオリエンタリズムとジェンダーの問題／「蝶々夫人」と「ミス・サイゴン」比較／「ミス・サイゴン」作品解説
第13週	プッチーニ④　「トゥーランドット」	プッチーニ「トゥーランドット」作品解説
第14週	ガーシュウィン「ポーギーとベス」	アメリカの国民オペラ成立背景／黒人問題／「ポーギーとベス」作品解説
第15週	ミュージカル「ウエストサイド物語」	アメリカ民族問題／シェークスピアとミュージカル比較／「ウエストサイド物語」作品解説
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	管弦楽史Ａ						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	３年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3015		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

古典派の協奏曲、ロマン派の交響曲や協奏曲をとり上げながら、西洋の管弦楽の歴史を概観し、各時代・ジャンル固有の音楽様式や形式、歴史的楽器や演奏習慣等を理解する。

到達目標

①　管弦楽曲の歴史的な様式の変遷が理解され、各時代に相応しい作品解釈ができるようになる。
②　基本的な楽曲形式とオーケストレーションとの関連が理解され、管弦楽曲における楽器の音色の機能を、より適確に把握できるようになる。
③この講義を通して身に付けた知識を、自分自身の専攻分野で活かすことが出来るようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート1	50%		
レポート2	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

吹奏楽やオーケストラの定期演奏会で演奏する作品があれば授業内でも取り上げます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	モーツァルトの協奏曲	モーツァルトの管楽器のための協奏曲の特徴と、古典派時代のピリオド楽器との関連性、古典派時代の演奏習慣を講義する。
第2週	19世紀前半の交響曲① メンデルスゾーン、シューマン	メンデルスゾーン、シューマンの交響曲・管弦楽曲を取り上げて、ベートーヴェン以降の交響曲の発展を理解する。
第3週	19世紀の交響曲②　ブラームス①	ブラームスの創作背景／ブラームスとロマ音楽／交響曲第2番
第4週	19世紀の交響曲③　ブラームス②	ブラームス晩年の特徴／交響曲第3番、第4番
第5週	19世紀の交響曲④　ブルックナー①	ブルックナー交響曲の様式／交響曲第4番
第6週	19世紀の交響曲⑤　ブルックナー②	ブルックナーとワーグナー／交響曲第9番
第7週	19世紀の管弦楽　ロシア①	19世紀ロシア交響曲の発達／民族主義／ボロディン／チャイコフスキー
第8週	19世紀の管弦楽　ロシア②	標題音楽とロシア音楽／リムスキー／チャイコフスキー
第9週	19世紀の管弦楽　ロシア③	チャイコフスキーの晩年の創作
第10週	世紀末の管弦楽　R・シュトラウス①	シュトラウスの交響詩概観／「ドン・ファン」「ティル・オイレンシュピーゲル」
第11週	世紀末の管弦楽　マーラー①	マーラー創作概観／マーラーの初期交響曲／交響曲第1番
第12週	世紀末の管弦楽　R・シュトラウス②	「アルプス交響曲」解説
第13週	世紀末の管弦楽　マーラー②	マーラー中期の創作概観／交響曲第5番
第14週	世紀末の管弦楽　マーラー③	マーラー晩年の創作概観／交響曲第8番、「大地の歌」、第9番
第15週	世紀末の管弦楽　シベリウス	シベリウスの創作概観／交響曲第2番／交響曲第5番
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	管弦楽史Ｂ						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	３年生	開講期	後期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3016		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

印象主義から、20世紀前半までの作品を取り上げて、西洋の管弦楽の歴史を概観し、
各時代・ジャンル固有の音楽様式や形式、時代思潮との関連を理解する。

到達目標

① 管弦楽の歴史的な様式の変遷が理解され、各時代に相応しい作品解釈ができるようになる。
② 基本的な楽曲形式とオーケストレーションとの関連が理解され、管弦楽曲における楽器の音色の機能を、より適確に把握できるようになる。
③ この講義を通して身に付けた知識を、自分自身の専攻分野で活かすことができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとさ他及交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート1	50%		
レポート2	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる予定の作品をよく予習しておくこと。授業で配布したプリント内容を録音資料を用いて復習しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

定期演奏会で取り上げる作品があれば授業内でも解説します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	20世紀の管弦楽①　ドビュッシー	ドビュッシーの創作の意義／管弦楽での特徴／交響詩「海」
第2週	20世紀の管弦楽②　ラヴェル①	ラヴェルの創作概観／ピアノ曲と管弦楽編曲の比較／「ダフニスとクロエ」
第3週	20世紀の管弦楽②　ラヴェル②	「展覧会の絵」原曲と編曲の比較
第4週	20世紀の管弦楽②　ラヴェル③	「展覧会の絵」原曲と編曲の比較
第5週	20世紀の管弦楽③　ストラヴィンスキー①	ストラヴィンスキー創作概観／ディアギレフとロシア・バレエ団／「火の鳥」
第6週	20世紀の管弦楽③　ストラヴィンスキー②	「ペトルーシカ」「兵士の物語」解説
第7週	20世紀の管弦楽④　新古典主義	新古典主義の定義と背景／ラヴェル「クープランの墓」／ストラヴィンスキー「プルチネッラ」
第8週	20世紀の管弦楽⑤　プロコフィエフ	プロコフィエフの創作概観／作曲様式の特徴／ソ連での創作／「ロミオとジュリエット」
第9週	20世紀の管弦楽⑥　ショスタコーヴィチ	ソ連音楽概説／ショスタコーヴィチ初期の作品／社会主義リアリズムと交響曲第5番
第10週	20世紀の管弦楽⑦　バルトーク	バルトークの創作概観／各時期のバルトークの作曲技法と作品
第11週	20世紀の管弦楽⑧　アメリカ１	アメリカの芸術音楽概説／アイヴズ／ガーシュウィン
第12週	20世紀の管弦楽⑨　アメリカ2	コープランド／バーンスタイン
第13週	現代の管弦楽	現代の作曲技法と代表的な管弦楽曲
第14週	日本の管弦楽	日本の管弦楽史と代表作
第15週	吹奏楽の音楽史	吹奏楽の起源／日本の吹奏楽／作曲技法と代表作
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	コンサートプロデュース論						
担当教員	大石　泰／鎌倉　亮太／小山　隼平	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3701		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

多様化した現代社会においては、あらゆる分野でプロデューサーの役割が重要になってきている。この授業では、コンサートのプロデュースを例にとり、プロデューサーの役割を学び、実際にコンサートを制作する体験を通じて、社会に出てから役に立つプロデュース能力を身につけてもらう。授業はプロデュースについての理解を深める講義と、学生自らが企画から公演までを手掛ける実習の要素とからなる。なお「コンサート・プロデュース」は体系的に確立された学問ではなく、授業は私がこれまでにコンサート制作の現場で培ってきた知見に基づいて行われる。

到達目標

学生たちが自らの手でコンサートを企画・制作し、公演まで行うことによって、コンサート・プロデュース能力を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
最終公演の成果	30%		
公演への参加姿勢	10%		
レポート・課題などの提出物	20%		
出欠を含む授業に取り組む態度	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。　』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
不定期開講のため、毎回の授業の終わりに次の授業までに取り組む課題、レポートなどを課す。その内容は「授業計画」欄に記入済。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

興味関心を自分で見つけて、積極的に授業に取り組んでいくこと。また予習・復習をしっかりやること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	コンサート・プロデュースは自己表現（４月19日２講目）	課題：自己紹介レポート
第2週	コンサート・プロデュースの実際（４月19日３講目）	課題：コンサートの企画案を考える
第3週	企画の検討①（５月17日２講目）	
第4週	企画の検討②（５月17日３講目）	
第5週	企画の決定	
第6週	企画の詳細の検討	
第7週	台本作成について①	
第8週	台本作成について②	課題：台本の作成
第9週	台本完成	
第10週	役割分担の決定と公演計画の策定	
第11週	舞台仕込みと準備（9月4日２講目）	
第12週	公演リハーサル（9月4日３講目）	
第13週	公演リハーサル（つづき）（9月4日４講目）	
第14週	公演準備とゲネプロ（9月5日２講目）	
第15週	公演本番（9月5日３講目）	レポート：公演の振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽ビジネス論						
担当教員	阿部　紫野／小澤　貴広／鎌倉　亮太／ 黒田　朋子／今野　くる美／巽　真紀子／ 塚原　義弘／中田　朱美／福田　恭子／ 松井　脩／萬　司	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2622		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽分野における様々な業種について、理解を深める授業である。様々な音楽業界で実際に活躍されている方を、オムニバス形式で招聘する。自身のビジネス分野について紹介してもらいながら、音楽家のセルフマネジメントの意義等について学ぶ。
また、その中から特に興味を持った１つの業種を選び、その職業について自身で更に深く調べ、その成果を発表する。

到達目標

①音楽分野において、様々な業種があることを知り、職種の多様性について理解を深めることができる。
②興味を持った分野について、さらに自ら研鑽を積み、就職を見据えた学びにつなげることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート・課題などの提出物	20%		
出欠を含む授業に取り組む態度	40%		
最終発表	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義内容は各分野の一部を紹介するだけなので、特に興味ある内容・分野については、自発的に調べ、積極的に業種理解に努めること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実際の現場で活躍されている方々を講師にお招きするため、道外の講師も多数いらっしゃる。そのため、オンラインでの開催の回と、対面での開催の回がある。なお、講師の都合により、上記授業計画の順番が変更することがあり得る。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要、評価方法の説明
第2週	職種理解①	音楽教室の仕事（対面：今野くる美）
第3週	職種理解②	音楽スタジオとポピュラー音楽制作の仕事（対面：塚原義弘）
第4週	職種理解③	放送業界における音楽の仕事（オンライン：巽真紀子）
第5週	アントレプレナー	（オンライン：中田朱美）
第6週	ワークショップ	Webページ作成支援（オンライン：福田恭子）
第7週	職種理解④	アーティストのマネージャーの仕事（オンライン：小澤貴広）
第8週	職種理解⑤	コンサートホールの仕事（対面：阿部紫野）
第9週	職種理解⑥	オーケストラ事務の仕事（対面：黒田朋子）
第10週	職種理解⑦	楽器店の仕事（対面：松井脩）
第11週	職種理解⑧	音楽関係の出版（対面：萬司）
第12週	アウトリーチ	（対面：鎌倉亮太、小山隼平）
第13週	研究テーマまとめ①	研究テーマの決定
第14週	研究テーマまとめ②	自身で決めた研究テーマをもとに、発表準備を行う。
第15週	研究テーマまとめ③	発表、振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技教材研究III（ピアノ）						
担当教員	後山　美菜子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2602		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

教材研究ⅠⅡに続き、導入終了後の小学生低学年程度を対象にしたピアノ実技教材を知る。時代様式を考慮した与え方を念頭に曲を取り上げ、学生同士でのロールプレイを通してレッスン実習へのステップとする。

到達目標

① 様式別の指導に必要な音楽的的知識を身につける。
② 学習者に模範を示すための視奏能力を習得できる。
③ 各時代の音楽文学を広く知ることによって、学習程度に応じた教材選び（出版社選びも含む）ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
視奏能力	４０%		
指導者としての興味拡大と知識の学修	４０%		
口頭説明能力	２０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。毎回コピーを配付するが、手持ちの楽譜の持参も促す。』					

参考書等

なし。様々な版の楽譜、ピアノ教材や指導に関する書籍を紹介する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

長年ピアノ指導に携わり、当初から当講義を担当してきた。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配付した資料（教材コピー）を授業前に読譜して来ること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

配付資料は必ず持参し、必要な時に取り出せるよう整理しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	
第2週	バロックの作品①	バッハ：インヴェンション
第3週	バロックの作品②	舞曲について
第4週	バロックの作品③	仏バロック・伊バロック
第5週	古典派の作品①	ソナチネアルバム
第6週	古典派の作品②	ハイドン等、前古典派について
第7週	古典派の作品③	ベートーヴェン等
第8週	テクニック・メカニック教材について	
第9週	ロマン派の作品①	ウェーバー、シューベルト等
第10週	ロマン派の作品②	シューマン、ショパン等
第11週	ロマン派の作品③	チャイコフスキー等
第12週	近現代の作品①	フランス近代小曲
第13週	近現代の作品②	バルトーク、カバレフスキー等
第14週	近現代の作品③	ギロック、邦人作品、現代奏法
第15週	最新情報とまとめ	リトミック・各国指導法ほか
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技教材研究Ⅳ（ピアノ）						
担当教員	後山　美菜子	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3604		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

教材研究ⅠⅡⅢに続き、小学生高学年程度を対象にしたピアノ実技教材を知る。時代様式を考慮した与え方を念頭に曲を取り上げ、学生同士でのロールプレイを通してレッスン実習へのステップとする。

到達目標

①　様式別の指導に必要な音楽的的知識を身につける。
②　学習者に模範を示すための視奏能力を習得できる。
③　各時代の音楽文学を広く知ることによって、学習程度に応じた教材選び（出版社選びも含む）ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
視奏能力	３０%		
指導者としての興味拡大と知識の学修	３０%		
レポート①オーディション聴講	２０%		
レポート②子供時代から習った曲を振り返り、分類ー	２０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。毎回コピーを配付するが、手持ちの楽譜の持参も促す。』					

参考書等

なし。様々な版の楽譜、ピアノ教材や指導に関する書籍を紹介する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

長年ピアノ指導に携わり、当初から当講義を担当してきた。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配付した資料（教材コピー）をよく読み、練習しておくこと。	1時間程度/週

受講時の注意事項

配付資料は必ず持参し、必要な時に取り出せるよう整理しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	バロックの作品①	バッハ：シンフォニア
第2週	バロックの作品②	テレマン 等 バッハ以外のバロック
第3週	古典派の作品①	平易なソナタ 等
第4週	古典派の作品②	オーディション課題曲研究
第5週	ロマン派の作品①	メンデルスゾーン：無言歌 等
第6週	ロマン派の作品②	ショパン：ワルツ、オーディション課題曲
第7週	近現代の作品①	ドビュッシー：小品 等
第8週	学外見学学習	オーディション聴講とレポート
第9週	テクニックとペダルの指導	音階指導の手順
第10週	バロックの作品③	スカルラッティ：ソナタ
第11週	古典派の作品③	変奏曲 等
第12週	ロマン派の作品③	グリーグ：抒情小曲集 等
第13週	近現代の作品②	ウェーベルン：小品、邦人作品
第14週	近現代の作品③ レポート２種のフィードバック	
第15週	大人の初心者向けの教材紹介とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技教材研究III（吹奏楽・合唱）						
担当教員	鎌倉　亮太／河野　泰幸／内藤　淳一	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3613		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

少子化に伴い当たり前の編成で吹奏楽を行うことが難しくなり、自分たちのバンドに合った編曲が必要になってきます。吹奏楽の楽曲を研究し、「より少ない編成を想定した管打楽器のアンサンブル」に対応できるよう様々な編成で編曲してみます。

到達目標

①　指導に必要な音楽的知識を習得できる。
②　学習者に模範を示すための能力を習得できる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

	学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎週の課題提出	50%		
編曲した楽曲の演奏	20%		
受講状況および平常点	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目では、音楽家として実務経験のある教員が、実践的な教育を行います。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までに、指示された事項を準備すること。授業後は課題仕上げる事。	2時間／週

受講時の注意事項

楽譜作成アプリを使用する。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンス
第2週		ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する①　楽曲選定
第3週		ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する②　楽曲分析
第4週		ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する③　構想
第5週		ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する④　編曲実践
第6週		ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する⑤　編曲実践
第7週		ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する⑥　仕上げ
第8週		ピアノ作品などを小編成のアンサンブル用に編曲する⑦　編曲した作品を演奏する
第9週		ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する①　楽曲選定
第10週		ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する②　楽曲分析
第11週		ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する③　楽曲分析
第12週		ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する⑤　構想
第13週		ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する⑥　編曲実践
第14週		ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する⑦　編曲実践
第15週		ピアノ作品などを小編成の吹奏楽用に編曲する⑧ 編曲した作品を演奏する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技教材研究Ⅳ（吹奏楽・合唱）						
担当教員	鎌倉　亮太／河野　泰幸／内藤　淳一	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3614		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

国内で行われている合唱コンクールを参考に、課題曲や自由曲を調べながら、実際の学校現場や一般合唱団で扱われている合唱曲について理解を深める。課題曲・自由曲共に、それぞれの曲について音楽的観点から分析を行い、また過去の実際の出場した学校の選曲状況を調べながら、自分が指導者になったと仮定して、選曲するポイントについて考察する。

到達目標

① 合唱コンクールについて理解し、教育現場や一般の合唱団の中での意味・位置づけについて理解できる。
② 課題曲や自由曲について考察し、自分自身が指導者として選曲する際のポイントを理解できる。
③ 選曲した曲について、演奏やリハーサルのための準備ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での課題	80%		
学修状況	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

全日本合唱コンクール北海道ブロック審査員。
札幌市民芸術祭「市民合唱祭」審査員。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
与えられた曲のみならず、自分で楽譜・楽曲を探してくる課題も多いので、図書館を十分に活用すること。与えられ決められた課題の楽曲については、十分に勉強し指導・指揮のための準備をしてくること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実際に合唱の指導にあたる指導員・指揮者にとってレパートリーの問題は重要で、この授業では邦人作曲家のレパートリーを増やすための機会を学生に提供する。よってその必要性は大きく希少性も高いということを、参加する学生は十分に認識して出席すること。実施した課題について授業内でフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要の説明
第2週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察①	2021年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第3週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察②	2019年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第4週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察③	2018年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第5週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察④	2017年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第6週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察⑤	2016年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第7週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察⑥	2015年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第8週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察⑦	2014年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第9週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察⑧	2013年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第10週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察⑨	2012年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第11週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察⑩	2011年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第12週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察⑪	2010年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第13週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察⑫	2009年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第14週	合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察⑬	2008年度に行われた合唱コンクールの課題曲・自由曲の考察
第15週	講評とまとめ	課題曲から見えた傾向を自分が指導者になった時にどのように活かすか検討する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法各論III						
担当教員	下出　理恵子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 3203		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

1.医療現場における対象者の疾患についての知識を得る。
2.医療分野、特に精神科、心療内科領域、緩和ケアについて学ぶ。
3.自ら色々な音楽療法領域の文献を読み広く音楽療法を理解する。

到達目標

1.医療分野の基礎知識を身につけ、各領域の対象者の症状、心理状態等を理解できる。
2.対象者に合わせた音楽療法の目的と治療構造を理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験	50%		
授業内での態度およびプレゼン	30%		
課題レポート	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

精神科デイケア専属常勤音楽療法士である講師が実践的教育を行っている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義内に配布された資料を熟読し、関連した分野の先行文献を探索し読むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

将来の音楽療法士資格取得を考え、積極的に質問することが望ましい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	教師の自己紹介、学生それぞれの自己紹介
第2週	医療と音楽療法の歴史的背景	音楽療法全般の歴史的背景―日本、諸外国
第3週	音楽療法の有効性を探る―自らの経験から語り合う	学生さん達の今までの経験から音楽療法の有効性を明確にする―アンケートを教師が作成し記入してもらい、その内容を発表し合う。
第4週	神経難病とはー音楽療法は有効性か	神経難病を理解し、音楽はどのようにその障がいに有効か探り療法に結びつける。
第5週	神経難病・高齢者領域との共通点、ほかの領域に繋がる有効性を探る	音楽の要素が様々な領域に有効であることを共有する―現場再現してみよう
第6週	音楽療法の文献探索	興味をもっている領域の音楽療法の文献を探索してプレゼンする。
第7週	日本の精神医療の歴史と概要	精神科の領域の音楽療法の歴史とその背景を知る。
第8週	精神科領域の音楽療法①	文献から、また実際に現場での経験を紹介する
第9週	精神科領域の音楽療法②	①に続き現場でなぜその療法が有効かを共用する。
第10週	心療内科の音楽療法①	講師の現場紹介―音楽療法プログラムの紹介①
第11週	心療内科の音楽療法②	精神科・心療内科の音楽療法の文献探索・プレゼン・検討①
第12週	心療内科の音楽療法③	精神科・心療内科の音楽療法の文献探索・プレゼン・検討②
第13週	緩和ケアの音楽療法	緩和ケアとは、そこに音楽療法がなぜ有効か。
第14週	ここまでの講義の中で理解できたことで自分と向き合ってみよう	これから実習にも出かける精神科の領域をどのように理解できたか共有する。
第15週	授業内試験とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	即興演奏Ｃ						
担当教員	小山　隼平／向坂　元吾	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2363		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

①コードネームを理論的に理解できる。
②一定のルールに沿って即興的に音を出すことができる。
③適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
参加状況	20%	知識と技術	16%
音楽によるコミニュケーション力	16%		
表現のアイディア	16%		
成長の実感	16%		
考え方・取り組む姿勢	16%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	
第2週	グループ分け、選曲	ルールの理解
第3週	グループごとにセッションをする（前半）①	ルールに沿った表現
第4週	グループごとにセッションをする（前半）②	リズムの表現
第5週	グループごとにセッションをする（前半）③	スケールの理解
第6週	グループごとにセッションをする（前半）④	スケールの理解
第7週	グループごとにセッションをする（前半）⑤	スケールに沿った表現
第8週	グループごとにセッションをする（前半）⑥	総括
第9週	中間発表	
第10週	グループごとにセッションをする（後半）①	ルールに沿った表現
第11週	グループごとにセッションをする（後半）②	リズムの表現
第12週	グループごとにセッションをする（後半）③	スケールの理解
第13週	グループごとにセッションをする（後半）④	スケールの理解
第14週	グループごとにセッションをする（後半）⑤	スケールに沿った表現
第15週	期末発表とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	即興演奏Ｄ						
担当教員	小山　隼平／向坂　元吾	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 2364		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

①コードネームを理論的に理解できる。
②一定のルールに沿って即興的に音を出すことができる。
③適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
参加状況	20%	知識と技術	16%
音楽によるコミニュケーション力	16%		
表現のアイディア	16%		
成長の実感	16%		
考え方・取り組む姿勢	16%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	
第2週	グループ分け、選曲	ルールの理解
第3週	グループごとにセッションをする（前半）①	ルールに沿った表現
第4週	グループごとにセッションをする（前半）②	リズムの表現
第5週	グループごとにセッションをする（前半）③	スケールの理解
第6週	グループごとにセッションをする（前半）④	スケールの理解
第7週	グループごとにセッションをする（前半）⑤	スケールに沿った表現
第8週	グループごとにセッションをする（前半）⑥	総括
第9週	中間発表	
第10週	グループごとにセッションをする（後半）①	ルールに沿った表現
第11週	グループごとにセッションをする（後半）②	リズムの表現
第12週	グループごとにセッションをする（後半）③	スケールの理解
第13週	グループごとにセッションをする（後半）④	スケールの理解
第14週	グループごとにセッションをする（後半）⑤	スケールに沿った表現
第15週	期末発表とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	器楽合奏Ⅴ（吹奏楽・オーケストラ）						
担当教員	大隅　雅人／河野　泰幸	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3215		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合奏を通して演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な基本的奏法を身につけるとともに、アンサンブルの技能を高める。
演奏会実現に向けて様々な役割を担いプロの演奏家、及び吹奏楽指導者としての能力を学んでいく。

到達目標

楽曲に合った奏法を身につけるとともにアンサンブルの重要性を理解する。
演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要なスキルを身につけ、様々なコンサートなどでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏発表及び特別練習に参加する為にしっかりと準備	50%		
合奏に必要な基本的奏法がなされているか	30%		
楽曲分析や演奏表現をしっかりと取り組めているか	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

演奏家としての実務経験(オーケストラ活動)のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までにしっかりと譜読みをし、更に音楽的な表現ができるレベルまで練習を重ねる。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れですが、コンサートに向けて授業科目別の計画は変更が考えられます。
その場合は事前にお知らせします。
コンサート前の特別練習やオープンキャンパス、吹奏楽セミナーなど各種の本番に絡み、授業回数が増えることがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、合奏	授業内容、目的、計画、役割分担。
第2週	基礎と合奏	簡単な楽曲を使いサウンドのチェック
第3週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第4週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第5週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第6週	合奏	キャンパスコンサートに向けて質の向上
第7週	合奏	キャンパスコンサートに向けて仕上げ
第8週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第9週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第10週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第11週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第12週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第13週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第14週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第15週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第16週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第17週	合奏	定期演奏会に向けて総練習
第18週	合奏	定期演奏会本番
第19週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第20週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第21週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第22週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第23週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第24週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第25週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第26週	合奏	オーケストラ定期の譜読み
第27週	合奏	オーケストラ定期の質の向上
第28週	合奏	オーケストラ定期本番
第29週	合奏	シンフォニック定期総練習
第30週	合奏	シンフォニック定期本番

授業科目	器楽合奏Ⅴ（弦楽合奏・オーケストラ）						
担当教員	岩渕　晴子／大隅　雅人／グレブ　ニキティン／ 河野　泰幸／鈴木　初／中島　杏子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3225		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

オーケストラ曲などの主要な作品を演奏しながら、合奏の基本的な技術やアンサンブルの表現方法を学ぶ。
また、定期演奏会などの研究成果を発表し、合奏技術や表現力の実践的な習得を目指す。

到達目標

楽曲に合った奏法を身につけるとともに、アンサンブルの重要性を理解する。
演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要な役割を身につけ、定期演奏会や弦楽合奏成果発表演奏会などのコンサートでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	○	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		○	5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
予習、復習などの授業への受講態度	50%		
合奏技術の達成度	30%		
演奏に取り組む姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は演奏家(プロのオーケストラ活動など)としての実務経験のある教員が実践的指導を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までに譜読みをし、安定した演奏になるための練習を行う。 予習、復習を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業に備え椅子、譜面台など合奏できる状態にセッティングをし、各自音出し、チューニングを済ませておく。
数台の弦楽器は貸し出しを行うが、原則楽器は個人持ちが望ましい弦楽合奏など演奏会経費など別途かかる場合があります。
上記の授業計画は基本的な流れであり、演奏会前の特別練習など授業回数や授業内容に変更の可能性があります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	初級、上級クラス分け
第2週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイングについて理解する
第3週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイングについて理解する
第4週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイング、について理解する
第5週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第6週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第7週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第8週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第9週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第10週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第11週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第12週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第13週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第14週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第15週	弦楽合奏本番	前期弦楽合奏成果発表演奏会
第16週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第17週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第18週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第19週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第20週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第21週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第22週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第23週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの仕上げ
第24週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの仕上げ
第25週	音楽学科定期演奏会本番	音楽学科定期演奏会でのオーケストラ演奏 初級はコンサートを必ず聴きにいくこと
第26週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第27週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第28週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第29週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第30週	弦楽合奏成果発表コンサート本番	弦楽合奏成果発表の本番

授業科目	器楽合奏Ⅴ（電子オル・ハイブリッドオケ）						
担当教員	斉藤　宏子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3235		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合奏という集団性の高い演奏形態の中で、音楽を通じて、コミュニケーションの取り方や集団の中の個のあり方などを学びます。同時に、協調性や人間性を養います。

到達目標

①楽曲にあった奏法を実践することができる。
②アンサンブルの重要性が理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏技術の達成度	40%		
合奏における役割の理解度と表現力	40%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『エレクトーン・ブルクミュラー25の練習曲CD付』	渡辺暁樹	ヤマハ音楽振興会	2018	9784636955002	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習、練習をして授業に望んでください。また、授業終了後は、復習を必要とします。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

電子オルガンの学習経験の有無は問いません。また、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要の説明とグループ編成の決定
第2週	選曲	
第3週	楽器等の理解	
第4週	グループ内担当の割り振り①（ディスカッション）	
第5週	グループ内担当の割り振り②（決定）	
第6週	楽譜作成、個々の音色づくり（１曲目）	
第7週	楽譜作成、個々の音色づくり（２曲目）	
第8週	楽譜作成、個々の音色づくり（３曲目）	
第9週	楽譜作成、個々の音色づくり（４曲目）	
第10週	グループ全体での音作り（１曲目前半）	
第11週	グループ全体での音作り（１曲目後半）	
第12週	アンサンブル練習（１曲目前半）	
第13週	アンサンブル練習（１曲目後半）	
第14週	アンサンブル練習（１曲目仕上げ）	
第15週	まとめ	授業内で演奏発表を行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノアンサンブルⅤ						
担当教員	鎌倉　亮太／谷本　聡子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3315		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

2台ピアノ・または連弾の曲を演奏する時の音の整理・バランスの取り方などをロマン派以降の楽曲を通して学び、大きな規模のアンサンブルに挑戦する。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による思考交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏試験	50%		
発表会	40%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。ただし、履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、選択した曲の作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。
詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人で十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	組み合わせを決める。
第2週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第3週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第4週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第5週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第6週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第7週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第8週	合同発表会	中間のまとめ発表
第9週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第10週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第11週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第12週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第13週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第14週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第15週	まとめと期末試験	まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノアンサンブルVI						
担当教員	鎌倉　亮太／谷本　聡子	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3316		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

今までの授業で培った学びを基に、アンサンブルする時の音の整理・バランスの取り方などを発展的に学び、アンサンブルにおけるピアノ技法の研究を深める。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による他者及び文化をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏試験	50%		
発表会	40%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。ただし、履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。
詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人で十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	組み合わせを決める。
第2週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第3週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第4週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第5週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第6週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第7週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第8週	合同発表会	中間のまとめ発表
第9週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第10週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第11週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第12週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第13週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第14週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第15週	まとめと期末試験	まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	合唱Ⅴ						
担当教員	内藤　淳一	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3205		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合唱Ⅴは3年次に配当された選択の合唱となりますが、受講学生はこれまでの合唱Ⅰ からⅣで培った合唱経験やスキルをさらに深め、歌唱のテクニックを高めるとともに、合唱レパートリーをさらに広げつつ既習の楽曲ではそれを深めてゆくことになります。また、定期演奏会（11月21日(金)Kitaraで開催予定）で取り上げる楽曲については、その譜読みから本番に至る練習の過程でさらなる音楽の高みを目指し、それに必要な技術や音楽性の伸長を目指します。
授業前半では合唱Ⅲと同様に日本の合唱作品（NHK全国学校音楽コンクール課題曲「虹」森山直太朗・御徒町凧作詞作曲と「死んだ男の残したものは」詩／谷川俊太郎、作曲／武満徹）を取り上げ、様々な視点からアプローチした楽曲分析を踏まえ、語感を大切にした合唱表現やハーモニーの要求する音楽的抑揚の表現などを学んでゆきます。授業後半からは定期演奏会で取り上げる楽曲に集中的に取り組み、オーケストラと一体となった音楽表現へのアプローチを理解します。

到達目標

①これまで学んできた正しい呼吸法と発声法を定着させ、合唱における歌唱表現に生かすことができる。
②言葉やハーモニーの要求する音楽的抑揚を的確に捉え、演奏に反映することができる。
③作品の持つ様式を理解し、適切に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
チェックシート（毎回の授業の最後に提出する振り返	75%		
平常点（チェックシートから読み取れる授業に取り組	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。 定期演奏会で取り上げる楽曲は必要に応じて販売となることもありま					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

合唱指導者として中学校や高等学校での部活動指導や授業での合唱指導についての豊富な実務経験あり。
全日本合唱コンクールやNHK全国学校音楽コンクール、声楽アンサンブルコンクール、滝廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールなどで全国大会出場経験は多数あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配布された楽譜をその時間中に歌う場合は授業内での譜読みとなります。そのために必要な読譜力を普段から磨いておく必要があります。合唱Ⅰ とⅡで習得した発声法や呼吸法は各自でしっかり復習して定着させておいてください。	1時間程度/週

受講時の注意事項

この合唱Ⅴは選択の授業ではありますが、器楽演奏や作編曲などのすべての音楽の基本が歌うことにあると考え、音楽学科にとっての大切な科目ととらえてもらえればと思います。
授業では作曲家としての楽譜の書かれ方に着目し、合唱指導者としての言葉と音楽とのより高い次元での融合を目指した授業にしてゆくの

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	第1週ではこの授業の１年間の授業展開について説明します。 実技としてはこれまでの合唱で習得した発声法と呼吸法を確認します。その具体的な方法の一つとして、教育現場（授業や部活動など）でよく行われているピアノ伴奏法に加え、器楽練習
第2週	①日本の合唱作品を学ぶ	第2週では詩と音楽との関わり、言葉を伴った動機の展開と和声について考えながら合唱表現を工夫してゆきます。楽曲は「虹」（作詞作曲／森山直太朗・御徒町凧））と「死んだ男の残したものは」」（詩：谷川俊太郎、曲：武満徹）です。学校教育現場で歌われることの多いNコ
第3週	②日本の合唱作品を学ぶ	第3週では到達目標②にある「言葉やハーモニーの要求する音楽的抑揚を的確に捉え、演奏に反映」させる具体的な方法を考え工夫してみます。ここでは特に詩の中にある言葉とリズムやハーモニーとの関係に着目してゆきます。
第4週	③日本の合唱作品を学ぶ	第4週では前週に続き到達目標②にある「言葉やハーモニーの要求する音楽的抑揚を的確に捉え、演奏に反映」させる具体的な方法をさらに試行してゆきます。 ここではこの楽曲が表現しようとしているところを歌詞やハーモニー、言葉のリズムに感じ取
第5週	④日本の合唱作品を学ぶ	第5週ではこの２曲それぞれの全体像を把握しながら、それらの楽曲構成を念頭に置いた音楽表現を工夫します。
第6週	⑤日本の合唱作品を学ぶ	第6週ではこの２曲をそれぞれ総括的に取り扱い、その表現すべきところを確認しながらまとめの合唱をしてゆきます。
第7週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（１）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習①
第8週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（２）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習②
第9週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（３）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習③
第10週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（４）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習④
第11週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（５）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑤
第12週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（６）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑥
第13週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（７）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑦
第14週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（８）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑧
第15週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（９）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑨
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	合唱VI						
担当教員	内藤　淳一	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3206		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この合唱VIは前期の合唱Ⅴから継続して展開する授業です。
前年度の合唱で習得した内容を踏まえ、より高度な声のハーモニーを実習します。
定期演奏会（11月21日(金)Kitaraで開催予定）で取り上げる楽曲の練習が主な内容となりますが、オーケストラとの共演で合唱がそのハーモニーの色彩感を表現し、言葉の抑揚やリズムの特徴などを踏まえた歌唱表現を学びます。

到達目標

定期演奏会で取り上げる大規模場楽曲の練習を通して以下のような到達目標を達成する。
①正しい発声法と呼吸法のさらなる習得に努め、それらを合唱表現に生かしてゆくことができる。
②より複雑なハーモニーの抑揚をくみ取り、それを合唱表現に生かしてゆくことができる。
③語感とその抑揚を生かした発音に努め、表情豊かに合唱表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
チェックシート（毎回の授業の最後に提出する振り返	60%		
振り返りシート（最終のレポート）	15%		
平常点（チェックシートから読み取れる授業に取り組	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。 定期演奏会で取り上げる楽曲については必要に応じて販売となることも					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

合唱指導者として中学校や高等学校での部活動指導や授業での合唱指導など、豊富な実務経験があります。
全日本合唱コンクールやNHK全国学校音楽コンクール、声楽アンサンブルコンクール、滝廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールなどで全国大会出場経験も多数あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配布された楽譜をその時間中に歌う場合は授業内での譜読みとなります。そのために必要な読譜力を普段から磨いておく必要があります。合唱ⅠとⅡで習得した発声法や呼吸法は各自でしっかり復習して定着させておいてください。	１～２時間程度/週

受講時の注意事項

この合唱VIも選択の授業ではありますが、器楽演奏や作編曲などのすべての音楽の基本が歌うことにあると考え、音楽学科にとっての大切な科目ととらえてもらえればと思います。
授業では作曲家としての楽譜の書かれ方に着目し、合唱指導者としての言葉と音楽とのより高い次元での融合を目指した授業にしてゆくの

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習①	前期に学んだ定期演奏会で取り上げる楽曲についての確認。 詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(1)
第2週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習②	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(2)
第3週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習③	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(3)
第4週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習④	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(4)
第5週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習⑤	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(5)
第6週	定期演奏会に向けた全体練習①	楽曲全体の譜読みを完了し仕上げの練習を行う(1)
第7週	定期演奏会に向けた全体練習②	仕上げの練習を行う(2)
第8週	定期演奏会に向けた全体練習③	仕上げの練習を行う(3)
第9週	定期演奏会に向けた全体練習④	仕上げの練習を行う(4)
第10週	定期演奏会に向けた全体練習⑤	仕上げの練習を行う(5)
第11週	定期演奏会のための強化練習①	オーケストラとの合同練習(1)
第12週	定期演奏会のための強化練習②	オーケストラとの合同練習(2)
第13週	定期演奏会のための強化練習③	オーケストラとの合同練習(3)
第14週	定期演奏会のための全体総練習および本番	全体総練習ではプログラムの進行に従って練習を進め、適宜確認をしつつ出入りを含めた総合的な練習をする。
第15週	総括	定期演奏会を振り返りレポートを作成する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	オペラ制作演習Ⅴ						
担当教員	岡崎　正治／鎌倉　亮太／角　岳史／ 千葉　　潤／萩原　のり子／針生　美智子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 3105		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、室内楽、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。
下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.異質にふるまう相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
アンサンブル試験および、受講状況による評価	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

新国立劇場等でのオペラ出演・東京二期会オペラ研修所講師。
札幌市内のオペラ団体での指揮・合唱指導等を行う。
札幌文化芸術劇場hitaruとの連携事業で長年に渡りオペラの見どころ・聴きどころを担当。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。 ピアニストは、授業時に合わせができる状態まで譜読みしてくること。	5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項

毎授業の前に発声練習をしてください。
授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
授業開始・終了時にステージ場ミリ・小物等の準備と後片付けを受講者全員で行います。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンスほか	授業の進め方の説明。 一人ずつの声質チェック。 今年度のオペラ公演概要の説明。
第2週	ソロ音楽稽古/合唱稽古①	ガイダンスで指示した曲の音楽稽古。 主に音程・リズムを確認。
第3週	ソロ音楽稽古/合唱稽古②	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。
第4週	身体表現特別講義(予定)	音楽に合わせて動く・振りを覚える等、オペラに必要な身体の使い方を学ぶ。
第5週	ソロ音楽稽古/合唱稽古③	身体表現で得た動きを意識しながら歌唱稽古。
第6週	ソロ音楽稽古/合唱稽古④	言葉・フレーズを主に確認。
第7週	講義Ⅰ（予定）	今回のオペラ作品についての講義
第8週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑤	講義を受けたうえでの解釈を確認した音楽稽古。
第9週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑥	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。
第10週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑦ セリフ稽古①	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。 台本の読み方、声の出し方など実演してアドヴァイス。
第11週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑧ セリフ稽古②	歌唱試験に向けてのアドヴァイス。 前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。
第12週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑨ セリフ稽古③	歌唱試験に向けての仕上げ。 前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。
第13週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑩	歌唱試験に向けての仕上げ。
第14週	ソロ音楽稽古/合唱稽古11	歌唱試験に向けての仕上げ。
第15週	ソロ、合唱、歌唱試験・講評	歌唱試験。 演奏後に担当教員から講評、後期に向けてのアドヴァイス等。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	オペラ制作演習VI						
担当教員	岡崎　正治／鎌倉　亮太／角　岳史／ 千葉　　潤／萩原　のり子／針生　美智子	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 3106		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、室内楽、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。
下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.異文化による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に労力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
アンサンブル試験および、受講状況による評価	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

新国立劇場等でのオペラ出演・東京二期会オペラ研修所講師。
ヨーロッパのオペラ公演への出演。
札幌市内のオペラ団体での指揮・合唱指導等を行う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。	5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項

毎授業の前に発声練習をしてください。
授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
授業開始・終了時にステージ場ミリ・小物等の準備と後片付けを受講者全員で行います。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	台本通し稽古	音楽、セリフを通して確認しながら、アドヴァイス。
第2週	立ち稽古① 音楽稽古①	演出家からの動きのアドヴァイス。 楽器個別練習。
第3週	立ち稽古② 音楽稽古②	立ち位置までの移動を中心に確認。 小物の扱いを確認。 楽器個別練習。
第4週	立ち稽古③ 音楽稽古③	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第5週	立ち稽古④ 音楽稽古④	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第6週	立ち稽古⑤ 音楽稽古⑤	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第7週	立ち稽古⑥ 音楽稽古⑥	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第8週	立ち稽古⑦ 音楽稽古⑦	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第9週	立ち稽古⑧ 音楽稽古⑧	演奏と動きの確認。 小物のスタンバイ位置・準備担当者の配置チェック。 楽器個別稽古。
第10週	立ち稽古⑨ 音楽稽古⑨	演奏と動きの確認。 小物のスタンバイ位置・準備担当者の配置チェック。 楽器個別稽古。
第11週	立ち稽古⑩ 音楽稽古⑩	演奏と動きの確認。 小物の最終確認。 楽器個別稽古。
第12週	通し稽古①	演奏と動きの確認。 楽器も合わせて流れを確認。
第13週	通し稽古②	本番に向けての仕上げ。 楽器も合わせて流れを確認。
第14週	通し稽古③	本番に向けての仕上げ。 楽器も合わせて流れを確認。
第15週	G.P/本番	本番後に担当教員から講評。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	歌曲研究Ａ						
担当教員	石橋　克史	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

モーツァルトからR・シュトラウスに至るまでのドイツリートを取り上げ、ドイツ語の正しく明瞭な発音、詩の内容と曲の表現の関連性、作品の背景などを研究し、演奏をとおしてそれぞれの作品を追求する。

到達目標

授業内で取り上げる歌曲から数曲を演奏(歌唱もしくはピアノ)できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での演習	80%		
平常点(授業に取り組む姿勢及び受講態度)	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料・楽譜を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

演奏家としての実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げた楽曲を演奏できるように予習・復習(練習)する。	1時間から２時間程度/週

受講時の注意事項

ドイツリートを勉強した経験は必要ありません。
ピアノ専攻者のピアノ伴奏中心の履修も可能です。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の進め方について説明
第2週	概論・ドイツリート	ドイツリート全般にわたる概論
第3週	モーツァルトの歌曲①	モーツァルトの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第4週	モーツァルトの歌曲②	モーツァルトの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第5週	モーツァルトの歌曲③	モーツァルトの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第6週	モーツァルトの歌曲④	モーツァルトの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第7週	ベートーヴェンの歌曲①	ベートーヴェンの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第8週	ベートーヴェンの歌曲②	ベートーヴェンの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第9週	ベートーヴェンの歌曲③	ベートーヴェンの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第10週	ベートーヴェンの歌曲④	ベートーヴェンの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第11週	シューベルトの歌曲①	シューベルトの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第12週	シューベルトの歌曲②	シューベルトの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第13週	シューベルトの歌曲③	シューベルトの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第14週	シューベルトの歌曲④	シューベルトの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第15週	シューベルトの歌曲⑤	シューベルトの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	歌曲研究Ｂ						
担当教員	石橋　克史	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

モーツァルトからR・シュトラウスに至るまでのドイツリートを取り上げ、ドイツ語の正しく明瞭な発音、詩の内容と曲の表現の関連性、作品の背景などを研究し、演奏をとおしてそれぞれの作品を追求する。

到達目標

授業内で取り上げる歌曲から数曲を演奏(歌唱もしくはピアノ)できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.異文化による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での演習	50%		
平常点(授業に取り組む姿勢及び受講態度)	30%		
発表	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料・楽譜を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

演奏家としての実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げた楽曲を演奏できるように予習・復習(練習)する。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

ドイツリートを勉強した経験は必要ありません。
ピアノ専攻者のピアノ伴奏中心の履修も可能です。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	シューマンの歌曲①	シューマン歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第2週	シューマンの歌曲②	シューマン歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第3週	シューマンの歌曲③	シューマン歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第4週	シューマンの歌曲④	シューマン歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第5週	ブラームスの歌曲①	ブラームスの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第6週	ブラームスの歌曲②	ブラームスの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第7週	ブラームスの歌曲③	ブラームスの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第8週	ヴォルフとR・シュトラウスの歌曲①	ヴォルフとR・シュトラウスの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第9週	ヴォルフとR・シュトラウスの歌曲②	ヴォルフとR・シュトラウスの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第10週	ヴォルフとR・シュトラウスの歌曲③	ヴォルフとR・シュトラウスの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第11週	ヴォルフとR・シュトラウスの歌曲④	ヴォルフとR・シュトラウスの歌曲を歌唱とピアノの両面から研究する。
第12週	総合演習	発表に向けての全体仕上げ
第13週	総合演習	発表に向けての全体仕上げ
第14週	総合演習	発表に向けての全体仕上げ
第15週	発表及び講評	歌唱あるいはピアノ伴奏による発表、及び講評
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	歌曲研究Ｃ						
担当教員	三山　博司	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

滝廉太郎、山田耕筰ら初期の作品から現代の作曲家の作品に至るまで、日本歌曲作品を広く取り上げ演奏研究を行う。日本語の美しい発音の方法を学びつつ、作曲家がテキスト（詩）をどのように読み解いて曲（旋律とピアノパート）を書いたかを考察する。それらをもとに内容に即した演奏表現と演奏解釈を歌唱とピアノの両面から研究する。授業は演習形式で行い、毎週２～３曲を学習する。履修者ごとに異なった課題曲を与え、年度末に履修者全員で発表演奏する。

到達目標

①正しい日本語の発音で歌唱することができる。
②歌、ピアノパートともにテキスト（詩）に対する作曲家の解釈を理解し、その意図を的確に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での演習	70%		
平常点（積極的に授業に取り組む姿勢及び受講態度）	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。ただし履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。』					

参考書等

日本歌曲全集[1]～[45] 音楽之友社 （大学図書館所蔵）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

ソロ・リサイタル及び様々な演奏会での歌唱
各種セミナー・講習会での講師

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
与えられた課題曲を演奏できるように、各自十分に予習（練習）してから授業に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修者は年度末の発表演奏会で、歌唱またはピアノのどちらかを必ず演奏しなければなりません。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	１年間の履修計画を示し、演習授業の準備の方法、授業の進め方について説明する。
第2週	日本歌曲の誕生から現在までの流れ①	滝廉太郎から始まる日本歌曲の黎明期について考察する。
第3週	日本歌曲の誕生から現在までの流れ②	日本歌曲の中興の祖である橋本国彦を中心に昭和の初期から戦前・戦中にかけての作曲家について考察する。
第4週	日本歌曲の誕生から現在までの流れ③	中田喜直、團伊玖磨を始め、戦後から現代にいたるまでの作曲家について考察する。
第5週	日本語歌唱の基本と注意点について	舞台語としての日本語の発音・発声の注意点について、滝廉太郎などの歌曲を用いて学ぶ。
第6週	山田耕筰などの初期の日本歌曲①	山田耕筰らの作品を教材に、正しく美しい日本語での歌唱を研究する①
第7週	山田耕筰などの初期の日本歌曲②	山田耕筰らの作品を教材に、正しく美しい日本語での歌唱を研究する②
第8週	山田耕筰などの初期の日本歌曲③	山田耕筰らの作品を教材に、正しく美しい日本語での歌唱を研究する③
第9週	戦前の作曲家の作品①	戦前の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する①
第10週	戦前の作曲家の作品②	戦前の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する②
第11週	戦前の作曲家の作品③	戦前の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する③
第12週	戦前の作曲家の作品④	戦前の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する④
第13週	戦前の作曲家の作品⑤	戦前の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑤
第14週	戦後の作曲家の作品①	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する①
第15週	戦後の作曲家の作品②	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する②
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	歌曲研究D						
担当教員	三山　博司	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

滝廉太郎、山田耕筰ら初期の作品から現代の作曲家の作品に至るまで、日本歌曲作品を広く取り上げ演奏研究を行う。日本語の美しい発音の方法を学びつつ、作曲家がテキスト（詩）をどのように読み解いて曲（旋律とピアノパート）を書いたかを考察する。それらをもとに内容に即した演奏表現と演奏解釈を歌唱とピアノの両面から研究する。授業は演習形式で行い、毎週２～３曲を学習する。履修者ごとに異なった課題曲を与え、年度末に履修者全員で発表演奏する。

到達目標

①正しい日本語の発音で歌唱することができる。
②歌、ピアノパートともにテキスト（詩）に対する作曲家の解釈を理解し、その意図を的確に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での演習	50%		
発表演奏会に向けての取り組み	20%		
平常点（積極的に授業に取り組む姿勢及び受講態度）	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。ただし履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。』					

参考書等

日本歌曲全集[1]～[45] 音楽之友社（大学図書館所蔵）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

ソロ・リサイタル及び様々な演奏会での歌唱
各種セミナー・講習会での講師

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
与えられた課題曲を演奏できるように、各自十分に予習（練習）してから授業に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修者は年度末の発表演奏会で、歌唱またはピアノのどちらかを必ず演奏しなければなりません。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	戦後の作曲家の作品③	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する③
第2週	戦後の作曲家の作品④	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する④
第3週	戦後の作曲家の作品⑤	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑤
第4週	戦後の作曲家の作品⑥	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑥
第5週	戦後の作曲家の作品⑦	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑦
第6週	戦後の作曲家の作品⑧	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑧
第7週	戦後の作曲家の作品⑨	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑨
第8週	現代の作曲家の作品①	現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する①
第9週	現代の作曲家の作品②	現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する②
第10週	現代の作曲家の作品③	現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する③
第11週	現代の作曲家の作品④	現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する④
第12週	発表演奏会に向けての総合演習①	発表演奏会でそれぞれが演奏する楽曲の総仕上げ①
第13週	発表演奏会に向けての総合演習②	発表演奏会でそれぞれが演奏する楽曲の総仕上げ②
第14週	発表演奏会に向けての総合演習③	発表演奏会でそれぞれが演奏する楽曲の総仕上げ③
第15週	発表演奏会	歌唱またはピアノで各自が担当する楽曲を演奏する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	声楽特別研究A						
担当教員	角　岳史／針生　美智子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3321		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

モーツァルトを中心にした、オペラ作品などの重唱を教材にして、楽曲を分析し、ストーリーを研究、歌唱をして、演技を入れたアンサンブルを演習する。
楽曲分析、戯曲の研究を行い、理解と知識を習得する。

到達目標

研究発表という目標を持ち、音楽を幅広く捉える事ができる。
アンサンブルの魅力を体感し、今後の音楽活動への多大な手掛かりとする力が身につく。
更に、複数の相手の声を聞きながら、芝居をする事を通して、協調生を養う事が出来る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとらわれず視野を広くもって、柔軟性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
重唱試験及び受講状況による評価	８０%		
アンサンブルとしての音楽性と表現力	２０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

新国立劇場等でのオペラ出演・東京二期会オペラ研修所講師・東京オペレッタ劇場公演への出演。
東京オペレッタ劇場公演での演出の他、オペラ・オペレッタ・ミュージカルでの指揮。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内で取り上げる楽曲の譜読み、、内容を予習、授業で行った事は必ず復習を行うこと。	5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項

発言や質問など積極的な受講姿勢を求めます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の流れの説明。 楽譜配布。 後期発表会の説明。
第2週	解説を交えた音楽稽古①	ガイダンスで配布された曲の初回音楽稽古。イタリア語の発音を中心にアドヴァイス。
第3週	解説を交えた音楽稽古②	前回のアドヴァイスを受けて練習（復習）してきたことの確認。 レチタティーヴォを中心にアドヴァイス。
第4週	解説を交えた音楽稽古③	前回のアドヴァイスを受けて練習（復習）してきたことの確認。 レチタティーヴォを中心にアドヴァイス。
第5週	解説を交えた音楽稽古④	前回のアドヴァイスを受けて練習（復習）してきたことの確認。 レチタティーヴォを中心にアドヴァイス。
第6週	解説を交えた音楽稽古⑤	前回のアドヴァイスを受けて練習（復習）してきたことの確認。 音楽解釈・演奏表現のアドヴァイス。
第7週	解説を交えた音楽稽古⑥	前回のアドヴァイスを受けて練習（復習）してきたことの確認。 音楽解釈・演奏表現のアドヴァイス。
第8週	解説を交えた音楽稽古⑦	前回のアドヴァイスを受けて練習（復習）してきたことの確認。 音楽解釈・演奏表現のアドヴァイス。
第9週	講義（予定）	前期歌唱試験での曲について、演奏だけではなく作曲家・曲の背景など、内容を改めて理解する。
第10週	音楽稽古①	前回の講義を受けたうえでの、演奏を確認・アドヴァイス。
第11週	音楽稽古②	歌唱試験に向けてのアドヴァイス。
第12週	音楽稽古③	歌唱試験に向けてのアドヴァイス。
第13週	音楽稽古④	歌唱試験に向けてのアドヴァイス。
第14週	音楽稽古④	歌唱試験に向けての最終調整。
第15週	前期歌唱試験	演奏後に講評。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	声楽特別研究Ｂ						
担当教員	角　岳史／針生　美智子	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3322		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

モーツァルトを中心とした、オペラなどの重唱を教材にして、楽曲を分析し、ストーリーを研究、歌唱をして、演技を入れたアンサンブルを演習する。
楽曲分析、戯曲の研究を行い、理解と知識を習得する。

到達目標

研究発表という目標を持ち、音楽を幅広く捉える事ができる。
アンサンブルの魅力を体感し、今後の音楽活動への多大な手掛かりとする力を身につける。
更に複数の相手の声を聞きながら、芝居をする事で、協調性を養う事ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
重唱試験及び受講状況による評価	８０%		
アンサンブルとしての音楽性と表現力	２０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

新国立劇場等でのオペラ出演・東京二期会オペラ研修所講師・東京オペレッタ劇場公演への出演。
東京オペレッタ劇場公演での演出の他、オペラ・オペレッタ・ミュージカルでの指揮。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内で取り上げる楽曲の譜読み、、内容を予習、授業で行った事は必ず復習を行うこと。	5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項

発言や質問など積極的な受講姿勢を求めます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	音楽稽古①	声楽特別研究Aを履修していた学生には、前回アドヴァイスを受けて練習してきた発音・音程の確認。フレーズ・音楽解釈のアドヴァイス。 声楽特別研究Bから履修の学生には、曲目の相談を行う。
第2週	音楽稽古②	前回のアドヴァイスを受けて練習してきた発音・音程の確認。 フレーズ・音楽解釈のアドヴァイス。
第3週	講義（予定）	演奏する曲についての講義。 作曲家・曲の背景についての理解を深める。 音楽解釈についての理解を深める。
第4週	立ち稽古①	演出家による立ち稽古。 主に立ち位置での移動を確認。
第5週	立ち稽古②	演出家による立ち稽古。 前回の立ち位置等までの移動など再確認。 動き方の練習。
第6週	立ち稽古③	前回のアドヴァイスを受けて練習（復習）してきたことの確認。 全体の流れ・動きを確認。
第7週	立ち稽古④	前回のアドヴァイスを受けて練習（復習）してきたことの確認。 必要小物の最終確認・置き場所等のチェック。 動きと演奏の確認。
第8週	立ち稽古⑤	動きと演奏の確認。 小物の使い方の練習。
第9週	立ち稽古⑥	演奏と動きの確認。
第10週	立ち稽古⑦	演奏と動きの確認。
第11週	立ち稽古⑧	演奏と動きの確認。
第12週	立ち稽古⑨	演奏と動きの確認。
第13週	通し稽古	本番に向けての通し稽古。最終調整。
第14週	G.P	発表会本番に向けてのG.P
第15週	舞台発表	成果発表として発表会を開催。演奏後担当教員から講評。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	サウンドレコーディングＡ						
担当教員	大黒　淳一	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3053		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音を追求し、レコーディング技術/PA技術面から音楽を制作演出するサウンドレコーディングについて学ぶ。
デジタル機器や音響録音機器、DAW(コンピュータ)などを使用した対面型実習です。

到達目標

①音楽スタジオで使用されるシステムや技術について学び、音声、音響の役割について理解を深める。
②アコースティック楽器やボーカルなどの録音を通して整音まで行い、適切なレコーディング技術を身につける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品提出、発表(小課題および最終課題)	50		
授業姿勢・意欲	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『音楽ソフト　Ableton Live(mac/win) 』					

参考書等

なし。授業名で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、サウンドアーティストとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

・国内外のCM番組楽曲制作・MA などのポストプロダクション業務（SONY/UNIQLO/マルボロのCMなど）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
音響機器やソフトウェアについて事前に調べて予習してください。 授業で学んだ操作方法など、ノートを確認して復習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・やむを得ない場合を除く欠席、遅刻は授業姿勢として評価しています。
・機器やソフトウェアの操作方法などは、逐一ノートなどを取ってください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	音と音声信号の基礎知識	
第2週	マイクロホンの基礎知識	
第3週	ミキサー/レベルメーターの基礎知識	
第4週	スピーカー/アンプの基礎知識	
第5週	レコーディング機材(コンピュータ・サウンドレコーダー)の基礎知識	
第6週	レコーディングにおける準備プランについて	
第7週	音声インタビュー録音	
第8週	音声インタビューの編集と整音	
第9週	アコースティック楽器の録音①(ピアノ)	
第10週	アコースティック楽器の録音②(弦楽器/ギター)	
第11週	アコースティック楽器の録音③(打楽器)	
第12週	アコースティック楽器の録音④(ボーカル)	
第13週	サウンドレコーディングの為のPA基礎技術①	
第14週	サウンドレコーディングの為のPA基礎技術②	
第15週	作品発表・講評会	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	サウンドレコーディングＢ						
担当教員	大黒　淳一	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3054		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音を追求し、レコーディング技術/PA技術面から音楽を制作演出するサウンドレコーディングについて学ぶ。
デジタル機器や音響録音機器、DAW(コンピュータ)などを使用した対面型実習です。

到達目標

①前期のサウンドレコーディングAで行った基礎知識を元に音楽スタジオワークの実作業について理解を深める。
②映像作品や音楽作品などのMA技術を通して最終的な作品完成を目指すレコーディング技術を身につける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○		5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品提出、発表（小課題および最終課題）	50		
授業姿勢・意欲	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『音楽ソフト　Ableton Live(mac/win) 』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、サウンドアーティストとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

・国内外のCM番組楽曲制作・MA などのポストプロダクション業務（SONY/UNIQLO/マルボロのCMなど）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
音響機器やソフトウェアについて事前に調べて予習してください。 授業で学んだ操作方法など、ノートを確認して復習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・やむを得ない場合を除く欠席、遅刻は授業姿勢として評価しています。
・機器やソフトウェアの操作方法などは、逐一ノートなどを取ってください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	MA(MultiAudio)の基礎知識	
第2週	MAの実作業とワークフローについて	
第3週	映像作品のためのMA基礎知識	
第4週	音声編集の実践応用	
第5週	音声と音楽の最適なミキシング編集について	
第6週	適切な音声出力について(放送用ラウドネス規格)	
第7週	生演奏のレコーディングプランについて	
第8週	生演奏のマルチレコーディング①	
第9週	生演奏のマルチレコーディング②	
第10週	生演奏のマルチレコーディング③	
第11週	生演奏のマルチレコーディング④	
第12週	楽曲のマスタリング基礎技術①	
第13週	楽曲のマスタリング基礎技術②	
第14週	楽曲のマスタリング応用技術	
第15週	作品発表・講評会	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽リテラシー演習III						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3043		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

①音楽に関する情報（音楽事典、伝記資料、楽譜等）の収集・読解・分析・要約の方法を身に着ける。
②音楽やそれを取り巻く問題に対して、①②で獲得した能力を活用しながら、自分自身の考えを主張するための技術（発表、論述）を学ぶ。
③3年次以上の学生に求められる自分自身のコースでの発表やプログラム解説執筆の機会に合わせて、発表方法を身に付ける。

到達目標

①音楽学的な文献の収集や批判的読解ができる。
②音楽学の研究方法の基礎が身につく。
③演習を通じて獲得したスキルを自分自身の専攻分野に活かすことができるようになる（発表、プログラム解説、卒論等）。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート等	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

「音楽用語の基礎知識」（久保田慶一編著、アルテス）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
音楽学の分野での論文、曲目解説、発表等の経験あり。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

自分自身が関心のあるテーマを幾つか考えておいてください。また個人的な興味だけでなく、社会にとってどのような意味があるのか、幅広い視点を持つことが大切です。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レポートのテーマ相談	関心のあるテーマを複数挙げて、内容を検討する。
第2週	レポートのテーマ相談	調べるテーマを絞る。
第3週	参考文献の検索	教員の指導を受けながら参考文献を検索する。
第4週	参考文献の読解①	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第5週	参考文献の読解②	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第6週	参考文献の読解③	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第7週	参考文献の読解④	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第8週	参考文献の読解⑤	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第9週	レポート作成①	指導を受けながら、自分自身で執筆する。レポート以外の公表の場合には、それに合わせて発表方法を学ぶ。
第10週	レポート作成②	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第11週	レポート作成③	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第12週	レポート作成④	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第13週	レポート作成⑤	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第14週	レポート作成⑥	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第15週	まとめ、講評	教員の講評をもとに自分自身の達成度を考える。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽リテラシー演習Ⅳ						
担当教員	千葉　　潤	配当年次	3年生	開講期	後期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3044		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

①音楽に関する情報（音楽事典、伝記資料、楽譜等）の収集・読解・分析・要約の方法を身に着ける。
②音楽やそれを取り巻く問題に対して、①②で獲得した能力を活用しながら、自分自身の考えを主張するための技術（発表、論述）を学ぶ。
③3年次以上の学生に求められる自分自身のコースでの発表やプログラム解説執筆の機会に合わせて、発表方法を身に付ける。

到達目標

①音楽学的な文献の収集や批判的読解ができる。
②音楽学の研究方法の基礎が身につく。
③演習を通じて獲得したスキルを自分自身の専攻分野に活かすことができるようになる（発表、プログラム解説、卒論等）。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

「音楽用語の基礎知識」（久保田慶一編著、アルテス出版）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

音楽学の分野での論文、曲目解説、発表等の経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自分自身が関心のあるテーマを幾つか考えておいてください。また個人的な興味だけでなく、社会にとってどのような意味があるのか、幅広い視点を持つことが大切です。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この授業は受講生に個別に時間設定し、対面またはオンラインで指導を行います。したがって、時間割に縛られず、自由に受講時間を設定できます。
3年次以上の学生の場合には、各コースでの発表や演奏会のプログラム執筆等の目的に合わせて、指導内容を変更することも可能です。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レポートのテーマ相談	関心のあるテーマを複数挙げて、内容を検討する。
第2週	レポートのテーマ相談	調べるテーマを絞る。
第3週	参考文献の検索	教員の指導を受けながら参考文献を検索する。
第4週	参考文献の読解①	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第5週	参考文献の読解②	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第6週	参考文献の読解③	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第7週	参考文献の読解④	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第8週	参考文献の読解⑤	指導を受けながら、自分自身でまとめる。
第9週	レポート作成①	指導を受けながら、自分自身で執筆する。レポート以外の公表の場合には、それに合わせて発表方法を学ぶ。
第10週	レポート作成②	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第11週	レポート作成③	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第12週	レポート作成④	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第13週	レポート作成⑤	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第14週	レポート作成⑥	指導を受けながら、自分自身で執筆する。
第15週	まとめ、講評	教員の講評をもとに自分自身の達成度を考える。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	伴奏法IIIa						
担当教員	岡本　孝慈	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3033		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

伴奏法を習得することは大切なことである。教育現場ではメロディーに対して簡単な伴奏を付けることがしばしば要求されるし、バランスとセンスの良いアレンジは高い演奏評価にもつながる。比較的取り組みやすい教科書に掲載されているような童謡や歌曲への伴奏付けや、音楽教室講師に必要なグレード取得、また初見などソルフェージュ応用力向上を図る。
ａ岡本クラスではグレード取得を目指したりスキルアップを希望する学生に個別に対応します。ｂ浅井クラスでは教員採用試験合格を目指し移調や視唱、楽典などの必修課題に取り組みます。

到達目標

①　ソルフェージュ力や和声感を向上させ、より正確で迅速な伴奏付けを修練することで、初見演奏能力も向上させることができる。
②　既存の曲、または新曲に相応しい伴奏や、色彩的な和音、リズムの工夫を凝らした即興的な伴奏付けを身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
試験	70%		
課題、平常点	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付するので保管ファイルを用意すること。　』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回課題に取り組むことになるが、修正した課題は必ず復習すること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

受講生は2グループに分割され、同講義時間に2つの教室で担当教員が実施する。オリエンテーリング時に受講クラスを選択することが出来るが、後期には再び変更することが出来る。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	Ⅰ、Ⅱの取り組みなどを踏まえて担当教官と話し合い、進路方向に合ったクラス分かれる。	
第2週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第3週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第4週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第5週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第6週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第7週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第8週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第9週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第10週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第11週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第12週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第13週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第14週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第15週	まとめと試験	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	伴奏法IVa						
担当教員	岡本　孝慈	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3034		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

伴奏法を習得することは大切なことである。教育現場ではメロディーに対して簡単な伴奏を付けることがしばしば要求されるし、バランスとセンスの良いアレンジは高い演奏評価にもつながる。比較的取り組みやすい教科書に掲載されているような童謡や歌曲への伴奏付けや、音楽教室講師に必要なグレード取得、また初見などソルフェージュ応用力向上を図る。
ａ岡本クラスではグレード取得を目指したりスキルアップを希望する学生に個別に対応します。ｂ浅井クラスでは教員採用試験合格を目指し移調や視唱、楽典などの必修課題に取り組みます。

到達目標

①　ソルフェージュ力や和声感を向上させ、より正確で迅速な伴奏付けを修練することで、初見演奏能力も向上させることができる。
②　既存の曲、または新曲に相応しい伴奏や、色彩的な和音、リズムの工夫を凝らした即興的な伴奏付けを身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとらわれず視野を広く持つことができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
試験	70%		
課題、平常点	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付するので保管ファイルを用意すること。　』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回課題に取り組むことになるが、修正した課題は必ず復習すること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

受講生は2グループに分割され、同講義時間に2つの教室で担当教員が実施する。オリエンテーリング時に受講クラスを選択することが出来るが、後期には再び変更することが出来る。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	前期の取り組みなどを踏まえて担当教官と話し合い、進路方向に合ったクラス分かれる。	
第2週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第3週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第4週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第5週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第6週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第7週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第8週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第9週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第10週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第11週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第12週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第13週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第14週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第15週	まとめと試験	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法技能Ｅ						
担当教員	高田　由利子	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 3305		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽療法の実践に求められる臨床的音楽技術について、演習を通して学びます。

到達目標

① 対象者(個人、集団、コミュニティ)に合わせた即興演奏ができる。
② 対象者(個人、集団、コミュニティ)に合わせた作曲や編曲ができる。
③ ①と②で修得したことをセッションプログラムの中で構築できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
中間発表	40%		
グループ発表	30%		
参加状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本音楽療法学会認定音楽療法士として、臨床、スーパービジョン、教育の経験を２０年以上有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。具体的な内容についてはその都度指示します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修者同士でコミュニケーションを取って課題を進める必要があります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	シラバスの説明に基づき、音楽療法士になるために、どのような音楽の技能が必要となるかについて説明する。
第2週	臨床的音楽技術について	臨床的音楽技術の概要を説明します。臨床場面において求められる音楽の技能について学びます。
第3週	臨床的音楽技術について ピアノで実践①（課題①）	事前課題に基づき、臨床的音楽技術についてピアノを使って学びます。
第4週	臨床的音楽技術について ピアノで実践②（課題②）	事前課題に基づき、臨床的音楽技術についてピアノを使って学びます。
第5週	臨床的音楽技術について 弦楽器、打楽器で実践①	事前課題に基づき、臨床的音楽技術について打楽器を使って学びます。
第6週	臨床的音楽技術について 弦楽器、打楽器で実践②	事前課題に基づき、臨床的音楽技術について打楽器を使って学びます。
第7週	即興演奏について 概要の説明	音楽療法における即興演奏について学びます。
第8週	即興演奏について 実践①(ノードフ・ロビンズアプローチ)	ノードフ・ロビンズアプローチにおける即興演奏の療法的な意味について学びます。
第9週	即興演奏について 実践②(ノードフ・ロビンズアプローチ)	ノードフ・ロビンズアプローチにおける即興演奏の療法的な意味について学びます。
第10週	中間発表(課題①と②)・フィードバック	事前課題に基づき、中間発表をします。
第11週	即興演奏について 実践①(分析的音楽療法アプローチ)	分析的音楽療法アプローチにおける即興演奏の療法的な意味について学びます。
第12週	即興演奏について 実践②(分析的音楽療法アプローチ)	分析的音楽療法アプローチにおける即興演奏の療法的な意味について学びます。
第13週	各領域(子ども、成人、高齢者、終末期、コミュニティ)における作曲と編曲の特徴①	様々な領域における作曲と編曲の特徴について学びます。
第14週	各領域(子ども、成人、高齢者、終末期、コミュニティ)における作曲と編曲の特徴②	様々な領域における作曲と編曲の特徴について学びます。
第15週	グループ発表・フィードバック	事前課題に基づき、グループ発表をします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法技能Ｆ						
担当教員	高田　由利子	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 3306		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽療法の実践に求められる臨床的音楽技術について、演習を通して学びます。

到達目標

① 対象者(個人、集団、コミュニティ)に合わせた即興演奏ができる。
② 対象者(個人、集団、コミュニティ)に合わせた作曲や編曲ができる。
③ ①と②で修得したことをセッションプログラムの中で構築できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
中間発表	40%		
グループ発表	30%		
参加状況	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本音楽療法学会認定音楽療法士として、臨床、スーパービジョン、教育の経験を20年以上有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。具体的な内容についてはその都度指示します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修者同士でコミュニケーションを取って課題を進める必要があります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	シラバスの説明に基づき、音楽療法士になるために、どのような知識が必要となるかについて説明する。
第2週	子ども領域におけるソングライティングの方法	子ども領域におけるソングライティングの目的と方法について学びます。モティーフの作り方やコードの付け方、リズムパターンなど、対象者をイメージしながら作ります。
第3週	子ども領域における合奏の編曲の方法①	子ども領域における合奏の編曲の目的と方法について学びます。使用楽器や合奏の編成など、対象者をイメージしながら編曲します。
第4週	子ども領域における合奏の編曲の方法②	子ども領域における合奏の編曲の目的と方法について学びます。使用楽器や合奏の編成など、対象者をイメージしながら編曲します。
第5週	精神科領域における小集団合奏のための編曲の方法①	精神科領域における小集団合奏の編曲の目的と方法について学びます。使用楽器や合奏の編成など、対象者をイメージしながら編曲します。
第6週	精神科領域における小集団合奏のための編曲の方法②	精神科領域における小集団合奏の編曲の目的と方法について学びます。使用楽器や合奏の編成など、対象者をイメージしながら編曲します。
第7週	高齢者領域における既成曲から即興演奏に移行するための手法①	高齢者領域における既成曲から即興演奏に移行するための目的と方法について学びます。
第8週	高齢者領域における既成曲から即興演奏に移行するための手法②	高齢者領域における既成曲から即興演奏に移行するための目的と方法について学びます。
第9週	高齢者領域での小集団合奏のための編曲の方法	高齢者領域における小集団合奏の編曲の目的と方法について学びます。使用楽器や合奏の編成など、対象者をイメージしながら編曲します。
第10週	模擬セッションプログラムの計画①	対象者を設定し、模擬セッションの内容について計画を立てます。
第11週	模擬セッションプログラムの計画②	対象者を設定し、模擬セッションの内容について計画を立てます。
第12週	模擬セッションプログラムの計画③	対象者を設定し、模擬セッションの内容について計画を立てます。
第13週	グループ発表①・フィードバック	模擬セッションの内容をグループ発表します。
第14週	グループ発表②・フィードバック	模擬セッションの内容をグループ発表します。
第15週	まとめとクロージング	授業を通して得た知識や技術を振り返ります。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	伴奏実習Ⅴ						
担当教員	河野　泰幸／針生　美智子	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3355		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

①　ピアニストにとって重要な伴奏の技能を身につける。
②　各専門分野のレッスンを受けることにより、より視野の広い音楽表現を可能とする。
③　伴奏者として必要な経験や知識を身につける。

到達目標

①　器楽・声楽の伴奏を通して、コミュニケーション能力を習得できる。
②　アンサンブルに必要な聴き方やテクニックを実践しながら習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとさ相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点	10%		
実習（本番での伴奏）	90%		
1回の実習での点数は、副科の授業内試験30点～34			

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『授業ごとに指示する。』					

参考書等

授業ごとに指示する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は演奏家としての実務経験がある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく上記の要件を満たすことをもち単位認定します	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

レッスン受講まで充分な合わせを行うこと。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンス
第2週		パートナーとの充分なリハーサル
第3週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
第4週		パートナーとの充分なリハーサル
第5週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
第6週		パートナーとの充分なリハーサル
第7週		総練習
第8週		本番①（演奏会・試験等）
第9週		パートナーとの充分なリハーサル
第10週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
第11週		パートナーとの充分なリハーサル
第12週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
第13週		パートナーとの充分なリハーサル
第14週		総練習
第15週		本番②（演奏会・実技試験等）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ステージスタッフ実習Ⅴ（前期）					
担当教員	大黒　淳一／大隅　雅人／鎌倉　亮太／ 河野　泰幸／小山　隼平／高田　由利子／ 谷本　聡子／千葉　　潤／外山　啓介／ 針生　美智子／三山　博司	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3725		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

大学主催のコンサートにおいて、ステージスタッフ等、演奏以外の各種の責務を果たした場合に評価し、単位として認定します。
本科目は、アクティブラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。

到達目標

①コンサートを運営するための、実務に関する汎用的な知識と技術を身につける。
②コンサートの進行表と舞台配置図を書くことができる。
③コンサート中に滞りなく、与えられた任務を遂行できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
担当教員への事前の連絡・報告・相談	15%	他のスタッフとの連携	10%
業務レベルに応じた理解度	15%	積極性・態度	20%
G.P.での実施内容	15%		
改善点・修正点の把握と実行	15%		
コンサート本番での実施内容	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

宮崎隆男著『「マエストロ、時間です」～サントリーホール　ステージマネージャー物語～』（ヤマハミュージックメディア）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく、45時間従事した時間数をもって単位認定します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録機関を含め「受講時の注意事項」は、コンサートの内容が決定次第、Campus Xsや学内掲示等でお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける協定等、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含む科目です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	コンサート①：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第2週	コンサート①：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第3週	コンサート①：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第4週	コンサート①：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第5週	コンサート①：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第6週	コンサート②：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第7週	コンサート②：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第8週	コンサート②：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第9週	コンサート②：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第10週	コンサート②：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第11週	コンサート③：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第12週	コンサート③：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第13週	コンサート③：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第14週	コンサート③：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第15週	コンサート③：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏研究III（谷本演奏クラス）						
担当教員	谷本　聡子	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3123		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

個人レッスンの形式で、専攻分野に対する研究を深めます。
また、学外のオーディション、コンクールや演奏会等へ参加するか、または発表機会を設けることを前提とし、それに対しての準備や事後評価を行います。

到達目標

①自分の専攻分野について研究を深め、社会の中での音楽家、演奏家としてのあり方を能動的に考えることができる。
②学外のオーディションやコンクール、演奏会等へ参加したり、自分で発表の機会を作ったりすることで、１人の音楽家として、社会に向けた自己の発信をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
① 学外のコンサート（音の輪コンサートを含む）や	60%		
② 取り組む姿勢	20%		
③ ①以外の発表機会に対する積極性	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家あるいは作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
練習や創作の時間を充分確保することはもちろんですが、それに加えて楽曲分析や文献の調査、創作環境の向上につながる情報収集を絶えず行って下さい。	3時間以上/日

受講時の注意事項

事前に実施した、演奏クラス選抜試験に合格した学生のみが履修できます。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	演奏・研究	ガイダンス
第2週		研究テーマの検討
第3週		研究テーマの決定
第4週		演奏研究または作品制作①
第5週		演奏研究または作品制作②
第6週		演奏研究または作品制作③
第7週		演奏研究または作品制作④
第8週		演奏研究または作品制作⑤
第9週		演奏研究または作品制作⑥
第10週		演奏研究または作品制作⑦
第11週		発表に向けての準備①
第12週		発表に向けての準備②
第13週		発表に向けての準備③
第14週		発表に向けての準備④
第15週		発表に向けての準備⑤
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽療法実習Ⅱ						
担当教員	高田　由利子	配当年次	3年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 3402		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

講義、演習、「音楽療法実習Ⅰ」で学んだ知識や技術を実践を通して確かなものにするとともに、音楽療法士としての姿勢や態度を学ぶ。実習生の立場をわきまえ、施設や病院の職員からの指導を受ける。この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

到達目標

① 実習の内容や目的について理解すること。
② 実習施設・病院の対象者に合ったプログラムの作成ができること。
③ 対象者に合った実践を行い、評価ができること。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による多様な交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実習先からの評価	60%		
音楽療法実習計画書	20%		
授業内レポート	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『静かな森の大きな木 音楽療法のためのオリジナル曲集』	生野里花　二俣泉	春秋社			

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本音楽療法学会認定音楽療法士として、臨床、スーパービジョン、教育の経験を20年以上有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
グループでの準備を有する課題を指示します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

音楽療法実習は5回ないしは5日間の実習を行う(研修を含む)。年に数回外部施設での訪問音楽療法を実施する。ゲストスピーカーによる特別講義があります。音楽療法コースに必要な2年次までの開講科目の修得状況から判断し、「音楽療法実習Ⅱ」への準備不足と判断した場合は、履修を認めない場合がある。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	音楽療法実習Ⅱで習得する知識や技能についてシラバスに基づき説明する。
第2週	音楽療法の実習とは	実習中の学びについて学ぶ。
第3週	音楽療法の治療構造①	発達障がい児の音楽療法についての治療構造について学ぶ。
第4週	音楽療法の治療構造②	発達障がい児の音楽療法についての治療構造について学ぶ。
第5週	音楽療法の治療構造③	精神科領域の音楽療法についての治療構造について学ぶ。
第6週	音楽療法の治療構造④	高齢者領域の音楽療法についての治療構造について学ぶ。
第7週	音楽療法の治療構造⑤	高齢者領域の音楽療法についての治療構造について学ぶ。
第8週	音楽療法実習の事前指導	音楽療法実習に向けた事前の指導を行う。
第9週	施設や病院での実践と記録・評価①	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第10週	施設や病院での実践と記録・評価②	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第11週	施設や病院での実践と記録・評価③	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第12週	施設や病院での実践と記録・評価④	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第13週	施設や病院での実践と記録・評価⑤	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第14週	施設や病院での実践と記録・評価⑥	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第15週	施設や病院での実践と記録・評価⑦	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第16週	施設や病院での実践と記録・評価⑧	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第17週	施設や病院での実践と記録・評価⑨	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第18週	施設や病院での実践と記録・評価⑩	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第19週	施設や病院での実践と記録・評価⑪	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第20週	施設や病院での実践と記録・評価12	実習先で求められる記録と評価の方法について学ぶ。
第21週	音楽療法の評価の検討①	音楽療法の様々な評価方法について比較検討しながら、評価することの意味について学ぶ。
第22週	音楽療法の評価の検討②	音楽療法の様々な評価方法について比較検討しながら、評価することの意味について学ぶ。
第23週	音楽療法の評価の検討③	音楽療法の様々な評価方法について比較検討しながら、評価することの意味について学ぶ。
第24週	施設や病院における多職種との連携①	施設や病院における多職種との連携について学ぶ。
第25週	施設や病院における多職種との連携②	施設や病院における多職種との連携について学ぶ。
第26週	地域コミュニティにおける音楽療法の役割①	地域コミュニティにおける音楽療法の役割について学ぶ。
第27週	地域コミュニティにおける音楽療法の役割②	地域コミュニティにおける音楽療法の役割について学ぶ。
第28週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック	実習の経験から得たことをレジュメにまとめて発表する。
第29週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック	実習の経験から得たことをレジュメにまとめて発表する。
第30週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック	実習の経験から得たことをレジュメにまとめて発表する。

授業科目	室内楽III（谷本クラス）						
担当教員	谷本　聡子	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3303		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ、管弦打楽器等を様々な形で組み合わせ、アンサンブルを実技レッスン形式で行う。編成は二重奏から八重奏くらいまでの範囲とする。バロックから近現代までのオリジナルの室内楽曲を中心に、楽譜の読み方を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりうえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.異質にふれる相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実技試験、実技試験の評価は、複数の採点者の素点を	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人かつグループで譜読みをし、合わせて練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。グループとして、しっかりとした練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。ピアノコース・管弦打楽コース以外の学生が履修を希望する場合は、プレイスメントテストを行う場合がある。	1時間以上/日

受講時の注意事項

楽譜は「原典版」を使用することが望ましい。
取り上げるのは、原則出版されているオリジナルの室内楽曲となります。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。実技演奏法（主科）又は実技演奏法（副専攻）を履修していること。副専攻の場合は同一楽器

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンスを行い、履修グループごとに課題曲を決める
第2週	レッスン	楽曲の譜読み、分析を中心に課題曲をグループごとに研究する①
第3週		楽曲の譜読み、分析を中心に課題曲をグループごとに研究する②
第4週		アンサンブルでの練習の仕方を話し合いながら、曲創りをする①
第5週		アンサンブルでの練習の仕方を話し合いながら、曲創りをする②
第6週		アンサンブルでのバランスの聴き方に留意しながら楽曲の総合練習をする①
第7週		アンサンブルでのバランスの聴き方に留意しながら楽曲の総合練習をする②
第8週		演奏試験とまとめ
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法Ⅴ（主専攻・ピアノ）（谷本先生）					
担当教員	谷本　聡子	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	PI-MS 3105		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ演奏の基礎であるテクニックの習得と作品解釈の基礎になる読譜力の向上を目指す。
バロック、古典、ロマン、近現代の各時代の曲の構成、楽譜の読み取り方を研究する。
個人指導のレッスン形式で、それぞれの技術、経験に応じた選曲をする。

到達目標

ピアノテクニックの研鑽と多様な様式での楽曲表現が習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとさ他及び交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実技試験	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

各自の課題にあった楽譜を用意すること。原則的に「原典版」を使用する。
使用楽譜以外にもう一部楽譜を用意すること（コピー譜可）。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の演奏を聴き、その経験を知り個々の学生に合った課題を与え、次週からの学習計画を練る
第2週		数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る①
第3週		数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る②
第4週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする①
第5週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする②
第6週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする③
第7週		暗譜で演奏できるようにする①
第8週		暗譜で演奏できるようにする②
第9週		自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする①
第10週		自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする②
第11週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める①
第12週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める②
第13週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める③
第14週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める④
第15週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める⑤
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅤ（小山先生）					
担当教員	小山　隼平	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	CP-MS 3105		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

作曲や編曲、サウンドデザインの実技指導を受けます。また、必要に応じて参考となる楽曲の鑑賞・分析や和声法、対位法、管弦楽法の指導も受けます。課題の内容と制作方法については、学習者各自の興味・関心および習熟度に応じて設定します。

到達目標

①興味・関心に応じた作品を制作できる。
②他者の作品から参考になる部分を学ぶことができる。
③作品制作で使用する楽器・機器にかかわる知識を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、作曲家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自作品の制作は授業時間外に進めて下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	興味・関心・習熟度に応じた課題を設定する。
第2週	リファレンスの分析①	リファレンスとして使用する楽曲を決定する。
第3週	リファレンスの分析②	リファレンスとして使用する楽曲を分析する。
第4週	リファレンスの分析③	分析結果に基づき必要な知識や技術などを整理する。
第5週	作品制作①	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第6週	作品制作②	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第7週	作品制作③	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第8週	作品制作④	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第9週	作品制作⑤	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第10週	作品制作⑥	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第11週	作品制作⑦	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第12週	作品制作⑧	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第13週	作品制作⑨	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第14週	作品制作⑩	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第15週	まとめと作品提出	完成した作品の自己評価を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法Ⅴ（副専攻・ピアノ）（谷本先生）					
担当教員	谷本　聡子	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3105		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。

到達目標

基礎と演奏能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（または実技試験）。音楽総合コースの主	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で指示します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習してレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える
第2週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する①
第3週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する②
第4週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③
第5週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④
第6週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤
第7週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥
第8週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦
第9週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する①
第10週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する②
第11週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する③
第12週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する④
第13週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑤
第14週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑥
第15週		まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法Ⅴ（副科・ピアノ）（谷本先生）					
担当教員	谷本　聡子	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 3115		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。

到達目標

基礎と演奏能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内実技試験	50%		
平常点	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

詳細な授業計画については，授業内でお知らせします。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える
第2週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する①
第3週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する②
第4週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③
第5週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④
第6週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤
第7週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥
第8週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦
第9週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する①
第10週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する②
第11週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③
第12週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④
第13週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤
第14週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥
第15週		まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	仏教美術						
担当教員	下濱　晶子	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 3005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

本授業では、仏教の展開に応じた仏教のための造形美術を学ぶ。まず仏教の発祥地インドからその流れをたどり、仏像を中心に仏教思想が生み出した造形の特徴と、その意味するものを探る。また、料理、茶道、生け花など生活の中の仏教美術も考察する。

到達目標

① 祈りの形の豊かさと多様性にふれ、仏教美術の根底に流れる造形精神への理解を深める。
② 仏教美術の技法や材質も把握できる。
③ 生活の中の仏教美術を理解する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート	80%		
授業内の課題を含む平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、講演・執筆などの実務経験のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業後は復習を行ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

仏教関係の展覧会や画集やテレビ番組を見るなど、積極的に関わってほしい。
授業内に実施した出席レポートなどのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	仏教美術の用語など基礎知識を教授する。
第2週	釈尊の生涯	釈尊の生涯とそれにまつわる歴史的背景や造形美術について解説する。
第3週	仏教美術のはじまり	古代から中世の仏教美術を概観する。
第4週	仏教美術のひろがり	近世の仏教美術を概観する。
第5週	仏教美術①　彫刻・建築①	飛鳥・白鳳時代の仏教彫刻と建築について解説する。
第6週	仏教美術②　彫刻・建築②	奈良時代の仏教彫刻と建築について解説する。
第7週	仏教美術③　彫刻・建築③	平安時代の仏教彫刻と建築について解説する。
第8週	仏教美術④　彫刻・建築④	鎌倉時代と室町時代の仏教彫刻と建築について解説する。
第9週	仏教美術⑤　絵画①	奈良・平安時代の仏教絵画について解説する。
第10週	仏教美術⑥　絵画②	鎌倉時代と室町時代の仏教絵画について解説する。
第11週	仏教美術⑦　工芸①	正倉院宝物の歴史と意義を解説する。
第12週	仏教美術⑧　工芸②	正倉院宝物のみどころと技法を解説する。
第13週	仏教美術と料理・茶道	主に精進料理について解説する。
第14週	仏教美術と生け花	仏教と関わった生け花を紹介する。
第15週	総括	授業で取り上げた作品を総括する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	写真・映像論						
担当教員	三橋　純予	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 3011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	○	

授業概要

写真術の始まりから現代までの様々な写真作品や映像作品を見ながら、写真史および映像論の基礎的な知識を得る。また、メディアの進化や美術史との関わり、社会や各時代のメッセージともなった表現を、学生自らが個々の作品を鑑賞し、その背景を調べ、考えを深めていく。記録からバーチャル空間まで拡がりのあるメディアについて、写真や映像表現の可能性を考えるオンデマンド形式の講義である。

到達目標

①　写真・映像というメディアの持つ、記録性、表現力、メッセージなどがあることを知る。
②　様々な作品を見ながら、芸術における表現の可能性を考えることができる。
③　作品から読み取った事項を言葉で表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回の講義内容に関わる小レポート（課題に関わる事	60%		
最終課題レポート	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で指示します。』					

参考書等

授業内で紹介する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

東京都写真美術館、東京都現代美術館等で学芸員として、写真展、映像ワークショップなど17年間の職歴がある。共著に『日本写真事典』など。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義課題に関する基礎的な下調べを予習として行い、講義で出された小レポート課題を復習として行うこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施する。　基本的に毎週月曜日にオンデマンドにより講義と課題を公開する。課題提出〆切は金曜日とする。また授業に関連する展覧会等が講義期間中に開催されている場合は、各自での見学を課題とすることがある。その場合は、事前に周知し、余裕を持った締切設定とする。授業内に実施した小テストのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	現代から考える写真と映像	現在は映画館や雑誌等に加えて、SNS等での動画を日常的に見ることが多く、写真や映像も単独でなく、様々なメディア表現と共に活用されている。改めて現在の視点から過去の写真や映像を表現として振り返る。
第2週	写真術の発明と黎明期	19世紀半ばに発明された写真について、当時の社会背景も含め、欧米での普及と幕末日本に写真術がどのように渡来したのかを講義する。
第3週	写真の古典技法	初期の複数の写真術（ダゲレオタイプ・カロタイプ等）について、代表作品を鑑賞し、個々の作成方法を紹介する。
第4週	19世紀の肖像写真と20世紀のポートレイト	ポートレイトの変遷と肖像写真の表現について考える。
第5週	写真と絵画の関係（写真のピクトリアリズム）	後期印象派、ラファエロ前派等の美術史との関係を知り、写真が芸術になろうとした時期の表現を考える。
第6週	近代写真の始まり	写真独自の表現を追求したアルフレッド・スティーグリッツを中心に写真の近代化を知る。
第7週	戦争・ドキュメンタリー写真①	戦争やグラビア雑誌の普及により、報道やジャーナリズムが進む。戦場カメラマンや社会的なメッセージを持つ写真について、現在とも比較しながら考えていく。
第8週	戦争・ドキュメンタリー写真②	戦争やグラビア雑誌の普及により、報道やジャーナリズムが進む。戦場カメラマンや社会的なメッセージを持つ写真について、現在とも比較しながら考えていく。
第9週	ファッションにおける写真・映画	欧州を中心に女性雑誌や映画等で活躍した、初期の広告写真家やファッション写真について紹介する。
第10週	日本の戦後写真	第2次世界大戦の戦時中の対外宣伝雑誌や戦後の高度成長期までの写真家と作品を紹介する。
第11週	私写真とスナップ写真	報道とは異なる、日常的な眼差しで撮影される写真、映像作品を紹介する。
第12週	風景・動物等の写真映像	野外での風景や生物を撮影した作品表現について紹介する。
第13週	現代美術における写真と映像①	ミクストメディアとしての写真や映像作品について、従来の位置づけとの違いや表現の可能性について、事例を元に考える。
第14週	現代美術における写真と映像②	インタラクティブ、プロジェクト型の活動を事例を紹介し、拡大する写真映像表現を紹介する。
第15週	記録としての映像表現　及び学期末試験(授業内試験として最終課題レポート)	記録性を持つメディアとしての写真映像表現を考える。また、最終のレポート課題を出す。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	アートマネジメント						
担当教員	細川　麻沙美	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 3006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

アートマネジメントの基本的な考え方とその概念を知った上で、昨今多様化するアートマネジメントの実例、そしてその展開を知ることが出来る。講師の実務経験（札幌国際芸術祭など）を軸としたアートプロジェクトの制作や運営の実践的な紹介に重点が置かれるが、文化芸術を広く捉えたアートマネジメントも取り上げ、現代のアートシーンで求められる実践的なマネジメントスキルの多様な事例を紹介する。
またこの講義では、講義中で、ディスカッションを複数回実施する。

到達目標

①アートマネジメントの基本的な考え方とその概念を知ることが出来る。
②上記を踏まえて、現代社会における文化芸術のあり方を考察する。
③アートマネジメントにおける役割およびその人材の多様性を知ることで、自身の創作や活動の可能性を広がられる知識、意欲を得る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常試験・・・講義内容に合わせて、テキストを書い	50%		
レポート	20%		
学期末試験	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

林容子「進化するアートマネージメント」2004年
野田邦弘「文化政策の展開：アーツ・マネジメントと創造都市」2014年 他

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

テレビ局文化事業部勤務（2001年～）
文化庁メディア芸術祭事務局（2008年～）
札幌国際芸術祭事務局マネージャー（2013年～）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義を受けて、自らが考え、調べ、そして現場に関わるイメージを持てるようなレポート準備し、講義開始の際に、個別に発表してもらうような機会を設ける	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

積極的に講義に参加するようにしてください。
展覧会や芸術祭をはじめとした文化事業とアートマネジメントは密接につながっています。授業を理解するためにも多くの文化事業に足を運んで自ら体験することを心がけてください。また講義で取り上げる参考文献等は積極的に目を通すようにしてください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	イントロダクション	この講義の導入として「アートマネジメント」とはどのようなものかを紐解きながら、講師の自己紹介を交えて、シラバスに基づく講義内容を紹介します。
第2週	アートマネジメントとは何か ① ー地域や国内での実践	地域や国内におけるアートの現場のプレーヤー、アートマネジメントの状況やあり方を取り上げ、次週のアートマネジメントの概念の理解に繋げます。
第3週	アートマネジメントとは何か ② ー基本的な考え方	アメリカで生まれた概念であるアートマネジメントの歴史と基本的な考え方を取り上げます。
第4週	アートマネジメントとは何か ③ ー国内外の事例	アートマネジメントが行われている実践例として、国内外の事例を紹介して、どういった実践が行われているを紹介します。
第5週	ディスカッション	ここまでの講義を踏まえて、アートマネジメントの領域での、自分の関心事や疑問点などを受講者で共有をしながら理解を深めます。
第6週	アートプロジェクトの実務 ① ー予算・実施体制	講師が現場に関わった具体的なプロジェクトから実践的な方法論を学びます。
第7週	アートプロジェクトの実務 ② ー広報・運営体制	講師が現場に関わった具体的なプロジェクトから実践的な方法論を学びます。
第8週	札幌国際芸術祭の実践 ① ーその歴史と実施体制	講師が初回から関わっている札幌国際芸術祭について、その成り立ちと歴史、実際の開催概要・実施体制を紹介します。
第9週	札幌国際芸術祭の実践 ② ーSIAF2027に向けて	実際に開催されたこれまでのSIAFの多様なプログラムを紹介するとともに、次回開催に向けての実践を紹介します。
第10週	ディスカッション	アートマネジメントに関する活動をしている事例などを具体的に取り上げ、意見や質問やコメントなどを受講者でディスカションします。
第11週	アートプロジェクトの実践 ① ー地域での実践例	現場経験のあるアート人材の実践を紹介します。
第12週	アートプロジェクトの実践 ② ー地域での実践例	現場経験のあるアート人材の実践を紹介します。
第13週	アートプロジェクトの実践 ③ ー多様なアートマネジメント	現場経験のあるアート人材の実践を紹介します。
第14週	アートプロジェクトの実践 ④ ー多様なアートマネジメント	現場経験のあるアート人材の実践を紹介します。
第15週	ディスカッションと学期末試験	後半の講義を踏まえてた総括的なディスカッションを実施し、個々のアートマネジメントに対する認識を共有します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	コピーライティング						
担当教員	長岡　晋一郎	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

通常、人はアイデアを言葉で考え、言葉で伝えます。
だれもが日常的に使用している言葉を磨くことは、アイデアを磨くことに直結します。
ビジュアルアイデアも、その意味や価値を言語化することで、
より一層強いアイデアになっていくし、伝わりやすくなると思います。
コピーライティングの訓練は、実はアイデア全般を強くすること。
本授業では、広告の基礎知識を学びながら、
コピーライティングとアイデア発想力を身につけることを目標とします。
また架空の広告制作にもチャレンジします。

到達目標

①実践を通し、コピーライティングのチカラを身につける。
②歴史的名作、世界的名作を知り、理解する。
③企業課題や社会課題を解決するアイデア発想力を身につける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内レポート	60		
期末課題制作	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

コピーライター、CMプランナー、クリエイティブディレクターとして広告会社に勤務。道内外企業の広告コピー、CM、ネーミングやブランディング全体を担当。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
世の中の広告を観察し、その意味や背景を考えてみよう。	1時間

受講時の注意事項

授業内で取り扱う内容は個人の学習のためにのみ使用し、SNSなどで掲載、記載することは禁止。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	名作鑑賞、広告クリエイティブの魅力を知る。
第2週	広告コピーの基礎知識	アイデアの構造、ブランド価値の構造、コピーの種類などの基礎を学ぶ。
第3週	キャッチコピー①基礎知識	さまざまなキャッチコピーを知る。
第4週	キャッチコピー②実践	テーマに基づいてコピーライティングを実践する。
第5週	映像と音声メディア①基礎知識	TVCM、WEBムービーなど、映像になるコピーの作り方、音声メディアのコピーを学ぶ。
第6週	映像と音声メディア②実践	絵コンテまたは字コンテを描く。
第7週	ボディコピー①基礎知識	キャッチコピーとボディコピーの関係、ボディコピーの書き方を学ぶ。
第8週	ボディコピー②実践	テーマに基づいてボディコピーを書く。
第9週	ネーミング①基礎知識	ネーミングの実例を学ぶ。
第10週	ネーミング②実践	ネーミング案を考える。
第11週	広告制作ワークショップ①オリエンテーション	実際の企業の方などをお招きし、商品・サービスのオリエンをしていただく。
第12週	広告制作ワークショップ②企画書の書き方	プレゼンテーションの方法、企画書の書き方を学ぶ。
第13週	広告制作ワークショップ③中間発表	企画案を共有し、改善点などを模索する。
第14週	広告制作ワークショップ④企画のブラッシュアップ	企画のブラッシュアップ、仕上げをする。
第15週	広告制作ワークショップ⑤プレゼンテーション	企業の方にプレゼンテーションを行い、講評をいただく。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	イラストレーション						
担当教員	堀　じゅん子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 3034		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

多様なメディアで用いられるイラストレーションの概念や目的について学び、キャラクター、空間イメージ、テーマに沿ったイラストレーションを制作してゆく。それらの課題を通して、複数の画材やデジタル表現に触れ、イメージを視覚化する方法と独自の表現手法を探究してゆく。

到達目標

イラストレーションの発想方法や制作過程、制作手法を習得し、アナログ表現、デジタル表現を用いながら制作することができる。 また、作品のテーマや制作意図について説明することができる。第１、第2課題では、「想像上の生き物」や「風景空間」を構想することで、想像力の幅を拡げ、イメージをイラストレーションとして表現することができる。また、第3課題ではメディアの特性を学びながら、テーマに沿って独創性のあるイラストレーションを構想、制作し、文字等他の構成要素とともに画面にレイアウトすることで、メッセージを表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出物による評価	70%		
積極的な制作姿勢	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

担当教員はイラストレーターとしても活動しています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各自の表現手法や制作進度に合わせ、授業外での作業内容、作業量を考えて行うこと。展覧会、画集、ウェブサイトなど、積極的に探し、参考にしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

画材・用紙等、各自の表現方法に適したものを準備すること。コンペの応募作品を制作する場合もありうる。なお、本科目は履修希望者が多い場合、履修人数を制限します（「学生便覧」の「履修人数の制限」を参照）。履修人数や制限する場合の方法など詳細は、掲示板でお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	第1課題 想像上の生き物を表現する	①下絵の制作 （サイズ：A4、アナログまたはデジタル。アナログの場合は用紙と画材、デジタルの場合はPC、iPadなど、各自準備）
第2週	〃　〃	②仕上げと提出・講評 （データ提出。アナログの場合はスキャン、写真などでデジタル化して提出）
第3週	第2課題 空間表現を含むイラストレーション	①アイディアスケッチ （スケッチブック、筆記用具）
第4週	〃　〃	②下絵の制作（ラフスケッチ） （サイズ：A3、アナログまたはデジタル。アナログの場合は用紙と画材、デジタルの場合はPC、iPadなど各自準備）
第5週	〃　〃	③下絵の完成と着彩 （　〃　〃　）
第6週	〃　〃	④着彩 （　〃　〃　）
第7週	〃　〃	⑤仕上げと講評 （データ提出。アナログの場合はスキャン、写真などでデジタル化して提出）
第8週	第3課題 テーマに沿った表現によるイラストレーション	①アイディアスケッチ （スケッチブック、筆記用具。アイディアチェック）
第9週	〃　〃	②アイディアスケッチとサムネール （ワークシートにイラストと文字を含む画面構成をラフスケッチ。）
第10週	〃　〃	③イラスト部分下絵制作 （サイズ：A2、アナログまたはデジタル。アナログの場合は用紙と画材、デジタルの場合はPC、iPadなど各自準備）
第11週	〃　〃	④下絵の完成と着彩 （　〃　〃　）
第12週	〃　〃	⑤着彩 （　〃　〃　）
第13週	〃　〃	⑥仕上げとレタッチ （アナログの場合はスキャンデータのレタッチなど）
第14週	〃　〃	⑦レイアウト （イラストレーションの完成。イラストレーターなどで、A2画面に文字、イラストを配置）
第15週	〃　〃	⑧プレゼンテーションと講評 （データ提出後、プレゼンテーション）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教職陶芸						
担当教員	安部　郁乃	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 3025		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

①学生が自然の産物である粘土に触れ、その特性を理解し、表現の幅を広げ、今後の自己表現につなげることをめざす。②手びねりを中心に制作し、素材の声を聞いて、自己の視点や想いを他者に伝えることができる表現をめざす。

到達目標

学生が授業を通して陶芸の基本的技術を習得し、土の手触りや味わい、自然、使うものを作るという事、といったものを感じながら自由な発想で作品化できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品	80		
平常点	20		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

陶芸工房講師

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
一つの作品の完成まで、幾つかの工程がある。作業の中で、素材の特性を掴みながら、作りたいもののイメージをまとめておく。身の回りのものを観察する。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

授業はほぼ実技的作業になります。制作するにあたっての説明をよく聞き、作業は集中して取り組んでください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	説明	道具及び技法の説明、粘土の特性を知る
第2週	ひもづくり	ひもづくりでの制作
第3週	仕上げ	前週の仕上げ(削り)
第4週	板作り	板作り、タタラ作りでの制作
第5週	仕上げ	前週の仕上げ(削り)
第6週	素焼き	素焼き窯づめと、素焼き焼成
第7週	窯出しと施釉	素焼きの窯出し、釉薬をかける
第8週	本焼き	本焼き窯づめと、本焼き焼成
第9週	窯出し	窯出し、窯のメンテナンス、作品鑑賞、 学んだ事から、本制作
第10週	制作①	総合的要素をふまえての自由制作
第11週	制作②	前週に引き続き、制作、仕上げ
第12週	素焼き	素焼き窯づめ、素焼き焼成
第13週	窯出し、施釉	素焼き窯出し、施釉
第14週	本焼き	本焼き窯づめ、本焼き焼成
第15週	窯出し	窯出し、窯のメンテナンス、鑑賞、講評
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	クリエイティブデザイン						
担当教員	鎌田　順也	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では広義にわたるデザイン領域を学習する。
近年はデザインという言葉が拡大し、デザイナーの業務領域も比例して大きくなっており、クリエイティブディレクションにおけるアートディレクション、グラフィックデザイン、インテリアデザイン、建築、サインデザイン、プロダクトデザイン、パッケージデザイン、コーポレート・アイデンティティ、マーケティングデザイン（販促計画からポスターやパンフレットからTV-CMまで）、写真、イラストレーション、また、マインド・アイデンティティの作成といった言語化までを、その魅力や可能性・機能性や審美性にいたるまで広義に知覚・学ぶことができるものである。

到達目標

デザインには様々な領域が存在するが、それを横断してディレクションしていくことの魅力や素晴らしさを体感し、気づき、それを今後のクリエイティブ活動において、自身の考えを表現できる。また、応用して活用できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を掘起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
ブランド作成課題	40%		
授業への参加意欲	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜資料を配布します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

クリエイティブディレクターとして、行政であれば市長、町長、もしくはプロジェクトの責任者と、企業であれば社長などトップの右脳としてクリエイティブ全般を統括する業務を担う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
復習では授業内で出たクリエイションのポイント、キーワードを見返す。予習では次回に向けたキーワードをあらかじめ調べておくこと。	１時間～２時間程度

受講時の注意事項

クリエイティブディレクションを体感する課題制作の必要性があるので、提出に向けて授業時間外の作業が必要になる場合がある。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	クリエイティブディレクションとは①	全てのクリエイティブを統括する、クリエイティブディレクションとは何か、今後の授業に向けて基礎的な考えを学ぶ
第2週	クリエイティブディレクションとは②	全てのクリエイティブを統括する、クリエイティブディレクションとは何か、今後の授業に向けて基礎的な考えを学ぶ
第3週	アート・ディレクションの重要性①	クリエイティブのおいて重要な役割を担うアートディレクションについて学ぶ。
第4週	アート・ディレクションの重要性②	クリエイティブのおいて重要な役割を担うアートディレクションについて学ぶ。
第5週	ブランディングとは何か①	ブランディングの本質的な考え方、また、社会的な役割と機能を学ぶ。
第6週	ブランディングとは何か②	ブランディングの本質的な考え方、また、社会的な役割と機能を学ぶ。
第7週	ブランディングにおけるMI（マインド・アイデンティティ）①	クリエイティブにおいて、その中核をなす、MI（マインド・アイデンティティ）を具体的な企業理念（ミッションやビジョン、行動指針、バリューなど）を中心に学ぶ
第8週	ブランディングにおけるMI（マインド・アイデンティティ）②	クリエイティブにおいて、その中核をなす、MI（マインド・アイデンティティ）を具体的な企業理念（ミッションやビジョン、行動指針、バリューなど）を中心に学ぶ
第9週	ブランディングにおけるVI（ヴィジュアル・アイデンティティ）①	MI（マインド・アイデンティティ）　により顕在化した理念を見える化し、より鮮明なビジュアルメッセージへと昇華するVI（ヴィジュアル・アイデンティティ）について学ぶ
第10週	ブランディングにおけるVI（ヴィジュアル・アイデンティティ）②	MI（マインド・アイデンティティ）　により顕在化した理念を見える化し、より鮮明なビジュアルメッセージへと昇華するVI（ヴィジュアル・アイデンティティ）について学ぶ
第11週	コーポレートアイデンティティとブランディングとの違い①	コーポレートアイデンティティとブランディングの大きな違いを学ぶ
第12週	コーポレートアイデンティティとブランディングとの違い②	コーポレートアイデンティティとブランディングの大きな違いを学ぶ
第13週	商品開発におけるデザイン思考①	クリエイティブにおいて最も重要な商品自体のクリエイションについて学ぶ
第14週	商品開発におけるデザイン思考②	クリエイティブにおいて最も重要な商品自体のクリエイションについて学ぶ
第15週	建築やインテリアデザインの重要性①	場をつくることの重要性を、建築やインテリアデザインなどを通じて学ぶ
第16週	建築やインテリアデザインの重要性②	場をつくることの重要性を、建築やインテリアデザインなどを通じて学ぶ
第17週	地域における地域活性化とデザイン①	今、地域におけるデザインの重要性が高まっており、どのような役割をデザインが担うのか、クリエイションの活かしどころを中心に学ぶ
第18週	地域における地域活性化とデザイン②	今、地域におけるデザインの重要性が高まっており、どのような役割をデザインが担うのか、クリエイションの活かしどころを中心に学ぶ
第19週	強いブランドとは①	強固で長く人に愛されるブランドをつくる方法論を学ぶ
第20週	強いブランドとは②	強固で長く人に愛されるブランドをつくる方法論を学ぶ
第21週	デザイン領域の横断 ワークショップ①	第２０週までの授業内容を活かし、クリエイティブディレクションの可能性や効果、機能を実体験として学び、デザインがどのように社会に貢献していくかを感じることを目的とした課題制作を行う。
第22週	デザイン領域の横断 ワークショップ②	第２０週までの授業内容を活かし、クリエイティブディレクションの可能性や効果、機能を実体験として学び、デザインがどのように社会に貢献していくかを感じることを目的とした課題制作を行う。
第23週	デザイン領域の横断 ワークショップ③	第２０週までの授業内容を活かし、クリエイティブディレクションの可能性や効果、機能を実体験として学び、デザインがどのように社会に貢献していくかを感じることを目的とした課題制作を行う。
第24週	デザイン領域の横断 ワークショップ④	第２０週までの授業内容を活かし、クリエイティブディレクションの可能性や効果、機能を実体験として学び、デザインがどのように社会に貢献していくかを感じることを目的とした課題制作を行う。
第25週	デザイン領域の横断 ワークショップ⑤	第２４週までの中間チェックを行い、完成度や進捗状況を確認し、今後の進め方を検討・議論する。
第26週	デザイン領域の横断 ワークショップ⑥	第２５週の中間チェックから修正点や軌道修正を行い、プレゼンテーションに向けて調整・制作を行う。
第27週	デザイン領域の横断 ワークショップ⑦	第２５週の中間チェックから修正点や軌道修正を行い、プレゼンテーションに向けて調整・制作を行う。
第28週	デザイン領域の横断 ワークショップ⑧	第２５週の中間チェックから修正点や軌道修正を行い、プレゼンテーションに向けて調整・制作を行う。
第29週	デザイン領域の横断 プレゼンテーション①	完成した課題のプレゼンテーションを行う。この課題の成果を言語化し、質疑応答を行うことで、より課題の目的を知覚する。
第30週	デザイン領域の横断 プレゼンテーション②　講評	完成した課題のプレゼンテーションを行う。この課題の成果を言語化し、質疑応答を行うことで、より課題の目的を知覚する。 最後に授業全体の講評を行う。

授業科目	Webデザイン（応用）						
担当教員	山本　武	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	FA-MS 3026		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、Webサイトをデザインするための基礎的な技術を教授する。Webサイト制作の基本であるHTMLの習得から、アプリケーションを使用したレイアウト作成、コーディング、Webサーバへのデータをアップロードでの情報開示まで、インターネットで情報を発信する為に必要な技術を習得させる。また、社会において、インターネットを通じてコミュニケーションをおこなうことの意義を意識し、学生各自が主体的に情報技術を活用できるようになることを目指して指導を行う。

到達目標

本授業を習得することにより、Webサイト制作のための基礎知識と基本的なスキルを身につけることができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
①の成果物提出	25%		
②の成果物提出	25%		
③の成果物提出	25%		
④の成果物提出	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。 ※指定したソフト（Photoshop）とハード（ノートパソコン）は各人					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、WEB制作会社会社の取締役／ディレクターとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
PhotoshopやIllustratorといったデザイン制作ツールの使い方については授業内では触れませんので、課題を行うのに必要なツールの修得は各人行っておいてください。また、授業は必ず前講義の振り返りからはじめますので各人復習を行っておくようにしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業の中で3回ワークとしての課題制作を行います。内容の企画についても評価対象となりますので、積極的な課題への取り組みを期待します。また、パソコンの操作や各種グラフィックツールは講義取得のための必須技能となります。受講には指定したソフトPhotoshopとハード（ノートパソコン）の持参を条件とします。授業内に課題のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	WEBサイトの基礎知識	WEBサイトを作成するHTMLとCSSについて、サンプルデータを用いてまずは体験をすることで概要を学ぶ
第2週	HTML・CSSの学習1	HTMLの基本構造。最低限覚え、使いこなしていきたいHTMLの学習
第3週	HTML・CSSの学習2	CSSの基本構造。最低限覚え、使いこなしていきたいCSSの学習
第4週	HTML・CSSの学習3	3週までの学習の振り返りとして自己紹介WEBページの作成、提出・・・①
第5週	JavaScriptの学習	JavaScriptの基本構造。最低限覚え、使いこなしていきたいJavaScriptの使い方を学ぶ
第6週	WEBデザイン基礎	HTML＋CSSでのレイアウト作成
第7週	WEBデザイン基礎	Photoshopを使用したWEBデザイン作成
第8週	課題1-1	ポートフォリオサイト制作１：デザイン制作
第9週	課題1-2	ポートフォリオサイト制作2：デザイン制作、提出・・・②
第10週	課題1-3	ポートフォリオサイト制作3：コーディング制作
第11週	課題1-4	ポートフォリオサイト制作4：コーディング制作、提出・・・③
第12週	スマートフォン対応	メディアクエリを使用したスマートフォンでの表示方法の学習
第13週	課題2-1	11週で完成したポートフォリオサイトをスマートフォン対応する
第14週	課題2-2	11週で完成したポートフォリオサイトをスマートフォン対応する
第15週	課題2-3	提出、講評・・・④
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	アートディレクション						
担当教員	小林　元	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ブランディングや広告など幅広いデザインビジネスの観点から、アートディレクションの役割や必要な能力について学び、それぞれを探究していく。また、これからの時代に求められるクリエイティブとその前後左右に関わる要件を捉え、プロジェクトと社会の間をつなぐ役目としてのコミュニケーションについて考察し、表現を実践していきます。

到達目標

・アートディレクションとは何かを理解する
・アートディレクションの役割とその発展について理解する
・コンセプトワーク、プレゼンテーションの基礎を理解する
・コミュニケーションできる表現について考え、実践できる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
最終課題	50		
ミニレポート	25		
授業と課題への積極性	25		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回授業後に簡単なミニレポートシートを出します。 次回へ向けての事前準備として取り組んでください。	2時間～3時間程度/週

受講時の注意事項

最終課題制作にはPCによる制作が必要になります。
グループワーク、プレゼンテーションの要素を含みます。
授業内にミニレポートのフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション/アートディレクションとは何か/アートディレクションのポジションと必要な能力	アートディレクションという領域において、プロジェクトや社会での役割について解説しながら、必要な能力を考えていきます。
第2週	ビジュアルコミュニケーションの探求	ビジュアルコミュニケーションの原理と原則から、アートディレクションの有用性を解説します。
第3週	コンセプトの捉え方と伝え方	プロジェクトにおけるコンセプトとアートディレクションのコンセプトのつながりを捉えて、その言語化について解説します。
第4週	ブランドのアートディレクション	ブランドのつくり方と続け方のなかで、アートディレクションはどう作用するべきか。時代と社会、デザインとマーケティングの変遷とともに解説します。
第5週	キービジュアルのつくりかた	プロジェクトにおける鍵となるビジュアルが求められる意味と、そのつくりかたを探索していきます。
第6週	商品と体験	商品と顧客の関係性をつくる際に考えていくべき、UXとアートディレクションについて解説します。
第7週	空間と体験/サービス	空間づくりにおけるアートディレクション、サービスに関わるアートディレクション。見た目だけではない体験のなかでの有用性について考えていきます。
第8週	広告と言葉	広告と言葉に関わるアートディレクションについて、コピーライターとともに考えていきます。
第9週	プレゼンテーション/企画書	伝わる企画書とはいったい何だろうか。受け手に行動を促すためにのプレゼンテーションにおける、アートディレクションを考えていきます。
第10週	プロジェクトデザイン①	これまでの講義の内容を踏まえ、実際にプロジェクトをデザインしていきます。
第11週	プロジェクトデザイン②	これまでの講義の内容を踏まえ、実際にプロジェクトをデザインしていきます。
第12週	プロジェクトデザイン③	これまでの講義の内容を踏まえ、実際にプロジェクトをデザインしていきます。
第13週	プロジェクトデザイン④	これまでの講義の内容を踏まえ、実際にプロジェクトをデザインしていきます。
第14週	プロジェクトデザイン⑤	これまでの講義の内容を踏まえ、実際にプロジェクトをデザインしていきます。
第15週	最終講評	プロジェクトデザイン①から⑤で制作したデザインを企画書に落とし込み、プレゼンテーションします。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	油彩研究Ａ							
担当教員	會田　千夏	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	8
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 3004		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

造形基礎で修得した内容を基盤とし、本授業前半では、アトリエ内に留まらず積極的に外へ出かけ、屋外での主題探し、取材により制作を進めていきます。屋外に出ることにより、形と空間の他に感じる、風や温度、匂いなど、様々な感覚から誘発される新たなイメージを見出し、どのようにそれらを表現していくかを考え、実践していきます。後半では、一つのモチーフをきっかけに、そのモチーフの形だけではなく、外側から内側へ、内側から外側へと意識を広げ、各自の思考や問題提起などを抽出するきっかけとしていきます。

到達目標

① 作品制作に向けて、積極的に取材・実験し、自分の考えを画面に落としこむことができる。
② 自分の表現に必要な描画方法、素材を選び制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の完成度	40		
作品制作の為の積極的な取材や自主的な実験	30		
制作意図と表現方法の一致	30		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『無』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

専門分野での作品制作、発表、指導経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業時間は、貴重な制作時間であり、仲間からの刺激、また、課題に対して各自が思考・工夫したことを実践・確認する時間です。各自貴重な制作時間をできる限り長く得るため、必要な描画材料の準備、資料作りやリサーチを事前に準備することを心がけてください。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

アトリエは、使用している皆んなが心地よく集中できる場を保つため、私語や、身の回りの制作環境の整備に気をつけましょう。
一緒に制作する仲間をお互いが尊重し合い、集中と休憩のめりはりをつけ、アトリエ内は常に制作の良い空気を保つよう協力し合いましょう。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 環境整備 風景－①　油彩	初回はガイダンス環境整備のみ制作無し、翌日から制作する。
第2週	風景－②	屋外へ出て主題探索、取材 スケッチなど
第3週	風景－③　中間講評	２周目に同じ 中間講評
第4週	風景－④	制作
第5週	風景－⑤　中間講評	中間講評、制作
第6週	風景－⑥	制作
第7週	風景－⑦　講評	完成 講評会
第8週	抽象①	社会、記憶、言葉、感覚などを頼りに、各自が可能な限り多くリストアップしたキーワードから、更に二つのキーワード、要素に抽出し、画面を構成していく方法を実験する。 構図と描画手法の検討。
第9週	抽象②	制作
第10週	抽象③　講評会	完成 講評会
第11週	静物 ①	各自、制作テーマにするモチーフを用意し、形の描写に留まらない観察（モチーフが持つ時間・歴史背景・環境・想いなど）をもとに、作品制作を行う。 自分の表現に合った画材、方法を選ぶことができる。
第12週	静物② 中間講評	中間講評。 モチーフとした対象を通して、何を表現したいのかを念頭に置く。
第13週	静物③	制作
第14週	静物④　中間講評	中間講評
第15週	静物⑤　講評	完成 講評会
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	油彩研究Ｂ						
担当教員	佐々木　剛	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	8
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 3005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

油彩研究Aで修得した内容を基盤とし、的確な形態の把握や構成、空間表現を追求する。
課題として与えられたテーマを各自が咀嚼し、展開する体験を通して自分の適性を探り
表現の幅を広げることを目標とする。
個々の制作意図や表現の方向性に沿って主題を深め、制作・研究し、絵画について考察する。

到達目標

① 形態や空間を更に的確に表現することができる。
② 個々の使用の特性を理解、工夫し、表現の幅を広げることができる。
③ 各自の制作意図を明快にし、表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
適確な形態の把握	30		
構成・空間表現30%、	30		
課題テーマに対する取り組み	30		
表現素材の理解	10		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『無』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

全道美術協会会友、白日会会員

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
画面全体を確認し、加筆訂正できるところはしておくこと。次回授業で無駄のない制作ができるよ うに、また、授業内で指導指摘された点が、次回の制作に繋がるように計画を立てておくこと。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

支持体の用意、エスキースの制作などの準備を怠らないこと。
用具の点検、整備、補充を確実にしておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 環境整備 人体１－①　20～30号油彩	初回はガイダンス環境整備のみ制作無し、翌日から制作する。対象を測る。
第2週	人体１－② 人体１-③	・色面による空間の再現 ・形の検証
第3週	人体１－④ 人体１－⑤	２周目に同じ ・描写と単純化
第4週	人体１－⑥ 人体１－⑦　講評会	２週目３週目を踏まえ制作 講評会
第5週	空間と人体２－① 油彩20号～30号 空間と人体２－②	人体部分よりも画面全体を考え制作する。
第6週	空間と人体２－③ 空間と人体２－④	色面と描写の関係について考える。
第7週	空間と人体２－⑤ 空間と人体２－⑥	全体性について考える。
第8週	空間と人体２－⑦ 空間と人体２－⑧　講評	講評
第9週	抽象画演習＝ドローイング① 画材、大きさは自由 抽象画演習＝ドローイング②	アトリエ中央にモチーフとして古着などを配置する。 再現性の少ないモチーフから絵画の要素について考える。
第10週	抽象画演習＝ドローイング③ 抽象画演習＝ペインティング④	部分と全体。 画面の４辺と４隅についてかんがえる。
第11週	抽象画演習＝ペインテイング ⑤ 抽象画演習＝ペインテイング⑥ 講評	色彩の導入。 講評
第12週	人体と絵画空間：ドローイング①画材、大きさは自由 人体と絵画空間：ドローイング②	再現性の高い人体を画面に導入し考える。
第13週	人体と絵画空間：ドローイング③ 人体と絵画空間：ペインテイング④ 油彩、２０号～３０号	色彩の導入
第14週	人体と絵画空間：ペインティング⑤ 人体と絵画空間：ペインテイング⑥	部分と全体の関係性について考える
第15週	人体と絵画空間：ペインテイング⑦ 人体と絵画空間：ペインテイング⑧ 講評	講評
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本画研究Ａ						
担当教員	朝地　信介／水野　剛志	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	8
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 3104		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では日本画における基本的な造形力を養うため、「素材」や「風景」をテーマに自己の表現を追及し ていく。
① 前半の「素材」をテーマとした課題では、日本画の伝統的な画材や手法と共に様々な素材を製作・活用し、素材や表現の理解を深めるための作品制作を行う。
② 後半の「風景」の課題制作では、北海道の四季をテーマに、自然の光や色、空気感をとらえ、自由で個性的な表現へと発展させながら日本画作品を制作することを目指す。

到達目標

① 素材の製作・活用を通して素材への理解を深めることができる。
② 様々な画材・素材や手法を活用して、独創的な表現をすることができる。
③ 季節感や自然の光や色、空気感をとらえ、自由に表現することができる。
④ 構図の基本や空間表現を意識し表現できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
【朝地】　素材・顔料製作	10%	【水野】課題作品制作　（Ｆ１０号）	30%
【朝地】マチエール試作	10%		
【朝地】課題作品制作（10号～20号程度・形態自由）	30%		
【水野】フィールドワーク資料・スケッチ・下図着彩	10%		
【水野】素材技法研究作品（０号×　３枚）	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
2週：作品で使用する素材を持参。4週：基底材となる材料（10～20号分）を持参。素材の活用を考える。8週：持参するものクロッキー帳（大きさ自由）、素材研究用パネルF０号程度：３枚。提出作品の大きさ：F10号。用紙は雲肌麻紙を使用する予定です（当日、用紙代を徴収します）	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

フィールドワークの実施について、前半は大学近隣の公園や豊平川周辺での素材収集を、後半は開拓の村で学外写生授業を行う予定です。事前に指示された用紙や用具、材料を揃えておくこと。授業開始後はその都度指示します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	（前半・朝地）素材を知る	ガイダンス、素材収集フィールドワーク　〔朝地〕
第2週	（前半・朝地）素材を活用する	素材・顔料製作　〔朝地〕
第3週	（前半・朝地）素材を活用する	マチエール試作　〔朝地〕
第4週	（前半・朝地）作品制作①	構想、素材検討　〔朝地〕
第5週	（前半・朝地）作品制作②	基底材・下地制作　〔朝地〕
第6週	（前半・朝地）作品制作③	着彩、素材活用　〔朝地〕
第7週	（前半・朝地）作品制作④	仕上げ、講評　〔朝地〕
第8週	（後半・水野）自然を描く	ガイダンス、描きたいものを考えテーマを設定、エスキス制作、提出作品の大きさ決める・素材技術研究〔水野〕
第9週	（後半・水野）本画制作①	情報収集やスケッチ、支持体の制作、下図（着彩）、素材技法研究　〔水野〕
第10週	（後半・水野）本画制作②	下図（着彩）、下地制作、転写、素材技法研究　〔水野〕
第11週	（後半・水野）本画制作③	下地着色　〔水野〕
第12週	（後半・水野）本画制作④	着色描写　〔水野〕
第13週	（後半・水野）本画制作⑤	着色描写　〔水野〕
第14週	（後半・水野）本画制作⑥	着色描写　〔水野〕
第15週	（後半・水野）本画制作⑦	仕上げ・講評　〔水野〕
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本画研究Ｂ						
担当教員	平向　功一	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	8
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 3105		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

・本授業では「日本画研究A」での素材研究などの実践を生かし、身の回りの静物や風景、動物などをテーマに、日本画を単なる素材や表現技法としてだけではなく、現代に生きるわたくしを表現する手法としてどう捉えるか、写生を通して自己の内面を探り、素材や技法を選択し、作品として発信する力を育てたい。
・北海道に生息するエゾシカを原料とする膠を製造する。

到達目標

① 各自が既に持つ課題や追及したいテーマを確認し、それをさらに深めるための写生を重ねることができる。
② 各自のテーマにそって取材や構想を重ね、表現技法を選択し作品制作を進めることができる。
③ エゾシカ由来の膠を自ら製造し伝統的な固着剤への理解を深めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
写生を通して自らの主題「動物を描く」「心象を描	30%		
画材を用いることへの意識を高め、自らの主題を生か	50%		
素材研究（膠の製造）や表現研究（古典技法）を通し	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし（授業内でプリントを配布）』					

参考書等

授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自分の日本画表現を追求するため授業時間外での取材、写生、制作、美術作品鑑賞などを積極的に行って欲しい。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

・多様な日本画表現や技術を修得するため、屋外や外部機関での写生・見学・研修を実施する。
・日本画分野の学生は必修。
・膠の製造においてグループワークを実施する。また講評会などにおいて自分の作品についてのプレゼンテーションを実施する。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション・写生	樹木の写生
第2週	樹皮を描く①	下図・彩色
第3週	樹皮を描く②	彩色
第4週	樹皮を描く③	彩色・仕上げ 作品についてのプレゼンテーション
第5週	表現技法（古典技法）	箔を使った表現技法
第6週	動物を描く①	写生
第7週	動物を描く②	下図・彩色
第8週	動物を描く③	彩色
第9週	動物を描く④	彩色・仕上げ 作品についてのプレゼンテーション
第10週	表現研究（古典技法）	古典技法（もみ紙など）・マチエールの実習
第11週	自由課題①	作品についてのプレゼンテーション エスキース・小下図の作成
第12週	自由課題②	パネルの製作・基底材の処理（裏打ち・水張り）
第13週	自由課題③	下地制作
第14週	自由課題④	転写
第15週	素材研究（膠の製造）	エゾシカを原材料にした膠の製造
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	版画研究Ａ						
担当教員	坂東　伸之／吉田　潤	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	8
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 3204		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業は週4コマ15週(60回)の授業で、週前半2コマを木版画(担当:吉田潤)、後半2コマをシルクスクリーン(担当:坂東伸之)の制作を行う。
[木版画]
日本が世界に誇る伝統水性多色木版画(錦絵)の技法、製版と摺版について制作を通して学ぶ。加えて木口木版画技法を学び、幅の広い表現力を身につける。伝統を学び、さらに新しい創意と工夫を加えて現代木版画の創造に努める。
[シルクスクリーン]
シルクスクリーンは版画の特徴である複数性に優れ、印刷技術として広く知られている版種である。ここではファインアートとしての作品制作を考える。シルクスクリーンの基礎的な特徴を踏まえながら、製版技術と刷り、表現力を養う。

到達目標

・各版種における道具や機材の扱い方、製版から印刷までのプロセスを理解し、基礎的な力を身につける。
・版画の特異性を考察し、自己表現への応用展開ができる力を養う。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品づくりに対する意欲的な研究姿勢（検証・結果）	60		
提出作品の魅力・完成度（発想力・構成力・技術力）	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜配布します。』					

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無　　実務経験あり

担当教員は大学、フリーランスでの実務経験を有します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
学内図書館等を利用し、版画に関する書籍（作品、技法書など）を閲覧しておいてください。 また、制作に関わる注意事項、作業手順、動作などを把握し、イメージトレーニングしておくこと。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

汚れても良い服装またはエプロンを着用のこと。
作業時に必要なゴム手袋などを各自用意していただきます。※詳細は授業内で説明します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	[木版画]ガイダンス [シルクスクリーン]ガイダンス	授業概要説明、木版画の歴史、作品紹介と鑑賞 授業概要説明、歴史、特徴
第2週	[木版画] 課題1-① [シルクスクリーン]課題1-①	エスキース、版下絵制作 エスキース、プランニング
第3週	[木版画] 課題1-② [シルクスクリーン]課題1-②	彫り(1)、道具の扱い方 制作(1)、原稿の作り方
第4週	[木版画] 課題1-③ [シルクスクリーン]課題1-③	彫り(2)、彫版の技法 制作(2)、製版、印刷方法
第5週	[木版画] 課題1-④ [シルクスクリーン]課題1-④	校合摺り、色版制作(版分解) 講評
第6週	[木版画] 課題1-⑤ [シルクスクリーン]課題2-①	色版彫り(1) エスキース、プランニング
第7週	[木版画] 課題1-⑥ [シルクスクリーン]課題2-②	色版彫り(2) 写真製版用フィルム作成(1)
第8週	[木版画] 課題1-⑦ [シルクスクリーン]課題2-③	試摺り、紙の湿し方 写真製版用フィルム作成(2)
第9週	[木版画] 課題1-⑧ [シルクスクリーン]課題2-④	本摺り(1)、摺版の技法 写真製版用フィルム作成(3)
第10週	[木版画] 課題1-⑨ [シルクスクリーン]課題2-⑤	本摺り(2)、作品の乾燥方法(水張り) 写真製版用フィルム製版(1)
第11週	[木版画] 課題1-⑩ [シルクスクリーン]課題2-⑥	本摺り(3)、多色木版画の完成 写真製版用フィルム製版(2)
第12週	[木版画] 課題2-① [シルクスクリーン]課題2-⑦	木口木版画(下絵制作、彫り技法) 写真製版用フィルム刷り(1)
第13週	[木版画] 課題2-② [シルクスクリーン]課題2-⑧	木口木版画(摺り技法) 写真製版用フィルム刷り(2)
第14週	[木版画] 課題2-③ [シルクスクリーン]課題2-⑧	木口木版画(裏打ち、完成) 写真製版用フィルム刷り(3)
第15週	[木版画] 講評会・プレゼンテーション [シルクスクリーン]講評会・プレゼ	作品プレゼンテーション 作品プレゼンテーション
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	版画研究Ｂ						
担当教員	鳴海　伸一	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	8
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 3205		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

次年度に向けての課題および卒業制作に向けて、探求できる専門版種を模索した作品づくりや
技法を組み合せた併用表現など、実験・実践・失敗・探究をとおして個性を生かした広い版表現を身につける。
また、近代版画技法の考察や時代に沿った制作、環境や身体にも安全な版画制作やその方法も習得する。

到達目標

・制作環境や技法にとらわれることなく、豊かで個性のある表現力を身につけることができる。
・扱っている道具や材料を理解し、自主的に安全かつ正確に制作することができる。
・木版、銅版、リトグラフ、シルクスクリーンの各版主の特徴を理解した上で応用・併用した表現を実践することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の完成度とその制作姿勢	７０%		
次年度にむけて自己の制作探究姿勢	３０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本美術家連盟／版画学会
札幌市芸術文化財団 札幌芸術の森版画専門員
札幌芸術の森版画工房運営・管理

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
学内図書館等を利用し、版画に関する書籍（作品、技法書など）を閲覧しておいてください。 また、制作に関わる注意事項、作業手順、動作などを把握し、イメージトレーニングしておくこと。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

汚れても良い服装またはエプロンを着用のこと。
作業時に必要なゴム手袋などを各自用意していただきます。※詳細は授業内で説明します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	研究版種による自由制作、アイデア、計画の検討	自身と向き合う版種、探求すべき版表現の考察と下絵づくりを行います。
第2週	研究制作Ⅰ／下絵づくりと描画	研究作品の下絵づくりを行います。
第3週	研究制作Ⅰ／描画と製版	下絵を元に描画を行います。
第4週	研究制作Ⅰ／製版	製版を行います。
第5週	研究制作Ⅰ／製版と印刷	試刷りを含めた刷りを行います。
第6週	研究制作Ⅰ／印刷と仕上げ	本刷り、裁断と仕上げを行います。
第7週	研究／中間講評と考察	１作目の振り返りと次作品の制作プロセスを考察します。
第8週	研究制作Ⅱ／下絵づくりと描画	研究作品の下絵づくりを行います。
第9週	研究制作Ⅱ／描画と製版	下絵を元に描画を行い、製版の準備をします。
第10週	研究制作Ⅱ／製版	製版を行います。
第11週	研究制作Ⅱ／製版と印刷	試刷りを含めた刷りを行います。
第12週	研究制作Ⅱ／印刷と仕上げ	本刷り、裁断と仕上げを行います。
第13週	制作考察－インプット	本講の研究制作をとおして、失敗点・改善点・展開などの情報を収集し、記録します。
第14週	制作考察ーアウトプット	本講の研究制作をとおして、次の段階でどのようなスキルが求められ、どのようなアウトプットが可能かを考察します。
第15週	研究のまとめ 検証と成果の考察（プレゼンテーションと講評）	研究制作をとおして自身に合う版種の選定、表現方法の確立を目指します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	立体研究Ａ						
担当教員	藤本　和彦	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	8
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 3304		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業は週4コマ15週（60回）の授業で、石彫制作をおこなう。素材としての「石」の特徴や魅力の探求と存在感を意識した表現（ここでは抽象表現）の可能性を追求する。またカービングの中では扱いにくい素材である「石材」の加工を通して、立体としての「もの」の捉え方や見方、素材や作業の「造形意識」を高め、理解を深める。

到達目標

①それぞれの場面で、機械・工具・道具などを正しく安全に扱うことができる。
②素材の特徴を理解し、それをいかした独自の発想による表現を追求することができる。
③表現としての「大きさ」について考察でき、選択した思考や形態、状況にあったスケールを選択することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品（丁寧かつ創意ある制作だったか）	60%		
制作ノート（正確な記録で、復習的に分析され、まと	20%		
積極的な制作姿勢（自発的な展開、工夫ある集中した	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし、都度、授業内で指示します』					

参考書等

なし、都度、授業内で指示します

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

モニュメント、スペース等の計画、作成、設置等多数

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
彫刻家の作品や表現、考え方を研究すること	5時間から６時間程度/週

受講時の注意事項

作業に相応しい服装・装備で受講すること。自主性を持って道具の整備や作業後の清掃をおこなうこと

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	受講留意点の説明、石彫作品の紹介・鑑賞
第2週	作業解説	石の基本的な彫り方、工具・道具の扱い方の説明
第3週	アイデア展開	個々のテーマを設定しそこからのイメージを形態化する。イメージスケッチ・エスキース
第4週	マケット制作	パターンやバリエーションを設け、水粘土によるマケットの制作をする。
第5週	作業準備	彫り出しに向けた作業スペースの設営や工具のメンテナンス
第6週	実制作１	石材への墨入れ、作図、スケッチ
第7週	実制作２	ドリル・セリ矢による石割り、粗彫りの開始
第8週	実制作３	石ノミ、コヤスケ、ダイヤモンドカッターによる粗彫り作業①
第9週	実制作４	石ノミ、コヤスケ、ダイヤモンドカッターによる粗彫り作業②
第10週	実制作５	ダイヤモンドカッター・ダイヤモンドカップを使った成形
第11週	実制作６	粗彫りからカップ砥石や細工ノミを使った細部形成
第12週	実制作７	細部形成やビシャン等を使ったマチエール表現
第13週	実制作８	砥石による手磨きや極小ノミを使った細部表現作業
第14週	実制作９	完成度を探った全体確認と仕上げ作業
第15週	制作発表	提出作品のプレゼンテーション、個人講評、振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	立体研究Ｂ						
担当教員	藤本　和彦／吉岡　滋人	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	8
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 3305		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業は週4コマ15週（60回）の授業で、塑造による等身大人体の制作をおこなう。生命感、空間感、動勢といったことを意識し、塑造における立体表現と自己表現の可能性を追求する。

到達目標

①身近な「人体」の再現を通して、自己発見、自己表現へつなげる事が出来る・
②塑造における造形技法と型取りの方法論を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品（積極的な試行や実践が反映されているか）	60%		
制作ノート（正確な記録、復習的に分析し、まとめら	20%		
積極的な制作姿勢（自発的な展開、工夫、集中した作	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし、授業内で適宜、資料を配布します』					

参考書等

なし、授業内で適宜、資料を配布します

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

モニュメント、スペースの計画・作成・設置等多数

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
制作意図の立ち上げの過程から、制作上のルール、工夫など、一部始終を復習作業として、毎時後、制作ノートにまとめておくこと。授業前に人体情報を確認しておくこと。	5時間から6時間程度/週

受講時の注意事項

作業に相応しい服装で受講すること。自主性を持って、道具の整備や作業後の清掃をおこなうこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	具象表現作品の紹介・鑑賞
第2週	描写	多方向からのモデルのデッサン
第3週	粘土準備	水粘土を塑造のしやすい硬さに練る
第4週	芯棒制作	モデルのポーズに合わせ。垂木などで芯棒を組み立てる
第5週	実制作①　粗付け	地山作り、胴体部分への土付け作業
第6週	実制作②	動き、バランスを見ながらの足の制作作業
第7週	実制作③	全体のムーブマンを見ながらの頭部、手部の制作作業
第8週	実制作④	全体の骨格、ボリュームを意識した制作
第9週	実制作⑤	生命感、空間感を意識した細部制作
第10週	実制作⑥	細部を含めた全体の仕上げ作業
第11週	石膏取り①	切金入れ、石膏振りかけ、塗り込み作業
第12週	石膏取り②	蓋開け、粘土掻き出し、雌型乾燥
第13週	石膏取り③	雌型への石膏振りかけ、スタッフ（繊維状補強材・麻）貼り込み作業
第14週	石膏取り④	型割り出し、修正作業
第15週	作品提出	自己評価、個人講評、振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア研究A						
担当教員	石岡　美久／遠藤　ひとみ／大黒　淳一／ 鎌田　順也／酒井　広司／玉野　哲也／ 鳥宮　尚道／土井　孝弥／長谷部　さやか／ 門間　友佑	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	8
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 3404		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本科目は、専門基礎で取り組んだ内容を基盤とし、独自性を有する表現を探求していく上で必要な知識と技術を身につけるために、複数の開講科目の中から各自の目指す方向性に見合った内容をそれぞれ選択する。

【月曜開講科目】＊a～dのうち１つを選択する
(a) 写真（酒井）
(b) イラスト（長谷部・土井）
(c) UI・UXデザイン（鳥宮）
(d) パターン・縫製（遠藤）

到達目標

本科目は、将来の目標を見据え、自身の表現するためのものとする。
学びたいことに焦点を当て、未来のビジョンを明確にすることを目標とし、授業で学んだ内容の組み合わせにより、独自の発想や創作、発信・構築ができるようになることを本授業の到達目標に掲げる。
(a) テーマを基に白黒バライタ印画紙によるプリントの制作を行う。「アーカイバルプリント」の制作を通して写真の長期保存への理解やファインアートとしての品質を極める。（酒井）
(b) 人とデザインの関わりという観点から、より広範囲にデザインの果たす役割を見つめ、現状や実態を把握、検討する中から発想を広げ、制作することができる。（長谷部・土井）
(c) 情報デザインの概念や手法、社会的な役割について、実際に手を動かし、考え、対話する中で体感的に理解することができる。（鳥宮）

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を掘起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
適確な形態の把握	30		
構成・空間表現	30		
課題テーマに対する取り組み	30		
表現素材の理解	10		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud』					
『(d)(h) 「ファッションデザインテクニック」』	高村是州	グラフィック社			
『(d)(h) 「ファッションスタイル・クロニクル　イラストで見る"おしゃれ"と流行の歴史」』	高村是州	グラフィック社			

参考書等

なし。必要に応じて授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

担当教員は各々、広告代理店、制作会社、デザイン事務所、パターン会社、テキスタイル、企画会社、アパレル企業などでの実務経験を有し、アパレルブランド、店舗運営やデザイン開発など様々な制作・アプローチのノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
(a,e)授業後の自学・自習を前提に設定しています。所属する課題教員の指導を適宜受けること。 (b,f)授業内では制作に集中できるよう、授業当日の作業計画、事前の準備、余裕が重要となる。 (c,g)授業外の時間でも調査・分析を行うなど、課題に対して日常的に取り組む姿勢が必要となります。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

(a,e)PC持参必須。実習費を徴収する。
(b,f)毎回の授業時間内に授業時間外におけるプランニングおよび制作に対しチェックを行い個別指導する。
(c,g)PC持参必須。制作過程の記録、データ管理をしっかり行うこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	(a) オリエンテーション（酒井） (b) オリエンテーション、課題説明（長谷部）	(a) 撮影技術（酒井） (b) オリエンテーション、課題説明、アンケートと、課題制作（ラフ）（長谷部） (c) 課題説明(鳥宮)
第2週	(a) 写真実習①（酒井） (b) キャラクターの立ち絵制作① ラフ（長谷部）	(a) スタジオ撮影技術（酒井） (b) ラフについての座学と、課題制作（ラフ）（長谷部） (c) アップサイクルについての情報収集(鳥宮)
第3週	(a) 写真実習②（酒井） (b) キャラクターの立ち絵制作② 線画（長谷部）	(a) 撮影実習（モノクロ135サイズカメラ使用）（酒井） (b) 線画、彩色についての座学と、課題制作（線画）（長谷部） (c) 調査内容をUIを意識したコンテンツとしてまとめる(鳥宮)
第4週	(a) 写真実習③（酒井） (b) キャラクターの立ち絵制作③ 線画（長谷部）	(a) フィルム現像（酒井） (b) 業界への就職についての座学と、課題制作（線画）（長谷部） (c) 現状把握調査のためのフィールドワーク(鳥宮)
第5週	(a) 写真実習④（酒井） (b) キャラクターの立ち絵制作④ 彩色（長谷部）	(a) フィルムスキャン（酒井） (b) フリーランスとして仕事するための座学と、課題制作（彩色）（長谷部） (c) フィールドワークで得た気づきの深掘りを行う(鳥宮)
第6週	(a) 写真実習⑤（酒井） (b) キャラクターの立ち絵制作⑤ 彩色（長谷部）	(a) RC印画紙プリント（酒井） (b) 課題制作（彩色）（長谷部） (c) 利用するシーンの設定（鳥宮）
第7週	(a) 写真実習⑥（酒井） (b) 個別プレゼンテーション、講評（長谷部）	(a) プリント仕上げ（酒井） (b) 1人ずつ数分のプレゼンテーションと、講評（長谷部） (c) 扱う素材をその特性から選定（鳥宮）
第8週	(a) 写真実習⑦（酒井） (b) 実習①：キャラクターデザイン（土井）	(a) 撮影実習（モノクロ120サイズフィルムカメラ）（酒井） (b) 魅力的なキャラクターデザイン（土井） (c) シーンに適した形状の検討（鳥宮）
第9週	(a) 写真実習⑧（酒井） (b) 実習②：題材設定（土井） (c) プロトタイプ制作①(鳥宮)	(a) 120フィルム現像（酒井） (b) 舞台設定や題材の検討（土井） (c) 簡易的に素材加工しながらサイズ感を検討（鳥宮）
第10週	(a) 写真実習⑨（酒井） (b) 実習③：ネーム・ストーリー制作（土井）	(a) 120フィルムスキャン（酒井） (b) キャラクターと舞台設定を活かしたネームの作成①（土井） (c) 加工方法の検討（鳥宮）
第11週	(a) 課題制作①（酒井） (b) 実習④：ネームの確認、修正（土井）	(a) データからプリンタープリント（酒井） (b) キャラクターと舞台設定を活かしたネームの作成②（土井） (c) 加工方法の検討（鳥宮）
第12週	(a) 課題制作②（酒井） (b) 実習⑤：ネームに基づいた漫画技法（土井）	(a) バライタ印画紙へプリント(1)（酒井） (b) 漫画表現特有の仕上げレクチャー（土井） (c) 課題制作（鳥宮）
第13週	(a) 課題制作③（酒井） (b) 実習⑥：制作（土井） (c) 本制作②(鳥宮)	(a) バライタ印画紙へプリント(2)（酒井） (b) 課題制作（土井） (c) 課題制作（鳥宮）
第14週	(a) 課題制作④（酒井） (b) 実習⑦：制作（土井） (c) 撮影・プレゼン資料の作成(鳥	(a) バライタ印画紙へプリント(3)（酒井） (b) 課題制作（土井） (c) プレゼン準備(鳥宮)
第15週	(a) 講評（酒井） (b) 講評会（土井） (c) プレゼンテーション(鳥宮)	(a) 総括（酒井） (b) プレゼンテーション、講評（土井） (c) クライアントへのプレゼンテーションを行う(鳥宮)
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア研究Ｂ						
担当教員	大黒　淳一／菊池　有騎／島名　毅／ 髙橋　文代／谷内　彩子／戸澤　逸美／ 宮本　一行／三善　俊彦	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	8
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 3405		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本科目は、専門基礎で取り組んだ内容を基盤とし、独自性を有する表現を探求していく上で必要な知識と技術を身につけるために、複数の開講科目の中から各自の目指す方向性に見合った内容をそれぞれ選択する。

【月曜開講科目】＊a～dのうち１つを選択する
(a) アニメーション（応用）（菊地）
(b) タイポグラフィ・ダイヤグラム（三善）
(c) パッケージデザイン（戸澤）
(d) アパレル・CAD研究（谷内）

到達目標

本科目は、将来の目標を見据え、自身の表現るためのものとする。
学びたいことに焦点を当て、未来のビジョンを明確にすることを目標とし、授業で学んだ内容の組み合わせにより、独自の発想や創作、発信・構築ができるようになることを本授業の到達目標に掲げる。
(a) 2Dアニメーションを用いた映像表現を模索する。企画立案、コンテ、映像素材の作成、編集までの流れを2Dアニメーション業界のフローチャートを模して体験していく。(菊池)
(b) ダイアグラムの世界を通じてコミュニュケーションツールの可能性を感じ、表現することができる。（三善）
(c) パッケージデザインを通じて、ブランドの魅力を視覚的に表現し、効果的なコミュニケーションツールとして機能させる力を養う。素材や形状の理解を深めながら、グラフィックデザインを軸にブランディングを考え、独自性のあるパッケージを提案できる。（戸澤）

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を掘起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題テーマに対する理解	30		
課題テーマに対する取り組み	30		
作品完成度	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『(e) 『音楽ソフト　Audacity(mac/win)』 』					
『(e) 『音楽プログラムングソフ トMAX9』 (mac/win)』					
『(e) 『映像プログラムングソフ ト TouchDesigner』 (mac/win)』					
『(e) 『音楽ソフトDAW (iOSアプリ AbletonNote / Ableton Lite)』 』					
『(他) 『Adobe CC』(mac/win)』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

Audacity /TouchDesignerは教育用の無料版を使用、MAX9は30日のデモ版を使用します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

実務経験あり
この科目は、各項目において専門分野としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回、授業で学んだことや参考資料などを読んでノートにまとめて整理すること。 復習として授業で学んだことをノートを確認し実践してみること。 授業時間外の制作を積極的に行うこと。	2-3時間

受講時の注意事項

(e) サウンドデザイン（応用）
・音楽経験の有無は全く必要としません。積極的な授業姿勢を望みます。
・機器やソフトウェアの操作方法などは、逐一ノートなどを取ってください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	(a) アニメーション基礎（菊地） (b) カタチの構成、タンカ① 自分の顔の表現 （三善）	(a) 映像構成、フレームレート、工程等 (b) 各自己紹介と課題説明→ラフスケッチ (c) 箱を中心としたパッケージデザインの事例紹介
第2週	(a) ４カット映像制作課題企画構想（菊地） (b) カタチの構成、タンカ② 自分	(a) 起承転結４カット構成の企画。 (b) 各自己紹介と課題説明→ラフスケッチ (c) 箱の種類・構造などの基礎を学ぶ
第3週	(a) ４カット映像制作課題「コンテ」制作（菊地） (b) カタチの構成、タンカ③ 自分	(a) 起承転結でしっかり他者に伝わる内容を絵にする。 (b) 原寸大スケッチ→スケッチチェック (c) ターゲット・コンセプトを決め、ラフスケッチ
第4週	(a) ４カット映像制作課題「レイアウト」（菊地） (b) カタチの構成、タンカ④ 自分	(a) レイアウトとは？またその書き方や考え方。カメラと絵の関係について。 (b) フィニッシュ→完成→作品発表&講評 (c) ブランドイメージに合わせたグラフィックデザインを作成
第5週	(a) ４カット映像制作課題「レイアウト」（菊地） (b) ピクトグラム① トイレのオリ	(a) レイアウト実習、目標２カットの作成。 (b) 課題説明→ラフスケッチ (c) モックアップ制作、デザインを調整
第6週	(a) ４カット映像制作課題「レイアウト」（菊地） (b) ピクトグラム② トイレのオリ	(a) レイアウト実習、目標４カット目まで作成。 (b) ラフスケッチ→スケッチチェック (c) 箱パッケージの講評
第7週	(a) ４カット映像制作課題「ラフ原画」（菊地） (b) ピクトグラム③ トイレのオリ	(a) ラフ原画とは？動きを作る方法。芝居について。 (b) 原寸大スケッチ→スケッチチェック (c) 箱以外の形状・素材を学ぶ
第8週	(a) ４カット映像制作課題「ラフ原画」（菊地） (b) ピクトグラム④ トイレのオリ	(a) ラフ原画の作成。完成させ、全体の作業量を確認する。 (b) フィニッシュ→完成→作品発表&講評 (c) 競合ブランドのパッケージを調査・分析
第9週	(a) ４カット映像制作課題「原画作成」（菊地） (b) 既成フォントで自分の名前の	(a) ラフ原画の清書作業 (b) ＊欧文フォントを中心にセリフフォント、サンセリフフォントの文字の種類や特徴をしてもらう。＊セリフフォント・サンセリフフォントそれぞれスペーシングを変え自分の名前のロ
第10週	(a) ４カット映像制作課題「原画作成」（菊地） (b) タイトル：オリジナルフォン	(a) ラフ原画の清書作業 (b) 課題説明→ラフスケッチ (c) ラフスケッチ
第11週	(a) ４カット映像制作課題「動画工程」（菊地） (b) オリジナルフォントで自分の	(a) 原画の中割りを作成し動画として一連の絵を作成する。 (b) ラフスケッチ (c) ロゴ・フォント・カラーの選定とビジュアル作成
第12週	(a) ４カット映像制作課題「動画工程」（菊地） (b) オリジナルフォントで自分の	(a) 原画の中割りを作成し動画として一連の絵を作成する。 (b) スケッチチェック→フィニッシュ (c) デザインを調整し、モックアップ制作
第13週	(a) ４カット映像制作課題「スキャンと着色」（菊地） (b) オリジナルフォントで自分の	(a) アナログ作業の場合はスキャンを含め、着色を行う。 (b) フィニッシュ (c) デザイン、モックアップの調整
第14週	(a) ４カット映像制作課題「素材完成と編集」（菊地） (b) オリジナルフォントで自分の	(a) 動画素材を編集する。 (b) フィニッシュ→完成 (c) 最終仕上げ・プレゼンテーション準備
第15週	(a) ４カット映像制作課題「映像編集と書き出し」（菊地） (b) オリジナルフォントで自分の	(a) 映像編集を行い完成形の動画とする。 (b) 完成→作品発表&講評 (c) 最終講評会：完成作品を発表し、総評と今後の課題を考える
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現ゼミＡ（油彩）						
担当教員	會田　千夏	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

造形表現ゼミAでは、様々な技法や材料の研究と習得を軸にし、個々の表現方法の発見を目的として、進めていきます。
また、様々なアーティストの作品鑑賞をゼミ内で共有し、作品の制作動機と制作方法について調べたり体験することを通して、自己の作品制作の方向性を模索・実践する機会としていきます。
支持体研究、様々な材料・描画方法の可能性を探り、制作研究テーマの設定、主体的、且つ実験的な作品制作姿勢を身につけます。

到達目標

①様々な材料、技法のあり方を理解し、自己の表現の中で実験することができる。
②積極的な鑑賞姿勢を持ち、他者の作品から様々な情報を読み取ること、汲み取ることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品制作における積極的な材料のリサーチと実験がで	40%		
さまざまな材料の性質と、自己の作品テーマの性質を	30%		
さまざまな作家、作品を知り、分析し、自己の作品作	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『無し』					

参考書等

そのつど、参考図書の紹介、資料の配布を行う。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

専門分野での作品制作、発表、指導経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
造形表現ゼミAは、短時間の中で様々な演習を行います。時間内で収まらない作業や画材準備、リサーチに関しては、時間外での用意、制作が必要になってきます。制作時間を減らさない為に、制作計画をたて、事前の準備などを怠らないように気をつけましょう。	2時間から3時間程度／週

受講時の注意事項

支持体研究・技法研究では、乾燥の待ち時間・使用道具の待ち時間などが発生します。
待ち時間を有効に使う為、一人一人の授業計画が入れ替わる可能性があります。効率よく、無駄のない時間をお互いに共有できるよう、声かけをしながら制作をしていきましょう。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 支持体研究・技法研究①	様々な性質・形態の支持体を制作、描画方法を体験する。 マチエール研究・モダンテクニック応用①
第2週	支持体研究・技法研究②	マチエール研究・モダンテクニック応用②
第3週	支持体研究・技法研究③	不定形の支持体の可能性について①
第4週	支持体研究・技法研究④	不定形の支持体の可能性について②
第5週	支持体研究・技法研究⑤	コラージュ、ミクストメディアの実験①
第6週	支持体研究・技法研究⑥	コラージュ、ミクストメディアの実験②
第7週	制作研究①	各自の制作研究テーマの方向性と計画
第8週	制作研究②	制作研究テーマのアイデアスケッチ、検討
第9週	制作研究③	制作研究テーマのアイデアスケッチ、検討 支持体作り
第10週	制作研究④	支持体作り 制作
第11週	制作研究⑤	制作
第12週	制作研究⑥	制作 中間講評
第13週	制作研究⑦	制作
第14週	制作研究⑧	制作、完成
第15週	制作研究⑨	講評会
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現ゼミＡ（日本画）						
担当教員	平向　功一	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では日本画における基本的な造形力を養いながら、日本画で使用する素材画材、指定課題や自由課題について自己の表現を追及していく。

到達目標

1 素材の製作・活用を通して素材への理解を深めることができる。
2 様々な画材・素材や技法を活用して、独創的な表現をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
制作計画表	20%		
日本画ファイル（技法）	30%		
ポートフォリオ	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『授業内で適宜、資料を配付します』					

参考書等

なし。授業内で指示します

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・下図提出前に事前にエスキースをしっかり考えておくこと。（予習） ・制作過程について常に記録（写真など）することを心がけてください。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

・多様な日本画表現や技術を修得するため、屋外や外部機関での写生・見学・研修、特別講義などを実施する。
・講評会などにおいて自分の作品についてのプレゼンテーションを実施する。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	プレゼンテーション	小下図についてプレゼンテーションを行う
第2週	制作計画表作成	制作計画表を作成する
第3週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第4週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第5週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第6週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第7週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第8週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第9週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第10週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第11週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第12週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第13週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第14週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第15週	まとめ	講評
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現ゼミＡ（版画）						
担当教員	吉田　潤	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

独自のテーマや自身の専門分野における課題を設定し、担当教員の指導のもと、研究、発表を行います。

到達目標

・研究テーマについて、専門知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理、分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自らが考えた課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
意欲的な研究姿勢（検証・結果）	60		
提出作品の魅力・完成度（発想力・構成力・技術力）	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜配布します。』					

参考書等

「なし。授業内で指示します。」

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

担当教員は大学、フリーランスでの実務経験を有します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
学内図書館等を利用し、版画に関する書籍（作品、技法書など）を閲覧しておくこと。 また、制作に関わる注意事項、作業手順、動作などを把握し、イメージトレーニングしておくこと。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、作品制作(研究)・ディスカッション・発表を中心に構成される。授業中は、他の学生発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 各自の個別テーマの検討	各自研究するテーマ内容の検討
第2週	研究計画書の作成	研究において必要事項の確認
第3週	研究①	テーマや領域の現状、課題発見
第4週	研究②	先行研究や事例
第5週	研究③	素材研究
第6週	研究④	表現技法の追求
第7週	研究⑤	検証
第8週	中間発表	プレゼンテーション・ディスカッション
第9週	研究⑥	研究手法
第10週	研究⑦	研究手法
第11週	研究⑧	検証
第12週	研究⑨	実証
第13週	研究⑩	検証
第14週	最終発表	プレゼンテーション
第15週	まとめ	各々の研究についてのまとめ・振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現ゼミＡ（立体）						
担当教員	藤本　和彦	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

2年までに経験値のある、それぞれの素材や構築方法を今後を見据えた応用や深化を目的に別の視点から読み解き、別の展開へと導き、実践する。具体的には、同じテーマを別素材で試したり、同じ素材で別な形を制作したり、道具のメンテナンスや治具の工夫、制作意図の言語化の拡大　などなど・・・

到達目標

①課題に対する展開もさることながら、自ら課題を見出し、解決方法を探り、着地点を定められる
②同じ視点からの固執した考え方を多方向から紐解き、効果ある応用や発案に結びつけられる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品提出（作業意図と実作業が偏りないものになって	６０%		
プレゼンテーション（必要な課題と向き合い、効果的	２０%		
積極的な受講姿勢（多視点のある機能的な探求であっ	２０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし、授業内で適宜支持します』					

参考書等

なし、授業内で適宜支持します

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

モニュメント、スペースの計画、作成、設置等多数

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎時、時系列で繋げ、時には視点を変え、最終的に質向上に結びつく行動や調査を実施、記録すること	2時間から3時間/週

受講時の注意事項

単独での考察に加え、グループでのディスカッションやディベートを経ながら進めるので、多視点をもち、固まらないよう、学外での場面も有効に活用する事

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	これまでの課題や素材・制作の振り返り
第2週	テーマ選択	研究テーマを選択し、ゼミとしてのアプローチ方向を探る
第3週	個別面談	それぞれが持ちえた課題の試行法を探る
第4週	実作業１	個々の素材決定・素材調達、作業方法の決定
第5週	実作業２	其々の作業開始
第6週	実作業３	制作継続　順調進行作業の確認
第7週	実作業４	不測事項・アクシデントなどの対応
第8週	実作業５	必然的なスケールや仕上げの考察
第9週	中間発表	前半段階での作業評価、修正箇所分析
第10週	後半実作業再開	継続的作業および、作業内容拡大・別作業付加
第11週	実作業６	作業方法のさらなる工夫
第12週	実作業７	応用方法の方向拡大と別視点の開拓
第13週	実作業８	作業意図と実作業の整合性
第14週	実作業９	作業のクオリティと必要完成度
第15週	最終発表	それぞれのプレゼンテーション、個人講評、振り返りとまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現ゼミＢ（油彩）						
担当教員	佐々木　剛	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

各自の個性や表現方法をもとに多様な絵画表現について研究・制作を行う。
絵画性について幅広い理解をする。

到達目標

・美術のテーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・先行する作品について整理・分析し自己の制作に生かす力を身につけることができる。
・表現者として先人達の造形的思考を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
成果物の発表	60		
課題に取り組む姿勢	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『無し、授業内で指示』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は様々な作品制作、発表、研究、開発のノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
必ず予習を行い事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は他の学生の発表を良く聞き、積極的に議論に参加すること。各自、制作物、アトリエの管理を行うこと。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（佐々木・會田）	テーマの検討
第2週	研究計画（佐々木・會田）	テーマ・エスキース制作
第3週	研究・制作①（佐々木・會田）	状先行作品の研究
第4週	研究・制作②（佐々木・會田）	実施と制作
第5週	研究・制作③（佐々木・會田）	発表準備
第6週	中間発表（佐々木・會田）	中間発表・講評
第7週	研究・制作④（佐々木・會田）	テーマの検証
第8週	研究・制作⑤（佐々木・會田）	研究手法の確認
第9週	研究・制作⑥（佐々木・會田）	実施と制作
第10週	研究・制作⑦（佐々木・會田）	検証と制作
第11週	研究・制作⑧（佐々木・會田）	実施と制作
第12週	研究・製作⑨（佐々木・會田）	検証と制作
第13週	研究・制作⑩（佐々木・會田）	発表準備
第14週	最終発表（佐々木・會田）	ディスカッションを行う
第15週	まとめ（佐々木・會田）	各々の研究についてまとめと振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現ゼミＢ（日本画）						
担当教員	平向　功一	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では日本画における基本的な造形力を養いながら、日本画で使用する素材画材、指定課題や自由課題について自己の表現を追及していく。

到達目標

1 素材の製作・活用を通して素材への理解を深めることができる。
2 様々な画材・素材や技法を活用して、独創的な表現をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
制作計画表	20%		
日本画ファイル	30%		
ポートフォリオ	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
・下図提出前に事前にエスキースをしっかり考えておくこと。（予習） ・制作過程について常に記録（写真など）することを心がけてください。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

・多様な日本画表現や技術を修得するため、屋外や外部機関での写生・見学・研修、特別講義などを実施する。
・講評会などにおいて自分の作品についてのプレゼンテーションを実施する。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	プレゼンテーション	小下図についてプレゼンテーションを行う
第2週	制作計画表作成	制作計画表を作成する
第3週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第4週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第5週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第6週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第7週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第8週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第9週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第10週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第11週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第12週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第13週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第14週	制作に関する指導・助言	個別に制作や作品に関する指導・助言を行う
第15週	まとめ	講評
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現ゼミＢ（版画）						
担当教員	吉田　潤	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

独自のテーマや自身の専門分野における課題を設定し、担当教員の指導のもと、研究、発表を行います。

到達目標

・研究テーマについて、専門知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理、分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自らが考えた課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
意欲的な研究姿勢（検証・結果）	60		
提出作品の魅力・完成度（発想力・構成力・技術力）	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜配布します。』					

参考書等

「なし。授業内で指示します。」

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

担当教員は大学、フリーランスでの実務経験を有します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
学内図書館等を利用し、版画に関する書籍（作品、技法書など）を閲覧しておくこと。 また、制作に関わる注意事項、作業手順、動作などを把握し、イメージトレーニングしておくこと。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、作品制作(研究)・ディスカッション・発表を中心に構成される。授業中は、他の学生発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 各自の個別テーマの検討	各自研究するテーマ内容の検討
第2週	研究計画書の作成	研究において必要事項の確認
第3週	研究①	テーマや領域の現状、課題発見
第4週	研究②	先行研究や事例
第5週	研究③	素材研究
第6週	研究④	表現技法の追求
第7週	研究⑤	検証
第8週	中間発表	プレゼンテーション・ディスカッション
第9週	研究⑥	研究手法
第10週	研究⑦	研究手法
第11週	研究⑧	検証
第12週	研究⑨	実証
第13週	研究⑩	検証
第14週	最終発表	プレゼンテーション
第15週	まとめ	各々の研究についてのまとめ・振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	造形表現ゼミＢ（立体）						
担当教員	藤本　和彦／吉岡　滋人	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

3年前期までに経験のあった、それぞれの素材や構築方法を今後を見据えた応用や深化を目的に別の視点から読み解き、別の展開へと導き、実践する。
具体的には、ゼミA同様、同じテーマを別素材、同素材で別形態、道具のメンテ・治具の工夫、制作意図の言語化の拡大・・・

到達目標

①ゼミAでの経験を膨らまし、課題に対する展開、自らの課題構築、解決方法の探求、着地点などを確定、修正することができる
②同じ視点からの固執した考え方を多方向から紐解き、効果ある応用や発案、実施計画に結びつけられる。
③卒業制作への足掛かりの構築につなげられる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品提出（作業意図と実作業が偏りないものになって	６０%		
プレゼンテーション（必要な課題と向き合い、効果的	２０%		
積極的な受講姿勢（多視点のある機能的な探求であっ	２０%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし、授業内で適宜支持します』					

参考書等

なし、授業内で適宜支持します

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

モニュメント、スペースの計画、作成、設置等多数

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎時、時系列で繋げ、時には視点を変え、最終的に質向上に結びつく行動や調査を実施、記録すること	2時間から3時間/週

受講時の注意事項

単独での考察に加え、グループでのディスカッションやディベートを経ながら進めるので、多視点をもち、固まらないよう、学外での場面も有効に活用する事。
後半では卒業研究を意識したテーマのすり合わせを模索する事

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（藤本）	これまでの課題や素材・制作の振り返り
第2週	テーマ選択（藤本・吉岡）	研究テーマを選択し、ゼミとしてのアプローチ方向を探る
第3週	個別面談（藤本・吉岡）	それぞれが持ちえた課題の試行法を探る
第4週	実作業１（藤本・吉岡）	個々の素材決定・素材調達、作業方法の決定
第5週	実作業２（藤本・吉岡）	其々の作業開始
第6週	実作業３（藤本・吉岡）	制作継続　順調進行作業の確認
第7週	実作業４（藤本・吉岡）	不測事項・アクシデントなどの対応
第8週	実作業５（藤本・吉岡）	必然的なスケールや仕上げの考察
第9週	中間発表（藤本・吉岡）	前半段階での作業評価、修正箇所分析
第10週	後半実作業再開（藤本・吉岡）	継続的作業および、作業内容拡大・別作業付加
第11週	実作業６（藤本・吉岡）	作業方法のさらなる工夫
第12週	実作業７（藤本・吉岡）	応用方法の方向拡大と別視点の開拓
第13週	実作業８（藤本・吉岡）	作業意図と実作業の整合性
第14週	実作業９（藤本・吉岡）	作業のクオリティと必要完成度
第15週	最終発表（藤本・吉岡）	それぞれのプレゼンテーション、個人講評、振り返りとまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミA(鳥宮・宮本)						
担当教員	鳥宮　尚道／宮本　一行	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 3408		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

独自のテーマや専門分野における課題について担当教員の指導のもと、個人またはグループでの研究、発表を行います。自ら企画し取り組むことを身につけ、説得力ある提案について理解する。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
成果物の発表	60		
課題に取り組む姿勢	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は様々な作品制作、発表、研究、開発のノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
必ず予習を行い事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は他の学生の発表を良く聞き、積極的に議論に参加すること。各自、制作データの管理を行うこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（鳥宮・宮本）	各自の個別テーマの検討
第2週	研究計画書の作成（鳥宮・宮本）	各自のテーマについてディスカッション
第3週	研究①（鳥宮・宮本）	テーマや領域の現状
第4週	研究②（鳥宮・宮本）	テーマや領域の課題
第5週	研究③（鳥宮・宮本）	先行研究や事例
第6週	中間発表（鳥宮・宮本）	ここまでの取り組みを整理する。ディスカッション
第7週	研究④（鳥宮・宮本）	研究テーマの決定
第8週	研究⑤（鳥宮・宮本）	研究手法・調査についての確認
第9週	研究⑥（鳥宮・宮本）	調査の実施と制作
第10週	研究⑦（鳥宮・宮本）	調査を踏まえ検証と制作
第11週	研究⑧（鳥宮・宮本）	追加調査の実施と制作
第12週	研究⑨（鳥宮・宮本）	最終検証と制作
第13週	研究⑩（鳥宮・宮本）	発表準備
第14週	最終発表（鳥宮・宮本）	ディスカッションを行う
第15週	まとめ（鳥宮・宮本）	各々の研究についてまとめと振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミA(今・小町谷)						
担当教員	小町谷　圭／今　義典	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 3408		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

静止画、動画、文字、図形、音声といった表現メディアは、ソフトウエアとハードウエアの関係と同様にコンテンツ(創作物)を内包する形式であり、その形式の特性によってコンテンツ（創作物）は自ずと影響を受けることになります。そうした表現する手段の一つとして、メディア表現における各専門分野について、それぞれの専攻・研究室の独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導の下、グループ、または個人での研究発表を行います。
概ね2～3の課題を設定し、個人またはグループで実践していきます。メディア表現ゼミは学生の自主性を尊重し学生主体で動いていくことに眼目を置きます。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教授職、特任講師ともキャリア15年から25年教育研究職に従事している。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、必ず予習を行い、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	各自の個別テーマの検討（１０週完結）
第2週	先行研究や事例　研究計画書の作成	過去年度のゼミ作品紹介と、今年度研究計画書の作成
第3週	研究①[課題１]：もの作りに特化したもの（木工制作・金属造形など）かコンピュータを介した新たな表現	プレストで個々人からの発案を書き留める
第4週	研究②：研究テーマや表現領域の推測とプレ実践	３週で出たものを考察し、実践可能か検討、準備
第5週	研究③：実践1	制作開始1
第6週	研究③：実践2	制作開始2
第7週	研究④：中間講評	中間講評を行う
第8週	研究④：実践3	制作開始3
第9週	研究⑥：講評会I	講評会Iと作品提出
第10週	研究⑦[課題２]	各自の個別テーマの検討（５週で完結）プレストとテーマ決め
第11週	研究⑧：課題策定	各種課題確定　個人（またはグループ分け）　制作１
第12週	研究⑨：実践	制作２
第13週	研究⑩：中間講評	制作３　中間講評を行う
第14週	個別面談	制作４　並行して個別面談
第15週	講評会II	講評会IIと作品提出
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミA(島名・戸澤・玉野)					
担当教員	島名　毅／玉野　哲也／戸澤　逸美	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 3408		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

現代社会において、グラフィックデザインやイラストレーションは、様々なメディアを通して人々に訴えかける重要な役割を担っている。本ゼミでは、それぞれの個性や表現力を活かしながら、多様なメディア表現の可能性を探求する。

到達目標

・メディア表現に関する専門的な知識と技術を習得する。
・自身の表現方法を確立し、多様なメディアで作品を制作する能力を身につける。
・作品を通して、社会や人々にメッセージを発信する力を養う。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品完成度	50%		
課題への取り組み	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『AdobeCC』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は制作会社、広告代理店・フリーランス等、豊富な実務経験を持つ。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前に疑問点や自分諒意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。 授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館や関連資料を用いて自らの言葉で説明できるようにすること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、作品制作・ディスカッション・発表を中心に構成される。授業中は、他の学生発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ゼミの目的と内容の説明	自己紹介・テーマ選定
第2週	メディア表現の歴史と理論①	講義とディスカッション
第3週	メディア表現の歴史と理論②	講義とディスカッション
第4週	作品制作	コンセプト立案、企画
第5週	作品制作	コンセプト立案、企画
第6週	作品制作	デザイン、試作
第7週	作品制作	デザイン、試作
第8週	中間発表	中間プレゼンテーション・ディスカッション
第9週	作品制作	デザイン、制作
第10週	作品制作	デザイン、制作
第11週	作品制作	デザイン、制作
第12週	作品制作	デザイン、制作
第13週	作品制作	デザイン、制作
第14週	作品制作	仕上げ
第15週	講評会	プレゼンテーション・総括
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミA(石岡先生)						
担当教員	石岡　美久	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 3408		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

様々なメディア表現媒体とファッションの関係性の理解度を高め、独自のデザインに落とし込む手法を身につける。
独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導のもと、グループ又は個人での研究、発表を行います。

到達目標

・研究テーマについて専門知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理、分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で支持します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

メディア表現におけるコスチューム製作（CM,舞台等）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は必ず予習を行い難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見などを整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館などで関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、学生の発表及び議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は他の学生の発表及び発言をよく聞き、積極的に議論に参加すること。課題学習、テーマ別課題学習の際には主体的に学習すること。オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので必ず授業ごとに確認しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 各自の個別テーマの検討	各自研究するテーマや内容の検討
第2週	研究計画書の作成	研究において必要事項の確認
第3週	研究①	テーマや領域の現状、課題。
第4週	研究②	先行研究や事例
第5週	研究③	素材研究
第6週	研究④	表現技法の追求
第7週	研究⑤	検証
第8週	中間発表 ディスカッション	中間発表、ディスカッション。
第9週	研究⑥	研究手法
第10週	研究⑦	研究手法
第11週	研究⑧	検証
第12週	研究⑨	実証
第13週	研究⑩	検証
第14週	研究11	公開
第15週	まとめ 発表	最終発表
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミＢ(鳥宮・宮本)						
担当教員	鳥宮　尚道／宮本　一行	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 3409		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

独自のテーマや専門分野における課題について担当教員の指導のもと、個人またはグループでの研究、発表を行います。自ら企画し取り組むことを身につけ、説得力ある提案について理解する。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
成果物の発表	60		
課題に取り組む姿勢	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は様々な作品制作、発表、研究、開発のノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
必ず予習を行い事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は他の学生の発表を良く聞き、積極的に議論に参加すること。各自、制作データの管理を行うこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（鳥宮・宮本）	各自の個別テーマの検討
第2週	研究計画の作成（鳥宮・宮本）	各自のテーマについてのディスカッション
第3週	研究①（鳥宮・宮本）	テーマや領域の現状
第4週	研究②（鳥宮・宮本）	テーマや領域の課題
第5週	研究③（鳥宮・宮本）	先行研究や事例
第6週	中間発表（鳥宮・宮本）	ここまでの取り組みを整理する。ディスカッション
第7週	研究④（鳥宮・宮本）	研究テーマの決定
第8週	研究⑤（鳥宮・宮本）	研究手法・調査についての確認
第9週	研究⑥（鳥宮・宮本）	調査の実施と制作
第10週	研究⑦（鳥宮・宮本）	調査を踏まえ検証と制作
第11週	研究⑧（鳥宮・宮本）	追加調査の実施と制作
第12週	研究⑨（鳥宮・宮本）	最終検証と制作
第13週	研究⑩（鳥宮・宮本）	発表準備
第14週	最終発表（鳥宮・宮本）	ディスカッションを行う
第15週	まとめ（鳥宮・宮本）	各々の研究についてまとめと振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミＢ(今・小町谷)						
担当教員	小町谷　圭／今　義典	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 3409		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

文字、図形、音声、静止画、動画といった表現メディアは、ソフトウエアとハードウエアの関係と同様に、コンテンツ(創作物)を内包する形式であり、その形式の特性によってコンテンツ（創作物）は自ずと影響を受けることになります。そうした表現する手段の一つとして、メディア表現における各専門分野について、それぞれの専攻・研究室の独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導の下、グループ、または個人での研究、発表を行います。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教授職、特任講師ともキャリア15年から25年教育研究職に従事している。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、必ず予習を行い、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	各自の個別テーマの検討
第2週	研究①	研究計画書の作成
第3週	研究②	テーマや領域の現状についてのリサーチ
第4週	研究③	先行研究や事例についてのリサーチ
第5週	研究④	研究計画書の修正
第6週	中間発表	ディスカッションを通して研究計画の課題を共有
第7週	研究⑤	研究手法について検討
第8週	研究⑥	実施
第9週	研究⑦	検証
第10週	研究⑧	実施
第11週	研究⑨	検証
第12週	研究⑩	まとめ
第13週	発表準備	
第14週	最終発表	
第15週	まとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミB(島名・戸澤・玉野)						
担当教員	島名　毅／玉野　哲也／戸澤　逸美	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 3409		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

現代社会において、グラフィックデザインやイラストレーションは、様々なメディアを通して人々に訴えかける重要な役割を担っている。本ゼミでは、それぞれの個性や表現力を活かしながら、多様なメディア表現の可能性を探求する。

到達目標

・メディア表現に関する専門的な知識と技術を習得する。
・自身の表現方法を確立し、多様なメディアで作品を制作する能力を身につける。
・作品を通して、社会や人々にメッセージを発信する力を養う。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品完成度	50%		
課題への取り組み	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『AdobeCC』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は制作会社、広告代理店・フリーランス等、豊富な実務経験を持つ。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前に疑問点や自分諒意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館や関連資料を用いて自らの言葉で説明できるようにすること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、作品制作・ディスカッション・発表を中心に構成される。授業中は、他の学生発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	課題説明	テーマ選定
第2週	メディア表現の歴史と理論③	講義とディスカッション
第3週	メディア表現の歴史と理論④	講義とディスカッション
第4週	作品制作	コンセプト立案、企画
第5週	作品制作	コンセプト立案、企画
第6週	作品制作	デザイン、試作
第7週	作品制作	デザイン、試作
第8週	中間発表	中間プレゼンテーション・ディスカッション
第9週	作品制作	デザイン、制作
第10週	作品制作	デザイン、制作
第11週	作品制作	デザイン、制作
第12週	作品制作	デザイン、制作
第13週	作品制作	デザイン、制作
第14週	作品制作	仕上げ
第15週	講評会	プレゼンテーション・総括
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミＢ(石岡先生)						
担当教員	石岡　美久	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 3409		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

様々なメディア表現媒体とファッションの関係性の理解度を高め、独自のデザインに落とし込む手法を身につける。
独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導のもと、グループ又は個人での研究、発表を行います。

到達目標

・研究テーマについて専門知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理、分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
○	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で支持します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

メディア表現におけるコスチューム製作（CM,舞台等）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は必ず予習を行い難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見などを整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館などで関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、学生の発表及び議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は他の学生の発表及び発言をよく聞き、積極的に議論に参加すること。課題学習、テーマ別課題学習の際には主体的に学習すること。オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので必ず授業ごとに確認しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 各自の個別テーマの検討	各自研究するテーマや内容の検討
第2週	研究計画書の作成	研究において必要事項の確認
第3週	研究①	テーマや領域の現状、課題。
第4週	研究②	先行研究や事例
第5週	研究③	素材研究
第6週	研究④	表現技法の追求
第7週	研究⑤	検証
第8週	中間発表 ディスカッション	中間発表、ディスカッション。
第9週	研究⑥	研究手法
第10週	研究⑦	研究手法
第11週	研究⑧	検証
第12週	研究⑨	実証
第13週	研究⑩	検証
第14週	研究11	公開
第15週	まとめ 発表	最終発表
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	民法Ｂ						
担当教員	津幡　笑	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 2406		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

我々の生活にもっとも密接に関わるのが民法である。この講義では、民法の債権総論、債権各論、親族・相続部分を扱う。民法の基本原則を基に、体系的な知識を得ることを目標とする。民法規範が実際の事例でどのように適用されるかを、基礎から学ぶ。「民法A,B」は、「法学入門」「民法入門」を履修済みであることを前提に講義が展開されるが、ABの順に履修しないでBから受講することも可能である。

到達目標

将来の公務員試験や各種資格試験の基礎固めとして、用語の理解から始まり、条文・判例を理解する。その結果、具体的な事例について、何が法的に問題となるのか論点を明示し、それに対して講義で学んだ民法の具体的な規定を当てはめて、解決策を示すことができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験	70%		
小テスト	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『公務員試験　最初でつまずかない民法Ⅱ［改訂版］』	鶴田　秀樹	実務教育出版	2024	9784788945340	
『デイリー六法2025』	長谷部 由起子	三省堂	2023	4385158819	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回の授業範囲の教科書を事前に読む。授業後は小テストの範囲を中心に復習する。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

教科書に記載されていない部分については、図書館に配架の民法に関する書籍を参考 にすること。講義で取り上げた内容は、定期試験の範囲となる。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	民法の学習の仕方 債権法、家族法の特徴、構造
第2週	債権の性質と種類 債務不履行①	
第3週	債務不履行②	
第4週	債権者代位権	
第5週	詐害行為取消権	
第6週	債権譲渡	
第7週	債権の消滅原因	
第8週	契約総論 贈与・売買	
第9週	消費貸借、使用貸借、賃貸借 その他の典型契約	
第10週	事務管理、不当利得	
第11週	不法行為	
第12週	婚姻 親子	
第13週	相続	
第14週	遺言・遺留分	
第15週	まとめと到達度チェック	まとめと到達度チェック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	行政法						
担当教員	岸本　太樹	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業では、私たちの日常生活に密接に関係している国や地方公共団体の活動（特に行政活動）に焦点を当て、行政活動の具体例を挙げながら、行政活動がどのようなルールに従いながら日々行われているか（行政活動を統制する法的ルールの全体象）と説明するとともに、違法な行政活動によって権利や利益を侵害された場合に、違法な行政活動を裁判等で争い、違法な行政活動によって侵害された権利/利益を救済するための仕組み（行政裁判の仕組み）を学びます。

到達目標

私たちの日常生活に密接な関係性を持つ国や地方公共団体の行政活動に興味関心を持ち、それがどのようなルールの下で行われているかについての基本的知識を取得すること、そして、その知識を基盤に、新聞やニュース等で報道される国や地方公共団体の行政活動を分析し、評価し、自分なりの意見を述べることができるようになることが、この授業の到達目標です。なお、行政法は、国家公務員、都道府県庁や札幌市等の市職員（地方公務員）になるための試験（公務員試験）の必修科目にも位置づけられています。将来、公務員になることを目指す意欲ある学生さんの受講をお待ちしています。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への積極的な参加姿勢　平常点	40%		
学期試験	40%		
課題レポート	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

札幌市行政不服審査会、札幌市都市計画審議会、札幌市情報公開審査会、北海道行政不服審査会、北海道景観審議会
財務省入札等監視委員会

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各回の授業終了後、配布レジュメとノートを用いて必ず復習したうえで次回の授業に参加することを求めます。	1時間程度

受講時の注意事項

私語や居眠りは厳禁です。
授業中、適宜質問をしますので、授業には能動的に参加してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	行政法学の全体象 行政法学とはどのような分野か	この授業の対象である行政法学の存在意義（行政活動を法的に統制する必要性と理由）について説明します。
第2週	法律による行政の原理 法律の専権的法規創造力の原則 法律の優位の原則	行政活動は法律に則って(法律に従って）行われる必要があります。行政活動が法律に従って行われることの意味（法律による行政の原理の具体的内容）について、詳しく説明します。
第3週	様々な行政活動（その1）行政行為とは何か 許認可制度	第3回目からは、国や地方公共団体の具体的な活動（行政活動）に焦点を当てます。第3回目と第4回目の授業では、例えば、運転免許や飲食店営業許可に代表される許認可に焦点をあてます。
第4週	様々な行政活動（その2）行政行為 不利益処分	第4回目は、行政行為と呼ばれる行政活動のうち、例えば運転免許停止処分や飲食店営業停止処分に代表される不利益処分に焦点を当て、関係する法律規定について詳しく解説いたします。
第5週	様々な行政活動（その3）行政立法	第5回目は、内閣が制定する政令、各省庁が制定する省令に焦点を当て、行政主体が、どのような条件下でルールを制定することができるかについて、具体例を挙げながら説明いたします。
第6週	様々な行政活動（その4）行政計画 その1	国や地方公共団体は将来に向けて各種計画（行政計画）を策定します。例えば都市計画法や都市再開発法などに従って策定される各種都市計画（市街地再開発計画や土地区画整理事業など）はその代表例です。第6回目と第7回目の授業では、行政が策定する様々な計画のうち、特
第7週	様々な行政活動（その5）行政計画 その2	第6回目の講義に引き続き、都市計画に関する法制度を説明します。
第8週	様々な行政活動（その6）行政指導 その1	国や地方公共団体は、行政目的を達成するため、私たち国民/市民に対し、様々な情報を提供し、国民/市民が自ら自発的に行動し（又はしない）よう働きかけを行うことがあります。こうした行政活動を一般に行政指導といいます。新型コロナウィルスが蔓延し始めた当初、感染拡
第9週	様々な行政活動（その6）行政指導 その2	第8回目の講義に引き続き、行政指導に焦点を当て、特に実際に起きた訴訟事例について説明します。
第10週	行政争訟制度概観 行政不服審査法 行政事件訴訟法	第10回目以降は、違法（又は不当）な行政活動によって、権利や利益を侵害された場合の救済方法について説明します。第10回目の授業では、行政救済制度の全体象と概略を説明します。
第11週	行政不服審査制度	第11回目の授業では、行政庁が違法または不当な行政活動を行った場合に、行政庁それ自身に対して不服を申し立てる制度（行政不服審査法が定める行政不服審査制度）について説明します。
第12週	行政事件訴訟制度その1 行政事件訴訟法の全体象	第12回目～第14回目の授業では、行政庁が違法な行政活動を行った場合に、裁判所に対して救済を求める仕組み（行政裁判の仕組み）について解説します。第12回目の授業では、行政事件訴訟法の全体象を外観します。
第13週	行政事件訴訟制度その2 抗告訴訟とは何か	第13回目の授業では、行政事件訴訟法第3条が定める抗告訴訟（違法な処分その他公権力の行使に関する不服の訴訟）につ焦点を当て、この抗告訴訟で攻撃しうる行政活動（行政処分とは何か）について説明します。
第14週	行政事件訴訟制度その3 抗告訴訟の原告適格その他	第14回目の授業では、抗告訴訟を提起することができる人が誰か（原告適格論）について、実際の裁判例を素材としながら解説します。
第15週	国家賠償制度	最終回となる第15回目は、違法な行政活動によって損害を被った者が、損害の金銭的賠償を求めて争う仕組み（国家賠償法が定める国家賠償請求訴訟）について解説します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	都市社会学						
担当教員	大島　有史	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

近年、都市を取り巻く情勢は急激に変化しています。国内的には少子高齢化が急激に進展する一方、ICT化やLCC（低廉な航空輸送会社）の登場により、ヒト・モノ・カネのボーダレス化が進み、グローバル化も同時に進行しています。本講義では、こうした日本を取り巻く環境の変化を踏まえ、今後の都市のあり方について理解し、考えることを身につけます。

到達目標

①　都市および都市を取り巻く環境の現状と課題について理解し、自ら考えることが出来る。
②　自らが今後生活していくであろう都市のあるべき姿について各自のビジョンを持てるようになる。
③　質問や意見等のディスカッションを通じて、個々人が主体的に考え、課題解決を行うことのできる能力が身につく。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーション スキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポートの採点	70		
授業内課題の提出	30		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

建設コンサルタントで働いて、まちづくりの仕事をしています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
街歩きをして、都市を実感し、課題や魅力について考えましょう。	30分～1時間/週

受講時の注意事項

積極的な質問や発言を期待しています。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	・本授業の基本的な進め方や学習方法について説明 ・授業内容について概要を説明 ・簡単な課題を授業内で提出
第2週	都市とは何か	・前回課題のフィードバック ・都市の定義について説明 ・簡単な課題を授業内で提出
第3週	都市社会学の誕生	・前回課題のフィードバック ・都市社会学の歴史 ・簡単な課題を授業内で提出
第4週	都市社会学の理論	・前回課題のフィードバック ・都市社会学の考え方 ・簡単な課題を授業内で提出
第5週	少子高齢化と都市	・前回課題のフィードバック ・少子化・高齢化がもたらす都市への影響を考える ・簡単な課題を授業内で提出
第6週	地域コミュニティ	・前回課題のフィードバック ・都市における地域コミュニティの重要性 ・簡単な課題を授業内で提出
第7週	情報化・グローバル化と都市	・前回課題のフィードバック ・情報化・グローバル化と都市の関係 ・簡単な課題を授業内で提出
第8週	中間レポートの作成	・レポートの解説
第9週	都市と観光	・課題のフィードバック ・レポートの考え方について ・都市と観光の関係性について
第10週	コンパクトシティ	・前回課題のフィードバック ・コンパクト化が与える都市への影響 ・簡単な課題を授業内で提出
第11週	都市計画の実態	・前回課題のフィードバック ・札幌市を中心に都市計画に実態の説明 ・簡単な課題を授業内で提出
第12週	都市と交通	・前回課題のフィードバック ・都市と交通の関係性 ・簡単な課題を授業内で提出
第13週	都市と土地利用	・前回課題のフィードバック ・都市と都市利用の関係性 ・簡単な課題を授業内で提出
第14週	都市と防災	・前回課題のフィードバック ・都市における防災の重要性 ・簡単な課題を授業内で提出
第15週	レポート作成	・前回課題のフィードバック ・レポートの解説（締め切り後にフィードバック予定） ・授業の振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	マーケティング応用						
担当教員	山田　政樹	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

マーケティング応用では、マーケティングが実際にどのように実践されているかを、ビジネスモデル、顧客関係、顧客理解、ブランドの観点から学ぶ。そのうえで、さらに現代的なマーケティングの広がりを学ぶ。

到達目標

① ビジネスモデル、顧客関係、顧客理解、ブランドのマネジメントにおける企業の対応の仕方について理解することができる。
② 市場への適応だけでなく、市場との対話をめざす新たなマーケティングの枠組みについて理解することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
到達度チェック（中間到達度チェック、最終到達度	40%		
課題	20%		
授業参加度	20%		
グループプレゼンテーション	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）『1からのマーケティング（第4版）』発行所：碩学舎/発売所：中央経済社、2019
ISBN：978-4-502-32771-1

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習として教科書の該当章を読み、整理し、自分の意見を考えておくこと。復習として授業内容のマーケティング理論と実際の商品例を紐づけて考え、整理しておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

予習、復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックは授業内に行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。なお本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域Ⅰ群に該当しています。マーケティング入門を受講し、マーケティングの基礎知識を有していることを

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	オリエンテーション　（授業の概要、成績評価方法、注意事項の説明）
第2週	第Ⅲ部 関係のマネジメント①	第10章 顧客関係のマネジメント（熱狂的ファンをつかむ「スノーピーク」）
第3週	第Ⅲ部 関係のマネジメント②	第11章 ビジネスモデルのマネジメント（タニタの製品開発とマーケティング）
第4週	第Ⅲ部 関係のマネジメント③	第12章 顧客理解のマネジメント（ファンとともに成長するマツダCXシリーズ）
第5週	ケーススタディ①	グループワーク①
第6週	ケーススタディ②	グループワーク②
第7週	ケーススタディ③	グループワーク③
第8週	中間到達度チェック	中間到達度チェック
第9週	第Ⅲ部 関係のマネジメント④	第13章 ブランド構築のマネジメント（グローバルブランドとしての「キットカット」）
第10週	第Ⅲ部 関係のマネジメント⑤	第14章 ブランド組織のマネジメント（コカ・コーラのスクリーンタイム・キャンペーン）
第11週	ケーススタディ④	グループワーク④
第12週	ケーススタディ⑤	グループワーク⑤
第13週	ケーススタディ⑥	グループワーク⑥
第14週	最終まとめ	最終まとめ
第15週	最終到達度チェック	最終到達度チェック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	スポーツの社会学						
担当教員	瀧澤　一騎	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 3712		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

社会における体育・スポーツの意義と現状を解説し、学校体育、地域スポーツ、スポーツビジネスに関するさまざまな問題を理解する。生涯スポーツ社会を実現していくための具体的方策を学ぶ。

到達目標

① 社会における体育・スポーツの意義や位置づけについて説明できる。
② 現代社会における体育・スポーツ分野の動向についての基本的な知識を述べることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
			4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・文化・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内レポート	60%		
積極的な授業姿勢（授業内での発言等）	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

スポーツ・身体活動に関する指導やコンサルタント、研究等を業務とする法人の運営・経営

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
テレビ、新聞、SNS、友人知人との会話などから多くの情報を蒐集してください。本授業に関わる情報（スポーツ、運動、健康、社会問題など）は、授業の前後で結びつけると学習効果が高まります。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

毎回必ずレポートを書いてもらいます。授業内では発言の機会をつくりますが、人と違った見方や意見は授業を刺激的な環境にしてくれます。ゆえに主体的な姿勢は高い評価となります。発言に対してはその授業時間内に、レポートに対しては次回授業時にフィードバックをします。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	オリエンテーションとして授業概要、評価方法、注意事項について説明
第2週	スポーツと体育	スポーツと体育の違い、それぞれの定義について説明
第3週	スポーツと体力	体力の定義や分類とスポーツとの関連について説明
第4週	体力測定の歴史	体力測定の歴史を通じて、社会におけるスポーツ観について考える
第5週	子供の体力とスポーツ	体力測定の結果を紹介し、子供の体力低下について議論する
第6週	部活とスポーツ	学校部活動とスポーツ振興について議論する
第7週	スポーツにおける集団内の役割	スポーツチームにおける役割分担とチーム内の社会について考える
第8週	スポーツにおける指導と動機付け	指導における動機づけと、個別の心理的変化が集団内の社会に及ぼす影響を議論する
第9週	指導とハラスメント	スポーツにおけるハラスメントの現状について考える
第10週	スポーツ選手の社会的評価	スポーツ選手の金銭的報酬等から、選手の社会的評価を議論する
第11週	スポーツとフェアネス	フェアネスの概念とスポーツのルールについて議論する
第12週	スポーツと帰属意識	スポーツが引き起こすナショナリズムを含めた帰属意識について考える
第13週	スポーツをする権利	スポーツをする権利やさせる義務はだれが負うのか考える
第14週	スポーツとメガイベント	スポーツのメガイベントが引き起こす問題について紹介する
第15週	まとめとふりかえり	授業を通じて学んだことを振り返る
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	公共政策論						
担当教員	仙波　希望	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 3714		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

現在、「新しい公共」という呼びかけとともに、行政・民間の二分論にとどまらない「公共」のあり方が模索されています。
しかしはたして「公共」とは一体何でしょうか。
またそれを構成する「多様性」とは果たしてどのような状況を指すのでしょうか。
本講義では図書館、給食、電車や寮といった――普遍的な――事象・経験から「公共」のありかたについて考え、
多様性をめぐる様々な逆説的状況について議論していきます。
そして「公共空間」における基本概念を整理したのち、世界中の至るところで建てられている――もしかすると見えない――「フェンス」の様相について考察します。

到達目標

【1】「公共」「多様性」に関する基礎的事項について説明できる。
【2】現代的な都市政策におけるさまざまな実践事例について批判的に議論することができる。
【3】「市民」という考え方を精査した上で、さまざまな公共施策を分析することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加の度合い（コメント・ディスカッション	30		
中間レポート	30		
最終レポート	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

広告企業でのコピーライター・ディレクター業務に従事。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内容に関連した資料は，事前に共有するので、必ず予習として熟読してくること。授業後は，内容を整理するとともに授業内レポートの復習を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・Google FormによるQ&Rシステムを活用する
・随時ショート＆ロングディスカッションの機会を設ける
・レポート執筆時におけるピアレビューを実施する

アクティブ・ラーニング情報

随時ショート＆ロングディスカッションの機会を設ける

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	(1)イントロダクション	公共空間、多様性をめぐって展開されてきた現象、理論などのアウトラインを確認し、この講義で考えていく課題を提示します。
第2週	(2)図書館と公共(1)	図書館は不特定多数の一般公衆の利用に供することを目的としています。この「公共」性を議論の糸口に、映像作品をつうじて、公共とは誰にとっての権利かを議論します。
第3週	(3)図書館と公共(2)	図書館は不特定多数の一般公衆の利用に供することを目的としています。この「公共」性を議論の糸口に、映像作品をつうじて、公共とは誰にとっての権利かを議論します。
第4週	(4)給食と公共(1)	みなが平等に食べる機会である「給食」。この「給食」について考えるところから、「公共」のあり方を問い直してみます。
第5週	(5)給食と公共(2)	車内での化粧は公共精神に反している、携帯電話の使用はお控えください、などきわめて「公共」的なる空間の電車／駅。この場所を題材に議論を展開します。
第6週	(6)電車／駅と公共(1)	車内での化粧は公共精神に反している、携帯電話の使用はお控えください、などきわめて「公共」的なる空間の電車／駅。この場所を題材に議論を展開します。
第7週	(7)電車／駅と公共(2)	マイノリティと日本人との「共生」が叫ばれるなかで、しかしそれは誰にとっての「共生(強制？)」なのか。多文化主義にまつわる問題系を考えてみます。
第8週	(8)中間レポート・ピアレビュー	中間課題のレポートを各自持参し、ピアレビューならびにディスカッションを行います。
第9週	(9)学生寮と公共(1)	とある大学学生寮の存廃に関する作品をもとに、自治と公共、そして「コミュニケーション能力」について議論します。
第10週	(10)学生寮と公共(2)	とある大学学生寮の存廃に関する作品をもとに、自治と公共、そして「コミュニケーション能力」について議論します。
第11週	(11)フェンスに争う(1)ジェントリフィケーションと対抗的公共圏	可視／不可視な「柵」をつうじて進展する人々の排除の動向を、公共の観点から捉え直します。
第12週	(12)フェンスに争う(2)クリエイティブ・シティとクィアの相克	可視／不可視な「柵」をつうじて進展する人々の排除の動向を、公共の観点から捉え直します。
第13週	(13)公共空間とは何か	ハンナ・アーレント、ユルゲン・ハーバーマス、ナンシー・フレイザーらの織りなす「論争」を簡潔に読み解きながら、パブリック（公共）／プライベート（私的・民間）の境界線を探り、ゲーテッド・コミュニティ、割れ窓理論、ゼロトレランス政策などから「公共空間」をめ
第14週	(14)最終レポート・ピアレビュー	最終課題のレポートを各自持参し、ピアレビューならびにディスカッションを行います。
第15週	(15)サマリー	講義全体の総括を行い、修正レポートを提出します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	商品開発論						
担当教員	金　鎔基	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

私たちの周りにある商品は、企業によって開発され市場に投入されたものです。企業は市場を分析して消費者ニーズを把握し、それに答えるヒット商品を開発しようと必死に競い合っています。しかしヒット商品を世の中に送り出すのは簡単ではありません。本講義では、商品開発が実際にどのようなプロセスでおこなわれているのか、そして商品開発をうまくやるために、理論や手法がどのように役立つのかを学びます。

到達目標

①商品開発のプロセスを基礎的な知識から理解し説明できるようになること。
②企業における商品開発の役割を認識し説明できるようになること。
③データーから商品開発における必要事項を読み取れるようになること。
④プレゼンテーションを通じて自分の言葉で商品を説明できるようになること。
⑤社会に出てから必要な商品開発に関する実行力を身につけること。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・文化・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験（授業内試験、中間試験）	50%		
課題	30%		
授業貢献度	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『1からの商品企画』	西川英彦／廣田章光	中央経済社	2012		その他の資料も授業中に適時配布します。

参考書等

なし。必要に応じて適時指定します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習として教科書の該当箇所を読み、整理し、自分の意見を考えておくこと。復習として授業内容の商品開発プロセスと実際の商品例を紐づけて考え、整理しておくこと。	2~3時間／週

受講時の注意事項

予習、復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックは授業中に行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション。第1章、商品企画のプロセス。	オリエンテーションで授業の全体像を説明し、商品開発のプロセスについて概説する。
第2週	（第1部　探索的調査）第2章　インタビュー法	新商品のアイデア創出の前段としての探索的調査、そのうちもっとも基本となるインタビュー法について解説し模擬実践を行います。
第3週	（第1部　探索的調査）第3章　観察法、第4章　リード・ユーザー法	探索的調査の別の手法である、観察法とリード・ユーザー法について解説します。
第4週	（第2部　コンセプトデザイン）第5章　アイデア創出	新商品のアイデア創出の諸手法について解説し模擬実践を行います。
第5週	（第2部　コンセプトデザイン）第6章　コンセプト開発、第7章　プロトタイピング	アイデアからコンセプトへの展開を解説し模擬実践を行います。 プロトタイピングについて解説します。
第6週	（第3部　検証的調査）第8章　市場規模の確認	新商品の市場規模を推定する方法を解説し模擬実践を行います。
第7週	（第3部　検証的調査）第9章　競合・技術の確認	新製品の市場、技術におけるポジショニングを確認する様々な手法を解説し、ポジショニングの模擬実践を行います。
第8週	（第3部　検証的調査）第10章　顧客ニーズの確認	顧客ニーズ確認のためのアンケート調査法などについて解説し、デスカッションを行います。
第9週	（第4部　企画書作成）第11章　販促提案	プロモーション・ミックス、新製品のメッセージ、メディアの組み合わせの提案について解説し、デスカッションします。
第10週	（第4部　企画書作成）第12章　価格提案	価格提案において顧慮される要素を解説し、模擬実践を行います。
第11週	（第4部　企画書作成）第13章　チャネル提案	ターゲット顧客と製品特性にあったチャネル選択を考えます。
第12週	（第4部　企画書作成）第14章　企画書作成（1）	商品開発活動の総まとめ 企画書の意味 作成の進め方とポイント
第13週	（第4部　企画書作成）第14章　企画書作成（2）	企画書作成の模擬実践
第14週	（第4部　企画書作成）第15章　プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションのポイント
第15週	（第4部　企画書作成）第15章　プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションの模擬実践
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	金融学						
担当教員	岩立　顕一郎	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 3322		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

わが国の経済は、今大きな転換期にあります。多くの学生のみなさんはこの環境の中でより良い社会の実現に向けて価値創造の活動を担っていくことになりますが、企業に所属するにしても、起業するにしても、個人として資産形成を行うにしても全ての取引の基本に金融があり、金融の理解が価値創造の鍵を握っています。本講義では、金融の基礎的な概念の理解を積み上げつつ、実際の地域社会の課題解決にどのように役立てるかを考えていきます。

到達目標

①金融の仕組みがどうなっているのか、基礎的な知識を理解し説明できること
②金融取引の特徴について、基礎的な知識を理解し説明できること
③地域の金融システムの全体像を理解し説明できること
④課題を通じて、金融システムと地域の課題を関連付けて理解することができ、課題解決に向けた基本的な提案ができること
⑤学んだ知識を通じて学生が自分のキャリアについて考え始めること
この科目は学科のディプロマポリシー（地域社会学科５）に対応しています。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
受講態度	15%		
事後課題	35%		
授業貢献度（発言・質問・発表など）	30%		
最終レポート	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

村瀬英彰　（2016）『新エコノミクス金融論　第2版』日本評論社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

1996年4月～現在　北海道労働金庫に所属　地域金融、ソーシャルファイナンス領域で活動
うち2015年～2018年　全国労働金庫協会へ出向　日本全体の労働金庫業界の事業運営に従事　対監督庁対応、ビジネスモデルの変革等に従事

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
基本的に毎時間、事前課題、事後課題の提出があります。ディスカッションやグループワーク、発表なども多いのでパソコン関連やプレゼン関連の授業を復習しておいてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

ディスカッションやグループワーク、発表なども多いので積極的に取り組んでください。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	Ⅰ　金融取引とは何か（オリエンテーション含む）	オリエンテーションで授業の全体像を説明し、金融取引とは何かを解説する。 [授業概要]
第2週	Ⅱ　金融取引と情報の不完全性	円滑な金融取引を妨げる要因の一つである情報の不完全性とは何かを解説する。 [授業概要]
第3週	Ⅲ　金融取引とその阻害要因（情報の不確実性）	円滑な金融取引を妨げる要因の一つである情報の不確実性とは何かを解説する。 [授業概要]
第4週	Ⅲ　金融取引とその阻害要因（契約の不完備性）	円滑な金融取引を妨げる要因の一つである契約の不完備性とは何かを解説する。 [授業概要]
第5週	Ⅳ　金融システム（１）市場中心の金融システム	金融取引が円滑に行われる上での問題点を解消する金融システムの全体像と市場中心の金融システムを解説する。
第6週	Ⅳ　金融システム（２）銀行中心の金融システム	金融取引が円滑に行われる上での問題点を解消する金融システムのうち銀行中心の金融システムを解説する。
第7週	Ⅴ　クラウドファンディングとは	近年では少子高齢化やIT技術の進展等、社会環境の急速な変化の中で、これまで説明してきた金融システムだけでは十分に機能しない問題が浮き彫りになっている。ここでは、インターネットを使った資金調達手法であるクラウドファンディングを解説する。
第8週	Ⅵ　ベンチャーキャピタルとは	日本の経済成長を牽引することが期待されるベンチャー企業（スタートアップを含む）、そしてこれを支えるベンチャーキャピタルについて解説する。
第9週	Ⅶ　地域経済における金融システムの役割（企業・自治体）	これまで金融システムの全体像を把握してきた。今回から実際の地域社会（北海道）において金融機関がどのような役割を発揮しているのかを学んでいく。
第10週	Ⅶ　地域経済における金融システムの役割（地域が抱える課題）	実際の地域社会（北海道）において金融機関がどのような役割を発揮しているのか具体的な事例から学ぶ。
第11週	Ⅶ　地域経済における金融システムの役割（地域が抱える課題）	実際の地域社会（北海道）において金融機関がどのような役割を発揮しているのか、個人にフォーカスして学んでいく。また、地域社会の課題の繋がりを考え、金融システムにおける企業に対する商品・サービス、個人に対する商品・サービスの提供がどのように関連するかを考
第12週	Ⅶ　地域経済における金融システムの役割（地域が抱える課題）	これまでの学びを活かして、地域社会（北海道）の今後の未来を予想し、金融機関がどのような役割や機能を果たしていくことが求められるのかをグループワークで学んでいく。また、第15週目にグループ毎にプレゼンテーションを行うため、計画的に取り組めるよう進め方を説明
第13週	Ⅶ　地域経済における金融システムの役割（地域が抱える課題）	金融機関がどのような役割や機能を果たしていくことが求められるのかの解決する課題の特定、銀行が行うビジネスモデルをどのように考えるのかポイントを解説しつつ、グループ毎の検討を継続する。
第14週	Ⅶ　地域経済における金融システムの役割（地域が抱える課題）	金融機関がどのような役割や機能を果たしていくことが求められるのかの解決する課題の特定、銀行が行うビジネスモデルをどのように考えるのかポイントを解説しつつ、グループ毎の検討を継続する。
第15週	Ⅷ　グループワーク発表と総括とまとめ	グループ毎の発表・質疑を行い、最後にこの講義を通じて何を学んで欲しかったかを解説する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	地域資源管理論						
担当教員	五味　宏	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 3331		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

地域資源とは何か。北海道が持っている「地域の風土」、「山」、「川」、「海」、「森」、「農地」、「水」、「雪」、「流氷」、「まつり」、「伝統技術」など、さまざまに利活用できる要素を指します。人々の生活を悩ませてきた強い風をエネルギーに変えて役立てることも新たな資源の創出です。また、地域を盛り上げようとする「人材」は、とりわけ重要な資源の一つです。本講義ではそうした地域資源の意義や特徴を理解し、講義の中での発言や提出文によって、表現する力を養います。

講師は、札幌テレビ放送（株）＝STV報道局の解説委員で、双方向＝インタラクティブな授業運営が基本です。STVが制作した番組「見たい！知りたい！北海道！」（2017年～2019年）を教材として使用し、それを講義の中で視聴して、北海道にある様々な地域資源を学びます。最終課題として、地域資源のテーマを１つ選んで、それを活かそうとする「人材」と「北海道の魅力」、「課題解決のアイデア」などをレポートにまとめます。このうち数人には、パワーポイントなどを活用して、最終講義で実際に発表していただきます。もちろん講師が事前に助言、指導するもので、発表は５分程度とします。【なお、番組の視聴など、授業の内容については変更する可能性があります。ご容赦願

到達目標

①地域に顕在する、あるいは潜在する、可視的あるいは不可視的な資源を発掘して明示化し、その資源の地域的および社会的な意義を明確に説明することができる。
②地域課題の解決を目的とした、既存の地域資源の利活用と新たな地域資源の創生により、地域社会の持続的発展の方法について、理解を深めることができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向け積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・文化・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
第９週、第１３週、第１５週の出席	１５%		
各回の課題提出と完成度（＝視点の評価）	５０%		
質疑応答と頻度	１５%		
最終課題の提出と完成度（＝視点の評価）	２０%		
（遅刻）	（減点）		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

札幌テレビ放送（株）報道局の解説委員として、どさんこワイド朝のレギュラーコメンテーターとして、毎週火曜日と水曜日にニュースの解説をしています。また、小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻（専門職大学院）ビジネススクールの講師として「ジャーナリストの視点からみた企業変革」（15コマ）を担当しています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で習得した情報に加えて、各回のテーマをインターネット等で調べて、北海道の地域資源の特徴や強みをノートに書きだして、理解を深めてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

本講義では、テレビ番組を見て感じたことや、地域資源を北海道の強みとしてどう生かすか、考える事がポイントです。
みんなと同じではなく、自分自身の意見や考え、独自の視点を持つことを高く評価します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	地域資源とは？【ガイダンス】	積丹町の崖っぷち温泉 【積丹の森・川・海】◎22年12月18日25日放送　五十嵐慎一郎さん、地域おこし協力隊　（積丹町）
第2週	【観光の可能性①】忍者	伊達時代村「登別・伊達時代村」（2017年5月27日　見たい！知りたい！北海道を視聴）
第3週	【観光の可能性②】ユースホステルの魅力	礼文島桃岩荘
第4週	【観光と聖地巡礼】	ゴールデンカムイ
第5週	【伝統と地域資源】	北大恵迪寮
第6週	【スポーツと地域資源】	東農大オホーツク野球部　強さの秘密
第7週	【スポーツと地域資源】	五輪選手、なぜ幕別町から多く育っているのかを考える
第8週	【ドローンと北海道】	ドローン　農業資源、観光資源にに生かす
第9週	【あなたの地域資源①】テーマを決めよう！	受講生それぞれの最終課題づくり（１回目） 講師と一緒に テーマと主人公を決める作業を行います。最終講義での発表が望ましいテーマかどうかの
第10週	【夏フェス】	ライジングサンに密着
第11週	【新千歳空港】	新千歳空港　行列の理由
第12週	【エゾシカ】	エゾシカ　ジビエ料理としての地域資源　食害、狩猟と流通を考える
第13週	【あなたの地域資源②】課題の内容を確認しよう！	受講生それぞれの最終課題づくり（２回目） 講師と一緒に、内容を固めていきます。 最終発表に臨む受講生は、パワーポイントの作り方、内容について
第14週	【雪と親しむ】	札幌雪まつりの「市民雪像」
第15週	【最終講義】発表とまとめ	受講生が最終課題を提出。 このうち数人がパワーポイントなどで発表してもらいます。 その後、講師が地域資源についてのまとめを行います。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ジェンダーの社会学						
担当教員	仙波　希望	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本講義では「実践」的な「ジェンダーの社会学」について学びます。

――たとえば、「女の子／男の子らしくしなさい」という言葉を耳にしたとき。
――「なぜランドセルは赤と黒ばかりだったの」と問われたとき。
――「ジェンダーレストイレ」はなぜ導入され、どうしてそれが議論の的となったかを考えるとき。
あなたは、どのような言葉を頭にうかべ、もしくは目の前の人にかけてあげることができるでしょう。
本講義ではフェミニズム／クィアスタディーズの基本的な概念や論点を共に学ぶことにより、いろんな「もやもや」を大事にしつつも、明確に自身の言葉を紡ぐための練習を行ってみたいとおもいます。

到達目標

【1】フェミニズムやクィアスタディーズにおける基本的な論点を理解することができる。
【2】現代社会におけるジェンダー的課題について議論することができる。
【3】広くジェンダーにまつわる諸問題に関して、自らの意見を涵養し、それを論理的に記述することができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

	学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加の度合い（コメント・ディスカッション	30		
中間レポート	30		
最終レポート	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

広告企業にてコピーライター・ディレクター業務に従事。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内容に関連した資料は，事前に共有するので、必ず予習として熟読してくること。授業後は，内容を整理するとともに授業内レポートの復習を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・Google FormによるQ&Rシステムを活用する
・随時ショート＆ロングディスカッションの機会を設ける
・レポート執筆時におけるピアレビューを実施する

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	イントロダクション	授業全体の流れや評価基準、この講義の目指すゴールについて共有します。
第2週	［はじめに］中絶から考える(1)	映像資料をもとに、「中絶」とフェミニズムをめぐる議論についてその歴史を学びます。
第3週	［はじめに］中絶から考える(2)	前回の講義で確認した論点をもとに、クラス全体での討議を行います。各々の議論を決して否定することなく、一体どのようなことを我々は考えるべきなのか、探ってみたいと思います。
第4週	［はじめに］中絶と生む／生まない権利	2・3での議論を総括するかたちで、現代におけるリプロダクティブ・ヘルス＆ライツや生殖テクノロジーのありかたについて考えます。自らの身体と社会規範や技術のありかたがいかにつながっているかについて、思考を深めてみましょう。
第5週	フェミニズム／ジェンダー概論(1)：「女」と「男」の二つ？	そもそも、どうして「女」と「男」なのでしょうか。それは一体誰のことを指すのでしょうか。自明とされるこの二分法を問うことから、フェミニズムの本質に迫っていきます。
第6週	フェミニズム／ジェンダー概論(2)：歴史と潮流――何が争点とされてきたのか	現在のフェミニズムの盛り上がりに先行して、第一波から第三波までのフェミニズムが存在したと語られます。この回では、こうしたフェミニズムの経験してきた歴史について概観します。
第7週	フェミニズム／ジェンダー概論(3)：家族の誕生と終焉	家族の歴史的変遷を概観し、近代家族の成立とその変容、さらには家族の多様化を、ジェンダーの視点から考えます。
第8週	中間レポート・ピアレビュー	中間レポートのピアレビューをクラス全体で実施します。
第9週	転向療法と脱同性愛運動という悲劇	1970年代にキリスト教団体を中心に始まった脱同性愛運動や同性愛者を対象にした転向療法。これがもたらした深い傷を、映像資料をもとに「直視」してみましょう。
第10週	LGBTQスタディーズ概論(1)：「最近LGBTQが増えてきたよね」の決定的誤謬	そもそも「LGBTQ＋」という言葉は一体「誰」のことを指しているのか。こうした言葉のもつポテンシャルと限界を学びます。
第11週	LGBTQスタディーズ概論(2)：歴史と概念	クィアスタディーズの意義を理解するために、ゲイ・レズビアンの権利回復運動の歴史、またそれにまつわるさまざまな理論的装置について議論します。
第12週	LGBTQスタディーズ概論(3)：カミングアウト／アウティングのポリティクス	カミングアウトすることの自由と権利、そして命にかかわる結果を招きかねないアウティング。この二つの極にあるものについて考えてみましょう。
第13週	LGBTQスタディーズ概論(4)：TERFと向き合う	Trans Exclusionary Radical Feminist（トランス排除的ラディカルフェミニスト）、通称TERF。2010年代以降世界に広がるこの不幸なフェミニズムとトランス排除の結合、その問題点について共に学んでみましょう。
第14週	最終レポート・ピアレビュー	最終課題のレポートを各自持参し、ピアレビューならびにディスカッションを行います。
第15週	サマリー	講義全体の総括を行い、修正レポートを提出します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	キャリアデザイン論Ｂ						
担当教員	和田　佳子	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 3901		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

社会の動きや労働環境の動向を捉え、社会人に求められる資質や能力についての理解を深めます。この時期は就職活動に向かう時期にかかることから、広く社会事象に関心を向けるとともに自己のキャリア形成を意識して、進路選択を具体的に考えていきます。生涯にわたる学びとキャリア形成の礎となる行動・思考の方法について学びます（ケーススタディ、グループディスカッションや面接トレーニングを含む）。

到達目標

①　労働環境・就業にまつわる用語を理解し、大学から社会に移行するための意識を高めることができる。
②　社会的事象に関心を持ち、新聞やニュース、白書等から情報を収集して考えることができる。
③　いかなる環境下でも、構成されたメンバーで建設的に話し合い解決策を導くことができる。
④　求職の仕組みを知り、就職活動のための具体的な準備・行動ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的な物の見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・介護・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業の参加態度	40%		
毎回の課題提出	20%		
最終課題	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、紹介します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は企業実務経験のある教員、産業カウンセラー・国家資格キャリアコンサルタント有資格の教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
資料を読む、情報を集めるなど提示された課題には必ず取り組んでください。	１時間から２時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

講義を聞くだけではなく、グループで話しあったり、発表する場面があります。自分の将来を真剣に考える態度、仲間と積極的に関わる姿勢を重視します。授業内のグループワークに積極的に参加しない、あるいは非協力的な姿勢が見られる場合には出席と認めないことがあります。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	・授業の進め方、参加の仕方、評価の視点 ・到達目標の確認
第2週	働き方の変化と就業のしくみ（1）	・複雑化する労働の世界とキャリアデザイン ・職業選択の新たな視点、様々なキャリア ・離職と転職、キャリア形成の考え方
第3週	働き方の変化と就業のしくみ（2）	・自分に合った職業とは何か（職業適性検査から） ・ジョブカードの活かし方 ・就職活動と大学教育（就職活動までに準備すること身につけておきたいチカラ）
第4週	働き方の変化と就業のしくみ（3）	企業経営のしくみ（経営理念とIR情報） 企業内訓練・研修の仕組み（昇進と昇格、異動と配置転換の意味） ワークライフバランスとは（労働時間と休暇、福利厚生制度の今後）
第5週	企業情報の入手方法	業界研究・企業研究① ・求人の仕組み（求職と求人） ・情報収集のツールとルート
第6週	就職活動に向けて（1）	・就職面接の色々 ・面接トレーニング ・就職活動に伴うビジネスマナー
第7週	就職活動に向けて（2）	・グループディスカッションの進め方・参加の仕方 ・グループディスカッション実践
第8週	ケーススタディ（1）	・対人応答業務 ・電話応対事例検討
第9週	ケーススタディ（2）	・文書作成業務 ・契約書のチェック ・広報文など
第10週	ケーススタディ（3）	・企画・提案業務 ・市場調査から
第11週	課題解決ワーク①企画・立案から運営まで	グループワーク（演習）
第12週	課題解決ワーク②企画・立案から運営まで	グループワーク（演習）
第13週	課題解決ワーク③企画・立案から運営まで	グループワーク（演習）
第14週	課題の発表	発表と評価
第15週	課題の発表 授業の振り返りとまとめ	振り返りと到達度チェック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	都市計画論						
担当教員	仙波　希望	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 3717		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

1961年、『アメリカ都市の生と死』と題した、一人の「アマチュア主婦」の手による書籍が世界を席巻しました。
荒廃の進み、さまざまな再開発計画の進展するニューヨークを舞台に書かれたこの本は、著者のもつ鋭敏な観察眼から都市の生態系を生々と描き出しながらも、明確な「反―都市計画」を掲げます。

本講義では、都市研究の視点や論点を整理した上で、都市計画をめぐる多様な実践を検討し、英米圏と日本で長年にわたってなされてきた「都市」にまつわる「論争」――クリエイティブシティ論をめぐる問題系――を取り上げることで、「都市計画」の射程を展望したいと思います。

到達目標

【1】都市をめぐる様々な事象を把握するための理論的展開を理解する。
【2】都市計画とスラムクリアランスの間に存在するさまざまな課題についての知識を身につける。
【3】現代の都市における課題を説明することができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・介護・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への参加の度合い（コメント・ディスカッション	30		
中間レポート	30		
最終レポート	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

広告企業にてコピーライター・ディレクター業務に従事。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内容に関連した資料は，事前に共有するので、必ず予習として熟読してくること。授業後は，内容を整理するとともに授業内レポートの復習を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・Google FormによるQ&Rシステムを活用する
・随時ショート＆ロングディスカッションの機会を設ける
・レポート執筆時におけるピアレビューを実施する

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	イントロダクション―都市を問う	本講義全体にかかわる都市計画に対する「問い」を開示し、全員で議論してみます。
第2週	現代の都市問題――ジェントリフィケーションを事例に(1)	なぜ都市を計画する必要があるのか。インド・ムンバイを舞台とする表象作品をもとに、「アンダー・コントロール」下の都市がむしろ人間を排除していく様について考え、議論します。
第3週	現代の都市問題――ジェントリフィケーションを事例に(2)	なぜ都市を計画する必要があるのか。インド・ムンバイを舞台とする表象作品をもとに、「アンダー・コントロール」下の都市がむしろ人間を排除していく様について考え、議論します。
第4週	シカゴとアーバニズム	20世紀初頭、「ホワイトシティ」シカゴではじまった都市への探究を紐解き、都市研究のはじまりを学びます。
第5週	コミュニティと郊外	当たり前のものと思われる「コミュニティ」。そこから生まれる利点、もしくは問題を、都市・地域・郊外といった側面から考えてみましょう。
第6週	ボランティアと都市復興	ボランティア活動を軸に、被災地域の都市復興における市民の果たす役割、連携プロセス、成功事例と課題を多角的視点から議論します
第7週	都市から生まれる文化	伝統的消費都市・金沢、そしてファッションの街として有名な「裏原宿」を題材に、都市の文化生産の側面について考察します。
第8週	中間レポートピアレビュー	中間課題のレポートを各自持参し、ピアレビューならびにディスカッションを行います。
第9週	現代の都市を計画する(1)	なぜ都市を計画する必要があるのか。インド・ムンバイを舞台とする表象作品をもとに、「アンダー・コントロール」下の都市がむしろ人間を排除していく様について考え、議論します。
第10週	現代の都市を計画する(2)	なぜ都市を計画する必要があるのか。インド・ムンバイを舞台とする表象作品をもとに、「アンダー・コントロール」下の都市がむしろ人間を排除していく様について考え、議論します。
第11週	クリエイティブシティ論とは何か(1)	都市政策の世界的な柱の一つとなっているクリエイティブシティ論。2006年3月には、「創造都市さっぽろ宣言」もなされています。こうした施策の内実や含意を、2回にかけて講義します。
第12週	クリエイティブシティ論とは何か(2)	都市政策の世界的な柱の一つとなっているクリエイティブシティ論。2006年3月には、「創造都市さっぽろ宣言」もなされています。こうした施策の内実や含意を、2回にかけて講義します。
第13週	都市の危機？	クリエイティブシティ論の提唱者リチャード・フロリダは、「The New Urban Crisis」という著作を刊行し、自らの学説の軌道修正を図っています。なぜフロリダは考えを改めたのか、都市問題の現在を題材にに、議論してみたいと思います。
第14週	最終レポート・ピアレビュー	最終課題のレポートを各自持参し、ピアレビューならびにディスカッションを行います。
第15週	サマリー	講義全体の総括を行い、修正レポートを提出します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	コミュニティビジネス論						
担当教員	井門　正美	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 3322		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

コミュニティビジネスとは、地域住民やその関係者が当該地域の問題・課題を解決するために、商品やサービスを提供しその地域の発展を促す事業活動です。地域の人材や施設、資源、ノウハウ等を活用することにより、地域における創業・雇用創出、自己実現や働きがい・生き甲斐を醸成し、当該地域の活性化に寄与します。
これまでチェーン店や大型店が全国各地に建ち並ぶような画一化されたグローバルビジネスとは一線を画し、地域住民がその地域の歴史文化、風土や暮らしにあった町づくりを推進するところに特色があります。
この講義では、コミュニティビジネスの理論と実践について、特に授業者が提案する「役割実践法(役割体験学習)」を基軸として、コミュニティビジネスについて、体験的・協働的な学びを展開します。

到達目標

①コミュニティビジネスの基礎的な知識を身に付け、その特色を理解できる。
②コミュニティビジネスの事例紹介を聞いて、地域的問題・課題解決を図るビジネスの特色を捉える。
③北海道におけるコミュニティビジネスについて、関心のある事例を選定し、スライドによるプレゼンテーションを行う。
④役割実践法(役割体験学習)の理論と実践について理解することができる。
⑤コミュニティビジネス起業ゲーミングを通して、コミュニティビジネスの担い手としての基礎基本を身に付ける。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
受講態度	20%		
受講記録カードへの記入	20%		
プレゼンテーション（その1「事例紹介」、その2「起	30%		
最終レポート	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『実践キャリアアップ教育増補電子版』	井門正美	NSK出版	2022	9784921102258	電子版(使用権)

参考書等

細川信孝（2010）『新版コミュニティ・ビジネス』学芸出版社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

授業者は、(株)Ido Airの運営に携わり、ドローンを活用した地域創造事業を展開し、地域学習力・活力の向上をめざす事業を推進している。
また、Ido Creative Lab.(井門創造研究所)の代表を務め、地域住民の協働的学びによる地域活性化対策の提案方法追究している。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業では、毎時、受講記録カードへの記入を行い、授業での学び、感想や意見、疑問や質問等を記録します。この記録は、受講者の学びの履歴すなわちポートフォリオになります。この受講記録カードをしっかり仕上げて、復習と予習を行ってください。	2~3時間程度／週

受講時の注意事項

体験・ワークショップ、プレゼンテーション、討議等が多いので積極的に取り組んでください。
なお、本講義は、3年次生の講義であることを前提に内容と展開を構想したものです。実際には、受講者の人数や実態に応じて講義内容やその展開を変更することもあります。

アクティブ・ラーニング情報

ディスカッションやグループワーク、発表なども多いので積極的に取り組んでください。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、コミュニティビジネスの要点と概要	[授業概要] 講義受講の仕方や評価等について説明し、学習の見通しを持たせる。 コミュニティビジネスとは何か。その要点と概要について解説する。
第2週	コミュニティビジネスの歴史的背景	[授業概要] コミュニティビジネスとは造語であるが、どのような歴史的背景から登場したのか、ソーシャルビジネスとの相違に触れつつ、国の施策について解説する。
第3週	コミュニティビジネスの事例紹介	[授業概要] わが国におけるコミュニティビジネスを類型化し、類型ごとに代表的な事例を紹介する。 コミュニティビジネスの観点[地域的問題・課題とビジネス領域・類型、ビジネスプラン(商品
第4週	北海道におけるコミュニティビジネスを紹介しよう1	[授業概要] 北海道のコミュニティビジネスについて調べ、その中から特に関心のあるものについてパワーポイントでまとめ発表する。
第5週	北海道におけるコミュニティビジネスを紹介しよう2	[授業概要] 北海道のコミュニティビジネスについて調べ、その中から特に関心のあるものについてパワーポイントでまとめ発表する。
第6週	北海道におけるコミュニティビジネスを紹介しよう3	[授業概要] 北海道のコミュニティビジネスについて調べ、その中から特に関心のあるものについてパワーポイントでまとめ発表する。
第7週	コミュニティビジネスの起業家になって、企画案を提案しよう1	[授業概要] 自身の出身地や居住地等でコミュニティビジネスを始める起業家になって企画案を発表して、資金を獲得する。
第8週	コミュニティビジネスの起業家になって、企画案を提案しよう2	[授業概要] 対象地域を決め、この地域の社会的問題や課題を捉え、必要とされるコミュニティビジネスを考える。
第9週	コミュニティビジネスの起業家になって、企画案を提案しよう3	[授業概要] 起業するコミュニティビジネスを決定し、形式にそって企画案作りを行う。その1 [ビジネスプラン(商品・サービス・事業計画)、ビジネス展開等]
第10週	コミュニティビジネスの起業家になって、企画案を提案しよう4	[授業概要] 起業するコミュニティビジネスを決定し、形式にそって企画案作りを行う。その2 [ビジネスプラン(商品・サービス・事業計画)、ビジネス展開等]
第11週	コミュニティビジネスの起業家になって、企画案を提案しよう5	[授業概要] 起業するコミュニティビジネスを決定し、形式にそって企画案作りを行う。その3 [ビジネスプラン(商品・サービス・事業計画)、ビジネス展開等]
第12週	コミュニティビジネスの起業家になって、企画案を提案しよう6	[授業概要] 起業するコミュニティビジネスを決定し、形式にそって企画案作りを行う。その4 [ビジネスプラン(商品・サービス・事業計画)、ビジネス展開等]
第13週	コミュニティビジネスの起業家になって、企画案を提案しよう7	[授業概要] コミュニティビジネスの起業家として企画案をパワーポイントで発表し、拝聴者の賛同(資金)をどれだけ多く得られるか競う。
第14週	コミュニティビジネスの起業家になって、企画案を提案しよう8	[授業概要] コミュニティビジネスの起業家として企画案をパワーポイントで発表し、拝聴者の賛同(資金)をどれだけ多く得られるか競う。資金獲得結果の発表と評価
第15週	講義のまとめと課題提示・評価について	[授業概要] 講義のまとめを行う。レポート課題について説明し、評価評定について確認する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ベンチャー経営論						
担当教員	金　鎔基	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

こんにちの世界ではデジタル技術の利用やグローバル化が進んだ影響で、起業家によって率いられた革新的な事業が瞬く間に大きな売り上げを上げるようになり、大きな社会的なインパクトを及ぼす企業も目立つようになった。しかし日本では、国際的にみてベンチャースピリットがあまり強くなく、起業率も低いとされており、若い世代向けのベンチャー経営教育は欠くことのできない重要課題になっている。本講義では、事業のアイデアを実際に起業にまで結びつけ、ステークホルダーを説得し、人材を獲得するところまで、現実の起業の流れに沿って学習していく。

到達目標

1つ、起業活動の重要性を理解し、関心を持つようになる。
2つ、起業プロセスと必要要素を理解するようになる。
3つ、周囲の起業現象や事例に気づき、観察するようになる。
4つ、ビジネス全般に対する関心と学習能力が高まる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
○	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学期末試験（授業内試験、中間試験）	50%		
課題	30%		
授業貢献度	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『ベンチャー経営論ーはじめての経営学』	長谷川博和	東洋経済新報社	2018		

参考書等

なし。必要に応じて適時指定します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習として教科書の該当箇所を読み、グループワークなどに備えておくこと。復習として毎回の授業内容に沿ってグループワーク結果などを整理しておくこと。	2～3時間/週

受講時の注意事項

予習、復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ベンチャー企業とは何か	ベンチャー企業の意義、講義の全体像を紹介。毎回、できる限りグループワークを盛り込むなどの進行を説明。
第2週	経営理念とは何か	どのように爆発するネタを仕入れるか、スタートラインとなるのが経営理念。
第3週	ビジネスアイデア	新しいビジネスアイデアをどのように見つけるか。
第4週	仮説検証	仮説の検証は何か。
第5週	ビジネスモデル	ビジネスモデルをどのように創出するのか。
第6週	経営チーム	最良の経営チームをどのように構築するのか。
第7週	差別化	ライバルとどのように差別化するのか。
第8週	資金調達	資金調達をどのように行うのか。
第9週	ビジネスプラン	ビジネスプランをどのように作成するのか。
第10週	支援者	支援者にはどのような人がいるのか。
第11週	キャッシュ・フロー	キャッシュ・フローをいかに厳密に管理するか。
第12週	大企業との関係	大企業といかにネットワークを強めるか。
第13週	株式公開	株式公開・M＆Aをいかに成し遂げるか。
第14週	ビジネスプランコンテスト	ビジネスプランコンテストで優勝するには。
第15週	リスク・リターン	リスク・リターンの適正な活力ある社会の構築へ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会調査法演習						
担当教員	遠山　景広	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SC-MS 3221		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「社会調査論（質的調査）」及び「社会調査論（量的調査）」「アンケート作成法」で学んだ、社会についての情報の収集と分析のための基礎知識をもとに、調査の企画、実施、分析の過程を実際に体験しながら、具体的な調査の実施方法を身につける。
　調査及び分析の結果をまとめ、適切な形で報告するための能力を身につける。

到達目標

①　社会的な課題と自らの関心を連動させた調査目的を設定することができる
②　自分の問題関心を掘り下げ、調査目的に即して具体的な仮説と調査内容を企画することができる
③　調査目的と内容に沿った実査・分析方法を理解し、実践することができる
④　①~③を踏まえ、調査結果を適切な形で報告し、考察に結び付けて報告書としてまとめることができる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
○	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーション スキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・文化・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
調査報告書の作成	50%		
授業への取り組み・演習課題の提出状況	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します
なお、社会調査論(量的・質的)、アンケート作成法などの社会調査関係の授業で使用・提示された資料は、予復習時の参考になります

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
①本演習は各自の問題関心が基礎となるため、関心領域についての疑問点の整理、関連資料の収集を進めておくこと ②その他毎回の授業に合わせた具体的な学習事項については、上記「授業計画」欄の各週の内容の【　】内に記載	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

①本科目は、「社会調査実務士」および「社会調査アシスタント」を取得するための指定科目領域III群に該当しています
②本科目は「社会調査入門」、「社会調査応用」、「アンケート作成法」を全て修得していることが履修条件です
③毎週、個人・グループでの課題や作業があるので欠席の場合は早めに作業内容の確認を行い、翌週に備えること

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業概要とスケジュール説明 調査したい分野の候補を考え、先行研究・調査を探索する 前期のスケジュール、及び各回で予想される作業について確認する
第2週	調査目的と調査手法	調査目的に沿った調査方法の検討 様々な調査手法とその特徴を復習しつつ、自分の関心領域の調査をどのように進めるかイメージ作りを進める
第3週	社会調査の企画①	ブレーンストーミングと調査テーマの設定 2週目の内容を踏まえ、調査したい分野を確定し先行研究を探索する
第4週	社会調査の企画②	調査内容の具体化と仮説構築 調査目的を設定し、概念・変数の使い分けの復習を踏まえ目的に即して仮説を構築する
第5週	社会調査の企画③	調査項目の検討 仮説の検証に必要な項目を導出する
第6週	社会調査の企画④	質問文の作成 質問及び回答選択肢を作る際の注意事項を確認し、注意事項を踏まえて調査項目を適切な質問・回答選択肢を作成する
第7週	社会調査の企画⑤	依頼文の作成 調査倫理について復習し、調査倫理を踏まえて適切な調査依頼文を作成する
第8週	社会調査の企画⑥	調査票の完成 全員で質問文、回答選択肢、依頼文、調査票全体の構成を確認し、実査に入る準備を完了させる
第9週	調査データの分析①	データ入力 得られた回答を入力する―データベース作成における注意事項を確認する
第10週	調査データの分析②	コーディング・クリーニング／データベース作成 第9週の内容を踏まえ、データのコーディング・クリーニング等を実施し、データベースを完成させる
第11週	調査データの分析③	分析方法・検定の確認 データの形に合わせた分析方法と統計的検定の意味を確認し、疑似データを用いて分析を実施してみる
第12週	調査データの分析④	分析の実施 データの形に合わせ、それぞれの仮説に合わせて実際のデータを分析し結果を適切に文章化する
第13週	調査データの分析⑤	調査結果の図式化と解釈 得られた調査結果を見やすく表現する技術を確認し、データの形に合わせた適切な図表を作成する
第14週	報告書の作成	調査報告書の作成と発表会準備 主要な調査結果を文章化し報告書原稿を作成しつつ、次週の報告会で使用するプレゼンテーションの準備を進める
第15週	調査報告会	調査結果の発表、総括・講評 各自の調査結果についてプレゼンテーションを行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	インターンシップ実践						
担当教員	和田　佳子	配当年次	3年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

インターンシップ実習に参加することによって進路・職業選択に向けて視野を広げることを目的とします。主に夏季休暇期間を利用して、自分が興味のある企業・団体で職業体験を行います。事前準備7コマ、職業体験、報告書の作成と報告会参加をもって単位認定します。
※感染症等の状況によっては、対面による現場実習ができない場合は、ウェブ型インターンシップへの参加または、学内インターンシップなどに切り替えることがあります。

到達目標

① インターンシップ実習に主体的に参加することを通して働くことの現実を理解し、職業観の構築につなげられる。
② 大学で学んでいることが、実際の仕事現場でどのようにつながり、活かせるのかを認識できる。
③ 実習先での経験を通して自己の課題に気づき、その後の大学生活の過ごし方に反映できる。
④ 目上の人たちとのかかわりの中で、コミュニケーション能力やマナーの重要性を認識できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スタディなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
事前指導の受講状況と課題提出	30%		
実習参加	40%		
レポート提出・報告会参加	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は企業実務経験のある教員、産業カウンセラー・国家資格キャリアコンサルタント有資格の教員が担当します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
実習参加に向けて入念な下調べと準備を行ってください。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

事前指導でしっかり学び、実習先では勝手な行動を慎み、社会人としてのルール・マナーを守ってください。
企業・団体における職業体験をアクティブ・ラーニングとして実施します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	インターンシップ実習までの流れ 受講のルール・注意事項 評価の仕方
第2週	インターンシップに参加するための事前講座（1）	事前準備とホウ・レン・ソウ 受け入れ先企業検索（業界・業種・企業）
第3週	インターンシップに参加するための事前講座（2）	事前準備とホウ・レン・ソウ 受け入れ先企業検索（業界・業種・企業）
第4週	インターンシップに参加するための事前講座（3）	事前準備とホウ・レン・ソウ 自己紹介書の作成
第5週	インターンシップに参加するための事前講座（4）	事前準備とホウ・レン・ソウ ビジネスルールとマナーの確認
第6週	インターンシップに参加するための事前講座（5）	事前準備とホウ・レン・ソウ 書く・話すことにまつわるマナー
第7週	インターンシップに参加するための事前講座（6）	事前準備とホウ・レン・ソウ 参加体験者から学ぶ
第8週	インターンシップ実習（職業体験）	各実習先における活動（実習内用を日誌に記載）
第9週	インターンシップ実習（職業体験）	各実習先における活動（実習内用を日誌に記載）
第10週	インターンシップ実習（職業体験）	各実習先における活動（実習内用を日誌に記載）
第11週	インターンシップ実習（職業体験）	各実習先における活動（実習内用を日誌に記載）
第12週	インターンシップ実習（職業体験）	各実習先における活動（実習内用を日誌に記載） ・活動終了後に担当教員に報告し、実習日誌等の必要書類を提出する。
第13週	事後指導	・インターンシップ体験を共有。職場体験をその後の大学生活および進路選択にどのように活かすかを考える。
第14週	インターンシップ報告書の作成・報告会の開催	報告書の作成と提出 報告会の開催
第15週	まとめ	まとめとフィードバック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法Ⅶ（主専攻・ピアノ）（谷本先生）						
担当教員	谷本　聡子	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	PI-MS 4107		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ演奏の基礎であるテクニックの習得と作品解釈の基礎になる読譜力の向上を目指す。
バロック、古典、ロマン、近現代の各時代の曲の構成、楽譜の読み取り方を研究する。
個人指導のレッスン形式で、それぞれの技術、経験に応じた選曲をする。

到達目標

ピアノテクニックの研鑽と多様な様式での楽曲表現が習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとらわれず視野を広く持つとともに、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実技試験	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

各自の課題にあった楽譜を用意すること。原則的に「原典版」を使用する。
使用楽譜以外にもう一部楽譜を用意すること（コピー譜可）。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の演奏を聴き、その経験を知り個々の学生に合った課題を与え、次週からの学習計画を練る
第2週		数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る①
第3週		数曲を読譜、分析をして多くの曲を知る②
第4週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする①
第5週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする②
第6週		各時代の表現を楽譜から正確に読み取り音にする③
第7週		暗譜で演奏できるようにする①
第8週		暗譜で演奏できるようにする②
第9週		自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする①
第10週		自分の表現を音で実現させるための技術的研鑽をする②
第11週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める①
第12週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める②
第13週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める③
第14週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める④
第15週		実技試験にむけ、選択した曲の演奏技術の向上、表現力の深化に努める⑤
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究(ピアノ)						
担当教員	鎌倉　亮太／谷本　聡子／外山　啓介	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	PI-MS 4001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

大学での学びの集大成として、専攻実技にかかわるテーマを各自で設定し、それぞれ望ましい手法で研究を深め、最終的には研究発表を行います。演奏を専攻する学生はコンサートやリサイタルを行うことを想定したプログラム作成と演奏研究を行い、社会において自らの芸術性を発信する際に必要なことを身につけます。

到達目標

①社会における音楽家としてのあり方を考えることができる。
②自らの課題に向き合い追求する強い意思を持ち、解決に向けて自立的に努力できる。
③卒業後の芸術活動を展開する上で必要な手法を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
前期の成果	30%		
後期の成果	70%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。ただし履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。』					

参考書等

なし。授業内で適宜指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は演奏家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
執筆、調査や練習などは基本的に授業時間外に行って下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

詳細な授業計画については各自の研究内容によって詳細を変更することがあります。また、授業計画に変更がある場合には、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要の説明、研究方法の説明
第2週	先行事例の調査①	先行事例の調査方法を知る
第3週	先行事例の調査②	先行事例の調査をする
第4週	先行事例の調査③	先行事例の読み方を知る
第5週	先行事例の調査④	先行事例からフォーマットを読み解く
第6週	研究テーマの設定①	研究テーマの概要を検討する
第7週	研究テーマの設定②	研究テーマに必要な情報を収集する
第8週	研究テーマの設定③	研究の発表方法や媒体を決定する
第9週	研究テーマの設定④	研究方法を検討する
第10週	研究テーマの設定⑤	研究テーマを設定する
第11週	作成①	発表する媒体の構成を決定する
第12週	作成②	資料を集める
第13週	作成③	資料を整理する
第14週	作成④	補足する部分の調査や執筆を行う
第15週	作成⑤	校正・完成
第16週	研究発表に向けた準備①	発表方法についてのガイダンス
第17週	研究発表に向けた準備②	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第18週	研究発表に向けた準備③	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第19週	研究発表に向けた準備④	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第20週	研究発表に向けた準備⑤	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第21週	研究発表に向けた準備⑥	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第22週	研究発表に向けた準備⑦	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第23週	研究発表に向けた準備⑧	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第24週	研究発表に向けた準備⑨	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第25週	研究発表に向けた準備⑩	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第26週	研究発表に向けた準備⑪	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第27週	研究発表に向けた準備⑫	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第28週	研究発表に向けた準備⑬	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第29週	研究発表に向けた準備⑭	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第30週	研究発表	

授業科目	実技演奏法Ⅶ（主専攻・声楽）（三山先生）					
担当教員	三山　博司	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数	
		ナンバリング	VM-MS 4107		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

まず、基本的な呼吸法、発声法を学ぶ。
正しい立ち方から始まり、声の出し方等、声楽に必要な訓練を徹底的に行う。
教材としては声質やレヴェルに適った教材を用い、時間をかけて学習する。
伴奏は学生が担当し、併せて伴奏指導も行う。

到達目標

① 「実技演奏法Ⅰ（主科・声楽）」
声楽学習の基本であるイタリア古典歌曲を正しい発音と発声で、詩の内容を適切に表現することを目指す。
② 「実技演奏法Ⅱ（主科・声楽）」以降
様々な楽曲をそれぞれの時代の適切な音楽スタイルで演奏できるようにする。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実技試験：実技試験の評価は、複数の採点者の素点を	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

コンコーネ等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

北海道内で活躍する演奏家が指導します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。	1時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、個人レッスンのため各々の状況をみて適宜判断し進行していきます。
試験曲の提出については、クラスルーム等で連絡します。必ず確認し、事前に担当教員へ相談のうえ提出してください。
年に2回程度、特別講義（レッスン）を開講します。日程は事前に連絡しますので必ず出席してください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス・声質確認・課題の提示	学生の声を聴き、その声質やレヴェルに適った教材を選択して課題を与え、次週からの学習計画を示す
第2週	学習①	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける①
第3週	学習②	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける②
第4週	学習③	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける③
第5週	学習④	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける④
第6週	学習⑤	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑤
第7週	学習⑥	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑥
第8週	学習⑦	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑦
第9週	学習⑧	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑧
第10週	学習⑨	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑨
第11週	学習⑩	個人に合った曲を選び、正しい発音や発声を含めた楽曲を表現するのに必要なテクニックを身につける⑩
第12週	学習のまとめ・試験準備	それまでに学んだ楽曲を歌い、その中から試験曲として１曲を選ぶ
第13週	試験学習①	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する①
第14週	試験学習②	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する②
第15週	試験学習③	試験曲を詩の内容に即した表現ができるよう音楽的レベルの向上に取り組み、暗譜で演奏する③
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究(声楽)						
担当教員	針生　美智子／三山　博司	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	VM-MS 4001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

大学での学びの集大成として、専攻実技にかかわるテーマを各自で設定し、それぞれ望ましい手法で研究を深め、最終的には研究発表を行います。演奏を専攻する学生はコンサートやリサイタルを行うことを想定したプログラム作成と演奏研究を行い、社会において自らの芸術性を発信する際に必要なことを身につけます。創作を専攻する学生は自作品の完成度を高めるとともに、それを社会に向けて発表するためにもっとも望ましい手法を身につけます。

到達目標

①社会における音楽家としてのあり方を考えることができる。
②自らの課題に向き合い追求する強い意思を持ち、解決に向けて自立的に努力できる。
③卒業後の芸術活動を展開する上で必要な手法を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
前期の成果	30%		
後期の成果	70%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は演奏家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
制作や執筆、調査や練習などは基本的に授業時間外に行って下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

詳細な授業計画については各自の研究内容によって詳細を変更することがあります。また、授業計画に変更がある場合には、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要の説明、研究方法の説明
第2週	先行事例の調査①	先行事例の調査方法を知る
第3週	先行事例の調査②	先行事例の調査をする
第4週	先行事例の調査③	先行事例の読み方を知る
第5週	先行事例の調査④	先行事例からフォーマットを読み解く
第6週	研究テーマの設定①	研究テーマの概要を検討する
第7週	研究テーマの設定②	研究テーマに必要な情報を収集する
第8週	研究テーマの設定③	研究の発表方法や媒体を決定する
第9週	研究テーマの設定④	研究方法を検討する
第10週	研究テーマの設定⑤	研究テーマを設定する
第11週	作成①	発表する媒体の構成を決定する
第12週	作成②	資料を集める
第13週	作成③	資料を整理する
第14週	作成④	補足する部分の調査や執筆を行う
第15週	作成⑤	校正・完成
第16週	研究発表に向けた準備①	発表方法についてのガイダンス
第17週	研究発表に向けた準備②	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第18週	研究発表に向けた準備③	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第19週	研究発表に向けた準備④	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第20週	研究発表に向けた準備⑤	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第21週	研究発表に向けた準備⑥	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第22週	研究発表に向けた準備⑦	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第23週	研究発表に向けた準備⑧	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第24週	研究発表に向けた準備⑨	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第25週	研究発表に向けた準備⑩	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第26週	研究発表に向けた準備⑪	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第27週	研究発表に向けた準備⑫	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第28週	研究発表に向けた準備⑬	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第29週	研究発表に向けた準備⑭	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第30週	研究発表	研究発表

授業科目	実技演奏法Ⅶ（主専攻・管弦打楽）（大隅先生）					
担当教員	大隅　雅人	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	OI-MS 4107		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。伴奏付きのレパートリーによりピアニストとのコミュニケーションやアンサンブル能力を習得。

到達目標

基礎と演奏能力を習得できる。日々のレッスンから指導方法を学び、指導者としてのスキルも身につける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実技試験。実技試験の評価は、複数の採点者の素点を	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。ただし履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日練習を積み重ねてレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。原則楽器は個人持ちとする。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。管弦打楽コースのみ履修可。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える
第2週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する①
第3週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する②
第4週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③
第5週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④
第6週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤
第7週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥
第8週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦
第9週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する①
第10週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する②
第11週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③
第12週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④
第13週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤
第14週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥
第15週		まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究(管弦打楽)						
担当教員	大隅　雅人／河野　泰幸	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	OI-MS 4001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

大学での学びの集大成として、専攻実技にかかわるテーマを各自で設定し、それぞれ望ましい手法で研究を深め、最終的には研究発表を行います。演奏を専攻する学生はコンサートやリサイタルを行うことを想定したプログラム作成と演奏研究を行い、社会において自らの芸術性を発信する際に必要なことを身につけます。創作を専攻する学生は自作品の完成度を高めるとともに、それを社会に向けて発表するためにもっとも望ましい手法を身につけます。

到達目標

到達目標：
①社会における音楽家としてのあり方を考えることができる。
②自らの課題に向き合い追求する強い意思を持ち、解決に向けて自立的に努力できる。
③卒業後の芸術活動を展開する上で必要な手法を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
前期の成果	30%		
後期の成果	70%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は作曲家や演奏家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
制作や執筆、調査や練習などは基本的に授業外で行ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

詳細な授業計画については各自の研究内容によって詳細を変更することがあります。
また、授業計画に変更がある場合には、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要に説明、研究方法の説明
第2週	先行事例の調査①	先行事例の調査方法を知る
第3週	先行事例の調査②	先行事例の調査をする
第4週	先行事例の調査③	先行事例の読み方を知る
第5週	先行事例の調査④	先行事例からフォーマットを読み解く
第6週	研究テーマの設定①	研究テーマの概要を検討する
第7週	研究テーマの設定②	研究テーマに必要な情報を収集
第8週	研究テーマの設定③	研究の発表方法や媒体を決定する
第9週	研究テーマの設定④	研究方法を検討する
第10週	研究テーマの設定⑤	研究テーマを設定する
第11週	作成①	発表する媒体構成を決定する
第12週	作成②	資料を集める
第13週	作成③	資料を整理する
第14週	作成④	補足する部分の調査や執筆を行う
第15週	作成⑤	校正・完成
第16週	研究発表に向けた準備①	発表方法についてのガイダンス
第17週	研究発表に向けた準備②	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第18週	研究発表に向けた準備③	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第19週	研究発表に向けた準備④	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第20週	研究発表に向けた準備⑤	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第21週	研究発表に向けた準備⑥	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第22週	研究発表に向けた準備⑦	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第23週	研究発表に向けた準備⑧	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第24週	研究発表に向けた準備⑨	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第25週	研究発表に向けた準備⑩	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第26週	研究発表に向けた準備⑪	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第27週	研究発表に向けた準備⑫	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第28週	研究発表に向けた準備⑬	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第29週	研究発表に向けた準備⑭	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第30週	研究発表	発表

授業科目	作曲・編曲実技・サウンドクリエイションVII（小山先生）					
担当教員	小山　隼平	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	CP-MS 4107		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

作曲や編曲、サウンドデザインの実技指導を受けます。また、必要に応じて参考となる楽曲の鑑賞・分析や和声法、対位法、管弦楽法の指導も受けます。課題の内容と制作方法については、学習者各自の興味・関心および習熟度に応じて設定します。

到達目標

①興味・関心に応じた作品を制作できる。
②他者の作品から参考になる部分を学ぶことができる。
③作品制作で使用する楽器・機器にかかわる知識を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、作曲家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自作品の制作は授業時間外に進めて下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	興味・関心・習熟度に応じた課題を設定する。
第2週	リファレンスの分析①	リファレンスとして使用する楽曲を決定する。
第3週	リファレンスの分析②	リファレンスとして使用する楽曲を分析する。
第4週	リファレンスの分析③	分析結果に基づき必要な知識や技術などを整理する。
第5週	作品制作①	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第6週	作品制作②	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第7週	作品制作③	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第8週	作品制作④	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第9週	作品制作⑤	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第10週	作品制作⑥	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第11週	作品制作⑦	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第12週	作品制作⑧	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第13週	作品制作⑨	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第14週	作品制作⑩	各自のスタイルにふさわしい方法で制作を進め、進度に応じた助言を受ける。
第15週	まとめと作品提出	完成した作品の自己評価を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究(作曲)						
担当教員	小山　隼平	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	CP-MS 4001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

大学での学びの集大成として、専攻実技にかかわるテーマを各自で設定し、それぞれ望ましい手法で研究を深め、最終的には研究発表を行います。創作を専攻する学生は自作品の完成度を高めるとともに、それを社会に向けて発表するためにもっとも望ましい手法を身につけます。

到達目標

①社会における音楽家としてのあり方を考えることができる。
②自らの課題に向き合い追求する強い意思を持ち、解決に向けて自立的に努力できる。
③卒業後の芸術活動を展開する上で必要な手法を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
前期の成果	30%		
後期の成果	70%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は作曲家や演奏家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
制作や執筆、調査や練習などは基本的に授業時間外に行って下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

詳細な授業計画については各自の研究内容によって詳細を変更することがあります。また、授業計画に変更がある場合には、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要の説明、研究方法の説明
第2週	先行事例の調査①	先行事例の調査方法を知る
第3週	先行事例の調査②	先行事例の調査をする
第4週	先行事例の調査③	先行事例の読み方を知る
第5週	先行事例の調査④	先行事例からフォーマットを読み解く
第6週	研究テーマの設定①	研究テーマの概要を検討する
第7週	研究テーマの設定②	研究テーマに必要な情報を収集する
第8週	研究テーマの設定③	研究の発表方法や媒体を決定する
第9週	研究テーマの設定④	研究方法を検討する
第10週	研究テーマの設定⑤	研究テーマを設定する
第11週	作成①	発表する媒体の構成を決定する
第12週	作成②	資料を集める
第13週	作成③	資料を整理する
第14週	作成④	補足する部分の調査や執筆を行う
第15週	作成⑤	校正・完成
第16週	研究発表に向けた準備①	発表方法についてのガイダンス
第17週	研究発表に向けた準備②	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第18週	研究発表に向けた準備③	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第19週	研究発表に向けた準備④	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第20週	研究発表に向けた準備⑤	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第21週	研究発表に向けた準備⑥	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第22週	研究発表に向けた準備⑦	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第23週	研究発表に向けた準備⑧	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第24週	研究発表に向けた準備⑨	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第25週	研究発表に向けた準備⑩	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第26週	研究発表に向けた準備⑪	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第27週	研究発表に向けた準備⑫	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第28週	研究発表に向けた準備⑬	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第29週	研究発表に向けた準備⑭	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第30週	研究発表	

授業科目	実技演奏法Ⅶ（主専攻・電子オルガン）（斉藤先生）					
担当教員	斉藤　宏子	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数	
		ナンバリング	EO-MS 4107		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

電子オルガンの実技指導や楽曲のアナリーゼを個人レッスンで行い、基礎的な演奏テクニックや表現力を養います。レガート奏法、タッチコントロール、ペダル奏法など必要な奏法は、楽曲の中でマスターし、必要であればエチュードを用いて補強し、スコアを用いての編曲も実習していきます。

到達目標

①電子オルガンの奏法・表現法をマスターできる。
②楽曲の内容を正確に演奏・表現できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実技試験	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実技試験前に試験で演奏する曲の楽譜の提出が求められます。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	個々のレベルに応じた楽曲の選択を行う。
第2週	実技レッスン	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う①
第3週	実技レッスン	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う②
第4週	実技レッスン	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う③
第5週	実技レッスン	楽器の基本的な操作・演奏法や、楽曲を理解し作品として仕上げることを学ぶ。また、試験曲の選曲を行う④
第6週	実技レッスン	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる①
第7週	実技レッスン	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる②
第8週	実技レッスン	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる③
第9週	実技レッスン	オルガン奏法を具体的に取り入れ、作品・オルガン双方に適した表現を追求する。また、タイプの違う曲も取り入れる④
第10週	実技レッスン	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる①
第11週	実技レッスン	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる②
第12週	実技レッスン	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる③
第13週	実技レッスン	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる④
第14週	実技レッスン	試験曲について、表現・演奏法・構成などの面でクオリティーを高め、より完成度を上げる⑤
第15週	まとめ	実技試験に向けた仕上げを行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究（電子オルガン）						
担当教員	小山　隼平	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EO-MS 4001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

大学での学びの集大成として、専攻実技にかかわるテーマを各自で設定し、それぞれ望ましい手法で研究を深め、最終的には研究発表を行います。創作を専攻する学生は自作品の完成度を高めるとともに、それを社会に向けて発表するためにもっとも望ましい手法を身につけます。

到達目標

①社会における音楽家としてのあり方を考えることができる。
②自らの課題に向き合い追求する強い意思を持ち、解決に向けて自立的に努力できる。
③卒業後の芸術活動を展開する上で必要な手法を身につけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
前期の成果	30%		
後期の成果	70%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は作曲家や演奏家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
制作や執筆、調査や練習などは基本的に授業時間外に行って下さい。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

詳細な授業計画については各自の研究内容によって詳細を変更することがあります。また、授業計画に変更がある場合には、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要の説明、研究方法の説明
第2週	先行事例の調査①	先行事例の調査方法を知る
第3週	先行事例の調査②	先行事例の調査をする
第4週	先行事例の調査③	先行事例の読み方を知る
第5週	先行事例の調査④	先行事例からフォーマットを読み解く
第6週	研究テーマの設定①	研究テーマの概要を検討する
第7週	研究テーマの設定②	研究テーマに必要な情報を収集する
第8週	研究テーマの設定③	研究の発表方法や媒体を決定する
第9週	研究テーマの設定④	研究方法を検討する
第10週	研究テーマの設定⑤	研究テーマを設定する
第11週	作成①	発表する媒体の構成を決定する
第12週	作成②	資料を集める
第13週	作成③	資料を整理する
第14週	作成④	補足する部分の調査や執筆を行う
第15週	作成⑤	校正・完成
第16週	研究発表に向けた準備①	発表方法についてのガイダンス
第17週	研究発表に向けた準備②	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第18週	研究発表に向けた準備③	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第19週	研究発表に向けた準備④	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第20週	研究発表に向けた準備⑤	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第21週	研究発表に向けた準備⑥	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第22週	研究発表に向けた準備⑦	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第23週	研究発表に向けた準備⑧	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第24週	研究発表に向けた準備⑨	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第25週	研究発表に向けた準備⑩	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第26週	研究発表に向けた準備⑪	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第27週	研究発表に向けた準備⑫	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第28週	研究発表に向けた準備⑬	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第29週	研究発表に向けた準備⑭	各自の研究内容や進度に合わせて設定する
第30週	研究発表	

授業科目	音楽療法実習III						
担当教員	高田　由利子	配当年次	4年生	開講期	通年	単位数	2
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 4403		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽療法実習は音楽療法士を志す学生が児童、成人、高齢者領域において、施設、病院で実践を体験する中で、自らの決意と適性を確認するものである。音楽療法士としての資質や能力を体得することも目的である。音楽療法実習に際しては、施設や病院の音楽療法士や職員のもと、誠実にかつ意欲的に取り組まな ければならない。音楽療法が治療的行為であるために、対象者を知り、効果的なセッションの組み立てを実践し、客観的・主観的観察による評価をすることにある。
この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

到達目標

① 対象者を的確に観察できる。
② 音楽療法のセッションは適切であったかを判断できる。
③ 音楽療法としての査定、実践、評価ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとさ他及び交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実習態度	60%		
レポート	20%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本音楽療法学会認定音楽療法士として、臨床、スーパービジョン、教育の経験を20年以上有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
グループでの準備を有する課題を指示します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

音楽療法実習は10回ないしは10日間行う(研修を含む)。年に数回外部施設での訪問音楽療法を実施 する。ゲストスピーカーによる特別講義があります。本科目は、「音楽療法実習Ⅰ」及び「音楽療法実習 ⅠⅠ」を修得していること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	音楽療法実習IIIで習得する知識や技能について説明する。
第2週	音楽療法士としての専門性①	音楽療法士としての治療哲学について考える。
第3週	音楽療法士としての専門性②	音楽療法士としての倫理観について考える。
第4週	音楽療法士としての専門性③	音楽療法士としての実践アプローチについて考える。
第5週	音楽療法士としての専門性④	音楽療法における他職種連携について考える。
第6週	音楽療法実習の事前指導	音楽療法実習前の指導を行う。
第7週	音楽療法におけるアセスメント①	実習先の対象者を想定し、アセスメントをするために必要なリソースについて学ぶ。
第8週	音楽療法におけるアセスメント②	実習先の対象者を想定し、アセスメントをするために必要なリソースについて学ぶ。
第9週	施設や病院での実践と記録・評価①	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第10週	施設や病院での実践と記録・評価②	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第11週	施設や病院での実践と記録・評価③	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第12週	施設や病院での実践と記録・評価④	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第13週	施設や病院での実践と記録・評価⑤	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第14週	施設や病院での実践と記録・評価⑥	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第15週	施設や病院での実践と記録・評価⑦	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第16週	施設や病院での実践と記録・評価⑧	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第17週	施設や病院での実践と記録・評価⑨	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第18週	施設や病院での実践と記録・評価⑩	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第19週	施設や病院での実践と記録・評価⑪	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第20週	施設や病院での実践と記録・評価⑫	施設や病院での実践における記録と評価の方法について学ぶ。
第21週	音楽療法の量的評価の検討①	音楽療法の量的評価についての方法を学び、架空の事例を使って検討する。
第22週	音楽療法の量的評価の検討②	音楽療法の量的評価についての方法を学び、架空の事例を使って検討する。
第23週	音楽療法におけるマルチメソッドな評価の検討	音楽療法における質的と量的が混在する評価の方法を学び、架空の事例を使って検討する。
第24週	症例レポートの作成①	症例レポートを作成する。
第25週	症例レポートの作成②	症例レポートを作成する。
第26週	症例レポートの作成③	症例レポートを作成する。
第27週	症例レポートの作成④	症例レポートを作成する。
第28週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック	実習先で経験したことをまとめ、自己分析する。
第29週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック	実習先で経験したことをまとめ、自己分析する。
第30週	実習を通して学んだことの発表・フィードバック	実習先で経験したことをまとめ、自己分析する。

授業科目	卒業研究(音楽療法)						
担当教員	高田　由利子	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MT-MS 4001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

4年間で培った学習の総仕上げとして、卒業研究課題としての卒業論文に取り組む。そして、その成果を発表します。

到達目標

4年間の学修の集大成として、各専門分野での個々の研究成果が、研究者として自律した活動ができること。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
卒業論文	80%		
卒業研究発表	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『改訂新版　心理学論文の書き方』	松井豊	河出書房新社			

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

日本音楽療法学会認定音楽療法士として、臨床、スーパービジョン、教育の経験を２０年以上有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
論文執筆は緻密な作業の積み重ねのため、各週に設定された計画をできるかぎり守るように努力すること。特に、資料収集と読解を充分に行うこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業はゼミ形式でおこなう。毎回、課題のフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	卒業研究について１年間の計画をシラバスに基づいて説明する。
第2週	卒論とは何か	研究の目的と論文の構造について説明する。
第3週	年間計画の立て方	卒業論文の提出締め切り日までに行うことを具体的に計画することで執筆のイメージを掴む。
第4週	ゼミでの学び方	卒業論文を執筆するにあたり、ゼミの役割と活用の仕方について学ぶ。
第5週	論文の書き方①	論文の書き方の概要について学ぶ。
第6週	論文の書き方②	論文における引用文献の扱い方について学ぶ。
第7週	論文の書き方③	論文における論理的な書き方について学ぶ。
第8週	先行研究の集め方	先行研究において必要な知識（文献検索の仕方、文献の読み方、要約の仕方など）を学ぶ。
第9週	先行研究の発表①	各自が要約した文献をレジュメにまとめて発表する。
第10週	先行研究の発表②	各自が要約した文献をレジュメにまとめて発表する。
第11週	研究の進め方①	研究を進めるにあたり、テーマの深め方について学ぶ。
第12週	研究の進め方②	研究を進めるにあたり、問いの立て方について学ぶ。
第13週	研究の進め方③	研究を進めるにあたり、様々な研究方法について学ぶ。
第14週	研究倫理	研究を進めるにあたり、研究倫理について学ぶ。
第15週	研究の進め方④	研究を進めるにあたり、研究計画書の書き方について学ぶ。
第16週	卒論の書き進め方①	卒業論文を書くために、論文の構成について学ぶ。
第17週	卒論の書き進め方②	卒業論文を書くために、序論の書き方について学ぶ。
第18週	卒論の書き進め方③	卒業論文を書くために、問題と目的の書き方について学ぶ。
第19週	卒論の書き進め方④	卒業論文を書くために、文章の展開の仕方について学ぶ。
第20週	ワープロ機能を使った図表の作り方	データを図や表などにまとめる方法について学ぶ。
第21週	卒論の書き進め方⑤	卒業論文を書くために、結果の書き方について学ぶ。
第22週	卒論の書き進め方⑥	卒業論文を書くために、考察の書き方について学ぶ。
第23週	卒論の書き進め方⑦	卒業論文を書くために、考察の書き方について学ぶ。
第24週	卒論の書き進め方⑧	卒業論文を書くために、題目・要約・謝辞・付録の付け方について学ぶ。
第25週	卒論発表の仕方①	卒業論文の発表において、レジュメの作り方を学ぶ。
第26週	卒論発表の仕方②	卒業論文の発表において、レジュメの作り方を学ぶ。
第27週	卒論発表の仕方③	卒業論文の発表において、パワーポイントの使い方について学ぶ。
第28週	卒業発表会に向けたリハーサル	卒業発表会に向けたリハーサルを行う。
第29週	卒業研究発表会・講評	卒業研究発表会を行う。
第30週	卒業研究発表会・講評	卒業研究発表会を行う。

授業科目	実技演奏法Ⅶ（副専攻・ピアノ）（谷本先生）					
担当教員	谷本　聡子	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4107		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。

到達目標

基礎と演奏能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による他者及び音楽をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内試験（または実技試験）。音楽総合コースの主	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で指示します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習してレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

詳細な授業計画については、授業内でお知らせします。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える
第2週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する①
第3週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する②
第4週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③
第5週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④
第6週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤
第7週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥
第8週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦
第9週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する①
第10週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する②
第11週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する③
第12週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する④
第13週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑤
第14週		試験に向け表現レベルの向上ができるよう学習する⑥
第15週		まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	実技演奏法Ⅶ（副科・ピアノ）（谷本先生）					
担当教員	谷本　聡子	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4117		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。

到達目標

基礎と演奏能力を習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内実技試験	50%		
平常点	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前に楽譜を読み取り、毎日積み重ねの練習をして、演奏できるようにしてレッスンに臨むこと。	1時間以上/日

受講時の注意事項

詳細な授業計画については，授業内でお知らせします。なお、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	レッスン	学生の技術・レベルに合わせた教材を選び課題を与える
第2週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する①
第3週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する②
第4週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する③
第5週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する④
第6週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑤
第7週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑥
第8週		与えた課題の理解を深めるようテクニックを身につけるよう学習する⑦
第9週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する①
第10週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する②
第11週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する③
第12週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する④
第13週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑤
第14週		試験曲の選曲を行い演奏表現レベルの向上ができるよう学習する⑥
第15週		まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究（音楽総合）						
担当教員	大隅　雅人／鎌倉　亮太／河野　泰幸／ 小山　隼平／高田　由利子／谷本　聡子／ 針生　美智子／三山　博司／萬　司	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MC-MS 4001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

４年間で培った学習の総仕上げとして、卒業研究として認定された課題に取り組む。
内容は、主に①音楽実技系、②音楽指導系、③音楽文化系に分かれる。
それぞれの分野において、テーマを決めて研究し、演奏発表または卒業論文に取り組む。

到達目標

①４年間の集大成として、各分野での研究成果を論文や演奏を通して発表することができる。
②発表のために、調べたり文章にまとめたりするなど、自律した活動をすることができる。
③その研究成果を、将来のキャリアにつなげることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート提出	40%		
研究発表	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。　』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各自で設定した課題に応じて指示します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

調べたり、まとめたり、演奏準備をしたりと、自律した活動や準備が求められる。そのため、計画性を持って取り組み、課題提出の期限を守ること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	研究課題設定①	
第2週	資料集め・研究①	
第3週	資料集め・研究②	
第4週	レポート提出①	
第5週	研究課題設定②	
第6週	資料集め・研究③	
第7週	資料集め・研究④	
第8週	レポート提出②	
第9週	研究課題設定③	
第10週	資料集め・研究⑤	
第11週	資料集め・研究⑥	
第12週	レポート提出③	
第13週	研究課題設定④	
第14週	資料集め・研究⑦	
第15週	資料集め・研究⑧	
第16週	レポート提出④	
第17週	研究課題設定⑤	
第18週	資料集め・研究⑨	
第19週	資料集め・研究⑩	
第20週	資料集め・研究⑪	
第21週	レポート提出⑤	
第22週	研究発表に向け課題を設定	
第23週	資料集め・研究⑫	
第24週	資料集め・研究⑬	
第25週	資料集め・研究⑭	
第26週	資料集め・研究⑮	
第27週	資料集め・研究⑯	
第28週	資料集め・研究⑰	
第29週	資料集め・研究⑱	
第30週	研究発表	

授業科目	油彩研究Ｃ						
担当教員	會田　千夏／佐々木　剛	配当年次	４年生	開講期	前期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

オムニバス形式/90回(會田90回・佐々木90回) 本授業は、絵画コース油彩分野の4年生を対象とし、より高度な研究を深める科目である。「油彩研究 A・B」によって学んだ技術や発想を基にし、イメージを伝えるために必要な表現方法や見せ方を工夫し全体の構成を考える。
制作過程を確認するために、プレゼンテーションを通してディスカッションし、各自の発想やテーマがどの様に他人に伝わっているのかを把握させる。
エスキースを練り上げていく過程で作品内容に適した画材と表現方法を追求し、オリジナリティ溢れる作品制作を目指す。
これらの作業を通して卒業制作に向けた取り組み方や方向性をより明確にしていく。
各自の表現したい方向に沿って、担当教員が独自の技法や制作資料作りにアドバイスをおこなう。

到達目標

① 制作のテーマを明確にし、それを表現する方法を深めることができる。
② 画材・素材の研究を深め、豊かで個性のある表現力を身につけることができる。
③ ディスカッションを通し自分の作品を分析し、言語化できるところまで明確にすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の完成度	80%		
積極的な制作姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で必要に応じて参考画像または資料を提示。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

武蔵野美術大学非常勤・北海道教育大学札幌校非常勤・白日会会員・全道展会員

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業時間外の資料収集や試作を自主的に怠らないことが大切である。 自律した制作時間を設け、最終講評会には完成度の高いものを提出できるように授業時間内外を問わず、積極的に画面上での模索を続けること。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

アトリエ内は制作するための大切な場である。
授業時間外でもアトリエで制作をしている人が居る場合は、その人の迷惑にならない様に制作に関係ない私語は禁止。
全員が協力してアトリエ内を制作しやすい緊張感のある共用空間にしていく必要がある。（身の回りの整理整頓）

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	前提講義[會田][佐々木]	エスキースの作り方についての説明と制作場所の割り当てをし、各自の制作環境を整備する。
第2週	課題1-① 制作[會田][佐々木]	エスキース制作①作品コンセプトの確認
第3週	課題1-② 制作[會田][佐々木]	エスキース制作②構図・構成とテーマ
第4週	課題1-③ 制作[會田][佐々木]	エスキース制作③構図・構成と明暗バランス
第5週	課題1-④ 制作[會田][佐々木]	エスキース制作④明暗と色彩計画
第6週	課題1-⑤ 制作[會田] [佐々木]中間講評	エスキース制作⑤細部と全体 エスキース完成　中間講評
第7週	課題2-① 制作[會田][佐々木]	課題１のエスキースを基に本制作①表現材材の選択
第8週	課題2-② 制作[會田][佐々木]	本制作②構図・構成
第9週	課題2-③ 制作[會田][佐々木]	本制作③明暗と空間
第10週	課題2-④ 制作[會田][佐々木]	本制作④色彩と空間
第11週	課題2-⑤ 制作[會田][佐々木]中間講評	本制作⑤中間講評
第12週	課題2-⑥ 制作[會田][佐々木]	本制作⑥中間講評の指摘箇所を考え制作
第13週	課題2-① 制作[會田][佐々木]	本制作⑦細部と全体
第14週	課題2-① 制作[會田][佐々木]	本制作⑧完成に向けて
第15週	課題2-① 制作・講評　[會田][佐々木]	本制作⑨完成作品の講評・採点
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	油彩研究D						
担当教員	會田　千夏／佐々木　剛	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4007		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業は、絵画コース油彩分野の4年生を対象とし、より高度な研究を深めていく科目である。「油彩研究C」によって培った作品の方向性を更に深めるとともに、既存の様式にとらわれず自分の作品イメージを更に強める方法を養っていく。自分のイメージを言語化し相手に伝えると同時に、イメージの先にある言語化できない深層をさらに深く掘り下げ表現の深化を目指す。
以上を踏まえ、卒業制作の質をレベルアップさせていくことにつなげて行く。
作品を発表する場を想定して、自分の作品がより効果的に伝わる展示プランを考える。

到達目標

① 各自のテーマを更に深め、そのイメージに合った表現方法で制作できる。
② 作品テーマを強調するための画面全体の構成を把握できる。
③ 画材の特性を生かした表現を用いて、作品にとって必要な要素をコントロールし完成度を高めることができる。
④ 作品をより効果的に見せる展示プランを計画できる。
⑤ 自己の表現、思考について発表することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の完成度	80%		
積極的な制作姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で必要に応じて参考画像または資料を提示します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

教員は作品制作、発表、研究のノウハウを有すします。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業時間外の資料収集や試作を自主的に怠らないことが大切である。 自律した制作時間を設け、最終講評会には完成度の高いものを提出できるように授業時間内外を問わず、積極的に画面上での模索を続けること。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

アトリエ内は制作するための大切な場である。
授業時間外でもアトリエで制作をしている人が居る場合は、その人の迷惑にならない様に制作に関係ない私語は禁止。
全員が協力してアトリエ内を制作しやすい緊張感のある共用空間にしていく必要がある。（身の回りの整理整頓）

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	授業概要説明 / 課題1-①　[佐々木][會田]	授業の流れを説明後に各自のコンセプトを聞き取り、必要に応じて制作場所の変更をした上で各自の制作環境を整備する。エスキースⅠ制作①開始
第2週	課題1-②［佐々木][會田]	エスキースⅠ制作②構図
第3週	課題1-③［佐々木][會田]	エスキースⅠ制作③明暗・色彩と空間
第4週	課題１-④・中間講評　[佐々木][會田]	エスキースⅠ制作④中間講評
第5週	課題2-①［佐々木][會田]	新コンセプトを基にエスキースⅡ制作① 講評で気付いた点を考え本制作1を開始
第6週	課題2-②［佐々木][會田]	エスキースⅡ制作②と並行して本制作１継続
第7週	課題2-③［佐々木][會田]	エスキースⅡ制作③と並行して本制作１継続
第8週	課題2-④・中間講評　[佐々木][會田]	エスキースⅡ制作④と並行して本制作１継続エスキースⅡ完成作と本制作１の中間講評
第9週	課題３-①［佐々木][會田]	本制作１の継続と本制作２を開始
第10週	課題３-②［佐々木][會田]	本制作１・本制作２を継続　構図チェック
第11週	課題３-③［佐々木][會田]	本制作１・本制作２を継続　明暗バランス・空間
第12週	課題３-④［佐々木][會田]　中間講評	本制作１・本制作２を継続　中間講評　展示プランチェック
第13週	課題３-⑤［佐々木][會田]	本制作１・本制作２を継続　講評で気付いた点を中心に制作
第14週	課題３-⑥　・講評　[佐々木][會田]	本制作１・本制作２を継続　実際の展示プランに則した作業開始　講評・採点
第15週	課題３-⑦　[佐々木][會田]	まとめ・展示へ向けた最終作業
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業制作(油彩)						
担当教員	會田　千夏／佐々木　剛	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	8
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4008		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

オムニバス形式/120回（會田120回、佐々木120回）
本授業では卒業制作として、油彩分野を中心にオリジナル作品を制作する。
個別指導の機会とグループ講評の場を通して自分の作品を客観的に分析し、更に完成度の高い作品を制作する力を身につける。
作品発表の際に、自作にとって最良の提示方法を考える。

到達目標

①　4年間の学習と研究の集大成として、これまでに習得した知識と技能、技法を踏まえて、個々の特性を生かし完成度の高い作品を制作することができる。
②　作品を発表する時に、展示環境を考えて作品を提示する計画力を身につけられる。
③　自己の表現、思考について明確に言語化することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の完成度	80%		
積極的な制作姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で必要に応じて参考画像または資料を提示。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

武蔵野美術大学非常勤・北海道教育大学札幌校非常勤・白日会会員

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業時間外の資料収集や試作を自主的に怠らないことが大切である。 自律した制作時間を設け、最終講評会には完成度の高いものを提出できるように授業時間内外を問わず、積極的に画面上での模索を続けること。	５時間から６時間程度/週

受講時の注意事項

アトリエ内は制作するための大切な場である。
授業時間外でもアトリエで制作をしている人が居る場合は、その人の迷惑にならない様に制作に関係ない私語は禁止。
全員が協力してアトリエ内を制作しやすい緊張感のある共用空間にしていく必要がある。（身の回りの整理整頓）

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション　[會田] [佐々木]	卒業制作を開始する上での注意点、取り組み方などを中心に説明。 エスキース制作に関する説明をした後制作開始。
第2週	エスキース制作①　[會田] [佐々木]	１作品目モノクロエスキース
第3週	エスキース制作②　[會田] [佐々木]	１作品目着彩エスキース
第4週	エスキース制作③　[會田] [佐々木]	１作品目エスキース①②の個別プレゼンテーション
第5週	制作1-①　[會田] [佐々木]	構図を中心に制作
第6週	制作1-②　[會田] [佐々木]	明暗バランスを中心に制作
第7週	制作1-③　[會田] [佐々木]	色彩計画を立てて制作
第8週	制作1-④　[會田] [佐々木]	絵画空間を意識した制作
第9週	制作1-⑤　[會田] [佐々木]	客観的なイメージ表現の確認と制作
第10週	制作1-⑥・中間講評　[會田] [佐々木]	中間講評会
第11週	制作1-⑦　[會田] [佐々木]	中間講評を通して気付いた問題点の改善へ向け制作
第12週	制作1-⑧　[會田] [佐々木]	細部と全体の関係を意識した制作 展示計画の確認①
第13週	制作1-⑨　[會田] [佐々木]	細部と全体の関係を意識した制作 展示計画の確認②
第14週	制作1-⑩　[會田] [佐々木]	細部と全体の関係を意識した制作 展示計画の確認③
第15週	制作1-⑪・講評　[會田] [佐々木]	完成作品の講評会
第16週	エスキースⅡ制作①　[會田] [佐々木]	新作品エスキース（モノクロ）
第17週	エスキースⅡ制作②　[會田] [佐々木]	新作品エスキース（着彩）
第18週	エスキースⅡ制作③　[會田] [佐々木]	新作品エスキースⅡ①②の個別プレゼンテーション
第19週	制作２-①　[會田] [佐々木]	構図を中心に制作
第20週	制作２-②　[會田] [佐々木]	明暗バランスを中心に制作
第21週	制作２-③　[會田] [佐々木]	色彩計画を立てて制作
第22週	制作1-④　[會田] [佐々木]	絵画空間を意識した制作
第23週	制作２-⑤　[會田] [佐々木]	客観的なイメージ表現の確認と制作
第24週	制作2-⑥・中間講評　[會田] [佐々木]	中間講評会
第25週	制作2-⑦　[會田] [佐々木]	中間講評を通して気付いた問題点の改善へ向け制作
第26週	制作2-⑧　[會田] [佐々木]	細部と全体の関係を意識した制作
第27週	制作2-⑨　[會田] [佐々木]	細部と全体の関係を意識した制作 展示計画の確認①
第28週	制作2-⑩　[會田] [佐々木]	細部と全体の関係を意識した制作 展示計画の確認②
第29週	制作2-⑪　[會田] [佐々木]	細部と全体の関係を意識した制作 展示計画の確認③
第30週	制作2-⑫・講評　[會田] [佐々木]	講評会

授業科目	日本画研究C						
担当教員	平向　功一	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4106		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

・本授業では「日本画研究A及びB」での研究を活かし制作を進める。課題1では自らのテーマを設定をさせ る。構想から下図までディスカッションと講評を繰り返しながら本画の制作につなげ、自らの創作活動の中に 新たな可能性を探求する。

到達目標

① 各自の表現テーマを深め、そのイメージにあった技法や表現方法をもちいて制作できる。
② 画材の特性を生かした表現を用いて作品の完成度を高める。
③椿(コウゾ)と黄蜀葵(トロロアオイ)を用いた手漉き和紙制作を経験し、日本の和紙文化への理解を深め、 制作に生かすことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
自らの主題を決定し、主題を的確に伝える為の構図構	20%		
日本画画材を用いることへの意識を高め、自らの主題	60%		
和紙の製造を通してその表現の可能性に気付くことが	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし（授業内でプリントを配布）』					

参考書等

なし（授業内で指示します。）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自分の日本画表現を追求するため授業時間外での取材、写生、制作、美術作品鑑賞などを積極的に行って欲しい。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

・多様な日本画表現や技術を修得するため、屋外や外部機関での写生・見学・研修を実施する。
・日本画分野の学生は必修。
・講評会などにおいて自分の作品についてのプレゼンテーションを実施する。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	素材研究（和紙の製造）	楮を使った紙漉き
第2週	自由課題Ⅰ①	自分で製造した和紙とエゾシカ膠を使い使った小品制作
第3週	自由課題Ⅰ②	自分で製造した和紙とエゾシカ膠を使い使った小品制作
第4週	自由課題Ⅱ①	本画の制作
第5週	自由課題Ⅱ②	本画の制作
第6週	自由課題Ⅱ③	本画の制作
第7週	自由課題Ⅱ④	本画の制作
第8週	自由課題Ⅱ⑤	本画の制作・中間講評会（プレゼンテーション）
第9週	自由課題Ⅱ⑥	本画の制作
第10週	自由課題Ⅱ⑦	本画の制作
第11週	自由課題Ⅱ⑧	本画の制作
第12週	自由課題Ⅱ⑨まとめ	講評会（プレゼンテーション）
第13週	自由課題Ⅲ①	エスキース・小下図制作
第14週	自由課題Ⅲ②	基底材の処理
第15週	自由課題Ⅲ③・まとめ	下図完成・講評会（プレゼンテーション）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本画研究D						
担当教員	水野　剛志	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4107		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

絹本技法と人物デッサン、自画像制作を通し自己の表現を広げることを追求します。絹本作品の制作では 日本画技法の1つである絹本の特性を知り、自己の表現につなげることを目指します。人物デッサンでは人体を把握するためにヌードや着衣のデッサンに取り組むとともに、人物像を用いて自己のイメージを具体化 し表現することを目指します。自画像では、自己認識・日本画の素材を再確認し、表現の検討を行います。

到達目標

① 絹本の特性や技法を理解し、自己の表現に取り入れる。
② 人物デッサンを通して人体の構造を把握し、自分の作品に取り入れる。
③ 形態の把握、自己認識、日本画の素材を意識した作品を目指す。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
絹本制作	40%		
自画像	30%		
人体デッサン	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
課題作品の構想を練るため、資料収集やラフスケッチの制作などを指示します。（11週目から の自画像、提出作品:F10号）	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

多様な日本画表現や技術を習得するため、外部講師(表具師)による表装の伝統技法を学ぶ機会をもうける。絵具、用具の点検補充を確実にしておくこと。必要に応じ、学外の施設などにて資料の取材・収集・写生・研修を行うことがある。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	人物クロッキー	人物クロッキー
第2週	人物デッサン	人物デッサン
第3週	自由課題制作①	課題設定・制作準
第4週	自由課題制作②	下図・骨描
第5週	自由課題制作③	彩色
第6週	自由課題制作④	彩色
第7週	自由課題制作⑤	彩色
第8週	自由課題制作⑥	彩色
第9週	自由課題制作⑦	彩色・仕上げ
第10週	自画像の制作①	絹本(制作準備)
第11週	自画像の制作②	絹本(下図・骨描)
第12週	自画像の制作③	絹本(彩色・裏彩色)
第13週	自画像の制作④	絹本(彩色)
第14週	自画像の制作⑤	絹本(彩色・仕上げ) ・裏打ち（外部講師）
第15週	表装実習・講評とまとめ	表装実習・講評とまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業制作(日本画)						
担当教員	平向　功一	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	8
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4108		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では卒業制作として、4年間の学習及び制作の成果の集大成として、これまでに習得させた日本画 専攻における知識と技術・技法を踏まえて日本画作品を制作させることを目標とする。

到達目標

4年間の集大成として、創造性に溢れた完成度の高い作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
自らの主題を決定し、主題を的確に伝える為の構図構	30%		
日本画画材を用いることへの意識を高め、自らの主題	70%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし（授業内でプリントを配布）』					

参考書等

なし（授業内で指示します）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自分の日本画表現を追求するため授業時間外での取材、写生、制作、美術作品鑑賞などを積極的に行って欲しい。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

・多様な日本画表現や技術を修得するため、屋外や外部機関での写生・見学・研修を実施する。
・日本画分野の学生は必修。
・講評会などにおいて自分の作品についてのプレゼンテーションを実施する。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	制作にあたって（制作計画）
第2週	制作Ⅰ①	構想・エスキース
第3週	制作Ⅰ②	小下図の制作
第4週	制作Ⅰ③	下図の制作
第5週	制作Ⅰ④	和紙裏打ち・支持体の製作
第6週	制作Ⅰ⑤	着彩
第7週	制作Ⅰ⑥	着彩
第8週	制作Ⅰ⑦	着彩
第9週	制作Ⅰ⑧	着彩
第10週	制作Ⅰ⑨	着彩・中間講評（ディスカッション）
第11週	制作Ⅰ⑩	着彩
第12週	制作Ⅰ⑪	着彩
第13週	制作Ⅰ⑫	着彩
第14週	制作Ⅰ⑬	着彩・額装
第15週	制作Ⅰ⑭	着彩・講評（ディスカッション）・まとめ
第16週	制作Ⅱ①	構想・エスキース
第17週	制作Ⅱ②	小下図の制作
第18週	制作Ⅱ③	下図の制作
第19週	制作Ⅱ④	和紙裏打ち・支持体の製作
第20週	制作Ⅱ⑤	着彩
第21週	制作Ⅱ⑥	着彩
第22週	制作Ⅱ⑦	着彩
第23週	制作Ⅱ⑧	着彩
第24週	制作Ⅱ⑨	着彩
第25週	制作Ⅱ⑩	着彩・中間講評（ディスカッション）
第26週	制作Ⅱ⑪	着彩
第27週	制作Ⅱ⑫	着彩
第28週	制作Ⅱ⑬	着彩
第29週	制作Ⅱ⑭	着彩・額装
第30週	制作Ⅱ⑮	着彩・講評（ディスカッション）・まとめ

授業科目	版画研究Ｃ						
担当教員	鳴海　伸一／吉田　潤	配当年次	４年生	開講期	前期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態				授業回数	
		ナンバリング	EA-MS 4206			ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目	

授業概要

卒業制作や、卒業後の生涯にわたる制作まで、探求できる専門版種を模索した作品づくりや
技法を組み合せた併用表現など、実験・実践・失敗・探究をとおして個性を生かした広い版表現を身につける。
また、近代版画技法の考察や時代に沿った制作環境や身体にも安全な版画制作やその方法も習得する。

到達目標

・木版、銅版、リトグラフ、シルクスクリーンの各版主の特徴を理解した上で応用・併用した表現を実践することができる。
・制作環境や技法にとらわれることなく、豊かで個性のある表現力を身につけることができる。
・扱っている道具や材料を理解し、自主的に安全かつ正確に制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

日本美術家連盟／版画学会
札幌市芸術文化財団 札幌芸術の森版画専門員
札幌芸術の森版画工房運営・管理

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
学内図書館等を利用し、版画に関する書籍（作品、技法書など）を閲覧しておいてください。 また、制作に関わる注意事項、作業手順、動作などを把握し、イメージトレーニングしておくこと。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

汚れても良い服装またはエプロンを着用のこと。
作業時に必要なゴム手袋などを各自用意していただきます。※詳細は授業内で説明します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	研究版種による自由制作、アイデア、計画の検討	自身と向き合う版種、探求すべき版表現の考察と下絵づくりを行います。
第2週	研究制作Ⅰ／下絵づくりと描画	研究作品の下絵づくりを行います。
第3週	研究制作Ⅰ／描画と製版	下絵を元に描画を行います。
第4週	研究制作Ⅰ／製版	製版を行います。
第5週	研究制作Ⅰ／製版と印刷	試刷りを含めた刷りを行います。
第6週	研究制作Ⅰ／印刷と仕上げ	本刷り、裁断と仕上げを行います。
第7週	屋外写生	学外での写生研修として道東スケッチを予定しております。 不参加の場合は学内研修の受講となります。
第8週	研究制作Ⅱ／下絵づくりと描画	研究作品の下絵づくりを行います。
第9週	研究制作Ⅱ／描画と製版	下絵を元に描画を行い、製版の準備をします。
第10週	研究制作Ⅱ／製版	製版を行います。
第11週	研究制作Ⅱ／製版と印刷	試刷りを含めた刷りを行います。
第12週	研究制作Ⅱ／印刷と仕上げ	本刷り、裁断と仕上げを行います。
第13週	制作考察－インプット	本講の研究制作をとおして、失敗点・改善点・展開などの情報を収集し、記録します。
第14週	制作考察ーアウトプット	本講の研究制作をとおして、次の段階でどのようなスキルが求められ、どのようなアウトプットが可能かを考察します。
第15週	研究のまとめ 検証と成果の考察（プレゼンテーションと講評）	研究制作をとおして自身に合う版種の選定、表現方法の確立を目指します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	版画研究D						
担当教員	吉田　潤	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4207		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では各自が見出したテーマから「版画研究A・B・C」での習得内容を踏まえ、独自のスタイルを発展させた作品制作を行う。「芸術的な表現力の向上」や「専門分野における深い知識と技能の獲得」を具現化し、個々の版種における技巧を身につけつつ、創造的かつ批評的な思考を醸成する。

到達目標

・各版種において独自のスタイルを確立し、版画の歴史や理論を理解して作品に統合できる力を養う。
・制作プロセス全体で問題解決能力を発揮し、創造的なアプローチを模索できる。
・他の学生の作品を批評的な視点から分析し、適切なフィードバックを提供するスキルを磨く。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
コンセプト・作品完成度	70		
積極的に取り組む姿勢	20		
プレゼンテーション	10		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜配布します。』					

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

担当教員は大学、フリーランスでの実務経験を有します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
学内図書館等を利用し、版画に関する書籍（作品、技法書など）を閲覧しておいてください。 また、制作に関わる注意事項、作業手順、動作などを把握し、イメージトレーニングしておくこと。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

汚れても良い服装またはエプロンを着用のこと。
作業時に必要なゴム手袋などを各自用意していただきます。※詳細は授業内で説明します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要説明、個別ミーティング
第2週	研究制作1-①	プランニング(1)、プレゼンテーション
第3週	研究制作1-②	プランニング(2)、個別ミーティング
第4週	研究制作1-③	試作(1)
第5週	研究制作1-④	試作(2)
第6週	研究制作1-⑤	試作から実作(1)
第7週	研究制作1-⑥	試作から実作(2)
第8週	中間講評	プレゼンテーション、ディスカッション
第9週	研究制作1-⑦	実作(1)
第10週	研究制作1-⑧	実作(2)
第11週	研究制作1-⑨	実作(3)
第12週	研究制作1-⑩	実作(4)
第13週	研究制作1-⑪	実作(5)
第14週	研究制作1-⑫	作品完成
第15週	作品講評	プレゼンテーション、講評
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業制作(版画)						
担当教員	吉田　潤	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	8
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4208		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では4年間の学習及び成果の集大成として、卒業制作に取り組む。これまでに習得した専門知識や表現技術を踏まえながら版画表現の多様性と可能性を考察し、各自の見出したテーマに沿って制作・表現することを目標とする。

到達目標

①　これまでに習得した専門知識、高度な技術と表現力を持って作品制作を行うことができる。
②　制作プロセスにおいて問題解決能力を発揮し、独自のアプローチを模索できる。
③　自身の作品に対する洞察を深め、自己表現、思考について明確に言語化することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
コンセプト・作品完成度	70		
積極的に取り組む姿勢	20		
プレゼンテーション	10		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜配布します。』					

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

担当教員は大学、フリーランスでの実務経験を有します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
学内図書館等を利用し、版画に関する書籍（作品、技法書など）を閲覧しておいてください。 また、制作に関わる注意事項、作業手順、動作などを把握し、イメージトレーニングしておくこと。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

汚れても良い服装またはエプロンを着用のこと。
作業時に必要なゴム手袋などを各自用意していただきます。※詳細は授業内で説明します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	個別ミーティング、作品計画書確認
第2週	制作1-①	プランニング(1)、プレゼンテーション
第3週	制作1-②	プランニング(2)、個別ミーティング
第4週	制作1-③	個別指導
第5週	制作1-④	個別指導
第6週	制作1-⑤	個別指導
第7週	制作1-⑥	個別指導
第8週	制作1-⑥	個別指導
第9週	制作1-⑦	個別指導
第10週	制作1-⑧	個別指導
第11週	制作1-⑨	個別指導
第12週	制作1-⑩	個別指導
第13週	制作1-⑪	個別指導
第14週	制作1-⑫	個別指導
第15週	中間講評	作品プレゼンテーション、ディスカッション
第16週	制作2-①	個別指導
第17週	制作2-②	個別指導
第18週	制作2-③	個別指導
第19週	制作2-④	個別指導
第20週	制作2-⑤	個別指導
第21週	制作2-⑥	個別指導
第22週	制作2-⑦	個別指導
第23週	制作2-⑧	個別指導
第24週	制作2-⑨	個別指導
第25週	制作2-⑩	個別指導
第26週	制作2-⑪	個別指導
第27週	制作2-⑫	個別指導
第28週	制作2-⑬	個別指導
第29週	制作2-⑭	個別指導
第30週	講評、作品審査	作品プレゼンテーション

授業科目	立体造形研究C						
担当教員	藤本　和彦／吉岡　滋人	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4306		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、立体造形についてのより高度な研究を深めることを目的とする。自己と向き合い、社会、環境 をしっかりと見つめ、3年次までに習得、研究してきた技術、素材、造形思考のもとに更にテーマを掘り下げ る。また、試行錯誤する中からより深い自己への問いかけと、表現の可能性を追求する。マケットをもとに ディスカッションを行い、各自の造形思考を深めることで、自分の内なるかたち「自己表現」を確立する能力 を身につける。

到達目標

① 制作コンセプトを明確にすることができる。
② 計画性と持続性を持って制作に取り組むことができる。
③ 素材や技術を活かしたオリジナリティのある作品を制作することができる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品（丁寧かつ創意ある制作だったか）	60%		
制作ノート（正確な記録、復習的に分析されている	20%		
積極的な制作姿勢（自発的な展開、集中した作業で	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します』					

参考書等

なし。授業内で指示します

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

モニュメント、スペースの計画、作成、設置等多数

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
多くの作家の作品を見たり、社会を見つめ作品への意識を高める。積極的に制作を継続する。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

制作意図の立上げから選択した素材の考察・実験、制作の工夫、展示計 画」まで、また制作過程自体を授業毎時後、かならず制作ノートにまとめておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（藤本）	造形作品紹介、鑑賞
第2週	エスキース①（藤本・吉岡）	各自のコンセプトのもと素材、表現方法検討
第3週	エスキース②（藤本・吉岡）	コンセプト検討、ディスカッション
第4週	エスキース③（藤本・吉岡）	マケット制作(任意素材)、ディスカッション①
第5週	エスキース④（藤本・吉岡）	マケット制作(任意素材)、ディスカッション②
第6週	制作①（藤本・吉岡）	適宜個別指導
第7週	制作②（藤本・吉岡）	適宜個別指導
第8週	制作③（藤本・吉岡）	適宜個別指導
第9週	制作④（藤本・吉岡）	適宜個別指導
第10週	講評①（藤本・吉岡）	中間発表
第11週	制作⑤（藤本・吉岡）	適宜個別指導
第12週	制作⑥（藤本・吉岡）	適宜個別指導
第13週	制作⑦（藤本・吉岡）	適宜個別指導
第14週	制作⑧（藤本・吉岡）	適宜個別指導
第15週	講評②（藤本・吉岡）	制作発表、講評、まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	立体造形研究D						
担当教員	藤本　和彦／吉岡　滋人	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	6
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4307		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、立体造形における、より高度な自己表現の確立を目的とする。各自自由に選択した素材とじっくり向き合い、その性質や魅力をより深く理解し、強度と説得力のある作品制作をする能力を身につける。 学外での作品発表を視野に入れ、作品と空間(場)の関係を意識し探求する。授業では適宜、個別指導を行う。

到達目標

① テーマや表現の志向を明確にすることができる。
② 計画性と持続性を持って制作に取り組むことができる。
③ 「現在」の自己表現としての作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品（丁寧かつ創意ある制作だったか）	60%		
制作ノート（正確な記録、復習的に分析されている	20%		
積極的な制作姿勢（自発的な展開、集中した作業で	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

モニュメント、スペースの計画、作成、設置等多数

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
多くの作家の作品を見たり、社会を見つめ作品への意識を高める。積極的に制作を継続す	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

興味を持って授業にのぞむこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（藤本）	各自のコンセプトのもと素材、表現方法検討
第2週	エスキース①（藤本・吉岡）	コンセプト検討、マケット制作、ディスカッション①
第3週	エスキース②（藤本・吉岡）	コンセプト検討、マケット制作、ディスカッション②
第4週	制作1-①（藤本・吉岡）	個別指導
第5週	制作1-②（藤本・吉岡）	個別指導
第6週	制作1-③（藤本・吉岡）	個別指導
第7週	制作1-④（藤本・吉岡）	個別指導
第8週	制作1-⑤（藤本・吉岡）	個別指導
第9週	制作1-⑥（藤本・吉岡）	個別指導
第10週	制作1-⑦（藤本・吉岡）	個別指導
第11週	制作1-⑧（藤本・吉岡）	個別指導
第12週	制作1-⑨（藤本・吉岡）	個別指導
第13週	制作1-⑩（藤本・吉岡）	個別指導
第14週	制作1-⑪（藤本・吉岡）	個別指導
第15週	講評（藤本・吉岡）	まとめと講評
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業制作(立体造形)						
担当教員	藤本　和彦	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	8
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EA-MS 4308		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では、卒業制作として、立体造形分野におけるオリジナル作品を制作する。これまでに習得した専門知識と表現技術・造形思考のもと、提示環境なども含め、強度と説得力のある自己表現を確立する。

到達目標

① 4年間の集大成としての研究成果を、オリジナリティと完成度の高い作品として結実させる事ができる。
② 其々が習得した造形思考や空間認識を各自のテーマに基づき展開・応用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
提出作品（これまでの制作経験からクオリティを得ら	60%		
ポートフォリオ（今後の応用に繋げられる記録であっ	20%		
積極的な制作姿勢（自発的な展開、集中した作業で	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

ディスプレイ、モニュメント等の計画、制作、設置作業多数

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
制作意図立ち上げの過程から、道具・工具の扱いや制作の工夫、展示計画までを、ポートフォリオとしてまとめること。完成度、クオリティーの向上のための「制作」について考察しておき、毎時後かならず確認作業を入れ、ポートフォリオをまとめておくこと。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

作業に相応しい装備で受講すること。自主性をもって作業の安全管理、機材、道具の整備、作業後の清掃に協力すること。素材についての考察、実験を重ね、深化させておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス１	コンセプト、素材、表現方法検討
第2週	準備1	デッサン、マケットでのディスカッション
第3週	制作1-①	個別指導
第4週	制作1-②	個別指導
第5週	制作1-③	個別指導
第6週	制作1 検討会	検討会・ディスカッション
第7週	制作1-④	個別指導
第8週	制作1-⑤	個別指導
第9週	制作1-⑥	個別指導
第10週	制作1 中間講評会	講評会・ディスカッション２
第11週	制作1-⑦	個別指導
第12週	制作1-⑧	個別指導
第13週	制作1-⑨	個別指導
第14週	制作1　講評会	個別講評
第15週	制作1-⑩	個別指導
第16週	ガイダンス２	コンセプト、素材、表現方法検討
第17週	準備2	デッサン、マケットでのディスカッション
第18週	制作2-①	個別指導
第19週	制作2-②	個別指導
第20週	制作2-③	個別指導
第21週	制作2 検討会	検討会・ディスカッション
第22週	制作2-④	個別指導
第23週	制作2-⑤	個別指導
第24週	制作2-⑥	個別指導
第25週	制作2 中間講評会	講評会・ディスカッション２
第26週	制作2-⑦	個別指導
第27週	制作2-⑧	個別指導
第28週	制作2-⑨	個別指導
第29週	制作2　講評会	個別講評
第30週	制作2-⑩	個別指導

授業科目	写真・映像・メディアアート表現研究C						
担当教員	小町谷　圭／今　義典	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4406		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

(今義典/24回) ４×５インチのフィルムを1600dpiでスキャニングすると１億画素の画像が得られる。この超高精細の世界を、自身が撮影した被写体を通じ体験していく。
(小町谷圭/21回)作品プランに基づき具体化していくための指導を行う。プランの中から実現に必要な実験などを行いながら 習作を制作する。映画館や美術館、またはコンピュータ上の仮想空間との違いに意識を向けながら発表の場を選び、習作を基にプロポーザルを行うことを目標とする。

到達目標

当授業でのバリエーションを活かしながら、次年度開講する卒業制作で、様々な内容や形式を取捨選択できるような引き出しを多く持つことを念頭に置き、それを到達目標に掲げる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を掘起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
参加の積極性	30%		
自発的な意欲をもって授業に参加していたか。授業の	30%		
課題の達成度、完成度、提出率	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は(この授業科目に関連した)実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
取材等授業外で行う際は、事前に計画書をメールまたは文書で提出すること。また授業後の 自学・自習を前提に設定しています。所属する専攻の担当教員の指導を適宜受けること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておく事。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

能動的な学習(アクティブラーニング)が求められる。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	大型カメラガイダンス〔今〕 映像インスタレーションガイダンス〔小町谷〕	木／金とも初回ガイダンスを行う
第2週	建築写真 参考事例紹介・撮影計画 構築〔今〕 作品紹介〔小町谷〕	木／金とも参考作品紹介
第3週	建築写真 参考事例紹介・撮影計画 構築２〔今〕 試作1〔小町谷〕	参考作品紹介、試作制作、他
第4週	機材講習１〔今〕 試作1〔小町谷〕	・大型カメラ関連機材の紹介 ・試作　II
第5週	機材講習２〔今〕 試作2〔小町谷〕	・大型カメラ関連機材の紹介 II ・試作　III
第6週	構内撮影１建築写真内観〔今〕 試作3〔小町谷〕	・大型カメラでの撮影　建造物内観 ・試作　IV
第7週	屋外撮影２建築写真外観〔今〕 試作4〔小町谷〕	・大型カメラでの撮影　建造物外観 ・試作　V
第8週	フィルム現像1(白黒)〔今〕 発表・講評回〔小町谷〕	・暗室にてフィルム現像（シートフィルム） ・中間講評会
第9週	フィルム現像2(白黒)〔今〕 メディア・インスタレーションガイダンス〔小町谷〕	タイトルに同じ
第10週	カラーネガフィルム現像出し１〔今〕 作品事例紹介〔小町谷〕	個別対応
第11週	カラーネガフィルム現像出し２〔今〕 実制作1〔小町谷〕	個別対応
第12週	[A]12週　カラーフィルムスキャン1(デジタル化)〔今〕 実制作2〔小町谷〕	個別対応
第13週	カラーフィルムスキャン2(デジタル化)〔今〕 実制作3〔小町谷〕	個別対応
第14週	出力講習会・展示準備〔今〕 実制作3〔小町谷〕	個別対応／展示準備
第15週	大型出力・講評会〔今〕 発表・講評回[小町谷]	講評会を行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	写真・映像・メディアアート表現研究D						
担当教員	小町谷　圭／今　義典	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4407		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

(小町谷圭/21回)授業計画[A]　木曜第1週から第15週まで自身の課題を具体化させながら、展示における問題検証、ならびに解決を行いながら、ドキュメントやテックライダー、インストラクションシートといった資料作成について学ぶことができる。
(今義典/24回)授業計画[B]　金曜スライドショーの課題７週と、卒業制作に絡むテクニカルな面での技術指導を８週。後者は卒制を後押しできるようなメニューを小出しに用意していく。

到達目標

① 任意のテーマについて、計画を立てられるようになる。
② 客観的に作品の内容を協議・検証しながら、問題を発見し適切に研究を深めることができる。
③ 作品の意図を伝えるためのプレゼンテーション能力を身につける。
④ 卒業制作に弾みをつけていくような、モチベーションを上げるトレーニングの側面も持つ

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
参加の積極性(自発的な意欲をもって授業に参加してい	30%		
専門的な技術の理解度およびオリジナ リティー	30%		
課題の達成度・完成度・提出率	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は(この授業科目に関連した)実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
写真の授業では屋外での撮影をベースにするため大学構内でのロケハンが極めて重要にな る。事前に撮影ポイントを決め効率よく作業が進行するよう努めること。撮影計画書を事前にメール または文書で提出すること。	４～５時間程度

受講時の注意事項

受講者の積極的な参加の姿勢が求められます。能動的な学習(アクティブラーニング)が求められる。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておく事。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス〔小町谷〕 スライドショー・ガイダンス〔今〕	内容はタイトルに同じ
第2週	作品事例紹介〔小町谷〕 作品事例紹介〔今〕	様々な作品紹介・作家紹介をしていく
第3週	展示計画〔小町谷〕 実制作1〔今〕	展示のためのプランニングを行う1 実制作の前にエスキースを提出1
第4週	展示設営1〔小町谷〕 実制作2〔今〕	展示のためのプランニングを行う2 実制作の前にエスキースを提出2
第5週	展示設営2〔小町谷〕 実制作3〔今〕	展示のための設営を場所を確保し行う1 実制作の前にマケットやモックなどを提出＋制作開始
第6週	展示設営3〔小町谷〕 実制作4〔今〕	展示のためのプランニングを行う4 制作
第7週	課題講評会〔小町谷〕 発表・講評回〔今〕	講評会
第8週	卒業制作展に向け〔小町谷〕 卒業制作展示に向け〔今〕	７週まで行った経緯を踏まえ、卒制についての考察を行う 〃
第9週	内容と形式・会場視察〔小町谷〕 内容と形式・会場視察〔今〕	随時様々な作品紹介・作家紹介をしていく１ 個別対応開始１
第10週	展覧会資料作成、参考作品紹介〔小町谷〕 展覧会資料作成、参考作品紹介	随時様々な作品紹介・作家紹介をしていく2 ＋資料作成他 個別対応開始2
第11週	資料作成①〔小町谷〕 卒業制作関連①〔今〕	卒業制作作品のソフト・ハードに関するアプローチを各自確認１ 特にハードの制作についての考察１
第12週	資料作成②〔小町谷〕 卒業制作関連②〔今〕	卒業制作作品のソフト・ハードに関するアプローチを各自確認2 特にハードの制作についての考察2
第13週	資料作成③〔小町谷〕 卒業制作関連③〔今〕	卒業制作作品のソフト・ハードに関するアプローチを各自確認3 特にハードの制作についての考察3
第14週	資料作成④〔小町谷〕 卒業制作関連④〔今〕	卒業制作作品のソフト・ハードに関するアプローチを各自確認4 特にハードの制作についての考察4
第15週	成績評価・内覧会・講評会〔小町谷〕 成績評価・内覧会・講評会〔今〕	総括　各自プレゼンを行う合同講評会を開催
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミC(今・小町谷)						
担当教員	小町谷　圭／今　義典	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4410		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

様々なメディアは、ソフトウエアとハードウエアの関係と同様に、コンテンツ(創作物)を内包する形式であり、その形式の特性によってコンテンツ（創作物）は自ずと影響を受けることになります。そうした表現する手段の一つとして、メディア表現における各専門分野について、それぞれの研究室独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導の下、グループ、または個人での研究・発表を行います。４年は特に将来を見据えた創作活動に重きを置き、各自の研究を深めていきます。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、指示します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、メディア表現領域の各専門分野の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。
教員は全員実務家教員としてのキャリアが１５年ないし２５年ある。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、必ず予習を行い、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、各自の個別テーマの検討	初回ガイダンスを行う
第2週	研究計画書	研究計画書の作成
第3週	研究①	テーマや領域の現状
第4週	研究②	テーマや領域の課題
第5週	研究③	先行研究や事例
第6週	中間発表・ディスカッション	中間発表とディスカッションを行う
第7週	研究④	研究テーマ
第8週	研究⑤	研究手法
第9週	研究⑥	実施
第10週	研究⑦	検証
第11週	研究⑧	実施　II
第12週	研究⑨	検証
第13週	研究⑩	公開
第14週	最終発表	最終発表のプレゼンテーションを行う
第15週	まとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミD(今・小町谷)						
担当教員	小町谷　圭／今　義典	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4411		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

様々なメディアは、ソフトウエアとハードウエアの関係と同様に、コンテンツ(創作物)を内包する形式であり、その形式の特性によってコンテンツ（創作物）は自ずと影響を受けることになります。そうした表現する手段の一つとして、メディア表現における各専門分野について、それぞれの研究室独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導の下、グループ、または個人での研究・発表を行います。４年後期は特に将来を見据えた創作活動に重点を置き、各自の研究を深めていきます。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
出席率、授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし、授業内で適宜、資料を配付』					

参考書等

なし、授業内で適宜、資料を配付

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、メディア表現領域の各専門分野の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、必ず予習を行い、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、各自の個別テーマの検討	初回ガイダンスを行う（専攻ごと、研究室ごとに）
第2週	研究計画書	研究計画書の作成
第3週	研究①	テーマや領域の現状
第4週	研究②	テーマや領域の課題
第5週	研究③	先行研究や事例
第6週	中間発表・ディスカッション	中間発表とディスカションを行う
第7週	研究④	研究テーマとはどういうものであるべきか_
第8週	研究⑤	研究の手法を探る
第9週	研究⑥	研究の実施・実践　I
第10週	研究⑦	検証（振り返り）
第11週	研究⑧	実施・実践　II
第12週	研究⑨	検証（振り返り）
第13週	研究⑩	公開
第14週	最終発表	最終発表のプレゼンを行う
第15週	まとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業制作(写真・映像・メディアアート)						
担当教員	小町谷　圭／今　義典	配当年次	４年生	開講期	通年集中	単位数	8
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4412		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では卒業制作として、写真・映像分野におけるオリジナル作品を制作する。4年間の学習及び成果の集大成として、これまでに習得した専門知識や表現技術を踏まえ、各自のテーマに沿って写真・映像分野の制作・表現をすることを目標とする。
ひいては卒業後、アーティスト・美術職といった専門職に就くことを目標とする。
学生はさまざまな参考例を通じ、自身が作るべき作品を知り、的確に開催される定例会を通じ、創作の理解を深めていく。

到達目標

① 各自のテーマに合ったメディアを選択し、そのメディアに合った表現ができるようになる。
② 各自のテーマに基づき明確なコンセプトをもって制作することができる。
③ これまでに習得してきた専門知識と技術を踏まえた作品を制作することができる。
④ 将来思い描く職業とリンクしていくような卒業制作作品を目指す。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品やレポートの課題提出	30%		
出席率と平常試験（縮小版作品や習作の提示等）	20%		
課題の達成度・完成度・提出率	20%		
参加の積極性(自発的な意欲をもって授業に参加したか	20%		
ソフト・ハードを正しく使いこなせていたか	10		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、メディア表現領域の各専門分野の実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
スチル・ムービー問わず、屋外での撮影時、被写体探しやロケ地に赴く際、具体的プランを 携えていくのが重要となる為、事前に5W1Hが記された撮影計画書の提出を義務づける。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

積極的な姿勢を期待します。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておく事。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業計画の発表と当専攻の先行事例紹介
第2週	参考事例紹介１	・作品研究①「写真」 写真（コンテンポラリーアート、映像・メディアアートを含む表現）
第3週	参考事例紹介2	・作品研究②「写真」 写真（コンテンポラリーアート、映像・メディアアートを含む表現）
第4週	参考事例紹介４	・作品研究③「映像」 映像（コンテンポラリーアート、写真・メディアアートを含む表現）
第5週	参考事例紹介５ 習作制作I 本制作開始1	・作品研究④「映像」 映像（コンテンポラリーアート、写真・メディアアート含む表現） ・本制作開始
第6週	参考事例紹介６ 習作制作II 本制作2	・作品研究⑤「映像」 映像（コンテンポラリーアート・写真・メディアアート含む表現） ・卒制制作
第7週	参考事例紹介７ 習作制作III 本制作3	・作品研究⑥「コンテンポラリーアート・メディアアート」 （映像、写真を含む表現） ・習作の講評会
第8週	参考事例紹介8 本制作4	・作品研究⑦「展示形式について」 ・卒制制作
第9週	本制作	適宜個別指導
第10週	本制作	適宜個別指導
第11週	本制作 会場視察	市民ギャラリーでの会場視察と計測
第12週	本制作	適宜個別指導
第13週	本制作	適宜個別指導
第14週	本制作	適宜個別指導
第15週	講評会	卒展会場にて審査＜重要＞
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	グラフィック・イラスト研究C						
担当教員	島名　毅／玉野　哲也／戸澤　逸美	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4506		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ビジュアルコミュニケーションと社会の関係性について、これまでに習得した専門知識や技法を用いて問題 発見、解決のための可能性を検討し、自らのテーマを設定する能力を身につける。
なお、本科目は主なグラフィック・イラストについて次の①から③の内容で担当教員が指導する(週4コマ、15週)。

① 印刷・エディトリアルなどのグラフィック表現 ［玉野哲也　木・金曜日３・４限］
② アートディレクション、ブランディングなどのグラフィック表現 ［島名毅　金曜日３・４限］
③ パッケージ、イラストレーションなどのグラフィック表現 ［戸澤逸美　木・金曜日３・４限］

到達目標

ビジュアルコミュニケーションと社会の関係性から広い視野に立ち、 自らが取り組むべきテーマを設定し、表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
コンセプト・作品の完成度	50%		
プレゼンテーション	30%		
授業姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『AdobeCC』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配布します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

担当教員は広告代理店、制作会社、フリーランスでの実務経験を有します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
課題を意識し、周囲を観察すること。 新しい発見や知識は、その都度メモを取り、ノートにまとめること。 予習復習に必要な時間を確保してしっかり取り組むこと。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

毎回の授業時間内に授業時間外におけるプランニングおよび制作に対し、チェックを行い個別指導をする。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	プランニング、テーマ、コンセプト制作［島名、玉野、戸澤］	今まで習得した専門知識を用いて、研究テーマやコンセプトの検討を行う。
第2週	プランニング、テーマ、コンセプト制作［島名、玉野、戸澤］	今まで習得した専門知識を用いて、研究テーマやコンセプトの検討を行う。
第3週	リサーチ・ディスカッション［島名、玉野、戸澤］	プランニング、テーマ、コンセプトを発表し、ディスカッションを行う。
第4週	実習①［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に試作を行う。
第5週	実習②［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に試作を行う。
第6週	検討会・ディスカッション①［島名、玉野、戸澤］	試作した作品を元にディスカッションを行う。
第7週	実習③［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に試作を行う。
第8週	実習④［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に試作を行う。
第9週	実習⑤［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に試作を行う。
第10週	検討会・ディスカッション②［島名、玉野、戸澤］	試作した作品を元にディスカッションを行う。
第11週	実習⑥［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に試作を行う。
第12週	実習⑦［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に試作を行う。
第13週	実習⑧［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に試作を行う。
第14週	実習⑨［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に試作を行う。
第15週	講評会・プレゼンテーション［島名、玉野、戸澤］	作品のプレゼンテーションを行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	グラフィック・イラスト研究D						
担当教員	島名　毅／玉野　哲也／戸澤　逸美	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4507		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

これまでに習得させた専門知識や技法を踏まえ、各自が定めたオリジナルのテーマに基づく課題制作をし、個別指導を行う。
ビジュアルコミュニケーションと社会との関係性から広い視野に立脚したグラフィックデザインの可能 性を追求し、問題発見および問題解決していく能力を身につける。なお、本科目は主なグラフィックデザインについ て次の1から3の内容で担当教員が指導する(週6コマ、15週)。

① 印刷・エディトリアルなどのグラフィック表現 ［玉野哲也　木・金曜日３・４限］
② アートディレクション、ブランディングなどのグラフィック表現 ［島名毅　金曜日３・４限］
③ パッケージ、イラストレーションなどのグラフィック表現 ［戸澤逸美　木・金曜日３・４限］

到達目標

ビジュアルコミュニケーションと社会の関係性から広い視野に立脚したグラフィックデザインとして完成度の 高い作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
コンセプト・作品の完成度	50%		
プレゼンテーション	30%		
授業姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『AdobeCC』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

担当教員は広告代理店、制作会社、フリーランスでの実務経験を有します。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
課題を意識し、周囲を観察すること。 新しい発見や知識は、その都度メモを取り、ノートにまとめること。 予習復習に必要な時間を確保してしっかり取り組むこと。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

毎回の授業時間内に授業時間外におけるプランニングおよび制作に対し、 チェックを行い個別指導をする。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	プランニング、テーマ、コンセプト制作［島名、玉野、戸澤］	今まで習得した専門知識を用いて、テーマやコンセプトを深く掘り下げる。
第2週	プランニング、テーマ、コンセプト制作［島名、玉野、戸澤］	今まで習得した専門知識を用いて、テーマやコンセプトを深く掘り下げる。
第3週	リサーチ・ディスカッション［島名、玉野、戸澤］	掘り下げたプランニング、テーマ、コンセプトを発表し、ディスカッションを行う。
第4週	実習①［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に制作を開始する。
第5週	実習②［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に制作を開始する。
第6週	検討会・ディスカッション①［島名、玉野、戸澤］	中間検討会とし、プランニングの確認をディスカッションを通して行う。
第7週	実習③［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に制作を進める。
第8週	実習④［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に制作を進める。
第9週	実習⑤［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に制作を進める。
第10週	検討会・ディスカッション②［島名、玉野、戸澤］	中間検討会とし、プランニングの確認をディスカッションを通して行う。
第11週	実習⑥［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に制作を進める。
第12週	実習⑦［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に制作を進める。
第13週	実習⑧［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に制作を進める。
第14週	実習⑨［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションした内容を元に制作を進める。
第15週	講評会・プレゼンテーション［島名、玉野、戸澤］	作品のプレゼンテーションを行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミC(島名・戸澤・玉野)					
担当教員	島名　毅／玉野　哲也／戸澤　逸美	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4410		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

現代社会において、グラフィックデザインやイラストレーションは、様々なメディアを通して人々に訴えかける重要な役割を担っている。本ゼミでは、それぞれの個性や表現力を活かしながら、多様なメディア表現の可能性を探求する。

到達目標

・メディア表現に関する専門的な知識と技術を習得する。
・自身の表現方法を確立し、多様なメディアで作品を制作する能力を身につける。
・作品を通して、社会や人々にメッセージを発信する力を養う。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品完成度	50%		
課題への取り組み	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『AdobeCC』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

教員は制作会社、広告代理店・フリーランス等、豊富な実務経験を持つ。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前に疑問点や自分諒意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館や関連資料を用いて自らの言葉で説明できるようにすること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、作品制作・ディスカッション・発表を中心に構成される。授業中は、他の学生発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	課題説明	自己紹介・テーマ選定
第2週	メディア表現の歴史と理論⑤	講義とディスカッション
第3週	メディア表現の歴史と理論⑥	講義とディスカッション
第4週	作品制作	コンセプト立案、企画
第5週	作品制作	コンセプト立案、企画
第6週	作品制作	デザイン、試作
第7週	作品制作	デザイン、試作
第8週	中間発表	中間プレゼンテーション・ディスカッション
第9週	作品制作	デザイン、制作
第10週	作品制作	デザイン、制作
第11週	作品制作	デザイン、制作
第12週	作品制作	デザイン、制作
第13週	作品制作	デザイン、制作
第14週	作品制作	仕上げ
第15週	講評会	プレゼンテーション・総括
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミD(島名・戸澤・玉野)					
担当教員	島名　毅／玉野　哲也／戸澤　逸美	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4411		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

現代社会において、グラフィックデザインやイラストレーションは、様々なメディアを通して人々に訴えかける重要な役割を担っている。本ゼミでは、それぞれの個性や表現力を活かしながら、多様なメディア表現の可能性を探求する。
4年間の集大成として、自信の考えを的確に言語化、及び作品として発表する。

到達目標

・メディア表現に関する専門的な知識と技術を習得する。
・自身の表現方法を確立し、多様なメディアで作品を制作する能力を身につける。
・作品を通して、社会や人々にメッセージを発信する力を養う。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品完成度	50%		
課題への取り組み	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『AdobeCC』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は制作会社、広告代理店・フリーランス等、豊富な実務経験を持つ。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前に疑問点や自分諒意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館や関連資料を用いて自らの言葉で説明できるようにすること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、作品制作・ディスカッション・発表を中心に構成される。授業中は、他の学生発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	課題説明	テーマ選定
第2週	メディア表現の歴史と理論⑦	講義とディスカッション
第3週	メディア表現の歴史と理論⑧	講義とディスカッション
第4週	作品制作	コンセプト立案、企画
第5週	作品制作	コンセプト立案、企画
第6週	作品制作	デザイン、試作
第7週	作品制作	デザイン、試作
第8週	中間発表	中間プレゼンテーション・ディスカッション
第9週	作品制作	デザイン、制作
第10週	作品制作	デザイン、制作
第11週	作品制作	デザイン、制作
第12週	作品制作	デザイン、制作
第13週	作品制作	デザイン、制作
第14週	作品制作	仕上げ
第15週	講評会	プレゼンテーション・総括
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業制作(グラフィック・イラスト)						
担当教員	島名　毅／玉野　哲也／戸澤　逸美	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	8
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4512		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

本授業では卒業制作として、グラフィックデザイン分野におけるオリジナル作品を制作する。グラフィックデザインがビジュアルデザインの有効な手段であることを認識し、社会に発信できる作品制作を通して、問題解決のために提案していく専門的な能力を身につける。
なお、本科目は主なグラフィックデザインについて次の①から③の内容で担当教員が 指導する(週4コマ、30週)。

① 印刷・エディトリアルなどの作品を通して、異なるメディアにおいてメッセージを発信していく能力を身につける。[玉野哲也]
② アートディレクション、ブランディングなどの作品制作を通して、問題発見及び問題解決していく能力を身につける。[島名毅]
③ パッケージ、イラストレーションなどの作品制作を通して、広く伝えるデザインを発信していく能力を身につける。[戸澤逸美]

到達目標

4年間の集大成として、グラフィックデザインに立脚し、現代社会の多様な問題について考察し、 問題解決のために提案していく完成度の高い作品を制作することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
コンセプト・作品の完成度	60%		
プレゼンテーション	20%		
授業姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『AdobeCC』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

担当教員は広告代理店、制作会社、フリーランスでの実務経験を有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
課題を意識し、周囲を観察すること。 新しい発見や知識は、その都度メモを取り、ノートにまとめること。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

毎回の授業時間内に授業時間外におけるプランニング及び制作に対し、 チェックを行い、個別指導する。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	プランニング1-① テーマ、コンセプト制作1［島名、玉野、戸澤］	1年間を通して研究するに値するテーマ、コンセプトの立案
第2週	プランニング1-② テーマ、コンセプト発表［島名、玉野、戸澤］	1年間を通して研究するに値するテーマ、コンセプトの立案
第3週	リサーチ・ディスカッション1［島名、玉野、戸澤］	テーマ、コンセプトのディスカッション
第4週	検討会・ディスカッション1 ［島名、玉野、戸澤］	テーマ、コンセプトの発表及びディスカッション
第5週	実習1-①［島名、玉野、戸澤］	設定したテーマ、コンセプトに基づき、試作開始
第6週	実習1-② ［島名、玉野、戸澤］	設定したテーマ、コンセプトに基づき、試作
第7週	検討会・プレゼンテーション1［島名、玉野、戸澤］	試作した作品の中間検討会を行う
第8週	プランニング2-① テーマ、コンセプト制作［島名、玉野、戸澤］	検討された内容に基づき、テーマ、コンセプトを練り上げる
第9週	プランニング2-② テーマ、コンセプト発表［島名、玉野、戸澤］	検討された内容に基づき、テーマ、コンセプトを練り上げる
第10週	リサーチ・ディスカッション2［島名、玉野、戸澤］	練り上げたテーマ、コンセプトについてディスカッションを行う
第11週	検討会・ディスカッション2［島名、玉野、戸澤］	練り上げたテーマ、コンセプトの発表及び、ディスカッションを行う
第12週	実習2-①［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションに基づき、試作
第13週	実習2-②［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションに基づき、試作
第14週	実習2-③［島名、玉野、戸澤］	ディスカッションに基づき、試作
第15週	講評会・プレゼンテーション2 ［島名、玉野、戸澤］	プレ卒業制作として、試作した作品をプレゼンテーションを行い、講評会を行う。
第16週	プランニング3-① 制作計画の立案［島名、玉野、戸澤］	卒業制作展に発表する作品を計画的に進めるための計画の立案
第17週	実習3-①［島名、玉野、戸澤］	制作
第18週	実習3-②［島名、玉野、戸澤］	制作
第19週	実習3-③［島名、玉野、戸澤］	制作
第20週	検討会・ディスカッション3-①［島名、玉野、戸澤］	制作の進捗の確認及びディスカッション
第21週	実習3-④［島名、玉野、戸澤］	制作
第22週	実習3-⑤［島名、玉野、戸澤］	制作
第23週	実習3-⑥［島名、玉野、戸澤］	制作
第24週	実習3-⑦［島名、玉野、戸澤］	制作
第25週	中間講評会・ディスカッション3-②［島名、玉野、戸澤］	卒業制作完成70%の段階で、展示計画とともに中間講評会を行う。
第26週	実習3-⑧［島名、玉野、戸澤］	制作
第27週	実習3-⑨［島名、玉野、戸澤］	制作
第28週	実習3-⑩［島名、玉野、戸澤］	制作
第29週	実習3-⑪［島名、玉野、戸澤］	制作
第30週	講評会・プレゼンテーション3［島名、玉野、戸澤］	卒業制作作品を展示した状態で、最終講評会を行う。

授業科目	情報・プロダクトデザイン研究C						
担当教員	鳥宮　尚道／宮本　一行	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4606		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「情報デザイン研究A、B」で学んだ専門的知識とスキルを踏まえ、日常の中にコミュニケーションの問題点を発見し、それをテーマとして観察・分析・デザイン提案をおこなうための演習をおこなう。これまでに身につけたデザイン提案のための一連のプロセスを洗練させることが目的である。また、最終年次の卒業制作に向け、デザイン提案にいたるまでの発想を各自が意識的に広げることに重点を置く。授業はグループワークで行い、途中、グループごとの発表、ディスカッション、相互批評の機会を設けながら進める。

到達目標

① 自発的に、デザインの課題を発見することができる。
② みずから発見した課題を解決するためのアイディアを複数考え、それらを収束させてデザイン提案に結びつけることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
各回の報告	40		
最終報告書	60		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

製品開発や作品制作・発表の実務経験を複数有し、様々な制作・アプローチのノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
課題についての情報収集および整理、不明点の確認を繰り返し行うこと。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

制作過程の記録、データ管理をしっかりと行ってください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	課題発見のためのブレインストーミング（鳥宮・宮本）	課題テーマについて事例をもとに解説。テーマについてディスカッションを行う。
第2週	デザイン・リサーチ①（鳥宮・宮本）	各々がテーマについての考察を行う。ディスカッションしながら解釈を深める。
第3週	デザイン・リサーチ②（鳥宮・宮本）	各々がテーマについての考察を行う。ディスカッションしながら解釈を深める。
第4週	中間発表1 準備（鳥宮・宮本）	各々のデザインコンセプト策定のためにテーマ解釈を整理する。
第5週	中間発表1（鳥宮・宮本）	デザインコンセプトの発表。今後の進め方についてディスカッションを行う。
第6週	デザイン・リサーチ③ フィールドワーク（鳥宮・宮本）	デザインコンセプトに基づいて各自フィールドワークを行う。
第7週	デザイン・リサーチ④ フィールドワーク（鳥宮・宮本）	デザインコンセプトに基づいて各自フィールドワークを行い、内容を整理する。
第8週	中間発表2 、フィードバック（鳥宮・宮本）	フィールドワークを通じた検討について各自から報告。ディスカッションを行う。アウトプットの目星をつける。
第9週	デザイン提案のための制作①	試作を行いながらアウトプットの検討を行う。適宜アドバイスを行う。
第10週	デザイン提案のための制作②	試作を行いながらアウトプットの検討を行う。適宜アドバイスを行う。
第11週	デザイン提案のための制作③	本制作に取り組む。適宜アドバイスを行う。
第12週	デザイン提案のための制作④	本制作に取り組む。適宜アドバイスを行う。
第13週	デザイン提案のための制作⑤	本制作に取り組む。適宜アドバイスを行う。
第14週	成果報告会準備	報告会に向けて発表準備を行う。
第15週	成果報告会、フィードバック	各自のアウトプットについての報告会。講評を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	情報・プロダクトデザイン研究D						
担当教員	鳥宮　尚道／宮本　一行	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4607		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「情報デザイン研究A、B、C」で習得した専門的知識とスキルなどを駆使し、それぞれが問題点を発見し、それをテーマとして観察・分析・デザイン提案・発信を身につけるための演習をおこなう。各自の進度に合わせて個別に指導をおこなうほか、発表、ディスカッション、相互評価の機会を設けながら授業を進める。

到達目標

① 自発的にデザインの課題を発見し、デザインに結びつけることができる。
② 効果的なプレゼンテーションを行うためのスキルを身につける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
各回の報告	40		
最終報告書	60		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Apple Creative Cloud』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

製品開発や作品制作・発表の実務経験を複数有し、様々な制作・アプローチのノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
課題についての情報収集および整理、不明点の確認を繰り返し行うこと。	４時間から５時間程度/週

受講時の注意事項

制作過程の記録、データ管理をしっかりと行ってください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ブレインストーミング（鳥宮・宮本）	課題テーマについての解説。テーマについてディスカッションを行う。
第2週	デザイン・リサーチ①（鳥宮・宮本）	各自がテーマについての考察を行う。ディスカッションしながら解釈を深める。
第3週	デザイン・リサーチ②（鳥宮・宮本）	各自がテーマについての考察を行う。ディスカッションしながら解釈を深める。
第4週	コンセプトメイキング①（鳥宮・宮本）	リサーチ結果を参考にコンセプトのアイデアを広げる。
第5週	コンセプトメイキング②（鳥宮・宮本）	各々のアイデアについて今後の可能性についてディスカッションを行う。
第6週	中間発表 準備（鳥宮・宮本）	デザインコンセプト策定のためにテーマ解釈を整理する。
第7週	中間発表、フィードバック（鳥宮・宮本）	デザインコンセプトの発表。今後の進め方についてディスカッションを行う。
第8週	プロトタイプ制作①（鳥宮・宮本）	試作を行いながらアウトプットの検討を行う。適宜アドバイスを行う。
第9週	プロトタイプ制作②（鳥宮・宮本）	試作を行いながらアウトプットの検討を行う。適宜アドバイスを行う。
第10週	デザイン提案のための制作①（鳥宮・宮本）	本制作に取り組む。適宜アドバイスを行う。
第11週	デザイン提案のための制作②（鳥宮・宮本）	本制作に取り組む。適宜アドバイスを行う。
第12週	デザイン提案のための制作③（鳥宮・宮本）	本制作に取り組む。適宜アドバイスを行う。
第13週	デザイン提案のための制作④（鳥宮・宮本）	本制作に取り組む。適宜アドバイスを行う。
第14週	成果報告会準備（鳥宮・宮本）	報告会に向けて発表準備を行う。
第15週	成果報告会、フィードバック（鳥宮・宮本）	各自の成果物について発表。講評を行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミC(鳥宮・宮本)						
担当教員	鳥宮　尚道／宮本　一行	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4410		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

独自のテーマや専門分野における課題について担当教員の指導のもと、個人またはグループでの研究、発表を行います。自ら企画し取り組むことを身につけ、説得力ある提案について理解する。特に将来を見据えた制作活動に重きを置き、各自の研究を深める。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
成果物の発表	60		
課題に取り組む姿勢	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Apple Creative Cloud』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は様々な作品制作、発表、研究、開発のノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
必ず予習を行い事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は他の学生の発表を良く聞き、積極的に議論に参加すること。各自、制作データの管理を行うこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（鳥宮・宮本）	各自の個別テーマの検討（鳥宮・宮本）
第2週	研究計画の作成（鳥宮・宮本）	各自のテーマについてディスカッション
第3週	研究①（鳥宮・宮本）	テーマや領域の現状
第4週	研究②（鳥宮・宮本）	テーマや領域の課題
第5週	研究③（鳥宮・宮本）	先行研究や事例
第6週	中間発表（鳥宮・宮本）	ここまでの取り組みを整理する。ディスカッション。
第7週	研究④（鳥宮・宮本）	研究テーマの決定
第8週	研究⑤（鳥宮・宮本）	研究手法・調査についての確認
第9週	研究⑥（鳥宮・宮本）	調査の実施と制作
第10週	研究⑦（鳥宮・宮本）	調査を踏まえ検証と制作
第11週	研究⑧（鳥宮・宮本）	追加調査の実施と制作
第12週	研究⑨（鳥宮・宮本）	最終検証と制作
第13週	研究⑩（鳥宮・宮本）	発表準備
第14週	最終発表（鳥宮・宮本）	ディスカッションを行う
第15週	まとめ（鳥宮・宮本）	各々の研究についてまとめと振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミD(鳥宮・宮本)						
担当教員	鳥宮　尚道／宮本　一行	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4411		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

独自のテーマや専門分野における課題について担当教員の指導のもと、個人またはグループでの研究、発表を行います。自ら企画し取り組むことを身につけ、説得力ある提案について理解する。特に将来を見据えた制作活動に重きを置き、各自の研究を深める。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
成果物の発表	60		
課題に取り組む姿勢	40		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は様々な作品制作、発表、研究、開発のノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
必ず予習を行い事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は他の学生の発表を良く聞き、積極的に議論に参加すること。各自、制作データの管理を行うこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（鳥宮・宮本）	各自の個別テーマの検討
第2週	研究計画の作成（鳥宮・宮本）	各自のテーマについてディスカッション
第3週	研究①（鳥宮・宮本）	テーマや領域の現状
第4週	研究②（鳥宮・宮本）	テーマや領域の課題
第5週	研究③（鳥宮・宮本）	先行研究や事例
第6週	中間発表（鳥宮・宮本）	ここまでの取り組みを整理する。ディスカッション
第7週	研究④（鳥宮・宮本）	研究テーマの決定
第8週	研究⑤（鳥宮・宮本）	研究手法・調査についての確認
第9週	研究⑥（鳥宮・宮本）	調査の実施と制作
第10週	研究⑦（鳥宮・宮本）	調査を踏まえ検証および制作
第11週	研究⑧（鳥宮・宮本）	追加調査の実施と制作
第12週	研究⑨（鳥宮・宮本）	最終検証と制作
第13週	研究⑩（鳥宮・宮本）	発表準備
第14週	最終発表（鳥宮・宮本）	ディスカッションを行う
第15週	まとめ（鳥宮・宮本）	各々の研究についてまとめと振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業制作(情報・プロダクトデザイン)						
担当教員	鳥宮　尚道／宮本　一行	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	8
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4612		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業では、卒業制作として、情報デザイン分野におけるオリジナル作品を制作する。4年間の学習及び 成果の集大成として、これまでに習得した専門知識や表現技術を踏まえ、各自のテーマに沿って情報デザインの企画・提案をすることを目標とする。中間報告会やディスカッションなど、学生間での相互評価の機会 も積極的に取り入れ、総合的かつ実践的な情報デザインの提案を身につける。

到達目標

① これまでに学んだ成果の集大成として、主体的にテーマの設定および情報デザイン・プロダクトデザインの提案を行うことができる。
② 適切なプレゼンテーションを行い、成果を他者に伝えることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
制作に対する意欲(各回の報告)	30		
制作物の完成度	70		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Adobe Creative Cloud』					

参考書等

特になし

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

教員は作品制作、発表、研究、開発のノウハウを有する。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回全員からの進捗報告を求めるので、スケジュールを確認し、制作作業・データを整理したうえで授業に臨むこと。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

制作過程の記録、データ管理をしっかりと行ってください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション、取り組む準備（鳥宮・宮本）	卒業制作の1年間の流れについて説明する
第2週	事例研究①（鳥宮・宮本）	各自のアイデアの参考になる事例を紹介する。 アイデアについて各自発表を行う。
第3週	事例研究②（鳥宮・宮本）	各自のアイデアの参考になる事例を紹介する。 アイデアについて各自発表を行う。
第4週	中間発表会の準備① 情報収集（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第5週	中間発表会の準備② 資料作成（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第6週	中間発表会、ディスカッション（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第7週	プレ制作の準備① テーマ検討（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第8週	プレ制作の準備② テーマ検討（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第9週	プレ制作の準備③ 情報収集（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第10週	プレ制作の準備④ テーマ決定（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第11週	プレ制作①（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第12週	プレ制作②（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第13週	プレ制作③（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第14週	プレ制作④ 発表会の準備（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第15週	卒業制作テーマ報告会、ディスカッション（鳥宮・宮本）	進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第16週	プロトタイプ制作①（鳥宮・宮本）	後期スケジュールの確認を行う。 進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第17週	プロトタイプ制作②（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第18週	プロトタイプ制作③（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第19週	プロトタイプ制作④（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 進捗について報告を求め、適宜アドバイスを行う。
第20週	実制作①（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 作業状況を確認し、適宜アドバイスを行う。
第21週	実制作②（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 作業状況を確認し、適宜アドバイスを行う。
第22週	実制作③（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 作業状況を確認し、適宜アドバイスを行う。
第23週	実制作④（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 作業状況を確認し、適宜アドバイスを行う。
第24週	実制作⑤（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 作業状況を確認し、適宜アドバイスを行う。
第25週	実制作⑥（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 作業状況を確認し、適宜アドバイスを行う。
第26週	実制作⑦（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 作業状況を確認し、適宜アドバイスを行う。
第27週	実制作⑧（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 作業状況を確認し、適宜アドバイスを行う。
第28週	実制作⑨（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。 作業状況を確認し、適宜アドバイスを行う。
第29週	成果発表（鳥宮・宮本）	各自の進行に合わせて制作に取り組む。作品説明パネルの制作を行う
第30週	ディスカッション、まとめ（鳥宮・宮本）	卒業制作展に向けての準備を行う

授業科目	ファッション・デジタルファブリケーション研究C						
担当教員	石岡　美久／今　義典／鳥宮　尚道／ 山本　武	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4706		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ファッションの歴史に触れながら、現代の要求に答えられる計画からデザインまでを行い、企画・生産・PR・販売までを通して、マーケットを意識した企画、商品デザインのアプローチを身に付け、魅力的なブランド企画とプレゼンテーションスキルを身につけます。また制作した被服は、メイクやコーディネートなどを含め、スチルによる撮影を行ない、宣材素材制作までを学びます。

到達目標

①企画・生産・PR・販売までマーケットを意識した企画、商品デザインを身に付ける。
②魅力的なブランド企画とプレゼンテーションスキルを養う。
③高度な製作技術のテクニックの習得とスキルアップ。
④メイクやコーディネートなどを含め、スチルによる撮影を行ない、宣材素材制作までを学ぶ。
⑤アパレルCADを使った作品の制作。
⑥インターネットでの販売スキル・ノウハウを習得。
⑦オンラインサービス等を利用し、デジタルを応用したサービス構築の能力を養う。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。	○	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
制作物の完成度	60%		
課題に対する理解度	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
課題に取り組むために、各自、事前のリサーチ、情報収集および整理、制作の事前準備を欠かさないでください。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

対面式の教室での学習に加え、コンピュータを利用した活動（eラーニング）を組み合わせながら、教材や指示について、部分的にオンライン（共有フォルダやグループウエアなど）を用い授業を進めます。能動的な学習（アクティブラーニング）が求められる。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	企画デザイン、リサーチ(石岡) オリエンテーション（鳥宮）	撮影に向けた企画デザイン ECサイトの抽出
第2週	パターン製作（石岡） ECサイト研究①（鳥宮）	撮影するオリジナルアイテムの製作（パターン） サイト特徴抽出、分析
第3週	パターン製作（石岡） ECサイト研究②（鳥宮）	撮影するオリジナルアイテムの製作（パターン） 抽出したサイトをマップ化
第4週	パターン製作（石岡） ECサイト研究③（鳥宮）	撮影するオリジナルアイテムの製作（パターン） マップ化らの情報整理
第5週	パターン製作（石岡） ブランド構築①（鳥宮）	撮影するオリジナルアイテムの製作（工業用パターン） パルソナを設定し、架空ブランドの構築
第6週	裁断、縫製（石岡） ブランド構築②（鳥宮）	撮影するオリジナルアイテムの製作（裁断、縫製） ブランドコンセプトの構築
第7週	縫製（石岡） まとめ（鳥宮）	撮影するオリジナルアイテムの製作（縫製） 各自作成したブランドについて発表
第8週	縫製（石岡） ECサイト基礎①（山本）	撮影するオリジナルアイテムの製作（縫製） ECサイト制作・運用の基礎知識①。ASPツールのアカウント作成
第9週	縫製（石岡） ECサイト基礎②（山本）	撮影するオリジナルアイテムの製作（縫製） ECサイト制作・運用の基礎知識②。商品ページ制作
第10週	仕上げ（石岡） ECサイト基礎③（山本）	完成度を高めるための仕上げ ASPツールを使用したデザイン制作
第11週	撮影（今） サイト構築①（山本）	作品セレクションと整理、準備 サイト企画～ECサイトデザイン
第12週	撮影（今） サイト構築②（山本）	カメラマン、PCオペレーター、助手の役割決め、屋内外で撮影を行う① ECサイトデザイン～デザイン提出
第13週	撮影・編集（今） サイト構築③（山本）	カメラマン、PCオペレーター、助手の役割決め、屋内外で撮影を行う② サイト構築①
第14週	編集・印刷（今） サイト構築④（山本）	撮影画像セレクション、画像補正、出力 サイト構築②
第15週	印刷、装填（今） 講評会（今、石岡）	３限（出力・装填） ４限（最終講評会）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ファッション・デジタルファブリケーション研究D					
担当教員	石岡　美久	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4707		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

企画・生産・PR・販売までを通して、マーケットを意識した企画、商品デザインのアプローチを身に付け、魅力的なブランド企画とプレゼンテーションスキルを身につけます。
制作において、細かいディテール等高度なスキルを身につけより高いクオリティを目指します。

到達目標

①企業デザイナーとしてのスキルを身につけることができる。
②オリジナルブランドを立ち上げるスキルを身につけることができる。
③プロとしての衣料の知識を身につけることができる。
④制作において、商品として販売できるクオリティの高い衣料を生産できること。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。	○	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
制作物の完成度	60%		
課題に対する理解度	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

アパレル企業、テキスタイルデザイン会社での実務経験。
オリジナルブランドの企画製作販売。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
課題に取り組むために、各自、事前のリサーチ、情報収集及び整理、製作の事前準備を欠かさないでください。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

対面式の教室での学習に加え、コンピュータを利用した活動（eラーニング）を組み合わせながら、教材や指示について、部分的にオンライン（共有フォルダやグループウエアなど）を用い授業を進めます。能動的な学習（アクティブラーニング）が求められる。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ポートフォリオ	ポートフォリオの作成について
第2週	素材研究	独自のマテリアル研究、製作
第3週	パターン研究	パターンによるサイズ展開 袖の研究
第4週	パターン研究	様々なデザインに対応できるパターンの展開
第5週	パターン研究	パンツのパターン展開
第6週	縫製研究	パンツの縫製 その他部分縫い
第7週	テキスタイル研究	プリントデザイン、柄、配色の構成
第8週	製作①	オリジナルアイテム製作
第9週	製作②	オリジナルアイテム製作
第10週	製作③	オリジナルアイテム製作
第11週	製作④	オリジナルアイテム製作
第12週	製作⑤	オリジナルアイテム製作
第13週	製作⑥	オリジナルアイテム製作
第14週	製作⑦	オリジナルアイテム製作
第15週	プレゼンテーション 講評会	プレゼンテーション 講評会
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミC(石岡先生)						
担当教員	石岡　美久	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4410		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

様々なメディアは、ソフトウエアとハードウエアの関係と同様に、コンテンツ(創作物)を内包する形式であり、その形式の特性によってコンテンツ（創作物）は自ずと影響を受けることになります。そうした表現する手段の一つとして、メディア表現における独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導の下、グループ、または個人での研究・発表を行います。４年は特に将来を見据えた創作活動に重きを置き、各自の研究を深めていきます。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

自身のファッションショーや、舞台、CM撮影における創作及び現場でのフィッティング、スタイリング。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、必ず予習を行い、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス 研究テーマの検討	各自研究内容を検討
第2週	研究計画書の作成	研究内容、発表を目処に計画書を作成
第3週	研究①	メディア表現媒体としての現場体験
第4週	研究②	メディア表現媒体としての現場体験
第5週	研究③	メディア表現媒体としての現場体験
第6週	研究④	メディア表現媒体としての現場体験
第7週	研究⑤	メディア表現媒体としての現場体験
第8週	研究⑥	創作
第9週	研究⑦	創作
第10週	研究⑧	創作
第11週	研究⑨	創作
第12週	研究⑩	創作
第13週	研究11	実施
第14週	研究12	検証
第15週	まとめ 発表	プレゼンテーション
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	メディア表現ゼミD(石岡先生)						
担当教員	石岡　美久	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4411		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

様々なメディアは、ソフトウエアとハードウエアの関係と同様に、コンテンツ(創作物)を内包する形式であり、その形式の特性によってコンテンツ（創作物）は自ずと影響を受けることになります。そうした表現する手段の一つとして、メディア表現における独自のテーマや自身の専門分野における課題について担当教員の指導の下、グループ、または個人での研究・発表を行います。４年は特に将来を見据えた創作活動に重きを置き、各自の研究を深めていきます。

到達目標

・研究テーマについて、専門的な知識を身につけることができる。
・情報の収集、整理・分析、まとめ表現する力を身につけることができる。
・自ら考えた、課題発見から解決までを進め、表現としての態度を学ぶことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での発表	70%		
授業内課題・授業内での質疑応答および発言	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

自身のファッションショーやCM,舞台等においての創作及び現場経験

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、必ず予習を行い、難解な言葉や言い回しは事前に調べておくこと。事前に疑問点や自分の意見等を整理し、授業内で発言できるよう準備すること。授業後は、授業内の論点を整理し、必要があれば図書館等で関連資料を用いて次の授業で説明できるよう準備すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業は、学生の発表および議論を中心に構成される。必ず予習を行うこと。また、授業中は、他の学生の発表および発言を良く聞き、積極的に議論に参加すること。2時間目の課題学習、テーマ別課題学習の際には、主体的に学習すること。対面、オンライン、オンデマンドの授業形態も事前にクラスルームで告知するので、必ず授業毎に確認しておくこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ･ラーニングにおけるグループワーク･プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	各自の個別テーマの検討
第2週	研究計画書の作成	研究内容の検討、計画書の作成
第3週	研究①	素材研究
第4週	研究②	素材研究
第5週	研究③	表現技法の研究
第6週	研究④	表現技法の研究
第7週	研究⑤	表現技法の研究
第8週	中間発表	中間発表
第9週	研究⑥	実施
第10週	研究⑦	実施
第11週	研究⑧	検証
第12週	研究⑨	実施
第13週	研究⑩	実施
第14週	研究11	実施
第15週	まとめ 発表	研究内容の発表
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業制作(ファッション・デジタルファブリケーション)						
担当教員	石岡　美久	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	8
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	EM-MS 4712		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

より社会に適応する為の柔軟性と、各々が目的に沿ったテーマやデザインを提案すること。
デザインに適したシルエットやフォルム、素材作り。
クオリティの高い縫製技術と仕上げの完成度。
魅力的なブランド企画とプレゼンテーションスキルを身につける。

到達目標

時代を読み解き、独自の企画デザイン提案ができる。
コンセプトやテーマに沿ったデザイン、素材、シルエットを作ることができる。
バランスの良い仕上がり、完成度。
より伝わりやすいプレゼンテーションを行うことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。		3.西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
	4.知識活用：４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.４年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品完成度	50%		
企画	30%		
プレゼンテーション	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

アパレル企業、テキスタイルデザイン会社での実務経験。
オリジナルブランド、店舗運営。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自主的にディティールやデザインソースとなるものを集めること。授業内で得た知識をまとめること。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	企画デザイン	企画内容を検討
第2週	企画デザイン	テーマやコンセプトの設定 デザイン出し
第3週	マーチャンダイジング	企画書製作におけるリサーチ、マップ作成
第4週	スタイリング	トータルコーディネート
第5週	マテリアル①	素材製作
第6週	マテリアル②	素材製作
第7週	パターン①	パターンの作成
第8週	パターン②	パターンの作成
第9週	パターン③	パターンの作成
第10週	パターン④	パターンの作成
第11週	パターン⑤	パターンの作成
第12週	パターン⑥	パターンの作成
第13週	パターン⑦	パターンの作成
第14週	パターン⑧	パターンの作成
第15週	パターン⑨	工業用パターン
第16週	縫製①	裁断
第17週	縫製②	縫製
第18週	縫製③	縫製
第19週	縫製④	縫製
第20週	縫製⑤	縫製
第21週	縫製⑥	縫製
第22週	仕上げ	製作物の仕上げ
第23週	企画書、ポートフォリオ	企画書、ポートフォリオの確認
第24週	創作①	展示に関する小物等の製作
第25週	創作②	展示に関する小物等の製作
第26週	創作③	展示に関する小物等の製作
第27週	創作④	展示に関する小物等の製作
第28週	創作⑤	展示に関する小物等の製作
第29週	最終仕上げ	作品、企画書の仕上げ
第30週	発表、講評会	プレゼンテーション、講評会

授業科目	専門演習III（西浦クラス）						
担当教員	西浦　功	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4007		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

受講生の卒業研究に関連する分野の文献輪読とディスカッションを通じて、卒業研究の質を高めるための知識を獲得し、自身の問題関心に沿って福祉的な観点から思考を深めることが、本科目の授業目的である。

到達目標

① 自身の研究領域における課題の現状や先行研究について、具体的かつ整理された形で説明できる。
② 自身の研究領域における課題に対して、福祉的な思考に基づいて自分の意見を構築することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。	3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
期末レポート	５０		
発表内容・グループワークへの参加	５０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各回の演習では、主として各発表者の報告内容にかんするディスカッションを通じて、互いの研究内容を深化させることを目的とする。事前に提示される報告資料については良く読み込み、発表者に対する質問や意見について事前にまとめておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。またレポートについては後日担当教員からフィードバックを行うので、改善を要する点についてきちんと確認すること。

アクティブ・ラーニング情報

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	前期ガイダンス	
第2週	「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク①	リサーチ報告
第3週	「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク②	文献発表
第4週	「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク③	ディスカッション
第5週	「若者と職場」に関するグループワーク①	リサーチ報告
第6週	「若者と職場」に関するグループワーク②	文献発表
第7週	「若者と職場」に関するグループワーク③	ディスカッション
第8週	「多様性と福祉」に関するグループワーク①	リサーチ報告
第9週	「多様性と福祉」に関するグループワーク②	文献発表
第10週	「多様性と福祉」に関するグループワーク③	ディスカッション
第11週	「犯罪とコミュニティ」に関するグループワーク①	文献発表
第12週	「犯罪とコミュニティ」に関するグループワーク②	ディスカッション
第13週	「紛争化する国際社会への対策」に関するグループワーク①	文献発表
第14週	「紛争化する国際社会への対策」に関するグループワーク②	ディスカッション
第15週	前期の振り返り	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習III（加藤クラス）						
担当教員	加藤　裕明	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4007		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

3年次での議論を踏まえて、卒業論文に必要な先行研究の検討を進めます。
ゼミ内でお互いの進捗状況を確認し、対話を通して卒論の構成を再検討していきます。

到達目標

①卒論執筆の意義を理解できる。
②それぞれのテーマを確定できる。
③先行研究の検討を進めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
卒論の中間発表用原稿の提出・発表	50%		
ゼミ内での各自の卒論原稿の提出・発表	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。』					

参考書等

なし。それぞれの先行研究として必要な文献。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

加藤は、札幌市立高等学校に30年間勤務し、教科指導、ＨＲ指導、部活動指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきました。そしてこの間、演劇部活動、演劇教育の実践を質的方法によって研究し、博士学位（Ph.D教育学）を取得しました。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
自分のテーマに関する先行研究の文献を図書館で探し、あるいは書店で購入し、文献調査、文献研究を行う。	４時間から８時間程度/週

受講時の注意事項

毎回パソコン持参のこと（スマホ不可）
提出物の期限の厳守

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	「卒業論文」の問題意識	卒業論文を執筆する意義を確認し、「問題意識」を執筆、確定する
第2週	先行研究の確認①	それぞれのテーマに沿った先行研究について、その内容を発表し合う。
第3週	先行研究の確認②	それぞれのテーマに沿った先行研究について、その内容を発表し合う。
第4週	章立ての確認	それぞれの卒業論文の章立てを確認し、発表する。
第5週	調査計画を立てる	卒論執筆に必要な調査計画を立てて、報告する。
第6週	調査準備	具体的に調査準備を始め、インタビューの構成などを確認する。
第7週	はじめに（問題関心）の執筆	各自の「はじめに」（問題関心）を発表し、対話する
第8週	第1章の執筆	各自の第1章を発表し、対話する。
第9週	第1章の修正と第2章の執筆	各自の第1章を加筆・修正する。
第10週	第2章の修正と第3章の報告	お互いに発表し合い、論理的な構成に齟齬がないかを確認する。
第11週	第3章修正版の報告と第4章の執筆	お互いに発表し合い、文章中に研究不正がないか、確認する。
第12週	第4章の修正と第5章の執筆	お互いに発表し合い、文章の正確さ、明瞭さを確認する。
第13週	第5章の修正と「総合考察」の執筆	お互いに発表し合い、文章の論理の一貫性を確認する。
第14週	卒論の中間報告の準備－PP資料の作成①	パワーポイント資料を発表し、本番に向け、論理の整合性、一貫性を確認する。
第15週	卒論の中間報告の準備－PP資料の作成②	卒論中間報告会において発表する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習III（西脇クラス）						
担当教員	西脇　裕之	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4007		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「コミュニケーションの社会学」をテーマとして演習を行い、テキストや論文を読み解く練習を重ねます。
「卒業研究Ⅰ」の授業と連動しつつ、各自の卒業研究のテーマに関わる資料を幅広く収集し、論点をつかみ出していきます。
この授業の目標はテーマに沿った資料を収集して論点を抽出してまとめていくことです。
期末には卒業研究の先行研究をまとめたレポートを執筆することをめざします。

到達目標

1．テキストや論文の論点を的確につかむことができる。
2．卒業研究のテーマに関する資料を広く収集することができる。
3．パラグラフを意識した文章作成ができる。
4．卒業研究の先行研究をまとめることができる。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向け積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用））

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業と研究への取り組み態度	30%		
資料収集の広さと適切性	20%		
先行研究のまとめレポートの出来栄え	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『最新版 論文の教室』	戸田山和久	NHK出版	2022	9784140912720	

参考書等

阿部幸大（著）『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習=毎回授業で報告し、相互に検討する材料を用意すること。 復習=授業内での相互検討や指導の結果を整理して、次回の話題提供の材料に反映させること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

授業時間は各自の自己学習の成果である卒論作成の進捗状況を報告し、検討し合う場であるので、話題提供できる材料を用意して授業に臨んでください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：卒業研究のテーマの確認	各自の卒業研究のテーマについて、ゼミ内で報告し検討します。
第2週	各自のテーマとコミュニケーションの社会学との関連	各自の卒業研究のテーマが、コミュニケーションの社会学とどのように関わっていくか、検討します。
第3週	問いと主張と論証	論文の本体が問題提起と問題の分析・定式化、主張、論証から成り立つことを学びます。この3要素が明快であることがよい論文の必要条件となることを学びます。
第4週	アブストラクトとは	アブストラクトとは何か、そこに書くべきことは何か、学びます。
第5週	コミュニケーション論の論文を読む	コミュニケーション論に関わる論文を読んで、論文の組み立てやイメージをつかみます。
第6週	アウトラインとは	卒業論文の設計図となり、骨格となるアウトラインとは何か、学びます。
第7週	卒業研究に関する資料探索	自分の卒業研究のテーマに関わる資料を探して収集します。
第8週	卒業研究に関する文献講読	収集した文献を読みこんで、ゼミ内で報告をします。
第9週	データを読む	統計データや調査の結果から、その含意を読み取る練習をします。
第10週	文献を批判的に読む	文献資料の構造を把握して、その要点を読み取ることを心がけて文献を読みます。また、取り上げた文献の限界や補完すべき点などを指摘していく練習をします。
第11週	「パラグラフ」を作る	トピック・センテンスをもとにパラグラフを作る練習をします。また、長い文章をパラグラフの連鎖として組み立てる手法を学びます。
第12週	ブロック引用の練習	文献から必要な部分を抜き出して引用する仕方を練習します。
第13週	要約引用の練習	文献から必要な情報を要約して引用する仕方を練習します。
第14週	卒業研究に関するマクロなデータの収集と分析	自分の卒業研究のテーマに関する、全体的な状況についてのデータを収集して検討します。
第15週	卒業研究に関する先行研究のまとめ	自分の卒業研究のテーマに関わる先行研究をレビューして、1本のレポートにまとめます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習III（金昌震クラス）						
担当教員	金　　昌震	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4007		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

専門演習Ⅰ・Ⅱ、フィールドワークからの学びを積み上げて卒業論文の執筆に取り組みます。卒業論文は、テーマを選択、先行研究の収集と整理、リサーチクエスチョンの設定、資料の読解と資料収集を繰り返しながら書き進めていきます。時にはリサーチクエスチョンの見直しが必要となる場面もありますが、迷った時には何を深めたかったかを確認します。本授業では、経営学的視点から課題を把握し、リサーチクエスチョンを設定し、議論することで理論的思考を習得します。

到達目標

①経営学の観点から課題を把握することができるようになる。
②自らリサーチクエスチョンを設定することができるようになる。
③ゼミ内でのディスカッションを通じて自分の意見を整理して議論できるようになる。
④学術論文を読み深めることができるようになる。
⑤研究の方法論を選択できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用））

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
事前・事後課題	50%		
授業への参加度（発表、討議）	30%		
最終レポート	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
卒業論文は章立てをして毎日少しずつ執筆しなくては完成しません。毎回の授業時には執筆状況の確認をしますので、毎週加筆・修正を繰り返しながら授業に取り組んでください。そのためには、多くの時間を要することを忘れないようにしましょう。	4時間から6時間程度/週

受講時の注意事項

授業時間内での全体に対する論文指導と共に時間外の個別指導の時間が増えます。ゼミ生同士のディスカッションと教員のアドバイスを元に論文を精査し自主的に執筆を進めてください。

アクティブ・ラーニング情報

グループワークが基本となります。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、卒業論文執筆の意義	卒業論文は、自分の興味のあるテーマについて深く掘り下げ、学問的な探求を行います。文献調査、データ分析、実験などを通して、新たな知見を得たり、既存の理論を検証したりします。卒業論文を執筆する意義について説明します。
第2週	研究テーマの報告（PowerPointかGoogleプレゼンテーション）	自分で考えた研究テーマを報告してもらいながら、プレゼンテーションの基本を身につけます。
第3週	先行研究のレビュー報告①	パラグラフライティングと執筆の作法について説明します。先行研究の基礎となる肯定的な理論を確認します。
第4週	先行研究のレビュー報告②	肯定的な理論に対して否定的な理論のレビューを行い、何を意味するのかを確認します。
第5週	先行研究のレビュー報告③	自分の考えを支持する理論をレビューし、どのように指示しているのかを確認する。
第6週	ゼミ内での中間発表（ディスカッション）	全体の報告を確認しながら、加筆・修正を繰り返します。
第7週	論文執筆①、章立て報告	これまでの議論を踏まえて、章立てと結論の見通しを確認します。
第8週	論文執筆②、研究の進め方確認	各章の要約を執筆し、進捗状況を確認します。
第9週	論文執筆③、文献の利用方法について	学術論文、書籍、雑誌記事などの引用する方法について再確認する。
第10週	研究方法の精査とデーター分析①	数値データを用いた研究の一つであるアンケート調査、実験、統計分析などの量的研究について説明する。
第11週	研究方法の精査とデーター分析②	インタビュー、観察、文献分析などのテキストデータを用いた質的研究について説明する。
第12週	研究方法の精査とデーター分析③	量的調査と質的調査の両方を用いた混合研究について説明する。
第13週	中間報告会プレゼンテーション報告①	中間報告会に向けたプレゼンテーション資料を確認しながら加筆・修正を進める。
第14週	中間報告会プレゼンテーション報告②	中間報告会に向けたプレゼンテーション資料を確認しながら加筆・修正を進める。
第15週	前期まとめ、論文執筆計画の確認	卒業論文執筆計画をもとに、前期の振り返りをしながら後期の計画を組み立てる。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習III（金鎔基クラス）						
担当教員	金　鎔基	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4007		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ビジネスパーソンは正解が明確ではない状況下で、様々な現象への意思決定を行う必要がある。ビジネスにおける現象に対して経営理論が持つ普遍性で対処できるようになる拠り所（思考の軸）を手に入れることを目的として経営理論を学ぶ。本科目では前期で学んだ経営理論の見方を変え、ビジネス現象と理論のマトリックスを教科書を中心に学術書や論文の輪読を行いながら学ぶ。

到達目標

① ビジネスの現象に対処できる拠り所（思考の軸）としての経営理論を理解できるようになる。
② ビジネス現象を経営学の観点から理解できるようになる。
③ ビジネスの現象を経営学の視点から説明し、ディスカッションをすることができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スタディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（準備学習・参加態度等）	50%		
アウトプット（プレゼンテーション・レポート）	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『世界標準の経営理論』	入山章栄	ダイヤモンド社	2019	9784478109571	

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
教科書の該当箇所をしっかり読み自分なりの意見を考えておくこと。	1時間程度/週

受講時の注意事項

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックは授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	オリエンテーション
第2週	昨年度の振り返り①	経済学ディシプリンの経営理論
第3週	昨年度の振り返り②	マクロ心理学ディシプリンの経営理論
第4週	昨年度の振り返り③	ミクロ心理学ディシプリンの経営理論
第5週	昨年度の振り返り④	経社会学ディシプリンの経営理論
第6週	到達度チェック	到達度と理解度のチェック
第7週	ビジネス現象と理論の概要	ビジネス現象と理論のマトリックス概要
第8週	ビジネス現象と理論①	戦略とイノベーションと経営理論①
第9週	ビジネス現象と理論②	戦略とイノベーションと経営理論②
第10週	中間まとめ	中間まとめ
第11週	ビジネス現象と理論③	組織行動・人事と経営理論①
第12週	ビジネス現象と理論④	組織行動・人事と経営理論②
第13週	ビジネス現象と理論⑤	企業ガバナンスと経営理論①
第14週	ビジネス現象と理論⑥	企業ガバナンスと経営理論②
第15週	まとめと振り返り	まとめと振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習III（津幡クラス）						
担当教員	津幡　笑	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4007		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

各自の卒業論文のテーマに即して、問題の所在、論文の構成、調査計画について具体的な執筆作業を進める。
適宜パワーポイントpptを作成して、卒業研究発表会に備える。

到達目標

卒論中間報告に向けてパワーポイントを作成できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業参加態度、課題への取り組み	50%		
プレゼン・レポート	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前配布資料、各自のテーマに関連する先行研究を読み込む。授業後にパワーポイント、卒業論文の草稿に反映させる。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

自分のテーマについてはもちろん他のゼミ生のテーマに関しても積極的に発言し議論に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	卒論作成に向けてパソコンなど使用機材の確認、準備
第2週	卒論とは	卒論の執筆形式、引用方法、スケジュールについて
第3週	卒論テーマについてプレゼン	各自のテーマについてゼミ内でプレゼン
第4週	問題の所在、調査方法	
第5週	文献検索、資料調査	
第6週	先行研究の理解（1）	
第7週	先行研究の理解（2）	
第8週	中間まとめ	
第9週	先行研究についての議論（1）	
第10週	先行研究についての議論（2）	
第11週	先行研究についての議論（3）	
第12週	卒業論文の構成の検討（1）	
第13週	卒業論文の構成の検討（2）	
第14週	調査計画の作成	
第15週	アウトラインについてプレゼン	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習III（仙波クラス）						
担当教員	仙波　希望	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4007		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

4年次では、3年次までの研究成果をふまえ各自のテーマを設定した上で、卒業論文を執筆します。
前期では［A］研究テーマおよび先行研究群（序論）報告・調査予定報告、［B］全体構成報告を大きな目標とし、卒論執筆開始にむけた準備を全て終えることを全体の目標とします。

到達目標

［1］卒論執筆にむけたテーマを確定することができる。
［2］先行研究および理論的枠組みについて批判的に論じることができる。
［3］テーマに応じた調査方法を組み立てることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、理解的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への取り組み・ディスカッション	50		
テーマ報告・全体構成レジュメ	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

広告企業勤務。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各自報告レジュメの作成、既往研究の精査、調査計画の策定	各回6～10時間

受講時の注意事項

授業にはかならずPCを持参してください。ない場合、欠席扱いとなることがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	イントロダクション	今後の流れを確認し、報告順を決める。
第2週	研究報告(1)	研究テーマおよび先行研究群（序論）報告
第3週	研究報告(2)	研究テーマおよび先行研究群（序論）報告
第4週	研究報告(3)	研究テーマおよび先行研究群（序論）報告
第5週	研究報告(4)	研究テーマおよび先行研究群（序論）報告
第6週	研究報告(5)	研究テーマおよび先行研究群（序論）報告
第7週	中間報告会	ゼミ全体での研究報告・ディスカッション
第8週	研究報告(6)	予備全体構成報告
第9週	研究報告(7)	予備全体構成報告
第10週	研究報告(8)	予備全体構成報告
第11週	研究報告(9)	予備全体構成報告
第12週	研究報告(10)	予備全体構成報告
第13週	研究報告(11)	予備全体構成報告
第14週	研究報告(12)	予備全体構成報告
第15週	卒業論文全体報告会	最終構成を完成させ報告する。調査結果を除く全てを執筆開始可能な状態まで行う。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅳ（西浦クラス）						
担当教員	西浦　功	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4008		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

受講生の卒業研究に関連する分野の文献輪読とディスカッションを通じて、卒業研究の質を高めるための知識を獲得し、自身の問題関心に沿って福祉的な観点から思考を深めることが、本科目の授業目的である。

到達目標

① 自身の研究領域に関連する理論について、具体的に分かりやすく説明することができる。
② 自身の研究領域に関連する理論について、複数の観点を対比させつつ、自分の意見を構築することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
期末レポート	５０		
発表内容・グループワークへの参加	５０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各回の演習では、主として各発表者の報告内容にかんするディスカッションを通じて、互いの研究内容を深化させることを目的とする。事前に提示される報告資料については良く読み込み、発表者に対する質問や意見について事前にまとめておくこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。またレポートについては後日担当教員からフィードバックを行うので、改善を要する点についてきちんと確認すること。

アクティブ・ラーニング情報

演習時のディスカッションには積極的に参加すること。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	後期ガイダンス	
第2週	「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク①	リサーチ報告
第3週	「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク②	文献発表
第4週	「スポーツと観光まちづくり」に関するグループワーク③	ディスカッション
第5週	「若者と職場」に関するグループワーク①	リサーチ報告
第6週	「若者と職場」に関するグループワーク②	文献発表
第7週	「若者と職場」に関するグループワーク③	ディスカッション
第8週	「多様性と福祉」に関するグループワーク①	リサーチ報告
第9週	「多様性と福祉」に関するグループワーク②	文献発表
第10週	「多様性と福祉」に関するグループワーク③	ディスカッション
第11週	「犯罪とコミュニティ」に関するグループワーク①	文献発表
第12週	「犯罪とコミュニティ」に関するグループワーク②	ディスカッション
第13週	「紛争化する国際社会への対策」に関するグループワーク①	文献発表
第14週	「紛争化する国際社会への対策」に関するグループワーク②	ディスカッション
第15週	後期の振り返り	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅳ（加藤クラス）						
担当教員	加藤　裕明	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4008		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

卒業論文の完成に向けて、根気強く執筆を進める。
卒論に必要な調査を実行する。
卒論の中間報告の準備。
卒論の最終報告の準備。

到達目標

・それぞれの卒業論文のテーマについて深く考え、執筆に反映させることができる。
・卒業論文の中間報告を成功させる。
・卒業論文の最終報告を成功させる。
・卒業論文を完成させる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
卒論の中間報告会での発表	50%		
卒論の最終報告会での発表	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。』					

参考書等

なし。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

加藤は、札幌市立高等学校に30年間勤務し、教科指導、ＨＲ指導、部活動指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきました。そしてこの間、演劇部活動、演劇教育の実践を質的方法によって研究し、博士学位（Ph.D教育学）を取得しました。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
卒論中間報告会に向けた原稿準備と卒論の執筆	6時間から10時間程度/週

受講時の注意事項

中間報告会を含め、パソコンは毎回持参すること（スマホ不可）
毎回卒論間報告会と最終報告会での発表は必須。
資料の提出の期限厳守。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	卒論の中間報告のシミュレーション①	ゼミ内で中間報告のシミュレーションをすることで、進捗状況を認識する。
第2週	卒論の中間報告のシミュレーション②	ゼミ内で中間報告のシミュレーションをすることで、進捗状況を認識する。
第3週	卒論の中間報告会	中間報告会での発表。
第4週	中間報告会の振り返り	中間報告会の反省と指摘された事項の確認をする。」
第5週	調査の成果報告①	調査の成果を報告し合う。
第6週	調査の成果報告②	調査の成果を報告し合う。
第7週	調査の分析・考察①	調査データの分析と検討・考察を行う。
第8週	調査の分析・考察②	調査データの分析と検討・考察を行う。
第9週	卒論の3章以降の執筆	執筆を進める。
第10週	卒論の3章以降の執筆	執筆を進める。
第11週	卒業論文の最終報告会のPP資料作成①	最終報告会の準備を始める。
第12週	卒業論文の最終報告会のPP資料作成②	最終報告会のPP資料を完成させる。
第13週	卒業論文の最終報告会のシミュレーション①	ゼミ内で最終報告会のシミュレーションを行う。
第14週	卒業論文の最終報告会のシミュレーション②	ゼミ内で最終報告会のシミュレーションを行う。
第15週	卒業論文の最終報告会	報告会での指摘を卒論に反映させる。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅳ（西脇クラス）						
担当教員	西脇　裕之	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4008		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「卒業研究Ⅱ」の授業と連動しつつ、「コミュニケーションの社会学」をテーマとして演習を行い、各自で設定したテーマに基づいた卒業論文の作成に取り組みます。
また、卒業論文の中間報告会及び最終報告会に向けたプレゼンテーションの準備、質疑応答やコメントの仕方を学びます。
この授業の目標は研究の発表や指導から得られるコメントやアドバイスを活かして卒業論文を推敲し、洗練させることです。
卒業論文を仕上げていく過程でのゼミナールのメンバーの相互検討に重点を置きます。

到達目標

1．自分の卒業論文のテーマについての基礎的な知識を備える。
2．自分の卒業論文の内容をわかりやすく伝えることができる。
3．ゼミ生の互いの研究や発表について、適切な質疑応答やコメントができる。
4．他からの質問やコメントを卒業論文の推敲に活かすことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業と研究への取り組み態度	30%		
他のゼミ生の研究へのコメントの適切さ	30%		
コメントを活かした推敲の取り組み	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『最新版 論文の教室』	戸田山和久	NHK出版	2022	9784140912720	

参考書等

阿部幸大（著）『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習=毎回授業で報告し、相互に検討する材料(草稿やレジュメ)を用意すること。 復習=授業内での相互検討や指導の結果を整理して、草稿の推敲に反映させること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

ゼミ生相互のコメントのやりとりが重要です。ゼミの仲間の卒論をよりよいものにできるように質問やコメントをしましょう。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	後期ガイダンス：卒論草稿へのコメント	後期のゼミ活動のガイダンスを行います。また、夏休み中に提出した草稿についてのコメントを受けて、今後の進め方を確認します。
第2週	卒論中間報告会へ向けた準備	卒論中間報告会に向けて、報告資料を作成し準備します。
第3週	卒論中間報告会	卒業研究Ⅱと連動して、全てのゼミが合同して卒論の中間報告会を行います。
第4週	卒論に関する先行研究の報告（1）	各自の卒論に関わる先行研究をまとめたレポートを、ゼミ内で報告します。
第5週	卒論に関する先行研究の報告（2）	先行研究の報告を受けて、卒論におけるその取り上げ方について、ゼミ内で相互に検討します。
第6週	卒論の書式ガイドラインの確認	卒論の書式のガイドラインを確認し、ゼミ内でそろえられる部分をそろえます。
第7週	卒論草稿の相互検討	この段階での各自の卒論草稿をゼミ内で相互に検討します。
第8週	卒論の推敲（1）論文の内容の点検	卒業研究Ⅱの授業と連動して、卒論草稿の執筆と推敲を重ねていきます。特に問題の定式化、主張、論証が明快かどうかを中心に点検します。
第9週	卒論の推敲（2）論文の書式等の点検	卒業研究Ⅱの授業と連動して、卒論草稿の執筆と推敲を重ねていきます。特に引用、参考文献の挙示、註の打ち方などの処理が適切かどうかを中心に点検します。
第10週	卒論最終報告の資料作成	卒論最終報告会へ向けて報告資料を作成します。
第11週	卒論最終報告会へ向けた準備	卒論最終報告会へ向けてゼミ内でのリハーサルを行います。
第12週	卒論最終報告会	卒業研究Ⅱの授業と連動して、全てのゼミが合同して卒論の最終報告会を行います。
第13週	査読用卒論の完成、提出	査読に回す卒論の完成稿を作成します。
第14週	卒論の加筆修正	卒論の査読結果にもとづいて、卒論を加筆修正します。
第15週	卒論完成稿の確認	卒論の完成稿について、その体裁などをゼミ内で相互に確認します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習IV（金昌震クラス）						
担当教員	金　　昌震	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4008		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

卒業論文のテーマを選択、先行研究の収集と整理、リサーチクエスチョンの設定、資料の読解と資料収集から卒業論文を見直し、卒業論文としての質を上げていきます。本授業では、経営学的視点から理論的思考を駆使して授業と個別指導を行き来しながら卒業論文を完成させます。

到達目標

①経営学の観点から課題を把握することができるようになる。
②自らリサーチクエスチョンを設定することができるようになる。
③ゼミ内でのディスカッションを通じて自分の意見を整理して議論できるようになる。
④学術論文を読み深めることができるようになる。
⑤研究の方法論を選択できるようになる。
⑥卒業論文執筆に応えられる執筆能力と理論的思考を身につけることができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーション スキル、理解的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
事前・事後課題	40%		
授業への参加度（発表、討議）	10%		
最終レポート	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
卒業論文を執筆するのは自分自身です。個別指導では授業時間、オフィスアワー、その他の時間をフルに使って執筆をしてもらいます。ゼミ全体で論文執筆とプレゼン資料の両方を準備しながら卒業論文提出まで進めます。	4時間から6時間程度/週

受講時の注意事項

授業時間内での全体に対する論文指導と共に時間外の個別指導の時間が増えます。ゼミ生同士のディスカッションと教員のアドバイスを元に論文を精査し自主的に執筆を進めてください。また中間発表会および最終発表会での発表を、単位取得の必要条件とします。

アクティブ・ラーニング情報

グループワークが基本となります。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	中間報告プレゼン練習①、ディスカッション	個別指導を繰り返し、中間報告会に向けたプレゼンテーション資料を確認しながら加筆・修正を進める。
第2週	中間報告プレゼン練習②、ディスカッション	グループ発表の結果から中間報告会に向けたプレゼンテーション資料を確認しながら加筆・修正を進める。
第3週	卒業研究中間報告会	各ゼミと合同で卒業研究の報告を聞き、コメントすることで自身の研究に活かす情報を得る。
第4週	中間報告の振り返り、修正点の確認	修正点について明確し、どのように進めるかを確認する。
第5週	卒業研究最終版に向けて、途中経過報告①	個別指導を繰り返し、最終報告会に向けたプレゼンテーション資料を確認しながら加筆・修正を進める。
第6週	卒業研究最終版に向けて、途中経過報告②	個別指導を繰り返し、最終報告会に向けたプレゼンテーション資料を確認しながら加筆・修正を進める。
第7週	卒業研究最終版に向けて、途中経過報告③	個別指導を繰り返し、最終報告会に向けたプレゼンテーション資料を確認しながら加筆・修正を進める。
第8週	卒業研究最終版に向けて、途中経過報告④	個別指導を繰り返し、最終報告会に向けたプレゼンテーション資料を確認しながら加筆・修正を進める。
第9週	卒業研究最終版に向けて、途中経過報告⑤	個別指導を繰り返し、最終報告会に向けたプレゼンテーション資料を確認しながら加筆・修正を進める。
第10週	卒業研究最終報告会	各ゼミと合同で卒業研究の報告を聞き、コメントすることで自身の研究に活かす情報を得る。
第11週	論文修正	中間報告と最終報告に使ったパワーポイントをもとに、卒業論文の完成に向けて修正を進める。
第12週	卒業論文中間提出	ほぼ完成している卒業論文を提出し、
第13週	修正期間①、査読結果を元に全体修正	修正点について明確し、どのように進めるかを確認し執筆を続ける。
第14週	修正期間②、査読結果を元に全体修正	修正点について明確し、どのように進めるかを確認し、修正を完了し提出する。
第15週	卒業論文の最終提出と４年間のふりかえり	卒業論文の最終提出を終え、4年間を振り返りながらゼミを修了する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習IV（金鎔基クラス）						
担当教員	金　鎔基	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4008		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ビジネスパーソンは正解が明確ではない状況下で、様々な現象への意思決定を行う必要がある。ビジネスにおける現象に対して経営理論が持つ普遍性で対処できるようになる拠り所（思考の軸）を手に入れることを目的として経営理論を学ぶ。本科目では昨年度学んだ経営理論の見方を変え、ビジネス現象と理論のマトリックス、経営理論の組み立て方・実証の仕方について教科書を中心に学術書や論文の輪読を行いながら学ぶ。

到達目標

① ビジネスの現象に対処できる拠り所（思考の軸）としての経営理論を理解できるようになる。
② ビジネス現象を経学の観点から理解できるようになる。
③ ビジネスの現象を経営学の視点から説明し、ディスカッションをすることができるようになる。
④ 経営理論の組み立て方・実証の仕方を理解できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・文化・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（準備学習・参加態度等）	50%		
アウトプット（プレゼンテーション・レポート）	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『世界標準の経営理論』	入山章栄	ダイヤモンド社	2019	9784478109571	

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
教科書の該当箇所をしっかり読み自分なりの意見を考えておくこと。	1時間程度/週

受講時の注意事項

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックは授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	オリエンテーション
第2週	ビジネス現象と理論（応用編）①	グローバル経営と経営理論①
第3週	ビジネス現象と理論（応用編）②	グローバル経営と経営理論②
第4週	ビジネス現象と理論（応用編）③	アントレプレナーシップと経営理論①
第5週	ビジネス現象と理論（応用編）④	アントレプレナーシップと経営理論②
第6週	ビジネス現象と理論（応用編）⑤	企業組織のあり方と経営理論①
第7週	ビジネス現象と理論（応用編）⑥	企業組織のあり方と経営理論①
第8週	中間まとめ	中間まとめ
第9週	経営理論の組み立て方・実証の仕方①	ビジネスと経営理論①
第10週	経営理論の組み立て方・実証の仕方②	ビジネスと経営理論②
第11週	経営理論の組み立て方・実証の仕方③	経営理論の組み立て方①
第12週	経営理論の組み立て方・実証の仕方④	経営理論の組み立て方②
第13週	経営理論の組み立て方・実証の仕方⑤	世界標準の実証分析①
第14週	経営理論の組み立て方・実証の仕方⑥	世界標準の実証分析②
第15週	まとめと振り返り	まとめと振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習Ⅳ（津幡クラス）						
担当教員	津幡　笑	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4008		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

各自の卒業論文のテーマに即して、問題の所在、論文の構成、調査方法、調査計画について具体的な執筆作業を進める。
適宜パワーポイントpptを作成して、卒業研究発表会に備える。

到達目標

卒論報告会に向けてパワーポイントを作成できる。
卒業論文を執筆できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業参加態度、課題への取り組み、中間発表会、最終	50%		
卒業論文完成稿	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までに各自のテーマで執筆作業を進める。授業後にパワーポイント、卒業論文の草稿に反映させる。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

自分のテーマについてはもちろん他のゼミ生のテーマに関しても積極的に発言し議論に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	前期までの復習、確認
第2週	卒論中間発表会に向けての準備	各自のテーマについてパワーポイントを作成
第3週	中間発表会	各自のテーマについてプレゼン
第4週	中間発表会の振り返り	フィードバックを受けて修正点を確認
第5週	卒論執筆と個別指導（1）	卒論を執筆する、執筆した部分を指摘事項を受けて修正する
第6週	卒論執筆と個別指導（2）	卒論を執筆する、執筆した部分を指摘事項を受けて修正する
第7週	卒論執筆と個別指導（3）	卒論を執筆する、執筆した部分を指摘事項を受けて修正する
第8週	最終報告会の準備（1）	最終報告会に向けてプレゼン資料を作成する
第9週	最終報告会の準備（2）	最終報告会に向けてプレゼン資料を作成する
第10週	最終報告会	各自のテーマについてプレゼンする
第11週	最終報告会の振り返り	フィードバックを受けて各自の論文を修正する
第12週	卒業論文の提出	
第13週	卒業論文の修正（1）	
第14週	卒業論文の修正（2）	
第15週	卒業論文完成稿の提出	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	専門演習IV（仙波クラス）						
担当教員	仙波　希望	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4008		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

4年次では、3年次までの研究成果をふまえ各自のテーマを設定した上で、卒業論文を執筆します。
後期では前期・夏期休暇までに行った全体構成および調査結果をもとに、卒業論文の執筆・報告・ピアレビュー・改稿／ブラッシュアップを繰り返し、自分自身の納得できる卒業論文を完成させていきます。

到達目標

[1] 卒業論文執筆を完成させることができる。
[2] ピアレビューを通じ、ブラッシュアップ・スキルを高める。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。		1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。		2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業への取り組み・ディスカッション	50		
卒業論文報告・レジュメ・テクスト	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

広告企業勤務。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各自報告レジュメの作成、卒論の執筆・推敲・ピアレビュー	各回6～10時間

受講時の注意事項

授業にはかならずPCを持参してください。ない場合、欠席扱いとなることがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	イントロダクション	今後の流れを確認し、報告順を決める。
第2週	研究報告(1)	調査分析結果の報告
第3週	研究報告(2)	調査分析結果の報告
第4週	研究報告(3)	調査分析結果の報告
第5週	研究報告(4)	調査分析結果の報告
第6週	研究報告(5)	調査分析結果の報告
第7週	卒論進捗報告(1)	執筆中の卒論の状況を報告し、課題を抽出する
第8週	卒論進捗報告(2)	執筆中の卒論の状況を報告し、課題を抽出する
第9週	卒論進捗報告(3)	執筆中の卒論の状況を報告し、課題を抽出する
第10週	卒論進捗報告(4)	執筆中の卒論の状況を報告し、課題を抽出する
第11週	卒論進捗報告(5)	執筆中の卒論の状況を報告し、課題を抽出する
第12週	卒論ピアレビュー(1)	ゼミメンバー間における卒論ピアレビューを行う
第13週	卒論ピアレビュー(2)	ゼミメンバー間における卒論ピアレビューを行う
第14週	卒論ピアレビュー(3)	ゼミメンバー間における卒論ピアレビューを行う
第15週	卒論提出・最終報告会	学科およびゼミでの最終報告会を実施する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅰ（西浦クラス）						
担当教員	西浦　功	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

専門演習Ⅰ・Ⅱでの学びを活かしつつ、各受講生の研究テーマに沿った調査分析を行い、卒業論文を完成させる。卒業研究Ⅰでは卒論執筆の準備期間として、各受講生の関心領域における先行研究を検討しつつ、適切な課題設定と研究の指針を反映した卒論構想レポートの完成を目指す。

到達目標

各自の研究テーマに沿って、研究テーマの設定、先行研究の検討やデータ活用等の研究過程を通じて、自身の研究構想を具体的な形で文章化することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、理解的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
中間報告資料	５０		
発表内容・授業内課題への取り組み	５０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業内で指示された予復習課題への取り組み	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各回の演習では、一連の研究のプロセスに沿って各受講生が成果を報告し、担当教員からのフィードバックや解説を行うため、課題については期限までに必ず提出すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	前期ガイダンス	
第2週	文献探索の方法とテーマ設定	
第3週	研究構想の発表と検討①	第１グループの研究構想発表とディスカッション
第4週	研究構想の発表と検討②	第２グループの研究構想発表とディスカッション
第5週	研究構想の発表と検討③	第３グループの研究構想発表とディスカッション
第6週	研究構想の発表と検討④	第４グループの研究構想発表とディスカッション
第7週	課題の掘り下げと研究内容の具体化①	第１グループの２次発表とディスカッション
第8週	課題の掘り下げと研究内容の具体化②	第２グループの２次発表とディスカッション
第9週	課題の掘り下げと研究内容の具体化③	第３グループの２次発表とディスカッション
第10週	課題の掘り下げと研究内容の具体化④	第４グループの２次発表とディスカッション
第11週	資料・データの探索と活用①	第１・第２グループの研究テーマに関連する資料収集例の解説と実践
第12週	資料・データの探索と活用②	第３・第４グループの研究テーマに関連する資料収集例の解説と実践
第13週	卒業論文のアウトラインをつくる①	卒業論文の構成や章立てに関する解説
第14週	卒業論文のアウトラインをつくる②	卒業論文章立ての実践
第15週	中間報告資料の作成	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅰ（加藤クラス）						
担当教員	加藤　裕明	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

個人面談を中心に個々の卒論について指導を行う。

到達目標

自分のテーマに自信を持ち、実証的かつ社会学的な思考と方法で卒論の執筆を進めることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・介護・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
執筆原稿の中間提出①	50%		
執筆原稿の中間提出②	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。』					

参考書等

なし。個々の先行研究文献。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

加藤は、札幌市立高等学校に30年間勤務し、教科指導、ＨＲ指導、部活動指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきました。そしてこの間、演劇部活動、演劇教育の実践を質的方法によって研究し、博士学位（Ph.D教育学）を取得しました。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
先行研究の購読と原稿の執筆。	４時間から８時間程度/週

受講時の注意事項

毎回パソコンを持参すること（スマホ不可）
提出物の期限厳守。

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	個人面談による卒論指導①	先行研究レビューの確認①
第2週	個人面談による卒論指導②	先行研究レビューの確認②
第3週	個人面談による卒論指導③	第1章の進捗状況の確認①
第4週	個人面談による卒論指導④	第1章の進捗状況の確認②
第5週	個人面談による卒論指導⑤	調査計画の確認①
第6週	個人面談による卒論指導⑥	調査計画の確認②
第7週	個人面談による卒論指導⑦	第2章の指導①
第8週	個人面談による卒論指導⑧	第2章の指導②
第9週	個人面談による卒論指導⑨	第2章の指導③
第10週	個人面談による卒論指導⑩	第2章の指導④
第11週	個人面談による卒論指導⑪	第3章の指導①
第12週	個人面談による卒論指導⑫	第3章の指導②
第13週	個人面談による卒論指導⑬	第3章の指導③
第14週	個人面談による卒論指導⑭	第3章の指導④
第15週	個人面談による卒論指導⑮	第3章の指導⑤
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅰ（西脇クラス）						
担当教員	西脇　裕之	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「コミュニケーションの社会学」をテーマとして演習を行い、各自で設定したテーマに基づいた卒業論文の作成に取り組みます。
研究計画に基づいて、問いと仮説を立て、研究テーマにふさわしい方法を選択して研究 を進めます。
この授業の目標は卒業論文にふさわしい問いを立てて、調査研究を進めることです。期末には第一次草稿を提出し、後期の卒論中間発表会の資料を仕上げることをめざします。

到達目標

1．卒業論文にふさわしい問いと仮説を立てることができる。
2．卒業論文のテーマについての理解を深め、根拠に基づいて自らの主張を展開できる。
3．卒業論文のテーマに必要な資料の収集と検討ができる。
4．卒業論文の完成までを導く設計図となるアウトラインが書ける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向け積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業と研究への取り組み態度	30%		
先行研究の収集の適切性と検討の深さ	20%		
アウトラインと第一次草稿の出来栄え	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『最新版 論文の教室』	戸田山和久	NHK出版	2022	9784140912720	

参考書等

阿部幸大（著）『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習=毎回授業で報告し、相互に検討する材料を用意すること。 復習=授業内での相互検討や指導の結果を整理して、次回の話題提供の材料に反映させること。	3時間程度/週

受講時の注意事項

授業時間は各自の自己学習の成果である卒論作成の進捗状況を報告し、検討し合う場であるので、話題提供できる材料を用意して授業に臨んでください。
夏休み中も各自で卒論の草稿の執筆を進めていきます。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス：各自の個別テーマの検討	卒業論文の作成に向けてのガイダンスを行い、各自の卒論テーマについて検討します。
第2週	研究計画書の作成	後期の卒業論文の完成までを見通した研究計画を立てます。
第3週	論文を読む	社会学の論文の構成のイメージをつかむために、社会学系の雑誌に掲載された論文を読みます。問題提起・主張・論証という３要素が必要なことを学びます。
第4週	説得力のある主張とは	卒論での主張に説得力をもたせるためには、どのような論証の仕方がふさわしいか、どのような論拠が求められるのか、という点について学びます。
第5週	各自のテーマに即した資料収集	自分の卒論に関わる先行研究と最低限押さえておくべき基本文献を中心に資料を収集します。
第6週	資料の読み込み	収集した資料を読み込みます。自分のテーマに関わる研究の大まかな見取り図を描くことをめざします。
第7週	先行研究の批判的検討	先行研究から得られた知見をまとめるとともに、その限界や補完すべき点などについて検討します。
第8週	資料の紹介報告	収集した資料から得られた知見について報告し、質疑応答を通して理解を深めます。
第9週	アウトラインの作成	卒業論文の設計図であるアウトラインを作成します。
第10週	アウトラインの報告と検討	アウトラインをゼミ内で報告し、相互に検討します。
第11週	詳細なアウトラインの執筆	当初のアウトラインを膨らませて、各章・節レベルで何を書くかを盛り込んだ、詳細なアウトラインを執筆します。
第12週	詳細なアウトラインの報告	詳細なアウトラインをゼミ内で報告し、質疑応答を通してさらにバージョンアップさせます。
第13週	第一次草稿の作成、提出	アウトラインに肉付けをしていく形で卒論本体の草稿を執筆します。
第14週	卒論中間報告会の準備（１）資料の作成	後期の卒論中韓報告会へ向けて資料作成などの準備をします。
第15週	卒論中間報告会の準備（２）資料の点検	卒論中韓報告会へ向けて作成した資料を点検し、さらにバージョンアップさせます。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅰ（金昌震クラス）						
担当教員	金　　昌震	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

専門演習（III、IV）と卒業研究（Ⅰ、Ⅱ）は、ゼミ全体で考える専門演習と個人で論文を執筆し精査していく卒業研究で成り立っています。では本授業では何をするのかと言えば、論文を書き進めて最終的に完成させることにあります。専門演習では理論的に執筆する方法を学びますが、卒業研究では実際に手を動かして１年間かけて論文を積み上げていきます。基本的に毎週同じ時間に担当教員とマンツーマンで一人60分～90分を卒業研究の時間に充てます。毎週、事前にどこまで執筆できているかを確認し、卒業研究で研究についてのアドバイスや検討をします。また次の週までに事前課題として執筆することを段階的に進めますので、しっかりと準備をして授業に臨んで下さい。

到達目標

①卒業論文執筆に必要な倫理規定（剽窃問題やコピペ問題含む）を理解できるようになる。
②アカデミックライティングの基本を踏まえて文章を書くことができるようになる。
③図表の作成方法や引用・参考資料を使いこなすことができるようになる。
④質的研究と量的研究の違いを認識し分析できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向け積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スタディツアーなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
事前・事後課題	20%		
授業への参加度（発表、討議）	30%		
最終レポート	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
卒業論文は章立てをして毎日少しずつ執筆しなくては完成しません。毎回の授業時には執筆状況の確認をしますので、毎週加筆・修正を繰り返しながら授業に取り組んでください。そのためには、多くの時間を要することを忘れないようにしましょう。	4時間から5時間程度/週

受講時の注意事項

授業時間内での全体に対する論文指導と共に時間外の個別指導の時間が増えます。ゼミ生同士のディスカッションと教員のアドバイスを元に論文を精査し自主的に執筆を進めてください。

アクティブ・ラーニング情報

ゼミ生同士のディスカッションと教員のアドバイスを元に論文を精査し自主的に執筆を進めてください。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、レポートと論文の違いについて、剽窃と研究者倫理	卒業研究に対する姿勢と論文とは何か、コピペや剽窃などがなぜダメなのかを説明する。
第2週	研究テーマの確認とアブストラクト執筆	研究テーマについて確認しながらパラグラフライティングを意識しながら執筆を進める。
第3週	先行研究のレビュー①、研究課題をめぐる背景の確認	なぜこの研究をするのか、どのようにするのかなどを整理し、どのような背景がありどのような課題意識があるのかを確認する。
第4週	先行研究のレビュー②、主流となる研究者の確認	先行研究から主流となる理論、批判的な理論、ユニークな理論を要約しながら確認する。
第5週	先行研究のレビュー③、レビューから見えてきた課題の確認	先行研究から見えた、課題について要約し、自身の研究に取り込むために考察する。
第6週	中間発表（報告会に向けて）	中間報告会に向けて修正を続ける。
第7週	論文執筆①、章立ての確認	章立てを確認し、各章の要約を確認する。
第8週	論文執筆②、章ごとの確認	各章ごとの要約について、どのようにつながりがあるのかを確認する。
第9週	論文執筆③、参考文献や引用の確認	参考文献や引用などのレファレンスに関しては学問領域によって様々な作法が存在するが、本ゼミでは経営学ディシプリンによる作法を説明をする。
第10週	中間報告会資料作成①、論文より発表資料作成	本文より抜き出して、パワーポイントによる発表資料を作成する。
第11週	中間報告会資料作成②、論文より発表資料作成	本文より抜き出して、パワーポイントによる発表資料を完成させる。
第12週	分析データーの確認、質的研究と量的研究	データーの分析についての確認と、どのように説明するのかを確認する。
第13週	中間報告会資料確認①	ゼミ全体での報告を確認することで、自身の報告のブラッシュアップをする。
第14週	中間報告会資料確認②	ゼミ全体での報告を確認することで、自身の報告のブラッシュアップを進め、最終報告資料を完成させる。
第15週	前期のまとめ、卒業研究中間報告会資料の完成	中間報告会用の資料を完成させる。遅くても分析手法の選択までは終わらせる。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅰ（金鎔基クラス）						
担当教員	金　鎔基	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

卒業研究として卒業論文の作成を目指します。論文の作成方法を学び、各自の設定テーマに基づき、卒業論文を作成をします。先行研究のレビュー方法を学び、問いの立て方を学び、研究計画を立てます。実証研究でのデータの集め方、その分析方法も学びます。また、卒業論文中間報告会を行うため、その資料作りなどの準備にも取り組みます。

到達目標

① 卒業論文の研究計画を立てることができるようになる。
② 先行研究のレビューができるようになる。
③ 実証研究の方法が分かるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（準備学習・参加態度等）	50%		
アウトプット（進捗報告プレゼンテーション、卒業論	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業の予習として各週に行う内容について自分のテーマに沿って整理してきて下さい。復習としてその週の内容をスライドやドキュメントに整理してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックは授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	オリエンテーション
第2週	テーマ設定とアウトライン①	卒業論文テーマの選定
第3週	テーマ設定とアウトライン②	テーマについての内容整理
第4週	テーマ設定とアウトライン③	問題意識の整理
第5週	テーマ設定とアウトライン④	仮アウトラインの作成
第6週	事前情報の整理①	社会的背景の整理
第7週	事前情報の整理②	先行研究のレビュー①
第8週	事前情報の整理③	先行研究のレビュー②
第9週	実証研究①	研究方法の選定
第10週	実証研究②	実証研究の計画と設計
第11週	実証研究③	研究データの収集
第12週	実証研究④	研究データの分析と結果
第13週	実証研究⑤	研究の結果と考察
第14週	卒業論文草案作成	卒業論文草案の完成
第15週	卒業論文中間報告会準備	卒業論文中間報告会の資料作成
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅰ（津幡クラス）						
担当教員	津幡　笑	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

各自の卒業論文のテーマに即して、問題の所在、論文の構成、調査計画について具体的な執筆作業を進める。
適宜パワーポイントpptを作成して、卒業研究発表会に備える。

到達目標

卒論中間報告に向けてパワーポイントを作成できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業参加態度、課題への取り組み	50%		
プレゼン・レポート	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
事前配布資料、各自のテーマに関連する先行研究を読み込む。授業後にパワーポイント、卒業論文の草稿に反映させる。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

自分のテーマについてはもちろん他のゼミ生のテーマに関しても積極的に発言し議論に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	卒論作成に向けてパソコンなど使用機材の確認、準備
第2週	卒論とは	卒論の執筆形式、引用方法、スケジュールについて
第3週	卒論テーマについてプレゼン	各自のテーマについてゼミ内でプレゼン
第4週	問題の所在、調査方法	
第5週	文献検索、資料調査	
第6週	先行研究の理解（1）	
第7週	先行研究の理解（2）	
第8週	中間まとめ	
第9週	先行研究についての議論（1）	
第10週	先行研究についての議論（2）	
第11週	先行研究についての議論（3）	
第12週	卒業論文の構成の検討（1）	
第13週	卒業論文の構成の検討（2）	
第14週	調査計画の作成	
第15週	アウトラインについてプレゼン	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅰ（仙波クラス）						
担当教員	仙波　希望	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

個人面談を中心に個々の卒論について指導を行う。

到達目標

自らのテーマをもとに、論文執筆に必要な知識・視点をもつことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
検討レジュメ、ディスカッション	50		
各種アウトプット	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で指示します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

広告企業勤務。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各自報告レジュメの作成、既往研究の精査、調査計画の策定	各回6～10時間

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	個人面談による卒論指導（1）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第2週	個人面談による卒論指導（2）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第3週	個人面談による卒論指導（3）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第4週	個人面談による卒論指導（4）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第5週	個人面談による卒論指導（5）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第6週	個人面談による卒論指導（6）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第7週	個人面談による卒論指導（7）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第8週	個人面談による卒論指導（8）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第9週	個人面談による卒論指導（9）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第10週	個人面談による卒論指導（10）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第11週	個人面談による卒論指導（11）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第12週	個人面談による卒論指導（12）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第13週	個人面談による卒論指導（13）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第14週	個人面談による卒論指導（14）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第15週	振り返り	成果について振り返る。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅱ（西浦クラス）						
担当教員	西浦　功	配当年次	4年生	開講期	後期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

3年次の専門演習での学びを活かしつつ、各受講生の研究テーマに沿った調査分析を行い、卒業論文を完成させる。卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰの成果を活かして資料調査やフィールドワークを実施し、適切な分析方法にそって結果を解釈し、科学的に完成度の高い卒業論文の完成を目指す。

到達目標

各自の研究テーマに沿って、研究目的に合った手法にて調査分析を行い、 採りあげた社会問題に対する解決策を論文として形にすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
卒業論文	８０		
中間発表会／最終発表会での成果報告	２０		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を添付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各回の演習で課される課題について、次回授業までに提出すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各回の演習では、一連の研究のプロセスに沿って各受講生が成果を報告し、担当教員から のフィードバックや解説を行うため、課題については次回までに必ず提出すること。
中間発表会および最終発表会での発表を、単位取得の必要条件とする。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	後期ガイダンス/中間レポートのフィードバック	
第2週	中間報告会の予行練習と想定問答	
第3週	中間報告会	
第4週	卒業論文指導①	研究目的の設定
第5週	卒業論文指導②	引用箇所の確認と表記
第6週	卒業論文指導③	主張の提示
第7週	卒業論文指導④	論拠の確認
第8週	卒業論文指導⑤	註や参考文献リストの作成方法
第9週	最終報告会のゼミ内予行練習と想定問答	
第10週	最終報告会	
第11週	最終報告会の振り返り	報告会時のコメントの振り返りと要修正箇所の確認
第12週	卒業論文提出（第1次）	要修正箇所のチェックと推敲作業
第13週	論文査読とフィードバック①	査読者の意図の汲み取り
第14週	論文査読とフィードバック②	査読に沿った原稿の修正
第15週	卒業論文提出（最終）	要修正箇所のチェックと推敲作業
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅱ（加藤クラス）						
担当教員	加藤　裕明	配当年次	4年生	開講期	後期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

個人面談を中心に、卒業論文の完成を目指して指導していく。

到達目標

納得できる卒業論文を完成できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
中間報告原稿の提出	10%		
卒業論文の完成版の提出	90%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。』					

参考書等

なし。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

加藤は、札幌市立高等学校に30年間勤務し、教科指導、ＨＲ指導、部活動指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきました。そしてこの間、演劇部活動、演劇教育の実践を質的方法によって研究し、博士学位（Ph.D教育学）を取得しました。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
原稿の執筆	6時間から10時間程度/週

受講時の注意事項

発表会含め、毎回パソコンを持参すること（スマホ不可）。
提出期限の厳守

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	個人面談による卒論執筆の指導①	卒論の中間報告会の振り返りを指導する。
第2週	個人面談による卒論執筆の指導②	卒論の中間報告会の振り返りと執筆への反映を指導する。
第3週	個人面談による卒論執筆の指導③	調査結果の分析について指導する①
第4週	個人面談による卒論執筆の指導④	調査結果の分析について指導する②
第5週	個人面談による卒論執筆の指導⑤	第4章の執筆指導をする①
第6週	個人面談による卒論執筆の指導⑥	第4章の執筆指導をする②
第7週	個人面談による卒論執筆の指導⑦	第4章の執筆指導をする③
第8週	個人面談による卒論執筆の指導⑧	分析と考察部分の執筆指導をする①
第9週	個人面談による卒論執筆の指導⑨	分析と考察部分の執筆指導をする②
第10週	個人面談による卒論執筆の指導⑩	分析と考察部分の執筆指導をする③
第11週	個人面談による卒論執筆の指導⑪	全体の論理構成の確認をする①
第12週	個人面談による卒論執筆の指導⑫	全体の論理構成の確認をする②
第13週	個人面談による卒論執筆の指導⑬	執筆の書式確認と推敲を指導する①
第14週	個人面談による卒論執筆の指導⑭	執筆の書式確認と推敲を確認する②
第15週	卒論発表会への参加と振り返り	卒論発表会に参加・発表し、他の参加者と対話する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅱ（西脇クラス）						
担当教員	西脇　裕之	配当年次	4年生	開講期	後期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「コミュニケーションの社会学」をテーマとして演習を行い、各自で設定したテーマに基づいた卒業論文の作成に取り組みます。
卒業論文の中間報告会及び最終報告会でのプレゼンテーションと質疑応答・コメントを踏まえて、卒論草稿の推敲を繰り返し、卒業論文を完成させます。
この授業の目標は研究の発表や指導から得られるコメントやアドバイスを活かして、説得力のある卒業論文を完成させることです。
草稿の推敲の際には、個別指導に重点を置きます。

到達目標

1．卒業論文のテーマについての基礎的な知識を備える。
2．中間報告会・最終報告会において明快なプレゼンテーションができる。
3．調査や資料の分析をふまえ、根拠に基づいて自らの主張を展開できる。
4．説得力のある卒業論文を作成できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業と研究への取り組み態度	15%		
中間報告の出来栄え	10%		
最終報告の出来栄え	15%		
卒業論文の出来栄え	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『最新版 論文の教室』	戸田山和久	NHK出版	2022	9784140912720	

参考書等

阿部幸大（著）『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習=毎回授業で報告し、相互に検討する材料(草稿やレジュメ)を用意すること。 復習=授業内での相互検討や指導の結果を整理して、草稿の改訂に反映させること。	3時間程度/週

受講時の注意事項

卒業論文中間報告会及び最終報告会での発表を単位修得条件の一つとします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	後期ガイダンス：第一次草稿へのコメントと加筆修正	卒論の仕上げに向けてのスケジュールを確認し、夏休み中に提出した草稿についてのコメントを受けて加筆修正をしていきます。
第2週	卒論中間報告の準備：リハーサルと想定問答	卒論中間報告会に向けて作成した報告資料をもとに、ゼミ内で報告のリハーサルを行い、プレゼンをさらに改良します。
第3週	卒論中間報告会	全てのゼミが合同して卒論の中間報告会を行います。
第4週	草稿の執筆と推敲（1）問いと主張の確認	卒論の草稿の添削を受けて、加筆修正を重ねていきます。特に卒論の骨格となる、問いと主張が明確かどうか確認します。
第5週	草稿の執筆と推敲（2）論拠の確認	卒論の草稿の添削を受けて、加筆修正を重ねていきます。特に卒論の主張を支える、論拠やデータが十分かどうか確認します。
第6週	草稿の執筆と推敲（3）必要な文献資料の確認	卒論の草稿の添削を受けて、加筆修正を重ねていきます。特に卒論のテーマにとって必要な文献を十分に踏まえているかどうか確認します。
第7週	草稿の執筆と推敲（4）引用の適切性の確認	卒論の草稿の添削を受けて、加筆修正を重ねていきます。特に卒論の文章中での引用の処理が適切かどうか、確認します。
第8週	草稿の執筆と推敲（5）註と参考文献の確認	卒論の草稿の添削を受けて、加筆修正を重ねていきます。特に註の打ち方と参考文献の挙示の仕方が適切かどうか、確認します。
第9週	草稿の執筆と推敲（6）引用と参考文献の対応の確認	卒論の草稿の添削を受けて、加筆修正を重ねていきます。特に引用の出典と参考文献がきちんと対応しているかどうか、確認します。
第10週	草稿の執筆と推敲（7）字句の修正	卒論の草稿の添削を受けて、加筆修正を重ねていきます。特に卒論の文章中で誤字脱字、変換ミスがないか、確認します。
第11週	卒論最終報告の準備：リハーサルと想定問答	卒論最終報告会に向けて作成した報告資料をもとに、ゼミ内で報告のリハーサルを行い、プレゼンをさらに改良します。
第12週	卒論最終報告会	全てのゼミが合同して卒論の最終報告会を行います。
第13週	査読用卒論の完成、提出	査読に回す卒論の完成稿を作成します。
第14週	査読結果にもとづいた卒論の加筆修正	査読者からのコメントを確認して、卒論を加筆修正します。
第15週	卒論（最終版）の完成、提出	卒論の完成稿を作成し、提出します。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅱ（金昌震クラス）						
担当教員	金　　昌震	配当年次	4年生	開講期	後期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

専門演習（III、IV）と卒業研究（Ⅰ、Ⅱ）は、ゼミ全体で考える専門演習と個人で論文を執筆し精査していく卒業研究で成り立っています。では本授業では何をするのかと言えば、論文を書き進めて最終的に完成させることにあります。専門演習では理論的に執筆する方法を学びますが、卒業研究では実際に手を動かして１年間かけて論文を積み上げていきます。基本的に毎週同じ時間に担当教員とマンツーマンで一人60分～90分を卒業研究の時間に充てます。卒業研究Ⅰとの違いは、卒業論文の完成に向けて自主的に執筆してください。

到達目標

本授業の到達目標は以下の５点である。
①卒業論文執筆に必要な倫理規定（剽窃問題やコピペ問題含む）を理解できるようになる。
②アカデミックライティングの基本を踏まえて文章を書くことができるようになる。
③図表の作成方法や引用・参考資料を使いこなすことができるようになる。
④質的研究と量的研究の違いを認識し分析できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向け積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
事前・事後課題	30%		
授業への参加度（発表、討議）	10%		
最終レポート	60%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
卒業論文は章立てをして毎日少しずつ執筆しなくては完成しません。毎回の授業時には執筆状況の確認をしますので、毎週加筆・修正を繰り返しながら授業に取り組んでください。そのためには、多くの時間を要することを忘れないようにしましょう。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業時間内での全体に対する論文指導と共に時間外の個別指導の時間が増えます。ゼミ生同士のディスカッションと教員のアドバイスを元に論文を精査し自主的に執筆を進めてください。

アクティブ・ラーニング情報

ゼミ生同士のディスカッションと教員のアドバイスを元に論文を精査し自主的に執筆を進めてください。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	中間報告資料確認①、全体の流れについて	前期で作り込んだ資料をもとに、全体の確認をする。
第2週	中間報告資料確認②、各章の確認	前期で作り込んだ資料をもとに、各章の確認をする。
第3週	卒業研究中間報告会	中間報告会での報告を受けて、修正点を明確にする。
第4週	卒業論文執筆個別指導①	個別指導を進めながら加筆・修正し、執筆を進める。
第5週	卒業論文執筆個別指導②	個別指導を進めながら加筆・修正し、執筆を進める。
第6週	卒業論文執筆個別指導③	個別指導を進めながら加筆・修正し、執筆を進める。
第7週	卒業論文執筆個別指導④	個別指導を進めながら加筆・修正し、執筆を進める。
第8週	卒業論文執筆個別指導⑤	個別指導を進めながら加筆・修正し、執筆を進める。
第9週	卒業論文執筆個別指導⑥	個別指導を進めながら加筆・修正し、執筆を進める。
第10週	卒業研究最終報告会	最終報告会の報告で質問のあった点などを受けて、修正点を明確にする。
第11週	卒業論文執筆個別指導⑦	個別指導を進めながら加筆・修正し、執筆を進め卒業論文を完成させる。
第12週	卒業研究最終提出	最終提出物へのコメントを受けて、可能な限り修正して完成を目指す。
第13週	卒業論文執筆個別指導⑧	個別指導を進めながら加筆・修正し、執筆を進め卒業論文を完成させる。
第14週	卒業論文執筆個別指導⑨	個別指導を進めながら加筆・修正し、執筆を進め卒業論文を完成させる。
第15週	卒業研究最終版提出	これまでの指摘箇所を全て加筆・修正して最終版を提出する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅱ（金鎔基クラス）						
担当教員	金　鎔基	配当年次	4年生	開講期	後期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

卒業研究として卒業論文の完成を目指します。論文の作成方法を学び、各自の設定テーマに基づき、卒業論文を作成し完成させます。卒業論文中間および最終報告会を行うため、その資料作りなどの準備にも取り組みます。

到達目標

① 卒業論文を作成できるようになる。
② 研究についての発表ができるようになる。
③ 研究論文の書き方が理解できるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点（準備学習・参加態度等）	50%		
アウトプット（進捗報告プレゼンテーション、卒業論	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

参考資料なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業の予習として各週に行う内容について自分のテーマに沿って整理してきて下さい。復習としてその週の内容をスライドやドキュメントに整理してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

予習，復習および課題は、しっかりやって来てください。それを前提に授業を進めます。フィードバックは授業内で行います。PCやスマートフォンなどインターネット接続が可能なデバイスを使用することがあります。
卒業論文中間発表会及び最終発表会での発表を単位修得条件の一つとします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	オリエンテーション
第2週	卒業論文中間報告会①	卒業論文中間報告会の準備
第3週	卒業論文中間報告会②	卒業論文草案の改善点確認
第4週	卒業論文中間報告会③	卒業論文草案の改善点確認
第5週	卒業論文中間報告会④	推敲とフィードバック①
第6週	卒業論文中間報告会⑤	推敲とフィードバック②
第7週	卒業論文のドラフト①	卒業論文のドラフト版作成
第8週	卒業論文のドラフト②	卒業論文のドラフト版完成
第9週	卒業論文最終報告会①	卒業論文最終報告会の資料作成
第10週	卒業論文最終報告会②	卒業論文最終報告会
第11週	卒業論文最終化と提出①	卒業論文の提出
第12週	卒業論文最終化と提出②	査読とフィードバック①
第13週	卒業論文最終化と提出③	査読とフィードバック②
第14週	卒業論文最終化と提出④	卒業論文の修正と最終校正
第15週	卒業論文最終化と提出⑤	卒業論文の最終提出
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅱ（津幡クラス）						
担当教員	津幡　笑	配当年次	4年生	開講期	後期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

卒業研究Ⅰを踏まえ、各自の卒業論文のテーマに即して、問題の所在、論文の構成、調査方法、調査計画について具体的な執筆作業を進める。
適宜パワーポイントpptを作成して、卒業研究発表会に備える。
卒業研究ⅠⅠは個人面談を中心として各自の執筆をサポートしていく。

到達目標

卒論報告会に向けてパワーポイントを作成できる。
卒業論文を執筆できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題への取り組み、中間発表会、最終報告会でのプレ	20%		
卒業論文完成稿	80%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回の個別指導までに各自のテーマで執筆作業を進める。授業後にパワーポイント、卒業論文の草稿に反映させる。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

必ず次の指導までに執筆を進め、自分の疑問点について整理すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	前期までの復習、確認
第2週	卒論中間発表会に向けての準備	各自のテーマについてパワーポイントを作成
第3週	中間発表会	各自のテーマについてプレゼン
第4週	卒業論文指導（1）	フィードバックを受けて修正点を確認
第5週	卒業論文指導（2）	卒論を執筆する、執筆した部分を指摘事項を受けて修正する
第6週	卒業論文指導（3）	卒論を執筆する、執筆した部分を指摘事項を受けて修正する
第7週	卒業論文指導（4）	卒論を執筆する、執筆した部分を指摘事項を受けて修正する
第8週	最終報告会の準備（1）	最終報告会に向けてプレゼン資料を作成する
第9週	最終報告会の準備（2）	最終報告会に向けてプレゼン資料を作成する
第10週	最終報告会	各自のテーマについてプレゼンする
第11週	最終報告会の振り返り	フィードバックを受けて各自の論文を修正する
第12週	卒業論文の提出	
第13週	卒業論文の修正（1）	査読を受けて各自の論文を修正する
第14週	卒業論文の修正（2）	査読を受けて各自の論文を修正する
第15週	卒業論文完成稿の提出	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	卒業研究Ⅱ（仙波クラス）						
担当教員	仙波　希望	配当年次	4年生	開講期	後期集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	必修		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SOC 4012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

個人面談を中心に個々の卒論について指導を行う。

到達目標

自らのテーマをもとに、論文執筆に必要な知識・視点をもつことができる。そして卒業論文を完成させることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。	○	1.主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。	○	2.フィールドワークや社会調査を通して地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。		3.地域社会公企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
	4.知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.社会人として必要な基礎力（コミュニケーション スキル、課題的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・スポーツなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
検討レジュメ、ディスカッション	50		
各種アウトプット	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で指示します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

広告企業勤務。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各自報告レジュメの作成、既往研究の精査、調査計画の策定	各回6～10時間

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

備考

この科目は主要授業科目です。

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	個人面談による卒論指導（1）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第2週	個人面談による卒論指導（2）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第3週	個人面談による卒論指導（3）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第4週	個人面談による卒論指導（4）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第5週	個人面談による卒論指導（5）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第6週	個人面談による卒論指導（6）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第7週	個人面談による卒論指導（7）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第8週	個人面談による卒論指導（8）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第9週	個人面談による卒論指導（9）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第10週	個人面談による卒論指導（10）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第11週	個人面談による卒論指導（11）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第12週	個人面談による卒論指導（12）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第13週	個人面談による卒論指導（13）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第14週	個人面談による卒論指導（14）	各学生の進捗状況にあわせ、卒論完成にむけたロードマップをもとに、課題や方向性について議論する。
第15週	卒論の振り返り	成果について振り返る。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	札幌大谷キャリア支援プログラムＡ-Ⅰ						
担当教員	今　義典	配当年次	１年生	開講期	通年集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 1931		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

学生の主体的な個人活動または団体活動を評価し、単位として認定します。本科目は、学部学科をはじめ、社会連携センター及びキャリア支援センターの協力のもと、大学共通科目（キャリア科目）に配置されたアクティブ・ラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。授業科目のＡからＤまでの区分は、次のとおりです。
　札幌大谷キャリア支援プログラムＡ：産学官連携・地域連携活動
　札幌大谷キャリア支援プログラムＢ：学生の主体的な個人活動または団体活動
　札幌大谷キャリア支援プログラムＣ及びＤ：キャリア支援センター等による資格取得・キャリア支援講座・公務員対策講座等
担当教員による事前申請後に開講するプログラムです。プログラムの内容が決定次第、学生ポータルサイトに掲載し、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。内容によっては事前説明会も開催しますので参加してください。

到達目標

授業科目のＡからＤの詳細な内容により到達目標が若干変わりますが、共通の到達目標は、「札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部のディプロマ・ポリシー」に準じます。
①自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができるようになる。
②コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができる。
③専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
○	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力	3.多様な価値観、個性を尊重し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
「成績評価方法・基準」は「授業概要」により異なり			

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『プログラム開始前に担当教員から指示します。』					

参考書等

プログラム開始前に担当教員から指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく、４５時間従事した時間数をもって単位認定します。「授業計画」と同様、「予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間」は、「授業概要」欄に記載された指示に従ってください。	４５時間従事

受講時の注意事項

履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録期間を含め「受講時の注意事項」は、プログラムの内容が決定次第、随時学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。
注：※通常授業の内容と重複して単位取得することはできません。　　※活動時間数に関わらず、１科目１単位を原則とします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含むアクティブ・ラーニング形式の科目です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	プログラム内容	各プログラムの「授業概要」により内容が異なります。プログラムが決定次第、随時、学生ポータルサイトに掲載するとともに、学内掲示及び学生メールアドレスへお知らせします。 この授業科目の大まかな流れ・手続きの要領は以下のとおりです。
第2週		
第3週		
第4週		
第5週		
第6週		
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	おもてなしの英語C						
担当教員	川内　裕子	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 4863		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「おもてなしの英語C」では、「おもてなしの英語A・B」で習得した技能をさらに伸ばすことを学生は目指す。おもてなしの英語Aで使用した教科書を使って表現力を高めると同時に、教科書の中から選んだトピック、身の回りで興味あるトピックについて、事前にリサーチをし、発言内容を準備し、会話を楽しめるようにする。以前に作った、または新たに作成するプレゼンテーションを基に、さらに魅力的なプレゼンテーションを行なうことと、質疑応答をし、会話をはずませるための初歩的な技術、技能を実践的に指導する。

到達目標

①　「おもてなしの英語A」から学んでいる通訳技能をさらに発展させ、より一層効果的な表現を身につける。
②　会話やディスカッションでは、準備した内容だけではなく、その場で話題を発展させることができるようになる。
③　より魅力的にプレゼンテーションを行ない、質疑応答がスムーズにこなせるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	○	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力		2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力		4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内小テスト（4回）	80		
授業参加度	20		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『Developing Interpreting Skills for Communication <Revised Edition>（『通訳とコミュニケーションの総合演習［改訂版］』）』	斎藤彩子他	南雲堂	2017	978-4-523-17845-3	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

担当教員は現役の翻訳家、会議同時通訳者。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習は、授業で指示される課題を準備してくること。復習は、授業で学修した語彙や表現を、予習課題として与えられる具体的なタスクの中で実際に使ってみることで、それらの使い方に慣れたり、理解が十分でない点がないか確認する。質問事項をまとめておく。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

辞書必携。ただし、高校時代に使っていたもので良い。電子辞書でも構わない。授業内に実施した小テストのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス（シラバスに沿って説明）	実践練習（教科書について／基礎確認問題の復習） これまで「おもてなしの英語」で学んだことに基づき、さらに表現力を磨く
第2週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	Unit 1 チャレンジコーナーの問題1~3　　自分と家族について話し、通訳する
第3週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	Unit 2 チャレンジコーナーの問題1~3　　大学生活について話し、通訳する
第4週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	Unit 3 チャレンジコーナーの問題1~3　　趣味について話し、通訳する
第5週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	教科書のUnitを使った練習 英語での会議の基本（1）： 会議で使用する基本的表現、意見を述べる表現の復習
第6週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	教科書のUnitを使った練習 英語での会議の基本（2）： 会議の次第、進め方、まとめ方、議長の役割の復習
第7週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	教科書のUnitを使った練習 英語での会議の基本（3）： トピックを選ぶ／意見を英語でまとめる／リサーチが必要な内容を確認する／（議長の使う表
第8週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	教科書のUnitを使った練習 英語での会議の基本（4）：選んだトピックについて会話を深めるために、具体的に何が必要かを確認し、実践形式で模擬会議を行なう（リハーサル）＋フィードバック
第9週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習	教科書のUnitを使った練習 英語での会議の基本（5）： 会議実践形式小テスト（第1回）＋フィードバック
第10週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（1）	教科書のUnitを使った練習 プレゼンテーションの種類、構成、基本的表現の復習 昨年のプレゼンテーションの改善・新規作成計画
第11週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（2）	教科書のUnitを使った練習 プレゼンテーション原稿完成、リハーサル、質問の扱い方
第12週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（3）	教科書のUnitを使った練習 実践形式小テスト（第2回）Self-introduction＋フィードバック プレゼンテーション（Introducing Hokkaido, Sapporo or your hometown with a focus on a
第13週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（4）	教科書のUnitを使った練習 プレゼンテーション原稿作成（添削） 通訳実戦形式小テスト（第3回）
第14週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（5）	教科書のUnitを使った練習 プレゼンテーション原稿作成（添削）、リハーサル＋フィードバック
第15週	通訳に必要な様々な技術とそのための練習 英語でのプレゼンテーション（6）	教科書のUnitを使った練習 英語プレゼンテーションの実践形式小テスト（第4回）＋フィードバック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	おもてなしの英語D						
担当教員	アン・マリー・ミラー　望月	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	SO-CE 4864		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

In this class, we will focus on discussion in English of various topics.

到達目標

The goal of this semester will be to increase students' confidence and ability to present opinions and discuss topics in English.

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力		1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	○	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	○	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
			5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
Grades will be based on class participation	Grades will		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『No textbook』					

参考書等

No assigned textbook. Teacher will provide handouts for use in the class. No preparation is necessary before the class.

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
There are no special requirements for the course.	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

As an oral communication based course, pair and group speaking exercises will be continually used in class as well as a basis for quizzes.
As an oral communication based course, pair and group speaking exercises will be continually used in class as well as a basis

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	Introduction	Introduction to the class and each other
第2週	Brainstorming 1	Brainstorming with a partner: Health, Giving each other advice
第3週	Brainstorming 2	Brainstorming with a partner; Favorite Foods, Talking about experiences
第4週	Brainstorming 3	Brainstorming with a partner; Favorite Actors, Actresses, Singers, Describing people
第5週	Listening/Discussing 1	Listening to a topic, giving opinions, Topic to be announced
第6週	Listening/Discussing 2	Listening to a topic, giving opinions, Topic to be announced
第7週	Listening/Discussing 3	Listening to a topic, giving opinions, Topic to be announced
第8週	Asking questions, answering questions 1	Q and A time in a group; talk about oneself and answer questions
第9週	Asking questions, answering questions 2	Q and A time in a group; talk about a personal experience in the past and answer questions
第10週	Asking questions, answering questions 3	Q and A time in a group; talk about a future plan and answer questions
第11週	Lead the discussion 1	Lead a discussion; Each student will prepare a topic for the class to discuss
第12週	Lead the discussion 2	Lead a discussion; Each student will prepare a topic for the class to discuss
第13週	Arguments 1	Both sides of an argument, practiced first with simple topics
第14週	Arguments 2	Both sides of an argument practice continued with more complex topics
第15週	Arguments 3	Perform both sides of an argument with a partner in groups and in front of the class
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	オペラ制作演習Ⅶ						
担当教員	岡崎　正治／鎌倉　亮太／角　岳史／ 千葉　　潤／萩原　のり子／針生　美智子	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 3107		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、室内楽、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。
下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.異文化による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に協力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
アンサンブル試験および、受講状況による評価	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

新国立劇場等でのオペラ出演・東京二期会オペラ研修所講師。
札幌市内のオペラ団体での指揮・合唱指導等を行う。
札幌文化芸術劇場hitaruとの連携事業で長年に渡りオペラの見どころ・聴きどころを担当。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。 ピアニストは、授業時に合わせができる状態まで譜読みしてくること。	5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項

毎授業の前に発声練習をしてください。
授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
授業開始・終了時にステージ場ミリ・小物等の準備と後片付けを受講者全員で行います。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンスほか	授業の進め方の説明。 一人ずつの声質チェック。 今年度のオペラ公演概要の説明。
第2週	ソロ音楽稽古/合唱稽古①	ガイダンスで指示した曲の音楽稽古。 主に音程・リズムを確認。
第3週	ソロ音楽稽古/合唱稽古②	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。
第4週	身体表現特別講義(予定)	音楽に合わせて動く・振りを覚える等、オペラに必要な身体の使い方を学ぶ。
第5週	ソロ音楽稽古/合唱稽古③	身体表現で得た動きを意識しながら歌唱稽古。
第6週	ソロ音楽稽古/合唱稽古④	言葉・フレーズを主に確認。
第7週	講義Ⅰ（予定）	今回のオペラ作品についての講義
第8週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑤	講義を受けたうえでの解釈を確認した音楽稽古。
第9週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑥	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。
第10週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑦ セリフ稽古①	前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。 更にアンサンブルするうえでのアドヴァイス等。 台本の読み方、声の出し方など実演してアドヴァイス。
第11週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑧ セリフ稽古②	歌唱試験に向けてのアドヴァイス。 前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。
第12週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑨ セリフ稽古③	歌唱試験に向けての仕上げ。 前回のアドヴァイスを受けて復習してきた部分の確認。
第13週	ソロ音楽稽古/合唱稽古⑩	歌唱試験に向けての仕上げ。
第14週	ソロ音楽稽古/合唱稽古11	歌唱試験に向けての仕上げ。
第15週	ソロ、合唱、歌唱試験・講評	歌唱試験。 演奏後に担当教員から講評、後期に向けてのアドヴァイス等。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	オペラ制作演習Ⅷ						
担当教員	岡崎　正治／鎌倉　亮太／角　岳史／ 千葉　　潤／萩原　のり子／針生　美智子	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 3108		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

総合芸術であるオペラを一から学ぶことが出来る。舞台に立つ為の身体表現を身につけ、音楽にのせた言葉を明確に伝える技術、作品の背景や知識を幅広く学び、具体的表現力を身につける。
また、声楽ではなく、ピアニスト、室内楽、舞台スタッフとして授業に参加することもできる。その学生においては、オペラ制作における音楽スタッフ、舞台スタッフの役割も学ぶことが出来る。
下記授業計画の伴奏を中心に行いながら、コレペティトゥアの役割を身につける。また舞台における技術を身につける。

到達目標

一人では成り立たないオペラを体験することにより、舞台に必要なコミュニケーション能力を養うことが出来る。一つの舞台を共に作る達成感を体験し、人間の普遍的テーマを表すオペラ作品を自ら体験することにより、自分を表現し、考えることが出来る。
また、ピアニストとして参加する学生については、授業の伴奏などを通して音楽スタッフとしての役割を身につけることが出来る。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に協力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
アンサンブル試験および、受講状況による評価	80%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

新国立劇場等でのオペラ出演・東京二期会オペラ研修所講師。
ヨーロッパのオペラ公演への出演。
札幌市内のオペラ団体での指揮・合唱指導等を行う。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業で取り上げる楽曲の譜読み、内容の予習、授業内で行った事の復習を必ず行うこと。	5時間から7時間程度/週

受講時の注意事項

毎授業の前に発声練習をしてください。
授業で渡した楽譜、資料は毎回持参してください。
授業開始・終了時にステージ場ミリ・小物等の準備と後片付けを受講者全員で行います。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	台本通し稽古	音楽、セリフを通して確認しながら、アドヴァイス。
第2週	立ち稽古① 音楽稽古①	演出家からの動きのアドヴァイス。 楽器個別練習。
第3週	立ち稽古② 音楽稽古②	立ち位置までの移動を中心に確認。 小物の扱いを確認。 楽器個別練習。
第4週	立ち稽古③ 音楽稽古③	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第5週	立ち稽古④ 音楽稽古④	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第6週	立ち稽古⑤ 音楽稽古⑤	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第7週	立ち稽古⑥ 音楽稽古⑥	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第8週	立ち稽古⑦ 音楽稽古⑦	演奏と動きの確認。 楽器個別稽古。
第9週	立ち稽古⑧ 音楽稽古⑧	演奏と動きの確認。 小物のスタンバイ位置・準備担当者の配置チェック。 楽器個別稽古。
第10週	立ち稽古⑨ 音楽稽古⑨	演奏と動きの確認。 小物のスタンバイ位置・準備担当者の配置チェック。 楽器個別稽古。
第11週	立ち稽古⑩ 音楽稽古⑩	演奏と動きの確認。 小物の最終確認。 楽器個別稽古。
第12週	通し稽古①	演奏と動きの確認。 楽器も合わせて流れを確認。
第13週	通し稽古②	本番に向けての仕上げ。 楽器も合わせて流れを確認。
第14週	通し稽古③	本番に向けての仕上げ。 楽器も合わせて流れを確認。
第15週	G.P/本番	本番後に担当教員から講評。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	映像制作演習Ⅶ						
担当教員	大黒　淳一／小町谷　圭／小山　隼平／門間　友佑	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 4207		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

①音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
②異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③異なる分野の学生との意思疎通をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	○	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	○	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	○	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		○	5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の審査	40%	今後への提案	6%
積極性	15%		
担当業務	15%		
授業外学修	12%		
分析と自己評価	12%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
台本や絵コンテの制作、撮影、作曲など作品制作にかかわる諸作業。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。また、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は履修者の習熟度や制作物に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の受け方、単位の根拠、評価基準等の説明
第2週	企画の提案	企画の提案と決定
第3週	企画会議①	グループの編成
第4週	企画会議②	内容の検討
第5週	企画会議③	内容の決定
第6週	制作準備	作業スケジュールの作成、広報業務の分担
第7週	グループごとの制作①	プロットの決定
第8週	グループごとの制作②	台本、絵コンテの制作
第9週	グループごとの制作③	前半部分の撮影
第10週	グループごとの制作④	中間部の撮影、編集
第11週	グループごとの制作⑤	後半の撮影、編集、作曲
第12週	グループごとの制作⑥	すり合わせ
第13週	試写	初号試写、修正作業
第14週	仕上げ	作品の仕上げと発表当日業務の確認・分担
第15週	発表	研究発表（学外公開とするか授業内公開とするかは授業内で決定する）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	映像制作演習Ⅷ						
担当教員	大黒　淳一／小町谷　圭／小山　隼平／門間　友佑	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	3
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MF-CE 4208		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽・美術両学科共同による映像作品制作を行います。どのような作品を制作するのか企画を立てるところから始め、台本制作、作曲、撮影、録音、演奏、編集等を、両学科の専門性を生かしつつ行います。また、最終的には制作発表を行いますので、広報に関する作業や当日の舞台制作も含めて行います。

到達目標

①音楽・映像が相互に影響しあう作品を制作し、発信できる。
②異なる分野が相互に与える影響について理解できる。
③異なる分野の学生との意思疎通をすることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：社会において多種多様な人と協働し実践する力	○	1.主体的に目標を貫徹する力（自律性）自ら主体的に課題を見出し、高い目標に向けて持続的に努力を重ねることができます。
	2.自律性：目標達成のために努力を重ねる力	○	2.社会に貢献する姿勢（課題発見・社会貢献性）社会が抱える課題を発見し、よく理解し、その解決に向けて意欲的に行動することができます。
	3.課題発見・社会貢献性：広い視野をもって、社会の課題を発見する力		3.多様な価値観、個性を容認し、共に努力し合える能力（協調性）自分と違う個性を持つ他者への感謝の心を忘れず、目標に向け協働することができます。
	4.知識活用：学んだ専門知識や技術を目的に応じて使いこなす力	○	4.社会で求められる基礎的汎用的スキル（基礎的汎用的スキル）コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
		○	5.専門的知識・技術の修得と活用力（知識活用） 　自らが選択した学位プログラムの基礎となる、専門的知識やスキルを修得し、卒業後の社会のニーズに応じて活用することができます。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
作品の審査	40%	今後への提案	6%
積極性	15%		
担当業務	15%		
授業外学修	12%		
分析と自己評価	12%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は映像や音楽に関わる実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
台本や絵コンテの制作、撮影、作曲など作品制作にかかわる諸作業。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

企画制作や発表の準備を授業時間外で行うことが必要になります。また、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は履修者の習熟度や制作物に応じて個別に設定します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業の受け方、単位の根拠、評価基準等の説明
第2週	企画の提案	企画の提案と決定
第3週	企画会議①	グループの編成
第4週	企画会議②	内容の検討
第5週	企画会議③	内容の決定
第6週	制作準備	作業スケジュールの作成、広報業務の分担
第7週	グループごとの制作①	プロットの決定
第8週	グループごとの制作②	台本、絵コンテの制作
第9週	グループごとの制作③	前半部分の撮影
第10週	グループごとの制作④	中間部の撮影、編集
第11週	グループごとの制作⑤	後半の撮影、編集、作曲
第12週	グループごとの制作⑥	すり合わせ
第13週	試写	初号試写、修正作業
第14週	仕上げ	作品の仕上げと発表当日業務の確認・分担
第15週	発表	研究発表（学外公開とするか授業内公開とするかは授業内で決定する）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽実技教授法Ⅰ（ピアノ）						
担当教員	阿部　佳子／後山　美菜子	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4601		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ指導のための基礎知識を習得し、様々な問題(音楽性の養成、テクニックの習得、コミュニケーションのあり方)に対応できる指導方法を実習研究する。「実技教材研究Ⅰ・Ⅱ(ピアノ)」で得た知識を基に実際にレッスン計画を立てて各々、個人レッスン生を受け持つ。

到達目標

①将来の指導を想定し、生徒個々の可能性を見極めることができる
②生徒個々の問題点に対する幅広い解決方法を持つことができる
③構成力あるレッスンを計画し、効果的に実行することができる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実習状況	80%		
レポート(実習プランと記録)	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜資料配布する。ただし、自分のレッスン内で使用するテキスト(開講後決定)は購入する。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

ピアノレッスン導入者への指導経験30年以上あり。また、現在札幌大谷学園附属音楽教室でも指導にあたっている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
担当モデル生に選択された教材については、全体に目を通し内容をしっかり把握した上で、レッスンプランを十分に準備し実習に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

モデル生の保護者とのコンタクトも含め、初歩生徒の音楽体験への責任を意識して実習にあたること。モデル生のカルテをレポートとして提出すること、参考のために、各自の担当生に選択したテキストを購入すること。 また、主に「実技教材研究Ⅰ、Ⅱ(ピアノ)」で紹介した導入テキストや曲集を参考資料とすること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	
第2週	見学	教員による導入レッスン見学①
第3週	見学	教員による導入レッスン見学②
第4週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学①
第5週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学②
第6週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学③
第7週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学④
第8週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑤
第9週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑥
第10週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑦
第11週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑧
第12週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑨
第13週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑩
第14週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑪
第15週	実習及びディスカッション	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑫とディスカッション
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽実技教授法Ⅱ（ピアノ）						
担当教員	阿部　佳子／後山　美菜子	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4602		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「音楽実技教授法Ⅰ」に引き続き、ピアノ指導の様々な問題(音楽性の養成、テクニックの習得、コミュニケーションのあり方)に対応できる方法を実習研究する。発表会の企画実践を通してマネージングを経験する。

到達目標

①将来の指導を想定し、生徒個々の可能性を見極めることができる
②生徒個々の問題点に対する幅広い解決方法を持つことができる
③構成力あるレッスンを計画し、効果的に実行することができる

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実習状況	60%		
イベント企画参加状況	20%		
レポート(実習プランと記録)	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜資料配布する。ただし、自分のレッスン内で使用するテキスト(開講後決定)は購入する。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

ピアノレッスン導入者への指導経験30年以上あり、発表会開催経験も多い。
また、現在札幌大谷学園附属音楽教室でも指導にあたっている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
担当モデル生に選択された教材については、全体に目を通し内容をしっかり把握した上で、レッスンプランを十分に準備し実習に臨むこと。札幌大谷学園附属音楽教室での見学とイベント参加実習を推奨する。詳細は開講後周知します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

モデル生の保護者とのコンタクトも含め、初歩生徒の音楽体験への責任を意識して実習にあたること。モデル生のカルテをレポートとして提出すること、参考のために、各自の担当生に選択したテキストを購入すること。 また、主に「実技教材研究Ⅰ、Ⅱ(ピアノ)」で紹介した導入テキストや曲集を参考資料とすること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	実習と見学	前期音楽実技教授法Ⅰ(ピアノ)に続き、モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学①
第2週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学②
第3週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学③
第4週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学④
第5週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑤
第6週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑥
第7週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑦
第8週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑧
第9週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑨
第10週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑩
第11週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑪
第12週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑫
第13週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑬
第14週	実習と見学	モデル生の個人レッスン実習(30分)他学生実習の見学⑭
第15週	発表会	モデル生発表会の企画実践
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽実技教授法Ⅰ（吹奏楽）						
担当教員	河野　泰幸	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4611		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業は合奏の指導者を育成することを目的とする。楽器の特性を理解し、スコアの読解力を高めること、楽曲への理解を深め、より実践的な指導力を身につける。
自分が専攻している楽器を研究する回のときは、学生がその他受講生に専攻楽器の特性について説明、発表する。

到達目標

吹奏楽で使用される楽器の特性を理解し、吹奏楽の指導ができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
意欲的に取り組めているか（平常点）	60%		
発表（楽器について調べ発表する）資料作成し、演奏	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までに、指示された事項を調べて準備すること。授業後はノート整理し、復習すること。 実技教材研究(吹奏楽)III以上を履修していること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週		ガイダンス
第2週	楽器を研究する	木管楽器の特性を研究する①クラリネット
第3週		木管楽器の特性を研究する②フルート
第4週		木管楽器の特性を研究する③オーボエ
第5週		木管楽器の特性を研究する④ファゴット
第6週		木管楽器の特性を研究する④サクソフォン
第7週		金管楽器の特性を研究する①ホルン
第8週		金管楽器の特性を研究する②トランペット
第9週		金管楽器の特性を研究する③トロンボーン
第10週		金管楽器の特性を研究する④ユーフォニアム
第11週		金管楽器の特性を研究する⑤チューバ
第12週		打楽器の特性を研究する①
第13週		打楽器の特性を研究する②
第14週		弦楽器の特性を研究する
第15週		前期のまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽実技教授法Ⅱ（吹奏楽）						
担当教員	河野　泰幸	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4612		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業は合奏の指導者を育成することを目的とする。楽器の特性を理解し、スコアの読解力を高めること、楽曲への理解を深め、より実践的な指導力を身につける。

到達目標

吹奏楽で使用される楽器の特性を理解し、スコアを読解できるようになる。基礎的な指揮法を習得し、指揮・指導ができるようになる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点	60%		
リハーサル実践での指導法、指揮法の技術	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で指示します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までに、指示された事項を調べて準備すること。授業後はノート整理し、復習すること。 実技教材研究(吹奏楽)を履修していること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

指揮棒を持参する事。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンス。吹奏楽の指導者、指揮者の役割とは。
第2週		吹奏楽の指導者、指揮者の役割とは②
第3週		吹奏楽においての指揮法指導法①
第4週		吹奏楽においての指揮法指導法②
第5週		吹奏楽においての指揮法指導法③
第6週		吹奏楽においての指揮法指導法④
第7週		吹奏楽においての指揮法指導法⑤
第8週		スコアリーディング①
第9週		スコアリーディング②
第10週		スコアリーディング③
第11週		スコアリーディング④
第12週		リハーサル実践①
第13週		リハーサル実践②
第14週		リハーサル実践③
第15週		まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽実技教授法Ⅰ（合唱）						
担当教員	三山　博司	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4621		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業は合唱の指導者を育成することを目的とする。
前期は合唱指導者として、合唱団員が合唱をするために必要な身体の使い方、呼吸法、発声法などを学び、その指導法についても研究する。

到達目標

①　合唱指導の現場において、練習の進め方について理解できる。
②　合唱をするために必要な楽器としての身体の使い方を理解し、それを言葉や身体を使って表現し、指導することができる。
③　楽譜を見て指揮をすることができ、具体的かつ的確に改善すべきポイントを指摘し、指導することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での演習	70%		
平常点（積極的な授業への取り組みなど）	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

さまざまな形態の合唱団の指導、及び演奏会での指揮
セミナー・講習会での講師
合唱コンクール、アンサンブルコンテストなどの審査

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
与えられた課題について十分に調べ、理解をしてから授業に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実際の合唱団を指導するための方法を考察する授業であることを認識して授業に参加すること。
合唱指揮・指導を他の履修者が行うときは、教えられる側の合唱団員として積極的に歌うことが必須である。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	学修計画を示す
第2週	歌う姿勢	歌唱の姿勢及び身体の使い方について
第3週	呼吸法①	正しい呼吸法について学び、指導できるようにする①
第4週	呼吸法②	正しい呼吸法について学び、指導できるようにする②
第5週	呼吸法③	正しい呼吸法について学び、指導できるようにする③
第6週	発声①	正しい呼吸法を基によく響く声について学ぶ①
第7週	発声②	正しい呼吸法を基によく響く声について学ぶ②
第8週	発声③	正しい呼吸法を基によく響く声について学ぶ③
第9週	発音①	日本語のディクションについて
第10週	発音②	ラテン語・イタリア語のディクションについて
第11週	発音③	ドイツ語のディクションについて
第12週	発音④	英語のディクションについて
第13週	ウォーミングアップの方法①	合唱団のウォーミングアップ（ストレッチ）
第14週	ウォーミングアップの方法②	合唱団のウォーミングアップ（発声練習）
第15週	ウォーミングアップの方法③	合唱団のウォーミングアップ（響きのポジションを揃える）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽実技教授法Ⅱ（合唱）						
担当教員	三山　博司	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4622		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業は合唱の指導者を育成することを目的とする。
後期は、前期で学んだことを含めて、様々なジャンルの合唱曲を実際の合唱団に対して指導・指揮をして具体的な指導方法、音楽づくり、ハーモニーの構築などについて探求する。
指導・指揮を他の履修者が担当するときは、指導を受ける立場の合唱団員として積極的に歌唱することで、指導・指導について客観的に学ぶ。

到達目標

①　合唱指導の現場において、練習の進め方について理解できる。
②　合唱をするために必要な楽器としての身体の使い方を理解し、それを言葉や身体を使って表現し、指導することができる。
③　楽譜を見て指揮をすることができ、具体的かつ的確に改善すべきポイントを指摘し、指導することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。	○	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での演習	70%		
平常点（積極的な授業への取り組みなど）	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『無し。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

さまざまな形態の合唱団の指導、及び演奏会での指揮
セミナー・講習会での講師
合唱コンクール、アンサンブルコンテストなどの審査

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
与えられた楽曲について、曲の背景や歌詞、及び発音などについて十分に調べ、どのように指導するかをシミュレーションして、正しく指揮できるように十分練習してから授業に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

実際の合唱団を指導するための方法を考察する授業であることを認識して授業に参加すること。
合唱指揮・指導を他の履修者が行うときは、指導を受ける立場の合唱団員として積極的に歌うことが必須である。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	指揮・指導の実践①	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ①
第2週	指揮・指導の実践②	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ②
第3週	指揮・指導の実践③	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ③
第4週	指揮・指導の実践④	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ④
第5週	指揮・指導の実践⑤	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ⑤
第6週	指揮・指導の実践⑥	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ⑥
第7週	指揮・指導の実践⑦	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ⑦
第8週	指揮・指導の実践⑧	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ⑧
第9週	指揮・指導の実践⑨	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ⑨
第10週	指揮・指導の実践⑩	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ⑩
第11週	指揮・指導の実践⑪	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ⑪
第12週	指揮・指導の実践⑫	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ⑫
第13週	指揮・指導の実践⑬	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ⑬
第14週	指揮・指導の実践⑭	楽曲を用いて合唱団を指導・指揮をし、曲を完成させるところまで行い、指揮・指導のポイントを学ぶ⑭
第15週	まとめ	前期・後期を振り返り、学修したことをレポートにまとめる
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	即興演奏 E						
担当教員	小山　隼平／向坂　元吾	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4367		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

①コードネームを理論的に理解できる。
②一定のルールに沿って即興的に音を出すことができる。
③適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
参加状況	20%	知識と技術	16%
音楽によるコミニュケーション力	16%		
表現のアイディア	16%		
成長の実感	16%		
考え方・取り組む姿勢	16%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	
第2週	グループ分け、選曲	ルールの理解
第3週	グループごとにセッションをする（前半）①	ルールに沿った表現
第4週	グループごとにセッションをする（前半）②	リズムの表現
第5週	グループごとにセッションをする（前半）③	スケールの理解
第6週	グループごとにセッションをする（前半）④	スケールの理解
第7週	グループごとにセッションをする（前半）⑤	スケールに沿った表現
第8週	グループごとにセッションをする（前半）⑥	総括
第9週	中間発表	
第10週	グループごとにセッションをする（後半）①	ルールに沿った表現
第11週	グループごとにセッションをする（後半）②	リズムの表現
第12週	グループごとにセッションをする（後半）③	スケールの理解
第13週	グループごとにセッションをする（後半）④	スケールの理解
第14週	グループごとにセッションをする（後半）⑤	スケールに沿った表現
第15週	期末発表とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	即興演奏Ｆ						
担当教員	小山　隼平／向坂　元吾	配当年次	４年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4368		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

グループでのセッションを通して、即興演奏の技法を身につけます。

到達目標

①コードネームを理論的に理解できる。
②一定のルールに沿って即興的に音を出すことができる。
③適切なリズムを創り出すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
参加状況	20%	知識と技術	16%
音楽によるコミニュケーション力	16%		
表現のアイディア	16%		
成長の実感	16%		
考え方・取り組む姿勢	16%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
コードネームとスケールの復習をし、覚えられるよう練習してください。コードはいろいろな配置で弾けるようにしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

弦楽器、管楽器で受講したい場合には、楽器を持参してください。なお、上記の授業計画は基本的な流れで、詳細な内容は受講者の習熟度に応じて個別に設定します。授業計画に変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	
第2週	グループ分け、選曲	ルールの理解
第3週	グループごとにセッションをする（前半）①	ルールに沿った表現
第4週	グループごとにセッションをする（前半）②	リズムの表現
第5週	グループごとにセッションをする（前半）③	スケールの理解
第6週	グループごとにセッションをする（前半）④	スケールの理解
第7週	グループごとにセッションをする（前半）⑤	スケールに沿った表現
第8週	グループごとにセッションをする（前半）⑥	総括
第9週	中間発表	
第10週	グループごとにセッションをする（後半）①	ルールに沿った表現
第11週	グループごとにセッションをする（後半）②	リズムの表現
第12週	グループごとにセッションをする（後半）③	スケールの理解
第13週	グループごとにセッションをする（後半）④	スケールの理解
第14週	グループごとにセッションをする（後半）⑤	スケールに沿った表現
第15週	期末発表とまとめ	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	器楽合奏Ⅶ（吹奏楽・オーケストラ）						
担当教員	大隅　雅人／河野　泰幸	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4217		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合奏を通して演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な基本的奏法を身につけるとともに、アンサンブルの技能を高める。
演奏会実現に向けて様々な役割を担いプロの演奏家、及び吹奏楽指導者としての能力を学んでいく。

到達目標

楽曲に合った奏法を身につけるとともにアンサンブルの重要性を理解する。
演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要なスキルを身につけ、様々なコンサートなどでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏発表及び特別練習に参加する為にしっかりと準備	50%		
合奏に必要な基本的奏法がなされているか	30%		
楽曲分析や演奏表現をしっかりと取り組めているか	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

演奏家としての実務経験(オーケストラ活動)のある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までにしっかりと譜読みをし、更に音楽的な表現ができるレベルまで練習を重ねる。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れですが、コンサートに向けて授業科目別の計画は変更が考えられます。
その場合は事前にお知らせします。
コンサート前の特別練習やオープンキャンパス、吹奏楽セミナーなど各種の本番に絡み、授業回数が増えることがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、合奏	授業内容、目的、計画、役割分担。
第2週	基礎と合奏	簡単な楽曲を使いサウンドのチェック
第3週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第4週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第5週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第6週	合奏	キャンパスコンサートに向けて質の向上
第7週	合奏	キャンパスコンサートに向けて仕上げ
第8週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第9週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第10週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第11週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第12週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第13週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第14週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第15週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第16週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第17週	合奏	定期演奏会に向けて総練習
第18週	合奏	定期演奏会本番
第19週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第20週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第21週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第22週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第23週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第24週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第25週	合奏	様々なコンサートに向けてのプログラム曲の合わせ
第26週	合奏	オーケストラ定期の譜読み
第27週	合奏	オーケストラ定期の質の向上
第28週	合奏	オーケストラ定期本番
第29週	合奏	シンフォニック定期総練習
第30週	合奏	シンフォニック定期本番

授業科目	器楽合奏VII（弦楽合奏・オーケストラ）						
担当教員	岩渕　晴子／大隅　雅人／グレブ　ニキティン／ 河野　泰幸／鈴木　初／中島　杏子	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4227		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

オーケストラ曲などの主要な作品を演奏しながら、合奏の基本的な技術やアンサンブルの表現方法を学ぶ。
また、定期演奏会などの研究成果を発表し、合奏技術や表現力の実践的な習得を目指す。

到達目標

楽曲に合った奏法を身につけるとともに、アンサンブルの重要性を理解する。
演奏するだけではなく、演奏団体運営に必要な役割を身につけ、定期演奏会や弦楽合奏成果発表演奏会などのコンサートでその力を発揮する。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
予習、復習などの授業への受講態度	50%		
合奏技術の達成度	30%		
演奏に取り組む姿勢	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は演奏家(プロのオーケストラ活動など)としての実務経験のある教員が実践的指導を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業までに譜読みをし、安定した演奏になるための練習を行う。 予習、復習を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業に備え椅子、譜面台など合奏できる状態にセッティングをし、各自音出し、チューニングを済ませておく。
数台の弦楽器は貸し出しを行うが、原則楽器は個人持ちが望ましい弦楽合奏など演奏会経費など別途かかる場合があります。
上記の授業計画は基本的な流れであり、演奏会前の特別練習など授業回数や授業内容に変更の可能性があります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	初級、上級クラス分け
第2週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイングについて理解する
第3週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイングについて理解する
第4週	弦楽器の基本を学ぶ	正しい姿勢、楽器の構え方、チューニング、ボーイング、について理解する
第5週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第6週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第7週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第8週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	初級と上級に分かれて基礎合奏と弦楽合奏の譜読み
第9週	弦楽器の基本を学ぶ 合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第10週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第11週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の質の向上
第12週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第13週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第14週	合奏	弦楽合奏のプログラム曲の仕上げ
第15週	弦楽合奏本番	前期弦楽合奏成果発表演奏会
第16週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第17週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第18週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第19週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの譜読み
第20週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第21週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第22週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの質の向上
第23週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの仕上げ
第24週	基礎と合奏	初級は後期成果発表弦楽合奏の譜読み 上級はオーケストラ定期のプログラムの仕上げ
第25週	音楽学科定期演奏会本番	音楽学科定期演奏会でのオーケストラ演奏 初級はコンサートを必ず聴きにいくこと
第26週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第27週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第28週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第29週	基礎と合奏	後期弦楽合奏成果発表演奏会に向けて仕上げ
第30週	弦楽合奏成果発表コンサート本番	弦楽合奏成果発表の本番

授業科目	器楽合奏Ⅶ（電子オル・ハイブリッドオケ）						
担当教員	斉藤　宏子	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4237		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合奏という集団性の高い演奏形態の中で、音楽を通じて、コミュニケーションの取り方や集団の中の個のあり方などを学びます。同時に、協調性や人間性を養います。

到達目標

①楽曲にあった奏法を実践することができる。
②アンサンブルの重要性が理解できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏技術の達成度	40%		
合奏における役割の理解度と表現力	40%		
平常点	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『エレクトーン・ブルクミュラー25の練習曲CD付』	渡辺暁樹	ヤマハ音楽振興会	2018	9784636955002	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習、練習をして授業に望んでください。また、授業終了後は、復習を必要とします。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

電子オルガンの学習経験の有無は問いません。また、上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせいたします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	授業概要の説明とグループ編成の決定
第2週	選曲	
第3週	楽器等の理解	
第4週	グループ内担当の割り振り①（ディスカッション）	
第5週	グループ内担当の割り振り②（決定）	
第6週	楽譜作成、個々の音色づくり（１曲目）	
第7週	楽譜作成、個々の音色づくり（２曲目）	
第8週	楽譜作成、個々の音色づくり（３曲目）	
第9週	楽譜作成、個々の音色づくり（４曲目）	
第10週	グループ全体での音作り（１曲目前半）	
第11週	グループ全体での音作り（１曲目後半）	
第12週	アンサンブル練習（１曲目前半）	
第13週	アンサンブル練習（１曲目後半）	
第14週	アンサンブル練習（１曲目仕上げ）	
第15週	まとめ	授業内で演奏発表を行う
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノアンサンブルVII						
担当教員	鎌倉　亮太／谷本　聡子	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4317		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

今までの授業で培った学びを基に、アンサンブルする時の音の整理・バランスの取り方などを発展的に学び、アンサンブルにおけるピアノ技法の研究を深める。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による思考及び表現をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏試験	50%		
発表会	40%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。ただし、履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。
詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人で十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	組み合わせを決める。
第2週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第3週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第4週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第5週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第6週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第7週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第8週	合同発表会	中間のまとめ発表
第9週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第10週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第11週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第12週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第13週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第14週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第15週	まとめと期末試験	まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ピアノアンサンブルⅧ						
担当教員	鎌倉　亮太／谷本　聡子	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4318		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

今までの授業で培った学びを基に、アンサンブルする時の音の整理・バランスの取り方などを発展的に学び、アンサンブルにおけるピアノ技法の研究を深める。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験できる。
ピアノアンサンブルの豊富なレパートリー内から自主的に選択した曲で、互いに自己表現ができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による表現及び演奏において、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
演奏試験	50%		
発表会	40%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。ただし、履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等、
詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人で十分に練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。発表会と年末試験は別の曲（或いは別の楽章）を演奏すること。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	組み合わせを決める。
第2週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第3週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第4週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第5週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第6週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第7週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第8週	合同発表会	中間のまとめ発表
第9週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第10週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に読譜を行う。
第11週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第12週	グループレッスン	自由曲（連弾または２台ピアノ）を課題に両方のパートを弾けるようにする。
第13週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第14週	グループレッスン	アンサンブルの耳を育て、バランスを取る訓練をする。
第15週	まとめと期末試験	まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	合唱Ⅶ						
担当教員	内藤　淳一	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4207		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

合唱Ⅶは4年次に配当された選択の合唱となりますが、受講学生はこれまでの合唱ⅠからⅥで培った合唱経験やスキルをさらに深め、歌唱のテクニックを高めるとともに、合唱レパートリーをさらに広げつつ既習の楽曲ではそれを深めてゆくことになります。また、定期演奏会で取り上げる楽曲については、その譜読みから本番に至る練習の過程でさらなる音楽の高みを目指し、それに必要な技術や音楽性の伸長を目指します。
授業前半では合唱ⅢやⅤと同様に日本の合唱作品（NHK全国学校音楽コンクール課題曲「虹」森山直太朗・御徒町凧作詞作曲と「死んだ男の残したものは」詩／谷川俊太郎、作曲／武満徹）を取り上げ、そこにはこれまで歌ってきた楽曲も一部重複して含まれますが、様々な視点からアプローチした楽曲分析を踏まえ、語感を大切にした合唱表現やハーモニーの要求する音楽的抑揚の表現などを学んでゆきます。授業後半からは定期演奏会で取り上げる楽曲に集中的に取り組み、オーケストラと一体となった音楽表現へのアプローチを理解します。

到達目標

①これまで学んできた正しい呼吸法と発声法をさらに定着させ、合唱における歌唱表現に生かすことができる。
②言葉やハーモニーの要求する音楽的抑揚を的確に捉え、演奏に的確に反映することができる。
③作品の持つ様式を理解し、十分に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
チェックシート（毎回の授業の最後に提出する振り返	75%		
平常点（チェックシートから読み取れる授業に取り組	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。 定期演奏会で取り上げる楽曲については必要に応じて販売となることも					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

合唱指導者として中学校や高等学校での部活動指導や授業での合唱指導など、豊富な実務経験があります。
全日本合唱コンクールやNHK全国学校音楽コンクール、声楽アンサンブルコンクール、滝廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールなどで全国大会出場経験も多数あります。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配布された楽譜をその時間中に歌う場合は授業内での譜読みとなります。そのために必要な読譜力を普段から磨いておく必要があります。これまでの合唱で習得した発声法や呼吸法は各自でしっかり復習して定着させておいてください。	1時間程度/週

受講時の注意事項

この合唱Ⅶは選択の授業ではありますが、器楽演奏や作編曲などのすべての音楽の基本が歌うことにあると考え、音楽学科にとっての大切な科目ととらえてもらえればと思います。
授業では作曲家としての楽譜の書かれ方に着目し、合唱指導者としての言葉と音楽とのより高い次元での融合を目指した授業にしてゆくの

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	第1週ではこの授業の１年間の授業展開について説明します。 実技としてはこれまでの合唱で習得した発声法と呼吸法を確認します。その具体的な方法の一つとして、教育現場（授業や部活動など）でよく行われているピアノ伴奏法に加え、器楽練習
第2週	日本の合唱作品を学ぶ①	第2週では詩と音楽との関わり、言葉を伴った動機の展開と和声について考えながら合唱表現を工夫してゆきます。楽曲は「虹」（作詞作曲／森山直太朗・御徒町凧）と「死んだ男の残したものは」（詩：谷川俊太郎、曲：武満徹）です。学校教育現場で歌われることの多いコン
第3週	日本の合唱作品を学ぶ②	第3週では到達目標②にある「言葉やハーモニーの要求する音楽的抑揚を的確に捉え、演奏に反映」させる具体的な方法を考え工夫してみます。ここでは特に詩の中にある言葉とリズムやハーモニーとの関係に着目してゆきます。
第4週	日本の合唱作品を学ぶ③	第4週では前週に続き到達目標②にある「言葉やハーモニーの要求する音楽的抑揚を的確に捉え、演奏に反映」させる具体的な方法をさらに試行してゆきます。 ここではこの楽曲が表現しようとしているところを歌詞やハーモニー、言葉のリズムに感じ取
第5週	日本の合唱作品を学ぶ④	第5週ではこの２曲それぞれの全体像を把握しながら、それらの楽曲構成を念頭に置いた音楽表現を工夫します。
第6週	日本の合唱作品を学ぶ⑤	第6週ではこの２曲をそれぞれ総括的に取り扱い、その表現すべきところを確認しながらまとめの合唱をしてゆきます。
第7週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（１）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習①
第8週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（２）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習②
第9週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（３）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習③
第10週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（４）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習④
第11週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（５）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑤
第12週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（６）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑥
第13週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（７）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑦
第14週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（８）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑧
第15週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習（９）	譜読み、およびパート練習、アンサンブル練習⑨
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	合唱Ⅷ						
担当教員	内藤　淳一	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4208		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この合唱Ⅷは前期の合唱Ⅶから継続して展開する授業です。
前年度の合唱で習得した内容を踏まえ、より高度な声のハーモニーを実習します。
定期演奏会（11月21日(金)Kitaraで開催予定）で取り上げる楽曲の練習が主な内容となるが、オーケストラとの共演で合唱がそのハーモニーの色彩感を表現し、言葉の抑揚やリズムの特徴などを踏まえた歌唱表現を学びます。

到達目標

定期演奏会で取り上げる大規模場楽曲の練習を通して以下のような到達目標を達成する。
①正しい発声法と呼吸法のさらなる習得に努め、それらを合唱表現に生かしてゆくことができる。
②より複雑なハーモニーの抑揚をくみ取り、それを合唱表現に生かしてゆくことができる。
③語感とその抑揚を生かした発音に努め、表情豊かに合唱表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
チェックシート（毎回の授業の最後に提出する振り返	60%		
振り返りシート（最終のレポート）	15%		
平常点（チェックシートから読み取れる授業に取り組	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。 定期演奏会で取り上げる楽曲については必要に応じて販売となることも					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

合唱指導者として中学校や高等学校での部活動指導や授業での合唱指導など、豊富な実務経験があります。
全日本合唱コンクールやNHK全国学校音楽コンクール、声楽アンサンブルコンクール、滝廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールなどで全国大会出場経験も多数あります。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配布された楽譜をその時間中に歌う場合は授業内での譜読みとなります。そのために必要な読譜力を普段から磨いておく必要があります。合唱ⅠとⅡで習得した発声法や呼吸法は各自でしっかり復習して定着させておいてください。	１～２時間程度/週

受講時の注意事項

この合唱Ⅷも選択の授業ではありますが、器楽演奏や作編曲などのすべての音楽の基本が歌うことにあると考え、音楽学科にとっての大切な科目ととらえてもらえればと思います。
授業では作曲家としての楽譜の書かれ方に着目し、合唱指導者としての言葉と音楽とのより高い次元での融合を目指した授業にしてゆくの

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習①	前期に学んだ定期演奏会で取り上げる楽曲についての確認。 詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(1)
第2週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習②	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(2)
第3週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習③	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(3)
第4週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習④	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(4)
第5週	定期演奏会で取り上げる楽曲の練習⑤	詩の内容と音楽とを結びつけて表現できるようきめ細かな練習としてゆく(5)
第6週	定期演奏会に向けた全体練習①	楽曲全体の譜読みを完了し仕上げの練習を行う(1)
第7週	定期演奏会に向けた全体練習②	仕上げの練習を行う(2)
第8週	定期演奏会に向けた全体練習③	仕上げの練習を行う(3)
第9週	定期演奏会に向けた全体練習④	仕上げの練習を行う(4)
第10週	定期演奏会に向けた全体練習⑤	仕上げの練習を行う(5)
第11週	定期演奏会のための強化練習①	オーケストラとの合同練習(1)
第12週	定期演奏会のための強化練習②	オーケストラとの合同練習(2)
第13週	定期演奏会のための強化練習③	オーケストラとの合同練習(3)
第14週	定期演奏会のための全体総練習および本番	全体総練習ではプログラムの進行に従って練習を進め、適宜確認をしつつ出入りを含めた総合的な練習をする。
第15週	総括	定期演奏会を振り返りレポートを作成する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	演奏解釈Ⅰ						
担当教員	岡本　孝慈／河野　泰幸／外山　啓介／森　洋子	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

様々な作品について議論を行い、実際の演奏に反映させていく。
バロックから古典、ロマン派から近現代の各時代の様式や表現方法について疑問点、矛盾点などを認識し各自理解を深める。

到達目標

作品について様々な角度から考察し主体的に課題を見つけ出すことができる。
演奏解釈に裏打ちされた説得力のある演奏を目指すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での演奏、演奏に対する解釈の発表	70%		
取り組む姿勢	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各自が自選曲についての解釈、演奏を発表できるようにすること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

演奏発表をすること。その際楽譜の解釈について説明すること。
担当教員はスケジュールの都合等で入れ替わることがあるが、可能な限り事前に周知します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、チェンバロとバロック音楽①	森、河野、岡本
第2週	バロック作品のピアノ演奏について	岡本
第3週	チェンバロとバロック音楽②	森、岡本
第4週	バロック・古典の器楽作品につて	河野、岡本
第5週	チェンバロとバロック音楽③	森、岡本
第6週	古典のピアノ作品について	外山、岡本
第7週	チェンバロとバロック音楽④	森、岡本
第8週	古典のピアノ作品について	岡本
第9週	古典の器楽作品について	河野、岡本
第10週	古典のピアノ作品について	外山、岡本
第11週	古典の作品について	岡本
第12週	学生による発表①	河野、岡本
第13週	学生による発表②	外山、岡本
第14週	学生による発表③	河野、岡本
第15週	学生による発表④	外山、岡本
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	演奏解釈Ⅱ						
担当教員	岡本　孝慈／河野　泰幸／外山　啓介／森　洋子	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4002		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

様々な作品について議論を行い、実際の演奏に反映させていく。
バロックから古典、ロマン派から近現代の各時代の様式や表現方法について疑問点、矛盾点などを認識し各自理解を深める。

到達目標

作品について様々な角度から考察し主体的に課題を見つけ出すことができる。
演奏解釈に裏打ちされた説得力のある演奏を目指すことができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業内での演奏、演奏に対する解釈の発表	70%		
取り組む姿勢	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各自が自選曲についての解釈、演奏を発表できるようにすること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

演奏発表をすること。その際楽譜の解釈について説明すること。
担当教員はスケジュールの都合等で入れ替わることがあるが、可能な限り事前に周知します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	古典、ロマン派の作品について	岡本
第2週	古典、ロマン派の作品について	河野、岡本
第3週	古典、ロマン派の作品について	外山、岡本
第4週	ロマン派の作品について	岡本
第5週	ロマン派の器楽作品について	河野、岡本
第6週	ロマン派以降の作品について	外山、岡本
第7週	ロマン派以降の作品について	岡本
第8週	フォルテピアノの魅力について	森、岡本 施設の都合により実施する週が前後する可能性があります。
第9週	ロマン派以降の作品について	河野、岡本
第10週	ロマン派以降の作品について	外山、岡本
第11週	ロマン派以降の作品について	岡本
第12週	学生による発表①	河野、岡本
第13週	学生による発表②	外山、岡本
第14週	学生による発表③	外山、岡本
第15週	学生による発表④	河野、岡本
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本歌曲研究Ⅰ						
担当教員	三山　博司	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4131		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

滝廉太郎、山田耕筰ら初期の作品から現代の作曲家の作品に至るまで、日本歌曲作品を広く取り上げ演奏研究を行う。日本語の美しい発音の方法を学びつつ、作曲家がテキスト（詩）をどのように読み解いて曲（旋律とピアノパート）を書いたかを考察する。それらをもとに内容に即した演奏表現と演奏解釈を歌唱とピアノの両面から研究する。授業は演習形式で行い、毎週２～３曲を学習する。履修者ごとに異なった課題曲を与え、年度末に履修者全員で発表演奏する。

到達目標

①正しい日本語の発音で歌唱することができる。
②歌、ピアノパートともにテキスト（詩）に対する作曲家の解釈を理解し、その意図を的確に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での演習	70%		
平常点（積極的に授業に取り組む姿勢及び受講態度）	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。ただし履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。』					

参考書等

日本歌曲全集[1]～[45] 音楽之友社 （大学図書館所蔵）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

ソロ・リサイタル及び様々な演奏会での歌唱
各種セミナー・講習会での講師

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
与えられた課題曲を演奏できるように、各自十分に予習（練習）してから授業に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修者は年度末の発表演奏会で、歌唱またはピアノのどちらかを必ず演奏しなければなりません。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	１年間の履修計画を示し、演習授業の準備の方法、授業の進め方について説明する。
第2週	日本歌曲の誕生から現在までの流れ①	滝廉太郎から始まる日本歌曲の黎明期について考察する。
第3週	日本歌曲の誕生から現在までの流れ②	日本歌曲の中興の祖である橋本国彦を中心に昭和の初期から戦前・戦中にかけての作曲家について考察する。
第4週	日本歌曲の誕生から現在までの流れ③	中田喜直、團伊玖磨を始め、戦後から現代にいたるまでの作曲家について考察する。
第5週	日本語歌唱の基本と注意点について	舞台語としての日本語の発音・発声の注意点について、滝廉太郎などの歌曲を用いて学ぶ。
第6週	山田耕筰などの初期の日本歌曲①	山田耕筰らの作品を教材に、正しく美しい日本語での歌唱を研究する①
第7週	山田耕筰などの初期の日本歌曲②	山田耕筰らの作品を教材に、正しく美しい日本語での歌唱を研究する②
第8週	山田耕筰などの初期の日本歌曲③	山田耕筰らの作品を教材に、正しく美しい日本語での歌唱を研究する③
第9週	戦前の作曲家の作品①	戦前の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する①
第10週	戦前の作曲家の作品②	戦前の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する②
第11週	戦前の作曲家の作品③	戦前の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する③
第12週	戦前の作曲家の作品④	戦前の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する④
第13週	戦前の作曲家の作品⑤	戦前の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑤
第14週	戦後の作曲家の作品①	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する①
第15週	戦後の作曲家の作品②	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する②
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	日本歌曲研究Ⅱ						
担当教員	三山　博司	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4132		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

滝廉太郎、山田耕筰ら初期の作品から現代の作曲家の作品に至るまで、日本歌曲作品を広く取り上げ演奏研究を行う。日本語の美しい発音の方法を学びつつ、作曲家がテキスト（詩）をどのように読み解いて曲（旋律とピアノパート）を書いたかを考察する。それらをもとに内容に即した演奏表現と演奏解釈を歌唱とピアノの両面から研究する。授業は演習形式で行い、毎週２～３曲を学習する。履修者ごとに異なった課題曲を与え、年度末に履修者全員で発表演奏する。

到達目標

①正しい日本語の発音で歌唱することができる。
②歌、ピアノパートともにテキスト（詩）に対する作曲家の解釈を理解し、その意図を的確に表現することができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での演習	50%		
発表演奏会に向けての取り組み	20%		
平常点（積極的に授業に取り組む姿勢及び受講態度）	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。ただし履修者それぞれが使用する楽譜については自分で用意することを原則とします。』					

参考書等

日本歌曲全集[1]～[45] 音楽之友社（大学図書館所蔵）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

ソロ・リサイタル及び様々な演奏会での歌唱
各種セミナー・講習会での講師

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
与えられた課題曲を演奏できるように、各自十分に予習（練習）してから授業に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修者は年度末の発表演奏会で、歌唱またはピアノのどちらかを必ず演奏しなければなりません。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	戦後の作曲家の作品③	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する③
第2週	戦後の作曲家の作品④	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する④
第3週	戦後の作曲家の作品⑤	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑤
第4週	戦後の作曲家の作品⑥	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑥
第5週	戦後の作曲家の作品⑦	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑦
第6週	戦後の作曲家の作品⑧	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑧
第7週	戦後の作曲家の作品⑨	戦後の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する⑨
第8週	現代の作曲家の作品①	現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する①
第9週	現代の作曲家の作品②	現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する②
第10週	現代の作曲家の作品③	現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する③
第11週	現代の作曲家の作品④	現代の作曲家の作品を歌唱とピアノの両面から研究する④
第12週	発表演奏会に向けての総合演習①	発表演奏会でそれぞれが演奏する楽曲の総仕上げ①
第13週	発表演奏会に向けての総合演習②	発表演奏会でそれぞれが演奏する楽曲の総仕上げ②
第14週	発表演奏会に向けての総合演習③	発表演奏会でそれぞれが演奏する楽曲の総仕上げ③
第15週	発表演奏会	歌唱またはピアノで各自が担当する楽曲を演奏する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	声楽特別研究C						
担当教員	三山　博司	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4323		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

西洋クラシック音楽の源流である宗教音楽とオラトリオについて、その起源から今日までの歴史を学ぶ。その上で代表的な作品を取り上げ、声楽アンサンブルを中心に、ソロを交えて演習する。年度末に履修者全員で発表演奏会を行う。取り上げる楽曲については、履修状況に合わせて適宜選択する。

到達目標

①宗教音楽から始まる様々な声楽曲・合唱曲についての知識を深めることができる。
②取り上げる楽曲で用いられるラテン語・ドイツ語・フランス語・英語などを正しく美しい発音で歌唱することができる。
③声楽アンサンブルに必要な様々な知識とテクニックを身に付けることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での演習	70%		
平常点（積極的に授業に取り組んでいるかなど）	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

演奏会での独唱及び指揮
セミナー・講習会での講師

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
与えられた楽曲を演奏できるように、予習・復習（練習）を十分してから授業に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修者は年度末の発表演奏会で演奏する楽曲について責任をもって十分な練習を行い、演奏会に臨むこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	宗教曲・オラトリオについての講義と演習による授業の進め方について1年間の学修計画を示す
第2週	宗教音楽の歴史①	宗教音楽の起源についてキリスト教との関係から学ぶ
第3週	宗教音楽の歴史②	ルネサンス～バロックの宗教音楽
第4週	宗教音楽の歴史③	バッハ・ヘンデル以降の宗教音楽史①
第5週	宗教音楽の歴史④	バッハ・ヘンデル以降の宗教音楽史②
第6週	レクイエム①	レクイエムの歴史①
第7週	レクイエム②	レクイエムの歴史②
第8週	オラトリオ①	オラトリオの歴史①
第9週	オラトリオ②	オラトリオの歴史②
第10週	ルネサンス時代の宗教音楽①	ルネサンス時代の宗教音楽作品を、様式、言葉（発音）などを学びつつ、アンサンブルの演習をする①
第11週	ルネサンス時代の宗教音楽②	ルネサンス時代の宗教音楽作品を、様式、言葉（発音）などを学びつつ、アンサンブルの演習をする②
第12週	ルネサンス時代の宗教音楽③	ルネサンス時代の宗教音楽作品を、様式、言葉（発音）などを学びつつ、アンサンブルの演習をする③
第13週	ルネサンス時代の宗教音楽④	ルネサンス時代の宗教音楽作品を、様式、言葉（発音）などを学びつつ、アンサンブルの演習をする④
第14週	ルネサンス時代の宗教音楽⑤	ルネサンス時代の宗教音楽作品を、様式、言葉（発音）などを学びつつ、アンサンブルの演習をする⑤
第15週	まとめと振り返り	宗教音楽作品やオラトリオの講義についてまとめをし、ルネサンス時代の宗教合唱曲のアンサンブルの仕上げをする
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	声楽特別研究D						
担当教員	三山　博司	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4324		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

西洋クラシック音楽の源流である宗教音楽とオラトリオについて、その起源から今日までの歴史を学ぶ。その上で代表的な作品を取り上げ、声楽アンサンブルを中心に、ソロを交えて演習する。年度末に履修者全員で発表演奏会を行う。取り上げる楽曲については、履修状況に合わせて適宜選択する。

到達目標

①宗教音楽から始まる様々な声楽曲・合唱曲についての知識を深めることができる。
②取り上げる楽曲で用いられるラテン語・ドイツ語・フランス語・英語などを正しく美しい発音で歌唱することができる。
③声楽アンサンブルに必要な様々な知識とテクニックを身に付けることができる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業での演習	50%		
平常点（積極的に授業に取り組んでいるかなど）	30%		
発表演奏会に向けての取り組み	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

演奏会での独唱及び指揮
セミナー・講習会での講師

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
与えられた楽曲を演奏できるように、予習・復習（練習）を十分にしてから授業に臨むこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修者は年度末の発表演奏会で演奏する楽曲について責任をもって十分な練習を行い、演奏会に臨むこと。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	バロック時代の宗教音楽①	バロック時代の宗教音楽作品を、様式、言葉（発音）などを学びつつ、アンサンブルの演習をする①
第2週	バロック時代の宗教音楽②	バロック時代の宗教音楽作品を、様式、言葉（発音）などを学びつつ、アンサンブルの演習をする②
第3週	バロック時代の宗教音楽③	バロック時代の宗教音楽作品を、様式、言葉（発音）などを学びつつ、アンサンブルの演習をする③
第4週	発表演奏会のプログラム①	発表演奏会のプログラムについて、それぞれの独唱曲、及びアンサンブル曲の担当するパートを話し合う。
第5週	発表演奏会のプログラム②	発表演奏会のプログラムについて、それぞれの独唱曲、及びアンサンブル曲の担当するパートを決定する。
第6週	発表演奏会に向けての演習①	発表演奏会で取り上げる曲目の譜読み、ソロ及びアンサンブルの練習を行う①
第7週	発表演奏会に向けての演習②	発表演奏会で取り上げる曲目の譜読み、ソロ及びアンサンブルの練習を行う②
第8週	発表演奏会に向けての演習③	発表演奏会で取り上げる曲目の譜読み、ソロ及びアンサンブルの練習を行う③
第9週	発表演奏会に向けての演習④	発表演奏会で取り上げる曲目の譜読み、ソロ及びアンサンブルの練習を行う④
第10週	発表演奏会に向けての演習⑤	発表演奏会に向けてテキストと声の両面から細部に亘って演習する①
第11週	発表演奏会に向けての演習⑥	発表演奏会に向けてテキストと声の両面から細部に亘って演習する②
第12週	発表演奏会に向けての演習⑦	発表演奏会に向けてテキストと声の両面から細部に亘って演習する③
第13週	発表演奏会に向けての総稽古①	発表演奏会のプログラムを通して演奏し、最後の仕上げをする①
第14週	発表演奏会に向けての総稽古②	発表演奏会のプログラムを通して演奏し、最後の仕上げをする②
第15週	発表演奏会	履修者全員が参加し、合唱曲（声楽アンサンブル）、独唱曲を演奏する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	サウンドプロダクションA						
担当教員	大黒　淳一	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4055		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

音楽制作におけるポストプロダクションは、制作した音楽作品を最終的に完成させる上で非常に重要なプロセスです。
作曲した楽曲やレコーディングされた音源がどのような過程を経て完成されるかを総合的に学ぶ対面型実習です。

到達目標

①最終的な楽曲として完成させるためのオーディオミックスのプロセスを身につける。
②ポストプロダクションを通して楽曲のサウンドプロデュースを学び、考え方や姿勢を身につける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業姿勢・意欲	50		
作品提出、発表(小課題および最終課題)	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『音楽ソフト　Ableton Live(mac/win)』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、サウンドアーティストとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

・国内外のCM番組楽曲制作・MA などのポストプロダクション業務（SONY/UNIQLO/マルボロのCMなど）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
音響機器やソフトウェアについて事前に調べて予習してください。 授業で学んだ操作方法など、ノートを確認して復習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・やむを得ない場合を除く欠席、遅刻は授業姿勢として評価しています。
・機器やソフトウェアの操作方法などは、逐一ノートなどを取ってください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	音楽のポストプロダクション	- 音楽の役割と効果 - 音楽の編集とミックス - ライセンスと著作権に関する基礎知識
第2週	ミキシングの基礎	- ミキシングの定義と役割 - ミキシングエンジニアの役割と責任 - ミキシングの目標と基本原則
第3週	レベル調整とパンニング	- トラックのレベルとバランスの調整 - パンニングの基本原則と技術 - ステレオフィールドの最適化
第4週	ダイナミクス処理	- コンプレッションとリミティングの基本原則 - ダイナミクスの均一化とコントロール - ダイナミクスプロセッサーの使い方と設定
第5週	エフェクト処理	- リバーブとディレイの基本原則 - エフェクトの追加と調整 - エフェクトのレイヤリングとブレンディング
第6週	イコライゼーション	- イコライゼーションの基本原則とテクニック - フリーケンシースペクトラムの調整 - イコライザーの使い方と設定
第7週	空間調整	- サウンドの空間性と立体感の重要性 - リバーブとディレイの空間効果の設定 - サウンドステージの最適化
第8週	ミックスバス処理	- バス処理の概要と効果 - バスコンプレッションとイコライゼーション - ミックスバスの処理とマスタリングへの影響
第9週	プロジェクト管理とワークフロー	- 実際の音楽プロジェクトのミキシング実習 - ミキシングセッションの計画と実施
第10週	マスタリングの概要	- マスタリングの目的と役割 - マスタリングプロセスの概要 - マスタリングエンジニアとのコラボレーション
第11週	課題プロジェクト①	- 学生によるサウンドポストプロダクションプロジェクトの実施
第12週	課題プロジェクト②	- 学生によるサウンドポストプロダクションプロジェクトの実施
第13週	課題プロジェクト③	- 学生によるサウンドポストプロダクションプロジェクトの実施
第14週	課題プロジェクト④	- 学生によるサウンドポストプロダクションプロジェクトの実施
第15週	最終講評会	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	サウンドプロダクションB						
担当教員	大黒　淳一	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4056		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

サウンドプロダクションAで完成させた楽曲を、どのようにブランディングしてマネージメントしていくかは、制作した音楽を世の中に幅広く知ってもらうためにさらに重要なプロセスとなります。音楽キャリアの持続可能性を築くため、様々な実例をもとにセルフプロデュースを行う対面型実習です。

到達目標

①音楽のブランディングやマネージメントを通して総合的なサウンドのポストプロダクションを理解する。
②音楽キャリアの持続可能性を構築するためのサウンドプロデュースを学び、考え方や姿勢を身につける。

	学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業姿勢・意欲	50		
作品提出、発表(小課題および最終課題)	50		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『音楽ソフト　Ableton Live(mac/win)』					

参考書等

なし。授業内で指示します

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、サウンドアーティストとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

・国内外のCM番組楽曲制作・MA などのポストプロダクション業務（SONY/UNIQLO/マルボロのCMなど）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
音響機器やソフトウェアについて事前に調べて予習してください。 授業で学んだ操作方法など、ノートを確認して復習してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・やむを得ない場合を除く欠席、遅刻は授業姿勢として評価しています。
・機器やソフトウェアの操作方法などは、逐一ノートなどを取ってください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	音楽制作の目標と戦略	- 音楽制作の目的と目標の設定 - 自分の音楽のジャンルとアーティストイメージの確立 - ターゲットオーディエンスの特定と理解
第2週	音楽プロモーション戦略	- デジタルプラットフォームとソーシャルメディアの活用 - 自分の音楽のプロモーション戦略の設計 - ファンベースの構築と維持
第3週	ライブパフォーマンスの準備	- ライブセットリストの構築と練習 - ライブパフォーマンスのプロデュースと企画 - ライブサウンドエンジニアリングの基本原則
第4週	より良いフィードバックの得方	- 批評を受け入れる準備 - オリジナリティーvsクオリティー - プロセスvs完成品
第5週	音楽ビジネスと契約	- 音楽ビジネスの基本原則と法律 - 音楽契約の種類と重要性 - マネージメントと代理人の選択
第6週	音楽コミュニティとネットワーキング	- インディペンデントな音楽コミュニティの探求 - 音楽イベントとネットワーキングの重要性 - コラボレーションとパートナーシップの構築
第7週	音楽ブランディングとイメージ	- アーティストブランディングの基本原則 - ウェブサイトとプレスキットの作成 - アートワークとビジュアルのデザイン
第8週	プロフェッショナルスキルとキャリア	- サウンド業界の概要 - キャリアの展望と機会 - 履歴書の作成とポートフォリオの構築
第9週	音楽イベントとツアープロデュース	- インディペンデントな音楽イベントの企画と運営 - ツアープロデュースの基本原則と実践 - ライブパフォーマンスのプロモーションと実施
第10週	成功と失敗からの学び	- 音楽キャリアの成功と失敗の事例の探求 - 失敗からの学びと成長の機会 - 音楽キャリアの持続可能性と挑戦
第11週	課題プロジェクト①	学生による音楽プロデュースプロジェクト
第12週	課題プロジェクト②	学生による音楽プロデュースプロジェクト
第13週	課題プロジェクト③	学生による音楽プロデュースプロジェクト
第14週	課題プロジェクト④	学生による音楽プロデュースプロジェクト
第15週	最終講評会	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	伴奏法Ⅴa						
担当教員	岡本　孝慈	配当年次	4年生	開講期	前期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4035		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

伴奏法を習得することは大切なことである。教育現場ではメロディーに対して簡単な伴奏を付けることがしばしば要求されるし、バランスとセンスの良いアレンジは高い演奏評価にもつながる。比較的取り組みやすい教科書に掲載されているような童謡や歌曲への伴奏付けや、音楽教室講師に必要なグレード取得、また初見などソルフェージュ応用力向上を図る。
ａ岡本クラスではグレード取得を目指したりスキルアップを希望する学生に個別に対応します。ｂ浅井クラスでは教員採用試験合格を目指し移調や視唱、楽典などの必修課題に取り組みます。

到達目標

①　ソルフェージュ力や和声感を向上させ、より正確で迅速な伴奏付けを修練することで、初見演奏能力も向上させることができる。
②　既存の曲、または新曲に相応しい伴奏や、色彩的な和音、リズムの工夫を凝らした即興的な伴奏付けを身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとらわれず協力をおこない、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
試験	70%		
課題、平常点	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付するので保管ファイルを用意すること。　』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回課題に取り組むことになるが、修正した課題は必ず復習すること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

受講生は2グループに分割され、同講義時間に2つの教室で担当教員が実施する。オリエンテーリング時に受講クラスを選択することが出来るが、後期には再び変更することが出来る。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	Ⅲ、Ⅳの取り組みなどを踏まえて担当教官と話し合い、進路方向に合ったクラス分かれる。	
第2週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第3週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第4週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第5週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第6週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第7週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第8週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第9週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第10週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第11週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第12週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第13週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第14週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第15週	まとめと試験	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	伴奏法VIa						
担当教員	岡本　孝慈	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4036		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

伴奏法を習得することは大切なことである。教育現場ではメロディーに対して簡単な伴奏を付けることがしばしば要求されるし、バランスとセンスの良いアレンジは高い演奏評価にもつながる。比較的取り組みやすい教科書に掲載されているような童謡や歌曲への伴奏付けや、音楽教室講師に必要なグレード取得、また初見などソルフェージュ応用力向上を図る。
ａ岡本クラスではグレード取得を目指したりスキルアップを希望する学生に個別に対応します。ｂ浅井クラスでは教員採用試験合格を目指し移調や視唱、楽典などの必修課題に取り組みます。

到達目標

①　ソルフェージュ力や和声感を向上させ、より正確で迅速な伴奏付けを修練することで、初見演奏能力も向上させることができる。
②　既存の曲、または新曲に相応しい伴奏や、色彩的な和音、リズムの工夫を凝らした即興的な伴奏付けを身に付ける。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとさ他及び交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
試験	70%		
課題、平常点	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付するので保管ファイルを用意すること。　』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業は毎回課題に取り組むことになるが、修正した課題は必ず復習すること。	1時間程度/週

受講時の注意事項

受講生は2グループに分割され、同講義時間に2つの教室で担当教員が実施する。オリエンテーリング時に受講クラスを選択することが出来るが、後期には再び変更することが出来る。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	前期の取り組みなどを踏まえて担当教官と話し合い、進路方向に合ったクラス分かれる。	
第2週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第3週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第4週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第5週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第6週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第7週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第8週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第9週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第10週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第11週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第12週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第13週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第14週	課題（配付される紙面もしくはウェブ上にアップロードされるもの）に取り組み、個人指導を受けます。	
第15週	まとめと試験	
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	伴奏実習VII						
担当教員	河野　泰幸／針生　美智子	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4357		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

① ピアニストにとって重要な伴奏の技能を身につける。
② 各専門分野のレッスンを受けることにより、より視野の広い音楽表現を可能とする。
③ 伴奏者として必要な経験や知識を身につける。

到達目標

① 器楽・声楽の伴奏を通して、コミュニケーション能力を習得できる。
② アンサンブルに必要な聴き方やテクニックを実践しながら習得できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
○	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。		1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
○	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.自己にとさ相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
○	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
			5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
平常点	10%		
実習（本番での伴奏）	90%		
1回の実習での点数は、副科の授業内試験30点～34			

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『授業ごとに指示する。』					

参考書等

授業ごとに指示する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は演奏家としての実務経験がある教員が実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく上記の要件を満たすことをもち単位認定します	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

レッスン受講まで充分な合わせを行うこと。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンス
第2週		パートナーとの充分なリハーサル
第3週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
第4週		パートナーとの充分なリハーサル
第5週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
第6週		パートナーとの充分なリハーサル
第7週		総練習
第8週		本番①（演奏会・試験等）
第9週		パートナーとの充分なリハーサル
第10週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（作品への理解を深める）
第11週		パートナーとの充分なリハーサル
第12週		レッスンに同行し、各専門教員から指導を受ける（音楽表現を学ぶ）
第13週		パートナーとの充分なリハーサル
第14週		総練習
第15週		本番②（演奏会・実技試験等）
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	ステージスタッフ実習Ⅶ（前期）						
担当教員	大黒　淳一／大隅　雅人／鎌倉　亮太／ 河野　泰幸／小山　隼平／高田　由利子／ 谷本　聡子／千葉　　潤／外山　啓介／ 針生　美智子／三山　博司	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4727		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

大学主催のコンサートにおいて、ステージスタッフ等、演奏以外の各種の責務を果たした場合に評価し、単位として認定します。
本科目は、アクティブラーニングの要素を含む実践的なプログラムです。

到達目標

①コンサートを運営するための、実務に関する汎用的な知識と技術を身につける。
②コンサートの進行表と舞台配置図を書くことができる。
③コンサート中に滞りなく、与えられた任務を遂行できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)

	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)

○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
担当教員への事前の連絡・報告・相談	15%	他のスタッフとの連携	10%
業務レベルに応じた理解度	15%	積極性・態度	20%
G.P.での実施内容	15%		
改善点・修正点の把握と実行	15%		
コンサート本番での実施内容	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

宮崎隆男著『「マエストロ、時間です」～サントリーホール　ステージマネージャー物語～』（ヤマハミュージックメディア）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

この科目は、演奏家や作曲家として実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業回数という概念ではなく、45時間従事した時間数をもって単位認定します。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

履修登録の時期等については、通常の期間とは異なります。履修登録機関を含め「受講時の注意事項」は、コンサートの内容が決定次第、Campus Xsや学内掲示等でお知らせします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける協定等、外部機関と連携した課題解決型学習の要素を含む科目です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	コンサート①：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第2週	コンサート①：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第3週	コンサート①：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第4週	コンサート①：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第5週	コンサート①：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第6週	コンサート②：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第7週	コンサート②：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第8週	コンサート②：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第9週	コンサート②：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第10週	コンサート②：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第11週	コンサート③：ガイダンス	履修希望者は、事前に申請を行い、スタッフとして参加するコンサートについて説明を受ける。
第12週	コンサート③：業務の確認	各コンサートの担当教員と、担当業務について検討し、計画を立てる。
第13週	コンサート③：業務の準備	コンサートに向けて、任務に応じた準備を行う。
第14週	コンサート③：業務の遂行	コンサートの業務を遂行する。
第15週	コンサート③：反省とフィードバック	コンサート終了後、担当教員から評価を受ける。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	室内楽Ⅴ（谷本クラス）						
担当教員	谷本　聡子	配当年次	4年生	開講期	前期集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	MU-MS 4305		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

ピアノ、管弦打楽器等を様々な形で組み合わせ、アンサンブルを実技レッスン形式で行う。編成は二重奏から八重奏くらいまでの範囲とする。バロックから近現代までのオリジナルの室内楽曲を中心に、楽譜の読み方を学び、一つの音楽を一緒に作り上げる研究をする。

到達目標

読譜の上、全体の中の己の役割を認識し、互いに聴きあうことができる。
アンサンブルの練習を積んだ上で、生演奏で起こりうえる「音での会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験できる。

学科のディプロマ・ポリシー(2023年度以降)		学科のディプロマ・ポリシー(2022年度以前)	
	1.基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解　決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。	○	1.主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
	2.自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。		2.音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
	3.課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。		3.異質にふれる相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
	4.知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。		4.コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
		○	5.正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
実技試験、実技試験の評価は、複数の採点者の素点を	90%		
平常点	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

「原典版」以外の楽譜、作曲家や時代背景を知るための書物。音楽辞典等。詳細は授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

この科目は、演奏家としての実務経験のある教員が、実践的な教育を行っています。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
レッスン前に、個人かつグループで譜読みをし、合わせて練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。グループとして、しっかりとした練習を積んだ上で、レッスンに臨むこと。ピアノコース・管弦打楽コース以外の学生が履修を希望する場合は、プレイスメントテストを行う場合がある。	1時間以上/日

受講時の注意事項

楽譜は「原典版」を使用することが望ましい。
取り上げるのは、原則出版されているオリジナルの室内楽曲となります。上記の授業計画は基本的な流れとなりますが、授業科目別の授業計画は変更がある場合、事前にお知らせします。実技演奏法（主科）又は実技演奏法（副専攻）を履修していること。副専攻の場合は同一楽器

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	ガイダンスを行い、履修グループごとに課題曲を決める
第2週	レッスン	楽曲の譜読み、分析を中心に課題曲をグループごとに研究する①
第3週		楽曲の譜読み、分析を中心に課題曲をグループごとに研究する②
第4週		アンサンブルでの練習の仕方を話し合いながら、曲創りをする①
第5週		アンサンブルでの練習の仕方を話し合いながら、曲創りをする②
第6週		アンサンブルでのバランスの聴き方に留意しながら楽曲の総合練習をする①
第7週		アンサンブルでのバランスの聴き方に留意しながら楽曲の総合練習をする②
第8週		演奏試験とまとめ
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育原理						
担当教員	井上　みのり	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 1002		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

様々な教育職に通底する、教育に関する基本的な知見（歴史、法制度、学問領域、現代的課題など）を得る。
学習する一人ひとりの権利が様々な教育実践によって深まってきた経緯に重点をおく。
講義全体を通して、具体的な教育問題や教育実践を取り上げ、理論と実践を結ぶ視点を育む。

到達目標

自分が目指す教育職との関わりを認識し、以下の点を理解する。
・教育の基本的概念や教育の本質及び目標、教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係
・教育に関する代表的な教育家の思想、理念、実際の学校との関わり
・家族と社会の教育の歴史、近代教育制度の成立と展開
・歴史的な視点を含めた現代社会における教育課題

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
出席状況・授業態度	20%		
授業内の小レポート	30%		
期末レポート	50%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
（予習）事前配布資料を読む （復習）配布資料、説明資料、（配信があれば）動画の見直し	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

日々の小レポート、及び学期末のレポートにより、到達目標の達成度を見ます。
出席が7割に満たない方は学期末のレポート提出権を失います。
各講義では、授業のテーマを踏まえたディスカッションの時間を設けています。みなさんと共に考え、議論していけることを望みます。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション/教育（学）とは何か	授業展開、到達目標、成績評価方法などの確認
第2週	教育の本質と目標	包摂と排除から見えてくる教育が目指すもの
第3週	代表的な教育家の思想と現代の教育観	教育観（教育に対する基本的な考え方）の歴史
第4週	家庭や社会における教育の歴史	家庭や（地域）社会における教育的機能の変遷
第5週	家庭や子どもに関わる教育の思想	多様化する家庭教育の価値観と思想のルーツ
第6週	近代学校の成立及び高等教育の大衆化	普通教育の制度整備や大学大衆化の社会的ニーズの視点から
第7週	教育問題からみる現在の学校制度、学校文化	現在の教育問題に潜む、学校の「あたりまえ」（制度の基本概念、文化）
第8週	学校や学習に関わる教育の思想	教育課程編成の原理や授業における児童の位置づけ
第9週	「学力」とは何か（1）	測定方法の変遷と日本の課題
第10週	「学力」とは何か（2）	「学力向上」の授業づくりの要点
第11週	生徒指導・生活指導の原理	生徒の人間関係の現状をふまえて
第12週	学校における道徳教育の意義	特別な教科としての道徳教育の位置づけ
第13週	学校教育と生涯学習・社会教育	学校と地域社会との連携・融合の今日的課題
第14週	変容する社会と教育問題	子育て家庭の貧困、格差社会、若者の就職難、多文化共生
第15週	総括	教育専門職として探求すべき実践課題
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教師論						
担当教員	萬　司	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 1001		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

教育の基本概念や教員の服務規定等に関する内容、学校教育の社会的意義や教員に求められる資質や能力などを理解する。また、現代社会における教員の役割、学校内外で連携の取り組みについて理解する。

到達目標

① 学校教育や教員の服務規定等に関する基礎的な知識を身に付け、説明することができる。
② 教員に求められる資質や能力、現代社会で求められる教員の役割について説明することができる。
③ 教職課程の全体像を理解し、「教育実地研究」（教育実習）までの見通しを持っている。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート試験	80%		
授業での学習課題やグループワークへの取組	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』	文部科学省	東山書房	2017	978-4-8278-1580-1	
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』	文部科学省	東洋館出版	2018	978-4-491-03639-7	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

中学校学習指導要領（平成20年告示）解説 音楽編　作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
教育に関する課題意識を持ち関心を高め、授業の復習を通して理解が深まるようにしてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

各時の授業で配付されるプリントを振り返り、疑問に思ったことや理解できなかったところは積極的に質問してください。また、各レポート試験は返却時または次時に必要に応じてフィードバックがあります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション:「教育」の意味や目的	(1) 教員免許状の種類 (2) 「教育」に係る意味を考える (3) 「教育」と「学校教育」の違い
第2週	教職課程のカリキュラム	(1)中学校・高等学校の教員になるために必要なこと (2)教科及び教科の指導法に関する科目 (3)教育の基礎的理解に関する科目
第3週	教員に求められる資質や能力	(1) これからの社会と教員に求められる資質能力 (2)教育に関する参考法令 (3)生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開、育成をめざす資質・能力
第4週	学校教育の歴史と教育関連法の変遷（教育基本法、他）	(1) 学校教育の歴史 (2) 教育課程に関する法制 (3) 学習指導要領の改訂の経過
第5週	教員の服務と身分保障　※レポート試験①	(1)教員の服務規程と身分保障 (2) 教員の教育権 (3) 学校安全について
第6週	教育課程の編成の基本、学校種による教員の業務の違い	(1) さまざまな学校種 (2)教育課程の編成の基本要件
第7週	教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導	(1) 各教科の指導法について (2) 道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導について (3) 道徳教育推進上の配慮事項
第8週	チーム学校や校外の関係機関との連携	(1)学校経営の組織的取組 (2)関係機関の概要と連携の実際
第9週	信頼される学校づくり　※レポート試験②	(1) 中学校学習指導要領に準拠する中学校の教育課程 (2) 道徳の指導法の振り返り
第10週	いじめに関する取り組み	(1) いじめの定義の変遷 (2) いじめの具体的内容 (3) いじめに関する基本的認識と取組のポイント
第11週	虐待や保護者対応に関する取り組み	(1)虐待への基本的な理解 (2)保護者対応の基本
第12週	特別支援教育に関する取り組み	(1)特別な配慮を必要とする生徒への指導 (2)特別支援学級・特別支援学校への基本的な理解 (3)特別支援教育の現状
第13週	学校安全やジェンダーに関する取り組み	(1) ジェンダーに関する現状 (2) 学校安全に関する考え方 (3) 救命救急の基礎知識
第14週	学校教育での多様な取り組み　※レポート試験③	(1) 教育課程の意義 (2) 第1回講義内容『「教育」に係る意味を考える』を振り返って
第15週	「教育実地研究」（教育実習）の目的の理解と準備	(1) 「教育実地研究」（教育実習）の概要 (2) 教員養成・免許制度の改革と概要
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）					
担当教員	萬　司	配当年次	1年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 1020		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

学習指導要領等で求められる育みたい資質・能力や学習指導案の基本構成を理解するとともに、ICTを活用する意義と理論を理解して学習者支援や情報活用のための基礎的な技能を身に付ける。

到達目標

①教育方法の基本的理論と学習指導を展開するための基礎的な技能を身に付け、学習指導案の構成や教材研究の方法を理解することができる。
②学校のICTの現状を把握するとともに、ICT活用の基本的な考え方や教材等の作成や提示法などの基礎的な技能を身に付けることができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート試験	80%		
授業での学習課題やグループワークへの取組	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『中学校学習指導要領（平成29年告示 ）』	文部科学省	東山書房	2017	978-48278-1579-5	
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』	文部科学省	東山書房	2018	978-4-8278-1567-2	

参考書等

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

中学校学習指導要領（平成20年告示）解説 音楽編　作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各時の授業で配付するプリントを活用した復習と、授業で使用するPCのアプリケーションが操作できるように準備してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

疑問に思ったことや理解できなかったところは積極的に質問してください。また、各レポート試験は返却時または次時に必要に応じてフィードバックがあります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：教育方法の概念	(1) 科目履修時の注意点 (2) シラバスと教科書の確認 (3) 教育関連法の確認
第2週	授業構築の基礎的原理	(1) 教科経営の概念 (2) 年間指導計画の重要性 (3) 単元または題材の指導計画、各時の指導計画
第3週	学習指導要領に基づく学習指導案の構成	(1) 中学校学習指導要領の概要 (2) 中学校学習指導要領に示される目標や内容 (3) 学習指導と学習評価の関係性
第4週	授業づくりの考え方と指導展開の基本	(1) 基本的な授業づくり (2) 学習指導案の様式と読解 (3) 教師用指導書や教科書会社HPの情報
第5週	教材研究の目的や意義　※レポート試験①	(1) 「主たる教材」としての教科書とさまざまな補助教材 (2) 教科書の編修について
第6週	主体的・対話的で深い学びと学習形態	(1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 (2)学習評価の充実 (3)さまざまな学習形態
第7週	ICT活用のための基本的な指導スキル	(1) Google などのアプリケーションの活用 (2) PowerPoint（Googleスライド他）を使った授業 (3) 授業がもっとよくなる電子黒板活用（文部科学省）
第8週	教科指導におけるICTの利用（WEBの活用）	(1) 文部科学省が示唆する「教科指導におけるICT活用」 (2) 演習　WEB情報を活用してみよう
第9週	学習環境の整備と学校現場のデジタル化	(1) 文部科学省が推進する「情報教育」とは (2) 「学校における情報モラル教育と家庭・地域との連携」（情報モラル）
第10週	教科書の外部リンク及びデジタル教科書の活用　※レポート試験②	(1) デジタル教科書の活用
第11週	ICTを利用した授業づくりと指導展開	(1) グループワーク　ICTを活用した授業作りについてWEB検索して情報を集めてみましょう (2) 演習 同じ学科内で集めた情報を交流し、ICTを活用した授業について理解したことを交流しよう
第12週	学習者の多様性に応じたICTの利用	(1) 個に応じた学習でのICT活用のポイント (2) 演習 Zoom を使ってみよう (3) 集団に応じた学習でのICT活用のポイント
第13週	PowerPointを利用した授業づくり ※レポート試験③	(1) スライドを参照し、再検討のための視点をまとめましょう (2) スライドの再検討と提出
第14週	情報教育と情報活用能力の育成	(1) GIGAスクール構想とは (2) GIGAスクールの実現にむけた環境整備
第15週	学習評価の概念及び校務処理のデジタル化　※レポート試験④	(1) 学習評価の種類 (2) 中学校生徒指導要録の様式 (3) 出勤簿・出席簿・通知表・健康診断記録・生徒指導要録・卒業生台帳等のデジタル化
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	特別支援教育論						
担当教員	小嶋　義勝	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 1003		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

①障害者史、障害児教育史、特別支援教育の理念を概観し、その実践応用性について探究する。
②学校教育法施行令第22 条の3に定める障害の程度について概観し、自立活動など障害と発達をふまえた教育課程、教育内容と方法を理解する。
③特別支援学校・学級、通級による指導等の特別支援教育システムについて概観し、歴史、背景、課題について把握する。
④ 障害の有無にかかわらず発達障害やLGBT、被虐待、日本語未習得など特別な教育的支援を要する児童生徒に対する教育 実践上の課題を把握する。
⑤児童生徒の意欲、主体性を引き出す行動変容法と心理的アプローチについて実践的につける。
⑥連携のツールとしての「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の意義を理解し、児童生徒理解をふまえた実態把握の方法を知る。
⑧子どもたちの自己実現を図るための就学、進学への実践的な考え方を身につける。

到達目標

①特別支援教育の理念や制度を理解し各障害別の基礎的知識や教育内容・方法等の理解をし、自分の言葉で説明ができる。また、指導方法については自分の教育観にあった方法を実践できるようにする。
②障害のある幼児、児童・生徒一人一人を正しく理解し、障害に応じた個別の教育支援計画及び個別の指導計画等が作成・実施・評価できるようになるための基礎的・基本的な知識とスキルを習得し、障害特性から指導方法について考え、導くことができるようにする。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
授業各回の課題提出と試験	授業各回の課		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『 なし。授業内で適宜、資料を配付します。					

参考書等

『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領』 文部科学省、

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

聾学校、肢体不自由学校、知的障害学校で教諭（計22年）、教頭（3校）・校長（4校）経験（計14年）と視覚障害者の家族の立場、北海道特別支援学級教育研究連盟の助言者としての経験、地域の就学指導委員会委員としての立場から、授業の実際や学級経営及び学校経営等の事例や障害を有する方を取り巻く諸課題について解説する。さらに肢体不自由児者福祉連合協会監事、北海道難聴児推進協議会座長＆コーディ

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業前は、関連するニュースなどについて調べておくこと。授業後には講義の前後でどのようにイメージが変わったのか、その背景にはどのようなものがあったのかについて考察す ること。障害者・マイノリティを描くテレビドラマ、映画などを特別支援教育の視点から鑑賞すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

教員免許状の取得を前提とする講義であるので、教員を目指す意志を持って臨むこと。知識を得るという視点よりも、自分ならどのように考えるのかという視点を重視してほしい。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	特別支援教委育の歴史と理念	障害児教育史、「特殊教育」から「特別支援教育」への移行、インクルーシブ社会、共生社会の構築に向けた取り組みを概観し、現状がどのようになっているのかを把握する。
第2週	対象となる障害の概要と実践展開①	特別支援学校、特別支援学級の教育課程と実践① 視覚障害・聴覚障害について概観する。
第3週	対象となる障害の概要と実践展開②	特別支援学校、特別支援学級の教育課程と実践② 知的障害について概観する。
第4週	対象となる障害の概要と実践展開③	特別支援学校、特別支援学級の教育課程と実践③ 肢体不自由、病弱、発達障害について概観する
第5週	特別支援学校学習指導要領と教育課程	知的障害の教育課程について、支援級、支援学校の立場から考え、分かる授業を構築できるようにする。
第6週	分かる授業構築	認知心理学を元に分かる授業を考える。障がい者の認知特性に応じた分かる授業の在り方について理解する。
第7週	キャリア教育	子どもたちの自己実現を図るために、就学及び進路指導について概観する
第8週	関係機関との連携 まとめと試験	特別支援教育コーディネーターの実践 担任支援、保護者支援と個別の指導計画・支援計画の作成、関係機関との連携の実際について概観する。 まとめと試験
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	生徒・進路指導論						
担当教員	橋本　尚典	配当年次	1年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 1021		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

不登校の増加、学校における「生徒指導」の考え方の多様化、学校スタンダードなどの上からの「指導」のあり方の推奨、児童生徒の貧困問題、様々な特性を持った児童生徒の出現により、混乱する現場の大変さを理解し、それらに対応する「指導」のあり方について考察する。

到達目標

学生が、実習時、将来現場に立ったときを想定し、様々なトラブルに対応でき、「指導」について多様な考えを持つことができるようにする。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート課題（5本）	50%		
指導案もしくはワークシートの作成	30%		
出席状況	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

その都度こちらの方で用意するので必要ありません。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

公立の中学校教員として36年間勤務。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
配布されたpdfファイルを予め読んで内容を理解する 授業で出されたリアクションペーパーを記入し、pdfファイルを再度確認する	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

グループワークについては積極的に参加すること。課題や課題の提出について必ず確認すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	「指導」とは？ イメージトレーニング(実際の指導場面で「指導」をグループで考える。)
第2週	「生徒指導提要」、学習指導要領における「生徒指導」の中身の解説	文科省の「生徒指導提要」、「学習指導要領」における「生徒指導」についての考え方 イメージトレーニング 校則のあり方について
第3週	思春期の発達課題と「生徒指導」	思春期の発達と発達課題を明らかにし、どのような「指導」が良いのか検討する イメージトレーニング
第4週	教室にいるマイノリティーについて 不登校問題	増加し続ける「不登校」の原因と対応を考える 教室にいる様々なマイノリティーについて考える イメージトレーニング
第5週	不登校、引きこもり当事者の話	不登校、引きこもり当事者の話
第6週	外国にルーツを持つ子どもたちとその課題	外国にルーツのある子どもたちの抱える困難さを紹介し、その「指導」のあり方を考える イメージトレーニング
第7週	外国籍の子どもの支援に当たっているボランティアの話	外国籍の子どもの支援に当たっているボランティアの話
第8週	性的なマイノリティーとその指導について	性的マイノリティーについての指導について考える イメージトレーニング
第9週	性的マイノリティーの当事者の話	性的マイノリティーの当事者の話
第10週	逸脱行為　「非行」と指導について	指導に従わない子ども、暴力行為等の逸脱行為をする子どもの理解と指導について 矯正教育について イメージトレーニング
第11週	少年入院経験者の当事者の話	少年入院経験者の当事者の話
第12週	発達に特性のある子どもの理解と指導について	発達障害、学習障害、その他特性を持つ子どもの理解と教室における指導について イメージトレーニング
第13週	子どもの権利条約1	子どもの権利条約の歴史的な背景とその条約の中身について イメージトレーニング
第14週	子どもの権利条約2　キャリア教育	国連の勧告、我が国における権利条約の理解について イメージトレーニング
第15週	進路指導について　まとめ	キャリア教育の目的と現場における課題について イメージトレーニング
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育心理学						
担当教員	吉野　巌	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 2003		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

「わかること」「覚えること」「考えること」「できるようになること」を中心的テーマとして扱い、心理学実験を 体験しながら理解していく。また上記のテーマについて乳幼児、児童生徒、青年期へとどのように発達するか、障がいのある子どもと健常児との違いは何か、という問題についても同時に考えていく。

到達目標

人間の発達や学習に関わる様々な心理現象を概観しつつ、教育現場で指導上必要な心理学的基礎を修得する。
① 人間の物事を「わかり」、「覚え」、「考え」、「できるようになる」メカニズムとプロセスを理解し、説明でき る。
② 上記のメカニズムとプロセスが発達的にどのように変化するか理解し説明できる。
③ 講義内容を教育現場(学校教育、幼児教育、家庭教育など)でどのように応用し役立てることができるかについて考えることができる。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎回のリアクションペーパー（小テスト）	15%		
授業4回ごとに課されるレポート課題	60%		
期末試験	25%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

藤田哲也（編著）『絶対役立つ教育心理学：実践の理論、理論を実践』ミネルヴァ書房
栗山和広（編著）『授業の心理学：認知心理学からみた教育方法論』福村出版
佐藤浩一『学習支援のツボ：認知心理学者が教室で考えたこと』北大路書房

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
毎回の授業で「復習ポイント」と次回講義の「予習ポイント」を提示します。本講義用のノートを1冊用意し、そのポイントを中心にして自学自習すること。また、授業4回ごとに課されるレポート課題の準備を行うこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

リアクションペーパーの質問や課題についてのフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス、「わかる」とは ①	文章理解についての実験、知識の役割
第2週	「わかる」とは ②	スキーマの特徴と理解における役割
第3週	「わかる」ことの発達 ①	乳幼児期における発達の特徴と課題
第4週	「わかる」ことの発達 ②	児童期・青年期における発達の特徴と課題
第5週	学習の理論①　基礎編	古典的条件づけとオペラント条件づけ
第6週	学習の理論②　応用編	社会的学習と行動療法
第7週	発達と学習の関係	遺伝と環境の役割、レディネス、初期学習
第8週	愛着と親子関係が発達に及ぼす影響	愛着のタイプと母子相互作用
第9週	「覚えること」 記憶①	記憶の種類と記銘・学習に関わる諸要因
第10週	「覚えること」 記憶②	効果的な記憶の方法と知識獲得
第11週	「できるようになること」	技能の練習と熟達
第12週	メタ認知	メタ認知の特徴と育成
第13週	動機づけ①	動機づけと報酬・罰の効果
第14週	動機づけ②	外発的動機づけと内発的動機づけ
第15週	心身の発達と学校の対応	主体的学習を支える集団づくり・学習評価
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育相談の基礎と方法						
担当教員	田村　千波	配当年次	2年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 2022		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

教育職員免許法に定められた科目であり、教育相談においてなぜカウンセリングマインドが必要なのか理解する。
近年、児童生徒が抱える問題は、発達や心の問題のほか、家庭やそれを取り巻く環境が複雑に絡み合っている。本科目ではカウンセリングやソーシャルワークの視点から、家庭と学校をつなぐ教育相談が持つ支援的役割を学ぶ。スクールソーシャルワーカーとしてかかわった多くの具体的な事例から、今、学校現場で何が起こっているのかをグループワーク検討を通して実感し、学校における教育相談の基本的な理解を学ぶことをねらいとする。

到達目標

さまざまな問題を抱える児童生徒への教育相談におけるカウンセリングの知識、技法の有効さを知り、活用する姿勢を獲得する。 児童・生徒の抱える問題を理解する基本的枠組みを修得し、事例に応じた基礎的対応方法をを身につける。
・教育相談の基本的な技法や原理を説明できる。
・学校と家庭、児童生徒を取り巻く環境についての今日的課題を説明できる。
・他機関連携を含む教育相談の必要性を説明できる。
・実際の教育相談事例を検討し、レポートを提出する。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
リアクションペーパーの記載等の講義への参加度	50%		
中間レポート	20%		
期末レポート	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

よくわかる教育相談　春日井敏之・伊藤美奈子編（ミネルヴァ書房）ISBN978-4-623-05878-5
生徒指導提要　令和4年12月　（文部科学省）ISBN978-491-05175-8
中学校学習指導要領　（文部科学省）ISBN978-4-8278-1559-7

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

北海道教育委員会スクールソーシャルワーカー（SSW）として、小中高校での相談経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予告された内容について文献、インターネット等で各回のテーマを事前学習	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業はグループワークを取り入れた講義形式で行います。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	ガイダンス	教育相談とは
第2週	教育相談について	生徒指導提要を学習し、教育相談理解を深める。
第3週	生徒指導について	中学校学習指導要領　総則編を学習し、生徒指導理解を高める。
第4週	児童生徒を取り巻く環境と課題	いじめ・不登校・家庭環境・学習・思春期
第5週	スクールカウンセラーの機能と役割	臨床心理学の基礎理解
第6週	スクールソーシャルワーカーの機能と役割	社会福祉の基礎理解
第7週	対人援助技術	バイスティックの７原則
第8週	教育相談の実際①	不登校の理解と支援
第9週	教育相談の実際②	発達障がいの理解と支援
第10週	教育相談の実際③	愛着の不形成理解と支援
第11週	グループワーク①	事例検討
第12週	グループワーク②	支援プラン・エコマップの作成
第13週	グループワーク③	支援プラン・エコマップの完成
第14週	プレゼンテーション	支援プラン・エコマップの発表
第15週	まとめ	予防的ソーシャルワークとは 教育相談の意義と課題
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育課程論						
担当教員	松田　剛史	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 1005		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

1　児童生徒が身につけたい能力態度やその指導のあり方について，学生が教育課程編成の観点から主体的に考える。
2　自らが意見をもち，受講者相互に議論し，批判し，協力し，参画しながら新たな気づきや学びを深める。

到達目標

1　教育課程の意義や効果的な教育課程編成のあり方について理解することができる。
2　カリキュラムマネジメントの実際と課題について考えることができる。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマ	30%		
能動的かつ協働的に学習活動へと取り組むパフォーマ	30%		
各種学習成果（学修度）：考査や提出物等	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『ワークで学ぶ教育課程論』』	尾崎博美、井上元　編	ナカニシヤ出版	2018	9784779512674	
『『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編』』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815597	

参考書等

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

中学校及び高等学校での教諭・講師経験

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
本科目は事前にワークや事前学習が終了していることを前提として授業を行う。基本的に履修者による対話型による学習が中心であることに意識を高くもち、以下のことに留意し実践すること。 ・学習（学修）内容の整理や確認・検証するための情報収集およびまとめ	概ね45分程度を目安とするが、個々の学びに向かう意識や必要感を前提と

受講時の注意事項

・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。
・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。
・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	教育課程と自己をつなげる	学生自身の経験から「学校」での教育活動のイメージを持つ
第2週	人間を計画通りに育てることはできるのか	「教育目的」へいたる道のりとしての教育課程についての認識をもつ
第3週	人を計画的に育てることはどのように考えられてきたか	学校における生活知をめぐる教育論争からカリキュラム論の誕生への経緯について認識をもつ
第4週	何を学ぶのかをなぜ自由に決めることができないのか	教育課程に関する法と制度について認識をもつ
第5週	学校教育は何が変わったのか、どうして変えるのか	学習指導要領の変遷から広がる世界について認識をもつ
第6週	なぜ「ゆとり教育」だったのか	1998・1999年改定学習指導要領から学校教育を読み取る
第7週	現場の教師はどうやって授業をつくるか	「本質的な問い」を軸にした授業のあり方を認識する
第8週	「頭がいい」ってどういうことなのか	教育課程設計の前提となるさまざまな資質・能力観について認識する
第9週	アクティブ・ラーニングに教師はいらない	ヒドゥン・カリキュラムとしての教師の身体について認識をもつ
第10週	授業の”外”が授業／学校を変える	反転授業の発想と教科外領域への視点について認識する
第11週	授業を構想する	テーマに基づいた学習指導を構想する
第12週	授業を構築する	テーマに基づいた学習指導を組み立てる
第13週	「普通」のカリキュラムって何だろう	オルタナティブ教育における教育課程について認識する
第14週	教師がカリキュラムの開発・編成を行うことは可能か	学校を基盤としたカリキュラム開発について認識する
第15週	遊びで満たされた学びの舞台	主体性の育成とパフォーマティブな学びについて認識する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	道徳教育の理論と実践						
担当教員	荒井　亮子	配当年次	2年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 2018		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

1．道徳教育の意義と課題、学校教育全体における役割を説明できる。
2．道徳教育の歴史を通して、道徳科を担う教師の立場と役割を考察できる。
3．道徳の指導案作成を通して、道徳授業の在り方を見直すことができる。
4．受講者相互の活発な意見交換を通して、道徳教育に対する自己の立場・考えを深めることができる。
を目標とした講義をしていきます。自ら学び、考える皆さんの姿に期待しています。
※以下の授業計画昨年度のものを参考に作成しているので、変更になる場合があります。

到達目標

道徳教育の理念や歴史の学習のみならず、「道徳の時間」の実践的な指導力を身につけることができる。
学習指導案の作成と同時に、模擬授業を行うことによって子どもの道徳性をどのように育てるかを考えることができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎時間の振り返り（講義内での課題を含む）	30		
模擬授業及びその指導案の提出	50		
最終レポート	20		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

『中学校学習指導要領解説　「特別の教科 道徳」編』(文部科学省)『小学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳」編(文部科学省)
貝塚茂樹『道徳教育の教科書』学術出版会(2009年)
浅見哲也『道徳科授業構想グランドデザイン』明治図書(2021年)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

公立小学校教諭

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業ではグループワークを多く設けます。積極的に参加してください。また、事前に疑問点や自分の意見等を整理してきてもらうこともあります。 毎回、「振り返り」を課します。課題として提出してもらうこともあります。なお、後半はグループごとに指導案	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

本講義の内容は、小学校、中学校学習指導要領に基づいて構成します。各自、小学校、中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編を購入するなどし、手元において本講義との関連を図ってください。また、道徳教育は、「特別の教科 道徳」の新設(平成27年3月)により、小学校では2018年度、中学校では2019年度から教科として行われています。この意義も確認しながら、道徳教育の充実と道徳科の授業作りについ

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	・ガイダンス ・道徳教育とは	・半期の流れや、評価について説明 ・自身の受けてきた道徳教育について振り返り、道徳教育とは何かを考える
第2週	・道徳とは何か	・グループワークを中心に、道徳とは何かを考える
第3週	・道徳教育の歴史	・道徳教育の歴史を学び、道徳教育がどうあるべきか、グループワークを中心に考える
第4週	・学習指導要領を読み解く①	・学習指導要領を読み、何をするのが道徳の授業なのか、グループワークを中心に考える
第5週	・学習指導要領を読み解く②	・学習指導要領を読み、内容項目の扱い方について、グループワークを中心に考える
第6週	・特設道徳について	・道徳が特設された頃の道徳の授業と現在の授業を比較し、検討する
第7週	・指導案作成練習①	・指導案を比較し、どのように作成していくのか、グループワークを中心に学ぶ
第8週	・指導案作成練習②	・グループごとに、指導案を作る
第9週	・指導案作成	・模擬授業のグループごとに指導案の作成をする
第10週	・模擬授業①	・模擬授業をおこなう（２～３グループ）
第11週	・模擬授業②	・模擬授業をおこなう（２～３グループ）
第12週	・模擬授業③	・模擬授業をおこなう（２～３グループ）
第13週	・模擬授業④	・模擬授業をおこなう（２～３グループ）
第14週	・模擬授業の振り返り	・模擬授業について振り返り、今後の実践に生かす
第15週	・まとめ	・半期を振り返り、まとめをする
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育制度論						
担当教員	望月　由美子	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 3004		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

① 教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解する。
② 学校が抱える今日的課題（いじめ、不登校、外国人児童生徒、特別なニーズ教育など）について、海外の事例も比較しつつ、多角的な取組を学び、応用的思考力及び対応力を身につける。

到達目標

①教育制度における基礎的な知識を身に付けるとともにその成り立ちを理解し、諸制度の特徴をとらえ、現状 分析から今日的教育制度の課題を取り上げ、解決方策を考察することができる。
②教員・学校と行政、当事者・保護者、地域の間での連携した対応の重要性を理解し、子どもも教員も孤立しない学校対応に関する基礎的知識を身に付ける。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
毎授業後のレスポンスシート	20%		
レポート（1回）	70%		
授業内参加度	10%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験なし

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
（予習）授業で触れるテーマについてより定着度を高めるために参考文献を幅広く読み、授業前に興味関心を深めることを強く推奨します（1時間程度／週）。（復習）レスポンス・シートで授業で理解したことをさらに客観的に整理し、疑問に思ったことを含め、まとめること。また、日々の新聞やニュースにも目を向けながら、公教育制	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

本授業では、教員からの一方的な知識伝達にとどまらず、適宜、受講者からの積極的な意見や質問を求め、インタラクティブな授業運営の方式を採用します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	①本講義の目的、授業の進め方、評価方法に関するガイダンス②教職科目を学ぶことの意義③教員採用試験制度のしくみ
第2週	教育制度の基本原理①	古代日本の私教育から近代の公教育制度確立まで
第3週	教育制度の基本原理②	戦前・戦中の日本における公教育制度の変遷について
第4週	教育制度の基本原理③	日本国憲法と教育基本法の特徴（民主主義教育のあり方）
第5週	教育制度の基本原理④	日本型公教育制度の特徴（学校種・設置者・義務教育制度）
第6週	公教育制度の臨界①	不登校児童生徒の学びの場（フリースクールその他）
第7週	公教育制度の臨界②	公立夜間中学校（義務教育未修了者の学びの保障）
第8週	公教育制度の臨界③	自主夜間中学校（フォーマル教育・ノンフォーマル教育）
第9週	教育財政	教育財政のしくみの変遷（国および地方における教育財政の仕組み）
第10週	学校運営	教員配置制度（広域人事と僻地）、教員の多忙（給特法、非正規職員の問題）
第11週	教育委員会制度①	戦後の教育委員会制度のしくみ、中央行政と地方行政の教育行政に係る関係性の変容
第12週	教育委員会制度②	教科書問題、学習指導要領など
第13週	日本の公教育制度の今日的課題①	特別支援教育とインクルーシブ教育（障害のある児童生徒の学びの保障）
第14週	日本の公教育制度の今日的課題②	外国人児童生徒の教育を受ける権利と義務
第15週	子どもの権利と子どもオンブズパーソン制度	授業のまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法						
担当教員	加藤　裕明	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 3019		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

①　中学校・高等学校の「特別活動」のねらいや意義、取り組みの内容を、具体的な実践事例等を通して理解し、教科指導とは異なる「特別活動」の指導法を修得し、具体的に実践できる力を身につける。
②　中学校「総合的な学習の時間」および高校「総合的な探究の時間」のねらいや意義、取り組みの内容を、具体的な実践事例等を通して理解し、具体的に実践できる力を身につける。
③　「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」との共通点や相違点を理解し、それぞれの特徴を踏まえた、創造性に富んだ授業をデザインする力を身につける。

到達目標

①　「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」の特徴をふまえ、現代における授業改革、学校改革の意義について、対話し、意見を述べることができる。
②「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」のねらいをふまえ、授業改革のための活動的な学びを生む授業デザインを構想できる。
③「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」の指導法をふまえ、「主体的・対話的で深い学び」のための具体的な授業デザインを立案できる。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート①「特別活動の被教育経験」	35%		
レポート②「総合的な学習（探究）の時間」のプロ	35%		
授業への主体的参加（グループ活動への貢献、全体で	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配布します。』					

参考書等

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説－特別活動編』
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説－総合的な学習の時間』
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説－特別活動編』

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

加藤は、札幌市立高校に30年間勤務し、教科指導、ホームルーム指導、部活動指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきました。そしてこの間、演劇部活動、演劇教育を質的方法によって研究し、北海道大学大学院教育学院において、博士学位（Ph.D教育学)を取得しました。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習：各レポート作成の準備を進めること。次の授業内容に合わせて自分のレポート内容を確認すること。 復習：他者のレポート内容に学び、その良い点を自分のレポートに活かすこと。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

パソコン（OfficeWord搭載）　を持参してください（スマホ不可）。
毎回のリアクションペーパーはPCからWordで提出していただきます。
授業はアクティブ・ラーニングを軸に展開するため、発表の機会がたくさんあります。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	アイスブレイクと班づくり（オリエンテーション）	アイスブレイクによって他者にこころとからだをひらき、ともに学ぶ姿勢（協同的な学びの姿勢）を身につける。4(3)人1組の班をつくる。
第2週	「特別活動」のねらい	特別活動で生徒に身につけてほしい「学力」とは何か、について「学習指導要領」をもふまえ、「問い」を立て対話する。
第3週	「特別活動」の被教育経験	学習者自身のこれまでの「特別活動」の経験を語り、「問い」を立て、対話する。（課題１）
第4週	「特別活動」の実践①	エンカウンターを取り入れた活動的な学びの技法を身につける。
第5週	「特別活動」の実践②	インタビュー、傾聴、対話を実践するファシリテータとしての教師の技法を身につける。
第6週	「特別活動」の実践③	「特別活動」の経験をふりかえり、問いを立て、対話する。
第7週	「総合的な学習（探究）の時間」の学習のねらい	「総合的な学習（探究）の時間」の土台となるねらい、教育学的根拠等について「学習指導要領」をふまえ、問いを立て、対話する。
第8週	「総合的な学習（探究）の時間」の意義	「総合的な学習（探究）の時間」の意義について、「学習指導要領」等をふまえ、問いを立て、対話する。
第9週	「総合的な学習（探究）の時間」に関する教育学上の理論と方法	活動理論をベースとした拡張的学習（Y.エンゲストローム）の方法を学ぶ
第10週	「総合的な学習（探究）の時間」の具体的な実践方法	拡張的学習をもとにしたチェンジラボラトリーの方法を学ぶ
第11週	「総合的な学習（探究）の時間」の実践①	現代における地域社会の課題を発見するための認知的方法として、「問いを立てる」ことを実践する。
第12週	「総合的な学習（探究）の時間」の実践②	地域課題解決のためのプロジェクトモデルを立案する（拡張的学習の「三角形モデル」を活用する）
第13週	「総合的な学習（探究）の時間」の実践③	「総合的な学習（探究）の時間」のプロジェクトモデルを、拡張的学習の「三角形モデル」をもとに発表し、対話する。
第14週	「総合的な学習（探究）の時間」の実践④	「総合的な学習（探究）の時間」のプロジェクトモデルを、社会実装させる上で、改善点を検討し、修正する。（課題２）
第15週	ふりかえり	これまでの授業をふりかえり、深められなかった「問い」について対話する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	介護等体験						
担当教員	加藤　裕明	配当年次	3年生	開講期	通年集中	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 3026		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

教職履修者には福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間の体験が求められる。高齢者や障害のある 人々との出会いを通じて、個人の尊厳と社会連帯の理念についての認識を培い、実践主体としての態度を養う。またこのような 態度の育成は、教職をめざす者にとって、子ども一人ひとりの多様な人間性を認めることにもつながる。

到達目標

1．介護等体験の基礎的な知識や心構えを修得する。
2．個人の尊厳と社会連帯の理念についての認識を培い、実践に活かすことができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート①「障害のある児童生徒との関わり方」	15%		
レポート②「特別支援教育の現状と実習生に求められ	15%		
レポート③「福祉現場の現状と実習生に求められるも	15%		
授業後のリアクションペーパー（Wordを活用して提	15%		
実習施設・実習校の評価、講義中のレポート、事後レ	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『介護等体験ハンドブック　新フィリア』　』	全国特別支援学校校長会	ジアース新教育社		9784863715226	
『『よくわかる社会福祉施設』』	全国社会福祉協議会	全国社会福祉協議会		9784793512773	

参考書等

授業内で適宜、資料を配付する。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

公立高等学校に30年間勤務し、ホームルーム指導（学級担任）、教科指導、キャリア教育（進路指導）、生活指導、部活動指導に従事した。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
講義やテキストの内容をよく理解し、レポートを作成する。その作業を通じて、主体的に教職に取り組む自覚を深める。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

持ち物：①パソコン（Word搭載）スマホ不可。
②テキスト『介護等体験ハンドブック　新フィリア』（1回～4回）
③テキスト『よくわかる社会福祉施設』（5回～8回）

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	介護等体験とはなにか	教職課程における介護等体験の意義
第2週	障害のある児童生徒との関わり方	『介護等体験ハンドブック　新フィリア』Ⅳ「障害のある児童生徒との関わり方」を小グループごとに読み、対話したうえで、各自レポートをまとめる。（レポート①提出）
第3週	特別支援学校における体験学習の講義	特別支援教育の現状と課題（特別支援学校関係者あるいは研究者を招き、特別支援学校の役割、発達障害などの理解を深める）
第4週	特別支援学校における体験学習の講義と対話1	特別支援教育の現状と実習生に求められるもの（特別支援学校関係者あるいは研究者を招き、特別支援学校の実状等を講義）について講義とテキストにもとづきレポートを作成する（レポート②）
第5週	特別支援学校における体験学習の講義と対話2	レポート②をもとに、受講者間で対話し、全体で共有する。そして、特別支援教育の現状と実習生に求められるものについての認識を深める
第6週	社会福祉施設における体験学習の講義	高齢者・障害者福祉施設の現状と課題（福祉施設の種類及びそれぞれの役割）
第7週	社会福祉施設における体験学習の講義と対話	レポート③（福祉現場の現状と実習生に求められるもの ）をもとに、受講者間で対話し、認識を深める
第8週	実習直前指導（実習に関わる諸注意と実習日誌の書き方等）	諸注意、実習の出勤・退勤、実習中の態度・服装・緊 急時の対応・実習後の対応など心構え実習日誌の書き方、概要・一日の流れ・感想
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育実習事前事後指導						
担当教員	加藤　裕明／平向　功一／萬　司	配当年次	3年生	開講期	通年	単位数	1
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 5023		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

教育実地研究（教育実習）を円滑に実施するために必要な事前準備と、教育実習後の振り返りや改善などの事後整理を行う。教育実習に関する事務手続きを滞りなく完了させることや教材研究・学習指導案等の準備をすること、実習を振り返りとして教育実習報告書を作成するなど、教育実地研究（教育実習）の事前事後に求められる内容に取り組む。

到達目標

① 教育実習に必要な心構えや事務手続きを理解し完了することができる。
② 教科指導に必要な準備を行い、学習指導案を作成準備することができる。
③ 教育実習を振り返り改善点などを教育実習報告書にまとめることができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
教育実習報告会の参加報告書、CBT問題集の取り組	60%		
教育実習報告書	40%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『教職課程履修の手引き（ 本学出版）』	萬　司、平向 功一、二通　諭	本学出版	2025		電子版

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

中学校学習指導要領（平成20年告示）解説 音楽編　作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
３年次は教育実習の事務手続きを滞りなく丁寧に行い完了することと、４年次は学習指導案や報告書の作成に時間をかけて内容の充実を図ってください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

３年次①は後期第１週で、②以降は11月中旬頃より時間割に従って実施します。
４年次②～⑤は実習時期に応じてグループごとに随時実施とし、⑥は教育実習の全日程が終了した時点でグループごとに実施します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	3年次① 教育実習事前事後指導ガイダンス	(1)　教育実習の受け入れに関する書類受領後の対応について (2) 学習指導案の作成及び模擬授業などへの取り組み
第2週	3年次② 教育実習報告会の参加(発表聴取、質疑応答、参加報告書作成)	(1) 教育実習報告会の内容 (2) 参加報告書の作成
第3週	3年次③ 『教育実践力向上CBT 問題集』の取り組み①	(1) WEBへのアクセス方法と問題集への取り組み
第4週	3年次④ 『教育実践力向上CBT 問題集』の取り組み②	(1) 第1回の振り返りと問題集への取り組み
第5週	3年次⑤ 『教育実践力向上CBT 問題集』の取り組み③	(1) 第2回の振り返りと問題集への取り組み
第6週	3年次⑥ 教員採用に係る基本的な理解と対応	(1) 教員採用候補者選考試験の準備手順 (2) エントリーシートについて (3) エントリーの手順と注意点
第7週	3年次⑦ 教育実習までのスケジュールと準備内容の確認	(1)　「教育実習の手引き」（北海道私立大学・短期大学 教職課程研究連絡協議会 編）の確認
第8週	3年次⑧ 「教育実習生調査書」の作成	(1) 教育実習生調査書の作成要領 (2) 写真の準備について (3) 添削指導と提出について
第9週	3年次⑨ 教育実習の事務的な準備、「教育実習日誌」の書き方	(1) 教育実習に必要な書類 (2) 実習日誌の記入について (3) 履修カルテの作成
第10週	4年次① 学習指導案の準備と検討（個別相談、模擬授業）	(1) 教育実習先、実習期間、グループについて (2) 教育実習日誌（冊子版と電子版）の確認 (3) 巡回指導及び研究授業の準備
第11週	4年次② 学習指導案の準備と検討（個別相談、模擬授業）	※　４年次②-⑤は、実習時期に応じてグループごとに随時実施となり、研究授業の内容に応じた個別相談を展開する。巡回指導担当教員から指導・支援を受けて準備すること。
第12週	4年次③ 学習指導案の準備と検討（個別相談、模擬授業）	※　４年次②-⑤は、実習時期に応じてグループごとに随時実施となり、研究授業の内容に応じた個別相談を展開する。巡回指導担当教員から指導・支援を受けて準備すること。
第13週	4年次④ 学習指導案の準備と検討（個別相談、模擬授業）	※　４年次②-⑤は、実習時期に応じてグループごとに随時実施となり、研究授業の内容に応じた個別相談を展開する。巡回指導担当教員から指導・支援を受けて準備すること。
第14週	4年次⑤ 教育実習前の最終確認指導（実施期間別）	※　４年次②-⑤は、実習時期に応じてグループごとに随時実施となり、研究授業の内容に応じた個別相談を展開する。巡回指導担当教員から指導・支援を受けて準備すること。
第15週	4年次⑥ 教育実習修了後の手続き、教育実習報告書の作成	※ 教育実習の全日程が終了した時点で修了手続きの説明を実施し、教育実習日誌と教育実習報告書の提出を求める。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教育実地研究						
担当教員	加藤　裕明／平向　功一／萬　司	配当年次	4年生	開講期	通年集中	単位数	4
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 4024		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

教育実地研究（教育実習）はこれまで履修してきた教職課程の集大成であり、学校現場で学ぶ貴重な機会でもある。これまでの学修成果を活用し、教科指導や学級指導などについて基礎的な指導技術を身に付ける。真摯な態度で実習にのぞむことが求められ、実習期間は15日間（3週間相当）で120時間を標準とする。

到達目標

① 学校運営、教科や学級の運営、教員の諸業務を理解する。
② 教科指導や学級指導を実践し、改善を図ることができる。
③ 教科教育の基礎的な指導方法を身につける。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
教育実習評価表の内容	35%		
実習日誌の記述内容	35%		
研究授業の学習指導案（またはこれに準ずる学習指導	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし。授業内で適宜、資料を配付します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

中学校学習指導要領（平成20年告示）解説 音楽編　作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
実習前の確認を十分行い、担当教科や学級・学年の指導計画を把握して準備してください。実習中に授業内容が指示された場合は、学習指導案を必ず用意してください。	実習前に事前確認及び準備をする時間を確保してください。

受講時の注意事項

「教育実習事前事後指導」の事前指導を欠席した場合は教育実地研究は実施できません。同様に事後指導も受講を必須とします。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	実習期間は15日間（3週間相当）で120時間を標準とし、実習内容は次が考えられる。	(1) 学校経営の方針、運営計画、校務分掌などの理解 (2) 指導担当教員監督下での教科指導 (3) 研究授業での実践
第2週		
第3週		
第4週		
第5週		
第6週		
第7週		
第8週		
第9週		
第10週		
第11週		
第12週		
第13週		
第14週		
第15週		
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	教職実践演習(中・高)						
担当教員	萬　司	配当年次	4年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 4025		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

教職実践演習は、これまでの教職課程の科目や教育実習を振り返り、教員に必要な資質や能力を補ったり高めたりすることを目的としている。教員に求められる生徒理解や対人関係能力、学校運営・学級経営・教科経営などへの理解、教員としての使命感・服務規程に関する事項、専門教科の指導力向上について、演習やグループワークなどを通して理解を深めたり身につけたりする。

到達目標

① 教員の使命感や倫理観を理解し説明することができる。
② 学校現場での協働を意図し、必要な対人関係能力を身に付け実践することができる。
③ 生徒理解や学級経営・教科経営の基本的内容を理解し説明することができる。
④ 専門教科の学習指導を計画し、生徒の発達やレディネスに応じた指導が展開できる。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート試験	80%		
授業での学習課題やグループワークへの取組	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『中学校学習指導要領（平成29年告示）』	文部科学省	東山書房	2017	978-48278-1579-5	
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』	文部科学省	東山書房	2018	978-4-8278-1567-2	

参考書等

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

中学校学習指導要領（平成20年告示）解説 音楽編　作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業終了時に次時の内容を提示するので、自分の経験や考えをまとめグループワークや演習を円滑に実施できるように準備してください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

教員として補ったり高めたりしなければならない資質や能力を意識し、それらを身に付けるように取り組んでください。また、履修カルテの提出を必須とします。各レポート試験は返却時または次時に必要に応じてフィードバックがあります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション:「教職実践演習」の目的と内容	(1) 教育実習後の事務処理等について (2) 教育実習報告会について
第2週	教育実習の振り返り①　教科指導に係る今後の課題	(1) 〔個別〕教科指導の振り返り (2) 〔グループワーク〕教科指導に係る今後の課題
第3週	教育実習の振り返り②　学級指導に係る今後の課題	(1) 〔個別〕学級指導の振り返り (2) 〔グループワーク〕学級指導に係る今後の課題
第4週	教育実習の振り返り③　生徒指導・生徒理解に係る今後の課題	(1) 〔個別〕生徒指導・生徒理解の振り返り (2) 〔グループワーク〕生徒指導・生徒理解に係る今後の課題
第5週	教育実習の振り返り④　研究授業の振り返りと改善	(1) 〔グループワーク〕研究授業の振り返りと交流 (2) 教育実習報告会の準備
第6週	学級経営案の様式と作成　※レポート試験①	(1) 学級経営の計画 (2) 学級事務、家庭との連携 (3) 学年経営案・学級経営案の様式
第7週	教科経営案の様式と作成	(1) 教科経営の計画 (2) 年間指導計画の作成
第8週	教育実習のまとめと報告　※レポート試験②	(1) 教育実習報告書の作成・提出 (2) 教育実習報告会
第9週	学習評価の基本概念、生徒指導要録の様式と作成	(1) 学習評価の基本概念 (2) 学習評価の円滑な実施に向けた取組について (3) 指導要録の取扱い
第10週	特別活動と学校行事・年間計画	(1) 参照すべき中学校学習指導要領 (2) 学校行事・年間計画の実際
第11週	道徳教育について　※レポート試験③	(1) 学習指導要領の確認 (2) 教科書の編修内容と年間指導計画 (3) 学習指導案の作成
第12週	特別支援教育と教育相談・就学指導	(1) 特別支援教育　【障害に対する理解】 (2) 教育相談・就学指導　【エピソードに基づくカンファレンス体験】
第13週	学校経営と学習指導要領	(1) 学校経営案（学校経営方針 等）を読み解く
第14週	関係機関との連携　-いじめ防止対策を事例に-	(1) いじめの定義の変遷 (2) いじめの具体的内容例
第15週	履修カルテによる振り返り　※レポート試験④	(1) 提出物及び課題についての確認 (2) 教員採用試験の情報 (3) 履修カルテの作成と提出
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽教育法Ａ						
担当教員	萬　司	配当年次	２年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP2006		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

高等学校及び中学校の学習指導要領に示される音楽科の目標や内容を理解し、教材研究を通して音楽科の授業を構築するための基礎的な能力を身に付ける。

到達目標

① 高等学校および中学校の音楽科の目標や内容などを理解し、その概要を説明することができる。
② 音楽科の授業を構築するための教材研究の方法を理解し、その結果を説明することができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート試験	80%		
授業での学習課題やグループワークへの取組	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸書道）編 音楽編 美術編』	文部科学省	教育図書	2018	978-4-87730-420-1	
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』	文部科学省	教育芸術社	2017	978-4-87788-811-4	
『中学音楽１　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2025	978-4-316-20477-2	
『中学音楽２・３上　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2025	978-4-316-20478-9	
『中学音楽２・３下　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2025	978-4-316-20479-6	

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

中学校学習指導要領（平成20年告示）解説 音楽編　作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
各時間の内容は指導法の基本的な事項となるため、各学習指導要領解説をテキストにして復習してください。授業で検討した教材研究等については随時フィードバックに応じます。例示された学習指導案を読み込むことも効果的な復習となります。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

本科目の内容は後期の音楽教育法Bに接続するものとなっています。分からないことや疑問に思ったことは積極的に質問してください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：音楽教育と音楽科教育	(1) 教科書の確認 (2) 科目の履修にあたって (3) 前提として「教育（教える）」とは何か
第2週	中学校及び高等学校の学習指導要領（音楽）及び解説編の活用	(1) 中学校学習指導要領と解説編 (2) 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編　の概要 (3) 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　芸術（音楽 美術 工芸 書道）編　音楽編
第3週	音楽科及び各学年の目標	(1) 育成をめざす資質・能力の明確化 (2) 音楽科改訂の趣旨及び要点 (3) 教科の目標
第4週	歌唱分野の内容について（歌唱共通教材含む）	(1) A表現 (1)歌唱 ア　の内容 (2) A表現 (1)歌唱 イ(ア)　の内容 (3) A表現 (1)歌唱 イ(イ)　の内容
第5週	器楽分野の内容について	(1) A表現 (2)器楽 ア　の内容 (2) A表現 (2)器楽 イ(ア)　の内容 (3) A表現 (2)器楽 イ(イ)　の内容
第6週	創作分野の内容について	(1) A表現 (3)創作 ア　の内容 (2) A表現 (3)創作 イ(ア)　の内容 (3) A表現 (3)創作 イ(イ)　の内容
第7週	鑑賞分野の内容について	(1) B鑑賞 (1)鑑賞 ア(ア)　の内容 (2) B鑑賞 (1)鑑賞 ア(イ)　の内容 (3) B鑑賞 (1)鑑賞 ア(ウ)　の内容
第8週	〔共通事項〕の内容について	(1) 〔共通事項〕ア　の内容 (2) 〔共通事項〕イ　の内容 (3) 〔第1学年〕と〔第2学年及び第3学年〕の違い
第9週	目標や内容の振り返り　※レポート試験①	(1) 「教科の目標」や「学年の目標」の振り返り (2) A表現　(1)歌唱　(2)器楽　(3)創作　の振り返り (3) B鑑賞　(1)　鑑賞　の振り返り
第10週	歌唱分野の教材研究（指定の教科書掲載曲）	(1) 教材研究及び関連する学習指導要領の内容 教材：「夏の思い出」　江間　章子　作詞／中田　喜直　作曲
第11週	器楽分野の教材研究（指定の教科書掲載曲）	(1) 教材研究及び関連する学習指導要領の内容 教材：「浜辺の歌」　林　古渓　作詞／成田為三　作曲 「もみじ」　高野辰之　作詞／岡野貞一　作曲／金子健治　編曲
第12週	創作分野の教材研究（指定の教科書掲載活動例）	(1) 教材研究及び関連する学習指導要領の内容 教材：「言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう」 「ＣＭソングをつくろう」
第13週	鑑賞分野の教材研究（指定の教科書掲載曲）	(1) 教材研究及び関連する学習指導要領の内容 教材：「魔王」　シューベルト作曲
第14週	教材研究の振り返り　※レポート試験②	(1) 学習指導における〔共通事項〕の取扱いの確認
第15週	各学年の目標や内容の違いと指導展開の考え方	(1) 中学校学習指導要領における「各学年の目標」 (2) 高等学校学習指導要領における「各学科に共通する各教科」と「主として専門学科において開設される各教科」
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽教育法Ｂ						
担当教員	萬　司	配当年次	２年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP2007		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

高等学校及び中学校の学習指導要領の目標や内容に準拠して学習指導案を作成するとともに、模擬授業などを通して基礎的な技能を身につける。

到達目標

① 高等学校及び中学校の学習指導要領と学習指導案との関係を理解し説明することができる。
② 高等学校及び中学校の学習指導要領に基づき教材分析を行い、学習指導案に記述することができる。
③ 高等学校及び中学校の学習指導要領に基づき指導展開を検討し、学習指導案を作成することができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート試験	80%		
授業での学習課題やグループワーク（模擬授業）への	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『中学音楽１　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20477-2	
『中学音楽２・３上　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20478-9	
『中学音楽２・３下　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20479-6	
『中学器楽　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20480-2	

参考書等

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

中学校学習指導要領（平成20年告示）解説 音楽編　作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業の最後に次回の内容をガイダンスしますので、各自で指導展開についてあらかじめ検討しておいてください。授業で検討した学習指導案は随時フィードバックに応じます。例示された学習指導案を読み込むことも効果的な復習となります。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

本科目の内容は２年次の音楽教育法Cに接続するものとなっています。分からないことや疑問に思ったことは積極的に質問してください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：学習指導案の様式について	(1) 学習指導要領に基づく題材構成とは (2) 学習指導案の様式 (3) 模擬授業の目的と進め方
第2週	鑑賞分野＜歌曲＞〔共通事項〕に基づく教材分析	(1) 中学校学習指導要領 B鑑賞 (1)鑑賞 の取扱いの確認 (2) 教科書「中学音楽 音楽のおくりもの」の編修、教師用指導書の内容 (3) 教科書の確認と使用する教材の視聴（教材分析）
第3週	鑑賞分野＜歌曲＞指導展開の検討	(1) 教科書リンク（まなびリンク）やデジタル教科書の確認 (2) 楽曲分析（アナリーゼ）の確認 (3) 使用する教材（音源や動画）についての検討
第4週	鑑賞分野＜歌曲＞学習指導案の作成	(1) 楽曲分析の取り扱いと学習指導要領の指導事項との関係 (2) 使用する教材の意図 (3) 音楽に対する自己評価を述べたり記述したりする時間の確保
第5週	鑑賞分野＜歌曲＞学習指導案の振り返り　※レポート試験①	(1) 学習指導案の提出方法の確認 (2) 学習指導要領の指導事項と教材の選択、その関係性 (3) 題材の指導計画と本時の指導計画の関係、評価する内容の違い
第6週	歌唱分野＜歌唱共通教材＞〔共通事項〕に基づく教材分析	(1) 中学校学習指導要領 A表現 (1)歌唱 の取扱いの確認 (2) 学習指導案の記述の仕方 (3) 教科書の確認と教材分析
第7週	歌唱分野＜歌唱共通教材＞指導展開の検討	(1) 教科書リンク（まなびリンク）やデジタル教科書の確認 (2) 歌唱指導における基本的な技能について (3) 教材についての検討
第8週	歌唱分野＜歌唱共通教材＞学習指導案の作成	(1) 指導事項や〔共通事項〕の取扱いを変更した際の注意点 (2) 本時のねらい、本時の指導計画、「学習課題」「まとめ」の記述について (3) 学習指導案に示す時間の区分と配分
第9週	歌唱分野＜歌唱共通教材＞学習指導案の振り返り　※レポート試験②	(1) 学習指導案の提出方法の確認 (2) 学習指導要領の指導事項と教材の選択、その関係性 (3) 題材の指導計画と本時の指導計画の関係、評価する内容の違い
第10週	歌唱分野＜斉唱＞〔共通事項〕に基づく教材分析	(1) 中学校学習指導要領 A表現 (1)歌唱 の取扱いの確認 (2) 教科書の確認と教材分析 (3) 指導展開の構想
第11週	歌唱分野＜斉唱＞指導展開の検討	(1) 教材についての検討 (2) let’s sing！「歌うための準備」 の確認 (3) 「青空へのぼろう」を主教材した指導計画
第12週	歌唱分野＜斉唱＞学習指導案の作成	(1) 学習指導要領に基づく学習の構築の考え方 (2) 知識や技能の習得とは (3) 学習指導案の記述方法の再確認
第13週	歌唱分野＜斉唱＞模擬授業（グループワーク）	(1) 学習内容とは (2) 学習活動とは (3) 評価の実際とは
第14週	歌唱分野＜斉唱＞学習指導案の再検討と振り返り　※レポート試験③	(1) 学習指導案の提出方法の確認 (2) 学習指導要領の指導事項と教材の選択、その関係性 (3) 題材の指導計画と本時の指導計画の関係、評価する内容の違い
第15週	指導計画作成と内容の取扱いの配慮事項	(1) 重要な事項の解説及び確認
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽教育法C						
担当教員	萬　司	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 3008		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

高等学校及び中学校の学習指導要領の目標や内容に準拠して学習指導案を作成するとともに、模擬授業などを通して実践的な技能を身につける。

到達目標

① 高等学校及び中学校の学習指導要領の目標や内容を適切に取り扱う学習指導案を作成することができる。
② グループワークや模擬授業等を通して学習指導案を検討し改善することができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート試験	80%		
授業での学習課題やグループワーク（模擬授業）への	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『中学音楽1　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20477-2	
『中学音楽2・3上　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20478-9	
『中学音楽2・3下　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20479-6	
『中学器楽　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20480-2	

参考書等

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

中学校学習指導要領（平成20年告示）解説 音楽編　作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業の最後に次回の内容をガイダンスしますので、各自で指導展開についてあらかじめ検討しておいてください。授業で検討した学習指導案は随時フィードバックに応じます。例示された学習指導案を読み込むことも効果的な復習となります。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

本科目の内容は後期の音楽教育法Dに接続するものとなっています。分からないことや疑問に思ったことは積極的に質問してください。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：模擬授業の目的と進め方	(1) 学習指導案の様式 (2) 模擬授業の目的と進め方
第2週	器楽分野＜リコーダー＞教材分析と指導展開の検討	(1) 中学校学習指導要領 A表現 (2)器楽 の取扱いの確認 (2) 教科書「中学音楽　音楽のおくりもの」の編修、教師用指導書の内容 (3) 教科書の確認と使用する教材の視聴（教材分析）
第3週	器楽分野＜リコーダー＞学習指導案の検討	(1) 教科書リンク（まなびリンク）やデジタル教科書の確認 (2) リコーダーの基本的な奏法について (3) 教材の活用や練習の展開についての検討
第4週	器楽分野＜リコーダー＞模擬授業（グループワーク）	(1) 学習内容とは (2) 学習活動とは (3) 評価の実際とは
第5週	器楽分野＜リコーダー＞学習指導案の再検討　※レポート試験①	(1) 学習指導案の提出方法の確認 (2) 学習指導要領の指導事項と教材の選択、その関係性 (3) 題材の指導計画と本時の指導計画の関係、評価する内容の違い
第6週	鑑賞分野＜弦楽合奏＞教材分析と指導展開の検討	(1) 中学校学習指導要領 B鑑賞 (1)鑑賞 の取扱いの確認 (2) 教科書「中学音楽　音楽のおくりもの」の編修、教師用指導書の内容 (3) 教科書の確認と使用する教材の視聴（教材分析）
第7週	鑑賞分野＜弦楽合奏＞学習指導案の検討	(1) 教科書リンク（まなびリンク）やデジタル教科書の確認 (2) 楽曲分析（アナリーゼ） (3) 使用する教材（音源や動画）についての検討
第8週	鑑賞分野＜弦楽合奏＞模擬授業（グループワーク）	(1) 学習内容とは (2) 学習活動とは (3) 評価の実際とは
第9週	鑑賞分野＜弦楽合奏＞学習指導案の再検討　※レポート試験②	(1) 学習指導要領の指導事項と教材の選択、その関係性 (2) 題材の指導計画と本時の指導計画の関係、評価する内容の違い
第10週	歌唱分野＜合唱＞教材分析と指導展開の検討	(1) 中学校学習指導要領 A表現 (1)歌唱 の取扱いの確認 (2) 教科書「中学音楽　音楽のおくりもの」の編修、教師用指導書の内容 (3) 教科書の確認と使用する教材の視聴（教材分析）
第11週	歌唱分野＜合唱＞学習指導案の検討	(1) 混声三部合唱「時を越えて」の学習指導 (2) 題材の指導計画
第12週	歌唱分野＜合唱＞模擬授業①（グループワーク）	(1) 第1時の学習内容とは (2) 学習活動とは (3) 評価の実際とは
第13週	歌唱分野＜合唱＞模擬授業②（グループワーク）	(1) 第2時の学習内容とは (2) 学習活動とは (3) 評価の実際とは
第14週	歌唱分野＜合唱＞学習指導案の再検討と　※レポート試験③	(1) 学習指導案の提出方法の確認 (2) 学習指導要領の指導事項と教材の選択、その関係性 (3) 題材の指導計画と本時の指導計画の関係、評価する内容の違い
第15週	領域・分野の関連を図る題材構成	(1) 領域・分野の関連を図るメリットとデメリット (2) 高等学校での学習指導の内容 (3) シラバスによる振り返り
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	音楽教育法D						
担当教員	萬　司	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 3009		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

高等学校及び中学校の学習指導要領の目標や内容に準拠して学習指導案を作成するとともに、模擬授業などを通して実践的な技能を身につける。

到達目標

① 高等学校及び中学校の学習指導要領の目標や内容を適切に取り扱う学習指導案を作成することができる。
② グループワークや模擬授業等を通して学習指導案を検討し改善することができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
レポート試験	80%		
授業での学習課題やグループワーク（模擬授業）への	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『中学音楽1　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20477-2	
『中学音楽2・3上　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20478-9	
『中学音楽2・3下　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20479-6	
『中学器楽　音楽のおくりもの』	教育出版	教育出版	2021	978-4-316-20480-2	

参考書等

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

中学校学習指導要領（平成20年告示）解説 音楽編　作成協力者

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業の最後に次回の内容をガイダンスしますので、各自で指導展開についてあらかじめ検討しておいてください。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業で検討した学習指導案は随時フィードバックに応じます。例示された学習指導案を読み込むことも効果的な復習となります。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション：模擬授業の目的と進め方	(1) 学習指導案の様式 (2) 模擬授業の目的と進め方
第2週	鑑賞分野＜箏曲＞教材分析と指導展開の検討	(1) 中学校学習指導要領 B鑑賞 (1)鑑賞 の取扱いの確認 (2) 教科書「中学音楽　音楽のおくりもの」の編修、教師用指導書の内容 (3) 教科書の確認と使用する教材の視聴（教材分析）
第3週	鑑賞分野＜箏曲＞学習指導案の検討	(1) 教師用指導書の確認 (2) 模擬授業に向けた検討 (3) 「本時の指導計画」の検討と作成
第4週	鑑賞分野＜箏曲＞模擬授業（グループワーク）	(1) 学習内容とは (2) 学習活動とは (3) 評価の実際とは
第5週	鑑賞分野＜箏曲＞学習指導案の再検討　※レポート試験①	(1) 学習指導要領の指導事項と教材の選択、その関係性 (2) 題材の指導計画と本時の指導計画の関係、評価内容の違い
第6週	器楽分野＜箏＞教材分析と指導展開の検討	(1) 中学校学習指導要領 A表現 (2)器楽 の取扱いの確認 (2) 教科書「中学音楽　音楽のおくりもの」の編修、教師用指導書の内容 (3) 教科書の確認と参考動画の視聴(4) 授業に用いる箏の準備
第7週	器楽分野＜箏＞実技指導の確認	(1) 箏の基本的な奏法について (2) 本題材で身に付けさせたい知識や技能 (3)　授業時の箏のメンテナンスや保管方法について
第8週	器楽分野＜箏＞学習指導案の検討	(1) 箏の基本的な奏法の検討 (2) 指導事項や〔共通事項〕の取扱い (3) 題材の指導計画、本時の指導計画の検討
第9週	器楽分野＜箏＞模擬授業（グループワーク）	(1) 箏の基本的な奏法の具体 (2) 箏で表現する内容や時間 (3) 題材の指導計画と本時の指導計画の関連
第10週	器楽分野＜箏＞学習指導案の再検討　※レポート試験②	(1) 学習指導案の記述の仕方
第11週	創作分野＜旋律づくり＞教材分析と指導展開の検討	(1) 中学校学習指導要領 A表現 (3)器楽 の取扱いの確認 (2) 教科書「中学音楽　音楽のおくりもの」の編修、教師用指導書の内容 (3) 教科書の確認と参考動画の視聴
第12週	創作分野＜旋律づくり＞学習指導案の検討	(1) 音楽のおくりもの　中学音楽2・3下　p.22　「言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう」の教材分析と指導展開 (2) 題材の指導計画の検討
第13週	創作分野＜旋律づくり＞学習指導案の再検討　※レポート試験③	(1) 学習指導案の記述の仕方
第14週	高校音楽１＜掲載曲の教材分析と指導展開の検討＞	(1) 歌唱教材「Caro mio ben」の学習指導 (2) 音楽史との関連「ピアノの歩みとその音楽」の学習指導
第15週	高校音楽２＜指導展開の検討、模擬授業（グループワーク）＞	(1) 歌唱教材「この道」の学習指導 (2) 音楽史「ロマン派のオペラ作曲家を一人紹介しよう」の学習指導
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	美術教育法Ａ						
担当教員	花輪　大輔	配当年次	２年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 2010		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

教育現場で子どもの前に立つには、美術教師としての生徒理解や生徒指導など全人的な教養と、表現や鑑賞の技能や指導法とを結びつけて理解する必要がある。この授業では、美術教育の理論や現代的な課題を把握し、美術表現とそれを媒介とした教育の可能性を追究する。学習指導案の作成の視点から、これからの社会に必要とされる美術教育の在り方を考察し、美術教育の指導者としての指導観や識見の深まりを目指す。

到達目標

現代的な教育的な課題を踏まえ、美術表現とそれを媒介とした教育の可能性の考察をと通して、美術教育に関わる教師としての資質・能力の向上を目指す。
① 美術教育の目標や内容が理解できる。
② 教材研究の方法を理解するとともに学習指導案の作成ができる。
③ 各領域の指導を模擬授業を通して実践できる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
最終レポート課題	30%		
ゼミナールの各課隊の取り組み・発表内容	40%		
模擬授業の指導案及び教材など	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『中学校学習指導要領解説 美術編』	文部科学省	日本文教出版	H29		
『指導と評価のための参考資料（中学校/美術））』	国立政策研究所教育課程研究センター		R2		
『中学校美術1年』	村上尚徳，大橋 功，佐藤賢司,他	日本文教出版	R7		
『中学校美術2/3年上』	村上尚徳，大橋 功，佐藤賢司,他	日本文教出版	R7		
『中学校美術2/3年下』	村上尚徳，大橋 功，佐藤賢司,他	日本文教出版	R7		

参考書等

主として使用するテキストを配布します。（無料です）

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

H9年4月～H24年3月まで国立・公立中学校教諭（美術）

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
全15回の授業のうち，6回の講義，2回の演習，7回のゼミナール方式を採用します。発表担当回には各自スライド等，担当課題の発表準備をお願いします。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

自身の発表担当回の欠席については，可能な限り避けること。ＰＣまたはタブレットを必携とします。授業の出欠及び課題配布等についてはＳＮＳを活用します。詳細については初回講義時に説明します。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	講義①オリエンテーション	美術科教育の意義・目的，学校教育における美術役割、教科の意義
第2週	講義②学習指導要領（美術）の概要	教科の目標、表現と鑑賞の2つの領域、学年と目標構造・指導内容、教師の役割，他
第3週	ゼミナール①我が国における心象表現教育の歴史	図画教育，自由画教育運動
第4週	ゼミナール②我が国における適応表現教育の歴史	工作（工芸）教育，デザイン教育・鑑賞教育
第5週	ゼミナール③我が国における代表的な民間美術教育運動	創造美育協会・新しい画（絵）の会，造形教育センター
第6週	ゼミナール④近現代における美術教育の世界的潮流	バウハウスの教育課程・鑑賞教育（VTS/VTC他）
第7週	ゼミナール⑤海外の美術教育	アメリカ・イギリス・フランス・イタリア・ドイツ・スペイン・韓国，他
第8週	ゼミナール⑥美術教育の本質と意義再考	美術と人間形成・情操教育
第9週	講義③指導と評価の一体化	観点別学習状況の評価，個人内評価，診断的評価，形成的評価
第10週	講義④授業の構成要素・授業研究	授業VTR視聴・授業分析・検討・学びの構造図
第11週	講義⑤学習指導案	生徒・題材・指導観・題材の目標と計画・評価規準・本事案・本時の評価
第12週	演習①授業設計	生徒用教科書・美術資料を用いた授業設計，及び指導案作成
第13週	演習②模擬授業	導入・展開等のマイクロティーチング、教材活用をテーマとした授業改善ディスカッション
第14週	ゼミナール⑦授業改善計画・発表	授業改善案を元に，修正案作成
第15週	講義⑥これからの美術教育を考える	美術教育の歴史を総括すると共に，これからの時代に求められる美術の授業について考える
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	美術教育法Ｂ						
担当教員	水野　一英	配当年次	２年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 2011		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

学習指導要領の内容や教育現場の実態を踏まえて、題材研究を行いながら学習指導法についての指導を 行う。

到達目標

中学校及び高等学校の美術教育における基礎的・基本的事項について学習し、実践的な指導力を修得できる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
教材作品とワークシートの制作	20%		
学習指導案	20%		
実践研究発表	20%		
レポート	20%		
小テスト	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『中学校学習指導要領解説 美術編』		文部科学省			
『高等学校学習指導要領解説 美術 編』		文部科学省			
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」（中学校編 美術科）』		国立教育政策研究所 教育出版			

参考書等

授業内で適宜指示

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

中学校美術科教員を経て、現在、高校の美術科教員をしている。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
『中学校学習指導要領解説美術編』をしっかりと読みこむこと。	２時間から３時間程度/週

受講時の注意事項

将来、教員として教える側に立つことを意識して、主体的に講義に参加すること。事前学習 課題を基にした発表、討議等の場面もあり、フィードバックされた内容を、実践形式の講義の 場面で生かしてください。また、重要な内容を口頭で伝える場面もあるので、適宜メモをするなどしてください。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	中学校の現状と課題について	オリエンテーション・講義内容解説
第2週	高等学校の現状と課題について	講話
第3週	中学校学習指導要領について①	全般・表現領域・共通事項について
第4週	中学校学習指導要領について②	鑑賞領域など
第5週	高等学校学習指導要領について	全般・中学校との接続について
第6週	実践例 ①	指導計画と授業過程、授業評価
第7週	実践例 ②	授業過程における教材、情報機器の扱い
第8週	演習 ①	参考作品についての発案、学問領域との関わり
第9週	演習 ②	学問領域との関わりに着目した参考作品の制作
第10週	演習 ③	参考作品についての発案、発展的な学習内容
第11週	演習 ④	発展的な学習内容の導入を目指した参考作品の制作
第12週	演習 ⑤	中学校および高等学校学習指導案の作成
第13週	演習 ⑥	模擬授業・第1グループ、中学校における題材
第14週	演習 ⑦	模擬授業・第2グループ、高等学校における題材
第15週	美術科の学習指導についてのまとめ	講義のまとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	美術教育法Ｃ						
担当教員	平向　功一	配当年次	３年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP3012		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

・子どもの絵の発達過程や小学校の図工の現状や造形遊びなどの授業内容を理解することで、中学校・ 高等学校美術科とのつながりを理解させる。
・アクティブラーニングを取り入れた実践プログラム「アートキャラバン」を通して、実際に小中学校においてスクールミュージアム(鑑賞授業)やアートワーク(創作活動)を行うことにより図工・美術の学習 指導の方法を主体的に学ばせる。

到達目標

①こどもの絵の発達過程と小学校の授業内容を理解し、中学校・高等学校美術とのつながりを理解できる。
② 実践プログラム「アートキャラバン」での授業実践やグループワークを通し、学習指導の方法や教材開発について修得できる。
③ 実際に児童生徒と触れ合うことで、生徒理解や学習指導の効果などについて理解できる。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題レポート	20%		
実践授業や模擬授業での発表・行動・発言等	30%		
学習指導案	20%		
教材制作	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『美術 表現と鑑賞』	日本造形教育研究会	開隆堂出版	2020		
『中学美術1』	日本造形教育研究会	開隆堂出版	2020		
『中学美術2・3』	日本造形教育研究会	開隆堂出版	2020		

参考書等

『小学校学習指導要領解説 図画工作編』(平成29年 文部科学省)
『中学校学習指導要領解説 美術編』(平成29年 文部科学省)
『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料』(令和３年 国立教育政策研究所)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

公立中学校6年、公立高等学校16年勤務。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
必要に応じて図書館などで関連資料を調べ、実践プログラムに向けて事前事後に資料を作成す るようにする。また実践プログラムに向けて学内の施設で教材の作成を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業実践・オオタニアートキャラバンでは道内または札幌市内小中学校で実施する場合もある。(但し、学校の予定により、実施日は未定)

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	小学校図工・中学校美術について
第2週	こどもの絵の発達過程について①	こどもの絵の発達過程について
第3週	こどもの絵の発達過程について②	こどもの絵の発達過程について
第4週	ICTを活用した教材研究①（鑑賞）	題材の検討
第5週	ICTを活用した教材研究②（鑑賞）	模擬授業
第6週	ICTを活用した教材研究③（鑑賞）	模擬授業
第7週	ICTを活用した教材研究④（鑑賞）	模擬授業
第8週	教材研究①（中学校・表現）	学習指導案の作成
第9週	教材研究②（中学校・表現）	模擬授業
第10週	教材研究③（中学校・表現）	模擬授業
第11週	教材研究④（中学校・表現）	模擬授業
第12週	授業実践Ⅰ①（オオタニアートキャラバン）	計画
第13週	授業実践Ⅰ②（オオタニアートキャラバン）	教材開発
第14週	授業実践Ⅰ③（オオタニアートキャラバン）	教材開発
第15週	授業実践Ⅰ④（オオタニアートキャラバン）	教材開発・まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	美術教育法D						
担当教員	平向　功一	配当年次	3年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択	選択		
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP3013		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

高等学校学習指導要領の内容や高等学校の美術教育について理解させる。高等学校美術科の授業内容 及び学習指導法についてアクティブラーニングを取り入れたプログラム(表現や鑑賞授業)を高等学校に おいて実施し、題材研究・教材開発・授業実践などを総合的に行う。

到達目標

① 高等学校学習指導要領と美術科の授業内容を理解できる。
② 題材研究や教材開発、模擬授業を通し、学習指導の方法を修得できる。
③ 実際に高校生に対し授業実践を行うことで、生徒理解や学習指導の効果などについて理解できる。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題レポート	20%		
実践授業や模擬授業での発表・行動・発言等	30%		
学習指導案	20%		
教材制作	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『高等学校学習指導要領解説 美術編』	文部科学省	教育図書			
『高校生の美術』		日本文教出版			
『高校美術1』		光村図書			

参考書等

高等学校学習指導要領解説 美術編(平成30年 文部科学省)
指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料(令和３年 国立教育政策研究所)
成長し続ける図画工作・美術科教師を目指して(2023年札幌大谷大学)

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

公立中学校6年、公立高等学校16年勤務。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
必要に応じて図書館などで関連資料を調べ、実践プログラムに向けて事前事後に資料を作成す るようにする。また実践プログラムに向けて学内の施設で教材の作成を行う。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

・第8週は外部講師による特別授業を実施する。(但し、講師の都合により、実施日が移動する場合もある)
・第14週の授業実践では札幌大谷高校で実施する。(但し、高等学校の予定により、実施日が移動する場合もある)

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	高等学校学習指導要領について①	高等学校学習指導要領について
第2週	高等学校学習指導要領について②	高等学校学習指導要領について
第3週	鑑賞の指導①	模擬授業
第4週	鑑賞の指導②	模擬授業
第5週	鑑賞の指導③	模擬授業
第6週	題材研究（表現）①	学習指導案の作成
第7週	題材研究（表現）②	プレゼンテーション
第8週	授業実践①	教育現場の現状と課題
第9週	授業実践②	内容の検討
第10週	授業実践③	学習指導案の作成
第11週	授業実践④	教材開発
第12週	授業実践⑤	教材開発
第13週	授業実践⑥	教材開発
第14週	授業実践⑦	模擬授業
第15週	授業実践⑧	授業実践・まとめ
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会科教育法Ａ						
担当教員	加藤　裕明	配当年次	２年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択			
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 2014		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

近年、学校改革の哲学として「学びの共同体」が全国に広がっています。
「社会科教育法A」では、「学びの共同体」の哲学による学校改革をテーマとして、テキスト（佐藤学『学校を改革する』）に関する学生のレポートをもとに対話します。学生は「問い」を立て、レポートを書き、対話するスキルを身につけることができます。
また、中学校社会科（地理、歴史、公民分野）の教科書を使って、授業デザイン（指導案）を作成してもらい、全員で学び合います。これにより、学生は、教育実習で作成する授業デザイン（指導案）の作成方法をいまから身につけることができます。

到達目標

「社会科教育法A」によって、学生は以下に関する知識を活用することが期待されます。

① 子どもに関する知識と活用：現代の子どもに関する知識を学び、授業の中の子どもの学びを説明することができる。
② 授業の方法に関する知識と活用：「学びの共同体」のビジョンと哲学にもとづく授業づくりについて説明することができる。
③ 教科に関する知識と活用：中学校社会科の地理、歴史、公民分野の知識を学び、授業デザインにおいて活用することができる。

教職ディプロマ・ポリシー

○	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
○	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
①課題レポート１（テキストに関するレポート）の提	40%		
②課題レポート２（中学校社会科の授業デザイン）の	40%		
③授業中のリアクションペーパー（Word）の提出、積	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『新版　学校を改革する』	佐藤学	岩波ブックレット	2023	978-4-00-271078-5	
『新編　新しい社会　地理［令和7年度用］(中学校社会科用 文部科学者検定済教科書)』	文部科学省	東京書籍	2025		
『新編　新しい社会　歴史［令和7年度用］(中学校社会科用 文部科学者検定済教科書)』	文部科学省	東京書籍	2025		
『新編　新しい社会公民［令和7年度用］(中学校社会科用 文部科学省検定済教科書)』	文部科学省	東京書籍	2025		
『中学校社会科地図』	帝国書院編集部	帝国書院	2025		

参考書等

なし

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無

実務経験あり

加藤は、札幌市立高等学校に30年間勤務し、教科指導、ＨＲ指導、部活動指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきました。そしてこの間、演劇部活動、演劇教育の実践を質的方法によって研究し、博士学位（Ph.D教育学）を取得しました。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習：授業当日までに、全員（レポート発表者だけでなく）必ずその日のテキスト範囲を読んでおきましょう。 復習：その日発表のあったレポートについて、読み直し、テキストと対比させながら、仲間のレポートの良い点についてまとめ、自分のレポートに活かしましょう。	1時間から2時間程度/週

受講時の注意事項

パソコンは毎回持参してください。スマホ不可。リアクションペーパーは、PCからWordで毎回提出していただきます。
テキスト『新版　学校を改革する』、『新編　新しい社会　［令和7年度用］(中学校社会科用 文部科学省検定済教科書)地理、歴史、公民』は、「社会科教育法B」でも活用します。かならず前期のうちに購入のこと。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	オリエンテーション	授業のすすめ方、課題レポートの書き方、ファシリテーションのすすめ方、評価等について説明する。また、レポートの分担範囲を決める。
第2週	21世紀の社会と学校	テキスト『新版　学校を改革する』範囲１を読み、第四次産業革命が進行する現代において、なぜ教育のイノベーションが必要か、学生のレポートをもとに対話する。
第3週	「学びの共同体」のヴィジョンと哲学	テキスト『新版　学校を改革する』範囲2を読み、「学びの共同体」のヴィジョンと哲学について、学生のレポートをもとに対話する。
第4週	「学びの共同体」の活動システム	テキスト『新版　学校を改革する』範囲3を読み、「学びの共同体」の活動システムについて、学生のレポートをもとに対話する。
第5週	協同的学びによる授業改革	テキスト『新版　学校を改革する』範囲４を読み、「協同的学びによる授業改革」について、学生のレポートをもとに対話する。
第6週	教師間の同僚性の構築	テキスト『新版　学校を改革する』範囲5を読み、「教師間の同僚性の構築」について学生のレポートをもとに対話する。
第7週	保護者との連帯、教育委員会との連携	テキスト『新版　学校を改革する』範囲6を読み、「保護者との連帯、教育委員会との連携」について、学生のレポートをもとに対話する。
第8週	国内外のネットワーク	テキスト『新版　学校を改革する』範囲7を読み、学びの共同体の、「国内外のネットワーク」について、学生のレポートをもとに対話する。
第9週	中間まとめ	「学びの共同体」に関し、わかったこと、わからなかったことについて対話する
第10週	地域にパイロットスクールをつくろう	テキスト『新版　学校を改革する』範囲8を読み、地域における学びの共同体の「パイロットスクールづくり」について、学生のレポートをもとに対話する。
第11週	中学校社会科　地理分野の授業デザイン①	地理分野の授業デザインを発表し、特に、ワークシートの作成について対話する。
第12週	中学校社会科　地理分野の授業デザイン②	地理分野の授業デザインを発表し、特に、「ジャンプの課題」の立て方について対話する。
第13週	中学校社会科　地理分野の授業デザイン③	地理分野の授業デザインを発表し、特に、「問い」の立て方について対話する。
第14週	中学校社会科　地理分野の授業デザイン④	地理分野の授業デザインを発表し、特に、資料の扱い方について対話する。
第15週	中学校社会科　地理分野の授業デザイン⑤	地理分野の授業デザインを発表し、特に、データの扱い方について対話する。
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	社会科教育法Ｂ						
担当教員	加藤　裕明	配当年次	２年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択			
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 2015		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

この授業「社会科教育法B」（以下「B」）では、前期の「社会科教育法A」（以下「A」）での学習内容をふまえ、学生のみなさんが、将来の中学校社会科教師を目指す者として、現代日本の学校教育の課題解決に迫る授業デザインの方法を探究します。具体的には、教師による一斉講義方式ではなく、生徒と生徒との「聴き合い」、「学び合い」を土台とした授業デザインについて探究します。その上で、各自に社会科の授業デザインを構想、発表してもらいます。それをもとに受講者同士で学び合い、「問い」を出し合って探究します。

到達目標

社会科は、子どもたちに平和と民主主義を支える主権者意識、市民性を身につけてもらう教科です。社会科教師はその支援者です。本授業「B」は、前期「A」で学んだ学びの共同体による学校改革、授業改革のビジョン・哲学と方法をベースに、授業デザインを構想し、実践的に学びを深めます。これをふまえ、学生は、以下のような知識、能力、態度等を習得することが期待されます。

①子どもに関する知識と活用：授業の中の子どもの学びを見取る知識を身に付け、活用することができる。
②授業の方法に関する知識と活用：「教え合い」ではなく、学び合いをベースとした授業方法を発表できる。
③教科に関する知識と活用：中学校社会科に関する知識を吸収し、授業デザインに具現化し、発表することができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
①歴史分野の授業デザイン（指導案）の提出と発表	20%		
②歴史分野の授業デザイン修正（指導案の修正）の提	20%		
③公民分野の授業デザイン（指導案）の提出と発表	20%		
④公民分野の授業デザイン修正（指導案の修正）の提	20%		
⑤授業への主体的参加（挙手発言、リアクションペー	20%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『なし（「社会科教育法A」のテキスト、教科書を継続使用します）』					

参考書等

文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編』

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

加藤は、公立高等学校に30年間勤務し、教科（社会科）指導、ＨＲ指導、部活動指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきました。そしてこの間、演劇部活動、演劇教育をテーマに、質的方法によって研究し、博士学位（Ph.D.教育学）を取得しました。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
予習：授業デザインのため、日頃から新聞を読み、「社会」に関する知識をどん欲に吸収すること。 復習：他者の授業デザインに学び、自分のデザインを、生徒にとってより魅力的なものに修正・改善しましょう。	3～４時間程度/週

受講時の注意事項

毎時間パソコン持参のこと。スマホ不可。リアクションペーパーはPCから、Wordで提出していただきます。
「社会科教育法B」（後期）は、アクティブラーニングが基本です。また、次年度(3年生）の教育実習に向けた授業準備の機会となります。教育実習を充実させるために、主体的な取り組みを期待します。

アクティブ・ラーニング情報

この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	アイスブレイクとオリエンテーション	アイスブレイクにより、受講者同士が「心の壁」を取り払い、ともに学ぶ仲間意識をはぐくむ。その上で、対話を軸とした「社会科教育法B」のアクティブラーニングのすすめ方、シラバス内容、教科書、レポート課題、評価等について説明する。
第2週	中学校社会科歴史分野の授業デザイン①	中学校社会科歴史分野における授業デザインを発表し、ワークシートの作成方法について学び、対話する。
第3週	中学校社会科歴史分野の授業デザイン②	中学校社会科歴史分野における授業デザインを発表し、「ジャンプの課題」の設定について、考え、対話する。
第4週	中学校社会科歴史分野の授業デザイン③	中学校社会科歴史分野における授業デザインを発表し、「問い」の設定方法について考え、対話する。
第5週	中学校社会科歴史分野の授業デザイン④	中学校社会科歴史分野における授業デザインを発表し、「絵画資料」を用いて「ジャンプの課題」を設定する方法を考え、対話する。
第6週	中学校社会科歴史分野の授業デザイン⑤	中学校社会科歴史分野における授業デザインを発表し、「絵画資料」を用いた「問い」の設定方法について、考え、対話する。
第7週	中学校社会科公民分野の授業デザイン①	中学校社会科公民分野の授業デザインを発表し、ワークシートの作成方法について学び、対話する。
第8週	中学校社会科公民分野の授業デザイン②	中学校社会科公民分野における授業デザインを発表し、「ジャンプの課題」の設定について、考え、対話する。
第9週	中学校社会科公民分野の授業デザイン③	中学校社会科公民分野における授業デザインを発表し、「問い」の設定方法について考え、対話する。
第10週	中学校社会科公民分野の授業デザイン④	中学校社会科公民分野における授業デザインを発表し、統計資料を用いて「ジャンプの課題」を設定する方法を考え、対話する。
第11週	中学校社会科公民分野の授業デザイン⑤	中学校社会科公民分野における授業デザインを発表し、「新聞記事」を用いた「問い」の設定方法について、考え、対話する。
第12週	中学校社会科歴史分野の修正①	中学校社会科歴史分野の修正を発表し、教育実習に向けた「絵画資料」の活用方法を探究する
第13週	中学校社会科歴史分野の修正②	中学校社会科歴史分野の修正を発表し、教育実習に向けた「ジャンプの課題」を探究する
第14週	中学校社会科公民分野の修正①	中学校社会科公民分野の修正を発表し、教育実習に向けた「資料とデータ」の活用方法を探究する
第15週	中学校社会科公民分野の修正②	中学校社会科公民分野の修正を発表し、教育実習に向けた「ジャンプの課題」を探究する
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	公民教育法A						
担当教員	村田　尋如	配当年次	3年生	開講期	前期	単位数	2
		履修人数		必須選択			
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 3016		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

① 変化の激しい社会において、生徒に望ましい市民としての基礎的資質を育成する豊かな公民科教育を実践できる教師力を身につける。
② 教育の目的と手法を深く理解し、公民科とは何か、何を教えるのか、どのように教えることがよいのか、生徒が市民として主体的、能動的に生きていくために必要な資質・能力を育成するには、どのような公民科授業が必要かなどについて、理解を深め、探究し、教師としての力量を高める。

到達目標

① 公民科教育の全体像を理解できる。
② 公民科の授業方法を理解できる。
③ 社会事象に積極的に関心を持ち、社会を構成する「人」について、深く理解し、人を愛することの大切さを理解できる。
④ 主体的、能動的な学習の必要性を理解し、実践しようとする意欲、関心を高めることができる。
⑤ 公民科教師としての志を持ち、理想的な教育を行おうとする態度を深めることができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題レポート①	30%		
課題レポート②	40%		
授業内での発表・質疑応答・授業中の協議での発言等	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『『高等学校学習指導要領解説-公民編』(平成30年7月)』	文部科学省	東京書籍			
『高等学校　公共』	中野勝郎　他	清水書院			
『高等学校　倫理』	菅野覚明　他	清水書院			
『高等学校　政治・経済』	中野勝郎　他	清水書院			
『『最新版 倫理資料集 ソフィエ～智を学び夢を育む～』』	矢倉芳則　他	清水書院			

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

小・中・高校・専門学校・大学の教員や講師としての実務経験および教育行政での学校教育指導経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業時の指示を踏まえて、配付資料をもとに予復習を行い、よりよい課題レポートを作成するなどして、主体的な学習に鋭意取り組むこと。リフレクションシートを作成すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

授業時の指示を踏まえて、配付資料をもとに予復習を行い、よりよい課題レポートを作成するなどして、主体的な学習に鋭意取り組むこと。
リフレクションシートを作成すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	公民科とは何か①	オリエンテーション・課題レポートの取組方、提出方法等の説明
第2週	公民科教育の本質①	公民科教育とは何か・・・目標・ねらい、学校でなすべきこと
第3週	公民科教育の本質②	「公共」「倫理」「政治・経済」を学ぶ楽しさ①
第4週	公民科教育の本質③	「公共」「倫理」「政治・経済」を学ぶ楽しさ②
第5週	指導計画①	「公共」の年間指導計画、指導と評価の一体化
第6週	指導計画②	「倫理」の年間指導計画、指導と評価の一体化
第7週	指導計画③	「政治・経済」の年間指導計画、指導と評価の一体化
第8週	指導方法①	課題解決学習、探究的・協働的学習:アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の進め方
第9週	指導方法②	思考ツールを活用した授業の進め方
第10週	指導方法③	指導案の内容の理解と作成
第11週	他の教科・領域との連携①	地理歴史科、法教育、消費者教育、環境教育等との連携
第12週	他の教科・領域との連携②	キャリア教育、道徳教育、総合的な学習の時間等との連携
第13週	学習評価	観点別評価等の意義、パフォーマンス評価、ルーブリック、ポートフォリオ評価の活用
第14週	新科目「公共」の理解と実践	新科目「公共」の内容の理解 教材研究の理解と実践 「倫理」「政経」との連続性の理解
第15週	公民科とは何か②	まとめ・公民科教師の使命と役割・課題レポートのフィードバック
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		

授業科目	公民教育法Ｂ						
担当教員	村田　尋如	配当年次	３年生	開講期	後期	単位数	2
		履修人数		必須選択			
		授業形態			授業回数		
		ナンバリング	TEP 3017		ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ科目		

授業概要

① 変化の激しい社会において、生徒に望ましい市民としての基礎的資質を育成する豊かな公民科教育を実践できる教師力を身に付ける。
② 公民科授業の理解を深め、年間学習指導計画、授業デザインなどを踏まえた模擬授業や研究協議を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばす指導方法や思考ツールの活用、評価の方法等、公民科に必要な教科指導法を身に付ける。

到達目標

① 模擬授業を通して、学習指導計画が把握でき、具体的な指導方法を追究できる。
② 模擬授業の結果分析等を通して、授業改善を主体的に図る必要性を理解し、実践的指導力を身に付けることができる。
③ 公民科教師としての志を持ち、理想的な教育を行おうとする態度を深めることができる。

教職ディプロマ・ポリシー

	1.基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
○	2.自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
	3.課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
○	4.知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

成績評価方法・基準

内容	割合(%)	内容	割合(%)
課題レポート1	30%		
課題レポート2	40%		
模擬授業の状態、 授業内での発表・質疑応答・授業中	30%		

教科書・ソフト等

書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN	備考
『公民教育法Aと同じ教科書を使用します。』					

参考書等

なし。授業内で指示します。

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	実務経験あり

小・中・高校・専門学校・大学の教員や講師としての実務経験および教育行政での学校教育指導経験あり。

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容	予習・復習に必要な時間
授業時の指示を踏まえて、配付資料をもとに模擬授業の準備を進め、 よりよい課題レポートを作成するなどして、主体的な学習に鋭意取り組むこと。リフレクションシートを作成すること。	2時間から3時間程度/週

受講時の注意事項

よりよい教師力を身に付けようとする意欲を持って授業に出席すること。 授業中の発表や協議、模擬授業、質疑応答に積極的に参加すること。

アクティブ・ラーニング情報

備考

授業計画

回数	タイトル	内容
第1週	指導案の作成方法、模擬授業の取組方法、授業後の協議方法の理解	指導案の作成方法の理解 模擬授業の取組方法の理解と実践 授業後の協議方法の理解と実践
第2週	指導案の作成と発表、協議①	「公共」の取り組み
第3週	指導案の作成と発表、協議②	「倫理」の取り組み
第4週	指導案の作成と発表、協議③	「政治・経済」の取り組み
第5週	模擬授業（授業・研究協議）①	「公共」の模擬授業の取り組み 研究協議
第6週	模擬授業（授業・研究協議）②	「倫理」の模擬授業の取り組み 研究協議
第7週	模擬授業（授業・研究協議）③	「政治・経済」の取り組み 研究協議
第8週	地理歴史科と連携した授業方法（演習）	地理歴史科と連携した取り組みに関するグループワーク
第9週	授業改善方法の理解と改善後の模擬授業の取組①	「公共」の授業改善と研究協議
第10週	授業改善方法の理解と改善後の模擬授業の取組②	「倫理」の授業改善と研究協議
第11週	授業改善方法の理解と改善後の模擬授業の取組③	「政治・経済」の授業改善と研究協議
第12週	年間指導計画に基づく授業内容の理解①	「公共」についての理解と実践
第13週	年間指導計画に基づく授業内容の理解②	「倫理」についての理解と実践
第14週	年間指導計画に基づく授業内容の理解③	「政治・経済」についての理解と実践
第15週	公民科教育のまとめ・課題レポートのフィードバック	教育実習などを想定して、主体的、継続的に授業改善を進めていく方法の理解と意欲の向上
第16週		
第17週		
第18週		
第19週		
第20週		
第21週		
第22週		
第23週		
第24週		
第25週		
第26週		
第27週		
第28週		
第29週		
第30週		